

第2章

教育活動実績

2022年度

医学部教育要項

名古屋市立大学

目 次

1	医学部医学科の皆さんへ	1
2	医学部の沿革	2
3	シラバスを読むにあたって	3
	(1) シラバスの意義	3
	(2) シラバスに記載されている項目の説明	3
4	医学部・医学部附属病院の理念と目的、基本方針	5
	(1) 医学部	5
	(2) 名古屋市立大学病院	5
	(3) 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター	5
	(4) 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター	5
5	卒業時の到達目標と教育課程の可視化	6
	(1) 卒業時到達目標（卒業時コンピテンシー、ディプロマ・ポリシー）	6
	(2) カリキュラム・ポリシー	7
	(3) カリキュラム・マップ	8
	(4) カリキュラム・ツリー	9
6	履修要項	10
	(1) カリキュラムの特徴	10
	(2) 日程・時間割	12
	ア 学事日程	12
	イ 1年 授業時間割	13
	ウ 2年4月～12月 授業時間割	14
	エ 2年1月～12月 授業時間割	15
	オ 3年1月～4年12月 授業時間割	16
	カ 4年1月～5年10月 授業時間割	17
	キ 5年11月～6年 授業時間割	19
	(3) 授業時間・講義室	20
	(4) 専門教育授業科目	20
	ア 授業科目一覧	20
	イ 医学教育モデル・コア・カリキュラム対応一覧	22
	ウ 選択制コース	27
	(5) 試験・成績評価	28
	ア 出席要件	28
	イ 成績評価	28
	ウ 試験の種別	29
	エ 成績疑問票	29
	オ 試験における不正行為の禁止	29
	カ レポート課題作成時の注意	30
	(6) 進級要件・卒業要件	30
	(7) 受講態度・講義資料について	31
	(8) 授業評価、学修成果の達成度評価	31
	(9) 暴風警報発令時等における授業・試験について	31
	(10) 実習参加資格にかかる抗体検査・ワクチン接種及び保険加入について	33
7	学生支援・指導体制	35
	(1) 学生委員会・学年担任	35
	(2) 連絡担当教員制度（M1・M2）	35
	(3) メンター制度（臨床実習学生）	35
8	その他の学生生活上の案内・注意事項	36
	(1) 医学部事務室について	36
	(2) 学生への連絡方法	36
	(3) 学生から事務室への連絡方法	36
	(4) 講義室、研修室の利用	36
	(5) ロッカーの利用	37
	(6) 学内無線LAN（neuwifi）	37
	(7) 学生自治会・学生代表委員会について	37
	(8) 住所・氏名等の変更	37
	(9) 学生証について	38
	(10) 証明書、学割の発行について	38
	(11) 駐輪許可登録	38
	(12) 休学・復学・退学	38
	(13) 遺失物・拾得物	38
	(14) 自家用車の乗入れの禁止	38
9	専門教育科目の内容	40
	(1) 1年次	40
	総合医学コース	41
	社会医学コース	43
	(2) 基礎医学（2年次4月～12月）	46
	解剖学コース	47
	肉眼解剖学	49
	組織学・発生学・神経解剖学	49
	生化学コース	50
	物質と代謝	52
	分子と細胞	52
	生理学コース	53
	植物的機能系	55
	動物的機能系	55
	総合医学コース	56
	水平統合基礎	56

	行動科学・地域医療学コース	コミュニティ・ヘルスケア基礎	58
		行動科学	60
	研究能力養成コース	学術論文入門	62
(3)	臨床基礎医学 (2年次1月～3年次12月)		64
	感染微生物コース	医動物学	65
		細菌学	67
		ウイルス学	69
	免疫学コース	免疫学	71
	病理学コース	病態病理／臨床病理	73
	薬理学コース	薬理学	75
	社会医学コース	法医学	77
		医学・医療倫理	79
	行動科学・地域医療学コース	神経科学	81
		疼痛科学	83
		コミュニティ・ヘルスケア応用	85
	研究能力養成コース	Scientific Writing and Presentation	87
		先端研究	89
		遺伝医学	91
	臨床能力養成コース	救命救急	93
	総合医学コース	水平統合病態	95
(4)	臨床医学 (3年次1月～4年次12月)		98
	臨床医学コース	血液・造血器・リンパ系	99
		神経系 (神経内科)	101
		(脳神経外科)	103
		皮膚系	105
		運動器系・リハビリテーション	107
		循環器系	109
		呼吸器系	111
		消化器系・内視鏡	113
		腎・尿路系 (腎臓内科)	115
		(泌尿器科)	117
		生殖機能	119
		妊娠と分娩	121
		乳房	123
		内分泌・栄養・代謝系	125
		眼・視覚系	127
		耳鼻・咽喉・口腔系	129
		精神系	131
		臨床感染症学	133
		成長と発達／発生	135
		麻酔科学・集中治療医学	137
		疼痛医学 (痛みと行動科学)	139
		食事と栄養療法	141
		放射線等を用いる診断と治療	143
		輸血と移植	145
		膠原病	147
		臨床腫瘍学	149
		救急科	151
		漢方医学	153
		臨床処方学	155
	社会医学コース	予防医学基礎	157
	臨床能力養成コース	基本臨床技能実習	159
		臨床診断推論	161
	行動科学・地域医療学コース	コミュニティ・ヘルスケア発展	163
(5)	6年次		166
	社会医学コース	予防医学応用1	167
		予防医学応用2	169
		法医診断学	171

※臨床実習・選択制臨床実習の内容については、「臨床実習の手引き」を参照すること。

10	規程・資料集		173
	(1) 医学部履修規程 (2022年1月発布版)		173
	(2) 医学教育モデル・コア・カリキュラム		184
	(3) 成績疑問票		186
	(4) 再(追)試験受験願・試験欠席届		188
	(5) 名古屋市立大学医学部第4学年の試験に関する一般的な注意事項		189
	(6) 共用試験についての留意事項		190
	(7) 卒業試験 総合客観試験について		191
	(8) 名古屋市立大学医学部 臨床実習資格基準		192
	(9) 名古屋市立大学医学部 医療系実習参加資格基準		192
	(10) アンプロフェッショナルな行動・態度のみられた学生の評価と対応		193
	(11) 定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針		196
	(12) SNS利用時の注意事項		197
	(13) 名古屋市立大学医学部学生代表委員会規約		198
11	キャンパスマップ		202
	(1) 桜山(川澄)キャンパス建物配置図		202
	(2) 医学部基礎教育棟		203
	(3) 医学研究棟		204
	(4) 西棟		205

1. 医学部医学科の皆さんへ

名古屋市立大学における医学部教育は文部科学省から公表されている医学教育モデル・コア・カリキュラムに沿う形で各講義・実習が構成されています。また、本学医学部が設定した学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）として①科学者としての医師、②臨床家としての医師、③社会における医師、④プロフェッショナルとしての医師、の4つを掲げています。これらのディプロマ・ポリシーに合わせた医師を育てるために、それぞれについて卒業時到達目標（卒業時コンピテンシー）を設定しています。医学部教育においては、これらの目標に到達できるような教育を提供することが教員の責務であり、学生諸君にとっては「何を教えられたか」ではなく、「何ができるようになったか」というものが大事であるということです。このような教育を学修成果基盤型教育と呼んでいます。カリキュラム自体は基礎医学から臨床医学へと徐々に積み上げる形で構成されていますが、大学受験で経験してきた詰め込み型学習ではなく、明確化された到達目標に合わせて何が理解できるようになったか、何が実施できるようになったかを常に意識しながら講義に臨んでいただきたいと思います。それらの学習目標については医学部教育要項 9 ページに卒業時到達目標として記載されていますので、ぜひ熟読しておいてください。

名古屋市立大学独自の教育プログラムとして「医薬看連携地域参加型学習」があります。これは医学部、薬学部、看護学部の医療系3学部を持つ特徴を生かした多職種連携教育カリキュラムで、3学部の1年生が混成した10～11人からなるグループを構成して、医療保健福祉施設、学校、学区連絡協議会、地域振興会などの地域コミュニティ機関を担当、あるいは山間部・離島などに出向いて地域における諸問題、ニーズを見出し、それらについて学生ならではの視点から課題解決に向けた活動を行うものです。この活動を通じて将来の医療チームの一員としての自覚、医師としての社会貢献、プロフェッショナリズムを修得することを目指しています。また、3年次には全員が基礎医学講座のいずれかに所属して、最先端の医学研究を経験する基礎自主研修が組まれています。基礎自主研修では、学生諸君が基礎研究に触れる事で研究のプロセスを理解し、自身の科学的思考力を鍛えることに重点を置いています。医学領域においてみられる種々の現象に対して疑問を感じ、それを解明するためにどのような解析を行えば良いのか、得られた結果をどのように解釈するのか、というプロセスを実践することで論理的な思考能力を鍛錬することができます。このような倫理的思考能力は将来臨床医として活躍する場においても常に必要とされるものです。

現在の医学教育では国際基準に合わせる形で臨床実習が72週間あります。臨床実習に臨むにあたって、十分な医学知識・技能・態度を有していることを判断するために共用試験である①医学知識を問うコンピューターを用いた試験（computer-based test, CBT）、②基本的な診察技能、患者に対する態度等を問う診療参加型臨床実習前客観的臨床能力試験（pre-clinical clerkship objective structured clinical examination, pre-CC OSCE）に合格して、student doctorの資格を得なければなりません。また、卒業時には診療参加型臨床実習後 OSCE（Post-CC OSCE）に合格する必要があります。これらは全て、学生諸君が卒業後に行う臨床研修をスムーズに開始できるようにするために卒前の臨床実習を底上げする形で充実させることを目的に設定されています。

医師は患者の命を預かる重責のある職業であり、そのためにはヒトに対する優しさ、思いやりを持つと同時に診療のための優れた知識・技能が必須です。また、医学発展のための探究心も不可欠です。患者に信頼される優れた医師になるためにも、本学ディプロマ・ポリシーを常に意識しながら勉学に励んでくれることを期待します。

2021年12月

名古屋市立大学医学部長 高橋 智

2. 医学部の沿革

- 1943年4月 名古屋市立女子高等医学専門学校開校
- 1948年4月 名古屋女子医科大学開学
- 1949年10月 名古屋市議会において名古屋女子医科大学と名古屋薬科大学を統合して、名古屋市立大学とする決議案
- 1950年4月 名古屋市立大学設置(旧制医学部入学定員40名)
- 1951年3月 名古屋市立女子高等医学専門学校閉校
- 1952年4月 新制医学部医学科設置(入学定員40名)
- 1955年4月 医学部進学課程設置に伴い、同課程および薬学部一般教育系列の教育を行う教養部を設置
- 1958年9月 医学部を田辺キャンパスから川澄キャンパスに移転
- 1959年5月 旧制医学研究科に学位論文審査権附与
- 1960年11月 医学部図書館を附属病院内から川澄キャンパスへ移転
- 1961年3月 旧制医学部および同研究科廃止
- 1961年4月 大学院医学研究科(博士課程)設置
- 1963年4月 医学部医学科入学定員を60名に増員
- 1966年11月 附属病院を改築、新病院(川澄キャンパス)にて診療開始
- 1975年4月 医学部医学科入学定員を80名に増員
- 1975年9月 医学部図書館・講堂完成
- 1977年6月 基礎教育棟完成
- 1981年5月 附属病院増築工事完成
- 1987年4月 医学部分子医学研究所発足
- 1992年12月 医学研究科実験動物研究教育センター完成
- 1996年3月 医学研究科・医学部研究棟完成
- 2000年4月 医学研究科の専攻を再編し、入学定員を27名から52名に増員
- 2002年4月 大学院部局化
- 2004年1月 附属病院の病棟・中央診療棟が稼働開始
- 2006年4月 名古屋市立大学の独立行政法人化
- 2007年5月 附属病院の外来診療棟が稼働開始
- 2008年4月 医学研究科修士課程(入学定員10名)を設置
- 2009年4月 医学部の入学定員を92名に増員
- 2010年4月 医学部の入学定員を95名に増員
- 2012年5月 附属病院の東棟(喜谷記念がん治療センター)稼働開始
- 2014年11月 不育症研究センターを設置
- 2015年4月 医学部の入学定員を97名に増員
- 2015年10月 医学研究科・医学部未来プランを策定
- 2017年1月 先端医療技術イノベーションセンターを設置
- 2019年10月 脳神経科学研究所を開設
- 2021年4月 名古屋市立東部・西部医療センターを名古屋市立大学医学部附属病院化

3. シラバスを読むにあたって

(1) シラバスの意義

シラバスは、個々の授業科目の目的、内容、目標、予定、成績評価の方法など、授業の概要を示したものである。各授業科目は、医学部の教育理念・目標に沿って、年次ごとに開講されているが、6年間の教育課程における個々の授業科目の目的、学修内容、到達目標、成績評価基準等を明示することによって、教育課程の内容を保証するとともに、学生が、いつ、何を、何のために、どのようにして学び、どこまで到達するべきかを知る学修指針として重要な役割を果たす。以下の点を理解した上でシラバスを活用し、高い学修効果をあげるように心がけてほしい。

- ①各授業を受ける前に、シラバスには必ず目を通し、その内容を理解した上で臨むこと。
- ②シラバスの到達目標は、「能動的に学ぶ目標」であり、「受動的に教えられる」ものではない。意欲的な学修態度を持ち、自ら課題を発見し、解決する力を身につけることが必要である。授業で理解が十分できなければ、教員へ積極的に質問すること。
- ③「到達目標」として記載された事柄については、学生自らが説明でき、実践できることが求められる。学生が「良医」となるために身に付けなければならないものは、単なる知識にとどまらず、技能・態度を含めた多角的な能力である。
- ④示された評価法により、学生は「到達目標」に示された能力を身につけることができたかを測られる。各授業科目でどのような評価を受けるかを十分に理解すること。
- ⑤名古屋市立大学医学部の教育課程は、学生が「良医」となるために必要な能力、卒業時到達目標に示された17項目の能力を、6年間を通して身につけられるよう、一貫した形で編成されている。卒業時の到達目標に示された17項目の能力について、現在の自分がどこまで到達しているのかを確認しながら学修をすすめること。

(2) シラバスに記載されている項目の説明

授業目的・目標	当該授業科目を学ぶ目的と一般目標
キーワード	授業科目の概要を理解しやすくするための、授業で扱う主なトピックスに関するキーワード
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	当該授業科目が、4領域17項目の卒業時到達目標のどの目標の修得に関連しているかを示している。
学修到達目標	学生が、この授業科目を修得した時点で身につけておかなければならない能力とそのレベルを具体的に記述している。また、医学教育モデル・コア・カリキュラムの該当項目についても記載している。
成績評価基準	・秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上） ・合格／不合格 により成績を評価する。

授業概要	到達目標を踏まえた、授業の中で行うことの概要
授業計画	授業回ごとの授業内容や担当教員
授業時間外の学修	課題を課して次回までに提出するなど、授業時間外の学修として教員が学生に望むこと。
成績評価方法	小テスト、課題レポート、中間試験、期末試験、実習態度等、学修到達目標に対する達成度をどのように評価するか。
教科書・テキスト	指定の教科書、参考書。教科書を使用しない場合はその旨を記載。
参考文献	学修上の参考となる文献等
履修上の注意事項	受講する上での注意事項、授業中の態度や遅刻、途中退出の取扱い、資料の配布方法、課題提出のルール、持ち物、服装など。
履修者への要望事項	事前に学んでおくとい分野や、基礎知識を得るために読んでおくとい文献等、学生に望むこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、PBL、TBL、体験学習、ロールプレイなど、単なる講義でない授業方法を実施する場合の内容。
連絡先・オフィスアワー	学生が教員に質問・相談できる時間や、連絡先を記載。 ※教員を訪問する際には、原則として事前連絡を行うこと。
実務経験を生かした教育の取り組み	令和2年度から開始された「授業料減免及び給付型奨学金制度」で必要な実務経験のある教員による授業科目の配置。
備考	学生へのメッセージ、科目の補足情報等
関連 URL	履修にあたって参考になるウェブサイトの URL

4. 医学部・医学部附属病院の理念と目的、基本方針

本学医学部生が所属する名古屋市立大学医学部及びその附属3病院についての理念と目的、基本方針を示す。

(1) 医学部

- 教育研究上の目的**
- (1) 人間味にあふれ、深い医学知識と技術を備えた医師を育成すること
 - (2) 人類の未来に貢献する医学研究を行い、その成果を社会に還元すること
 - (3) 名古屋都市圏の中核医育機関として地域住民の健康と福祉増進に貢献できる医師を育成すること

- 人材の養成に関する目的**
- (1) 科学者としての医師を養成すること
 - (2) 臨床家としての医師を養成すること
 - (3) 社会における医師を養成すること
 - (4) プロフェッショナルとしての医師を養成すること
- (名古屋市立大学人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に関する規程)

(2) 名古屋市立大学病院

- 理念**
- ・ 地域の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供するとともに、高い専門性と倫理観を兼ね備えた医療人を育成します

- 基本方針**
- ・ 名古屋都市圏の中核医療機関として、高度先進かつ先端医療を提供し、市民の健康と福祉を増進します
 - ・ 高度情報化のもとに開かれた医療を提供し、情報公開と医療安全に努めます
 - ・ 救急・災害医療センターを開設し、救急・災害医療機能を強化します
 - ・ 医学教育を充実し、高い倫理観を持ち信頼される医療人を育成します
 - ・ 優れた医学研究の推進を通じて、社会に貢献します

(3) 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター

- 基本理念**
- ・ 安全かつ高度な医療を提供し、市民のいのちと健康を守るとともに優れた医療人を育成します

- 基本方針**
- ・ 心臓血管・脳血管疾患などに対する高度・専門医療の充実に努めます
 - ・ 救命救急センター・災害拠点病院としての機能を果たします
 - ・ 第二種感染症指定医療機関としての機能を果たします
 - ・ 地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します
 - ・ 医学教育を充実し、優れた医療人を育成するとともに、医学の発展に寄与する研究及び情報発信を行います

(4) 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター

- 理念**
- ・ 地域に根差した大学病院として高度かつ安心な医療を提供するとともに優れた医療人を育成します

- 基本方針**
- ・ 公立大学病院の使命を自覚し、安心安全で質の高い医療を提供します
 - ・ がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターとして、がん医療、小児・周産期医療の充実に努めます
 - ・ 地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します
 - ・ 充実した医学教育のもと、人間味豊かな優れた医療人を育成します
 - ・ 医学研究を推進し、新しい医療の創出を進めます

5. 卒業時の到達目標と教育課程の可視化

(1) 卒業時到達目標（卒業時コンピテンシー、ディプロマ・ポリシー）

卒業時到達目標（卒業時コンピテンシー）とは、各学生が卒業時に身につけておくべき能力を示したものであり、同時に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）として、この能力を身につけた者に学位を授与することを規定している。

本学医学部学生が卒業時点において身につけているべき能力を4領域に分けて示す。当学部のカリキュラムは、これらの4領域を各学年で学習し、4領域の能力が到着目標に向かってバランス良く向上することを目指している（卒業時コンピテンシー）。

医学部では、人間味にあふれ、深い医学知識と技術を備えた医師を養成するという教育上の目的に鑑み、以下の能力を有すると認められた者に対し、卒業を認定し、学士(医学)の学位を授与します（ディプロマ・ポリシー）。

領域Ⅰ 科学者としての医師

- a ヒトの正常な構造、機能、行動および疾病の病因・病態を理解、研究し、医学の発展に貢献することができる。
- b 臨床データや文献等の情報を吟味し、その妥当性や適用の有無を決定することができる。
- c 基本的な臨床手技を行うことができる。
- d 科学的知識や科学的理解の限界を認識し、全ての科学的知見は常に更新される性質のものであることを理解できる。

領域Ⅱ 臨床家としての医師

- a 患者・医師関係の意義を理解し、良好な関係を築くことができる。
- b 医療面接や系統的な身体診察によって臨床所見や兆候を捉え、それらを解釈し、適切な検査や治療法を選択できる。
- c 重要な医学的知見や医療情報を、さまざまな立場の人に対し適切に説明、発表することができる。
- d 医療情報の記録、管理を適切に行うことができる。
- e 医療における安全性を理解し、適切な危機管理ができる。

領域Ⅲ 社会における医師

- a 様々な生活環境や国および世界の健康、疾病の動向を評価し、対処できる。
- b 個人および集団の健康を規定する因子を考察し、健康増進、疾病予防の方策を立案できる。
- c 保健、医療、福祉に関する法や制度を社会的動向の中で理解し、活用することができる。
- d 多職種連携による地域包括ケアシステムの構築に貢献できる。

領域Ⅳ プロフェッショナルとしての医師

- a プロフェッショナルとして人間愛と倫理性に溢れ、かつ冷静な行動をとることができる。
- b 多職種と協調して行動し、必要な時にリーダーシップを発揮することができる。
- c 自分の身体的、精神的状況を把握し、ストレスに適切に対応して、必要な時には率直に支援を求めることができる。
- d 継続的に自身の医学知識、医療技術の向上に務めることができる。

(2) カリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシーは、教育課程の編成・実施方針を示したものである。

ディプロマ・ポリシーで示した医師としての能力の以下の4領域

- I 科学者としての医師
- II 臨床家としての医師
- III 社会における医師
- IV プロフェッショナルとしての医師

を各学年で巡回しつつ学修します。これにより、各領域の能力をバランス良く徐々に高め、学修目標を達成します。

1年次では、領域Iとして豊かな人間性の陶冶と幅広い教養を身につけるため、教養教育科目および専門科目としての医学入門を通じて科学としての医学を学ぶための基礎を形成します。領域IIとして医薬看連携地域参加型学習を通じ医療者としての基本技能を修得します。領域IIIとして医薬看連携地域参加型学習を通じ地域医療での課題解決をテーマとする学修を行うとともに、医学情報学の学修により必要な情報処理能力を修得します。領域IVとして一般教養科目及び医学入門を通じて医師に相応しい素養を養います。

2～3年次では、領域Iとして基礎医学、臨床基礎医学を学びます。さらに3年次の基礎自主研修を通じて、医師に求められる科学者としての堅実な基盤と広い視野を形成します。また、医学英語を学び、科学者としての研究能力に必要な英語力を修得します。領域IIとして救急救命処置を学修します。領域IIIとして法医学、行動科学、コミュニティ・ヘルスケアを学ぶと共に、社会医学領域の実践的な活動を経験します。領域IVとして医学・医療倫理を学修します。

3年次後半から4年次では、領域Iとして臨床医学を学び、基本的な医学知識を診療活動に参加できるレベルまで高めます。領域IIとして基本医療技能をさらに高め、医療系大学間共用試験（CBT、OSCE）により診療実習に参加できるレベルを担保します。領域IIIとして社会医学を学び、社会と医学との関わりを理解します。領域IVとして医学・医療の様々な側面の学修を通じ、医師に求められる姿勢や態度を学びます。

4年次後半から5年、6年次では、すべての診療科における診療参加型臨床実習および社会医学実習、選択制の診療参加型臨床実習を行います。これらの実践を通じ、領域I～IVの能力をディプロマ・ポリシーが求めるレベルまで総合的に高めます。

実践

PBL・TBLなどのアクティブ・ラーニング方式を導入し、学生の主体的な学修を促します。

4年次後半から6年次では、学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら、医師としての職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な内容を学修する診療参加型臨床実習を行います。

学修成果の評価方法

必要とされる知識・技能・態度の評価は、筆記試験、レポート、ポートフォリオ、共用試験（CBT、OSCE、Post-CC OSCE）、中間発表等の形成的評価、ピア評価などを用いて実施します。

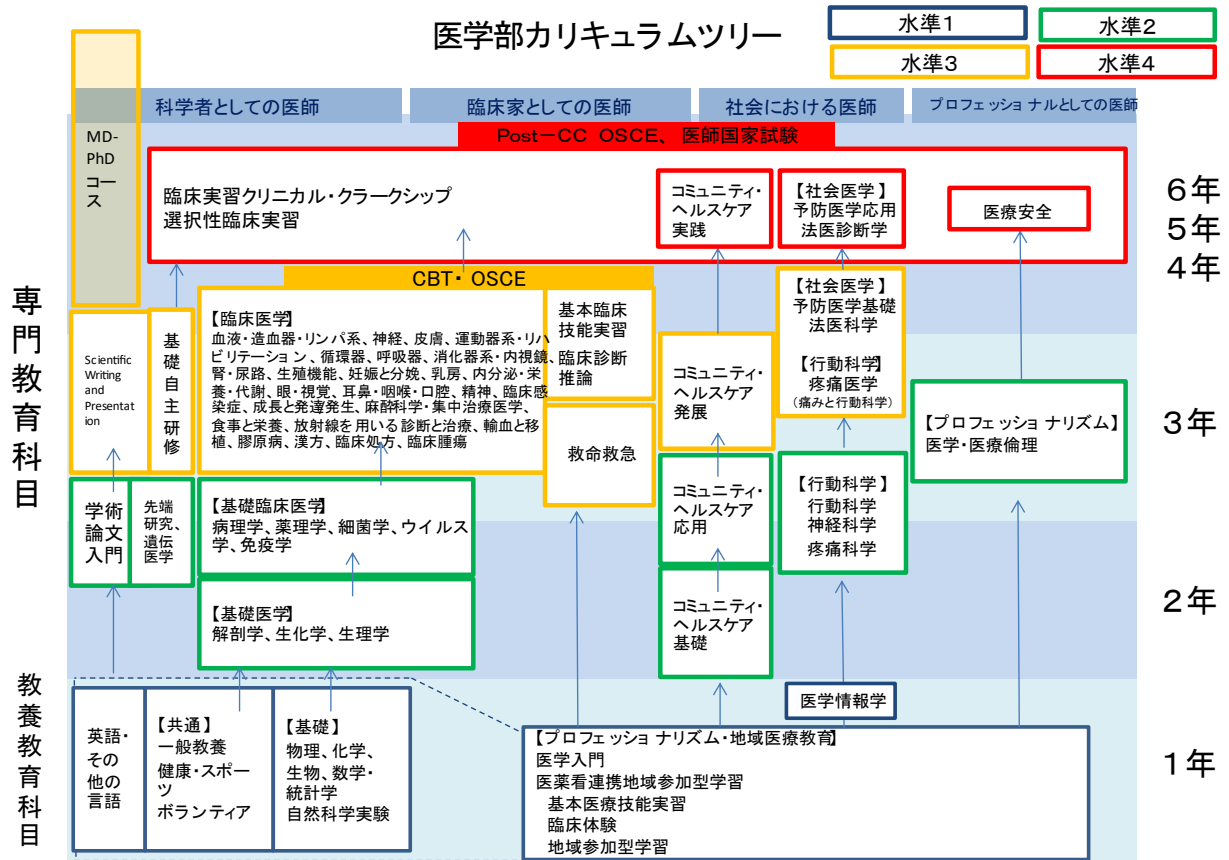
(3) カリキュラム・マップ

カリキュラム・マップは、各授業科目と卒業時到達目標に示した17項目の能力の対応を示したものである。

名古屋市立大学カリキュラムマップ																	
		医学部学士課程															
分類	科目名	I 科学者としての医師				II 臨床家としての医師				III 社会における医師				IV プロフェッショナルとしての			ナンバリング
		a ヒトの病原因・病態を理解し、研究し、医学の発展に貢献することができる。	b 臨床データや文献等の情報を吟味し、その妥当性や適用の有無を決定することができる。	c 重要な医学的知見や医療情報を、さまざまな立場の人に対し適切に説明・発表することができる。	d 科学的知識や科学的理解の限界を認識し、全体的な見解を整理することができる。	a 患者・医師関係の意義を理解し、良好な関係を築くことができる。	b 所見や病候や系統的な身体診察によって適切な検査や治療法を選択し、適切な治療法を提案し、それらを解釈し、適切に臨床に適用することができる。	c 基本的な臨床手技を行うことができる。	d 医療情報の記録・管理を適切に行うことができる。	e 医療における安全性を理解し、適切な危機管理ができる。	a 健康、疾病の動向を評価し、対処できる。	b 個人および集団の健康を規定する因子を考察し、健康増進、疾病予防の方策を立案できる。	c 社会的動向のなかで理解し、活用することができる。	d 多職種連携による地域包括ケアシステムの構築に貢献できる。	a 倫理性に溢れ、かつ冷静な人間愛とプロフェッショナルとして人間愛とすることができる。	b リーダーシップを発揮することができる。	
関連する項目には○を、より強く関連する項目は◎を付している。																	
1学年 専門教育	医学入門				○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
	医学情報学		◎	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
2学年 専門教育	解剖学 (内眼解剖学)	◎		○	○												○
	解剖学 (組織学・発生学・神経解剖学)	◎		○	○												
	物質と代謝	◎		○	○												
	分子と細胞	◎		○	○												
	植物の機能系	◎		○	○												
	動物の機能系	◎		○	○												
	水平統合基礎	◎		○	○												
	学術論文入門		◎	◎	○				○								○
	コミュニティ・ヘルスケア基礎 (IPE)								○		○	○	○	◎	◎	◎	○
	病態病理/臨床病理	◎		○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○
3学年 専門教育	薬理学	◎		○	○					○	○	○	○	○	○	○	
	法医学	○		○	○							◎	◎				○
	神経科学	◎		○	○												○
	疼痛科学	◎		○	○					○	○						○
	医学・医療倫理			○	○		○		○	○		◎		◎			○
	コミュニティ・ヘルスケア応用 (IPE)						○		○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○
	Scientific Writing & Presentation		◎	◎	○												○
	先端研究		○	○	○						○	○					◎
	救命救急	○		○	○				◎	○	○				◎		○
	水平統合病態	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○
	動物学	◎	○	○	○												
	細菌学	◎	○	○	○												
	ウイルス学	◎	○	○	○												
	免疫学	◎	○	○	○		○				○	○	○	○	○	○	○
	基礎自主研修	◎	◎	◎	◎												○
	遺伝医学	◎		○	○												○
	4学年 専門教育	血液・造血器・リンパ系	◎	○	○	○											
神経系 (神経内科)		◎		○	○			◎	○	○							○
神経系 (脳神経外科)		◎	○	○	○			◎	○	○							○
皮膚系		◎		○	○			◎	○								○
運動器系/リハビリテーション		◎		○	○			◎	○		○		○		○		○
循環器系		◎		○	○			◎	○								○
呼吸器系		◎		○	○			◎	○						○		○
消化器系・内視鏡		◎		○	○			◎	○		○	○			○		○
腎・尿路系 (腎臓内科)		◎	○	○	○			◎	○		○						○
腎・尿路系 (泌尿器科)		◎	○	○	○			◎	○		○						○
生殖機能 (泌尿器科)		◎	○	○	○			◎	○		○						○
生殖機能 (婦人科)		◎	○	○	○			◎	○		○						○
妊娠と分娩		◎	○	○	○			◎	○		○				○		○
乳房		◎	○	○	○			◎	○		○						○
内分泌・栄養・代謝系		◎	○	○	○			◎	○		○						○
眼・視覚系		◎		○	○			◎	○								○
耳鼻・咽喉・口腔系		◎		○	○			◎	○								○
精神系		◎	○	○	○			◎	○		○	○	○	○	○	○	○
臨床感染症学											○	○					○
成長と発達/発生		◎	○	○	○			◎	○		○				○		○
麻酔科学・集中治療医学		◎		○	○			◎	○		○						○
食事と栄養療法																	○
放射線を用いる診断と治療		◎							○	○	○						○
輸血と移植											○						○
膠原病									◎								○
漢方医学			○		○			◎	○						○		○
臨床処方学								◎	○		○				○		○
臨床腫瘍学								○								○	
救急科			○	○									○			○	
疼痛医学 (痛みと行動科学)	○		○	○		◎							○		○	○	
臨床診断推論		○		○		◎							○			○	
予防医学基礎		○		○						○	◎	○	○	○	○	○	
コミュニティ・ヘルスケア発展 (IPE)								○		○	◎	◎	◎	◎	◎	○	
基本臨床技能実習/OSCE							◎	◎								○	
臨床実習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5・6学年 専門教育	コミュニティ・ヘルスケア実践 (IPE)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	予防医学応用		○		○					◎							○
	法医学診断学		○		○												○
	選択性臨床実習		○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○

(4) カリキュラム・ツリー

カリキュラム・ツリーは、6年間の医学教育の学修の順序や、授業科目間の系統性を図示したものである。



2021年12月改訂

6. 履修要項

(1) カリキュラムの特徴

ア. 学修成果基盤型教育

名古屋市立大学医学部では、医学生が卒業時に達成する学修成果を 4 領域・17 項目の能力として設定し、この能力を修得するために、各学年で 4 領域を巡回しつつ徐々に能力を目標水準に近づける構造のカリキュラムを実施している。このような「どれだけの能力を身につけたか」を重視する教育は、学修成果基盤型教育 (Outcome Based Education) と呼ばれ、「どれだけの時間をかけた教育か」を重視するプロセス基盤型教育と対比される。

イ. 医学教育モデル・コア・カリキュラムへの準拠

医学教育モデル・コア・カリキュラムとは、全国医科大学・医学部共通で取り組むべき「コア」の教育内容を示したものであり、本学医学教育は、このモデル・コア・カリキュラムを基本としてカリキュラムを編成している。コアとなる内容はカリキュラム全体の概ね 3 分の 2 であり、残り 3 分の 1 は大学独自のカリキュラムであるが、その重要性は同等であることに留意する必要がある。

資料 医学教育モデル・コア・カリキュラム 参照

ウ. 医学教育分野別評価適合

医学・医療のグローバル化を背景に、医師が国境を超えて活動することが求められる現代においては、医学教育の質が国際基準に達しているかの保証が求められており、日本では全国の医科大学・医学部が日本医学教育評価機構 (JACME) による「医学教育分野別評価」を受審することとされている。名古屋市立大学医学部は、2019 年に受審し、評価基準に適合していることが認定された。

エ. 診療参加型臨床実習

医学部 4 年 1 月から開始する臨床実習は、実際の医療現場に入り、臨床の各診療科で実際の患者さんの診察・治療を体験する。この臨床実習では、単に教員の実施している治療を見学するのではなく、学生が診療チームの一員となって、実際の診療業務を分担しながら、医師の職業的な知識・思考法・技能・態度を学ぶ。

オ. 学部横断型プログラム・

・コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラム

エイジング・イン・プレイス (AIP) 社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしての使命感と多職種協働能力を持った人材を育成するためのプログラムである。本プログラムは、学部横断型プログラムとして看護学部生、薬学部生も受講することができる。本プログラムに含まれる授業科目は、下記のとおりである。

科目	配当年次	開設学部
医薬看連携地域参加型学習 (インタープロフェッショナル・ヘルスケア論)	1	教養教育
コミュニティ・ヘルスケア基礎	2	医学部専門教育
コミュニティ・ヘルスケア応用	3	
コミュニティ・ヘルスケア発展	4	
コミュニティ・ヘルスケア実践	4・5	

・慢性疼痛患者の生きる力を支える人材育成プログラム

「慢性的な痛み」に対して、通常の薬物療法などの身体的治療だけでなく、認知行動療法をはじめとする精神心理的介入と医師、看護師、心理士、理学療法士などによる多職種によるアプローチが有用であることから、慢性疼痛に関する統合的治療を学び、治療者・援助者としての能力を身につけるためのプログラムである。

本プログラムは、医学部・看護学部・薬学部及び人文社会学部が連携して実施し、学部横断型プログラムとして看護学部生、薬学部生も受講することができる。本プログラムに含まれる授業科目は、下記のとおりである。

科目	配当年次	開設学部
医薬看連携地域参加型学習 (インタープロフェッショナル・ヘルスケア論)	1	教養教育
疼痛科学	3	医学部専門教育
痛みと行動科学	3・4	
臨床実習 (いたみセンター実習)	5・6	

カ. 統合型カリキュラム

医療における問題解決には、様々な領域の知識・技術の活用が求められるため、1科目で複数の専門領域を統合して学ぶカリキュラムを設定している。領域別統合カリキュラム、臓器別統合カリキュラムを取り入れている科目は下記のとおりである。

科目名	配当年次
水平統合基礎	2
水平統合病態	3
神経科学	3
臨床医学コースに属する科目	4

(2) 日程・時間割

ア. 学事日程

2022年 医学部 学事予定表

区分	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	行 事	
2 0 2 2	1月		6日 授業開始 7日 ガイダンス	4日 授業開始 ガイダンス	4日 実習開始 12日 実習開始	4日 実習再開		
	2月						推薦入試 前期入試	
	3月					15日～		
	4月	5日 入学式 6日 学部別ガイダンス 新入生歓迎会 12日 授業開始	4日 ガイダンス 6日 授業開始	21日～ 春季休業	21日～ 春季休業	21日～春季休業 28日 実習再開	21日～春季休業 総合客観試験1	6日入学式
				6日 授業開始	4日 授業開始		4日 実習再開	
	5月							
	6月				セメスター2試験			
	7月			基礎自主研修ガイダンス				
	8月	5日～ 夏季休業	28日～	20日～	セメスター3試験	1日～	1日～	オープンキャンパス(夏)
			29日 授業開始	31日 授業開始 (基礎自主研修)	29日 授業開始	29日 実習再開	29日 実習再開	
	9月	26日 授業開始			24日 OSCE		プライマリ・ケア実習	
	10月		18日 解剖感謝式	基礎自主研修			8日 Post-CC OSCE	川澄祭・オープンキャンパス(秋)
11月		基礎自主研修発表会	基礎自主研修 発表会	セメスター4試験 17日 CBT セメスター再試験	実習前半進級判定		総合客観試験2	
12月		進級判定	進級判定	CBT再試験 進級判定 臨床実習事前教育 白衣授与式		国家試験出願手続		
	26日～ 冬季休業	15日～	13日～	19日～	26日～			
1月	6日 授業開始	5日(予定) 授業開始	5日(予定) 授業開始	10日(予定) 実習開始	10日(予定) 実習再開	卒業判定		
2月	専門(医学情報学)					国家試験受験	推薦入試 前期入試	
3月	進級判定					卒業式	卒業式	

イ. 1年 授業時間割

		日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4																					
前期	4	28					29					30					31					1	新入生合同ガイダンス																								
		4	英語力調査				5	入学式				6	学部別ガイダンス				7					8	合宿オリエンテーション																								
		11					12	教養教育				13	教養教育				14	教養教育				15	医薬看護連携地域参加型学習				16	教養教育																			
		18					19																									20					21					22					
	25					26																					27									28					29	昭和の日					
	2					3	憲法記念日					4					みどりの日					5					こどもの日					6															
	5	6	9					10	教養教育				11	教養教育				12	教養教育				13	医薬看護連携地域参加型学習				14	教養教育																		
			16					17																									18					19					20				
			23					24																									25					26					27				
			30	教養教育				31																									1					2					3				
			6					7																									8					9					10				
	7	7	13					14	教養教育				15	教養教育				16	教養教育				17	教養教育																							
			20					21																					22					23					24								
			27					28																					29					30					1								
			4					5																					6					7					8								
	8	8	11	海の日(授業開講日)				12					13					14					15																								
			18	教養教育				19					20					21					22																								
			25	教養教育				26					27					28					29																								
			1	教養・前期期末試験				2	教養・前期期末試験				3	教養・前期期末試験				4	教養・前期期末試験				5	教養・前期期末試験																							
			8	夏季休業(~9/25)				9	夏季休業				10	夏季休業				11	山の日				12	夏季休業																							
	15																	16					17									18					19										
	22																	23					24									25					26										
	9	9	29	前期追試験・再試験(8/30-9/1)				30	前期追試験・再試験(8/30-9/1)				31	前期追試験・再試験(8/30-9/1)				1	夏季休業				2	夏季休業																							
			5	夏季休業				6	夏季休業				7	夏季休業				8	夏季休業																												
			12	夏季休業				13	夏季休業				14	夏季休業				15	夏季休業																												
			19	敬老の日				20	敬老の日				21	敬老の日				22	敬老の日																												
			26	教養教育				27	教養教育				28	教養教育				29	教養教育																												
			3	医薬看護連携地域参加型学習				4	教養教育				5	教養教育				6	教養教育				7					医学入門				8	教養教育														
10			スポーツの日(授業開講日)					11					スポーツの日(授業開講日)					12	スポーツの日(授業開講日)				13									スポーツの日(授業開講日)															
17			スポーツの日(授業開講日)					18					スポーツの日(授業開講日)					19	スポーツの日(授業開講日)				20									スポーツの日(授業開講日)															
24			教養教育				25	教養教育				26	教養教育				27	開学記念日(授業開講日)				28	開学記念日(授業開講日)																								
31			教養教育				1	教養教育				2	教養教育				3	文化の日				4	文化の日																								
7	教養教育				8	教養教育				9	教養教育				10	教養教育				11	教養教育																										
14	教養教育				15	教養教育				16	教養教育				17	教養教育				18	教養教育																										
21	教養教育				22	開学記念日(振替休日)				23	勤労感謝の日				24	勤労感謝の日				25	勤労感謝の日																										
28	教養教育				29	教養教育				30	教養教育				1	教養教育				2	教養教育																										
12	12	5	冬季休業				6	冬季休業				7	冬季休業				8	冬季休業				9	冬季休業																								
		12	冬季休業				13	冬季休業				14	冬季休業				15	冬季休業				16	冬季休業																								
		19	冬季休業				20	冬季休業				21	冬季休業				22	冬季休業				23	冬季休業																								
		26	冬季休業				27	冬季休業				28	冬季休業				29	冬季休業				30	冬季休業																								
		2	冬季休業				3	冬季休業				4	冬季休業				5	冬季休業				6	冬季休業																								
1	1	9	成人の日				10	成人の日				11	成人の日				12	成人の日				13	成人の日																								
		16	教養教育				17	教養教育				18	教養教育				19	教養教育				20	教養教育																								
		23	教養教育				24	教養教育				25	教養教育				26	教養教育				27	教養教育																								
		30	教養 後期期末試験				31	教養 後期期末試験				1	教養 後期期末試験				2	教養 後期期末試験				3	教養 後期期末試験																								
2	2	6	医学情報				7	医学情報				8	医学情報				9	医学情報				10	医入 試験																								
		13	医学情報				14	医学情報				15	医学情報				16	医学情報				17	医学情報																								
		20	後期追試験・再試験				21	後期追試験・再試験				22	後期追試験・再試験				23	天皇誕生日				24	天皇誕生日																								
		27	後期追試験・再試験				28	後期追試験・再試験				29	後期追試験・再試験				30	後期追試験・再試験				1	後期追試験・再試験																								
3	3	6	後期追試験・再試験				7	後期追試験・再試験				8	後期追試験・再試験				9	後期追試験・再試験				10	後期追試験・再試験																								
		13	後期追試験・再試験				14	後期追試験・再試験				15	後期追試験・再試験				16	後期追試験・再試験				17	後期追試験・再試験																								

ウ. 2年4月～12月 授業時間割

	月					火					水					木					金				
	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4
4	28					29					30					31					1	合同ガイダンス			
	4	M2オリエンテーション				5	入学式				6	組織	肉眼			7	組織	肉眼			8	組織実習	CHC		
	11	生理		生化		12	生化		肉眼		13					14					15				
	18					19					20			骨実習		21					22				
	25					26					27			解剖実習		28				解剖実習	29	昭和の日			
5	2	自習			3	憲法記念日				4	みどりの日				5	こどもの日				6	組織実習	解剖実習			
	9	生理		生化		10	生化		解剖実習		11	組織		解剖実習		12	生化		B肝検査		13				
	16					17					18					19				解剖実習	20				
	23					24					25					26					27				
6	30					31					1					2					3				
	6					7					8	組織実習				9					10				
	13					14					15					16					17				
	20					21					22					23					24				B肝接種1
	27					28					29	予備				30					1	予備	解剖実習		
7	4					5	生理			6	組織実習	生理			7	組織実習			8	生理		自習			
	11	肉眼本試		自習		12					13					14					15				生理
	18	海の日				19					20					21	44		B肝接種2		22				自習
	25	自習		生化1本試		26	自習				27	組織実習試験				28					29				
8	1	夏季休業				2					3					4					5				
	8					9					10					11	山の日				12				
	15					16					17					18					19				
	22					23					24					25					26				
9	29	自習		生理中間試験		30	生化		行動科学		31	生理		行動科学		1	生理		自習		2	自習		組織中間試験	
	5	生化実習			6	生化実習				7	生化実習		生化実習		8	生化実習			9	生理					
	12	生理			13					14				予備	15	生理			16						
	19	敬老の日				20	自習		生理		21	生理				22	生理		予備		23	秋分の日			
	26	生化実習			27	生化実習				28	生化実習		生化実習		29	生化実習			30	論文入門		自習			
10	3	自習		組織本試		4					5				予備	6	生理実習			7	生理実習				
	10	スポーツの日				11	生理実習				12	生理実習				13	実習討論		自習		14	実習討論		自習	
	17	自習		生化2本試		18	自習		解剖感謝式		19					20	生理実習			21	生理実習				
	24	生理実習			25	予備		実習討論		26	実習討論		水平統合		27	生理実習予備			28	川澄祭準備					
11	31	川澄祭後片付け				1	自習		水平統合		2	論文				3	文化の日			4	水平統合		自習		
	7	自習		動物・行動本試		8	自習		アクティブ学習		9	予備		予備		10	アクティブ学習				11			自習	
	14	自習		植物本試		15	アクティブ学習				16	論文		アクティブ学習		17					18	論文		アクティブ学習	
	21	自習		肉眼再試		22					23	勤労感謝の日				24	自習		生化1再試		25	基礎自主研修成果発表会			
	28	自習		組織再試		29	アクティブ学習		B肝接種3		30	論文		アクティブ学習		1	自習		生化2再試		2	論文		アクティブ学習	
12	5	アクティブ学習				6	自習		植物再試		7					8	アクティブ学習				9	自習		動物・行動再試	
	12	アクティブ学習			論文		13	アクティブ学習		アクティブ学習		14	予備				15					16			

水平統合基礎：循環器系、呼吸器系、消化器系、腎泌尿器系、神経系、内分泌系

※アクティブ学習：論文入門における課題学習、自主学習を指す

エ. 2年1月～3年12月 授業時間割

	月				火				水				木				金								
	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4
1	27					28					29					30					31				
	3					4					5					6	ウイルス		細菌		7	薬理		細菌	
	10	成人の日				11	ウイルス		法医		12	病理		病理		13					14				
	17	細菌		免疫		18					19			B肝検査		20					21				
	24					25					26			病理		27			細菌実習		28			細菌実習	
2	31					1					2					3					4				
	7					8					9					10			細菌		11	建国記念の日			
	14					15					16					17			細菌実習		18	薬理		細菌実習	
	21					22	医動物				23	天皇誕生日				24	免疫				25				
	28	ウイルス実習				1	ウイルス実習				2	病理		病理実習		3			免疫		4			薬理	
3	7	医動物				8	医動物		法医		9			病理		10			免疫実習		11			免疫	自習
	14	自習		細菌本試		15					16			病理実習		17	免疫実習				18	予備		薬理	
	21	春分の日				22	自習		薬理中間		23					24					25				
	28					29					30					31					1				
	4					5					6	病理実習				7	救命救急		薬理実習		8	自習		薬理	
4	11	自習		ウイルス本試		12	病理		法医		13	病理		病理		14					15	薬理			
	18	法医		SciWriting		19					20					21					22			自習	
	25	自習		免疫本試		26	病理実習				27			病理実習		28					29	昭和の日			
	2	自習		自習		3	憲法記念日				4	みどりの日				5	こどもの日				6	自習			
	9	細菌再試		神経科学		10	病理		法医		11	病理実習				12	先端研究		神経科学		13	薬理		CHC	
5	16	SciWriting				17	病理実習		法医実習		18	病理				19					20	救急救命(M1実習)			
	23	ウイルス再試				24	病理				25	病理実習		病理実習		26	先端	自習			27			自習	
	30	自習		薬理本試		31	病理実習				1					2	自習		予備		3			CHC	
	6	予備		SciWriting		7			予備	先端	8					9	疼痛科学				10			自習	
	13	自習		法医試験		14	病理		SciWriting		15	病理		予備		16	病理実習				17	医療倫理		CHC	
6	20	SciWriting		水平統合病態		21	予備		水平統合病態		22	病理実習				23	病理実習		予備		24	自習	倫理		
	27	免疫再試		遺伝医学		28	予備	4	遺伝医学		29	病理実習試験		予備		30	医療倫理		遺伝医学		1	医療倫理		自習	
	4	自習		神経科学本試		5	病理実習試験		水平統合病態		6	予備		水平統合病態		7	自習		医療倫理試験		8	予備		自習	
	11	自習		病理2本試		12	基礎自主研修オリエン				13	基礎自主研修オリエン				14	自習		自習		15	自習		自習	
	18	海の日				19	病理1本試				20	夏季休業				21					22				
7	25					26					27					28					29				
	1					2					3					4					5				
	8					9					10					11	山の日				12				
	15					16					17					18					19				
	22					23			法医再試		24					25					26			薬理再試	
8	29	基礎自主研修開始				30					31					1					2				
	5					6					7					8					9				
	12					13					14					15					16				
	19	敬老の日				20					21					22					23	秋分の日			
	26					27					28					29					30				
9	3					4					5					6					7				
	10	スポーツの日				11					12					13					14				
	17					18					19					20					21				
	24					25					26					27					28				
	31					1					2					3	文化の日				4				
10	7					8					9					10					11				
	14					15					16					17					18				
	21					22					23	勤労感謝の日				24					25	基礎自主研修成果発表			
	28					29			病理2再試		30	レポート作成期間				1	レポート作成期間				2	医療倫理再試	レポート作成		
	5					6			病理1再試		7					8					9	神経科学再試			
11	12	レポート提出期限				13	進級判定				14					15					16				

※OSCEを9月24日(土)に実施するため、補助学生としての従事を予定しておくこと。事前説明会あり。

才. 3年1月~4年12月 授業時間割

月	日	月				日	火				日	水				日	木				日	金			
		午前		午後			午前		午後			午前		午後			午前		午後			午前		午後	
		1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4
1	27	冬季休業				28	冬季休業				29	冬季休業				30	冬季休業				31	冬季休業			
	3	冬季休業				4	麻酔科				5	呼吸器				6	臨床推論 循環器				7	腎・尿 呼吸器 腎・尿			
	10	成人の日				11					12					13					14				
	17	腎・尿路 循環器				18					19					20					21				
	24					25	救急				26	循環器				27					28				
	31					1					2	技能実習				3	呼吸器				4				
2	7					8	疼痛医学				9	腎・尿				10					11	建国記念の日			
	14					15					16					17					18	腎・尿 呼吸 腎・尿 呼吸			
	21					22	腎・尿路				23	天皇誕生日				24					25	S1試験			
3	28	生殖機能				1	神経 乳房				2	食事と栄養療法				3	消化器				4	消化器			
	7					8					9					10					11				
	14					15					16	消化器				17					18				
	21	春分の日				22	春期休業				23	春期休業				24	春期休業				25	春期休業			
	28					29					30					31					1				
4	4	生殖機能				5	神経 乳房				6	神経 CHC				7	神経 消化器				8	内分泌			
	11					12					13	技能実習				14	内分泌				15				
	18					19	CHC				20					21					22				
	25	妊娠と分娩				26					27					28					29	昭和の日			
5	2					3	憲法記念日				4	みどりの日				5	こどもの日				6	内分泌			
	9	妊娠と分娩				10	神経 技能実習				11	神経 技能実習				12	神経 技能実習				13	社会医学			
	16					17					18					19					20	内分泌			
	23					24	処方学				25	処方学				26					27	社会医学			
6	30	社会医学				31	社会医学				1					2	S2試験				3	S2試験			
	6	成長と発達 耳鼻				7	精神 成長と発達				8	眼・視覚				9	耳鼻 眼・視覚				10	社会医学			
	13					14					15					16					17				
	20					21					22					23					24				
	27					28					29	基本臨床技能実習				30	社会医学				1				
7	4					5					6					7					8				
	11					12					13					14					15				
	18	海の日				19					20	成長と発達				21					22	成長と発達			
8	25	社会医学試験				26					27					28	S3試験				29	S3試験			
	1	夏季休業				2	夏季休業				3	夏季休業				4	夏季休業				5	夏季休業			
	8					9					10					11	山の日				12				
	15					16					17					18					19				
	22					23					24					25					26				
9	29	基本臨床技能実習				30	運動器・リハ 漢方				31	漢方				1	皮膚 膠原病				2	基本臨床技能実習			
	5	運動器・リハ 皮膚				6	輸血				7	血液・造血				8					9	放射線等を用いる診断と治療			
	12					13					14					15					16				
	19	敬老の日				20					21	技能実習 総復習				22	OSCE事前準備				23	秋分の日/OSCE事前準備			
10	26	運動器・リハ 皮膚				27					28	血液・造血				29	皮膚				30	皮膚			
	3					4					5	腫瘍				6	腫瘍 血液・臨床推論				7	放射線			
	10	スポーツの日				11	腫瘍学				12	腫瘍学 感染				13					14				
	17	腫瘍学				18	感染				19					20					21	CBT体験テスト T-SPOT検査			
	24					25					26					27					28	川澄祭			
11	31					1					2	S4試験				3	文化の日				4	S4試験			
	7					8					9					10					11				
	14					15					16	(CBT事前準備)				17	C B T				18				
	21	セメスター1・2再試				22	セメスター1・2再試				23	勤労感謝の日				24	セメスター1・2再試				25				
	28	セメスター3・4再試				29	セメスター3・4再試				30	セメスター3・4再試				1					2				
12	5					6					7	(CBT再試事前準備)				8	CBT追再試				9				
	12	臨床実習事前教育				13	臨床実習事前教育・進級判定				14	電子カルテ講習				15	電子カルテ講習				16	白衣授与式			
	19	冬季休業				20	冬季休業				21	冬季休業				22	冬季休業				23	冬季休業			
	26					27					28					29					30				
	1	成人の日				10	臨床実習開始				11					12					13				

セメスター1
セメスター2
セメスター3
セメスター4
OSCE
川澄祭

...臨床薬理学校

力. 4年1月～5年10月 授業時間割

2022年1月～22年10月 (臨床実習前半 4年次1～3月 / 5年次4～10月)

	月 火 水 木 金 土 日							実習 日数	肝 臓 内 科	消 化 器 外 科	呼 吸 器 外 科	呼 吸 器 内 科	心 臓 血 管 外 科	脳 神 經 外 科	脳 神 經 内 科	産 婦 人 科	小 小 児 外 科	小 小 児 内 科	救 急 内 科	病 理 検 査	医 療 安 全 ・ 感 染 制 御	放 射 線 科								
	01/03	01/04	01/05	01/06	01/07	01/08	01/09																							
01/03 ~ 01/07	01/03	01/04	01/05	01/06	01/07	01/08	01/09	4	A	B	C	D2	D1	E1	E2	F	G	H1	H2	I	1									
01/10 ~ 01/14	01/10	01/11	01/12	01/13	01/14	01/15	01/16	4	A	B	C	D2	D1	E1	E2	F	G	H1	H2	I	2									
01/17 ~ 01/21	01/17	01/18	01/19	01/20	01/21	01/22	01/23	5	A	B	C	D1	D2	E2	E1	F	G	H2	H1	I	3									
01/24 ~ 01/28	01/24	01/25	01/26	01/27	01/28	01/29	01/30	5	A	B	C	D1	D2	E2	E1	F	G	H2	H1	I	4									
01/31 ~ 02/04	01/31	02/01	02/02	02/03	02/04	02/05	02/06	5	I	A	B	C2	C1	D1	D2	E	F	G1	G2	H	5									
02/07 ~ 02/11	02/07	02/08	02/09	02/10	02/11	02/12	02/13	4	I	A	B	C2	C1	D1	D2	E	F	G1	G2	H	6									
02/14 ~ 02/18	02/14	02/15	02/16	02/17	02/18	02/19	02/20	5	I	A	B	C1	C2	D2	D1	E	F	G2	G1	H	7									
02/21 ~ 02/25	02/21	02/22	02/23	02/24	02/25	02/26	02/27	4	I	A	B	C1	C2	D2	D1	E	F	G2	G1	H	8									
02/28 ~ 03/04	02/28	03/01	03/02	03/03	03/04	03/05	03/06	5	H	I	A	B2	B1	C1	C2	D	E	F1	F2	G	9									
03/07 ~ 03/11	03/07	03/08	03/09	03/10	03/11	03/12	03/13	5	H	I	A	B2	B1	C1	C2	D	E	F1	F2	G	10									
03/14 ~ 03/18	03/14	03/15	03/16	03/17	03/18	03/19	03/20	5	H	I	A	B1	B2	C2	C1	D	E	F2	F1	G	11									
03/21 ~ 03/25	03/21	03/22	03/23	03/24	03/25	03/26	03/27	4	春季休業																					
03/28 ~ 04/01	03/28	03/29	03/30	03/31	04/01	04/02	04/03	5	H	I	A	B1	B2	C2	C1	D	E	F2	F1	G	12									
04/04 ~ 04/08	04/04	04/05	04/06	04/07	04/08	04/09	04/10	5	G	H	I	A2	A1	B1	B2	C	D	E1	E2	F	13									
04/11 ~ 04/15	04/11	04/12	04/13	04/14	04/15	04/16	04/17	5	G	H	I	A2	A1	B1	B2	C	D	E1	E2	F	14									
04/18 ~ 04/22	04/18	04/19	04/20	04/21	04/22	04/23	04/24	5	G	H	I	A1	A2	B2	B1	C	D	E2	E1	F	15									
04/25 ~ 04/29	04/25	04/26	04/27	04/28	04/29	04/30	05/01	4	G	H	I	A1	A2	B2	B1	C	D	E2	E1	F	16									
05/02 ~ 05/06	05/02	05/03	05/04	05/05	05/06	05/07	05/08	2	GW																					
05/09 ~ 05/13	05/09	05/10	05/11	05/12	05/13	05/14	05/15	5	F	G	H	I2	I1	A1	A2	B	C	D1	D2	E	17									
05/16 ~ 05/20	05/16	05/17	05/18	05/19	05/20	05/21	05/22	5	F	G	H	I2	I1	A1	A2	B	C	D1	D2	E	18									
05/23 ~ 05/27	05/23	05/24	05/25	05/26	05/27	05/28	05/29	5	F	G	H	I1	I2	A2	A1	B	C	D2	D1	E	19									
05/30 ~ 06/03	05/30	05/31	06/01	06/02	06/03	06/04	06/05	5	F	G	H	I1	I2	A2	A1	B	C	D2	D1	E	20									
06/06 ~ 06/10	06/06	06/07	06/08	06/09	06/10	06/11	06/12	5	E	F	G	H2	H1	I1	I2	A	B	C1	C2	D	21									
06/13 ~ 06/17	06/13	06/14	06/15	06/16	06/17	06/18	06/19	5	E	F	G	H2	H1	I1	I2	A	B	C1	C2	D	22									
06/20 ~ 06/24	06/20	06/21	06/22	06/23	06/24	06/25	06/26	5	E	F	G	H1	H2	I2	I1	A	B	C2	C1	D	23									
06/27 ~ 07/01	06/27	06/28	06/29	06/30	07/01	07/02	07/03	5	E	F	G	H1	H2	I2	I1	A	B	C2	C1	D	24									
07/04 ~ 07/08	07/04	07/05	07/06	07/07	07/08	07/09	07/10	5	D	E	F	G2	G1	H1	H2	I	A	B1	B2	C	25									
07/11 ~ 07/15	07/11	07/12	07/13	07/14	07/15	07/16	07/17	5	D	E	F	G2	G1	H1	H2	I	A	B1	B2	C	26									
07/18 ~ 07/22	07/18	07/19	07/20	07/21	07/22	07/23	07/24	4	D	E	F	G1	G2	H2	H1	I	A	B2	B1	C	27									
07/25 ~ 07/29	07/25	07/26	07/27	07/28	07/29	07/30	07/31	5	D	E	F	G1	G2	H2	H1	I	A	B2	B1	C	28									
08/01 ~ 08/05	08/01	08/02	08/03	08/04	08/05	08/06	08/07		夏季休業																					
08/08 ~ 08/12	08/08	08/09	08/10	08/11	08/12	08/13	08/14		夏季休業																					
08/15 ~ 08/19	08/15	08/16	08/17	08/18	08/19	08/20	08/21		夏季休業																					
08/22 ~ 08/26	08/22	08/23	08/24	08/25	08/26	08/27	08/28		夏季休業																					
08/29 ~ 09/02	08/29	08/30	08/31	09/01	09/02	09/03	09/04	5	C	D	E	F2	F1	G1	G2	H	I	A1	A2	B	29									
09/05 ~ 09/09	09/05	09/06	09/07	09/08	09/09	09/10	09/11	5	C	D	E	F2	F1	G1	G2	H	I	A1	A2	B	30									
09/12 ~ 09/16	09/12	09/13	09/14	09/15	09/16	09/17	09/18	5	C	D	E	F1	F2	G2	G1	H	I	A2	A1	B	31									
09/19 ~ 09/23	09/19	09/20	09/21	09/22	09/23	09/24	09/25	3	C	D	E	F1	F2	G2	G1	H	I	A2	A1	B	32									
09/26 ~ 09/30	09/26	09/27	09/28	09/29	09/30	10/01	10/02	5	B	C	D	E2	E1	F1	F2	G	H	I1	I2	A	33									
10/03 ~ 10/07	10/03	10/04	10/05	10/06	10/07	10/08	10/09	5	B	C	D	E2	E1	F1	F2	G	H	I1	I2	A	34									
10/10 ~ 10/14	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15	10/16	4	B	C	D	E1	E2	F2	F1	G	H	I2	I1	A	35									
10/17 ~ 10/21	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22	10/23	5	B	C	D	E1	E2	F2	F1	G	H	I2	I1	A	36									

(参考) 2022年10月～ 臨床実習スケジュール (予定)

2022年10月～23年7月 (臨床実習後半 5年次10月～3月 / 6年次4月～7月)

	月							薬麻 剤酔 部科	リ整 ハ形 ビ外 リ科科	膠 原 病 内 科	血 液 内 科	口 腔 外 科	眼 科	小 兒 泌 尿 器 科	腎 臓 内 科	形 皮 成 膚 外 科	乳 腺 外 科	内 分 泌 糖 尿 病 科	緩 和 ケ ン ア 部	痛 み セ ン タ ー 科	精 神 科	臨 選 床 折 実 習 制
	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29	10/30															
10/24 ~ 10/28	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29	10/30	A	B	C2	C1	D2	D1	E	F	G2	G1	H2	H1	I		
10/31 ~ 11/04	10/31	11/01	11/02	11/03	11/04	11/05	11/06	A	B	C2	C1	D2	D1	E	F	G2	G1	H2	H1	I		
11/07 ~ 11/11	11/07	11/08	11/09	11/10	11/11	11/12	11/13	A	B	C1	C2	D1	D2	E	F	G1	G2	H1	H2	I		
11/14 ~ 11/18	11/14	11/15	11/16	11/17	11/18	11/19	11/20	A	B	C1	C2	D1	D2	E	F	G1	G2	H1	H2	I		
11/21 ~ 11/25	11/21	11/22	11/23	11/24	11/25	11/26	11/27	I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F	G	H				
11/28 ~ 12/02	11/28	11/29	11/30	12/01	12/02	12/03	12/04	I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F	G	H				
12/05 ~ 12/09	12/05	12/06	12/07	12/08	12/09	12/10	12/11	I	A	B1	B2	C1	C2	D	E	F	G	H				
12/12 ~ 12/16	12/12	12/13	12/14	12/15	12/16	12/17	12/18	I	A	B1	B2	C1	C2	D	E	F	G	H				
12/19 ~ 12/23	12/19	12/20	12/21	12/22	12/23	12/24	12/25	H	I	A2	A1	B2	B1	C	D	E2	E1	F2	F1	G		
12/26 ~ 12/30	12/26	12/27	12/28	12/29	12/30	12/31	01/01	冬季休業														
01/02 ~ 01/06	01/02	01/03	01/04	01/05	01/06	01/07	01/08															
01/09 ~ 01/13	01/09	01/10	01/11	01/12	01/13	01/14	01/15	H	I	A2	A1	B2	B1	C	D	E2	E1	F2	F1	G		
01/16 ~ 01/20	01/16	01/17	01/18	01/19	01/20	01/21	01/22	H	I	A1	A2	B1	B2	C	D	E1	E2	F1	F2	G		
01/23 ~ 01/27	01/23	01/24	01/25	01/26	01/27	01/28	01/29	H	I	A1	A2	B1	B2	C	D	E1	E2	F1	F2	G		
01/30 ~ 02/03	01/30	01/31	02/01	02/02	02/03	02/04	02/05	G	H	I2	I1	A2	A1	B	C	D2	D1	E2	E1	F		
02/06 ~ 02/10	02/06	02/07	02/08	02/09	02/10	02/11	02/12	G	H	I2	I1	A2	A1	B	C	D2	D1	E2	E1	F		
02/13 ~ 02/17	02/13	02/14	02/15	02/16	02/17	02/18	02/19	G	H	I1	I2	A1	A2	B	C	D1	D2	E1	E2	F		
02/20 ~ 02/24	02/20	02/21	02/22	02/23	02/24	02/25	02/26	G	H	I1	I2	A1	A2	B	C	D1	D2	E1	E2	F		
02/27 ~ 03/03	02/27	02/28	03/01	03/02	03/03	03/04	03/05	F	G	H2	H1	I2	I1	A	B	C2	C1	D2	D1	E		
03/06 ~ 03/10	03/06	03/07	03/08	03/09	03/10	03/11	03/12	F	G	H2	H1	I2	I1	A	B	C2	C1	D2	D1	E		
03/13 ~ 03/17	03/13	03/14	03/15	03/16	03/17	03/18	03/19	F	G	H1	H2	I1	I2	A	B	C1	C2	D1	D2	E		
03/20 ~ 03/24	03/20	03/21	03/22	03/23	03/24	03/25	03/26	春季休業														
03/27 ~ 03/31	03/27	03/28	03/29	03/30	03/31	04/01	04/02	F	G	H1	H2	I1	I2	A	B	C1	C2	D1	D2	E		
04/03 ~ 04/07	04/03	04/04	04/05	04/06	04/07	04/08	04/09	E	F	G2	G1	H2	H1	I	A	B2	B1	C2	C1	D		
04/10 ~ 04/14	04/10	04/11	04/12	04/13	04/14	04/15	04/16	E	F	G2	G1	H2	H1	I	A	B2	B1	C2	C1	D		
04/17 ~ 04/21	04/17	04/18	04/19	04/20	04/21	04/22	04/23	E	F	G1	G2	H1	H2	I	A	B1	B2	C1	C2	D		
04/24 ~ 04/28	04/24	04/25	04/26	04/27	04/28	04/29	04/30	E	F	G1	G2	H1	H2	I	A	B1	B2	C1	C2	D		
05/01 ~ 05/05	05/01	05/02	05/03	05/04	05/05	05/06	05/07	GW														
05/08 ~ 05/12	05/08	05/09	05/10	05/11	05/12	05/13	05/14	D	E	F2	F1	G2	G1	H	I	A2	A1	B2	B1	C		
05/15 ~ 05/19	05/15	05/16	05/17	05/18	05/19	05/20	05/21	D	E	F2	F1	G2	G1	H	I	A2	A1	B2	B1	C		
05/22 ~ 05/26	05/22	05/23	05/24	05/25	05/26	05/27	05/28	D	E	F1	F2	G1	G2	H	I	A1	A2	B1	B2	C		
05/29 ~ 06/02	05/29	05/30	05/31	06/01	06/02	06/03	06/04	D	E	F1	F2	G1	G2	H	I	A1	A2	B1	B2	C		
06/05 ~ 06/09	06/05	06/06	06/07	06/08	06/09	06/10	06/11	C	D	E2	E1	F2	F1	G	H	I2	I1	A2	A1	B		
06/12 ~ 06/16	06/12	06/13	06/14	06/15	06/16	06/17	06/18	C	D	E2	E1	F2	F1	G	H	I2	I1	A2	A1	B		
06/19 ~ 06/23	06/19	06/20	06/21	06/22	06/23	06/24	06/25	C	D	E1	E2	F1	F2	G	H	I1	I2	A1	A2	B		
06/26 ~ 06/30	06/26	06/27	06/28	06/29	06/30	07/01	07/02	C	D	E1	E2	F1	F2	G	H	I1	I2	A1	A2	B		
07/03 ~ 07/07	07/03	07/04	07/05	07/06	07/07	07/08	07/09	B	C	D2	D1	E2	E1	F	G	H2	H1	I2	I1	A		
07/10 ~ 07/14	07/10	07/11	07/12	07/13	07/14	07/15	07/16	B	C	D2	D1	E2	E1	F	G	H2	H1	I2	I1	A		
07/17 ~ 07/21	07/17	07/18	07/19	07/20	07/21	07/22	07/23	B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	H1	H2	I1	I2	A		
07/24 ~ 07/28	07/24	07/25	07/26	07/27	07/28	07/29	07/30	B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	H1	H2	I1	I2	A		
07/31 ~ 08/04	07/31	08/01	08/02	08/03	08/04	08/05	08/06	夏季休業														
08/07 ~ 08/11	08/07	08/08	08/09	08/10	08/11	08/12	08/13															
08/14 ~ 08/18	08/14	08/15	08/16	08/17	08/18	08/19	08/20															
08/21 ~ 08/25	08/21	08/22	08/23	08/24	08/25	08/26	08/27	8/26 総合客観試験1再試														
08/28 ~ 09/01	08/28	08/29	08/30	08/31	09/01	09/02	09/03	プライマリ・ケア														
09/04 ~ 09/08	09/04	09/05	09/06	09/07	09/08	09/09	09/10	社会医学														
09/11 ~ 09/15	09/11	09/12	09/13	09/14	09/15	09/16	09/17															
09/18 ~ 09/22	09/18	09/19	09/20	09/21	09/22	09/23	09/24															
09/25 ~ 09/29	09/25	09/26	09/27	09/28	09/29	09/30	10/01															
10/02 ~ 10/06	10/02	10/03	10/04	10/05	10/06	10/07	10/08	10/7 Post-CC OSCE														
10/09 ~ 10/13	10/09	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15															
10/16 ~ 10/20	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22															
10/23 ~ 10/27	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29															
10/30 ~ 11/03	10/30	10/31	11/01	11/02	11/03	11/04	11/05	11/11 Post-CC OSCE再試														
11/06 ~ 11/10	11/06	11/07	11/08	11/09	11/10	11/11	11/12															
11/13 ~ 11/17	11/13	11/14	11/15	11/16	11/17	11/18	11/19															
11/20 ~ 11/24	11/20	11/21	11/22	11/23	11/24	11/25	11/26	11/24 総合客観試験2														
11/27 ~ 12/01	11/27	11/28	11/29	11/30	12/01	12/02	12/03															
12/04 ~ 12/08	12/04	12/05	12/06	12/07	12/08	12/09	12/10															
12/11 ~ 12/15	12/11	12/12	12/13	12/14	12/15	12/16	12/17	12/15 総合客観試験2再試														

キ. 5年11月～6年 授業時間割

2021年11月～22年9月(臨床実習後半 5年次11月～3月、6年次4月～9月)							薬麻	リ整	膠	血	口	眼	小	腎	形	乳	内	細	精	臨
							劑	ハ	原	液	腔	耳	兒	泌	皮	腺	分	和	痛	選
							科	形	病	内	咽	鼻	尿	成	外	糖	米	神	床	
							部	科	内	科	科	科	器	科	科	科	病	セ	科	実
							科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	習
2021年	月	火	水	木	金															
11/15 ~ 11/19	11/15	11/16	11/17	11/18	11/19		A	B	C2	C1	D2	D1	E	F	G2	G1	H2	H1	I	I
11/22 ~ 11/26	11/22	11/23	11/24	11/25	11/26		A	B	C2	C1	D2	D1	E	F	G2	G1	H2	H1	I	I
11/29 ~ 12/03	11/29	11/30	12/01	12/02	12/03		A	B	C1	C2	D1	D2	E	F	G1	G2	H1	H2	I	I
12/06 ~ 12/10	12/06	12/07	12/08	12/09	12/10		A	B	C1	C2	D1	D2	E	F	G1	G2	H1	H2	I	I
12/13 ~ 12/17	12/13	12/14	12/15	12/16	12/17		I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F2	F1	G2	G1	H	H
12/20 ~ 12/24	12/20	12/21	12/22	12/23	12/24	冬季休業														
12/27 ~ 12/31	12/27	12/28	12/29	12/30	12/31	冬季休業														
01/03 ~ 01/07	01/03	01/04	01/05	01/06	01/07		I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F2	F1	G2	G1	H	H
01/10 ~ 01/14	01/10	01/11	01/12	01/13	01/14		I	A	B1	B2	C1	C2	D	E	F1	F2	G1	G2	H	H
01/17 ~ 01/21	01/17	01/18	01/19	01/20	01/21		I	A	B1	B2	C1	C2	D	E	F1	F2	G1	G2	H	H
01/24 ~ 01/28	01/24	01/25	01/26	01/27	01/28		H	I	A2	A1	B2	B1	C	D	E2	E1	F2	F1	G	G
01/31 ~ 02/04	01/31	02/01	02/02	02/03	02/04		H	I	A2	A1	B2	B1	C	D	E2	E1	F2	F1	G	G
02/07 ~ 02/11	02/07	02/08	02/09	02/10	02/11		H	I	A1	A2	B1	B2	C	D	E1	E2	F1	F2	G	G
02/14 ~ 02/18	02/14	02/15	02/16	02/17	02/18		H	I	A1	A2	B1	B2	C	D	E1	E2	F1	F2	G	G
02/21 ~ 02/25	02/21	02/22	02/23	02/24	02/25		G	H	I2	I1	A2	A1	B	C	D2	D1	E2	E1	F	F
02/28 ~ 03/04	02/28	03/01	03/02	03/03	03/04		G	H	I2	I1	A2	A1	B	C	D2	D1	E2	E1	F	F
03/07 ~ 03/11	03/07	03/08	03/09	03/10	03/11		G	H	I1	I2	A2	A1	B	C	D1	D2	E2	E1	F	F
03/14 ~ 03/18	03/14	03/15	03/16	03/17	03/18		G	H	I1	I2	A2	A1	B	C	D1	D2	E2	E1	F	F
03/21 ~ 03/25	03/21	03/22	03/23	03/24	03/25	春季休業														
03/28 ~ 04/01	03/28	03/29	03/30	03/31	04/01	3/31 4/1 総合客観試験1														
04/04 ~ 04/08	04/04	04/05	04/06	04/07	04/08		F	G	H2	H1	I2	I1	A	B	C2	C1	D2	D1	E	E
04/11 ~ 04/15	04/11	04/12	04/13	04/14	04/15		F	G	H2	H1	I2	I1	A	B	C2	C1	D2	D1	E	E
04/18 ~ 04/22	04/18	04/19	04/20	04/21	04/22		F	G	H1	H2	I1	I2	A	B	C1	C2	D1	D2	E	E
04/25 ~ 04/29	04/25	04/26	04/27	04/28	04/29		F	G	H1	H2	I1	I2	A	B	C1	C2	D1	D2	E	E
05/02 ~ 05/06	05/02	05/03	05/04	05/05	05/06	GW														
05/09 ~ 05/13	05/09	05/10	05/11	05/12	05/13		E	F	G2	G1	H2	H1	I	A	B2	B1	C2	C1	D	D
05/16 ~ 05/20	05/16	05/17	05/18	05/19	05/20		E	F	G2	G1	H2	H1	I	A	B2	B1	C2	C1	D	D
05/23 ~ 05/27	05/23	05/24	05/25	05/26	05/27		E	F	G1	G2	H1	H2	I	A	B1	B2	C1	C2	D	D
05/30 ~ 06/03	05/30	05/31	06/01	06/02	06/03		E	F	G1	G2	H1	H2	I	A	B1	B2	C1	C2	D	D
06/06 ~ 06/10	06/06	06/07	06/08	06/09	06/10		D	E	F2	F1	G2	G1	H	I	A2	A1	B2	B1	C	C
06/13 ~ 06/17	06/13	06/14	06/15	06/16	06/17		D	E	F2	F1	G2	G1	H	I	A2	A1	B2	B1	C	C
06/20 ~ 06/24	06/20	06/21	06/22	06/23	06/24		D	E	F1	F2	G1	G2	H	I	A1	A2	B1	B2	C	C
06/27 ~ 07/01	06/27	06/28	06/29	06/30	07/01		D	E	F1	F2	G1	G2	H	I	A1	A2	B1	B2	C	C
07/04 ~ 07/08	07/04	07/05	07/06	07/07	07/08		C	D	E2	E1	F2	F1	G	H	I2	I1	A2	A1	B	B
07/11 ~ 07/15	07/11	07/12	07/13	07/14	07/15		C	D	E2	E1	F2	F1	G	H	I2	I1	A2	A1	B	B
07/18 ~ 07/22	07/18	07/19	07/20	07/21	07/22		C	D	E1	E2	F1	F2	G	H	I1	I2	A1	A2	B	B
07/25 ~ 07/29	07/25	07/26	07/27	07/28	07/29		C	D	E1	E2	F1	F2	G	H	I1	I2	A1	A2	B	B
08/01 ~ 08/05	08/01	08/02	08/03	08/04	08/05	夏季休業														
08/08 ~ 08/12	08/08	08/09	08/10	08/11	08/12	夏季休業														
08/15 ~ 08/19	08/15	08/16	08/17	08/18	08/19	夏季休業														
08/22 ~ 08/26	08/22	08/23	08/24	08/25	08/26	8/26 総合客観試験1再試														
08/29 ~ 09/02	08/29	08/30	08/31	09/01	09/02		B	C	D2	D1	E2	E1	F	G	H2	H1	I2	I1	A	A
09/05 ~ 09/09	09/05	09/06	09/07	09/08	09/09		B	C	D2	D1	E2	E1	F	G	H2	H1	I2	I1	A	A
09/12 ~ 09/16	09/12	09/13	09/14	09/15	09/16		B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	H1	H2	I1	I2	A	A
09/19 ~ 09/23	09/19	09/20	09/21	09/22	09/23		B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	H1	H2	I1	I2	A	A
09/26 ~ 09/30	09/26	09/27	09/28	09/29	09/30	プライマリ・ケア														
10/03 ~ 10/07	10/03	10/04	10/05	10/06	10/07	10/8 Post-CCOSCE														
10/10 ~ 10/14	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14	10/8 Post-CCOSCE														
10/17 ~ 10/21	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	社会医学														
10/24 ~ 10/28	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	社会医学														
10/31 ~ 11/04	10/31	11/01	11/02	11/03	11/04	11/5 Post-CCOSCE追再試														
11/07 ~ 11/11	11/07	11/08	11/09	11/10	11/11	本試験 11/10・11 総合客観試験2														
11/14 ~ 11/18	11/14	11/15	11/16	11/17	11/18	本試験 11/10・11 総合客観試験2														
11/21 ~ 11/25	11/21	11/22	11/23	11/24	11/25	本試験 11/10・11 総合客観試験2														
11/28 ~ 12/02	11/28	11/29	11/30	12/01	12/02	本試験 11/10・11 総合客観試験2														
12/05 ~ 12/09	12/05	12/06	12/07	12/08	12/09	本試験 11/10・11 総合客観試験2														
12/12 ~ 12/16	12/12	12/13	12/14	12/15	12/16	12/16 総合客観試験2再試														
12/19 ~ 12/23	12/19	12/20	12/21	12/22	12/23	12/16 総合客観試験2再試														
12/26 ~ 12/30	12/26	12/27	12/28	12/29	12/30	12/16 総合客観試験2再試														
01/02 ~ 01/06	01/02	01/03	01/04	01/05	01/06	12/16 総合客観試験2再試														
01/09 ~ 01/13	01/09	01/10	01/11	01/12	01/13	12/16 総合客観試験2再試														
01/16 ~ 01/20	01/16	01/17	01/18	01/19	01/20	12/16 総合客観試験2再試														
	休日																			

(3) 授業時間・講義室

授業時間は次のとおりとする。

1時限 9:00～10:30 2時限 10:40～12:10 3時限 13:00～14:30 4時限 14:40～16:10

ただし、授業科目によっては、開始・終了時刻が異なる場合がある。特に臨床実習については、開始時刻・終了時刻ともに各診療科によって異なる。担当教員の指示に従うこと。

専門教育における各学年の講義室は原則として以下のとおりとする。

学年	講義室
1年次	講義室 1
2年次（2年4月～12月）	講義室 2
3年次（2年1月～3年12月）	講義室 3
4年次（3年1月～4年12月）	講義室 A 又は B

※新型コロナウイルスへの対応等により、変更する場合がある。

(4) 専門教育授業科目

ア. 授業科目一覧

区分	授業科目		配当年次
	コース名	ユニット名	
基礎医学	解剖学コース	肉眼解剖学	2
		組織学・発生学・神経解剖学	2
	生化学コース	物質と代謝	2
		分子と細胞	2
	生理学コース	植物的機能系	2
		動物的機能系	2
臨床基礎医学	病理学コース	病態病理	3
		臨床病理	3
	薬理学コース	薬理学	3
	感染微生物コース	医動物学	3
		細菌学	3
		ウイルス学	3
免疫学コース	免疫学	3	
社会医学	社会医学コース	予防医学基礎	4
		予防医学応用	6
		法医学	3
		法医診断学	3
		医学・医療倫理	3
		医学情報学	1
臨床医学	臨床医学コース	血液・造血器・リンパ系	4
		神経系（神経内科）	4
		神経系（脳神経外科）	4
		皮膚系	4
		運動器系・リハビリテーション	4
		循環器系	4
		呼吸器系	4
		消化器系・内視鏡	4
		腎・尿路系（腎臓内科）	4
		腎・尿路系（泌尿器科）	4
		生殖機能（泌尿器科）	4
		生殖機能（婦人科）	4
		妊娠と分娩	4
		乳房	4
内分泌・栄養・代謝系	4		

		眼・視覚系	4
		耳鼻・咽喉・口腔系	4
		精神系	4
		臨床感染症学	4
		成長と発達／発生	4
		麻酔科学・集中治療医学	4
		食事と栄養療法	4
		放射線等を用いる診断と治療	4
		輸血と移植	4
		膠原病	4
		臨床腫瘍学	4
		救急科	4
		漢方医学	4
		臨床処方学	4
臨床実習	臨床実習コース	臨床実習	4・5・6
		選択制臨床実習	5・6
統合教育	総合医学コース	医学入門	1
		水平統合基礎	2
		水平統合病態	3
	行動科学・地域医療学コース	行動科学	3
		神経科学	3
		疼痛科学	3
		疼痛医学（痛みと行動科学）	4
		コミュニティ・ヘルスケア基礎（IPE）	2
		コミュニティ・ヘルスケア応用（IPE）	3
		コミュニティ・ヘルスケア発展（IPE）	4
	コミュニティ・ヘルスケア実践（IPE）	4・5	
	研究能力養成コース	学術論文入門	2
		Scientific Writing and Presentation	3
		先端研究	3
		遺伝医学	3
		基礎自主研修	3
	臨床能力養成コース	救命救急	3
		臨床診断推論	4
		基本臨床技能実習	4
	選択制コース	MD-PhD コース	-
BRJ 活動		-	

イ. 医学教育モデル・コア・カリキュラム対応一覧

		M1		M2						M3																		
		医入	医情	肉解	組織	生化	生理	水基	C基	行動	論文	医動	細菌	ウイ	免疫	病理	薬理	法医	倫理	神科	疼痛	C応	SW	先端	救急	遺伝	水病	
A 医師として求められる基本的な資質・能力																												
A-1 プロフェッショナルリズム																												
A-1-1	医の倫理と生命倫理	7	○																									
A-1-2	患者中心の視点	8	○																									
A-1-3	医師としての責務と裁量権	8	○																									
A-2 医学知識と問題対応能力																												
A-2-1	課題探求・解決能力	9	○							○																		
A-2-2	学修の在り方	10	○							○																		
A-3 診療技能と患者ケア																												
A-3-1	全人的実践的能力	6																										
A-4 コミュニケーション能力																												
A-4-1	コミュニケーション	9								○																		
A-4-2	患者と医師の関係	9								○																		
A-5 チーム医療の実践																												
A-5-1	患者中心のチーム医療	9																										
A-6 医療の質と安全管理																												
A-6-1	安全性の確保	6	○																									
A-6-2	医療上の事故等への対応と予防	6	○																									
A-6-3	医療従事者の健康と安全	4	○																									
A-7 社会における医療の実践																												
A-7-1	地域医療への貢献	9	○							○																		
A-7-2	国際医療への貢献	6	○																									
A-8 科学的探究																												
A-8-1	医学研究への志向の涵養	6																										
A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢																												
A-9-1	生涯学習への準備	6	○																									
B 社会と医学・医療																												
B-1 集団に対する医療																												
B-1-1	統計の基礎	3																										
B-1-2	統計手法の適用	2																										
B-1-3	根拠に基づいた医療<EBM>	4																										
B-1-4	疫学と予防医学	5	○																									
B-1-5	生活習慣とリスク	7	○																									
B-1-6	社会・環境と健康	5																										
B-1-7	地域医療・地域保健	7	○	○																								
B-1-8	保健・医療・福祉・介護の制度	6	○	○																								
B-1-9	国際保健	3	○																									
B-2 法医学と関連法規																												
B-2-1	死と法	7																										
B-2-2	診療情報と諸証明書	4																										
B-3 医学研究と倫理																												
B-3-1	倫理規範と実践倫理	1																										
B-4 医療に関連のある社会科学領域																												
B-4-1	医師に求められる社会性	13	○																									
C 医学一般																												
C-1 生命現象の科学																												
C-1-1	生命の最小単位—細胞	6			○	○	○	○	○																			
C-1-2	生物の進化	1																										
C-2 個体の構成と機能																												
C-2-1	細胞の構成と機能	5			○	○	○	○	○																			
C-2-2	組織・各臓器の構成、機能と位置関係	8			○	○																						
C-2-3	個体の調節機能とホメオスタシス	10			○	○	○	○	○																			
C-2-4	個体の発生	6			○	○	○	○	○																			
C-2-5	生体物質の代謝	3			○	○	○																					
C-3 個体の反応																												
C-3-1	生体と微生物	7																										
C-3-2	免疫と生体防御	5																										
C-3-3	生体と薬物	2																										
C-4 病因と病態																												
C-4-1	遺伝的多様性と疾患	5																										
C-4-2	細胞傷害・変性と細胞死	3																										
C-4-3	代謝障害	3																										
C-4-4	循環障害、臓器不全	5																										
C-4-5	炎症と創傷治癒	8																										
C-4-6	腫瘍	11																										
C-5 人の行動と心理																												
C-5-1	人の行動	7																										
C-5-2	行動の成り立ち	7																										
C-5-3	動機付け	7																										
C-5-4	ストレス	7																										
C-5-5	生涯発達	7																										
C-5-6	個人差	6																										
C-5-7	対人関係と対人コミュニケーション	9																										
C-5-8	行動変容における理論と技法	6	○																									
D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療																												
D-1 血液・造血器・リンパ系																												
D-1-1	構造と機能	9			○	○	○	○																				
D-1-2	診断と検査の基本	7																										
D-1-3	症候	7																										
D-1-4	疾患	8																										
D-2 神経系																												
D-2-1	構造と機能	7			○	○																						
D-2-2	診断と検査の基本	5																										
D-2-3	症候	6																										
D-2-4	疾患	7																										
D-3 皮膚系																												
D-3-1	構造と機能	8			○	○																						
D-3-2	診断と検査の基本	6																										
D-3-3	症候	6																										
D-3-4	疾患	6																										

		M1		M2						M3																		
		医入	医情	肉解	組織	生化	生理	水基	C基	行動	論文	医動	細菌	ウイ	免疫	病理	薬理	法医	倫理	神科	疼痛	C応	SW	先端	救急	遺伝	水病	
D-4	運動器（筋骨格）系																											
D-4-1)	構造と機能	9			○	○		○	○																			
D-4-2)	診断と検査の基本	7						○	○																			
D-4-3)	症候	7						○	○																			
D-4-4)	疾患	7						○	○																			
D-5	循環器系																											
D-5-1)	構造と機能	7			○	○		○	○																			
D-5-2)	診断と検査の基本	5						○	○																			
D-5-3)	症候	5						○	○																			
D-5-4)	疾患	6						○	○																			
D-6	呼吸器系																											
D-6-1)	構造と機能	8			○	○		○	○																			
D-6-2)	診断と検査の基本	6						○	○																			
D-6-3)	症候	6						○	○																			
D-6-4)	疾患	8						○	○																			
D-7	消化器系																											
D-7-1)	構造と機能	12			○	○		○	○																			
D-7-2)	診断と検査の基本	10						○	○																			
D-7-3)	症候	10						○	○																			
D-7-4)	疾患	11						○	○																			
D-8	腎・原糖系（体液・電解質バランスを含む）																											
D-8-1)	構造と機能	10			○	○		○	○																			
D-8-2)	診断と検査の基本	8						○	○																			
D-8-3)	症候	8						○	○																			
D-8-4)	疾患	8						○	○																			
D-9	生殖機能																											
D-9-1)	構造と機能	9	○		○	○		○	○																			
D-9-2)	診断と検査の基本	7	○					○	○																			
D-9-3)	症候	7	○					○	○																			
D-9-4)	疾患	8	○					○	○																			
D-10	妊娠と分娩																											
D-10-1)	構造と機能	5			○	○		○	○																			
D-10-2)	診断と検査の基本	3						○	○																			
D-10-3)	症候	3						○	○																			
D-10-4)	疾患	3						○	○																			
D-10-5)	産科手術	3						○	○																			
D-11	乳房																											
D-11-1)	構造と機能	5			○	○																						
D-11-2)	診断と検査の基本	3																										
D-11-3)	症候	3																										
D-11-4)	疾患	3																										
D-12	内分泌・栄養・代謝系																											
D-12-1)	構造と機能	7			○	○		○	○																			
D-12-2)	診断と検査の基本	5						○	○																			
D-12-3)	症候	5						○	○																			
D-12-4)	疾患	6						○	○																			
D-13	眼・視覚系																											
D-13-1)	構造と機能	6			○	○		○	○																			
D-13-2)	診断と検査の基本	4						○	○																			
D-13-3)	症候	4						○	○																			
D-13-4)	疾患	5						○	○																			
D-14	耳鼻・咽喉・口腔系																											
D-14-1)	構造と機能	9			○	○		○	○																			
D-14-2)	診断と検査の基本	7						○	○																			
D-14-3)	症候	7						○	○																			
D-14-4)	疾患	7						○	○																			
D-15	精神系																											
D-15-1)	診断と検査の基本	4																										
D-15-2)	症候	4																										
D-15-3)	疾患	4																										
E	全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療																											
E-1	遺伝医療・ゲノム医療																											
E-1-1)	遺伝医療・ゲノム医療と情報の特性	4																										
E-2	感染症																											
E-2-1)	病態	11	○							○	○	○	○	○	○													
E-2-2)	診断・検査・治療の基本	11	○							○	○	○	○	○	○													
E-2-3)	症候	10	○							○	○	○	○	○	○													
E-2-4)	疾患	11	○							○	○	○	○	○	○													
E-3	腫瘍																											
E-3-1)	定義・病態	10								○																		
E-3-2)	診断	10								○																		
E-3-3)	治療	11								○																		
E-3-4)	診療の基本的事項	10								○																		
E-3-5)	各論	11								○																		
E-4	免疫・アレルギー																											
E-4-1)	診断と検査の基本	8								○																		

・BRJ 活動

通常カリキュラムの枠を超えて、医師としての実践的なスキルを身につけるための活動として、BRJ (Beyond the Resident Project) 活動がある。教員と協力し、学生が主体となって僻地医療研修、当直体験、胸部 X 線読影や心電図等の検査技術の修得、臨床推論、プロフェッショナルとしての医師像の探索等、学生のうちから研修医を超えることを目標とする活動である。名古屋市立大学医学部では、カリキュラムにおける選択制科目の一つとして位置付け、活動を支援している。

(5) 試験・成績評価

ア. 出席要件

次のいずれかを満たさない授業科目については、原則として失格とし、試験その他の評価を受けることができない。

- ① 実習については、その授業時間数のすべてに出席すること
- ② 実習以外の講義等については、その授業時間数の7割以上出席すること

やむを得ない理由※により授業を欠席した場合には、「特別欠席届」を記入し、担当教員の確認・押印を受けた上で、教育研究課事務室に提出すること。その際には、原則として、診断書や病院を受診した際の領収書、事故証明等、理由を証明する書類を添えること。

ただし、欠席届を提出しても出席したことにはならない。担当教員の判断により、補講・追加実習の受講、レポート課題の提出等の補完を求めることがある。

欠席届を提出しない場合は、いかなる理由であっても「やむを得ない理由」とは認められない。

※やむを得ない理由の例

病気、ケガ、天災、公共交通機関の途絶、冠婚葬祭、その他のやむを得ない事情

(令和4年1月より実習出席要件を改定)

イ. 成績評価

授業科目の成績は、試験やレポート課題等を 100 点満点とした点数により採点し、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とし、原則として次のように表示する。

評点	評価	判定	内容
90 点以上	秀	合格	学修到達目標を越えたレベルを達成している
80 点以上	優	合格	学修到達目標を十分に達成している
70 点以上	良	合格	学修到達目標を達成している
60 点以上	可	合格	学修到達目標を最低限達成している
60 点未満	不可	不合格	学習到達目標を達成できていない

なお、科目により、可否のみの評価となることがある。

再試験による成績評価は、最高 60 点を限度として採点する。

臨床実習の評価については、別に定める。

ウ. 試験の種別

・定期試験・随時試験

定期試験は、授業科目を終了するときに行う。ただし、科目により、中間試験等、随時試験を行うことがある。試験日程については、時間割及び各授業科目の予定表を参照。

・第4学年における試験

第4学年では、通常の試験の他に「 Semester試験（臨床実習資格認定試験）」、「共用試験 OSCE・CBT」を実施する。詳細は、資料「名古屋市立大学医学部第4学年の試験に関する一般的な注意事項」を参照。

・卒業試験

第6学年では、卒業試験として、「共用試験 Post-CC OSCE」と「総合客観試験」を行う。総合客観試験については、資料「卒業試験 総合客観試験について」を参照。

・追試験

疾病その他やむを得ない理由により試験当日出席できない者は、追試験を願い出ることができる。担当教員の許可を受けた上で、事務室に「追試験受験願」及び「試験欠席届」を提出すること。その際、欠席の理由を証明する書面を添えること（資料「再（追）試験受験願・試験欠席届」）。

・再試験

試験に不合格となった科目については、担当教員の許可を受けて、再試験受験願を提出することにより、再試験を1回受けることができる（資料「再（追）試験受験願・試験欠席届」）。

エ. 成績疑問票

成績評価について疑問のある場合に、その評価の内容を知ることができる制度である。

成績評価に関して疑問のある学生は、成績発表後1週間以内に、成績疑問票を教育研究課事務室に提出すること。ただし、安易に成績の再考や救済を求める内容のものは提出できない（資料「成績疑問表」）。

学生から提出された成績疑問票は、受け付けてから原則1週間以内に担当教員が回答し、教育研究課事務室に提出される。教育研究課事務室は、提出された回答を速やかに学生に提示する。

オ. 試験における不正行為の禁止

試験にあたっては、以下の点に留意し、試験監督者の指示に従って厳正に受験すること。

- ①学生証を試験監督者が見やすい、机上の場所に置くこと。
※学生証を忘れた場合は、事務室で身分証明書を持参し、臨時の「仮身分証明証」の発行を受ける。
- ②机中には、事前に許可されているものを除き、原則として筆記用具（鉛筆又はシャープペンシル、消しゴム）以外の用具を置いてはいけない。
- ③携帯電話・スマートフォン等の電子機器は必ず電源を切り、収納すること。
- ④遅刻は原則として認められない。交通機関の遅れなど正当な理由がある場合は試験監督者に申し出ること。
- ⑤試験開始後30分経過後は理由の如何にかかわらず入室できない。
- ⑥試験監督者の注意に違反した者には、退場を命ずることがある。

不正行為が発覚した場合は、懲戒処分（戒告、停学、退学）等の対象とする。また、その学年における全ての科目の履修及び成績を無効にする等、相応の措置がとられる。

資料「定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針」

カ. レポート課題作成時の注意

レポートは、自分で調べたことや考えたこと等を自分の文章で記述するものである。他の文献等を調べ学ぶことは非常に重要であるが、それを引用する場合にはルールがある。引用する場合は、引用した部分とそれに関する自分の考えの部分をはっきりと区別して示す必要がある。他人の文章、図表をあたかも自分のオリジナルであるかのように利用することは、「剽窃」（盗作）であり、定期試験等に代わるレポート課題に関しては、「定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針」に基づき、試験におけるカンニングと同様に不正行為とみなされ処分等の対象となる。授業においても指導されるレポート作成に当たってのルールを守ってレポートを提出すること。

(6) 進級要件・卒業要件

ア. 教養教育科目については所定の単位を取得できない者、専門教育科目については各年次で配当された授業科目を1科目でも修得できない者は、進級または卒業できない。

各年次における進級判定・卒業判定の対象科目及び実施時期は、下記のとおりとする。

対象年次	判定の対象となる授業科目	判定時期
1年	1年次に配当される教養教育科目及び専門教育科目	3月
2年	2年次4月～12月の配当科目	12月
3年	2年次1月～3年次12月の配当科目	12月
4年	3年次1月～4年次12月の配当科目及び 共用試験 OSCE・CBT	12月
5年	4年次1月～5年次11月の配当科目 ※	12月
6年	5年次11月～6年次の配当科目及び 卒業試験（共用試験 Post-CC OSCE、総合客観試験）	1月

イ. 臨床実習については、4年次1月～5年次11月を前半、5年次11月～6年次を後半とし、前半が終了した段階で合否判定を行う。合格基準は下記の通り（臨床実習の手引き参照）

ア. 臨床実習前半の診療科をすべて合格していること

イ. 「アンプロフェッショナルな評価・態度のみられた学生の評価と対応」により
原級留置との評価を受けていないこと

不合格となった場合は原級留置となり、下級学年の1月から実習をやり直す。

資料：「アンプロフェッショナルな評価・態度のみられた学生の評価と対応」

ウ. 6年次に原級留置となった場合、臨床実習、共用試験 Post-CC OSCE、総合客観試験などの科目で不合格になったかによるが、判定が出た時点でできるだけ速やかに下級学年の実習に合流することとする。

エ. 原級留置となった場合、専門教育科目については、原則として、当該学年で配当された全科目を再

履修しなければならない。ただし、教授会の議を経て、学部長より指定された科目については再履修を要しない。

オ. 共用試験については、合格していても原級留置となった場合は再受験しなければならない（共用試験結果を次年度に持ち越すことはできない）。

カ. 次に該当する者は除籍となる。

- ①入学あるいは進級後3年に至っても、次年次に進級できない場合
- ②在学年数が入学後8年に至っても、5年次に進級できない場合
- ③在学年数が12年に至っても卒業要件を満たさない場合

(7) 受講態度・講義資料について

- ①授業中は、名古屋市立大学医学部の学生として規律正しい態度で受講すること。
- ②私語、居眠り、途中入室、途中退室等は、他の学生の迷惑となるだけでなく、教員に対しても学生としての礼を欠く行為である。
- ③特に臨床実習では、診療に参加するにあたり患者さんに対して失礼のないよう、身だしなみ等に十分注意すること。
- ④講義資料の撮影、録画、スクリーンショットの保存は禁止とする。必要な場合は教員の許可を得ること。講義資料の無断配布、ネット上への公開も同様に厳禁とする。

(8) 授業評価、学修成果の達成度評価

ア. 学生による授業評価

各授業科目が効果的に実施されているか、学生自身が授業に対し意欲的に取り組んでいるかを評価し、授業科目の改善に役立てるため、授業科目の中間時点、終了時点で「学生による授業評価アンケート」を実施する。学務情報システムを通じて、必ず回答すること。

イ. 学修成果の達成度自己評価

前述のように、医学教育課程は、4領域17項目の卒業時到達目標の獲得に向けて編成されている。学生は、学年が進む中で、自らの能力がどの段階にあるかを確認することが必要である。主に各学年のオリエンテーションの場で、「学修成果の達成度自己評価」を実施する。

(9) 暴風警報発令時等における授業・試験について

ア. 暴風警報・暴風雪警報発令時における授業・試験について

名古屋地方气象台から、「愛知県西部」又は「尾張東部、尾張西部、知多地域、西三河南部、西三河北西部のいずれかの区域」又は「名古屋市」に暴風警報・暴風雪警報が発令された場合の授業・試験についての取り扱いは、以下のとおりとする。

ただし、所属学部又は担当教員から特別な指示がある場合は、この限りではない。電話での問い合わせは受け付けないので、ラジオ・テレビ等の報道で確認のうえ、各自判断すること。

① 授業・試験の開始前に発令された場合

解除の時刻	区分	休講または試験が中止となる時限	授業または試験を行う時限
午前7時まで		なし（開講する）	通常どおり
午前7時から午前10時まで		第1時限及び第2時限	第3時限以降
午前10時すぎ		当日実施予定の全ての時限	実施しません

② 授業・試験の開始後に発令された場合

原則として授業は休講とし、試験は中止とするが、状況によっては続行することもある。
なお、中止となった試験については、各学部の指示に従うこと。

③ 居住地または通学経路内に発令された場合

居住地又は通学経路内に発令されている間は、登校しないこと。

ただし、愛知県西部、尾張東部、尾張西部、知多地域、西三河南部、西三河北西部、名古屋市のいずれにも発令されていなければ、授業・試験は通常どおり行う。

これに該当し、授業・試験を欠席する学生は、「特別欠席届」を後日すみやかに教育研究課事務室に提出するなど所定の手続きを行うこと。欠席した日の気象状況については、日本気象協会ホームページの警報発表履歴で確認する。

④ その他の気象警報が発令された場合

暴風警報・暴風雪警報に限らず、その他の気象警報（大雨警報、大雪警報等）発令時において、学長、副学長等が必要と判断した場合は、授業・試験を中止することがある。その場合の学生への周知は、大学ホームページやポータルサイトより行う。

イ. 公共交通機関運休時の対応について

① 大雨・強風・大雪等の気象状況による公共交通機関の運休の場合

通学経路に係る公共交通機関が運休している場合、無理な登校はしないで下さい。

ただし、愛知県西部、尾張東部、尾張西部、知多地域、西三河南部、西三河北西部、名古屋市のいずれにも暴風警報・暴風雪警報が発令されていなければ、授業・試験は通常どおり行われています。

これに該当し、授業・試験を欠席する学生は、「特別欠席届」を後日すみやかに各学部事務室又は山の畑事務室に提出するなど所定の手続きを行って下さい。その場合、運休の事実を証明する書類が必要となります。

② 交通ストの場合

名古屋市営交通、東海旅客鉄道（JR東海）、名古屋鉄道（名鉄）の3社のうち2社以上がストライキを行った場合の授業・試験の取扱は、「授業・試験の開始前に発令された場合」で掲げた表に準ずるものとします。

③ その他の事由による公共交通機関の運休の場合

事故等により、公共交通機関が運休し、授業・試験に出席できなかった場合は、「大雨・強風・大雪

等の気象状況による公共交通機関の運休の場合」に準じて各学部事務室又は山の畑事務室にて、所定の手続きを行って下さい。

ウ. 「南海トラフ地震に関する情報」が発表された場合における授業・試験等について

平成 29 年 11 月 1 日に「南海トラフ地震に関連する情報」の運用が開始され、これに伴い、現在、東海地震のみに着目した「東海地震に関連する情報」の発表は行われなくなりました。

授業等の実施中に「南海トラフ地震に関する情報」が発表された場合は、大学からの指示に従って行動してください。また、登校前や登校途中の場合は、安全な場所で待機するとともに各自で情報収集に努め、安全を確保してください。

〔参考〕南海トラフ地震に関連する情報の種類と発表条件（気象庁ホームページ）

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/index.html>

「南海トラフ地震に関連する情報」は、南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、この情報の種類と発表条件は以下のとおりです。

情報の種類	情報の発表条件
南海トラフ地震に関連する情報（臨時）	<ul style="list-style-type: none">・南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合・観測された現象を調査した結果、南海トラフ地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合・観測された現象を調査した結果、南海トラフ地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではないと評価された場合
南海トラフ地震に関連する情報（定例）	<ul style="list-style-type: none">・「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合において評価した調査結果を発表する場合

○本情報の運用開始に伴い、東海地震のみに着目した情報（東海地震に関連する情報）の発表は行っていません。

○南海トラフ沿いで異常な現象が観測されず、本情報の発表がないまま、突発的に南海トラフ地震が発生することもあります。

〔参考〕地震発生時の行動について

名古屋市立大学滝子キャンパス「ポケット防災」（滝子キャンパス自主防災委員会作成）

(10) 実習参加資格にかかる抗体検査・ワクチン接種及び保険加入について

ア. 抗体検査・ワクチン接種

医学部では、1 年次から附属病院をはじめ、医療機関での実習を行う。学生自身の感染予防及び患者等への感染拡大防止のため、下記の抗体検査、ワクチン接種を義務付けている。

	実施時期	備考
四種抗体 (麻疹、風疹、 ムンプス、水痘)	1年次	入学前に抗体検査結果を各自実施し、「医薬看連携地域参加型学習」の講義時に検査結果及び過去の接種歴を提出する。抗体がないもしくは基準値に満たない場合は、6月末までに各自ワクチン接種を行った上で、接種記録を事務室に提出する。 ※詳細は入学時資料及びオリエンテーションで指示する。
B型肝炎	2年次	抗体検査の結果、陰性であった場合には、3回の接種及び接種後の抗体検査を行う。検査・接種は医学部で実施する。
結核免疫検査 (T-SPOT)	4年次	結核感染の有無を臨床実習開始前に検査する。検査は医学部で実施する。

また、インフルエンザ予防接種については、接種を推奨する。

イ. 保険加入について

臨床現場等、教育活動中の学生が怪我をしたり、相手に怪我をさせたりする危険がある。また、実習・実験中は針刺し事故などの接触感染のおそれがある。そのような事故に備えて、医学部生には、下記の保険への加入を義務付けている。

傷害保険	学生教育研究災害傷害保険 (学研災)	教育研究活動中に生じた事故によって身体に被る傷害を補償するもの。
	接触感染予防保険金支払特約	臨床実習中の接触感染に対する感染症予防措置を受けた場合の補償。
賠償保険	医学生教育研究賠償保険 (Cコース：医学賠)	教育研究活動中に、他人にケガを負わせた場合、他人の財物を損壊した場合等により、法律上の損害賠償責任を負担することにより被る損害を補償するもの。 ※Cコースは、医療系関連学部での活動を補償

ただし、さらに補償が手厚い保険（学研災付帯学生生活総合保険、大学生協の学生総合共済保険等）への加入を妨げるものではない。

保険に関する手続きは、「学生生活のてびき」と学生課学生支援係、大学生協で確認すること。

ウ. 実習参加要件について

上記ア、イは、医療系実習及び臨床実習の参加要件の一部である。

資料「名古屋市立大学医学部 臨床実習資格基準」「名古屋市立大学医学部 医療系実習参加資格基準」参照のこと。

7. 学生支援・指導体制

(1) 学生委員会・学年担任

医学部では、学生支援のための組織として、「学生委員会」を設置している。

学生委員会は、学生の修学、厚生福祉、保健、課外活動、学生団体、その他の学生生活に関する事項を扱う組織である。学生委員会では、学生からの相談に応じるため、相談窓口となる学年担任を置いている。相談事がある場合は、学年担任へ連絡をとること。

※担当教員の詳細は、オリエンテーション等で周知する。

学生委員会

学年	委員	所属
委員長	1名	副医学部長（教育担当）
精神科教員教員	1名	精神・認知・講堂医学分野教員
各学年担任	各学年2名	基礎系分野教授3名 臨床系分野教授3名 准教授・講師・助教 3名で構成 M1～M3は基礎系分野教員 M4～M6は臨床系分野教員が担当する。

(2) 連絡担当教員制度（M1・M2）

上記の学年担任に合わせて、M1・M2では、学生を4・5名のグループに振り分け、各グループを基礎系分野教員が担当することで、幅広く相談できる体制を整えている。学業や学生生活、将来の方向性など、何か気になることがあれば、決められた担当分野の連絡担当教員に気軽に相談してほしい。

※グループ分け・担当教員は、4月に発表する。

連絡担当教員を担当する基礎系分野

統合解剖学	機能組織学	神経生化学	細胞生化学	細胞生理学
脳神経生理学	実験病態病理学	臨床病態病理学	免疫学	細菌学
薬理学	環境労働衛生学	公衆衛生学	法医学	ウイルス学
病態モデル医学	医学・医療教育学	神経発達症遺伝学	神経毒性学	神経発達・再生医学
認知症科学				

(3) メンター制度（臨床実習学生）

臨床実習に入ったM4・5・6の学生については、「メンター制度」を整備している。メンター制度は、臨床系講師以上の教員が、「臨床実習の相談役」として、学生1～2名を担当し、臨床実習ポートフォリオの評価・指導を通じて、①教員・学生間の信頼関係を深める、②医師としてのロールモデルを示し、学生のプロフェッショナリズム醸成を助ける、③学生の不安を軽減し、学習意欲を高めることを目的としている。

学生は、定められた時期にポートフォリオの内容確認のためメンター教員と面談を行うこと。また、実習中の学習や生活で不安に思うことがあれば、随時メンター教員に相談すること。

※詳細は「臨床実習の手引」を参照すること。

8. その他の学生生活上の案内・注意事項

学生生活上の案内・注意事項については、下記とともに、「学生生活のてびき」を参照すること。

(1) 医学部事務室について

部署名	教育研究課 医療人育成係
場所	桜山キャンパス 医学研究棟 1階
執務時間	平日 8:30～17:00
メールアドレス	medkyomu@sec.nagoya-cu.ac.jp
電話番号	052-853-8545

(2) 学生への連絡方法

- ・以下の連絡方法で、教員・事務室から連絡を行うので、必ず確認すること。
- ・連絡を見なかったことによる不利益は学生の責任となるので、注意すること。

連絡方法	備考
掲示板	・研究棟 1階（事務室前） 事務連絡、授業・試験関係 ・研究棟 2階（ロッカー前） 各種案内 ・基礎教育棟 1階 各種案内
学年代表を通じた連絡	・M2以降は、学年代表（3名）を通じても学年全体へ連絡事項を周知する。学生間での連絡網を構築し参加すること。
学務情報システム	・全学からの一般的な事務連絡、教養教育、一部の専門教育では、学務情報システムを通じて連絡する。
メール連絡	・学生個別の重要な連絡は、大学から付与されたアドレスに連絡する。 < c学籍番号@ed.nagoya-cu.ac.jp > ・学務情報システムで、普段利用しているアドレスへ転送設定する等必ず受信し確認できる環境を整えること。
電話	・緊急時は、直接個人の携帯電話に連絡する場合がある。

(3) 学生から事務室への連絡方法

- ・原則窓口対応とする。
- ・事務室からの連絡に対する返信や緊急の場合は、上記メールアドレス、電話へ連絡すること。
- ・その際、必ず「所属学年、学籍番号、氏名」を伝えること。

(4) 講義室、研修室の利用

- ・自主学習の環境として下表の部屋を使用可能としている。以下を守って利用すること。

- ①利用時間を厳守すること。
- ②共用の学習スペースであることを認識し、学生どうしで譲り合い、節度をもって利用すること。
- ③使用後は、消灯、エアコンの電源を消すなど原状復帰を行うこと。ゴミは持ち帰ること。
- ④授業、試験、団体活動等で利用できない場合がある。
- ⑤部活動等で利用する場合は、他の利用学生に十分配慮すること。

場所	利用時間	備考
基礎教育棟 講義室 1・2・3	平日 講義終了後 24時まで 土日祝日 7時～24時まで	
西棟 3階 研修室 1～12	平日 7時～24時まで 土日祝日 7時～24時まで	病院施設のため、病院スタッフが勤務している。廊下等での私語、スマートフォンの利用等は控えること。

- ・6年生には、医師国家試験対策のため、基礎教育棟5階、厚生会館2階を勉強部屋として貸与している。

(5) ロッカーの利用

- ・各人にロッカーを貸与する。

学年	場所
第1～3学年	基礎教育棟 1階
第4～6学年	研究棟 2階

- ・盗難を防止するため、貴重品は厳重に管理し、必ず各人で鍵を取り付けること。
- ・整理整頓を心がけること。放置されている物品は予告なく処分することがある。
- ・各人の責による破損等は、学生の負担により原状復帰をする必要がある。
- ・第6学年の卒業後に、第3学年の学生のロッカー移動を行う。

(6) 学内無線 LAN (ncuwifi)

以下の場所で利用可能である。接続方法は、大学ホームページで確認すること。

	設置場所
基礎教育棟	1階 ロビー
	2階 講義室 1・2
	5階 講義室 3、M6 勉強部屋
研究棟	1階 ロビー
	11階 講義室 A・B
西棟	1階 シミュレーションセンター 多目的室、周産期・新生児室、研修室 1、内視鏡室、模擬病室
	3階 研修室 1～12、多目的研修室

(令和3年9月現在)

※厚生会館食堂は、キャリアの無線 LAN が利用可能

(7) 学生自治会・学生代表委員会について

医学部学生の自治組織として、「医学部学生代表委員会」がある。医学部学生全員を構成員として、学生間の交流を深め、大学教職員と連携してよりよい学生生活を送るための活動を行うものである。

医学教育に関しては、学生代表委員のカリキュラム担当学生が、医学部の教務委員会（カリキュラム企画・運営委員会）に委員として参加し、学生目線から教職員と連携して医学教育の改革に取り組む体制としている。

資料：名古屋市立大学医学部学生代表委員会規約 参照

(8) 住所・氏名等の変更

- ・住所、氏名、電話番号、メールアドレス等が変更になった場合は、学務情報システム上で更新すること。

- ・氏名が変更になった場合は「改正（名）届」を記入し、戸籍抄本等とともに提出すること。

(9) 学生証について

- ・常に携行すること。詳細は「学生生活のてびき」参照。
- ・紛失した場合の再発行の手続は、学生課学生支援係（滝子キャンパス3号館1F）にて行う。

(10) 証明書、学割の発行について

各種証明書、学割は、総合情報センター川澄分館（図書館）1階に設置されている「証明書自動発行機」で発行できる。

発行可能な証明書	
在学証明書	
学業成績証明書	
卒業見込証明書	※第6学年のみ
学割証	
健康診断受検証明書	

※自動発行機のメンテナンス等で自動発行できない場合は、教育研究課窓口で対応する。

事務室で発行する場合は即時発行ができないため、余裕をもって申請すること。

(11) 駐輪許可登録

医学部生が桜山キャンパスに自転車で通学する場合は、駐輪許可が必要である。事務室で申請を行い、許可シールを自転車に貼り付けること。他学部生は原則として許可シールの発行はできない。

(12) 休学・復学・退学

休学	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病その他の理由で3ヶ月以上就学が困難な状況が見込まれる場合は、「休学届」（疾病による場合は診断書の添付が必要）を記入作成の上、事務室へ提出し、学長の許可を得る必要がある。 ・休学期間は在学年数には参入されない。 ・休学できる期間は、通算して3年である。 ・なお、休学にあたっては、事前に学生委員と面談し、休学の理由および休学によって生じる修学上の問題について十分に相談する必要がある。
復学	<ul style="list-style-type: none"> ・休学している学生が、休学許可期間の途中または満了時に復学を希望する場合は、復学願を事務室へ提出すること。
退学	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病その他の理由で学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、「休学届」を記入作成の上、事務室へ提出し、学長の許可を得る必要がある。 ・退学にあたっては、事前に学生委員と面談し、退学理由、将来の進路等について十分に相談すること。

(13) 遺失物・拾得物

- ・学内での遺失物に関する問い合わせ、拾得物の届出は、下記防災センターに問い合わせること。
 - ①医学部防災センター 研究棟1階
 - ②病院防災センター 附属病院中央診療棟 1階

(14) 自家用車の乗入れの禁止

- ・学生が、自家用車で桜山キャンパス内に乗り入れることは厳禁とする。

9. 専門教育科目の内容

(1) 1 年次

開講年度	2022年度
科目名	総合医学コース・医学入門ユニット
専門・教養	専門
担当教員	
講義期間・曜日・時限	

授業目的・目標	医師は科学者であり、その仕事は、病気に苦しむ患者さんの精神的・肉体的な治療にとどまらず、その発症の予防法や原因の探究、医療制度の改革、ヒトを含む生物の真理探究など、考える以上にそのカバーする領域は広く、M1学生は卒業後に様々な分野で活躍することが期待されている。活躍する人材には、その基盤となる分子生物学を含む知識と人間力が求められる。本コースでは、分子生物学の基礎知識の一部を学ぶとともに、様々な分野の第一線で活躍中の医師から、その仕事の内容を学び、また将来に対するアドバイスをいただき、“将来どんな医者として社会貢献していくのか”を考えるキャリアパスのための講義である。特に、各分野で活躍する医師の“人柄”を感じていただき、人間力を磨ききっかけとしていただきたい。
キーワード	医療制度、禁煙教育、矯正医療、キャリアパス、分子生物医学の基礎
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1d, 2a, 2e, 3a, 3c, 4a, 4d
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 講義内容の分子生物学基礎と医学知識を理解できる。 第一線で活躍する医師の仕事の学び、共通する“人柄”を感じ人間力を高めるきっかけとする。 基本的な医学専門用語を日本語・英語で理解し、正確に記載できる。 【該当するモデルコアカリキュラム】 A-1), A-2), A-6), A-7), A-9), B-1-4), B-1-5), B-1-7), B-1-8), B-1-9), B-4-1), C-5-8), D-9, E-2
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	講義テーマごとの講義
授業計画	理事長／学長、医学研究科長・病院長経験者、厚労省医系技官、男女共同参画関連委員会経験者、病院長経験者を含む、各分野の第一線で活躍中の医師によるその専門分野の紹介、その仕事内容と経験に基づくM1学生へのメッセージを含んだ総合講義、分子生物学の基本を理解する講義を行う。 また、性行為感染症、タバコの害、Basic Life Supportなどの医学生として知っておくべき内容の講義も実施する。 さらに、英語化されたグローバル時代に対応すべく医学英語の課題を自主学習し、単語試験により確認する。
授業時間外の学修（準備学習を含む）	
成績評価方法	70%以上の出席をもって本試験を受験することができる。ただし欠席・遅刻の場合には事前連絡すること。正当な理由なく欠席・遅刻の場合には本試験の受験資格を与えない。また、本試験に先立ち英単語試験を実施し、95%以上の得点をもって本試験の受験資格者とする。また復習試験も随時実施し、良好な成績者は本試験を免除する。本試験は、講義内容の理解度と自己学習能を論述試験から判定する。
教科書・テキスト	大学生の生物学2（分子生物学）
参考文献	
履修上の注意事項	初回の講義で全体のオリエンテーションを行い、その際に単語試験用の課題を提示する。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	各講義の内容について、自主勉強が求められる
連絡先・オフィスアワー	連絡先：医学研究棟7階 脳神経生理学 飛田秀樹 電話： 052-853-8134 メールアドレス：hhida@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	「医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。」
備考	試験は教養試験期間とは別に行う、日程は改めて1月下旬に知らせる
関連URL	

2022年度 第1学年

医学入門ユニット 担当教員

所属・職名

氏名

脳神経生理学・教授

飛田 秀樹

担当教員、日程については、後日通知する。

月	日	曜日	時限	内容 (仮題)	担当者
9	30	金	1		
		金	2		
10	7	金	1		
		金	2		
10	14	金	1		
		金	2		
10	28	金	1		
		金	2		
11	4	金	1		
		金	2		
11	11	金	1		
		金	2		
11	18	金	1		
		金	2		
11	25	金	1		
		金	2		
12	2	金	1		
		金	2		
12	9	金	1		
		金	2		
12	16	金	1		
		金	2		
12	23	金	1		
		金	2		
1	6	金	1		
		金	2		
1	13	金	1		
		金	2		
1	20	金	1		
		金	2		
1	27	金	1		
		金	2		

開講年度	2022年度
科目名	医学情報学
専門・教養	専門
担当教員	佐藤泰正（大須病院院長、内科）、井出政芳（北津島病院内科）、片野広之（医学医療情報管理理学准教授、情報管理教育センター、脳神経外科）、早川富博（厚生連足助病院名誉院長、内科）、岸 真司（日赤愛知医療センター名古屋第二病院医療情報管理センター長、小児科）、宮治 真（客員教授、内科）、佐野芳彦（作曲家、ト・ヘン取締役）＜順不同・敬称略＞
講義期間・曜日・時限	2023/2/6-14、月・火曜日3、4限

授業目的・目標	医学とは、疾病の予防・診断および治療を目的として、研究を行う学問である。このために医学は多くの情報を収集し意志決定を行うという情報処理過程を含んでいる。この意味において、基礎医学、臨床医学、社会医学を問わず、医学にはその基盤として情報科学が存在する。この情報科学は、一般の情報科学の医学的応用にとどまらず、医学と一体となってその基礎を形作っている固有の科学である。この科学が「医学情報学」と呼ばれている。「医学情報学」を理解することにより、専門化が進んだ医学・医療の総合化と、医療を行う上での効率化に貢献し、医学・医療の中で必要とされるあらゆる意志決定の基礎を涵養できる。
キーワード	情報管理/保険制度/カルテ論/機械学習/地域医療/解の探索/医療過誤
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域I-b, c, d, II-a, d, e, III-c, d, IV-a, d
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医学・医療情報管理学（医学情報学）の基本理念と概略を総論として理解できる。 ・将来の医療の担い手として必要な情報の入手、管理、利用および提供などに関する知識、実務、倫理を医学情報学の基礎として習得する。 ・また、実際の臨床現場での応用について、診療情報の扱い方（I-b, c, II-d）、地域医療（III-d, B-1-7）、保険制度（III-c, B-1-8）などを含め様々なテーマから習得する。 <p>【該当するモデルコアカリキュラム】 B-1-7 B-1-8</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<p>1年後期 16時間</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学・医療情報管理学（医学情報学）総論 2. 医学情報学の基礎と応用 <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ・保険制度 ・記号論・知識ベース・地域医療・遺伝的アルゴリズム・医用画像情報 ・医療過誤・音情報・ユニバーサルデザイン
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、下記参考文献などの関連箇所を参考に該箇所を予習した上で、講義に臨むこと。また、各講義の感想、自分の意見などを400字程度にまとめたものを提出すること（小レポート、出席点 5x8=40）。
成績評価方法	講義は出席度、参加態度、質問頻度、質問内容および出席後の小レポートの提出、内容などで評価する（配分40%）。全講義終了後の医学情報に関する本レポート（テーマは自由選択。講義で扱ったテーマや、その他医学情報学に関するものであれば可。A4で3枚程度。配分60%）は単位認定試験の代替として医学部履修規程第15条に準ずる。レポートは内容の妥当性、独自性、適切な文献・資料の引用、自分の意見・論理の展開などで評価する。なお、講義中の私語など授業態度不良者、および指定したレポート提出期限を守らない者はすべて単位認定不可とする。
教科書・テキスト	特に指定しない
参考文献	医療情報「医学・医療編」「医療情報システム編」「情報処理技術編」日本医療情報学会 篠原出版新社
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。講義内容変更あり得るので、掲示に注意。講義中私語は厳禁。（守れない者は退室させる。授業態度不良者は単位認定不可とする。）
履修者への要望事項	特になし。
アクティブ・ラーニング	最後に学生と各講師との質疑応答・意見交換（ディベート）を行うので、積極的に発言すること。
連絡先・オフィスアワー	平日9-17時、8286（脳神経外科医局、片野） eメール med-info@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	主に医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

2022年度 第1学年

医学情報学 担当教員(順不同)

所属・職名	氏名
大須病院院長、内科	佐藤泰正
厚生連足助病院院長、内科	早川富博
医学医療情報管理学准教授、脳神経外科	片野広之
回精会 北津島病院 内科	井出政芳
名古屋第二赤十字病院医療情報部長、小児科	岸 真司
作曲家、ト・ヘン取締役	佐野芳彦

R5(2023)年 医学情報学授業計画(予定*)

月	日	曜日	時限	内 容(仮)	担当者(敬称略)
2023.2	6	月	3	医学情報学総論・情報セキュリティ	片野広之
2	6	月	4	中山間部医療・医療福祉とICT	早川富博
2	7	火	3	医療記号論とエスノメソドロジー	井出政芳
2	7	火	4	クリニカル・パス	片野広之
2	13	月	3	解の探索(遺伝的アルゴリズム)	岸 真司
2	13	月	4	知識ベース・高血圧処方支援システム～機械学習	佐藤泰正
2	14	火	3	医療保険制度	片野広之
2	14	火	4	音楽のユニヴァーサルデザイン	佐野芳彦

2023.2.6-14 第3限 13:00-14:30 第4限 14:40-16:10

講義会場: 病院3階大ホール

* 講義内容変更あり得ますので、掲示に注意してください。

** 講義中私語厳禁。守れない人は退出させます。

(2) 基礎医学 (2 年次 4 月～12 月)

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	解剖学コース・肉眼解剖学ユニット／組織学・発生学・神経解剖学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	植木孝俊、井上浩一、佐久間英輔、菊島健児、森本浩之（以上、解剖学1） 鶴川眞也、植田高史、熊本奈都子、柴田泰宏、島田昌一、池田一雄、石田雄介（以上、解剖学2）
講義期間・曜日・時限	解剖学講義および実習予定表を参照

授業目的・目標	<p>【授業目的】解剖学の目的は、生物の構造を明らかにし、形態の上から生命の本態を追及することにある。主に肉眼によって剖出と観察を行う「肉眼解剖学（系統解剖学）」と、顕微鏡を用いて人体の微細な構造を明らかにする「顕微解剖学（組織学）」とに分けられ、両方を学ぶ必要がある。さらに、人体の発生・成熟過程を扱う「発生学」も学ぶ必要がある。</p> <p>【授業目標】医学部における解剖学の講義は、主として、人体に関する解剖学「人体解剖学」を中心に行われる。人体の構造・発生に関して、巨視的、微視的に説明できるようにする。</p>																
キーワード	肉眼解剖学、骨学、組織学、発生学、神経解剖学																
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域Ia、Ic、Id																
学習到達目標	<p>近年、新しい研究方法の導入によって、解剖学の上に新しい知識が限りなく加えられつつある。特に、超微細構造の研究は、細胞生物学を中心とする生化学分野での研究領域拡大と相まって、生体内における諸種構造の機能的意義の解明を一層促進しており、今日では、形態と機能を互いに分離して論ずることは不可能である。解剖学では、新しい研究の成果は歴史的に築き上げられた膨大な基礎的事実の上に付加され、その結果、解剖学の講義内容は日ごとに増加している。しかも、それらは、学生が自ら解剖し、あるいは検鏡し、よく考えることによってはじめて生きた知識となるのであって、解剖学を正しく理解するには、ただ単に各部位の名称を受動的に暗記するのではなく、人体の精巧な構造に興味を抱き、探究心に導かれた自主的な学習態度が必要である。</p> <p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞の基本構造を説明できる。 2. 各組織・各臓器の構造と位置関係を肉眼レベル、光学顕微鏡レベル、電子顕微鏡レベルで説明できる。 3. 個体と器官が形成される発生過程を説明できる。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】</p> <p>C-1-1、C-2、D-1-1、D-2-1、D-3-1、D-4-1、D-5-1、D-6-1、D-7-1、D-8-1、D-9-1、D-10-1、D-11-1、D-12-1、D-13-1、D-14-1、E-7-1</p>																
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>																
授業概要	<p>（講義）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 序論</td> <td>2. 発生学</td> <td>3. 組織学総論</td> <td>4. 運動器系</td> </tr> <tr> <td>5. 循環器系</td> <td>6. 消化器系</td> <td>7. 呼吸器系</td> <td>8. 泌尿生殖器系</td> </tr> <tr> <td>9. 内分泌系</td> <td>10. 神経系</td> <td>11. 感覚器系</td> <td></td> </tr> </table> <p>（実習）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 肉眼解剖学実習</td> <td>2. 骨学実習</td> <td>3. 組織学実習</td> <td>4. 脳実習</td> </tr> </table>	1. 序論	2. 発生学	3. 組織学総論	4. 運動器系	5. 循環器系	6. 消化器系	7. 呼吸器系	8. 泌尿生殖器系	9. 内分泌系	10. 神経系	11. 感覚器系		1. 肉眼解剖学実習	2. 骨学実習	3. 組織学実習	4. 脳実習
1. 序論	2. 発生学	3. 組織学総論	4. 運動器系														
5. 循環器系	6. 消化器系	7. 呼吸器系	8. 泌尿生殖器系														
9. 内分泌系	10. 神経系	11. 感覚器系															
1. 肉眼解剖学実習	2. 骨学実習	3. 組織学実習	4. 脳実習														
授業計画	解剖学講義および実習予定表を参照のこと。第1回目の授業において、予習・復習について指示するので、その指示に従うこと。																
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、参考図書該当箇所を予習してから講義に臨むこと。神経解剖学の教科書に関しては、間違った記述も散見されるので、最低3種類は目を通すことが望ましい。																
成績評価方法	定期試験100%であるが、必要に応じてレポートを追加する場合がある。授業・実習への出席回数、授業態度等も考慮する。																
教科書・テキスト	<p>（解剖学、肉眼解剖学実習、骨学実習）</p> <p>教科書 解剖学講義 伊藤著（南山堂） 解剖実習の手びき 寺田春水・藤田恒夫著（南山堂） 骨学の手びき 中野隆著（南山堂） ネット解剖学アトラス 原書第6版 または 同電子書籍付セット版（ともに南山堂）</p> <p>参考書 イラスト解剖学（第10版） 松村謙児著（中外医学社）</p> <p>（発生学）</p> <p>MOORE人体発生学（第8版）：K.L.Moore・T.V.N.Persaud 著 瀬口春道ら 訳（医歯薬出版） ラングマン人体発生学（第11版）：T.W.Sadler 著 安田峯生ら 訳（医学書院） ギルバート発生生物学：Scott F.Gilbert 著 阿形清和・高橋淑子 監訳（MEDSI）</p> <p>（神経解剖学）</p> <p>神経解剖学講義ノート：寺島俊雄 著（金芳堂） マーティン神経解剖学 ― テキストとアトラス（第4版）：野村 峻ら 監訳（西村書店） ハインズ神経解剖学アトラス（第5版）：Duane E. Haines 著 佐藤二美 訳（MEDSI） 機能解剖で斬る神経系疾患（第2版）：中野 隆 編著（メディカルプレス）</p> <p>（組織学）</p> <p>標準組織学（総論・各論）（第5版）：藤田尚男・藤田恒夫 著（医学書院） 現代の組織学（改訂第3版）：山田安正 著（金原出版） 新編カラーアトラス組織・細胞学：岩永敏彦・木村俊介・小林純子 著（医歯薬出版） ジュンケイラ組織学（第5版）：坂井健雄・川上速人 監訳（丸善出版） 組織細胞生物学（原書第3版）：内山安男 翻訳（南山堂）</p>																
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。																
履修上の注意事項																	
履修者への要望事項	特にありません。																
アクティブ・ラーニング																	
連絡先・オフィスアワー	月～金 8：45～17：15（事前に連絡すること） 電話：853-8121（解剖学1/統合解剖学 植木）、853-8126（解剖学2/機能組織学 鶴川）																
実務経験を活かした教育の取組																	
備考																	
関連URL																	

2022年4月～2022年12月 第2学年

解剖学コース 肉眼解剖学ユニット 担当教員

所属・職名
 統合解剖学分野 教授
 統合解剖学分野 准教授
 統合解剖学分野 講師
 統合解剖学分野 講師
 統合解剖学分野 博士研究員

氏名
 植木 孝俊
 井上 浩一
 佐久間 英輔
 菊島 健児
 森本 浩之

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	6	水	3	上肢1	佐久間
	7	木	3	上肢2	井上
	12	火	3	上肢3・下肢1	井上
	13	水	3	下肢2	井上
	14	木	3	下肢3	森本
	19	火	3	背部	井上
	20	水	3	胸部1 (呼吸器系の解剖学・組織学)	井上
	21	木	3	頭頸部	井上
	22	金	3	胸部2 (循環器系の解剖学・組織学)	井上
	23	土	3	胸部3 (")	井上
	24	日	3	骨盤部1 (生殖器系の解剖学・組織学)	菊島
	25	月	3	骨盤部2 (")	菊島
	26	火	3	骨学実習1 (組織学実習室)	全教員
	27	水	3	骨学実習2 (")	全教員
	28	木	3	腹部1 (内分泌系の解剖学・組織学)	菊島
	29	金	3	腹部2 (消化器系の解剖学・組織学)	植木
	30	土	3	腹部3 (")	植木
	31	日	3	腹部4 (泌尿器系の解剖学・組織学)	植木
	1	月	3・4	肉眼解剖学実習1 (以降、解剖学実習室)	全教員
	2	火	3・4	肉眼解剖学実習2	全教員
5	6	金	3・4	肉眼解剖学実習3	全教員
	10	火	3・4	肉眼解剖学実習4	全教員
	11	水	3・4	肉眼解剖学実習5	全教員
	13	金	3・4	肉眼解剖学実習6	全教員
	17	火	3・4	肉眼解剖学実習7	全教員
	18	水	3・4	肉眼解剖学実習8	全教員
	19	木	3・4	肉眼解剖学実習9	全教員
	20	金	3・4	肉眼解剖学実習10	全教員
	24	火	3・4	肉眼解剖学実習11	全教員
	25	水	3・4	肉眼解剖学実習12	全教員
	26	木	3・4	肉眼解剖学実習13	全教員
	27	金	3・4	肉眼解剖学実習14	全教員
	31	火	3・4	肉眼解剖学実習15	全教員
6	1	水	3・4	肉眼解剖学実習16	全教員
	2	木	3・4	肉眼解剖学実習17	全教員
	3	金	3・4	肉眼解剖学実習18	全教員
	7	火	3・4	肉眼解剖学実習19	全教員
	8	水	3・4	肉眼解剖学実習20	全教員
	9	木	3・4	肉眼解剖学実習21	全教員
	10	金	3・4	肉眼解剖学実習22	全教員
	14	火	3・4	肉眼解剖学実習23	全教員
	15	水	3・4	肉眼解剖学実習24	全教員
	16	木	3・4	肉眼解剖学実習25	全教員
	17	金	3・4	肉眼解剖学実習26	全教員
	21	火	3・4	肉眼解剖学実習27	全教員
	22	水	3・4	肉眼解剖学実習28	全教員
	23	木	3・4	肉眼解剖学実習29	全教員
	28	火	3・4	肉眼解剖学実習30	全教員
	29	水	3・4	肉眼解剖学実習31(脳実習)	(解剖学2教員)
	30	木	3・4	肉眼解剖学実習32(")	(")
7	1	金	3・4	肉眼解剖学実習33(納棺)	全教員
	11	月	1・2	解剖学1本試験	全教員
10	18	火	午後	解剖感謝式	全教員
11	21	月	3・4	解剖学1再試験	全教員

2022年4月～2022年12月 第2学年

組織学・発生学・神経解剖学ユニット 担当教員

所属・職名
 機能組織学分野 教授
 機能組織学分野 准教授
 機能組織学分野 講師
 機能組織学分野 助教
 大阪大学大学院 医学系研究科 教授
 大阪市立(公立)大学大学院 医学研究科 教授
 東北医科薬科大学 医学部 教授

氏名
 鵜川 真也
 植田 高史
 熊本 奈都子
 柴田 泰宏
 島田 昌一
 池田 一雄
 石田 雄介

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	6	水	1・2	組織学総論(1)・(2)	柴田 泰宏
	7	木	1	組織学総論(3)	柴田 泰宏
	7	木	2	組織学総論(4)	熊本 奈都子
	8	金	1・2	組織学実習(1)	全教員
	13	水	1	神経解剖学(1)	熊本 奈都子
	13	水	2	感覚器(1)	熊本 奈都子
	14	木	1	発生学総論(1)	植田 高史
	14	木	2	神経解剖学(2)	鵜川 真也
	15	金	1・2	組織学実習(2)	全教員
	20	水	1	発生学総論(2)	植田 高史
	20	水	2	神経解剖学(3)	鵜川 真也
	21	木	1	発生学各論(1)	植田 高史
	21	木	2	神経解剖学(4)	鵜川 真也
	22	金	1・2	組織学実習(3)	全教員
	27	水	1	発生学各論(2)	植田 高史
	27	水	2	神経解剖学(5)	鵜川 真也
	28	木	1	感覚器(2)	鵜川 真也
	28	木	2	神経解剖学(6)	鵜川 真也
5	6	金	1・2	組織学実習(4)	全教員
	11	水	1・2	感覚器(3)・(4)	石田 雄介
	13	金	1・2	組織学実習(5)	全教員
	18	水	1・2	神経解剖学(7)・(8)	島田 昌一
	20	金	1・2	組織学実習(6)	全教員
	25	水	1	発生学各論(3)	植田 高史
	25	水	2	神経解剖学(9)	鵜川 真也
	27	金	1・2	組織学実習(7)	全教員
6	1	水	1	発生学各論(4)	植田 高史
	1	水	2	神経解剖学(10)	鵜川 真也
	3	金	1・2	組織学実習(8)	全教員
	8	水	1・2	組織学実習(9)	全教員
	10	金	1・2	組織学実習(10)	全教員
	15	水	1・2	組織学実習(11)	全教員
	17	金	1・2	組織学実習(12)	全教員
	22	水	1・2	組織学実習(13)	全教員
	24	金	1・2	組織学実習(14)	全教員
	28	火	3・4	肉眼解剖学実習(30)	全教員
	29	水	3・4	肉眼解剖学実習(31)	全教員
	30	木	3・4	肉眼解剖学実習(32)	全教員
7	6	水	1・2	組織学実習(15)	全教員
	7	木	3・4	組織学実習(16)	全教員
	13	水	1・2	組織学実習(17)	全教員
	14	木	3・4	組織学実習(18)	全教員
	20	水	1・2	組織学実習(19)	全教員
	27	水	AM	組織学総論・各論・実習試験	全教員
9	2	金	3・4	中間試験	全教員
10	3	月	3・4	本試験	全教員
	18	火	PM	解剖感謝式	
11	28	月	3・4	再試験	全教員

開講年度	2022年度
科目名	生化学コース・物質と代謝／分子と細胞ユニット
専門・教養	専門
担当教員	1) 物質と代謝ユニット：(医学部)道川 誠、加藤洋一、鄭 且均、鄒 鞏、辻田麻紀 非常勤講師：(国立長寿医療研究センター)里 直行、渡辺 研 2) 分子と細胞ユニット：(医学部)加藤洋一、嶋田逸誠、二宮裕将、橋本 寛、今井優樹、志馬寛明 非常勤講師：(医学部)岡本 尚、(東京大学)中西 真、(愛知県医療療育総合センター)中西圭子、(岐阜医療科学大学)石黒啓司
講義期間・曜日・時限	生化学講義および実習予定表を参照

授業目的・目標	1) 細胞を構成する細胞膜、細胞小器官の構造と機能を理解するとともに、遺伝子からタンパク質への流れに基づく生命現象を学び、遺伝子工学の手法と応用やヒトゲノムの解析を理解する。 2) 細胞の共通の属性である細胞周期、細胞骨格、タンパク質および脂質の細胞内輸送、さらには神経細胞等の特殊分化した細胞機能を理解する。さらに、細胞表面から核内にいる情報伝達経路について詳細な分子機構を理解する。 3) 生体における糖質・脂質・タンパク質、酵素、ビタミン等の物質の構造と機能を学び、さらにこれらがどのように代謝と呼ばれる、合成・分解・変換の反応を受け、エネルギーを発生させ、生体の機能を発現させるのかを理解する。	
キーワード	細胞膜、細胞小器官、遺伝子、細胞周期、代謝、糖質、脂質、タンパク質、酵素、ビタミン	
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー)との関連	領域1a, 1c, 1d	
学習到達目標	<p>【細胞の構造と機能 (C-1-1, C-2-1)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 細胞の構造と細胞小器官の機能を説明できる。 2) 細胞内のエネルギー変換を説明できる。 3) 細胞骨格の構造と機能を概説できる。 4) アクチンフィラメント系による細胞運動を説明できる。 5) 細胞同士の接着と結合様式を説明できる。 6) 細胞膜の構造と細胞膜を介する物質の能動・受動輸送過程を概説できる。 7) 細胞膜を介する分泌と吸収の過程を説明できる。 8) 細胞内輸送システムを説明できる。 9) 受容体を介する細胞内シグナル伝達の過程と機能を概説できる。 10) 細胞周期と細胞死の過程を概説できる。 <p>【遺伝的多様性と疾患 (C-4-1)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Mendel の法則、ミトコンドリア遺伝、インプリンティング及び多因子遺伝の説明、ならびに遺伝型と表現型の関係を説明できる。 2) 染色体の構造を概説し、ゲノムと染色体及び遺伝子の構造と関係性、体細胞分裂及び減数分裂における染色体の挙動を説明できる。 3) 遺伝病についてその遺伝形式と病因を説明できる。 4) デオキシリボ核酸< DNA>からリボ核酸<RNA>への転写、タンパク質合成に至る翻訳を含む遺伝情報の発現及び調節 (セントラルドグマ) を説明できる。 5) デオキシリボ核酸の複製と修復を概説できる。 6) 体分析・DNA配列決定を含むゲノム解析技術を概説できる。 <p>【生体物質の代謝 (C-2-5)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 酵素の機能と調節を説明できる。 2) 解糖の経路と調節機構を説明できる。 3) クエン酸回路を説明できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 4) 電子伝達系と酸化的リン酸化を説明できる。 5) 糖新生の経路と調節機構を説明できる。 6) グリコーゲンの合成と分解の経路を説明できる。 7) 五炭糖リン酸回路の意義を説明できる。 8) 脂質の合成と分解を説明できる。 9) リポタンパクの構造と代謝を説明できる。 10) タンパク質の合成と分解を説明できる。 11) アミノ酸の異化と尿素合成の経路を概説できる。 12) ヘム・ホルフィリンの代謝を説明できる。 13) スクレオチドの合成・異化・再利用経路を説明できる。 14) 酸化ストレス (フリーラジカル、活性酸素) の発生と作用を説明できる。 15) ビタミンの種類と作用を説明できる。 16) エネルギー代謝 (エネルギーの定義、食品中のエネルギー値、エネルギー消費量、推定エネルギー必要量) を理解し、空腹 (飢餓) 時、食後 (過食時) と運動時における代謝を説明できる。 <p>【代謝障害 (C-4-3)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 糖、タンパク質・アミノ酸、脂質代謝異常の病態を説明できる。 2) 核酸・スクレオチド代謝異常の病態を説明できる。 3) ビタミン、微量元素の代謝異常の病態を説明できる。 4) 肥満に起因する代謝障害の病態を説明できる。 <p>【加齢と老化 (E-8)】</p> <p>加齢と老化によって伴う神経変性疾患であるアルツハイマー病を説明できる。</p>
成績評価基準	秀：90点以上 (学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上 (学修到達目標を十分に達成している) 良：70点以上 (学修到達目標を達成している) 可：60点以上 (学修到達目標を最低限達成している)	
授業概要	1. 細胞の構造と機能 (C-1-1, C-2-1) 2. 遺伝的多様性と疾患 (C-4-1) 3. 生体物質の代謝 (C-2-5) 4. 代謝障害 (C-4-3) 5. 加齢と老化 (E-8)	
授業計画	1) 物質と代謝ユニット：ガイドス1、タンパク質7、糖質8、脂質6、酵素3、生体酸化2、ビタミン3、スクレオチド代謝1。 2) 分子と細胞ユニット：総論2、核酸1、遺伝学1、DNA複製1、染色体分配1、DNA修復1、転写と遺伝子発現2、RNAエディティング・マイクロRNA1、翻訳2、ゲノム科学1、バイオインフォマティクス1、膜輸送1、細胞内輸送2、細胞間情報伝達2、エネルギー変換1、細胞骨格1、細胞周期1、免疫基礎2、実験技術1、疾患4、学生発表4。 ※講義の一部を学生による講義形式の発表とし、相互に研鑽した内容について質疑を行う。 また、論文抄読により学生が自ら研鑽・理解した内容につきディスカッションする。	
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	
成績評価方法	各ユニットごとに、筆記試験、実習口頭試問、実習レポートにより総合判定し、60%の理解度を達成したものを合格とする。	
教科書・テキスト	(物質と代謝) ハーバー・生化学 丸善出版事業部 デブリン生化学-臨床的理解のために 丸善出版事業部 レーニンジャー・新化学 廣川書店 ヴォート・生化学 東京化学同人 ストライヤー生化学 東京化学同人 イラストレイテッド生化学 丸善出版事業部	(分子と細胞) 細胞の分子生物学 (ニュートンプレス) 診療・研究にダイレクトにつながる遺伝医学 羊土社
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。	
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。	
履修者への要望事項	生化学は、分子生物学を含む広範な領域をカバーしているため暗記中心では対応できない。内容の理解を第一に、理解できないことは積極的に教員に質問すること。	
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。	
連絡先・オフィスアワー	月～金 8:45-17:15 (事前に連絡すること) Tel:853-8139 (神経生化学) 853-8146 (細胞生化学)	
実務経験を活かした教育の取組		
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。授業時間外の学習については、講義内容を十分に理解するために、配布されたプリントや上に記載したテキスト等にあたり、授業に関連した箇所を振り下げて学習すること。	
関連URL		

生化学コース 物質と代謝ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 神経生化学分野・教授	道川 誠
医学研究科 細胞生化学分野・教授	加藤 洋一
医学研究科 神経生化学分野・准教授	鄭 且均
医学研究科 神経生化学分野・准教授	鄒 鶴
医学研究科 神経生化学分野・講師	辻田 麻紀
国立長寿医療研究センター・客員教授	里 直行
国立長寿医療研究センター・客員教授	渡辺 研

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	11	月	3	ガイダンス	道川
4	11	月	4	酵素1(酵素の分子構造と機能、レーニンジャー新生物化学第5版(上)、p267-p283参考、授業日までに予習しておく)	鄭
4	12	火	1	脂質1(リッピンコット・イラストレイテッド生化学(LC), 15章)	辻田
4	12	火	2	糖質1(代謝概観と糖質の消化・吸収、カラー生化学p315-323、イラストレイテッド生化学p101-107)	鄒
4	18	月	3	糖質2(解糖、イラストレイテッド生化学p111-131)	鄒
4	19	火	1	タンパク質1(アミノ酸とペプチド、タンパク質の構造)	道川
4	19	火	2	酵素2(酵素の反応速度と阻害物質1、レーニンジャー新生物化学第5版(上)、p283-p338参考、授業日までに予習しておく)	鄭
4	25	月	3	糖質3(TCA回路、イラストレイテッド生化学p133-141、p89-95)	鄒
4	25	月	4	脂質2(ハーパー・イラストレイテッド生化学(IH), 22,23,25章)(LC, 16章)	辻田
4	26	火	1	タンパク質2(タンパク質の分離・精製・解析法)	道川
4	26	火	2	酵素3(酵素の反応速度と阻害物質2、レーニンジャー新生物化学第5版(上)、p283-p338参考、授業日までに予習しておく)	鄭
5	9	月	3	糖質4(糖新生と血糖の調節、イラストレイテッド生化学p146-153、ハーパー生化学p194-203)	鄒
5	9	月	4	脂質3(LC, 16章)(IH, 22, 23章)	辻田
5	10	火	1	タンパク質3(アミノ酸、タンパク質の合成、輸送)	道川
5	10	火	2	ビタミン1(ビタミン一般論、ハーパー生化学第30版、p633-p653、授業日までに予習しておく)	鄭
5	12	木	1	タンパク質4(タンパク質の機能1)	渡辺(客員教授)
5	12	木	2	糖質5(グリコーゲン代謝と単糖、二糖の代謝、イラストレイテッド生化学p155-177)	鄒
5	16	月	3	糖質6(ペントースリン酸経路とNAPDH、イラストレイテッド生化学p179-191)	鄒
5	17	火	1	タンパク質5(タンパク質の機能2)	道川
5	17	火	2	ビタミン2(水溶性ビタミン、ハーパー生化学第30版、p633-p653、授業日までに予習しておく)	鄭
5	19	木	1	生体酸化1(医科生化学 4章1-4)	辻田
5	19	木	2	ヌクレオチド代謝	加藤
5	23	月	3	糖質7(グリコサミノグリカン、イラストレイテッド生化学p193-201)	鄒
5	23	月	4	脂質4(IH, 24章)(LC, 17章)	辻田
5	24	火	1	タンパク質6(タンパク質・アミノ酸の分解、尿素回路)	道川
5	24	火	2	ビタミン3(脂溶性ビタミン、ハーパー生化学第30版、p633-p653、授業日までに予習しておく)	鄭
5	26	木	1	糖質8(糖タンパク質、イラストレイテッド生化学p201-209)	鄒
5	26	木	2	生体酸化2(医科生化学 4章5)	辻田
5	30	月	3	タンパク質7(タンパク質代謝と老化・疾患)	里(客員教授)
5	30	月	4	脂質5(IH, 26章)(LC, 18章)	辻田
5	31	火	2	脂質6(ヴォート生化学, 25章)	辻田
7	25	月	3	生化学 物質と代謝ユニット 筆記試験	
11	24	木	3	生化学 物質と代謝ユニット 筆記試験(再試験)	

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	30	火	1	タンパク質化学実習一総論と各論	道川、鄭
9	5	月	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	6	火	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	7	水	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	8	木	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	13	火	1, 2	タンパク質化学実習一ディスカッションまたは予備日	全教員
	14	水	1, 2	タンパク質化学実習一ディスカッションまたは予備日	全教員
	26	月	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	27	火	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	28	水	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	29	木	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
10	4	火	1, 2	タンパク質化学実習一ディスカッションまたは予備日	全教員
	5	水	1, 2	タンパク質化学実習一ディスカッションまたは予備日	全教員

生化学コース 分子と細胞ユニット 担当教員

所属・職名
 細胞生化学分野・教授
 細胞生物学分野・講師
 細胞生物学分野・講師
 細胞生物学分野・助教
 免疫学・講師
 免疫学・講師
 非常勤講師(名市大・医・名誉教授)
 非常勤講師(東大医科研・教授)
 非常勤講師(愛知県医療教育総合センター)
 非常勤講師(岐阜医科大・保・教授)

氏名
 加藤洋一
 二宮裕将
 嶋田逸誠
 橋本寛
 今井優樹
 志馬寛明
 岡本尚
 中西真
 中西圭子
 石黒啓司

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	2	木	1	分子生物学総論	加藤
	2	木	2	核酸とその構造	中西(圭)
	6	月	3	クロマチン構造と基本転写因子	二宮
	6	月	4	遺伝子発現制御機構:転写の活性化と抑制	二宮
	7	火	1	予備日	
	7	火	2	スプライシング・RNAエディティング・マイクロRNA	加藤
	9	木	1	翻訳1	橋本
	9	木	2	翻訳2および翻訳後修飾	橋本
	13	月	3	ゲノム科学	岡本
	13	月	4	バイオインフーマティクス	岡本
	14	火	1	DNAの複製と再構成	加藤
	14	火	2	DNA修復機構	加藤
	16	木	1	基礎遺伝学	加藤
	16	木	2	染色体分配	加藤
	20	月	3	病気と遺伝子	石黒
	20	月	4	病気と遺伝子	石黒
	21	火	1	細胞生物学総論	加藤
	21	火	2	細胞周期と細胞死	加藤
	23	木	1	膜構造と膜輸送	加藤
	23	木	2	細胞骨格	加藤
	27	月	3	ガンと生化学	中西(真)
	27	月	4	ガンと生化学	中西(真)
	28	火	1	細胞内タンパク輸送(小胞体、ゴルジ体、エンドサイトーシス、エキソサイトーシス)	嶋田
	28	火	2	細胞内タンパク輸送(核、ミトコンドリア)	嶋田
	30	木	1	エネルギー変換:ミトコンドリア	加藤
	30	木	2	シグナルと転写	加藤
7	4	月	3	免疫学の基礎(1)	今井
	4	月	4	免疫学の基礎(2)	志馬
	5	火	1	情報伝達と発生	加藤
	5	火	2	組換えDNA 実験法の原理	加藤
	7	木	1	学生発表	全教員
	7	木	2	学生発表	全教員
	12	火	1	学生発表	全教員
	12	火	2	学生発表	全教員
	14	木	1	予備日	
	14	木	2	予備日	
	19	火	1	予備日	
	19	火	2	予備日	

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	30	火	2	生化学実習(分子生物学編) 総論と各論	全教員
9	5	月	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	6	火	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	7	水	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	8	木	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	13	火	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	14	水	1, 2, 3, 4	予備日	全教員
	26	月	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	27	火	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	28	水	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	29	木	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
10	4	火	1, 2, 3, 4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	5	水	1, 2, 3, 4	予備日	全教員

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	17	月	3, 4	分子と細胞ユニット 筆記試験	
12	1	木	3, 4	分子と細胞ユニット 再試験	

開講年度	2022年度
科目名	生理学コース・植物的機能系／動物の機能系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	飛田秀樹、橋谷 光、田尻直輝、清水健史、三井 烈、高野博充、中森裕之、上野新也、瀬尾由広、中里浩一、福田道雄、富永真琴、田中謙二、近藤高史
講義期間・曜日・時限	

授業目的・目標	生理学では、生体の正常な機能を細胞、組織、器官の各レベルで理解し、それらが統合され個体として機能している仕組みを学習する。断片的な知識習得にとどまることなく系統的に学習することにより、生体機能制御系が有機的に連関していることを理解し、生命現象の精巧かつ巧妙な仕組みを実感してもらいたい。臨床医学で学ぶ様々な疾病は、正常な生体機能が損なわれた状態であることから、生理学は臨床医学を理解するために不可欠な基盤となっている。
キーワード	平滑筋収縮、筋肉の可塑性、情動形成、運動機構
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, 1c, 1d
学習到達目標	講義の各項目で学習する生理機能について、分子、細胞、組織、器官それぞれのレベルで理解し、説明できるようにする。その上で、各生理機能の生命機能の中での位置づけや役割などを考察し、他の生理機能との関連や生命体としての統合を説明できるようにする。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-1-1, C-2-1, C-2-3, C-2-4, C-5-1, C-5-2, C-5-3, C-5-4, C-5-5, C-5-7, D-1, D-4, D-5, D-6, D-7, D-8, D-9, D-10, D-12, D-13, D-14, E-7
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	
授業計画	動物の機能系ユニットと植物的機能系ユニットに分け、講義・実習を行う。 講義： パワーポイント、配布資料、板書などにより生理機能を解説する。 実習： 全体を8グループに分け、各グループが全て8項目について実習(終日)を行い、日を改めて実習内容についての発表・討議を行い、レポートを提出する。 4月以降順次講義を行い、実習関連項目の講義終了後(9月以降)に実習を行う。講義は、生理学の主要な分野について概説し、自主学習するための指針を与える。実習では、生体および摘出標本を用いて生理活動を体験しながら、講義で学修した内容の理解を深める。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	講義： 授業計画表を確認の上、あらかじめテキスト(参考文献)で該当項目を予習してから受講することが不可欠であり、講義終了後には小テストを実施して理解度を確認する。質問は講義後速やかに行って問題点を解決し、復習して学修内容を定着させることが重要である。 実習： 対応する講義内容を十分に復習、理解してから参加する必要がある。実習から討論まで、討論からレポート提出までの期間に各人およびグループで十分な考察と討議を行うことにより、理解を深めて定着させることが可能となる。
成績評価方法	夏休み明けに実施する両ユニット合同中間試験、講義・実習終了後に実施する各ユニット毎の期末試験を実施する。おおよその配比率は出席・実習態度(10%程度)、中間試験(30%程度)、期末試験(60%程度)とするが、これらを総合的かつ客観的に判定し、M2における生理学について、必要な学習理解度と学習姿勢に達成した者を合格とする。
教科書・テキスト	標準生理学 第9版 医学書院 Textbook of Medical Physiology 13th Edition Guyton & Hall, Elsevier 2018
参考文献	
履修上の注意事項	実習は実験動物や人体を使用し、補講が困難である。従って、受講できない場合や実習態度に問題がある場合は、翌年に再受講(留年)することになるので真摯な態度で実習に臨むこと。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション
連絡先・オフィスアワー	研究棟7階西側(植物的機能系ユニット:853-8131; 動物の機能系ユニット:853-8136) 質問に際しては、まず自ら理解する努力を十分に行うこと。講義のリポートや解答例の添削は行わない。必ず事前にメール等(大学ホームページ参照)で担当教員にアポイントを取ること、またメールでの質問・回答を活用すること。
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2022年4月～2022年12月 第2学年

植物的機能系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
細胞生理学 教授	橋谷 光
脳神経生理学 教授	飛田秀樹
細胞生理学 講師	三井 烈
脳神経生理学 講師	清水健史
細胞生理学 助教	高野博充
細胞生理学 助教	中森裕之
循環器内科 教授	瀬尾由広
日本体育大学 教授	中里浩一
増子クリニック 院長	福田道雄

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	11	月	1	オリエンテーション	飛田
4	18	月	1	腎1	高野
4	25	月	1	腎2	高野
5	9	月	1	腎3	高野
5	16	月	1	腎4	高野
5	23	月	1	酸塩基1	高野
5	30	月	1	酸塩基2	高野
6	6	月	1	心臓1	橋谷
6	13	月	1	心臓2	橋谷
6	20	月	1	心臓3	橋谷
6	27	月	1	心臓4	橋谷
7	4	月	1	微小循環	三井
7	5	火	3	循環1	橋谷
7	6	水	3	循環2	橋谷
7	8	金	2	血管	三井
7	12	火	3	特殊循環	三井
7	13	水	3	呼吸1	清水
7	13	水	4	平滑筋1	三井
7	15	金	2	平滑筋2	三井
7	15	金	3	呼吸2	清水
7	15	金	4	呼吸3	清水
7	19	火	3	平滑筋3	三井
7	19	火	4	血液1	橋谷
7	20	水	3	血液2	橋谷
7	21	木	1	消化管1	中森
7	21	木	2	血液3	橋谷
7	22	金	1	消化管2	中森
7	22	金	2	自律神経	上野
8	29	月	3~4	生理学 中間試験	全教員
8	31	水	1	実習説明	全教員
8	31	水	2	内分泌1	飛田
9	1	木	1	内分泌2	飛田
9	1	木	2	消化吸収1	中森
9	9	金	1	内分泌3	飛田
9	9	金	2	消化吸収2	中森
9	9	金	3	特別講義 (心臓)	瀬尾
9	9	金	4	特別講義 (腎臓)	福田
9	12	月	2	内分泌4	飛田
9	15	木	1	排尿機能	橋谷
9	15	木	2	内分泌5	飛田
9	15	木	3	筋肉の可能性	橋谷
9	15	木	4	筋肉の可能性(特別講義)	中里
9	20	火	3	細胞リズム	橋谷
10	6	木	1~4	実習1	全教員
10	7	金	1~4	実習2	全教員
10	11	火	1~4	実習3	全教員
10	12	水	1~4	実習4	全教員
10	13	木	1	実習討論1	全教員
10	13	木	2	実習討論2	全教員
10	14	金	1	実習討論3	全教員
10	14	金	2	実習討論4	全教員
10	19	水	1~4	実習5	全教員
10	20	木	1~4	実習6	全教員
10	21	金	1~4	実習7	全教員
10	24	月	1~4	実習8	全教員
10	25	火	3	実習討論5	全教員
10	25	火	4	実習討論6	全教員
10	26	水	1	実習討論7	全教員
10	26	水	2	実習討論8	全教員
10	27	木	1~4	(実習 予備日)	全教員
11	14	月	3~4	植物生理 本試験	全教員
12	6	火	3~4	植物生理 再試験	全教員

2022年4月～2022年12月 第2学年

動物の機能系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
脳神経生理学 教授	飛田 秀樹
細胞生理学 教授	橋谷 光
脳神経生理学 准教授	田尻直輝
脳神経生理学 講師	清水健史
細胞生理学 講師	三井 烈
脳神経生理学 助教	上野新也
細胞生理学 助教	高野博充
細胞生理学 助教	中森裕之
自然科学研究機構 生理学研究所 教授	富永真琴
慶応義塾大学 教授	田中謙二
近畿大学 教授	近藤高史

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	11	月	1	オリエンテーション／膜	飛田
4	11	月	2	興奮1	清水
4	18	月	2	興奮2	清水
4	25	月	2	チャネル	清水
5	9	月	2	シナプス	上野
5	16	月	2	骨格筋1	橋谷
5	23	月	2	骨格筋2	橋谷
5	30	月	2	体性感覚	飛田
6	6	月	2	視覚1	田尻
6	13	月	2	視覚2	田尻
6	20	月	2	視覚3	田尻
6	27	月	2	聴覚	田尻
7	4	月	2	平衡覚	田尻
7	5	火	4	運動1	飛田
7	6	水	4	運動2	飛田
7	8	金	1	脳機能	上野
7	12	火	4	基底核	上野
7	15	金	1	小脳	上野
7	20	水	4	運動3	飛田
8	29	月	3～4	生理学 中間試験	全教員
8	30	火	3～4	《行動科学》	
8	31	水	1	実習説明	全教員
8	31	水	3～4	《行動科学》	
9	12	月	1	脳の発生	田尻
9	12	月	3～4	特別講演1	近藤
9	16	金	1	視床下部	飛田
9	16	金	2	大脳皮質	上野
9	16	金	3～4	特別講演2	富永
9	20	火	4	辺縁系	田尻
9	21	水	1	記憶	田尻
9	21	水	2	概日リズム	清水
9	21	水	3～4	脳研究	飛田
9	22	木	1	(生理学 予備)	
9	22	木	2	体温調節	飛田
9	22	木	3～4	特別講演3	田中
10	6	木	1～4	実習1	全教員
10	7	金	1～4	実習2	全教員
10	11	火	1～4	実習3	全教員
10	12	水	1～4	実習4	全教員
10	13	木	1	実習討論1	全教員
10	13	木	2	実習討論2	全教員
10	14	金	1	実習討論3	全教員
10	14	金	2	実習討論4	全教員
10	19	水	1～4	実習5	全教員
10	20	木	1～4	実習6	全教員
10	21	金	1～4	実習7	全教員
10	24	月	1～4	実習8	全教員
10	25	火	3	実習討論5	全教員
10	25	火	4	実習討論6	全教員
10	26	水	1	実習討論7	全教員
10	26	水	2	実習討論8	全教員
10	27	木	1～4	(実習 予備日)	
11	7	月	3～4	動物生理 本試験	全教員
12	9	金	3～4	動物生理 再試験	全教員

開講年度	2022年度
科目名	総合医学コース・水平統合基礎ユニット
専門・教養	専門
担当教員	飛田秀樹、橋谷 光、加藤洋一、植田高史、井上浩一、高野博充、片岡洋望、松川則之、伊藤 剛、島野泰暢
講義期間・曜日・時限	11月上旬から実施

授業目的・目標	生体の正常な構造と機能を、解剖学・生化学・生理学の講義と実習を通じて概ね理解できたM2終盤の時期に、臨床医学で学ぶ様々な疾病が、正常な生体機能が損なわれた状態であることを念頭に置きながら、生体機能が有機的に連関していることを横断的に理解する。
キーワード	虚血性心疾患治療の基礎的根拠、消化器疾病病態、人工透析のメカニズム、脳神経疾患の基礎
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	1a, 1c, 1d
学習到達目標	臨床で重要となる疾患を視野に入れつつ、解剖・生化・生理学で学んだ知識を統合的に理解することを学習到達目標とする。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-1-1, C-2-1, C-2-3, C-2-4, C-5-1, C-5-2, C-5-3, C-5-4, C-5-5, C-5-7, D-1, D-4, D-5, D-6, D-7, D-8, D-9, D-10, D-12, D-13, D-14, E-7
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している
授業概要	循環器系、消化器系、呼吸器系、内分泌系、腎泌尿器系、脳神経系に絞り、臨床で重要となる疾患のより深い理解に繋げるための解剖・生化・生理の統合的講義を行う。
授業計画	循環器系では、虚血性心疾患を理解するための解剖生理を統合的に講義する。消化器系では、消化器疾患の病態を理解するための解剖生理を統合的に講義する。呼吸器系では、気管支ぜんそくを中心とする呼吸器疾患を理解するための解剖生理を講義する。内分泌障害では、バセドウ病と痛風に焦点を当てて生体生理の統合的講義をする。腎泌尿器系では、透析治療を理解するための解剖生理の統合的講義を行う。
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	
成績評価方法	動物生理ユニットの試験と同じ日程時間内で、講義における理解度を試験する。 これにより到達目標を達成した者を合格とする。
教科書・テキスト	各講義に於いて紹介される
参考文献	
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	なし
連絡先・オフィスアワー	研究棟7階（脳神経生理学 飛田：853-8136）および 各担当教員 質問に際しては、まず自ら理解する努力を十分に行うこと。講義のリポートや解答例の添削は行わない。 必ず事前にメール等（大学ホームページ参照）で担当教員にアポイントを取ること、またメールでの質問・回答を活用すること。”
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2022年4月～2022年12月 第2学年

水平統合基礎ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
脳神経生理学 教授	飛田 秀樹
細胞生理学 教授	橋谷 光
細胞生化学 教授	加藤 洋一
機能組織学 准教授	植田 高史
統合解剖学 准教授	井上 浩一
細胞生理学 助教	高野 博充
消化器・代謝内科学 教授	片岡 洋望
脳神経内科学 教授	松川 則之
心臓・腎高血圧内科学 助教	伊藤 剛
五条川リハビリテーション病院 院長	島野 泰暢

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	26	水	3	呼吸器系（呼吸器疾患の理解のための解剖・生理）	井上 浩一
			4	内分泌／代謝系（バセドウ病と痛風の病態理解）	加藤 洋一
11	1	火	3	腎泌尿器系（透析治療を理解するための解剖・生理）	高野 博充
			4	腎泌尿器系（透析治療の基礎的根拠）	島野 泰暢
11	2	水	3	循環器系（虚血性心疾患を理解するための解剖・生理）	橋谷 光
			4	循環器系（虚血性心疾患治療の基礎的根拠）	伊藤 剛
11	4	金	1	消化器系（消化器疾患を理解するための解剖・生理）	植田 高史
			2	消化器系（消化器疾患病態のメカニズム）	片岡 洋望
11	9	水	3	予備	
			4	予備	
11	11	金	1	脳神経系（脳神経疾患を理解するための解剖・生理）	飛田 秀樹
			2	脳神経系（脳神経疾患の臨床病態：脳卒中と神経変性疾患）	松川 則之

開講年度	2022年度
科目名	コミュニティヘルスケア卒前教育 行動科学・地域医療学コース コミュニティ・ヘルスケア基礎 (IPE)ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学部：赤津裕康、川出義浩、渋谷恭之、村上里奈 看護学部：金子典代 非常勤講師：五島明
講義期間・曜日・時限	セメスター2 (2022/4/8~2022/4/22)、第2, 3, 4金曜日、3~4限目

授業目的・目標	【授業目的】 超高齢社会が進む中で今後の医療を取り巻く地域社会を理解するため 【授業目標】 地域包括ケアシステムの内容を理解し、地域における多職種連携、認知症サポーターの重要性を理解する
キーワード	地域包括ケアシステム, 多職種連携
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	2b, 3a, 3b, 3c, 3d, 4a, 4b
学習到達目標	【学習到達目標】 1. コミュニティヘルスケアの概念、歴史的背景等を理解し、地域包括ケアシステムの内容を理解し、地域における保健・医療・福祉・介護の分野間および行政を含む多職種間の連携の必要性を説明できる。 2. 多職種の医療・保健・福祉専門職、患者・利用者、その家族、地域の人々など、様々な立場の人が違った視点から医療現場に関わっていることを理解する。 3. 在宅療養と入院または施設入所との関係について、総合的な考察ができる。 4. 認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人や家族を支援することができる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-7-1)、B-1-7) 地域医療への貢献、 B-4-1) 医師に求められる社会性、E-8-1) 老化と高齢者の特徴
成績評価基準	秀：90点以上 (学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上 (学修到達目標を十分に達成している) 良：70点以上 (学修到達目標を達成している) 可：60点以上 (学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	本科目は、エイジング・イン・プレイス(AIP)社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成するためのプログラムの一環である。 講義は6コマであるが、1時間毎で講師は8名で対応する。授業時間内に名古屋市認知症サポーター養成講座を受講し、オレンジリングを取得する。
授業計画	2022年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	準備学習は特に必要ない。幅広い教養に基づいて、将来を見据えた医師像を自分なりに形成出来る様、各方面の読書に励んでほしい。
成績評価方法	毎回授業後に提出するレスポンスシートを講義最後に回収 記載提出で各10点、7コマ分70点とする。最終講義の最後20分(10問程度)で30点満点の試験を行う。
教科書・テキスト	
参考文献	地域医療学入門(診断と治療社)
履修上の注意事項	名古屋市立大学では本科目を医学部・薬学部・看護学の専門科目に位置づける(学部によって必修・選択・自由科目のいずれかとなる)。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	本講座は座学主体でアクティブ・ラーニングの形式はとらない
連絡先・オフィスアワー	担当教員名：赤津、川出 連絡先：地域医療教育学 午前9時から午後5時(月～金) 内線：8537
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	平成25年度入学者から適用 「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」「コミュニティ・ヘルスケア基礎」「コミュニティ・ヘルスケア応用」「コミュニティ・ヘルスケア発展」「コミュニティ・ヘルスケア実践」の単位をすべて修得すれば、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの修了認定を受けることができる。なお、「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」は教養教育科目「医薬看護連携地域参加型学習」として履修する。プログラム履修についての詳しい内容は担当教員に確認すること。
関連URL	

2022年度 第2学年

コミュニティ・ヘルスケア基礎 担当教員

所属・職名	氏名
地域医療教育学 教授(診療担当)	赤津 裕康
名古屋市緑保健センター 所長	五島 明
地域医療教育学 特任准教授	川出 義浩
口腔外科学 教授	渋谷 恭之
看護学部 国際保健看護学 准教授	金子 典代
リハビリテーション医学 助教	村上 里奈
瑞穂区東部いきいき支援センター分室	小林 紀子

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	8	金	3-4	コミュニティ・ヘルスケア概論	赤津 裕康
				少子高齢化社会での行政と保健所の役割	五島 明
				病院・地域における薬剤師の役割	川出 義浩
4	15	金	3-4	病院・地域における看護師・保健師の役割	金子 典代
				病院・地域における歯科医師、歯科衛生士の役割	渋谷 恭之
				病院・地域におけるリハビリテーションの役割	村上 里奈
4	22	金	3-4	認知症サポーター養成講座	いきいき
				認知症の基本	赤津 裕康
				試験	

開講年度	2022年度
科目名	行動科学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	上島通浩、植田典浩、柿崎真沙子、榎原毅
講義期間・曜日・時限	2020/8/30～2022/8/31

授業目的・目標	<p>【授業目的】人間の行動と心理の決定要因を理解し、治療的または予防的な介入効果を評価して患者・集団・社会の行動変容を引き出す力は医師に求められる資質のひとつである。このことを理解し、各科目を履修する上での意識付けを行う。</p> <p>【授業目標】人間の行動の法則性を探求する行動科学の全体像や心理学的側面とともに、その各構成要素を医学専門課程のどこで学ぶかを、理解する。</p>
キーワード	行動、動機付け、生涯発達、個人差、対人コミュニケーション、行動変容
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰのc 領域Ⅱのa 領域Ⅲのb 領域Ⅳのc
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業までの各学年、各科目で行動科学のどのような構成要素に関する授業が行われるか、理解する。 2. 健康と疾病に関する行動を形作る、生涯発達の過程を説明できる。 3. 心理学的な側面から動機付け、個人差、効果的な対人コミュニケーションを説明できる。 4. 個人の違いにあわせて集団や個人の健康行動への変容を引き出す方法論があることを理解できる。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】</p> <p>A-2-1) 課題探求・解決能力、A-2-2) 学修の在り方、A-4-1) コミュニケーション、A-4-2) 患者と医師の関係、B-1-5) 生活習慣とリスク、B-1-6) 社会・環境と健康、B-4-1) 医師に求められる社会性、C-5-1) 人の行動、C-5-2) 行動の成り立ち、C-5-3) 動機付け、C-5-4) ストレス、C-5-5) 生涯発達、C-5-6) 個人差、C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション、C-5-8) 行動変容における理論と技法、E-8-1) 加齢と老化</p>
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医師に行動科学が必要な理由と卒業までに学ぶ内容の全体像と各構成要素を説明する。 2. 生まれてから死ぬまでに人がたどる発達の過程を考察する。 3. 人の行動と心理を動機付け・個人差・対人コミュニケーションの側面から解説する。 4. 人や集団の健康行動や行動変容がどのように生じるか、公衆衛生的視点から解説する。
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、本科目で授業を行う単元に相当する箇所の内容を、参考書「行動医学テキスト」、「Behavioral Science」 by B. Fedem、または「健康行動学：その理論、研究、実践の最新動向」で自習すること。
成績評価方法	成績評価は定期試験100%とし、動物生理の試験時間枠の中で行う（行動科学として100点満点、所要10～15分程度、多肢選択式または正誤問題）。行動科学の基礎的概念が理解できているかを評価する。
教科書・テキスト	特に指定しません。
参考文献	「行動医学テキスト」 日本行動医学会編集、「Behavioral Science」 by B. Fedem、「健康行動学：その理論、研究、実践の最新動向」 メディカル・サイエンス・インターナショナル
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	担当教員：上島通浩 内線8171、電子メール eisei@med.nagoya-cu.ac.jp 10:00～16:00（月曜～金曜）会議等で不在の場合があるので、在室を確認してから来室することが望ましい。
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験または専門家としての社会実装経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	
関連URL	

行動科学ユニット 担当教員

所属・職名	氏 名
環境労働衛生学・教授	上島通浩
医学・医療教育学・講師	植田典浩
医療人育成学・講師	柿崎真沙子
環境労働衛生学・准教授	榎原 毅

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	30	火	3	行動科学ガイダンス	上島通浩
			4	生涯発達	植田典浩
8	31	水	3	健康情報とリテラシー	柿崎真沙子
			4	行動変容における理論と技法	榎原 毅
11	7	月	3・4	試験(動物生理の試験時間の中で実施)	

開講年度	2022年度
科目名	研究能力養成コース・学術論文入門ユニット
専門・教養	専門
担当教員	植木孝俊、鶴川真也、加藤洋一、飛田秀樹、大石久史、酒々井真澄、山川 和弘、澤本和延、齋藤貴志、鄭 且均、三井 烈、深町勝巳
講義期間・曜日・時限	9月下旬から12月上旬にかけ実施、不定期のため別紙日程表を参照

授業目的・目標	計10コマ程度の輪読会を実施する。期間内に、学術論文の検索法、科学的論文の読み方、実験手法の原理の理解、学術内容の論理的思考法を学ぶ。
キーワード	先端研究の理解、実験手法の理解、論理性の理解
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1b, 1c, 1d, 2d, 4d
学習到達目標	興味をもった医学の先端科学的内容を知ることを目的に、英語原著論文を抵抗なく手に取り、その内容を理解する為の基本的姿勢や知識を身につける。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 B-1-1), B-1-3), C-1
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	教員が提示するテーマの中から一つを選び、8～9人のグループに分かれ、そのテーマに関する総説および英語原著論文を輪読する。
授業計画	先ず最初に、図書館での文献検索やPubMedを用いた文献検索する事を学ぶ。その後、提示された中から興味をもったテーマを選び、担当教員のもとに8～9人のグループに分かれ、そのテーマに関する総説および英語原著論文を輪読する。最終的に、一つの論文を読み、その内容についてレポートを作成する。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	論文を読み調べ、事前に内容を軽く理解する必要がある
成績評価方法	ユニット終了後に関連論文を読み、その内容をまとめたレポートを作成する。レポート提出などを含めた総合判定を担当教員およびユニット責任者で行い、到達目標を達成した者を合格とする。
教科書・テキスト	各教員により、総説または原著論文が随時提示される
参考文献	
履修上の注意事項	教員の都合により実施日が変更される可能性がある。その際には、教員と学生との話し合いの中で別途日程を調整することになる。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション
連絡先・オフィスアワー	研究棟7階(脳神経生理学 飛田:853-8136) および 各担当教員
実務経験を活かした教育の取組	
備考	各グループ初回授業において、予習・復習について指示するので、その指示に従うこと。
関連URL	

2022年4月～2022年12月 第2学年

学術論文入門ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
統合解剖学	植木 孝俊
機能組織学	鵜川 眞也
神経生化学	鄒 鞆
細胞生化学	加藤 洋一
細胞生理学	三井 烈
脳神経生理学	飛田 秀樹
病態モデル医学	大石 久史
神経毒性学	酒々井 真澄
神経毒性学	深町 勝巳
神経発達症遺伝学	山川 和弘
神経発達・再生医学	澤本 和延
認知症科学	齋藤 貴志

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	30	金	1	導入説明・文献検索法1	飛田
		金	2	文献検索法2	川澄分館
11	2	水	1-2	論文読解1	全教員
	16	水	1-2	論文読解2	全教員
	18	金	1-2	論文読解3	全教員
	30	水	1-2	論文読解4	全教員
12	2	金	1-2	論文読解5	全教員
	7	水	1-2	論文読解6	全教員
	12	月	3-4	論文読解7	全教員
	14	水	1-2	予備日	全教員

(3) 臨床基礎医学 (2年次1月~3年次12月)

開講年度	2022年1月～2023年12月
科目名	感染微生物コース・医動物学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	山崎小百合(免疫学 教授)、長谷川忠男(細菌学 教授)、今井優樹(免疫学 講師)、志馬寛明(免疫学 講師)、非常勤講師：改正恒康(和歌山県立医科大学 教授)、谷口(塩田)裕子(九段坂病院 部長)
講義期間・曜日・時限	2022年2月22日 ～ 3月15日

授業目的・目標	医動物学は人の感染症の原因となる原動物および動物とそれによる疾病を研究する学問である。原虫および蠕虫感染症を取り扱う寄生虫学と、節足動物や脊椎動物が直接的、間接的に関与する主として取り扱う衛生動物学とからなる。本科目では寄生虫という生き物を理解するように努めると共に寄生虫疾患の病理、発症機序、診断、治療、疫学およびその予防に関する知識を習得する。また寄生虫疾患は発展途上国では重要な地位を占めており、今後いっそう重要となる発展途上国の医療に対する我が国の関わりやグローバル化に伴う輸入感染症の問題についても理解を深める。
キーワード	原虫類、蠕虫類、人獣共通寄生虫症、感染経路、治療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a-d
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 原虫類・蠕虫類の分類および形態学的特徴を説明できる。 2. 寄生虫の生活史、感染経路と感染疫学的意義を説明できる。 3. 寄生虫感染宿主の生体防御の特徴を説明できる。 4. 日和見寄生虫と寄生虫の重症化を説明できる。 5. 各臓器・器官の主な寄生虫症を説明できる。 6. 人獣共通寄生虫症を説明できる。 7. 寄生虫症の診断、治療と予防の概要を説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-3-1) 生体と微生物、C-3-2) 免疫と生体防御、C-4-5) 炎症と創傷治癒、D-7 消化器系、D-3) 皮膚系、E-2 感染症、E-3 腫瘍、E-4 免疫・アレルギー
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 医動物学総論 2. 条虫・吸虫感染症の診断と治療および疫学 3. 原虫感染症その診断と治療および疫学 4. 線虫感染症の診断と治療および疫学 5. 幼虫移行症の病理、診断、治療 6. 寄生虫への免疫反応 7. 臨床現場の医動物学 8. 標本を見ながら医動物種の診断・治療の学習 【アクティブラーニング】
授業計画	新型コロナウイルス感染対策を取りつつ、各講義中に可能な範囲でアクティブラーニングを行う(対面またはオンライン)。2022年度医動物学講義予定を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。理解が不完全であった項目については、繰り返し復習して修得に努めること。講義・アクティブラーニング：予習・復習を各自でしっかりと行うこと
成績評価方法	筆記試験(100)点満点 *筆記試験60点未満の場合、アクティブラーニング、授業参加度、授業態度、レポートを参考とする。全てを総合的に検討し、必要な理解度と学習姿勢に達した者を合格とする。
教科書・テキスト	寄生虫学テキスト 上村清、木村英作、金子明ら著 文光堂
参考文献	標準医動物学 石井明、鎮西康雄、太田伸生編、医学書院 図説人体寄生虫学 吉田幸雄著、南山堂 熱帯医学 竹田美文編、南山堂 国際保健医療学 日本国際保健医療学会編、杏林書院
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。実技実習がある場合は白衣を忘れないようにすること。 講義の録画、録音、写真撮影等をしないこと。講義資料は授業に出席している学生さんのためのものであるため、SNS、オンラインなどで拡散をしないこと。
履修者への要望事項	医動物学は臨床の現場でも遭遇するので、将来患者様の力になれるように積極的に真面目に学ぶこと。
アクティブ・ラーニング	新型コロナウイルス感染対策を取りつつ、各講義中に可能な範囲でアクティブラーニングを行う(対面またはオンライン)。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：免疫学分野：山崎、今井、志馬 内線：8186、電子メール：immunol@med.nagoya-cu.ac.jp 月、水 12:00～16:00（事前に連絡すること）
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員または免疫学を専門とする研究者としての経験を持つ教員が担当する。
備考	質問などがある場合は、必ず事前に上記の連絡先にオフィスアワーに連絡をとること。
関連URL	

医動物学 担当教員

所属・職名
 免疫学分野・教授
 細菌学分野・教授
 免疫学分野・講師
 免疫学分野・講師

氏名
 山崎 小百合
 長谷川 忠男
 今井 優樹
 志馬 寛明

和歌山県立医科大学・教授
 九段坂病院皮膚科・部長

改正 恒康
 谷口（塩田）裕子

医動物学 授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
2	22	火	1	医動物学総論	山崎
			2	医動物学各論(1)条虫、吸虫	改正
3	7	月	1	医動物学各論(2)マラリア・トキソプラズマ	長谷川
			2	医動物学各論(3)線虫、幼虫移行症	今井
	8	火	1	寄生虫への免疫反応	志馬
			2	臨床現場の医動物	谷口・山崎
	15	火	1	医動物学各論アクティブラーニング(1)	山崎・今井・志馬
			2	医動物学各論アクティブラーニング(2)	

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	感染微生物コース・細菌学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	長谷川忠男、立野一郎、南 正明、井坂雅徳
講義期間・曜日・時限	1月6日から3月11日・月曜日・1-2限、木金曜日・3-4時限

授業目的・目標	(目的) 病原微生物のヒトへの侵襲を防ぎ、感染症の予防および診断、治療に役立てることができるようになるため。 (目標) 感染症が医学全般の中で占める位置および臨床医学との関連性を理解し、ヒトへの侵襲起こす病原微生物の基礎知識を修得する。
キーワード	細菌の生理、細菌の病原性、病原細菌の取り扱い、病原因子
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I
学習到達目標	1. 独立した生物である細菌そのものについて理解し説明できる。 2. これら細菌の病原性発現において発現してくる生物学的現象について理解し説明できる。 3. 感染症の診断、治療(抗菌剤)や予防(滅菌・消毒、ワクチン)について理解し説明できる。 4. 細菌の培養、形態観察、性状検査などについて理解し実施できる。 5. 病原性の強い細菌や真菌を含めて多くの病原体を使用して慎重な取扱法を習得する。 6. 学生各自の検体から菌を分離させて、身近な常在菌について認識する。 7. 生体に感染した場合に発生する複雑な現象について理解し説明できる。 8. 病原微生物のヒトへの侵襲すなわち感染症の治療について理解し説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-3-1)、D-3、D-6、D-7、E-2-1)、E-2-2)、E-2-4)、F-2-3)
成績評価基準	秀: 学修到達目標を越えたレベルを達成している 優: 学修到達目標を十分に達成している 良: 学修到達目標を達成している 可: 学修到達目標を最低限達成している
授業概要	(講義要目) 1. 細菌学総論 細菌の形態と微細構造、細菌の増殖と代謝 細菌の変異および遺伝子の伝達機構、細菌の病原性因子と生体の感染防御機構 抗菌薬の作用機構と薬剤耐性機構、常在細菌叢の役割と日和見感染症 臨床材料の採取法と細菌学的診断法 2. 細菌学各論 病原細菌の諸性質と感染症との関係 (実習要目) 1. 細菌学の実習 光学顕微鏡による細菌の形態観察、培地の作製法と純培養法・分離培養法 細菌の性状検査と分離同定法、抗菌薬の作用
授業計画	2021年度細菌学授業予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、参考図書の該当箇所を予習してから講義に臨むこと。 日頃から新聞や雑誌に掲載された細菌感染症(食中毒や院内感染を含む)に関する記事を読んでおくこと。記事の内容に不明な点がある場合は、参考図書等を利用して調べること。
成績評価方法	筆記試験(90%)、実習レポート(10%)提出
教科書・テキスト	なし
参考文献	病原微生物学 荒川宜親・神谷 茂・柳 雄介編、東京化学同人 標準微生物学 中込 治・神谷 茂編、医学書院 医科細菌学 笹川千尋・林 哲也編、南江堂 ブラック微生物学 Jacquelyn G. Black, 丸善 標準感染症学 齋藤 厚・那須 勝・江崎孝行編、医学書院 現代微生物入門 南嶋洋一・水口康雄・中山宏明著、南山堂 細菌の逆襲 吉川昌之介著、中公新書 人はなぜ病院で感染するのか? 太田美智男著、NHK出版 微生物 vs. 人類 加藤延夫著、講談社現代新書 戸田新細菌学 吉田真一・柳 雄介・吉開泰信編、南山堂 新しい微生物学 大野尚仁・笹津備規編、廣川書店 微生物学 今井康之・増澤俊幸編、南江堂 微生物学 神谷 茂・河野 茂監訳、medical science international
履修上の注意事項	講義時に資料を配布する。遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	予備日に講義等を振り替えることがあるので、掲示に注意すること
アクティブ・ラーニング	実習の中で、それぞれの課題についてグループディスカッションをさせている。
連絡先・オフィスアワー	月～金 9:00-18:00 (事前に連絡すること)/内線8164, 8166
実務経験を活かした教育の取組	なし
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

細菌学 担当教員

所属・職名	氏名
細菌学分野・教授	長谷川 忠男
細菌学分野・講師	立野 一郎
細菌学分野・講師	南 正明
細菌学分野・学内講師	井坂 雅徳

細菌学 授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	6	木	3	細菌の構造、分類、増殖	長谷川
			4	細菌感染、常在菌、細菌感染症の検査と診断	長谷川
	7	金	3	細菌の遺伝学(1)	立野
			4	細菌の遺伝学(2)	立野
	13	木	3	抗生物質の作用機構と耐性菌	井坂
			4	生体防御機構と生体の反応	長谷川
	14	金	3	細菌の病原因子	長谷川
			4	院内感染、消毒・滅菌、食中毒、感染症予防法	長谷川
	17	月	1	細菌学各論(1):グラム陽性球菌(ブドウ球菌)	長谷川
			2	細菌学各論(2):グラム陽性球菌(レンサ球菌)	長谷川
20	木		3	細菌学各論(3):有芽胞菌、グラム陽性無芽胞桿菌	長谷川
			4	細菌学各論(4):放線菌とその関連細菌	長谷川
21	金		3	細菌学各論(5):グラム陰性通性嫌気性桿菌Ⅰ	立野
			4	細菌学各論(6):グラム陰性通性嫌気性桿菌Ⅱ	立野
24	月		1	細菌学各論(7):スピロヘータ、レプトスピラ、らせん菌	井坂
			2	細菌学各論(8):マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア	井坂
27	木		3	実習(1) 培地作成・純培養法 1班	長谷川・井坂
			4	実習(2) 手指・毛髪の付着細菌の培養 1班	立野・長谷川
1	28	金	3	実習(3) グラム染色及び観察 1班	井坂・立野
			4	実習(4) 手指・毛髪の付着細菌の染色及び観察 1班	長谷川・井坂
1	31	月	1	細菌学各論(9):無芽胞偏性嫌気性グラム陰性桿菌	井坂
			2	細菌学各論(10):グラム陰性球菌	井坂
2	3	木	3	実習(5) 培地作成・純培養法 2班	長谷川・井坂
			4	実習(6) 手指・毛髪の付着細菌の培養 2班	立野・長谷川
	4	金	3	実習(7) グラム染色及び観察 2班	井坂・立野
			4	実習(8) 手指・毛髪の付着細菌の染色及び観察 2班	長谷川・井坂
	7	月	1	細菌学各論(11):グラム陰性通性嫌気性桿菌Ⅲ	立野
			2	細菌学各論(12):グラム陰性好気性桿菌	立野
	10	木	3	細菌感染症(1)	南
			4	細菌感染症(2)	南
	14	月	1	細菌感染症(3)	南
			2	細菌感染症(4)	南
17	木		3	実習(9) ブドウ球菌・レンサ球菌の分離培養 1班	立野・長谷川
			4	実習(10) 鼻腔のブドウ球菌等の培養、環境菌の観察 1班	井坂・立野
18	金		3	実習(11) ブドウ球菌・レンサ球菌観察 1班	長谷川・井坂
			4	実習(12) 鼻腔分離菌の観察・グラム染色試験 1班	立野・長谷川
	21	月	1	真菌(1)	長谷川
			2	真菌(2)	長谷川
2	24	木	3	実習(13) ブドウ球菌・レンサ球菌の分離培養 2班	立野・長谷川
			4	実習(14) 鼻腔のブドウ球菌等の培養、環境菌の観察 2班	井坂・立野
25	金		3	実習(15) ブドウ球菌・レンサ球菌観察 2班	長谷川・井坂
			4	実習(16) 鼻腔分離菌の観察・グラム染色試験 2班	立野・長谷川
3	11	金	4	ワクチン	井坂

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	感染微生物コース・ウイルス学
専門・教養	専門
担当教員	奥野友介（ウイルス学分野・教授）、田中靖人（熊本大学・消化器内科学講座・教授）、岡本尚（名古屋市立大学・細胞分子生物学分野・名誉教授）、小原道法（東京都医学総合研究所）、五十川正記（国立感染症研究所・治療薬・ワクチン開発研究センター・第二室・室長）、佐藤好隆（名古屋大学・ウイルス学・講師）、川田潤一（名古屋大学・小児科学・講師）、渡辺崇広（名古屋大学・ウイルス学・助教）、三宅康之（名古屋大学・ウイルス学・助教）、鳥居ゆか（名古屋大学・小児科学・助教）
講義期間・曜日・時限	2022年1月6日 ～ 3月4日

授業目的・目標	<p>【授業目的】 ウイルスは、日常臨床で最も高頻度に遭遇する疾患である感染症を引き起こすことに加えて、難病やがんの原因にもなる。ウイルスとそれが引き起こす代表的な疾患を理解することで、臨床医学を学ぶための基盤を構築する。</p> <p>【授業目標】 ウイルスは、遺伝情報を有するが自己増殖できない感染性の構造物である。生物である他の病原体とは異なるウイルスの特徴的な性質を理解する。ヒトの疾患の原因となるウイルスを中心に、その分類・多様性や、予防法・治療法を学習する。なお、プリオンはウイルスではないが、ウイルス学の範囲で扱う。</p>
キーワード	ウイルス、感染予防、ワクチン、抗ウイルス薬、プリオン
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域I a, d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ウイルスの種類と特徴を理解し、説明できる。 2. ウイルスの増殖の仕方を理解し、説明できる。 3. ウイルスに関連する疾患の性質と特徴を理解し、説明できる。 4. ワクチンと抗ウイルス薬を理解し、説明できる。 5. プリオンについて説明できる。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-3-1) 生体と微生物 C-3-2) 免疫と生体防御 E-2) 感染症</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	（講義）2022年度感染微生物コース-ウイルス学授業予定表を参照 （実習）ウイルスの分離培養と同定
授業計画	2022年度感染微生物コース-ウイルス学授業予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 実習：事前にどのように実験を進めていくか教科書を熟読した上で、実習に臨むこと。 また、実験終了後、得られた実験結果について、よく考察すること。
成績評価方法	筆記試験（100点満点） 筆記試験60点未満の場合、レポート提出率、授業参加度、授業態度などにより加点評価することがある。
教科書・テキスト	なし。講義資料をよく整理してください。
参考文献	「微生物学」畑中正一、嶋田甚五郎 編（文光堂） 「標準微生物学」平松啓一 監修（医学書院） 「医科ウイルス学」高田賢蔵 編（南江堂） これらに加え、テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	現時点では予定がありませんが、検討中。
連絡先・オフィスアワー	電話（ウイルス学）：052-853-8191（平日9:00～17:00） E-mail（ウイルス学 奥野）：（yusukeo@med.nagoya-cu.ac.jp）
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	講義終了時に、復習を兼ねた小テストを行うことがある。
関連URL	

ウイルス学 担当教員

所属・職名	氏名
ウイルス学分野 教授	奥野友介
熊本大学 消化器内科学講座 教授	田中靖人
名古屋市立大学 細胞分子生物学分野 名誉教授	岡本尚
東京都医学総合研究所	小原道法
国立感染症研究所 治療薬・ワクチン開発研究センター第二室 室長	五十川正記
名古屋大学 ウイルス学 講師	佐藤好隆
名古屋大学 小児科学 講師	川田潤一
名古屋大学 ウイルス学 助教	渡辺崇広
名古屋大学 ウイルス学 助教	三宅康之
名古屋大学 小児科学 助教	鳥居ゆか

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
1	6	木	1-2	ウイルス学入門	奥野
1	11	火	1-2	DNAウイルスとヘルペスウイルス	渡辺
1	13	木	1-2	ウイルスの多様性	五十川
1	18	火	1	下痢症ウイルス	佐藤
1	18	火	2	ワクチンと抗ウイルス薬	佐藤
1	20	木	1-2	肝炎ウイルス	田中
1	25	火	1	ウイルス感染症の検査・診断	奥野
1	25	火	2	ウイルス発がん	奥野
1	27	木	1-2	小児期のウイルス感染症	川田
2	1	火	1-2	RNAウイルス	三宅
2	3	木	1	(予備)	-
2	3	木	2	先天性感染症	鳥居
2	8	火	1	ウイルスと免疫	五十川
2	8	火	2	レトロウイルスとAIDS	岡本
2	10	木	1-2	新型コロナウイルス感染症	小原
2	15	火	1	(予備)	-
2	15	火	2	ATLとその他のヒトレトロウイルス	岡本
2	17	木	1-2	(予備)	-
2	28	月	1-2	ウイルスの分離培養と同定	教室員全員
3	1	火	1-4	ウイルスの分離培養と同定	教室員全員

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	免疫学コース・免疫学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	山崎小百合(免疫学 教授)、今井優樹(免疫学 講師)、志馬寛明(免疫学 講師) 非常勤講師：西川博嘉(名古屋大学教授・国立がんセンター分野長)、 改正恒康(和歌山県立医大 教授)、築地 信(皇業科大学 准教授) Guido Ferlazzo(メッシーナ大学 教授)、Mikael Karlsson(カロリンスカ研究所 教授)
講義期間・曜日・時限	2022年1月17日(月)～3月17日(木) 月曜3-4時限 木曜1-4時限 金曜3時限

授業目的・目標	(目的) 免疫とは生体にとって不可欠な生体防御機構である。免疫がどのように維持、調節されているのかを学ぶ。 (目標) 生体防御反応における免疫系の分子の基礎、細胞免疫学的基礎を学び、それらの制御不全による病態の理解や疾病の治療に対処しうる知識を身につける。
キーワード	自然免疫、獲得免疫、樹状細胞、制御性T細胞、免疫学的自己寛容
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a-d, II a, III a, b, IV a-d
学習到達目標	【学習到達目標】 ① 免疫系の一般特性：生体防御機構における免疫系の特徴(特異性、多様性、寛容、記憶)を説明できる。免疫反応における組織と細胞を説明できる。免疫学的自己寛容とその破綻を説明できる。自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。 ② 免疫反応の調節機構：抗原レセプターからのシグナルの調節機構を説明できる。サイトカイン、ケモカインの特徴を説明できる。Th1/Th2、Th17、Treg、CTL、NK、NKT、マクロファージ、樹状細胞、顆粒球が担当する機能が説明できる。 ③ 自己と非自己の識別に関与する分子とその役割：MHCクラスIとクラスIIの構造、抗原提示経路が説明できる。抗体、BCR、TCRの構造と反応様式を説明できる。T細胞活性化における副刺激分子の役割を説明できる。遺伝子再構成に基づく、多様性獲得の機構を説明できる。免疫寛容、免疫制御を概説できる。 ④ 疾患と免疫：ウイルス、細菌、寄生虫に対する免疫応答の特徴を説明できる。先天性および後天性免疫不全症を概説できる。自己免疫疾患の発症を概説できる。アレルギー発症の機序を概説できる。腫瘍免疫の特徴を概説できる。移植免疫の特徴を概説できる。最新の免疫学研究と治療の関わりを概説できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-3-1) 生体と微生物、C-3-2) 免疫と生体防御、C-4-5) 炎症と創傷治癒、C-4-6) 腫瘍、D-1) 血液・造血系、D-3) 皮膚系、D-14) 耳鼻・咽喉・口腔系、E-2) 感染症、E-3) 腫瘍、E-4) 免疫・アレルギー、E-8) 加齢と老化
成績評価基準	秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している) 良：70点以上(学修到達目標を達成している) 可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	講義(全25回) ①免疫序論・概念・歴史 リンパ組織・免疫反応概論 ②生体防御機構1 ③生体防御機構2 補体系 ④自然免疫系・TLR ⑤免疫担当細胞1(マクロファージ・顆粒球) ⑥樹状細胞 ⑦免疫担当細胞2(T、B、NK、NKT) ⑧抗原提示・MHC・副刺激分子 ⑨B細胞の基礎・抗体産生 ⑩自己寛容 Treg ⑪T細胞の機能とシグナル伝達・T細胞分化 ⑫サイトカインの機能とシグナル伝達・接着分子 ⑬自己免疫疾患 ⑭腫瘍免疫 ⑮アレルギー ⑯粘膜免疫・腸管免疫 ⑰B細胞レプリア・B細胞の機能とシグナル伝達 ⑱獲得免疫系・抗体の多様性・遺伝子再構成 ⑲感染症 ⑳マクロファージ・B細胞 ㉑炎症とがん ㉒NK細胞・自然リンパ球 ㉓アポトーシス・オートファジー・異物排除 ㉔遺伝子改変マウス・樹状細胞サブセット ㉕移植免疫・皮膚免疫・神経免疫・老化と免疫・免疫不全症 実習(全2回) ①抗原抗体反応1・2 ②免疫細胞1・2・3・まとめ
授業計画	新型コロナウイルス感染対策を取りつつ、各講義中に可能な範囲でアクティブラーニングを行う(対面またはオンライン)。2022年度免疫学授業計画表を参照。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	講義・アクティブラーニング：予習・復習を各自でしっかりと行うこと。2022年度免疫学授業計画表を確認の上、教科書・テキストの該当箇所を予習して、講義に臨むことが望ましい。 実習：授業の復習を行い、どのように実験を進めていくか理解をしておくこと。得られた実験結果について、よく考察すること。
成績評価方法	・定期試験 ・出席状況(実習は全2回なので、全て参加が必須であるが、新型コロナウイルス感染対策のため体調不良の場合は、考慮するので連絡をすること) ・アクティブラーニング・授業・実習へ積極的かつ誠実に参加をしているか ・レポートへの取組姿勢 ・免疫学主催の講演会への参加など 全てを総合的に検討し、M3免疫学について必要な理解度と学習姿勢に達した者を合格とする。
教科書・テキスト	教科書：授業中に教員が使用する資料には下記の書籍を用いる。 JANEWAY'S IMMUNOBIOLOGY, Kenneth Murphy & Casey Weaver 著, 南江堂 免疫生物学 笹月健彦・吉開泰信監訳, 南江堂(上記の日本語版) エッセンシャル免疫学 笹月健彦監訳, メディカルサイエンスインターナショナル
参考文献	参考図書： 医系免疫学 矢田純一著, 中外医学社 Cellular and Molecular Immunology Abul Abbas著, 南江堂 シンプル免疫学 中島泉・高橋利忠・吉開泰信共著, 南江堂 免疫ペディア 熊ノ郷淳編集, 羊土社 もっとよくわかる免疫学 河本宏著, 羊土社 免疫学コア講義 熊ノ郷淳・阪口薫雄・竹田潔・吉田裕樹編集, 南山堂 ゼロから実践する 遺伝統計学セミナー～疾患とゲノムを結びつける。岡田随象著, 羊土社 免疫の守護者 制御性T細胞とはなにか(ブルーバックス) 坂口志文著, 講談社
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。実習がある場合は白衣を忘れないようにすること。 講義の録音、録音、写真撮影等をしないこと。講義資料は授業に出席している学生さんのためのものであるため、SNS、オンラインなどで拡散をしないこと。
履修者への要望事項	免疫学は臨床医学の広い分野に関連する。 将来患者様の力になれるように積極的に真面目に学ぶこと。
アクティブ・ラーニング	新型コロナウイルス感染対策を取りつつ、各講義中に可能な範囲でアクティブラーニングを行う(対面またはオンライン)。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：免疫学分野：山崎、今井、志馬 内線：8186、電子メール：immunol@med.nagoya-cu.ac.jp 月、水 12:00～16:00(事前に連絡すること)
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員または免疫学を専門とする研究者としての経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	質問などがある場合は、必ず事前に上記の連絡先にオフィスアワーに連絡をとること。
関連URL	

免疫学 担当教員

所属・職名	氏名
免疫学分野・教授	山崎 小百合
免疫学分野・講師	今井 優樹
免疫学分野・講師	志馬 寛明
名古屋大学・教授・ 国立がん研究センター免疫TR分野・分野長	西川 博嘉
和歌山医大・教授	改正恒康
星薬科大学・准教授	築地 信
メッシーナ大学・教授	Guido Ferlazzo
カロリンスカ研究所・教授	Mikael Karlsson

免疫学 授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
1	17	月	3	免疫学序論・概念・歴史・リンパ組織・免疫反応概論	山崎
			4	生体防御機構1	今井
	24	月	3	生体防御機構2 補体系	今井
			4	自然免疫系・TLR	志馬
	31	月	3	免疫担当細胞1(マクロファージ、顆粒球)	今井
			4	樹状細胞	山崎
2	7	月	3	免疫担当細胞2(T、B、NK、NKT)	今井
			4	抗原提示・MHC・副刺激分子	山崎
	14	月	3	B細胞の基礎・抗体産生	今井
			4	自己寛容 Treg	山崎
	21	月	3	T細胞の機能とシグナル伝達・T細胞分化	今井
			4	サイトカインの機能とシグナル伝達・接着分子	志馬
	24	木	1	自己免疫疾患	山崎
			2	腫瘍免疫	西川
	28	月	3	アレルギー	山崎
			4	粘膜免疫・腸管免疫	志馬
3	3	木	1	B細胞の機能とシグナル伝達・B細胞レパトア	築地
			2	獲得免疫系・抗体の多様性・遺伝子再構成	築地
			3	感染免疫	今井
			4	マクロファージ・B細胞	山崎/Karlsson
	7	月	3	炎症とがん	志馬
			4	NK細胞・自然リンパ球	山崎/Ferlazzo
	10	木	1	アポトーシス・オートファジー・異物排除	志馬
			2	遺伝子改変マウス・樹状細胞サブセット	改正
			3	実習 抗原抗体反応1	全教員
			4	実習 抗原抗体反応2	全教員
	11	金	3	移植免疫・皮膚免疫・神経免疫・老化と免疫・免疫不全症	山崎
	17	木	1	実習 免疫細胞1	全教員
			2	実習 免疫細胞2	全教員
			3	実習 免疫細胞3	全教員
			4	実習 免疫細胞まとめ	全教員
4	25	月	3-4	本試験	全教員
6	27	月	1-2	再試験	全教員

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	病理学コース 病態病理・臨床病理
専門・教養	専門
担当教員	実験病態病理学（病理学第1講座） 教授 高橋 智、稲熊 真悟（東部医療センター）、渋谷 恭之（口腔外科学） 准教授 内木 綾 講師 加藤 寛之 助教 小村 理行 非常勤講師 津田 洋幸、小川 久美子、山下 聡 臨床病態病理学（病理学第2講座） 教授 稲垣 宏 准教授 村瀬 貴幸（病院病理部） 准教授 正木 彩子 助教 津田 香那 助教 藤井 慶一郎 非常勤講師 坂本祐真、岩崎靖、服部日出雄
講義期間・曜日・時限	2022年1月12日（水）～7月6日（水） 火曜日 1限-2限、水曜日 1限-4限 木曜日1-4限

授業目的・目標	生物には形態と機能の両面がある。この二つの面が有機的に統合され個体の生命現象が営まれている。人間の疾病も病的な機能状態（臨床症状）とその形態像（病理所見）により規定されることが多く、絶えず両者の対比検討が行われている。病理学はこれらの探求のため病理形態を基礎とし疾病の起こり方、原因、進展の様相、治療効果の判定等に至るまで考究する。従って病理学では疾患の形態学的所見を詳細に観察し、克明に記載する訓練と疾病を相互関連性の上になつて総合する力を養うことが必要である。これらの目的のため、疾患臓器を肉眼的に観察し、その組織学的変化を顕微鏡によって観察し記録することにより疾病の形態像を有機的に把握する。また、その背後の超微形態像、分子生物学的変化についても学ぶ。
キーワード	実験病態病理学（病理学第1講座） 腫瘍学 消化器 肝・胆・膵 乳腺 皮膚 腎・泌尿器 口腔 臨床病態病理学（病理学第2講座） 循環器 血液 呼吸器 神経 骨・軟部
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰ-a, d、Ⅱ-d, e、Ⅲ-a, b、Ⅳ-a, b, d
学習到達目標	病理形態を基盤として、疾患の成り立ち、種類、その原因を系統的に理解できるようにする。 【該当するモデルコアカリキュラム】 C-4-2)細胞傷害・変性と細胞死、C-4-3)代謝障害、C-4-4)循環障害、臓器不全、C-4-5)炎症と創傷治療、C-4-6)腫瘍、D-1 血液・造血器・リンパ系、D-2 神経系、D-3 皮膚系、D-4 運動器（筋骨格）系、D-5 循環器系、D-6 呼吸器系、D-7 消化器系、D-8 腎・尿路系、D-9 生殖機能、D-11 乳房、D-12 内分泌・栄養・代謝系、D-14 耳鼻・咽喉・口腔系、E-2 感染症、E-3 腫瘍、E-4 免疫・アレルギー、E-5 物理・化学的因子による疾患、E-6 放射線の生体影響と放射線障害、E-8 加齢と老化、E-9 人の死
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	医学部3年（2022年1月より実施） ・病理学総論 ・病理学各論 【講義】 【実験病態病理学】 口腔、咽頭・頸部、消化管・腹膜、肝臓、胆嚢、膵臓、泌尿器、男性生殖器、女性生殖器、 乳腺、皮膚、小児病理 【臨床病態病理学】 循環器、呼吸器、縦隔組織、造血器、リンパ組織、内分泌臓器、中枢神経系、骨軟部組織、細胞診断 【実習】 肉眼病理学（必要に応じて行う）、組織病理学
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の内容を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	実験病態病理学（病理学第1講座） 実習試験 不合格者は本試験より10点減点（6割以上で合格） 本試験 60点以上合格 臨床病態病理学（病理学第2講座） 本試験90% 実習試験10%を基準に評価する。
教科書・テキスト	
参考文献	参考文献) 標準病理学第4版、坂本稔彦編集、医学書院、2010 ロビンス基礎病理学原書8版、Vinay Kumar他、丸善出版、2011 Robbins Basic Pathology 9th ed.、Vinay Kumar他、W.B. Saunders Company、2012 カラールービン病理学—臨床医学への基盤— E.ルービン他編著 西村書店 2007 組織病理アトラス第5版、小池盛雄他、文光堂、2005 病理組織の見方と鑑別診断カラーアトラス第5版、松原修他、医歯薬出版、2007
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	実習授業ではグループで臨床を検討することもある。
連絡先・オフィスアワー	実験病態病理学 高橋智 月曜日～金曜日、16:00-17:15（事前に連絡が必要）、 医学部研究棟5階 内線8156 E-mail : sattak@med.nagoya-cu.ac.jp 臨床病態病理学 稲垣宏 月曜日～金曜日、16:00-17:15（事前に連絡が必要）、 医学部研究棟5階 内線8161 E-mail : hinagaki@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

病理学 担当教員

所属・職名(第1病理)

実験病態病理学分野・教授
 実験病態病理学(東部医療センター)・教授
 口腔外科学分野・教授
 実験病態病理学分野・准教授
 実験病態病理学分野・講師
 実験病態病理学分野・助教
 名古屋市立大学・特任教授
 国立医薬品食品衛生研究所・病理部・部長
 国立がん研究センター・エピゲノム解析分野・ユニット長

氏名

高橋 智
 稲熊 真悟
 渋谷 恭之
 内木 綾
 加藤 寛之
 小村 理行
 津田 洋幸
 小川 久美子
 山下 聡

所属・職名(第2病理)

臨床病態病理学分野・教授
 臨床病態病理学分野(病院病理部)・准教授
 臨床病態病理学分野・准教授
 臨床病態病理学分野・助教
 臨床病態病理学分野・助教
 臨床病態病理学
 愛知医科大学・医学部・教授
 名古屋徳州会病院 病理診断科長

氏名

稲垣 宏
 村瀬 貴幸
 正木 彩子
 津田 香那
 藤井 慶一郎
 坂本 祐真
 岩崎 靖
 服部 日出雄

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	12	水	1	病理学入門	2 稲垣
			2	実験病理学入門	1 高橋
			3	腫瘍病理学-1(腫瘍の概念と特徴・原因)	1 加藤
			4	腫瘍病理学-2(転移・進展)	1 加藤
1	19	水	1	先天異常・奇形	1 高橋
			2	消化器病理-唾液腺・食道	1 加藤
1	26	水	1	傷害に対する組織反応-1	2 稲垣
			2	傷害に対する組織反応-2	2 稲垣
			3	代謝障害	2 藤井
			4	循環器病理(総論)	2 正木
2	2	水	1	縦隔の病理	2 村瀬
			2	循環器病理(心)	2 村瀬
			3	感染症	2 藤井
			4	免疫病理学	2 正木
2	9	水	1	血液病理-1	2 稲垣
			2	血液病理-2	2 稲垣
			3	消化器病理-胃1	1 小村
			4	消化器病理-胃2	1 小村
2	16	水	1	呼吸器病理-1	2 村瀬
			2	呼吸器病理-2	2 村瀬
			3	肝臓の病理-1	1 内木
			4	肝臓の病理-2	1 内木
3	2	水	1	病理遺伝子診断	2 坂本
			2	運動器・膠原病の病理	2 村瀬
			3	実習(消化器-1)	① 小村
			4	実習(消化器-2)	① 小村
3	9	水	1	毒性病理学-1	1 津田(洋)
			2	毒性病理学-2	1 津田(洋)
			3	内分泌病理の病理	2 稲垣
			4	肝臓病理-3	1 加藤
3	16	水	1	消化器病理-腸1	1 稲熊
			2	消化器病理-腸2	1 稲熊
			3	実習(循環器-1)	② 第2病理全員
			4	実習(循環器-2)	② 第2病理全員
4	6	水	1	実習(内分泌-1)	② 第2病理全員
			2	実習(内分泌-2)	② 第2病理全員
			3	実習(消化器-3)	① 小村
			4	実習(消化器-4)	① 小村
4	12	火	1	神経病理-1	2 岩崎
			2	神経病理-2	2 岩崎
4	13	水	1	膵臓の病理-1(含む胆道)	1 内木
			2	膵臓の病理-2	1 内木
			3	脳腫瘍の病理	2 稲垣
			4	骨・軟部腫瘍の病理	2 正木
4	19	火	1	神経病理-3	2 岩崎
			2	神経病理-4	2 岩崎
4	20	水	1	泌尿器病理-1(腎臓-1)	1 高橋
			2	泌尿器病理-2(腎臓-2)	1 高橋
			3	リンパ組織病理-1	2 正木
			4	リンパ組織病理-2	2 正木
	26	火	1	実習(神経-1)	2 岩崎
			2	実習(神経-2)	2 岩崎
	27	水	1	泌尿器病理-3(膀胱)	1 内木
			2	生殖器病理-1(前立腺・精巣)	1 高橋
			3	実習(肝臓-1)	① 加藤
			4	実習(肝臓-2)	① 加藤
5	10	火	1	細胞診断学	2 服部
			2	自習(予備日)	
5	11	水	1	実習(胆道・膵臓-1)	① 内木
			2	実習(胆道・膵臓-2)	① 内木
			3	実習(呼吸器-1)	② 第2病理全員
			4	実習(呼吸器-2)	② 第2病理全員

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
5	17	火	1	実習(消化器-5)	① 稲熊
			2	実習(消化器-6)	① 稲熊
5	18	水	1	乳腺病理	1 高橋
			2	皮膚・感覚器病理	1 小川
			3	循環器病理(血管)	2 正木
			4	肺癌の病理	2 村瀬
5	24	火	1	小児病理	1 稲熊
			2	腫瘍の分子病理学	1 山下(聡)
5	25	水	1	実習(血液-1)	② 第2病理全員
			2	実習(血液-2)	② 第2病理全員
			3	実習(呼吸器-3)	② 第2病理全員
			4	実習(呼吸器-4)	② 第2病理全員
5	31	火	1	実習(乳腺・生殖器-1)	① 加藤
			2	実習(乳腺・生殖器-2)	① 加藤
6	1	水	1	実習(肺癌・縦隔腫瘍-1)	② 第2病理全員
			2	実習(肺癌・縦隔腫瘍-2)	② 第2病理全員
			3	実習(血液-3)	② 第2病理全員
			4	実習(血液-4)	② 第2病理全員
6	7	火	1	実習(皮膚-1)	① 小村
			2	実習(皮膚-2)	① 小村
6	8	水	1	実習(泌尿器-1)	① 高橋
			2	実習(泌尿器-2)	① 高橋
			3	自習(予備日)	
			4	自習(予備日)	
6	14	火	1	歯、口腔病理-1	1 渋谷
			2	歯、口腔病理-2	1 渋谷
6	15	水	1	生殖器病理-2(子宮)	1 小村
			2	生殖器病理-3(胎盤・卵管・卵巢)	① 高橋
			3	自習(予備日)	
			4	自習(予備日)	
	16	木	1	実習(骨軟部-1)	② 第2病理全員
			2	実習(骨軟部-2)	② 第2病理全員
			3	実習(リンパ組織-1)	② 第2病理全員
			4	実習(リンパ組織-2)	② 第2病理全員
6	21	火	1	自習(予備日)	
			2	自習(予備日)	
6	22	水	1	実習(泌尿器-3)	① 加藤
			2	実習(泌尿器-4)	① 加藤
			3	自習(予備日)	
			4	自習(予備日)	
6	23	木	1	実習(生殖器-3)	① 内木
			2	実習(生殖器-4)	① 内木
			3	自習(予備日)	
			4	自習(予備日)	
6	28	火	1	自習(予備日)	
6	29	水	1	実習試験(2病)	
			2	実習試験(2病)	
7	5	火	1	実習試験(1病)	
			2	実習試験(1病)	
7	6	水	1	自習(予備日)	
			2	自習(予備日)	
7	11	月	3	病理2本試験	
			4	病理2本試験	
	19	火	1	病理1本試験	
			2	病理1本試験	

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	薬理学コース・薬理学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	大矢 進, 鬼頭宏彰, 遠藤京子, 齊藤貴志, 野村 洋, 今井優樹, 伊藤猛雄
講義期間・曜日・時限	前期(1/7～5/30)・木曜日3・4限目、金曜日1・2限目または3・4限目

授業目的・目標	薬物と生体の相互作用について理解し、安全かつ適切な薬物療法を行うための基本的な学識を身につける。最新の薬物療法に対応できる基礎的知識を修得し、治療薬適用の具体例や薬物療法の展望について理解する。
キーワード	中枢神経系作用薬, 末梢神経系作用薬, 循環器系作用薬, 消化器系作用薬, 免疫、呼吸器系作用薬
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	Ia, Ic, IIe, IIIa, IIIb, III d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬理作用の基本的概念とその定量的表現, 薬物の副作用と毒性, 薬物の長期反復投与の問題点について説明できる 2. 各種病態における薬物の生体調節作用を理解し, 基本的かつ重要な薬物についてその薬理作用, 作用機序, 副作用および薬物代謝を説明できる。 3. 種々の薬物の臨床適応の具体例を挙げ, 実際の薬物療法について説明できる。 4. 薬物投与方法と薬物の体内動態について説明できる。 5. 薬物相互作用, 薬物反応の個人差について, 具体例を挙げ, 説明できる。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】</p> <p>C-3-3), C-5-6), D-1-4), D-2-4), D-5-4), D-6-4), D-7-4), D-9-4), D-12-4), D-13-4), E-3-3), E-4-3)</p>
成績評価基準	<p>秀: 90点以上 (学修到達目標を越えたレベルを達成している)</p> <p>優: 80点以上 (学修到達目標を十分に達成している)</p> <p>良: 70点以上 (学修到達目標を達成している)</p> <p>可: 60点以上 (学修到達目標を最低限達成している)</p> <p>※ 履修規程のとおり, 評価する。</p>
授業概要	<p>講義 (全30回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総論 2. 自律神経系作用薬 3. 体性神経系作用薬 4. 中枢神経系作用薬 5. 循環器系作用薬 6. 消化器系作用薬 7. 代謝・内分泌系作用薬 8. 免疫・炎症系作用薬 9. 血液系作用薬 10. 呼吸器系作用薬 11. 抗がん薬 <p>実習 (全4回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の吸収・分布・排泄 2. 自律神経系作用薬 3. 循環器作用薬 (シミュレーション学習) 4. 末梢性筋弛緩薬 <p>演習 (アクティブラーニング) (全1回, 180分)</p>
授業計画	薬理学コース・薬理学ユニットの「授業計画」を参照すること。
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	<p>講義: 学修内容が多いため, 教科書を予習すること (1週当たり60分程度)。また, 解剖学及び生理学で学修した関連知識を復習すること。講義中に実施する演習問題等で修得の到達度を各自確認し, 学修内容を復習すること (1週当たり60分程度)。</p> <p>実習: 事前に実習書 (実習ガイダンス時に配布予定) を熟読し, 使用する薬物の薬理作用について理解すること。</p>
成績評価方法	筆記試験 (中間試験40%, 期末試験40%), 実習レポート (20%) 実習レポートでは, 特に独自性を評価の対象とする (実習ガイダンスにて説明)。アクティブラーニングにおける取組姿勢や発表・参加の態度についても適宜評価する。
教科書・テキスト	「薬がみえる」 vol. 1-4, メディックメディア
参考文献	<p>「詳解 薬理学」香月博志, 成田 年, 川畑篤史 編著 廣川書店</p> <p>「NEW薬理学 改訂第7版」田中千賀子, 加藤隆一, 成宮 周 編集 南江堂</p> <p>「Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics」, ed. Brunton, L.L., Chabner, B.A., Knollman, B.C. (eds) McGraw-Hill</p>
履修上の注意事項	講義資料は、講義の開始直前に配布する。履修規程を理解しておくこと。
履修者への要望事項	講義前に生理学, 生化学, 解剖学で学修した関連知識について復習すること。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングでは, 10名程度を1グループとして, 事前に指定した課題 (疾患) に関してグループディスカッションした内容をまとめる。口頭発表によりプレゼンテーションし, 質疑応答を行う。
連絡先・オフィスアワー	<p>月～金 9:00～17:00(事前に連絡すること) ・電話 052-853-8151 (内線8151) (研究棟8F)</p> <p>大矢 進 (sohya@med.nagoya-cu.ac.jp) 鬼頭 宏彰 (kito@med.nagoya-cu.ac.jp)</p> <p>遠藤 京子 (k.endo@med.nagoya-cu.ac.jp) 齊藤 貴志 (saito-t@med.nagoya-cu.ac.jp)</p> <p>野村 洋 (hnomura@med.nagoya-cu.ac.jp)</p>
実務経験を活かした教育の取組	
備考	中間試験, 期末試験の試験範囲はそれぞれ全体の半分ですが, 再試験の試験範囲は, 全体になります。
関連URL	

薬理学 担当教員

所属・職名	氏名
薬理学分野・教授	大矢 進
薬理学分野・助教	鬼頭 宏彰
薬理学分野・助教	遠藤 京子
認知症科学分野・教授	齊藤 貴志
認知機能病態学・教授	野村 洋
免疫学分野・講師	今井 優樹
名誉教授	伊藤 猛雄

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	7	金	1	薬理学総論(1)	大矢
1	7	金	2	薬理学総論(2)・薬物依存	大矢
1	14	金	1	末梢性・中枢性筋弛緩薬(1)	鬼頭
1	14	金	2	末梢性・中枢性筋弛緩薬(2)	鬼頭
1	21	金	1	副交感神経刺激薬	大矢
1	21	金	2	副交感神経遮断薬	大矢
1	28	金	1	交感神経刺激薬	大矢
1	28	金	2	交感神経遮断薬・緑内障治療薬	大矢
2	4	金	1	消化器系疾患治療薬(1)	大矢
2	4	金	2	消化器系疾患治療薬(2)	大矢
2	18	金	1	呼吸器系・内分泌系疾患治療薬	大矢
2	18	金	2	脂質異常症・高尿酸血症治療薬	鬼頭
2	25	金	1	認知症治療薬	齊藤
2	25	金	2	パーキンソン病治療薬・片頭痛治療薬	大矢
3	4	金	1	糖尿病治療薬	伊藤
3	4	金	2	抗がん薬(化学療法薬)	鬼頭
3	4	金	3	免疫・炎症・アレルギー系疾患治療薬(1)	今井
3	4	金	4	免疫・炎症・アレルギー系疾患治療薬(2)	今井
3	11	金	1	血液系疾患治療薬	遠藤
3	11	金	2	心不全治療薬	大矢
3	18	金	3	抗不整脈薬	遠藤
3	18	金	4	利尿薬・実習ガイダンス	鬼頭
3	22	火	3	中間試験	
4	7	木	3,4	薬理学実習(1)	大矢、鬼頭、遠藤
4	8	金	3	睡眠薬・抗不安薬	大矢
4	8	金	4	抗てんかん薬	大矢
4	14	木	3,4	薬理学実習(2)	大矢、鬼頭、遠藤
4	15	金	1	全身麻酔薬・鎮痛薬	遠藤
4	15	金	2	狭心症治療薬	鬼頭
4	15	金	3	高血圧・低血圧治療薬	鬼頭
4	15	金	4	血管拡張薬	鬼頭
4	21	木	3,4	薬理学実習(3)	大矢、鬼頭、遠藤
4	22	金	1	統合失調症治療薬	野村
4	22	金	2	気分障害治療薬	大矢
4	28	木	3,4	薬理学実習(4)	大矢、鬼頭、遠藤
5	13	金	1,2	薬理学演習(アクティブラーニング)	大矢、鬼頭、遠藤
5	30	月	3	期末試験	
8	26	金	3	再試験	

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	社会医学コース・医学・医療倫理ユニット
専門・教養	専門
担当教員	齋藤伸治、戸澤啓一、杉浦真弓、鈴木伸宏、岡本 尚、神谷 武、内田 恵、青木康博
講義期間・曜日・時限	6月17、24、7月1日（金）、6月30日（木）1・2限

授業目的・目標	医療を行い、あるいは医学の研究開発を行う上ではさまざまな倫理的な問題と向き合う必要があり、またその普遍的倫理を基盤とした法的な制約、規制等がある。本講義では臨床実務上および臨床研究実施上生ずる諸問題につき検討することを通じ、医学・医療倫理に関する基礎的知識や思考法をさまざまな側面から学び、理解する。
キーワード	医学研究倫理、インフォームド・コンセント、医療倫理、終末期医療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	Ic, IIa, IIId, IIe, IIIc, IVa
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学・医療の発達に伴って生ずる倫理的諸問題を指摘できる。 2. ベルモント三原則、ヘルシンキ宣言について説明できる。 3. 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」「臨床研究法」について概説できる。 4. 医学研究、臨床試験、治研の目的やデザインについて、法的規制と関連付けて説明できる。 5. 医学研究におけるデュアルユース問題と対策について概説できる。 6. 生殖医療の現状およびその倫理的問題について、法的規制と関連付けて説明できる。 7. 遺伝子診断・遺伝医療の基本的事項を指摘し、遺伝カウンセリングのあり方について概説できる。 8. 患者の自己決定権や患者-医師関係に関する原則および具体的対応手順について説明できる。 9. 終末期医療およびその倫理的・法的問題について概説できる。 10. 医療事故の発生要因を理解し、医療の安全を確保するシステム・制度のあり方を概説できる。 11. 守秘義務に関する医療倫理と刑事司法との関係について概説できる。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】</p> <p>A-1-1) 医の倫理と生命倫理, A-1-2) 患者中心の視点, A-1-3) 医師としての責務と裁量権, A-4-1) コミュニケーション, A-4-2) 患者と医師の関係, A-6-1) 安全性の確保, A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防, B-2-1) 死と法, B-2-2) 診療情報と諸証明書, B-3-1) 倫理規範と実践倫理, B-4-1) 医師に求められる社会性, E-1-1) 遺伝医療・ゲノム医療と情報の特性, E-9-1) 生物的死と社会的死, F-2-16) 緩和ケア, F-3-3) 診療録(カルテ)</p>
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学研究に関する倫理的原則やそれに基づく指針について、具体的に学習する。 2. 医学研究、臨床試験、治研に関する制度、倫理的・法的規制について学習する。 3. 生殖医療、遺伝子診断、遺伝医療および遺伝カウンセリングの現状、倫理的問題、法的規制について学習する。 4. あるべき患者-医師関係に根ざした患者の自己決定権の上に成り立つ医療のイメージを学習する。 5. 医療の安全確保に関する制度設計や基本原則について学習する。 6. 医療倫理と法規制との相互関係について、具体的に学習する。
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	下記参考文献を参照し、予・復習をされたい。
成績評価方法	規定以上の出席を前提に、定期試験の結果で評価する。
教科書・テキスト	・各講義において資料を配布する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」 http://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n1443_01.pdf ・日本学術会議「提言：病原体研究に関するデュアルユース問題」 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-t184-2.pdf ・日本医師会「医師の職業倫理指針」 http://dl.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20161012_2.pdf ・インフォームドコンセントの在り方に関する検討会報告書(1995年) http://www.umin.ac.jp/inf-consent.htm ・厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」 https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10802000-Iseikyoku-Shidouka/0000197701.pdf
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	対話・議論型授業を取り入れる。
連絡先・オフィスアワー	月曜日～金曜日（09:00～18:00 随時） 青木康博 連絡先： Tel： 052-853-8179, E-mail： aokiy@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての実務経験を有する教員が全講義を担当する。
備考	
関連URL	

2022年1月～2022年12月 第2学年・第3学年

医学・医療倫理ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
新生児・小児医学分野 教授	齋藤伸治
医療安全学分野 教授	戸澤啓一
名誉教授(前細胞分子生物学分野 教授)	岡本 尚
次世代医療開発分野 教授	神谷 武
産科婦人科学分野 教授	杉浦真弓
臨床遺伝医療部 准教授	鈴木伸宏
緩和ケア部 助教	内田 恵
法医学分野 教授	青木康博

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	17	金	1	医学研究倫理	齋藤伸治
6	17	金	2	インフォームド・コンセント	戸澤啓一
6	24	金	2	遺伝カウンセリング	鈴木伸宏
6	28	火	2	医学研究とデュアルユース問題: 研究倫理をどのように担保すべきか	岡本 尚
6	30	木	1	生殖医療とヒトゲノム倫理	杉浦真弓
6	30	木	2	臨床研究・治験と医療倫理	神谷 武
7	1	金	1	ターミナル・ケア	内田 恵
7	1	金	2	刑事司法と医療倫理	青木康博

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	社会医学コース・法医学科学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	青木康博, 加藤秀章, 菅野さな枝, 福田真未子 非常勤講師: 安達 登, 三枝 聖, 山田良広
講義期間・曜日・時限	2022年1月～2022年5月・火曜・3～4限

授業目的・目標	授業目的: 法医学の専門領域に対する医学・医療および社会からの要請を理解する。 授業目標: 法病理学, 法中毒学, 法医人類学等に関する基礎的知識を習得し, 法医学的諸問題について, 臨機応変かつ的確に案件処理ができる能力を修得する。
キーワード	法病理学, 法中毒学, 法医遺伝学, 法医人類学, 法歯学
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	Ia, Ic IIIb, IIIc, IVd
学習到達目標	1. 法医学が果たすべき社会的義務について説明できる。 2. 生活反応, 死後変化の原因・鑑別法を説明できる。 3. 各種損傷の成因および特徴的所見を説明できる。 4. 窒息死体の所見および死に至る機序を説明できる。 5. 異常環境における死について所見を説明できる。 6. 突然死, 内因性急死の医学的・社会的問題について説明できる。 7. 小児の死に関連する法的・医学的問題について説明できる。 8. 死因の概念を説明できる。 9. 個人識別の基本原則を説明できる。 10. DNA多型, 血液型についてその生化学的・遺伝学的背景を説明できる。 11. 大規模災害時の法医学活動の概要を説明できる。 12. 有機リン剤, 有機塩素剤による中毒死の死体所見と機序が説明できる。 13. 有毒ガスによる中毒死の死体所見の特徴と機序が説明できる。 14. 覚せい剤中毒の機序が説明できる。 15. 薬物に対する精神的依存および身体的依存について説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 B-2-1) 死と法, B-2-2) 診療情報と諸明書, E-9 人の死, F-1-37) 外傷・熱傷
成績評価基準	秀: 90点以上 (学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優: 80点以上 (学修到達目標を十分に達成している) 良: 70点以上 (学修到達目標を達成している) 可: 60点以上 (学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	講義項目 1. 法病理学 1) 死後経過時間 a. 死体現象 b. 昆虫学的証拠による推定 2) 損傷 (鈍器損傷, 鋭器損傷, 銃器損傷, 交通事故損傷) 3) 窒息, 致命的頸部圧迫 4) 内因性急死 5) 小児法医学 6) 異常環境による死 2. 法中毒学 1) アルコールの法医学 2) 有毒ガスによる中毒 3) 農薬 4) 乱用薬物 5) 工業化学物質, その他 3. 個人識別 1) 法歯学的個人識別 2) 遺伝形質による個人識別およびヒトの系統解析 3) 骨検査 4) 大規模災害時の法医学活動 (実習) 1. 血液型, 2. 法中毒学的検査, 3. DNA多型, 4. 血痕検査 具体的な講義・実習日程については別表を参照されたい。
授業計画	2021年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	事前に配布される資料がある場合, それを用いて予習をしておくこと。 特に実習書については, 事前に目を通し, 実習の目的および手順について理解しておくこと。また, 実験終了後に得られた実験結果について, よく考察すること。
成績評価方法	筆記試験 100% (但し全実習の出席を要件とする) 筆記試験においては, 法医学の各分野に関する基礎的知識や解釈だけでなく, 問題解決能力も評価のポイントとする。また特に実習内容の理解度については, 個別の項目ごとに評価する。
教科書・テキスト	特に教科書を指定しないが, 法医学に関し系統的に記載された下記の成書等を利用して学習されたい。 「NEWエッセンシャル法医学 第5版」高取健彦監修 医歯薬出版 2019年 「法医学 改訂第3版」福島弘文編 南山堂 2015年 「臨床法医学テキスト 第2版」佐藤喜宣編 中外医学社 2012年 「臨床のための法医学 第6版」澤口彰子編 朝倉書店 2010年 「死体検案ハンドブック 第4版」近藤稔和・木下博之編 金芳堂 2020年
参考文献	講義ノートなどをweb上にて公開する 「薬物乱用・中毒百科-覚醒剤から咳止めまで」内藤裕史著 南江堂 2011年 「死体検案マニュアル2017」日本法医学会編 日本法医学会 2017年
履修上の注意事項	一部の講義資料はLive Campus 経由で配布する。
履修者への要望事項	生化学, 解剖学, 病理学, 薬理学等で得た知識と関連付けて内容を理解するように努められたい。
アクティブ・ラーニング	症例検討など問題解決型授業を行う。
連絡先・オフィスアワー	月, 火, 水, 金 9:00～18:00 (事前に連絡すること) 内線 8179, 8181 青木康博 aokiy@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	法医学実務 (解剖鑑定・法中毒学的検査等) の経験を有する教員が全講義・実習を担当する。
備考	第6学年法医学診断学にて, 発展的な演習を行う。
関連URL	http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/legal.dir/

法医学科学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科法医学分野 教授	青木康博
医学研究科法医学分野 准教授	加藤秀章
医学研究科法医学分野 講師	菅野さな枝
医学研究科法医学分野 助教	福田真未子
山梨大学 教授	安達 登
岩手医科大学 准教授	三枝 聖
神奈川歯科大学 教授	山田良広

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	11	火	3	法医学総論	青木康博
			4	死体現象・死後経過時間	青木康博
1	18	火	3	損傷総論	青木康博
			4	鈍器損傷	青木康博
1	25	火	3	鋭器損傷	青木康博
			4	銃器損傷	青木康博
2	1	火	3	交通事故損傷I	青木康博
			4	交通事故損傷II	青木康博
2	8	火	3	臓器別損傷・損傷死死因	青木康博
			4	窒息総論	青木康博
2	15	火	3	頸部圧迫	青木康博
			4	溺水・水中死体	青木康博
2	22	火	3	法医学人類学特講	安達 登
			4	法昆虫学	三枝 聖
3	8	火	3	焼死/寒冷死・感電	加藤秀章
			4	内因性急死	加藤秀章
3	15	火	3	虐待	加藤秀章
			4	嬰兒殺	加藤秀章
4	12	火	3	骨検査	青木康博
			4	個人識別・大規模災害	青木康博
4	18	月	1	法中毒学総論	菅野さな枝
			2	法中毒学各論I	菅野さな枝
4	19	火	3	法歯学	山田良広
			4	法中毒学各論II	菅野さな枝
4	26	火	3	血液型	青木康博
			4	DNA多型・DNA鑑定	福田真未子
5	10	火	3	実習I 法医学的物体検査	全教員
			4	実習I 法医学的物体検査	全教員
5	17	火	3	実習II 法医学的物体検査	全教員
			4	実習II 法医学的物体検査	全教員
5	24	火	3	実習III 法中毒学の検査	全教員
			4	実習III 法中毒学の検査	全教員
5	31	火	3	実習IV 法中毒学の検査	全教員
			4	実習IV 法中毒学の検査	全教員

開講年度	2022年1月～12月
科目名	行動科学・地域医療学コース・神経科学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	道川 誠、浅井清文、間瀬光人、松川則之、飛田秀樹、鷗川真也、澤本和延、植木美乃、南部篤、福田敦夫、和氣弘明
講義期間・曜日・時限	2021年3月1日（月）から6月3日（木）

授業目的・目標	脳機能を支える分子基盤を理解し、神経疾患の原因、治療、予防などを理解するための基本知識を得るために、神経科学領域の分子、細胞レベルでの基礎知識を習得するとともに、神経疾患の病因の分子基盤を理解する。
キーワード	神経最先端研究、新研究手法、神経科学
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1a, 1d, 4d
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系を構成する細胞の特性を説明できる。 2. 神経系の発生を説明できる。 3. 神経伝達物質の種類、シナプスの種類と構造、シナプス伝達の機序を説明できる。 4. 神経系におけるトランスポーターの機能を説明できる。 5. 神経系にみられる可塑性、記憶、学習の分子基盤について説明できる。 6. 血液脳関門の機能を説明できる。 7. 神経の変性と再生の機序を理解する。 8. 神経疾患および精神疾患の分子基盤を理解する。 9. 神経系腫瘍の特徴を理解する。 <p>【該当するモデルコアカリ】 A-8-1) 医学研究への志向の涵養 A-9-1) 生涯学習への準備 C-2-2)-(1) 組織・各臓器の構造と機能 C-2-3)-(1) 情報伝達の基本 C-2-3)-(2) 神経による情報伝達の基礎 C-4-6) 腫瘍</p>
成績評価基準	合格：60点以上（学修到達目標を達成している）
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・動物的機能と情動の生後発達 2. 脳内出血後の神経回路シフト 3. 神経ネットワーク形成の分子機構 4. 感覚器の分子生物学 5. 精神神経疾患と神経科学 6. 神経再生医学 7. 血液脳関門 8. グリアと神経病態 9. アルツハイマー病の分子神経生物学 10. 神経変性疾患の分子生物学 11. 脳脊髄液と神経病態 12. 特別講義
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	
成績評価方法	筆記試験
教科書・テキスト	なし
参考文献	参考文献 "Principles of Neural Science" Eric R. Kandel et al., McGraw-Hill Publishing Co. "Basic Neurochemistry" George Siegel et al., Raven Press
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	2年で学習した解剖学、生理学、生化学における関連項目を復習の上（予習に相当）講義に臨むこと。最新の研究内容についての講義は、配布プリントを元に復習すること。
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	医学研究棟7階 医学研究科脳神経生理学分野 飛田秀樹 内線 8134、電子メール hhida@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2022年1月～12月 第2学年・第3学年

神経科学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
神経生化学 教授	道川 誠
学長（前分子神経生物学 教授）	浅井 清文
脳神経外科学 教授	間瀬 光人
脳神経内科学 教授	松川 則之
脳神経生理学 教授	飛田 秀樹 責任者
機能組織学 教授	鶴川 眞也
神経発達・再生医学 教授	澤本 和延
リハビリテーション医学 教授	植木 美乃
生理学研究所・生体システム研究部門 教授	南部 篤
浜松医科大学・神経生理学 教授	福田 敦夫
名古屋大学・第一解剖学 教授	和氣 弘明

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
5	9	月	3	オリエンテーション・動物的機能と情動の生後発達	飛田 秀樹
			4	神経再生医学	澤本 和延
5	12	木	3	脳内出血後の神経回路シフト	飛田 秀樹
			4	感覚器の分子生物学	鶴川 眞也
5	16	月	3	アルツハイマー病の分子神経生物学	道川 誠
			4	神経変性疾患の分子生物学	松川 則之
5	19	木	3	光を利用した最先端研究(仮)	和氣 弘明
			4	神経・精神疾患とCI homeodynamics	福田 敦夫
5	23	月	3	パーキンソン病の病態と先端研究(仮)	植木 美乃
			4	大脳基底核の最先端研究(仮)	南部 篤
5	26	木	3	血液脳関門 (予定)	浅井 清文
			4	脳脊髄液と神経病態	間瀬 光人
6	2	木	3	予備日	
			4	予備日	
6	6	月	1	予備日	
			2	予備日	

開講年度	2022年度
科目名	行動科学・地域医療学コース・疼痛科学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	祖父江和哉、植木孝俊、草間宣好、大澤匡弘、杉浦健之
講義期間・曜日・時限	6月9日（木）

授業目的・目標	疼痛に関する基礎医学的知識を断片的ではなく、科目横断的に理解し、習得する。
キーワード	
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, 1d, 2d, 3a, 4d
学習到達目標	疼痛に関する基礎医学的知識を学習し、将来、質の高い疼痛管理を様々な診療科や医療チームのなかで提供するための基礎知識を習得する。 【該当するモデルコアカリ】 A-8-1) 医学研究への志向の涵養 C-2-3)-(2) 神経による情報伝達の基礎
成績評価基準	合格：60点以上（学修到達目標を達成している）
授業概要	痛みの神経科学 内臓痛 痛みと中枢神経系イメージング 動物モデルを使用した慢性疼痛に関する研究
授業計画	2022年度 疼痛科学ユニット授業計画を参照のこと
授業時間外の学修（準備学習を含む）	
成績評価方法	客観試験（神経科学試験の一部として行います）
教科書・テキスト	各講義にて配布される資料を参照すること
参考文献	
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	2年生で学習した解剖学、生理学、生化学、感染微生物学などを前もって復習した上で講義に臨むこと
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	平日（月～金）午前9時～午後5時 麻酔科学・集中治療医学分野 祖父江和哉 TEL 052-853-8281（直通）
実務経験を活かした教育の取組	医師・薬剤師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	

2022年1月～2022年12月 第2学年・第3学年

疼痛科学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
麻酔科学・集中治療医学分野・教授	祖父江和哉
麻酔科学・集中治療医学分野疼痛科学部門・教授	杉浦健之
統合解剖学分野・教授	植木孝俊
麻酔科学・集中治療医学分野・准教授	草間宣好
非常勤講師(薬学研究科神経薬理学・准教授)	大澤匡弘

疼痛科学ユニット授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	9	木	1	動物モデルを使用した慢性疼痛に関する研究	大澤
			2	内臓痛	草間
			3	痛みと中枢神経系イメージング	植木
			4	痛みの神経科学	杉浦

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	コミュニティヘルスケア卒前教育 行動科学・地域医療学 コース コミュニティ・ヘルスケア応用 (IPE) ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学研究科：植田典浩、酒々井眞澄、大石久史、川出義浩、菅野さな枝、柿崎真沙子、村上里奈 薬学研究科：鈴木 匡、坂下真大、青木啓将 看護学研究科：明石恵子、山口知香枝、金子典代
講義期間・曜日・時限	2022年5月13日(金)～2022年6月24日(金)

授業目的・目標	【授業目的】 医療系の学生として、人に対する理解を深め、コミュニケーション能力を身につけることを目的としている。 【授業目標】 医療を提供するための基盤を修得し、医療者になることへの自覚を深めるのを目標としている。地域在住高齢者の生活現場において訪問実習を行う。現在の日常生活環境を把握し、健康維持や療養・介護のニーズを調査することにより、将来に向けての提案書を作成する。
キーワード	コミュニティ、ヘルスケア、国際生活機能分類 (ICF)、エイジング・イン・プレイス (AIP)、多職種連携教育 (IPE)
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰの c 領域Ⅱの b, d 領域Ⅲの a, b, c, d 領域Ⅳの a, c
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 老化と高齢者の特徴、超高齢社会における医療の課題について説明できる。 2. 医療系の学生として、相手の状態にあわせた適切なコミュニケーションができる。 3. 訪問実習を通じて、相手との信頼関係を構築できる。 4. 国際生活機能分類 (ICF) の基本的概念を理解し、個人の生活上の課題を適切に評価できる。 5. チームにおける個人情報の共有と保護を適切に行うことができる。 6. 将来の医療者としての自覚を深める。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-2-1) 課題探求・解決能力、A-2-2) 学修の在り方、A-4-1) コミュニケーション、A-4-2) 患者と医師の関係、 A-7-1) 地域医療への貢献、 B-1-6) 社会・環境と健康、B-1-7) 地域医療・地域保健、B-4-1) 医師に求められる社会性、 C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション、 E-8-1) 加齢と老化、 F-2-14) リハビリテーション、F-2-15) 在宅医療と介護、F-3-2) 医療面接
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している
授業概要	エイジング・イン・プレイス (AIP) 社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成するためのプログラムの一環である。 チームでの地域在住高齢者家庭の訪問実習と、そのための準備としての講義・グループワークで構成されている。
授業計画	詳細については、授業計画表を参照。 講義・グループワーク 全6回 (5/13 3-4限、6/3 3-4限、6/24 3-4限) 訪問実習 (2回、5/20と6/17) 5/20、6/17のいずれも13:00に講義室に集合し連絡事項等を確認した後、あらかじめ承諾の得られている高齢者の家庭をチームで訪問する。訪問時に生活や健康状態についての話を聞き取り、その内容を基にして、 ①健康と暮らしのプロファイル、②国際生活機能分類 (ICF) 整理チャート、③エイジング・イン・プレイス (AIP) に向けた提案書、を作成する。 1) 学生はチームで行動し、指定された1世帯を訪問する。 2) 1チームは3～4名とする。各チームに1人の担当教員が割り当てられる。 3) 学生は訪問時に名札を着用する
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、医療系学生チーム訪問実習マニュアル (オリエンテーション時に配布) を予習した上で、実習に臨むこと。 国際生活機能分類 (ICF) の基本的概念について自己学習すること。 エイジング・イン・プレイス (AIP) の基本的概念について自己学習すること。
成績評価方法	2回の家庭訪問、3つのプロダクトの作成と提出、は必須である。 実習時の態度、提出物の提出状況と内容、を総合的に評価する。
教科書・テキスト	医療系学生チーム訪問実習マニュアル(オリエンテーション時に配布)
参考文献	講義時間中に紹介します。
履修上の注意事項	名古屋市立大学では本科目を医学部・薬学部・看護学の専門科目に位置づける (学部によって必修・選択・自由科目のいずれかとなる)。 訪問先とのトラブルや懸念事項が生じたときは、自分たちだけで判断せずに担当教員に報告し相談すること (各チームに1人の担当教員が割り当てられる)。 集合時間、提出期限は厳守すること。
履修者への要望事項	第1回目の講義までに2年時に履修したコミュニティ・ヘルスケア基礎で学んだ超高齢社会の課題について、自分なりの考えをまとめておいてほしい。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	月火木金：9時から16時、水：9時から10時 連絡先：医学・医療教育学 植田典浩 電話：052-853-8502 E-mail: nueda@med.nagoya-cu.ac.jp チーム担当教員との連絡方法はオリエンテーション時に指示する。
実務経験を活かした教育の取組	医師、薬剤師、看護師、としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	平成25年度入学者から適用 「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」「コミュニティ・ヘルスケア基礎」「コミュニティ・ヘルスケア応用」「コミュニティ・ヘルスケア発展」「コミュニティ・ヘルスケア実践」の単位をすべて修得すれば、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの修了認定を受けることができる。 なお、「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」は、教養教育科目「医薬看護連携地域参加型学習」として履修する。 プログラム履修についての詳しい内容は担当教員に確認すること。
関連URL	

2022年1月～2022年12月 第2学年・第3学年

コミュニティ・ヘルスケア応用 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 医学・医療教育学 講師	植田典浩
医学研究科 神経毒性学 教授	酒々井眞澄
医学研究科 病態モデル医学 教授	大石久史
医学研究科 地域医療教育学 特任准教授	川出義浩
医学研究科 法医学 講師	菅野さな枝
医学研究科 医療人育成学 特任講師	柿崎真沙子
医学研究科 リハビリテーション医学 助教	村上里奈
薬学研究科 臨床薬学教育研究センター 教授	鈴木 匡
薬学研究科 臨床薬学教育研究センター 講師	坂下真大
薬学研究科 病態解析学 助教	青木啓将
看護学研究科 クリティカルケア看護学 教授	明石恵子
看護学研究科 地域保健看護学 准教授	山口知香枝
看護学研究科 国際保健看護学 准教授	金子典代

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
5	13	金	3	講義: 超高齢社会の課題／加齢と老化	植田
5	13	金	4	オリエンテーション: 訪問実習から何を学ぶか?	全教員
5	20	金	3-4	第1回 家庭訪問実習(背景調査)	全教員
6	3	金	3-4	グループワーク: ニーズを調査するための計画をたてる	植田
6	17	金	3-4	第2回 家庭訪問実習(ニーズ調査)	全教員
6	24	金	3	国際生活機能分類(ICF)の作成 家庭訪問実習で学んだことの共有	植田
6	24	金	4	グループワーク: 「エイジング・イン・プレイス に向けた提案書」の作成	全教員

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	研究能力養成コース・Scientific Writing and Presentationユニット
専門・教養	専門
担当教員	植田典浩、辻田麻紀、金澤 智、村上里奈、早野順一郎(非常勤講師)、三浦 裕(非常勤講師)
講義期間・曜日・時限	月曜日1-2時限(5/16、6/20)、月曜日3-4限(4/18、6/6)、火曜日3-4限(6/14)

授業目的・目標	医学領域の調査・研究成果を世界の研究者に適切に伝えられるようになるために、英語による科学的文書の作成とプレゼンテーションの基本知識と技法、倫理、科学的な文章を作成することの醍醐味や面白さを学ぶ。
キーワード	科学統計解析、グラフィックプレゼンテーション、科学作文技術、論文投稿、研究倫理
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰの b, c, d 領域Ⅳの d
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 原著論文の役割と意義、構造、倫理を理解することで、医学研究の文献等の情報を吟味してその基本的な妥当性を評価できるようになる。 2. 研究結果から英文でtitle, abstract, figure, tableからなるレポートを作成する基本的な技術を修得することで、医学的知見や医療情報を英語で説明し、国際的に発表することができるようになる。 3. 科学論文の作成の方法、発表における倫理、公表のルールを理解することで、医学論文から得られる科学的知識や科学的理解には限界があり、またそれらは常に更新されていることを理解する。 4. 医学研究の意義、方法、醍醐味を知ること、生涯に亘って継続的に医学知識の向上に務める基本的な姿勢を身につけることができる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-2-2、A-8-1、A-7-2
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している
授業概要	Mini lectureと個人作業、発表と全体討論の繰り返しによる授業を行う。科学的記述では、general to specificを基本構造とするparaphrasing、research questionとanswerを明確にした構成を行う事を授業全体を通じて学習し、科学的レポートの作成技術を学ぶ。また、国際標準に沿った図表の作成技術およびプレゼンテーションの技法を習得する。授業で学んだ研究データのまとめ方と英文abstractの書き方を基に、与えられたデータからabstractと図表を作成し、教員による査読を経て、受理されることをもって合格とする。
授業計画	授業計画表を参照。 4/18月 3限□Orientation / Good slide presentation□植田典浩 4/18月 4限□Ethics and presentation skills□村上里奈 5/16月 1-2限□Statistical analysis of data□早野順一郎 6/6月 3限□Structure of scientific reports□金澤 智 6/6月 4限 □Graphics for scientific reports□早野順一郎 6/14火 3限 □Why scientific writing?□三浦 裕 6/14火 4限 □Title and body of abstract□辻田麻紀 6/20月 1-2限□Write your abstract! (active learning)□全員
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業で学んだ研究データのまとめ方と英文abstractの書き方を基に、 ①与えられたデータからabstractと図表を作成し、onlineで査読者(匿名教員)に提出する。 ②査読者からonlineで返送される査読コメントに基づいて、必要な改訂を行い再提出する。 ③査読者によって受理されるまで①②を繰り返す。進捗状況によっては補講を行う。
成績評価方法	①演習で作成するプロダクト(文章、グラフ)と小テスト(dictation)の回答をもって出席とする。 ②指定されたデータを基に、abstractと図表を作成し、6月20日(最終授業日)23:59までに電子メールに添付して提出すること。 ③提出されたabstractと図表に対して電子メールで返送される査読結果に基づき必要な改訂を行い、2週間以内にメールでの再提出すること。 ④Abstractと図表が9月30日までに受理されること。 ⑤査読に対する改訂版と返事を2週間以内に提出しなかった場合は、毎回、追加課題が課される。その場合は④とともに全ての追加課題を9月30日までに終了することが求められる。 以上、①による出席と、②～⑤を全て満たすことをもって合格とする。 Abstract提出先: ncuswp@gmail.com メールの件名: Abstract_学籍番号_氏名 ←学籍番号 (出席番号は不可) Abstract file名: Abstract_学籍番号_氏名.docx
教科書・テキスト	
参考文献	参考書 A practical guide to the use of scientific English: a skeleton approach for written and oral presentation in the medical field. Malcolm A. Moore and Hiroyuki Tsuda, APOCP ライフ・サイエンスにおける 英語論文の書き方 市原 A. エリザベス, 共立出版 科学論文のセンスを磨く 鈴木英次, 化学同人
履修上の注意事項	①授業の開始時に宿題をもとにしたdictationの小テストを授業開始時に毎回行うので、遅刻をしないこと。 ②指定された形式を守らないabstractは査読されず、正しい形式での再提出を求められます。 ③Abstractと図表は、合格水準に達するまで再提出が求められます。 ④Abstractの修正を指示された時は修正した点を明記して2週間以内に再提出してください。 ⑤再提出が期限より遅れた場合はAbstractに加えて追加課題が課されます。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	授業で学んだ研究データのまとめ方と英文abstractの書き方を基に、 ①与えられたデータからabstractと図表を作成し、onlineで査読者(匿名教員)に提出する。 ②査読者から返送される査読コメントに基づいて、必要な修正を行い2週間以内に再提出する。 ③査読者によって受理されるまで②③を繰り返す。
連絡先・オフィスアワー	月火木金：9時から16時、水：9時から10時 連絡先：医学・医療教育学 植田典浩 電話：052-853-8502 E-mail: nueda@med.nagoya-cu.ac.jp チーム担当教員との連絡方法はオリエンテーション時に指示する。
実務経験を活かした教育の取組	研究者として一線で研究活動を行っている教員が授業・実習、アクティブラーニングにおける査読者を担当する。
備考	
関連URL	

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	研究能力養成コース・先端研究ユニット
専門・教養	専門
担当教員	酒々井眞澄、山川和弘、齊藤貴志、深町勝巳、澤田雅人、川口洋平
講義期間・曜日・時限	2022年5月12日（木）から 6月7日（火）

授業目的・目標	脳神経科学研究所を中心に行われている研究について学び、基礎医学研究について理解を深める。
キーワード	
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1b, 1d, 3a, 3b, 4d
学習到達目標	基礎医学の知識をもとに、先端的な医学研究について理解するとともに、それぞれの研究における成果についても説明できる。 【該当するモデルコアカリ】 A-8-1) 医学研究への志向の涵養, A-9-1) 生涯学習への準備, B-1-6) 社会・環境と健康, C-2-3) 個体の調節機構とホメオスタシス, C-4-1) 遺伝的多様性と疾患, C-4-2) 細胞傷害・変性と細胞死, C-4-6) 腫瘍, D-2-3) 神経系症候, D-2-4) 神経系疾患, E-5-2) 物理・化学的因子による疾患症候
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している
授業概要	1. 発がん動物モデルとその応用 2. グリオスタチンと関節リウマチの基礎研究 3. 嗅覚とニューロン新生 4. 認知症・アルツハイマー病研究の最前線 5. 発達障害とてんかんの分子遺伝学 6. リード化合物と創薬科学
授業計画	
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	毎回講義の最後に講義のポイントアンケートを実施するので、これまでの講義や実習で学習した内容の概要を予習しておくこと
成績評価方法	出席、講義のポイントアンケート、レポートなどを総合的に評価する
教科書・テキスト	各講義にて配布される資料を参照すること
参考文献	各講義にて配布される資料を参照すること
履修上の注意事項	講義参加度、受講態度、提出物の期限厳守
履修者への要望事項	これまでの講義や実習で学習した内容をふまえた上で受講すること
アクティブ・ラーニング	必要に応じて適宜実施する
連絡先・オフィスアワー	医学研究科神経毒性学分野 酒々井眞澄 内線 8991、電子メール suzui@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2022年1月～2022年12月 第2学年・第3学年

先端研究 担当教員

所属・職名	氏名
神経毒性学分野 教授	酒々井眞澄
神経発達症遺伝学分野 教授	山川和弘
認知症科学分野 教授	齊藤貴志
神経毒性学分野 講師	深町勝巳
神経発達・再生医学分野 講師	澤田雅人
グリア細胞生物学分野 助教	川口洋平

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
5	12	木	1	発がん動物モデルとその応用	深町
5	12	木	2	グリオスタチンと関節リウマチの基礎研究	川口
5	19	木	1	嗅覚とニューロン新生	澤田
5	19	木	2	認知症・アルツハイマー病研究の最前線	齊藤
5	26	木	1	発達障害とてんかんの分子遺伝学	山川
6	7	火	4	リード化合物と創薬科学	酒々井

2022年1月～2022年12月 第2学年・第3学年

Scientific Writing & Presentation 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 医学・医療教育学 講師	植田典浩
医学研究科 神経生化学 講師	辻田麻紀
医学研究科 神経発達症遺伝学 講師	金澤 智
医学研究科 リハビリテーション医学 助教	村上里奈
名古屋市立大学 名誉教授	早野順一郎
至学館大学 教授	三浦 裕

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	18	月	3	Orientation / Good slide presentation	植田典浩
4	18	月	4	Ethics and presentation skills	村上里奈
5	16	月	1-2	Statistical analysis of data	早野順一郎
6	6	月	3	Structure of scientific reports	金澤 智
6	6	月	4	Graphics for scientific reports	早野順一郎
6	14	火	3	Why scientific writing?	三浦 裕
6	14	火	4	Title and body of abstract	辻田麻紀
6	20	月	1-2	Write your abstract! (active learning)	全員

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	研究能力養成コース・遺伝医学
専門・教養	専門
担当教員	新生児・小児医学分野 教授 齊藤伸治、 神経発達症遺伝学分野 教授 山川和弘、 産科婦人科学 准教授 鈴木伸宏、
講義期間・曜日・時限	6月27日(3,4限)、6月28日(3,4限)、6月30日(3,4限)

授業目的・目標	遺伝医学の基礎および最近の動向について学ぶ。
キーワード	遺伝医学、ゲノム、遺伝子、遺伝疾患、遺伝子診断
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a IV a
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 遺伝医学の知識をもとに、先端的な遺伝医学研究についても理解する。 2. それぞれの研究における課題を説明できる。 3. 研究の持つ臨床応用の可能性について説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-4-1) 遺伝的多様性と疾患 E-1) 遺伝医療・ゲノム医療
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	臨床医学と関連の深い基礎医学（臨床基礎分野）の理解がほぼ終了した者を対象に、各領域でのトピックスもしくは研究の最前線となっている事について講義を行う。これにより、それぞれの領域が密接に関連していることや、狭い領域にとらわれない幅広い知識・思考が現在の医学を理解する上で重要であることを学ぶ。
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	レポート、小テスト、授業態度などにより判定する
教科書・テキスト	トンプソン&トンプソン遺伝医学 第2版 メディカル・サイエンス・インターナショナル
参考文献	
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	特になし。
連絡先・オフィスアワー	山川和弘 医学研究科 脳神経科学研究所 神経発達症遺伝学分野 教授 Tel: 052-853-8206 (直通) E-mail: yamakawa@med.nagoya-cu.ac.jp ※原則としてメールで連絡してください。 10:00～17:00 [月曜から金曜] 要事前連絡
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験もしくは基礎研究実績を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業外の学習について ①授業計画を確認の上、教科書の該当分野を予習したうえで、講義に臨むこと
関連URL	研究室ホームページ： http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/neurogenet/

2022年1月～2022年12月 第2学年・第3学年

遺伝医学 担当教員

所属・職名	氏名
共同研究教育センター 病院教授	鈴木伸宏
神経発達症遺伝学分野 教授	山川和弘
新生児・小児医学分野 教授	斉藤伸治

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
6	27	月	3	遺伝カウンセリングと倫理的社会的課題	鈴木伸宏
			4	遺伝カウンセリングと倫理的社会的課題	鈴木伸宏
6	28	火	3	遺伝子疾患の診断と治療	山川和弘
			4	遺伝子疾患の診断と治療	山川和弘
6	30	木	3	ヒトゲノムの多様性と変異・疾患	斉藤伸治
			4	ヒトゲノムの多様性と変異・疾患	斉藤伸治

開講年度	2022年1月～2023年12月 第2学年・第3学年
科目名	臨床能力養成コース・救急救命
専門・教養	専門
担当教員	服部友紀・山岸庸太・三浦敏靖・村上里奈・増田和彦・三浦裕・金子洋
講義期間・曜日・時限	4月7, 14, 21, 28日(講義・実習)、5月6, 13, 20, 27日(新一年生へのBLS指導) いずれの日も1, 2時限(午前)

授業目的・目標	授業目的；救急救命処置の学習を通じ、技能を修得する。医学生として必要な救急蘇生法・応急手当を修得する。新しく改定されたガイドライン2020に基づいた最新の1次救命処置(BLS)を指導するための知識、コミュニケーション能力を身につける 授業目標；BLSの修得と後輩への指導ができるようになること
キーワード	一次救命処置(BLS)、応急手当、災害医療、低体温症、インストラクション
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1a, 1c, 2c, 2e, 4a, 4b, 4d
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蘇生の必要な成人・小児・乳児に対して適切な一次救命処置を行うことができる ・ 一般的な応急手当法を施すことができる ・ 災害時に医学生としてできることを知る ・ 一次救命処置を(新一年生に)指導することができる <p>【該当するモデルコアカリキュラム】 A-3-1) 全人的実践能力、A-4-1) コミュニケーション、A-7-1) 地域医療への貢献、 B-1-7) 地域医療・地域保健 B-4-1) 医師に求められる社会性、C-4-4) 循環障害・臓器不全、E-9) 人の死 F-3-6)-4) 基本的臨床主義・救命処置</p>
成績評価基準	秀：90点以上；学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：80点以上；学修到達目標を十分に達成している 良：70点以上；学修到達目標を達成している 可：60点以上；学修到達目標を最低限達成している
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次に学習した一次救命処置(BLS)実技を完全に修得する。 ・ 窒息者に対する気道の異物除去法や創傷処置など応急手当の方法を学習する。 ・ 医学生として災害時にすべきことを学習する。 ・ 医学部・薬学部・看護学部1年生へ一次救命処置(BLS)を指導する(ことを通じてBLSを深く学ぶ)。
授業計画	授業計画表(別資料)に記載
授業時間外の学修(準備学習を含む)	講義については特に予習の必要はない 復習については、2回目以降の講義において講義の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。 BLS動画を作成し期限までに提出すること 1年生へのBLS指導については、講義で学ぶ通り「人に教える」重要性を認識して、講義資料をしっかりと復讐・修得して望むこと
成績評価方法	講義の参加とBLS動画の提出を持って合格とする
教科書・テキスト	救急蘇生法の指針2020(市民用)(厚生労働省)、JRC蘇生ガイドライン2020
参考文献	追加資料は講義の際に配布
履修上の注意事項	節度ある態度で望むこと
履修者への要望事項	講義・実習について、遅刻欠席の場合には理由を付して連絡すること。
アクティブ・ラーニング	BLSの講義はシミュレーターを用いて行う。 BLS講義後にシナリオを付与するので行なったBLSを動画に収める 1年生へBLSについてインストラクションする
連絡先・オフィスアワー	連絡先：救急科 服部友紀(はっとりともり) 電話：052-851-5511 内線 4732 メールアドレス：thattori@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	第1回目の授業までに、1年次に学習したBLSの手順を十分に復習しておくこと。 BLSの一連の手順等についてビデオ撮影しファイル提出する(コロナ感染症の流行によっては中止となる可能性あり) 詳細は初回の講義の際に説明する
関連URL	

2022年1月～2023年12月 第2学年・第3学年

救急救命 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 先進急性期医療学 教授	服部友紀
名古屋市立大学病院 災害医療センター長	山岸庸太
江南厚生病院 救急科部長	増田和彦
名古屋市消防局 消防係長	金子洋

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	7	木	1	一次救命処置（BLS）の重要性の理解と習得	服部友紀
			2	BLSの指導方法と心構え	服部友紀
4	14	木	1	小児・乳幼児に対するBLS	増田和彦
			2	医学生として知っておくべき応急手当	増田和彦
4	21	木	1	急病時の考え方～こんな訴えの時どう対処する～	金子 洋
			2	急病時の考え方～こんな訴えの時どう対処する～	金子 洋
4	28	木	1	災害現場での実際の医療活動について	山岸庸太
			2	災害時に医学生としてどう行動すべきか	山岸庸太
5	20	金	1-2	医学部・薬学部・看護学部1年生に対するBLS指導	服部友紀
5	27	金	1-2	医学部・薬学部・看護学部1年生に対するBLS指導	服部友紀
6	3	金	1-2	医学部・薬学部・看護学部1年生に対するBLS指導	服部友紀
6	10	金	1-2	医学部・薬学部・看護学部1年生に対するBLS指導	服部友紀

1限;9:00-10:30

2限;10:40-12:10

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	総合医学コース・水平統合病態ユニット
専門・教養	専門
担当教員	細菌学分野 教授 長谷川忠男、ウイルス学分野 教授 奥野友介、臨床病態病理学分野 教授 稲垣 宏、実験病態病理学分野 教授 高橋 智、薬理学分野 教授 大矢 進、法医学分野 教授 青木康博、神経毒性学分野 教授 酒々井真澄、免疫学分野 教授 山崎小百合、
講義期間・曜日・時限	2022年6月20日(月)～7月6日(水)

授業目的・目標	感染・免疫、臓器障害の二つのテーマについて基礎医学を中心とする立場から授業を行う。
キーワード	臓器障害、中毒、感染、免疫、薬剤、ゲノム、遺伝子
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰ-a, b, c, d、Ⅱ-d, e、Ⅲ-a, b, c、Ⅳ-a, b, d
学習到達目標	1. 臨床基礎医学の知識をもとに、先端的な医学研究について理解する。 2. それぞれの研究における課題を説明できる。 3. 研究の持つ臨床応用の可能性について説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-3-1) 生体と微生物、C-3-2) 免疫と生体防御、C-3-3) 生体と薬物、C-4-6) 腫瘍
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	臨床医学と関連の深い基礎医学(臨床基礎分野)の理解がほぼ終了した者を対象に、各領域でのトピックスもしくは研究の最前線となっている事について講義を行う。これにより、それぞれの領域が密接に関連していることや、狭い領域にとらわれない幅広い知識・思考が現在の医学を理解する上で重要であることを学ぶ。
授業計画	8分野の講師による講義
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、これまでの基礎の講義を復習の上講義に臨むこと。 授業内容をテキストや参考図書を参考にして復習しておくこと。
成績評価方法	レポート、小テスト、授業態度などにより判定する
教科書・テキスト	講義担当教員の所属する分野が推奨するテキストなど
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	細菌学分野 長谷川忠男 月曜日～金曜日 医学部研究棟9階 内線8164 E-mail : tadaoh@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	これまでの基礎の講義と異なる観点からの授業ですので、今後の臨床医学の講義の理解が深まると思います。
関連URL	

水平統合病態 担当教員

所属・職名	氏名
細菌学分野 教授	長谷川忠男
ウイルス学分野 教授	奥野友介
臨床病態病理学分野 教授	稲垣 宏
免疫学分野 教授	山崎小百合
神経毒性学分野 教授	酒々井真澄
実験病態病理学分野 教授	高橋 智
薬理学分野 教授	大矢 進
法医学分野 教授	青木康博

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	20	月	3	感染・免疫 ① 細菌学	長谷川忠男
			4	感染・免疫 ② 臨床病態病理学	稲垣 宏
6	21	火	3	感染・免疫 ③ ウイルス学	奥野友介
			4	感染・免疫 ④ 免疫学	山崎小百合
6	29	水	3	予備	
			4	予備	
7	5	火	3	臓器障害－副作用と毒性－①	高橋 智
			4	臓器障害－副作用と毒性－②	酒々井真澄
7	6	水	3	臓器障害－副作用と毒性－③ 中毒病態へ法医学的アプローチ	青木康博
			4	臓器障害－副作用と毒性－④	大矢 進
7	8	金	1	予備	
			2	予備	

(4) 臨床医学 (3 年次 1 月~4 年次 12 月)

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・血液・造血器・リンパ系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	飯田真介 小松弘和 楠本茂 李政樹 伊藤旭 鈴木智貴 亀井美智 正木彩子 伊藤康彦 金森貴之 非常勤講師：松下 正
講義期間・曜日・時限	Semester 4 (2022/9/7～2022/10/20)

授業目的・目標	血液・リンパ系疾患患者の診療に必要な基本的知識や集学的治療の重要性を理解するために(目的)、血液・リンパ系疾患の疫学、病態、診断学、標準的治療法に関する基礎的知識を習得する(目標)。さらに血液疾患の学習を通して、新しい分子標的治療、再生医療等、先端医療における臨床応用についての理解を深める(目標)。
キーワード	貧血、リンパ節腫大、発熱(不明熱)、造血器腫瘍、分子標的療法
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	I a, I b, I c, II a, III a, IV a
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 血液・リンパ系器官の解剖と細胞の形態学的特徴を説明できる。 血液・リンパ系器官の正常機能と病的異常の概論を説明できる。 血液・リンパ系疾患の(分子)病態や遺伝・環境要因についての概要を説明できる。 造血幹細胞の分化・機能について説明できる。 造血器腫瘍の病理診断、遺伝子診断の特徴とその限界について説明できる。 造血器腫瘍に対する化学療法の基本理論、作用機序、主な副作用と支持療法を説明できる。 血液・リンパ系疾患に対する分子標的療法の特徴、種類、開発法について説明できる。 造血細胞移植療法の理論と適応、実際について説明できる。 出血性疾患・血栓性疾患の病態、診断、治療について説明できる。 貧血の定義、病態、主要疾患についての診断、治療について説明できる。 急性白血病、慢性白血病の違いを形態、分子機構、治療法の観点から説明できる。 骨髄増殖性疾患の分類と分子機序、及び診断、治療、予後について説明できる。 悪性リンパ腫の分子機序及び治療法につき、病理学及び病期分類に基づいて説明できる。 多発性骨髄腫の診断、治療、さらには最近の分子標的治療の進歩について説明できる。 小児の血液疾患・腫瘍性疾患の病態を理解し、治療法と予後について説明できる。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-1, F-1-1, F-1-26, F-1-27</p>
成績評価基準	秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している) 良：70点以上(学修到達目標を達成している) 可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 造血幹細胞分化とサイトカイン、細胞表面抗原解析 先天性血栓傾向と播種性血管内凝固症候群 血友病と類縁疾患 血小板減少症(ITP/TTP)と機能異常症 鉄欠乏性貧血・二次性貧血と巨赤芽球性貧血 溶血性貧血と造血不全 血液像・骨髄像の見方 小児血液・腫瘍(1) 小児血液・腫瘍(2) 急性白血病 骨髄異形成症候群 骨髄増殖性疾患・慢性骨髄性白血病 悪性リンパ腫(成人T細胞性白血病リンパ腫を含む) 形質細胞腫瘍 造血幹細胞移植療法 造血器疾患合併感染症
授業計画	血液・造血器・リンパ系授業予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、教科書(参考文献)の該当箇所を予習した上で、講義に望むこと
成績評価方法	Semester試験(80)点満点、アクティブラーニング(発表10、参加態度10、計20)点満点 本試は以上2項目の合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	カラーテキスト血液病学 第2版 中外医学社 造血器腫瘍アトラス 改訂第5版 日本医事新報社 Up To Date (https://www.uptodate.com/contents/search) Wintrobe's Clinical Hematology WHO Classification Tumours of Haematopoietic and Lymphoid Tissues (IARC)
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。 小児血液・腫瘍学(日本小児血液・がん学会編)診断と治療社
履修上の注意事項	連絡のない遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	アクティブ・ラーニングまでに、貧血、リンパ節腫大、発熱(不明熱)の鑑別診断に関する基礎知識を予習しておくことが望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	月曜から金曜 AM9～PM5、血液・腫瘍内科学医局(853-8738 内線は8738) 責任教員：楠本茂 (skusumot@med.nagoya-cu.ac.jp, PHS3239)
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	

血液・造血器・リンパ系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
血液・腫瘍内科学 教授	飯田真介	新生児・小児医学 助教	亀井美智
臨床腫瘍部 教授	小松弘和	臨床病態病理学 准教授	正木彩子
血液・腫瘍内科学 准教授	楠本 茂	西部医療センター小児科	伊藤康彦
輸血部 講師	李 政樹	西部医療センター血液内科	金森貴之
血液・腫瘍内科学 講師	成田朋子	外来講師(名古屋大学)	松下 正
血液・腫瘍内科学 助教	伊藤 旭		
血液・腫瘍内科学 病院助教	鈴木智貴		

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	7	水	1	鉄欠乏性・二次性貧血と巨赤芽球性貧血	小松弘和
9	7	水	2	血友病と類縁疾患	伊藤康彦
9	7	水	3	急性白血病	伊藤 旭
9	7	水	4	悪性リンパ腫(成人T細胞性白血病リンパ腫を含む)	楠本 茂
9	14	水	1	血小板減少症(ITP/TTP)と機能異常症	李 政樹
9	14	水	2	小児血液・腫瘍①	亀井美智
9	14	水	3	造血幹細胞移植療法	楠本 茂
9	14	水	4	溶血性貧血と造血不全	鈴木智貴
9	28	水	1	骨髄増殖性疾患・慢性骨髄性白血病	成田朋子
9	28	水	2	小児血液・腫瘍②	亀井美智
9	28	水	3	骨髄異形成症候群	金森 貴之
9	28	水	4	造血器疾患合併感染症	楠本 茂
10	5	水	1	造血幹細胞分化とサイトカイン、細胞表面抗原解析	正木彩子
10	5	水	3	Active Learning	楠本・鈴木
10	5	水	4	Active Learning	楠本・鈴木
10	6	木	2	血液像・骨髄像の見方	飯田真介
10	13	木	2	形質細胞腫瘍	飯田真介
10	20	木	2	先天性血栓傾向と播種性血管内凝固症候群	松下 正

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・神経系ユニット（神経内科学）
専門・教養	専門
担当教員	松川則之、大村真弘、大喜多賢治、植木美乃、川嶋将司、水野将行、藤岡哲平、佐藤豊大（非常勤講師）加藤大輔
講義期間・曜日・時限	セメスター3（2022/4/1～2022/4/21）、火・水・木曜日、1・2限目

授業目的・目標	<p>【授業目的】 本コースでは中枢神経疾患、末梢神経疾患、骨格筋疾患の診断と治療を習得するため、その理解に必要な神経系の解剖学、生理学、病理学、薬理学などの基礎医学領域を復習しながら概説する。</p> <p>【授業目標】 各疾患の病態を理解した上で、診断と治療に至る流れを習得してもらう。</p>
キーワード	神経診察、高位診断、脳卒中、神経変性疾患
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域1a, 1d, 2b, 2c, 4d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】 神経系の解剖、生理、機能について説明できる。 神経症候から病巣を推定することができ、その理由を説明できる。 神経系の病態（炎症、血管障害、変性など）について説明できる。 神経系の検査の適応、意義、結果の解釈について説明できる。 神経内科疾患の診断、病態生理、治療について説明できる。</p> <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-2 神経系、F-1-8 けいれん、F-1-19 嚔下困難・障害、F-1-32 もの忘れ F-1-33 頭痛、F-1-34 運動麻痺・筋力低下、F-3-5 神経、G-4-4 (10) 腰椎穿刺</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系総論 2. 脳血管障害（虚血性、出血性） 3. 神経変性疾患（認知症、脊髄小脳変性症、パーキンソン症候群、運動ニューロン病） 4. 機能的疾患（てんかん、頭痛） 5. 筋疾患・末梢神経疾患・脊髄疾患 6. 脱髄疾患（中枢、末梢） 7. 神経系代謝性疾患・中毒
授業計画	<p>神経系コース（神経内科）授業計画表を参照。 神経系コース46時限の23時限分を神経内科が担当。 理解を深めるための小テストを一部の講義内で行う。 アクティブラーニングとして、3回のグループ発表も予定。（ただしweb講義の場合は中止）</p>
授業時間外の学修（準備学習を含む）	講義後に該当領域を教科書などで復習、再確認しておくこと。
成績評価方法	<p>講義ごとの小テスト結果、アクティブラーニングの発表内容とその取り組み・参加態度を評価する。 評価配分は、セメスター試験80%、小テスト・アクティブラーニングを20%とする。</p>
教科書・テキスト	<p>「病気がみえる7 脳・神経」 MEDIC MEDIA 「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎義昭、斉藤佳雄編 南山堂</p>
参考文献	「神経内科ハンドブック」 水野美邦編 医学書院
履修上の注意事項	講義途中での入退室は原則認めない。
履修者への要望事項	基礎医学で学んだ神経解剖学、神経生理学の教科書を適宜見直すと理解しやすい。
アクティブ・ラーニング	<p>事前に提示された課題をグループごとに調べて発表する。 （グループワークとプレゼンテーション） 計3回を予定、ただしweb講義の場合は行わない。</p>
連絡先・オフィスアワー	<p>担当教員：大喜多賢治 電話：052-853-8094（神経内科医局、平日9時～17時） 電子メール：shinkei@med.nagoya-cu.ac.jp ※原則としてメールで連絡してください。</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	http://ncu-shinkeinaika.jp

2022年1月～2022年12月 第3学年・第4学年

神経系ユニット(脳神経内科) 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 神経内科学教授	松川 則之
医学研究科 神経内科学講師	大村 眞弘
医学研究科 神経内科学講師	大喜多 賢治
医学研究科 神経内科学助教	川嶋 将司
医学研究科 神経内科学助教	水野 将行
医学研究科 神経内科学助教	藤岡 哲平
医学研究科 神経内科学病院助教	佐藤 豊大
医学研究科 リハビリテーション医学教授	植木 美乃
名古屋大学医学研究科 分子細胞学助教	加藤 大輔

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
3	1	火	1	神経機能解剖学と症候学(1)	松川 則之
			2	神経機能解剖学と症候学(2)	松川 則之
	8	火	1	神経系の検査法(1)	大喜多 賢治
			2	神経系の検査法(2)	大喜多 賢治
	15	火	1	虚血性脳血管障害	大村 眞弘
			2	出血性脳血管障害	大村 眞弘
4	5	火	1	脳血管内治療	課題の発表 大村 眞弘
			2	アルツハイマー型認知症	松川 則之
	6	水	1	運動ニューロン病	大喜多 賢治
			2	脊髄疾患	水野 将行
	7	木	1	パーキンソン病	川嶋 将司
			2	脱髄性疾患	藤岡 哲平
	12	火	1	神経系の代謝・中毒疾患	水野 将行
			2	その他の認知症	課題の発表 松川 則之
	13	水	1	末梢神経・自律神経疾患	佐藤 豊大
			2	機能的疾患(頭痛、てんかん)	大喜多 賢治
	14	木	1	パーキンソン症候群	課題の発表 藤岡 哲平
			2	脊髄小脳変性症	川嶋 将司
	19	火	1	生体イメージングで明らかにする神経内科疾患の病態	加藤 大輔
	20	水	1	意識障害	大喜多 賢治
			2	筋疾患	佐藤 豊大
	21	木	1	高次脳機能障害	植木 美乃
			2	動画で見る神経疾患・まとめ	大喜多 賢治

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・神経系ユニット（脳神経外科）
専門・教養	専門
担当教員	間瀬 光人、片野 広之、谷川 元紀、岡 雄一、坂田 知宏、西川 祐介、山中 智康 非常勤講師：大蔵 篤彦
講義期間・曜日・時限	セメスター2（2022/4/19～2022/5/26）

授業目的・目標	本コースでは中枢神経疾患、末梢神経疾患、骨格筋疾患の診断・治療およびその理解に必要な神経解剖学、神経生理学、神経病理学、神経薬理学、神経化学などの基礎知識についても復習しながら学んでもらう。これらの疾患について、主に脳神経外科的視点から解説する。自己学習の時間も設けて、自ら疑問に思ったことを自ら調べ、科学的に多角的に判断する姿勢を身につける。
キーワード	脳、脊髄、血管、腫瘍、小児
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域 Ia、IIb
学習到達目標	神経系の解剖、生理、機能について説明できる。 神経症候から病巣を推定することができ、その理由を説明できる。 神経系の病態（炎症、血管障害、腫瘍、変性など）について説明できる。 神経系の検査の適応、意義、結果の解釈について説明できる。 脳神経外科疾患の診断、病態生理、手術適応、手術法について説明できる。 【該当するモデルコアカリキュラム】 A-2-2学修の在り方、B-1-5生活習慣とリスク、C-4-2細胞障害・変性と細胞死、C-4-3代謝障害、C-4-4循環障害、臓器不全、C-4-5炎症と創傷治癒、C-4-6腫瘍、F-1-33 頭痛、D-2神経系
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	中枢神経疾患、末梢神経疾患、骨格筋疾患の診断・治療およびその理解に必要な神経解剖学、神経生理学、神経病理学、神経薬理学、神経化学などの基礎知識をもとに、主に脳神経外科的視点から解説する。
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	セメスター試験 90点満点 + アクティブラーニング 10点満点 （アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする）
教科書・テキスト	ニュースタンダード脳神経外科学 第3版 三輪書店 標準脳神経外科学 第14版 医学書院 脳卒中治療ガイドライン2015 協和企画 ベッドサイドの神経の診かた 第18版 南山堂
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献など
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	1つの講義に1班5名程度の学生を割り当て、1班ずつ試験問題と解説を作成する 作成した試験問題は、専用のメールアドレス（nsbs1@med.nagoya-cu.ac.jp）宛にWORD文書またはテキストファイルに入力したものを添付して送信する。 講義の最終日に学生が作成した問題で試験を行い、学生が1班1問ずつ回答と解説を発表する。 注1 この学生が作成する問題はセメスター試験の問題とは異なるものである。 注2 脳神経内科の講義内容は学生が試験問題を作成する範囲に含まれません。
連絡先・オフィスアワー	脳神経外科 医局長 坂田知宏 まで（常時） TEL：052-853-8286 脳神経外科代表 Eメール：ncunoge@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

神経系(脳神経外科) 担当教員

所属・職名	氏名
脳神経外科 教授	間瀬光人
医学・医療情報学 准教授	片野広之
脳神経外科 講師	谷川元紀
脳神経外科 外部講師 (名古屋市立大学医学部附属西部医療センター)	大蔵篤彦
脳神経外科 病院講師	岡 雄一
脳神経外科 助教	坂田知宏
脳神経外科 助教	西川祐介
脳神経外科 助教	山中智康

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	19	火	2	脳神経外科オリエンテーション 脳循環代謝・脳浮腫、頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア	間瀬光人
4	26	火	1	くも膜下出血・脳動脈瘤	間瀬光人
4	26	火	2	脳血管内治療 硬膜動静脈瘻・静脈洞血栓症	間瀬光人
4	27	水	1	水頭症 (成人)	間瀬光人
4	27	水	2	脳出血の外科(高血圧性脳出血、脳動静脈奇形、海綿状血管腫など)	西川祐介
4	28	水	1	脳虚血の外科 (1) (頸動脈病変・EC-ICバイパス)	片野広之
4	28	水	2	脳虚血の外科 (2) (もやもや病など)	西川祐介
4	28	木	3	脳虚血の外科 (3) (血栓回収療法)	西川祐介
4	28	木	4	小児脳神経外科 (中枢神経の発達と奇形)	片野広之
5	10	火	1	水頭症 (小児)	片野広之
5	10	火	2	脳腫瘍総論	谷川元紀
5	11	水	1	神経上皮系腫瘍 (1) (神経膠腫など)	坂田知宏
5	11	水	2	神経上皮系腫瘍 (2) (胎児性腫瘍など)	坂田知宏
5	12	木	1	間葉系腫瘍・末梢神経腫瘍	谷川元紀
5	12	木	2	傍鞍部腫瘍	谷川元紀
5	17	火	1	松果体部腫瘍 (胚細胞腫瘍など)	谷川元紀
5	17	火	2	転移性脳腫瘍・悪性リンパ腫など	坂田知宏
5	18	水	1	脊椎椎間板障害	大蔵篤彦
5	18	水	2	脊髄腫瘍・脊髄血管奇形・脊髄外傷・ITB療法	大蔵篤彦
5	19	木	1	頭部外傷	山中智康
5	19	木	2	パーキンソン病の外科	岡 雄一
5	26	木	1	機能的疾患の外科 (神経圧迫症候群、てんかん、不随意運動)	岡 雄一
5	26	木	2	学生による模擬試験と解説	間瀬光人

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・皮膚系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	森田、鳥山、加藤、中村、井汲、榊原（非常勤医師）、澤田（非常勤講師）、西尾（非常勤講師）、西田（非常勤講師）、古橋（非常勤医師）
講義期間・曜日・時限	Semester 4 (2022/9/1～2022/10/3) (月曜3～4限、木曜1～2限、金曜1～2限)

授業目的・目標	皮膚科学は単なる皮膚に原因する疾患を対象とするだけの学問ではなく、身体他の部分からの異常を背景として生じる疾患をも含む広い範囲を追求する科学である。したがって皮膚コースではいわゆる「皮膚病」を学ぶのではなく、皮膚に生じた変化を全身を基盤としてどのように考えて行くか（目標）、実際的には皮膚に起こっている変化（皮疹のみかた）を正確にとらえ、その原因をどのように追求していくか、どのような検査を行うべきか、その結果どのような背景を考えるべきか、治療はどのようにして行くべきか、などの考え方を深める。
キーワード	皮膚の組織構造、皮膚検査法、湿疹・皮膚炎、治療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅱb, c及び領域Ⅳd
学習到達目標	【学習到達目標（該当するモデルコアカリキュラム）】 皮膚の構造と機能を理解する(C-2-2, E-8)。 皮膚の検査の基本を理解し、説明できる(D-3, F-2-4)。 皮膚の疾患の各論に関して理解して、重要なポイントを説明できる(D-3, F-1-12, F-1-37)。 皮膚疾患の治療の考え方を理解し、基本的な治療方法を説明できる(C-4-5, C-4-6, D-3, F-2-9, 一般手技2), 3), 外科手技1)-6))。
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	（講義要目） 皮膚の組織構造・細胞・生理 皮膚検査法・皮膚アレルギー検査法・微生物検査法 湿疹・皮膚炎 皮疹からみた膠原病 蕁麻疹、薬疹、紅斑症 感染症 皮膚良性腫瘍・悪性腫瘍 水疱症 炎症性角化症・角化症 治療
授業計画	担当教員・講義予定表を参照（各講義において実習形式や実際の検査用機械などに触れる体験を行う）
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	Semester 4 試験
教科書・テキスト	チャート式カラー皮膚科（医学評論社）、あたらしい皮膚科学（中山書店）、皮膚病アトラス
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	月曜、木曜 午前（事前に連絡すること）担当教員：森田明理 内線 8261、電子メール amorita@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

皮膚系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
加齢環境皮膚科・教授	森田明理
形成外科・教授	鳥山和宏
加齢環境皮膚科・准教授	加藤裕史
加齢環境皮膚科・講師	中村元樹
加齢環境皮膚科・助教	井汲今日子
市立西部医療センター・臨床教授(非常勤講師)	澤田啓生
旭ろうさい病院・部長(非常勤講師)	榊原代幸
豊川市民病院・部長(非常勤講師)	西尾栄一
岡崎市民病院・統括部長(非常勤講師)	西田絵美
春日井市民病院・医長(非常勤講師)	古橋卓也

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	1	木	1	皮膚の組織構造・細胞・生理	森田
9	1	木	2	皮膚検査法・皮膚アレルギー検査法・微生物検査法	森田
9	5	月	3	光線治療・レーザー治療	森田
9	5	月	4	皮疹からみた膠原病	森田
9	8	木	1	蕁麻疹・薬疹・紅斑症・紅皮症・皮膚免疫	西尾(非常勤講師)
9	8	木	2	皮膚良性腫瘍・母斑・母斑症	古橋(非常勤講師)
9	12	月	3	皮膚形成外科	鳥山
9	12	月	4	紫斑・血流障害・血管炎	榊原(非常勤講師)
9	15	木	1	水疱症・膿疱症	森田
9	15	木	2	乾癬と角化症	森田
9	26	月	3	皮膚症状から考える皮膚科疾患への治療アプローチ	井汲
9	26	月	4	湿疹・皮膚炎	澤田(非常勤講師)
9	29	木	1	感染症1 梅毒・性病・HIV感染症・動物性皮膚疾患	中村
9	29	木	2	感染症2 細菌感染症・ウイルス感染症・皮膚結核	加藤
9	30	金	1	褥瘡・熱傷治療、潰瘍治療	加藤
9	30	金	2	皮膚悪性腫瘍(上皮系・メラノーマ)	加藤
10	3	月	3	皮膚のリンパ腫・皮膚間葉系腫瘍	井汲
10	3	月	4	感染症3 色素異常・皮膚形成異常・代謝異常表在性・深在性真菌症・ハンセン病	西田(非常勤講師)

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・運動器系/リハビリテーションユニット
専門・教養	専門
担当教員	整形外科：村上英樹、若林健二郎、岡本秀貴、鈴木伸幸、野崎正浩、木村浩明、吉田雅人(運動器スポーツ先進医学)、小林 真、加藤賢治、川口洋平(グリア細胞生物学)、八木 清(運動器スポーツ先進医学)、米津大貴、非常勤講師：水谷 潤 リハビリテーション：植木美乃、黒柳 元、村上里奈、青山公紀 非常勤講師：和田郁雄、多和田 忍
講義期間・曜日・時限	セメスター4 (2022/8/30～2022/10/4)、月・火曜日、1～2限目
授業目的・目標	骨、軟骨、筋肉および靭帯など、運動器系の正常構造と機能を理解し、主な運動器疾患の原因、症候、診断と治療について学び、臨床実習に必要な基礎知識を習得する。 リハビリテーションの基本について学ぶ。
キーワード	リハビリテーション、多職種連携
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	Ia, Ic, II b, II c, III b, III d, IV b, IV d
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 骨折、関節脱臼やスポーツ障害の診断や治療について理解する。 2. 先天性股関節脱臼など小児に特有の疾患や先天異常について理解する。 3. 関節リウマチや変形性関節症など各種関節疾患の原因、診断、治療について理解する。 4. 腰椎椎間板ヘルニア、頚椎性背髄症や背髄損傷など脊椎の疾患や外傷について理解する。 5. 四肢の絞扼性神経障害について理解する。 6. 骨粗鬆症の病態とそれに伴う障害について理解する。 7. リハビリテーションの概念と適応を理解する。 8. リハビリテーション・チームの構成を理解し、医師の役割を説明できる。 9. 理学療法、作業療法と言語聴覚療法を概説できる。 10. 主な歩行補助具、車椅子、義肢(義手、義足)と装具を概説できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-2) 医学知識と問題対応能力, A-3) 診療技能と患者ケア, A-6) 医療の質と安全管理, A-5-1) 患者中心のチーム医療, B-1-4) 疫学と予防医学, B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度, C-2-2) 組織・各臓器の構成、機能と位置関係, C-4-6) 腫瘍, D-4) 運動器(筋骨格)系, E-7) 成長と発達, F-1-34) 運動麻痺・筋力低下, F-1-35) 腰背部痛, F-1-36) 関節痛・関節腫脹, F-1-37) 外傷・熱傷, F-2-14) リハビリテーション
成績評価基準	秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している) 良：70点以上(学修到達目標を達成している) 可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	1. リハビリテーション総論 2. 運動器・内部障害のリハビリテーション 3. 小児のリハビリテーション 4. 義肢・装具とリハビリテーション 5. 摂食嚥下障害のリハビリテーション 6. 中枢神経のリハビリテーション 7. 整形外科総論 8. 救急外傷(骨折、脱臼、捻挫) 9. 骨粗鬆症 10. 腰椎疾患 11. 骨軟部腫瘍 12. 小児整形外科 13. 脊椎・脊髄の外傷、スポーツ障害 14. 頚椎疾患、脊柱変形 15. 手の外科、末梢神経障害 16. 膝の変性疾患 17. 膝のスポーツ障害 18. 肩・肘のスポーツ障害 19. 関節リウマチ 20. 股関節疾患
授業計画	2022年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の内容を予習した上で、講義に臨むこと。授業後は、講義資料を用いて復習し、内容の習得に努めること。
成績評価方法	本試はセメスター試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 ※再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。 アクティブラーニングについては参考とし、成績には加味しない。
教科書・テキスト	なし
参考文献	図解整形外科 久保俊一、大塚隆信他編集、金芳堂 ¥5,720、 整形外科研修ノート 永井良三総監修、大塚隆信他編集、診断と治療社 ¥9,680 標準整形外科学 石井清一他監修、医学書院 ¥10,120 標準リハビリテーション医学 津山直一監修、医学書院 ¥7,480 Simon's Emergency Orthopedics 8th ed. Scott G. Sherman, McGraw-Hill ¥31,561 Orthopedics Robert H Fitzgerald Jr. Mosby ¥25,786
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。事情がある場合はメールにて連絡すること。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	「小児のリハビリテーション」では、患者さんに協力いただき、対話型授業を行う。
連絡先・オフィスアワー	月～金 9:00～17:00 整形外科医局(研究棟6階) 電話：052-853-8236 seikei@med.nagoya-cu.ac.jp リハビリテーション医学医局(研究棟2階) 電話：052-853-8733 rehab@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心を持った点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	https://www.ncu-ortho.jp/ https://ncu-rehab.jp/

運動器系／リハビリテーションユニット 担当教員

所属・職名	氏名
整形外科分野 教授	村上英樹
整形外科分野 講師	若林健二郎
整形外科分野 准教授	岡本秀貴
整形外科分野 講師	鈴木伸幸
整形外科分野 講師	野崎正浩
整形外科分野 講師	木村浩明
運動器スポーツ先進医学寄附講座 講師	吉田雅人
整形外科分野 助教	小林 真
整形外科分野 助教	加藤賢治
グリア細胞生物学分野 助教	川口洋平
運動器スポーツ先進医学寄附講座 助教	八木 清
整形外科分野 病院助教	米津大貴
整形外科分野 非常勤講師	水谷 潤
リハビリテーション医学 教授	植木美乃
リハビリテーション医学 講師	黒柳 元
リハビリテーション医学 助教	村上里奈
リハビリテーション医学 非常勤講師	和田郁雄
リハビリテーション医学 非常勤講師	多和田忍
名古屋市立大学医学部附属東部医療センターリハビリテーション科 部長	青山公紀

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	30	火	1	リハビリテーション総論	植木美乃
8	30	火	2	摂食嚥下障害のリハビリテーション	青山公紀
9	5	月	1	小児のリハビリテーション	多和田忍
9	5	月	2	運動器・内部障害のリハビリテーション	村上里奈
9	6	火	1	中枢神経のリハビリテーション	植木美乃
9	6	火	2	義肢・装具とリハビリテーション	和田郁雄
9	12	月	1	整形外科総論	村上英樹
9	12	月	2	救急外傷（骨折、脱臼、捻挫）	米津大貴
9	13	火	1	小児整形外科	若林健二郎
9	13	火	2	腰椎疾患	加藤賢治
9	20	火	1	骨軟部腫瘍	木村浩明
9	20	火	2	骨粗鬆症	鈴木伸幸
9	26	月	1	脊椎・脊髄の外傷、スポーツ障害	八木 清
9	26	月	2	頸椎疾患、脊柱変形	水谷 潤
9	27	火	1	手の外科、末梢神経障害	岡本秀貴
9	27	火	2	肩・肘のスポーツ障害	吉田雅人
10	3	月	1	膝のスポーツ障害	野崎正浩
10	3	月	2	膝の変性疾患	小林 真
10	4	火	1	関節リウマチ	川口洋平
10	4	火	2	股関節疾患	黒柳 元

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・循環器系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	内科：瀬尾由広、杉浦知範、後藤利彦、伊藤 剛、若見和明、藤田浩志、北田修一、菊池祥平、中須賀公亮、森 賢人、中山貴文 小児科：鈴木一孝、篠原 務 心臓血管外科：須田久雄、五味聖吾、齋藤雄平、小川真司、山田敏之
講義期間・曜日・時限	セメスター1 (2022年1月4日～2022年2月21日 月・水・木曜日：1・2・3・4時限)

授業目的・目標	【目的】小児から成人に至る多様な循環器疾患や循環動態を理解し、基礎的な臨床能力を養成する。 【目標】循環器に関わる生理・解剖・病理・薬理の知識を習得し、疾患の診断技術と検査結果の評価について学習し、薬物や手術などによる基本的治療戦略への理解を深め、演習などを通して臨床実習の準備を行う。
キーワード	循環器、心臓、血管、成人、小児
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 Ia, Ib, Ic, Id, IIb, IIc, II d
学習到達目標	1. 生理学、解剖学、生化学の基礎知識を再学習し、循環器疾患が理解できる(Ia, Ib)。 2. 心不全や循環不全の原因を列挙し、諸検査から循環を評価できる(Ia, Ib)。 3. 心電図を理解し、心電図の記録ならびに不整脈や病態を診断できる(Ia, IIb, IIc)。 4. 発生学や構築学の見地から先天性心疾患を理解し、手術法が選択できる(Ia, Ib, IIb)。 5. 弁膜疾患の病態を理解し、内科と外科による治療の選択と評価ができる(Ia, Ib, IIb)。 6. 虚血性心疾患を理解し、適切な治療戦略が選択できる(Ia, Ib, IIb)。 7. 動脈硬化の成因と病態を理解し、各種疾患の治療法を列挙し選択できる(Ia, Ib, IIb)。 8. 血圧異常の病態を理解し、多様な治療法について説明できる(Ia, Ib, IIc)。 9. 心筋疾患、心膜疾患、心臓腫瘍について理解できる(Ia, Ib, IIb)。 10. 循環器疾患を急性期と慢性期から捉え、治療法を説明できる(Ib, Ic, Id, II d)。 11. 循環器疾患と生活習慣の関連を学び、予防法と指導内容を説明できる(Ib, Ic, Id, II d)。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 B-1-5, C-4-4, D-5, F-1-10, F-1-11, F-1-16, F-1-17, F-1-18
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	本科目は小児と成人の循環器疾患に対する内科的、外科的な立場からの講義と心電図診断など演習からなる。多様な循環器疾患の病態生理、心機能・循環動態を学び治療戦略を考察する。
授業計画	2022年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	講義・演習は2022年度循環器コース授業計画表に基づいて行う。授業時間外学習として、第1回授業までにM3病態生理の講義で配布した心機能・心電図に関する資料およびM3薬理学の講義で配布した心不全と不整脈・抗不整脈薬に関する資料を復習しておくこと。各講義毎にその日の復習すべき事項を明示するので次回講義までに確実に復習すること。
成績評価方法	セメスター試験 100点満点 本試はセメスター試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。 アクティブラーニングとその他項目については参考とし、成績には加味しない。
教科書・テキスト	日本循環器学会編：循環器病ガイドラインシリーズ（日本循環器学会ホームページ） Braunwald's Heart Disease 第11版 Mann/Zipes/Libby/Bonow編, Elsevier出版 図解心電図テキスト 村川祐二訳, 文光堂 ハーバード大学テキスト心臓病の病態生理 Leonard S. Lilly編、川名正敏他, MEDSi社 心不全治療に心エコーを活かす 瀬尾由広他著, MWDICAL VIEW社 臨床発達心臓病学 第3版 高尾篤良他編, 中外医学社 新心臓血管外科テキスト 安達秀雄他編, 中外医学社 心臓外科チームのための基本手術マニュアル 三石績著, ヘルス出版
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	真摯な態度で取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	レポート提出、ショートテスト、プレゼンテーションなどを取り入れた授業を行う。
連絡先・オフィスアワー	月～金曜日 9:00～16:00（医局秘書を通じて各講義の担当教員に連絡の事） 内科：内線8221、電子メール：seo_sec@med.nagoya-cu.ac.jp 小児科：内線8246、電子メール：aykhat@med.nagoya-cu.ac.jp 心臓血管外科：内線8099、電子メール：herz@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	循環器病ガイドラインシリーズ https://www.j-circ.or.jp/guideline/guideline-series/

循環器系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
循環器内科学 教授	瀬尾由広	心臓血管外科学 教授	須田久雄
循環器内科学 准教授	杉浦知範	心臓血管外科学 講師	五味聖吾
循環器内科学 講師	後藤利彦	心臓血管外科学 講師	齋藤雄平
循環器内科学 講師	伊藤 剛	心臓血管外科学 助教	小川真司
循環器内科学 助教	若見和明	心臓血管外科学 助教	山田敏之
急性心臓疾患治療部 助教	藤田浩志		
循環器内科学 助教	北田修一	新生児 小児医学 助教	鈴木一孝
中央臨床検査部 助教	菊池祥平	新生児 小児医学 助教	篠原 務
循環器内科学 助教	中須賀公亮		
循環器内科学 助教	森 賢人		
循環器内科学 助教	中山貴文		

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	6	木	3	循環器内科症候論/心音・心雑音	瀬尾教授
	6	木	4	循環器外科学総論	須田教授
	13	木	3	心エコー・心臓核医学	若見助教
	13	木	4	動脈硬化の成因	杉浦准教授
	17	月	3	心臓発生と先天性心疾患	鈴木助教
	17	月	4	臨床心機能	瀬尾教授
	20	木	3	心臓カテーテル検査・治療	藤田助教
	20	木	4	心電図・波形診断	杉浦准教授
	24	月	3	胎児循環と先天性心疾患	鈴木助教
	24	月	4	急性心不全	瀬尾教授
	26	水	1	高血圧の診断と治療	杉浦准教授
	26	水	2	不整脈(I) 徐脈性不整脈	後藤講師
	27	木	3	不整脈(II) 頻脈性不整脈	中須賀助教
	27	木	4	慢性心不全	北田助教
	31	月	3	僧帽弁疾患	瀬尾教授
	31	月	4	慢性冠動脈疾患	伊藤講師
2	2	水	1	不整脈デバイス治療	後藤講師
	2	水	2	肺高血圧と右心不全	中山助教
	3	木	3	心房細動	中須賀助教
	3	木	4	心電図波形・不整脈演習	森助教
	7	月	3	大動脈弁疾患	瀬尾教授
	7	月	4	末梢閉塞性動脈疾患、静脈血栓症	伊藤講師
	9	水	1	急性冠症候群	藤田助教
	10	木	3	感染性心内膜炎・心臓腫瘍	菊池助教
	10	木	4	弁膜症の外科	小川助教
	14	月	3	小児の後天性心疾患(川崎病・心筋症・肺高血圧)	篠原助教
	14	月	4	先天性心疾患の外科	五味講師
	16	水	1	二次性心筋症	中山助教
	17	木	3	虚血性心疾患の外科治療	山田助教
	17	木	4	末梢血管・静脈疾患の外科治療	齋藤講師
	21	月	1	心筋炎・特発性心筋症	北田助教
	21	月	2	収縮性心膜炎・心タンポナーデ	若見助教
	21	月	3	大動脈瘤・急性動脈解離	伊藤講師
	21	月	4	大動脈疾患の外科治療	須田教授

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・呼吸器系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	新実彰男、中西良一、中村 敦、伊藤 穰、前野 健、奥田勝裕、竹村昌也、羽田裕司、近藤知史、大久保仁嗣、横田圭右、立松 勉、田尻智子、上村剛大、福田悟史、金光禎寛、小田梨紗、加藤 晋、野村孝泰、中村龍二 非常勤講師：宇佐美郁治、樋田豊明、森山悟、加藤文典
講義期間・曜日・時限	セメスター1 (2022/1/5～2022/2/18)

授業目的・目標	呼吸器疾患に対する理解を深め、これに対応できる能力を身につけるため、呼吸器疾患の病態、診断、治療、予防に関して学ぶ。
キーワード	呼吸器、肺、縦隔、感染症、アレルギー、腫瘍
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	I a, I b, I c, II b, III b
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表的な呼吸器疾患の病態を理解する。 臨床データを基に診断ができる。 実例について内科的あるいは外科的な治療方針を説明できる。 呼吸器稀少疾患について説明できる。 環境要因、生活習慣による呼吸器疾患の予防について説明できる。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】</p> D-6 呼吸器系、E-2 感染症、E-3 腫瘍、E-4 免疫・アレルギー、E-7 成長と発達
成績評価基準	マークシート試験 秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	呼吸器の機能と症候、呼吸器の検査、喘息、慢性閉塞性肺疾患、慢性咳嗽、肺癌、縦隔腫瘍、感染症、びまん性肺疾患、胸膜疾患、重症筋無力症、小児呼吸器疾患、小児呼吸器外科、胸部外傷、その他
授業計画	担当教員・講義予定表を参照。深い理解と効率的な知識習得のため、テキスト及び参考文献などで授業時間外に学習することをすすめる。 一部の授業においては、課題や症例が提示され、関連する臨床医学の情報を種々の手段で調べ診断と治療法を個々およびグループで見出す。その結果を発表し、討論しながら問題点を整理する形式で行われる。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点 本試はセメスター試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 ※講義の参加態度については参考とし、成績には加味しない。 再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	なし
参考文献	新臨床内科学（医学書院）、ハリソン内科学 第4版 pp1805-1899（メディカル・サイエンス・インターナショナル）、フレイザー呼吸器病学エッセンス（西村書店）、呼吸器外科学（南山堂）、General Thoracic Surgery（Shields編、Lippincott Williams & Wilkins）、縦隔の外科-手術手技アトラス（南山堂）、呼吸器外科手術書（金芳堂）、肺癌診療ガイドライン（日本肺癌学会編）
履修上の注意事項	講義中の私語、出入りは慎むこと
履修者への要望事項	講義中の私語、出入りは慎むこと
アクティブ・ラーニング	講師の先生の裁量でアクティブラーニングを行う。
連絡先・オフィスアワー	新実彰男：月 13-14時（事前に連絡）a.niimi@med.nagoya-cu.ac.jp 中西良一：月 14-15時（事前に連絡）ryoichi@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

呼吸器系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
呼吸器・免疫アレルギー内科学 教授	新実彰男
腫瘍・免疫外科学 教授	中西良一
臨床感染制御学 教授	中村 敦
高度医療教育研究センター 教授	羽田裕司
呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授	伊藤 穰
呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授	前野 健
腫瘍・免疫外科学 准教授	奥田勝裕
地域医療教育研究センター 准教授	竹村昌也
小児外科 病院准教授	近藤知史
呼吸器・免疫アレルギー内科学 講師	大久保仁嗣
腫瘍・免疫外科学 講師	横田圭右
腫瘍・免疫外科学 講師	立松 勉
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	田尻智子
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	上村剛大
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	福田悟史
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	金光禎寛
腫瘍・免疫外科学 助教	小田梨紗
新生児・小児医学 助教	加藤 晋
新生児・小児医学 助教	野村孝泰
腫瘍・免疫外科学 病院助教	中村龍二
非常勤講師(旭ろうさい病院)	宇佐美郁治
非常勤講師(木沢記念病院)	樋田豊明
非常勤講師(トヨタ記念病院)	森山 悟
非常勤講師(豊橋市民病院)	加藤丈典

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	5	水	1	びまん性肺疾患(総論)	福田悟史
1	5	水	2	びまん性肺疾患(各論)	大久保仁嗣
1	5	水	3	呼吸器疾患の特徴と魅力、総論・症候	新実彰男
1	5	水	4	気管支喘息	新実彰男
1	7	金	2	喘息以外のアレルギー性呼吸器疾患、COPD	新実彰男
1	7	金	3	慢性咳嗽	新実彰男
1	12	水	1	じん肺と石綿(アスベスト)関連疾患	宇佐美郁治
1	12	水	2	縦隔(総論)	小田梨紗
1	12	水	3	呼吸器感染症(抗酸菌感染症以外)	中村 敦
1	12	水	4	胸部外傷	中村龍二
1	14	金	2	呼吸器疾患の診断と検査	竹村昌也
1	14	金	3	肺癌(総論、疫学)	羽田裕司
1	19	水	1	胸膜疾患(外科)	森山 悟
1	19	水	2	(予備日)	
1	19	水	3	気道疾患・喘息(小児)	野村孝泰
1	19	水	4	小児外科呼吸器外科疾患(中枢気道疾患)	近藤知史
1	21	金	2	肺癌(化学療法)	樋田豊明
1	21	金	3	肺実質、横隔膜疾患(小児)	加藤 晋
1	26	水	3	肺癌の遺伝子異常	奥田勝裕
1	26	水	4	小児外科呼吸器外科疾患(末梢気道疾患)	近藤知史
1	28	金	2	肺癌外科治療1	中西良一
1	28	金	3	肺癌外科治療2	中西良一
2	3	木	1	縦隔(各論)	立松 勉
2	3	木	2	胸膜疾患(内科)	田尻智子
2	4	金	2	呼吸器外科手術前術中術後管理	横田圭右
2	4	金	3	胸部エックス線・呼吸不全	前野 健
2	10	木	1	新生児呼吸生理	加藤丈典
2	10	木	2	新生児呼吸器疾患	加藤丈典
2	17	木	1	抗酸菌感染症	伊藤 穰
2	17	木	2	肺癌(症候・診断)	上村剛大
2	18	金	2	(予備日)	
2	18	金	4	気管支拡張症・嚢胞性肺疾患	金光禎寛

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・消化器系・内視鏡ユニット
専門・教養	専門
担当教員	(内科)片岡洋望、谷田諭史、林 香月、藤原 圭、久保田英嗣、内藤 格、志村貴也、松浦健太郎、尾関啓司、西江裕忠、 (外科)瀧口修司、松尾洋一、高橋広域、小川 了、森本 守、田中達也、志賀一慶、佐川弘之、齊藤健太、大久保友貴、今藤裕之、牛込 創 (口腔外科)横井基夫、竹本 隆、 (次世代医療開発学)神谷 武、 (地域医療教育研究センター)野尻俊輔 (非常勤講師)中沢貴宏、祖父江聡
講義期間・曜日・時限	Semester 2 (3月3日～4月7日) 計30コマ

授業目的・目標	消化器系の解剖、機能を把握し、主要な消化器系疾患の病態生理、診断、治療を学び、臨床実習に必要な基礎的知識を習得することを目的とする。
キーワード	口腔、食道、胃、小腸、大腸、肛門、肝臓、胆道、膵臓、腹部救急、腹部手術
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a
学習到達目標	1. 消化器系の正常構造と機能を理解する。 2. 主要な消化器系疾患の病因について理解する。 3. 正確な診断方法を選択し、鑑別すべき疾患を理解する。 4. 最適な治療法について理解する。 5. 消化器内視鏡の適応、診断、治療方法について理解する。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-4-2)患者と医師の関係、B-4-1)医師に求められる社会性、 D-7)人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療構造と機能、消化器系、 E-3)全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療、腫瘍、 F-1-20)腹痛、F-2-6)内視鏡を用いる診断と治療
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 口腔疾患と治療法 2. 食道疾患の診断と治療 3. 胃疾患の診断と治療 4. 小腸・大腸疾患の診断と治療 5. 肝疾患の診断と治療 6. 胆道・膵疾患の診断と治療 7. 腹部救急疾患の診断と治療
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	筆記試験80%、出席及び授業態度20%
教科書・テキスト	
参考文献	Bocku's Gastroenterology 5th ed. Haubrich ed, Saunders 1995 Textbook of Gastroenterology 5th ed. Yamada ed, John Wiley & Sons 2011 内視鏡所見のよみ方と鑑別診断 上部消化管 第2版・下部消化管 第2版 医学書院 カラー版消化器病学基礎と臨床 西村書店 2013 消化管内視鏡診断テキスト1.2.3 文光堂 2008 消化器内視鏡ガイドライン 第3版 医学書院 2006 消化器外科手術のための解剖学 食道、胃・十二指腸、腹壁・ヘルニア メジカルビュー社 1999 オクルージョンの臨床 第2版 Peter E. Dawson, 1993 歯科衛生士のための口腔外科学 2011年
履修上の注意事項	体調管理に努め、発熱・感冒症状などある場合は申し出ること。遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	講義のなかで、実際の症例提示を行い、検査、診断、治療などについて考えさせる。
連絡先・オフィスアワー	平日(月～金) 午前9時から午後5時 連絡先：消化器代謝内科学 西江裕忠 内線：8211、 E-mail:matsuura@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

消化器系・内視鏡ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
消化器・代謝内科学 教授	片岡洋望	消化器外科学 教授	瀧口修司
次世代医療開発学 教授	神谷 武	消化器外科学 教授（診療担当）	松尾洋一
地域医療教育研究センター 教授	野尻俊輔	消化器外科学 准教授	高橋広城
消化器・代謝内科学 准教授	谷田諭史	消化器外科学 講師	小川 了
消化器・代謝内科学 准教授	林 香月	消化器外科学 講師	森本 守
消化器・代謝内科学 准教授	久保田英嗣	消化器外科学 助教	田中達也
消化器・代謝内科学 講師	藤原 圭	消化器外科学 助教	志賀一慶
消化器・代謝内科学 講師	内藤 格	消化器外科学 助教	佐川弘之
消化器・代謝内科学 講師	志村貴也	消化器外科学 助教	大久保友貴
消化器・代謝内科学 講師	松浦健太郎	消化器外科学 助教	齊藤健太
消化器・代謝内科学 講師	尾関啓司	消化器外科学 助教	今藤裕之
消化器・代謝内科学 助教	西江裕忠	消化器外科学 助教	牛込創
非常勤講師（中田内科クリニック）	中沢貴宏		
消化器内科・高度医療教育センター教授（西部医療センター）	妹尾恭司	口腔外科学・名誉教授	横井基夫
非常勤講師（春日井市民病院）	祖父江 聡	口腔外科学・地域医療教育研究センター教授	竹本 隆
地域医療教育研究センター 教授	佐野 仁		

授業計画

月日	曜日	時限	授業項目	授業内容	担当	教官
3月3日	木	1	口腔	舌の診かたについて	口外	横井基夫
		2	食道、胃	胃食道逆流症、機能的消化管疾患	内科	神谷 武
		3	内視鏡	消化器疾患と消化管内視鏡	内科	久保田英嗣
		4	内視鏡	ピロリ感染症	内科	片岡洋望
3月4日	金	1	胆道	胆道外科	外科	齊藤健太
		2	肝臓	肝臓外科	外科	森本 守
		3	膵臓	膵炎	内科	内藤 格
		4	肝臓	肝臓の内科的治療	内科	松浦健太郎
3月10日	木	1	肝臓	肝硬変と合併疾患	内科	野尻俊輔
		2	肝臓	ウイルス性肝疾患	内科	祖父江聡
		3	口腔	口腔所見と病態	口外	竹本 隆
		4	胆道	胆道1	内科	中沢貴宏
3月11日	金	1	大腸	大腸ポリプ、大腸癌	内科	志村貴也
		2	大腸	炎症性腸疾患	内科	谷田諭史
		3	膵臓	膵腫瘍	内科	佐野 仁
		4	胆道	胆道2	内科	林 香月
3月16日	水	1	胃	胃腫瘍	内科	西江裕忠
		2	内視鏡	小腸・大腸疾患	内科	尾関啓司
		3	小腸・ヘルニア	小腸外科・ヘルニア	外科	田中達也
		4	外科総論	外科総論	外科	瀧口修司
3月17日	木	1	食道	食道外科	外科	小川 了
		2	直腸・肛門	大腸外科1（直腸・肛門）	外科	高橋広城
		3	膵臓	膵臓外科	外科	松尾洋一
		4	腹部外傷	腹部外傷	外科	大久保友貴
3月18日	金	1	食道、胃	食道腫瘍	内科	妹尾恭司
		2	肝臓	肝機能検査、画像診断	内科	藤原 圭
		3	急性腹症	急性腹症	外科	今藤裕之
		4	胃	胃外科	外科	佐川弘之
4月7日	木	3	結腸	大腸外科2（結腸）	外科	志賀一慶
		4	腹腔鏡手術	腹腔鏡手術	外科	牛込創

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・腎・尿路ユニット（腎臓内科）
専門・教養	専門
担当教員	濱野高行、水野晶紫、小野水面、村島美穂、友斉達也 非常勤講師：猪阪善隆（大阪大学大学院医学系研究科 腎臓内科学）
講義期間・曜日・時限	セメスター1（2020/1/17～2020/2/26）月曜日 1・2限目、火曜日 1・2限目、水曜日 2限目 金曜日 1限目

授業目的・目標	<p>【授業目的】 腎臓は尿を作ることで体内環境を維持し、また血圧や貧血の調整に関わる重要臓器である。臨床腎臓病学全般について学ぶとともに、腎症候学・診断学、一次性・二次性糸球体疾患、ネフローゼ症候群、急性腎障害（AKI）、慢性腎臓病（CKD）、慢性腎不全・血液透析および腹膜透析療法について実際の臨床症例を用いて講義を行う。</p> <p>【授業目標】 腎・尿路の役割を理解するために、糸球体・間質疾患、体液・電解質異常などを理解し、腎臓の視点からプライマリケアにも役立つ診察、診断、治療に必要な知識を習得する。症例検討会ではディスカッション能力を高める。医師国家試験に準じた臨床問題にもチャレンジする。</p>
キーワード	腎臓、電解質、利尿薬、酸塩基平衡、尿検査、間質尿管疾患、糸球体疾患、急性腎障害、慢性腎臓病、腎臓病理、腎代替療法
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域 Ia、Ib、IIb
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎・尿路系の解剖、機能、生理について述べるができる。 2. 尿所見・尿検査について診断的意義や鑑別点を述べるができる。 3. 体液・電解質・血圧異常について、その病態、治療を述べるができる。 4. 糸球体疾患、間質疾患について、その病態、治療を述べるができる。 5. 腎不全について、その病態、治療を述べるができる。 6. 腎臓病をきたす全身性疾患について病態、治療を述べるができる。 7. シェント手術で手洗い・ガウンテクニック・介助・皮膚縫合・創部ドレッシングを修得。 8. 腎代替療法について、適応を述べるができる。 9. 症例検討会において学生同士での提示、議論ができる。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-2-2組織・各臓器の構成、機能と位置関係、C-2-3個体の調節機能とホメオスタシス、D-8腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）、F-1-4体重減少・体重増加、F-1-10脱水、F-1-11浮腫、F-1-28尿量・排尿の異常、F-1-29血尿・タンパク尿、F-2-3臨床検査、F-2-4病理診断、F-2-8薬物治療の基本原則、F-2-11食事・栄養療法と輸液療法、F-2-12医療機器と人工臓器</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 尿検査の実際（血尿・蛋白尿）、腎機能の見方（24時間尿・eGFR） 2. 酸塩基平衡とK代謝異常 3. CKD-MBD 4. 血液透析、移植 5. 水・Na代謝・利尿薬 6. ネフローゼ症候群 7. 糸球体疾患の腎病理 8. 急性腎障害、急性血液浄化 9. 遺伝性腎疾患（多発性のう胞腎、Fabry病、Alport症候群） 10. 二次性腎症 11. 二次性高血圧 12. CKDと腎性貧血 13. DKD、腎硬化症 14. 間質尿管疾患 15. 腹膜透析
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	<p>本試験はセメスター試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 ※アクティブラーニングについては参考とし、成績には加味しない。</p> <p>再試験は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。</p>
教科書・テキスト	<p>教科書は指定はしないが、下記を参考に講義資料を作成し配布する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初学者から専門医までの腎臓学入門 日本腎臓学会編 東京医学社 2. Clinical Nephrology Brenner, Coe, Rector WB Saunders 3. Clinical Physiology of Acid-Base and Electrolyte Disorders (5th Ed) McGraw-Hill 4. Heptinstall's Pathology of the Kidney (6th Ed) Lippincott Williams & Wilkins
参考文献	<p>腎臓内科レジデントマニュアル 改訂第8版 編著 今井園裕 発行 診断と治療社 腎生検診断Navi 改訂第2版 編著 片淵律子 発行 メディカルビュー社 腎生検病理アトラス 改訂版 編集 日本人病理協会/日本腎臓学会 発行東京医学社 Brenner & Rector's the Kidney, 11th ed., in 2 vols. 著者：A. S. L. Yu, G. M. Chertow, V. A. Luyckx, et al. 出版 ELSEVIER</p>
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	<p>担当教員：友斉達也 内線：3602、電子メール：tomonari@med.nagoya-cu.ac.jp 9：00～17：00 [月曜および水曜～金曜] ※原則としてメールで連絡してください。</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/

2022年1月～2022年12月 第3学年・第4学年

腎・尿路ユニット（腎臓内科）担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 腎臓内科学 教授	濱野 高行
医学研究科 腎臓内科学 助教	水野 晶紫
医学研究科 腎臓内科学 助教	小野 水面
医学研究科 腎臓内科学 助教	村島 美穂
医学研究科 腎臓内科学 病院助教	友斉 達也
非常勤講師（大阪大学大学院医学系研究科 腎臓内科学）	猪阪 善隆

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	17	月	1	尿検査の実際(血尿・蛋白尿)、腎機能の見方(24時間尿・eGFR)	友斉 達也
1	17	月	2	DKD、腎硬化症、慢性糸球体腎炎の診断・治療	友斉 達也
1	24	月	1	水・Na代謝・利尿薬	猪阪 善隆
1	24	月	2	酸塩基平衡とNa/K代謝異常(+Active Learning)	友斉 達也
1	31	月	1	糸球体疾患の腎病理	猪阪 善隆
1	31	月	2	ネフローゼ症候群(+Active Learning)	水野 晶紫
2	7	月	1	血液透析・腎移植	村島 美穂
2	7	月	2	間質尿細管疾患	村島 美穂
2	9	水	2	CKDと腎性貧血	濱野 高行
2	14	月	1	二次性高血圧症	村島 美穂
2	14	月	2	遺伝性腎疾患(ADPKD、Alport症候群 Fabry病)	水野 晶紫
2	16	水	2	CKD-MBD	濱野 高行
2	18	金	1	腹膜透析	濱野 高行
2	22	火	1	二次性腎症(SLE、アミロイドーシスなど)	小野 水面
2	22	火	2	急性腎障害、急性血液浄化(+Active Learning)	小野 水面

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・腎・尿路系ユニット（泌尿器科）
専門・教養	専門
担当教員	安井孝周、林 祐太郎、丸山哲史、河合憲康、岡田淳志、水野健太郎、安藤亮介、濱本周造、内木 拓、田口和己
講義期間・曜日・時限	セメスター1 1月7日～2月18日 11コマ

授業目的・目標	<p>【授業目的】腎・泌尿器の役割を理解するために、腎実質・腎盂・尿管・膀胱・尿道の解剖と機能に関する知識を確認し、それらに特有の病態、疾患などを理解し、診断から手術に至る様々な知識を総合的に習得する。</p> <p>【授業目標】超高齢化社会において、泌尿器癌・排尿障害を正確に診断し治療に結びつけることは医師としての素養である。また救急における尿路結石・血尿・尿路の対応、少子化における男子不妊症の取扱い、腎移植に対する知識・対応を習得することを目標とする。</p>
キーワード	副腎・腎・尿管・発生
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域1a-d, 11a-e, 111b, 1va, d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎・泌尿器の解剖・発生、症候・検査について、述べるができる。 2. 腎・泌尿器の先天異常、発生について、述べるができる。 3. 尿路結石の成因・治療を述べるができる。 4. 副腎疾患・腎腫瘍について、その病態、治療を述べるができる。 5. 腎盂・尿管・膀胱腫瘍について、その病態、治療を述べるができる。 6. 腎・泌尿器の炎症と外傷について、その病態、治療を述べるができる。 7. 腎不全、腎移植について、その病態、治療を述べるができる。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】</p> <p>D-8 腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）、F-1-11) 浮腫 F-1-25) 腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘍、F-1-28) 尿量・排尿の異常、 F-1-29) 血尿・タンパク尿、F-1-37) 外傷・熱傷</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腎・泌尿器の解剖・生理、症候・検査 2. 腎・泌尿器の発生 3. 腎・泌尿器の炎症と外傷 4. 腎・泌尿器の先天異常 5. 尿路結石の成因 6. 尿路結石の治療 7. アクティブラーニング（結石、感染、炎症、外傷） 8. 腎不全・腎移植 9. 副腎疾患・腎腫瘍 10. 腎盂・尿管・膀胱腫瘍 11. アクティブラーニング（副腎・腎・尿路上皮腫瘍、腎移植） <p>※「2. 腎・泌尿器の発生」「4. 腎・泌尿器の先天異常」についてのアクティブラーニングは、生殖機能コースでの範囲となります。</p> <p>※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって対面形式もしくはZoomによる実施となります。</p>
授業計画	授業予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	<p>初回の講義までに、教科書・テキストなどで予習しておくこと。</p> <p>アクティブラーニングはTBL (team-based learning) 形式で行い、講義始めに小テストがあります。</p> <p>アクティブラーニング・試験はテキスト・参考文献からも出題されます。</p> <p>※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、講義室もしくはZoomによる小テストを行います。</p>
成績評価方法	<p>セメスター試験 80%、アクティブラーニング 20%</p> <p>※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、講義室もしくはZoomによる小テストを行います。</p>
教科書・テキスト	<p>教科書：標準泌尿器科学 第9版 医学書院 病気がみえる vol18 腎・泌尿器 MEDIC MEDIA</p> <p>参考資料：講義配布プリント</p>
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	<p>講義開始時間の1分前までに着席していること。講義の途中入室・途中退室は特別な事情がある場合に限るものとする。</p> <p>講義中に不在が判明した場合、いかなる理由であっても欠席扱いとします。</p> <p>スマホでの講義撮影・動画撮影・録音は禁止します。</p>
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	<p>アクティブラーニングはTBL (team-based learning) 形式で行い、講義始めに小テストがあります。</p> <p>アクティブラーニング・試験はテキスト・参考文献からも出題されます。</p> <p>※「2. 腎・泌尿器の先天異常」「4. 腎・泌尿器の発生」についてのアクティブラーニングは、生殖機能コースでの範囲となります。</p> <p>※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、講義室もしくはZoomによる小テストを行います。</p>
連絡先・オフィスアワー	<p>対応可能な時間：月～金 9:00～17:00</p> <p>担当教員の名前：岡田 淳志 准教授</p> <p>連絡先：8266（医局内線）</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	<p>臨床現場に出た際に必要となる知識を学ぶ1度切りの機会です。</p> <p>また講義をする医師は、20年後の自分たちの姿であると認識し、礼節をもって講義に臨んで下さい。</p>
関連URL	<p>教室HP https://ncu-uro.jp/</p> <p>教室facebookページ https://www.facebook.com/ncunephrourology</p>

2022年1月～2022年12月 第3学年・第4学年

腎・尿路ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
腎・泌尿器科学分野・教授	安井 孝周
小児泌尿器科学分野・教授	林 祐太郎
医学研究科 腎・泌尿器科学 東部医療センター教授	丸山 哲史
地域医療研究教育センター・教授	安藤 亮介
腎・泌尿器科学分野・准教授	河合 憲康
腎・泌尿器科学分野・准教授	岡田 淳志
小児泌尿器科学分野・准教授	水野 健太郎
腎・泌尿器科学分野・講師	濱本 周造
腎・泌尿器科学分野・講師	内木 拓
腎・泌尿器科学分野・講師	田口 和己

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	7	金	1	腎・泌尿器の解剖・生理、症候・検査	安井 孝周
1	7	金	4	腎・泌尿器の発生	林 祐太郎
1	14	金	1	腎・泌尿器の炎症と外傷	丸山 哲史
1	14	金	4	腎・泌尿器の先天異常	水野 健太郎
1	21	金	1	尿路結石の成因	田口 和己
1	21	金	4	尿路結石の治療	濱本 周造
1	28	金	1	アクティブラーニング(結石、感染、炎症、外傷)	岡田 淳志
1	28	金	4	副腎疾患・腎腫瘍	河合 憲康
2	4	金	1	腎不全・腎移植	安藤 亮介
2	4	金	4	腎盂・尿管・膀胱腫瘍	内木 拓
2	18	金	3	アクティブラーニング(副腎・腎・尿路上皮腫瘍、腎移植)	岡田 淳志

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・生殖機能ユニット
専門・教養	専門
担当教員	産科婦人科： 杉浦真弓、村上 勇、荒川敦志、佐藤 剛、西川隆太郎 泌尿器科： 安井孝周、林 祐太郎、戸澤啓一、梅本幸裕、窪田泰江、河合憲康、 水野健太郎、野々村祝夫
講義期間・曜日・時限	セメスター2（2022年2月28日～4月18日）月曜日
授業目的・目標	（産科婦人科）生殖器の疾患の原因、病理、形態、症候、病態生理を正確に把握し、診断や治療法の基本を正しく理解することを目標とする。 （泌尿器科） 【授業目的】 下部尿路・男性生殖器の役割を理解するために、膀胱・前立腺・尿道・精巣の解剖と機能の関する知識を確認し、それらに特有の病態、疾患などを理解し、診断から手術に至る様々な知識を総合的に習得する。 【授業目標】 超高齢化社会において、下部尿路・男性生殖器疾患を正確に診断し治療に結びつけることは医師としての素養であるので、このための知識を習得する。
キーワード	（産科婦人科）性分化、生殖内分泌、月経異常、不妊症、婦人科腫瘍 （泌尿器科）男性生殖器・前立腺・精巣・男子不妊症
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 1a-d, 11a-e, 11b, 11d
学習到達目標	（産科婦人科） 1. 女性生殖器の発生、構造、機能について正しく理解し説明できる。 2. 女性の正常な性分化およびその異常について正しく理解し説明できる。 3. 女性の生殖内分泌機構や排卵の機序およびその破綻の結果生じる月経異常や不妊症について正しく理解し説明できる。 4. 婦人科腫瘍の検査・診断、良悪性の鑑別、治療について正しく理解し説明できる。 （泌尿器科） 1. 生殖器の構造と機能、性周期について正しく理解し、説明できる。 2. 不妊症について理解し、説明できる。 3. 生殖器腫瘍の診断・治療について理解し、説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-2-4) 個体の発生、C-4-1) 遺伝的多様性と疾患、C-4-6) 腫瘍、D-9) 生殖機能、E-3) 腫瘍、E-7-4) 成長と発達(思春期)、E-8-1) 加齢と老化、F-1-20) 腹痛、F-1-30) 月経異常、F-2-4) 病理診断、F-2-5) 放射線等を用いる診断と治療、F-2-6) 内視鏡を用いる診断と治療、F-2-7) 超音波を用いる診断と治療、F-2-9) 外科的治療と周術期管理
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	（産科婦人科） 1. 女性生殖器の構造と機能・発生と性分化・内外生殖器の先天異常 2. 性周期発現と排卵の機序・性腺刺激ホルモンとステロイド 3. 月経異常の診断と治療 4. 女性不妊症の系統診断と治療 5. 婦人科腫瘍学総論 6. 子宮頸癌 7. 子宮体癌 8. 卵巣腫瘍・絨毛性疾患 9. 子宮内腺症・子宮筋腫 10. アクティブラーニング：婦人科内分泌疾患 11. アクティブラーニング：婦人科腫瘍 （泌尿器科） 1. 男性生殖器の機能、症候と検査 2. 性分化疾患の診断・治療 3. 男性生殖器の先天異常 4. EDの診断と治療・STI 5. 男性不妊症の系統診断と治療 6. 前立腺癌 7. 精巣腫瘍 8. 前立腺肥大症・下部尿路通過障害 9. Female Urology/神経因性膀胱 10. アクティブラーニング（小児・先天異常・不妊） 11. アクティブラーニング（前立腺・尿道・精巣腫瘍・排尿）
授業計画	授業計画を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	（産科婦人科） 授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の内容を予習した上で、講義に臨むこと。 講義内容を正しく修得できるよう、テキストや参考図書および講義での配布資料により復習し理解を深める。さらに講義では触れられなかった講義内容に関する項目についても自己学習により知識を広め、理解・修得に努めること。 （泌尿器科） 初回の講義までに、教科書・テキストなどで予習しておくこと。 アクティブラーニングは、TBL(team-based learning)形式で行い、講義始めに小テストがあります。アクティブラーニング・試験はテキスト・参考文献からも出題されます。
成績評価方法	（産科婦人科） セメスター試験：80点満点 アクティブラーニング：参加態度10+提出物10=20点満点 本試は以上2項目の合計点を100点満点とし6割未満を不合格とする。再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。 （泌尿器科） セメスター試験 80%、アクティブラーニング 20% ※アクティブラーニングは、新型コロナ感染症の感染状況によって、講義室もしくはZoomによる小テストを行います。
教科書・テキスト	（産科婦人科） 「プリンシプル産科婦人科学 婦人科編」メディカルビュー 第3版、 「病気がみえる vol.9 婦人科・乳癌外科」MEDIC MEDIA 第4版 （泌尿器科） 標準泌尿器科学（第9版） 医学書院、 病気がみえる vol8 腎・泌尿器 MEDIC MEDIA 参考資料：講義配布プリント
参考文献	テキストにあげられている参考文献、講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	（産科婦人科） 講義の途中入室・途中退室は、原則認めない。特別な事情がある場合は、必ず講義担当者に申し出ること。 病欠の場合は教育研究課に連絡すること。 スマホでの講義撮影・動画撮影・録音は禁止します。 （泌尿器科） 講義開始時間の1分前までに出席していること。講義の途中入室・途中退室は特別な事情がある場合に限るものとする。スマホでの講義撮影・動画撮影・録音は禁止します。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	（産科婦人科） TBL(team-based learning)形式で行い、全員参加型である。積極的に議論に参加すること。 （泌尿器科） アクティブラーニングは、TBL(team-based learning)形式で行い、講義始めに小テストがあります。アクティブラーニング・試験はテキスト・参考文献からも出題されます。 ※アクティブラーニングは、新型コロナ感染症の感染状況によって、講義室もしくはZoomによる小テストを行います。
連絡先・オフィスアワー	（産科婦人科） 担当教員：佐藤 剛、北折珠央 産科婦人科 医局 853-8241（内線8241） e-mail: og_sato@med.nagoya-cu.ac.jp 平日 9:00～17:00 （泌尿器科） 対応可能な時間：月～金 9:00～17:00 担当教員：河合 憲康 准教授 連絡先：8266（医局内線）
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	臨床現場に出た際に必要となる知識を学ぶ1度切りの機会です。 また講義をする際は、20年後の自分たちの姿であると認識し、礼節をもって講義に臨んで下さい。 講義での疑問点や十分な理解に至らなかった事項については、そのままにしておかず、教員への積極的な質問・確認や自己学習により解決するよう努めること。
関連URL	

生殖機能ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
産科婦人科学分野 教授	杉浦真弓	腎・泌尿器科学分野・教授	安井 孝周
名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター 教授(診療担当)	村上 勇	小児泌尿器科学分野・教授	林 祐太郎
名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター 教授(診療担当)	荒川敦志	医療安全管理学分野・教授	戸澤 啓一
産科婦人科学分野 准教授	佐藤 剛	医学部附属西部医療センター・教授	梅本 幸裕
産科婦人科学分野 助教	西川隆太郎	看護学部健康科学臨床生理学・教授	窪田 泰江
		腎・泌尿器科学分野・准教授	河合 憲康
		小児泌尿器科学分野・准教授	水野 健太郎
		非常勤講師	
		大阪大学大学院医学研究科泌尿器科 教授	野々村祝夫

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
2	28	月	1	女性生殖器の構造と機能・発生と性分化・内外生殖器の先天異常	杉浦真弓
2	28	月	2	性周期発現と排卵の機序・性腺刺激ホルモンとステロイド	杉浦真弓
2	28	月	3	男性生殖器の機能、症候と検査	安井 孝周
2	28	月	4	男性生殖器の先天異常	林 祐太郎
3	7	月	1	月経異常の診断と治療	杉浦真弓
3	7	月	2	女性不妊症の系統診断と治療	佐藤 剛
3	7	月	3	性分化疾患の診断・治療	水野健太郎
3	7	月	4	アクティブラーニング(小児・先天異常)	水野健太郎
3	14	月	1	子宮内膜症・子宮筋腫	村上 勇
3	14	月	2	アクティブラーニング(婦人科内分泌疾患)	佐藤 剛
3	14	月	3	Female Urology・神経因性膀胱口	窪田 泰江
3	14	月	4	前立腺癌	野々村 祝夫
4	4	月	1	婦人科腫瘍学総論	西川隆太郎
4	4	月	2	子宮頸癌	西川隆太郎
4	4	月	3	男性不妊症の系統診断と治療	梅本幸裕
4	4	月	4	EDの診断と治療・STI	梅本幸裕
4	11	月	1	子宮体癌・絨毛性疾患	荒川敦志
4	11	月	2	卵巣腫瘍・化学療法	荒川敦志
4	11	月	3	精巣腫瘍	戸澤啓一
4	11	月	4	前立腺肥大症・下部尿路通過障害	河合 憲康
4	18	月	1	アクティブラーニング(婦人科腫瘍)	西川隆太郎
4	18	月	2	アクティブラーニング(前立腺・尿道・精巣腫瘍・排尿)	河合憲康

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・妊娠と分娩 ユニット
専門・教養	専門
担当教員	杉浦真弓、尾崎康彦、鈴木伸宏、佐藤 剛、北折珠央
講義期間・曜日・時限	セメスター2 (2022年4月25日～5月23日) 月曜日 1, 2, 3, 4 限

授業目的・目標	基礎医学の中で修得した女性の解剖、生理、病理の理解をもとに、基本的な知識の習得を目標とし、さらに新しい分子細胞生物学の進歩による新しい知見も含めて理解することを目的とする。具体的には基本的産科知識(正常妊娠、正常分娩)を正確に習得し、異常妊娠・分娩・産褥について病態やリスクの程度を理解し、その管理法を学習する。また胎児心拍モニタリングや超音波断層法などの医療工学機器により得られた胎児情報についてその原理と結果の評価について理解し、得られるデータに対する適切な臨床的判断を学習・修得することを目標とする。
キーワード	妊娠、分娩、産褥、胎児、産科麻酔
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 Ia, Ib, Ic, Id, IIb, IIe, IIIb, IVd
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の生理を理解し説明できる。 2. 異常妊娠・合併症妊娠について理解し説明できる。 3. 産科検査法を理解し説明できる。 4. 胎児の状態に関する検査法とその評価について理解し説明できる。 5. 正常分娩経過について理解し説明できる。 6. 異常分娩とその管理について理解し説明できる。 7. 産科手術について理解し説明できる。 8. 産科危機的出血、産科DIC等の産科救急について理解し説明できる。 9. 産科麻酔について理解し説明できる。 10. 正常な産褥経過およびその異常について理解し説明できる。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】</p> <p>C-2-4) 個体の発生、D-9 生体機能、D-10 妊娠と分娩、E-1 遺伝医療・ゲノム医療、E-7-1) 成長と発達(胎児・新生児)、F-1-5) ショック、F-1-20) 腹痛、F-1-21) 悪心・嘔吐、F-1-30) 月経異常、F-1-31) 不安・抑うつ、F-2-7) 超音波を用いる診断と治療、F-2-9) 外科的治療と周術期管理、F-2-10) 麻酔</p>
成績評価基準	<p>秀: 90点以上 (学修到達目標を越えたレベルを達成している)</p> <p>優: 80点以上 (学修到達目標を十分に達成している)</p> <p>良: 70点以上 (学修到達目標を達成している)</p> <p>可: 60点以上 (学修到達目標を最低限達成している)</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の診断と妊娠・分娩に伴う解剖学的・生理学的変化 2. 異常妊娠 (流産・異所性妊娠・多胎妊娠・胎児体勢異常) 3. 胎児の発達・産科超音波検査法・出生前診断法 4. 胎児-胎盤機能検査法・胎児心拍数モニタリング 5. 妊娠合併症 (耐糖能異常・血液凝固障害・内分泌疾患・妊娠高血圧症候群) 6. 早産の管理・陣痛の調整法 7. 胎盤位置異常・常位胎盤早期剥離 9. 正常分娩 10. 異常分娩 11. 産科出血・産科DIC 12. 産科麻酔 13. 産褥期 (子宮復古不全・産褥熱・乳腺疾患・メンタルケア) 14. アクティブラーニング1, 2
授業計画	2022年度 妊娠と分娩 授業計画を参照
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。講義内容を正しく修得できるよう、テキストや参考図書および講義での配付資料により復習し理解を深める。さらに講義では触れられなかった講義内容に関わる項目についても自己学習により知識を広め、理解・修得に努めること。
成績評価方法	<p>セメスター試験: 80点満点</p> <p>アクティブラーニング: 参加態度10+提出物10=20点満点</p> <p>本試は以上2項目の合計点を100点満点とし6割未満を不合格とする。再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。</p>
教科書・テキスト	「プリンシプル産科婦人科学 産科編」メディカルビュー 第3版、 「病気がみえる vol.10 産科」MEDIC MEDIA 第4版
参考文献	テキストにあげられている参考文献
履修上の注意事項	講義の途中入室・途中退室は、原則認めない。特別な事情がある場合は、必ず講義担当者に申し出ること。病欠の場合は教育研究課に連絡すること。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	TBL(team-based learnig)形式で行い、全員参加型である。積極的に議論へ参加すること。
連絡先・オフィスアワー	担当教員: 佐藤 剛、北折珠央 産科婦人科 医局 853-8241 (内線8241) e-mail: og.sato@med.nagoya-cu.ac.jp 平日 8:00 - 17:00
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	講義での疑問点や十分な理解に至らなかった事項については、そのままにしておかず、教員への積極的な質問・確認や自己学習により解決するよう努めること。
関連URL	

妊娠と分娩 担当教員

所属・職名	氏名
産科婦人科学分野 教授	杉浦真弓
名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター 教授(診療担当)	尾崎康彦
産科婦人科学分野 病院教授	鈴木伸宏
産科婦人科学分野 准教授	佐藤 剛
産科婦人科学分野 講師	北折珠央

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	25	月	1	妊娠の診断と妊娠・分娩に伴う解剖学的・生理学的変化	佐藤 剛
4	25	月	2	異常妊娠(流産・異所性妊娠・多胎妊娠・胎位体勢異常)	杉浦真弓
4	25	月	3	胎児の発達・産科超音波検査法・出生前診断法	鈴木伸宏
4	25	月	4	胎児-胎盤機能検査法・胎児心拍数モニタリング	鈴木伸宏
5	9	月	1	妊娠合併症1(耐糖能異常・血液凝固障害・内分泌疾患)	北折珠央
5	9	月	2	妊娠合併症2(妊娠高血圧症候群)	北折珠央
5	9	月	3	胎盤位置異常・常位胎盤早期剥離	鈴木伸宏
5	9	月	4	切迫早産の治療法・陣痛の調整法	北折珠央
5	16	月	1	正常分娩1	尾崎康彦
5	16	月	2	正常分娩2	尾崎康彦
5	16	月	3	アクティブラーニング1	鈴木伸宏
5	16	月	4	産褥期(子宮復古不全・産褥熱・乳腺疾患・メンタルケア)	北折珠央
5	23	月	1	産科出血・産科DIC	佐藤 剛
5	23	月	2	異常分娩1	尾崎康彦
5	23	月	3	異常分娩2・産科麻酔	尾崎康彦
5	23	月	4	アクティブラーニング2	尾崎康彦

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・乳房ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学部：遠山竜也、近藤直人、髙瀬友美 非常勤講師：愛知県がんセンター：岩田広治、神奈川県立がんセンター：山下年成
講義期間・曜日・時限	Semester 2 (2021/3/1～2021/4/5) 火曜日、3・4限目

授業目的・目標	授業目的：乳房の疾患領域における医学、医療、福祉に関し、乳腺専門医の役割と必要性について基本的な認識を得るため 授業目標：乳房の解剖、生理、病態、疾患、標準的治療法に関して基礎的知識を修得し、乳房診療特有の検査などを実習する。
キーワード	乳房、乳がん、胸部
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I b、I c、II a、II b
学習到達目標	学習到達目標 1. 乳房の構造と機能、および女性ホルモンの正常乳腺組織および乳がんへの影響について説明できる 2. 乳がんの疫学と診断方法が説明できる 3. 乳がんに対する手術療法が説明できる 4. 乳がんに対する薬物療法（内分泌療法、化学療法、分子標的療法、免疫療法）が説明できる 5. がんに対する臨床試験について説明できる 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-11、F-3-5)-4)
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	乳がんの基礎：乳癌とホルモン 乳がんの疫学・診断 乳がんの手術療法 乳がんの薬物療法 がん治療 一標準治療と臨床試験一 乳房コース：総括講義
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修	“授業計画表を確認の上、テキストや参考図書該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。”
成績評価方法	Semester 試験（100）点満点 * Semester 試験が60点未満の場合、最初（3月1日3限）の講義時のレポートを10点を上限としてプラスする。
教科書・テキスト	なし
参考文献	1. 「病気がみえる vol.9:婦人科・乳腺外科」医療情報科学研究所（編集） 2. 「乳腺腫瘍学」日本乳癌学会（編集）金原出版 3. 「乳癌診療ガイドライン」日本乳癌学会（編集）金原出版
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特になし。
アクティブ・ラーニング	対話・議論型授業を一部行う
連絡先・オフィスアワー	乳腺外科学分野 秘書 杉山順子 乳腺外科学分野 教授 遠山竜也 PHS:3188 Email:t.toyama@med.nagoya-cu.ac.jp 10:00-17:00（乳腺外科学分野医局 内線 8336）
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げてください。
関連URL	

2022年1月～2022年12月 第3学年・第4学年

乳房ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
乳腺外科学分野 教授	遠山竜也
乳腺外科学分野 講師	近藤直人
乳腺外科学分野 講師	鰐淵友美
神奈川県立がんセンター 乳腺内分泌外科 部長	山下年成
愛知県がんセンター病院 副院長・乳腺科部長	岩田広治

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
3	1	火	3	乳がんの基礎:乳がんとホルモン	遠山竜也
3	1	火	4	乳がんの薬物療法(ホルモン療法・免疫療法)	遠山竜也
3	8	火	3	乳がんの疫学・診断	山下年成
3	8	火	4	乳がんの手術療法	近藤直人
3	15	火	3	乳がんの薬物療法(化学療法・分子標的療法)	鰐淵友美
3	15	火	4	がん治療—標準治療と臨床試験—	岩田広治
4	5	火	3	乳房コース:総括講義	遠山竜也

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・ 内分泌・ 栄養・ 代謝系ユニット
専門・ 教養	専門
担当教員	田中智洋、青谷大介、小山博之、服部 麗、今枝憲部、高木博史、青山幸平、野尻俊輔 非常勤講師：伊藤哲哉、加藤岳史、小川浩平、水野達央
講義期間・ 曜日・ 時限	セメスター2 (2021年4月8日～2018年5月20日)

授業目的・ 目標	【授業目的】 内分泌・ 代謝疾患の診断・ 治療のための基本となる知識と考え方を学ぶ 【授業目標】 (1) 人体の動的恒常性維持機構の基盤となる内分泌・ 栄養・ 代謝システムを理解する。 (2) 恒常性の破綻としての内分泌・ 代謝疾患の疾病概念と病態生理を理解し、診断と治療の基本を修得する。 (3) 内分泌・ 代謝学の理解を通して内科診断学・ 治療学の基本を学ぶ。
キーワード	糖尿病、代謝、視床下部・ 下垂体、副腎、甲状腺
ディプロマ・ ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	1a, b, c, d, 2c, 3a, b
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 内科学における中心的分野、内分泌・ 代謝学の学習を通して内科学の基本となる考え方を身につけ、診断・ 治療を実践できるための基礎を修得する。 2. 解剖学・ 生理学・ 生化学・ 遺伝学などの基礎医学知識を動員して、個々の患者に即した病態生理の理解と説明ができる。 3. 内分泌・ 代謝疾患領域における臨床推論のプロセスを体験し、診断や治療方針の策定や予後予測について人に説明できる。 4. 次年度以降のBSLにおいて担当患者の診療プロセスにスムーズに参加し、症例に基づいたレポートの作成に支障のないレベルの知識と考え方を身につける。 【該当するモデル・ コア・ カリキュラム】 D-12) 内分泌・ 栄養・ 代謝系
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	総論（内分泌疾患、栄養疾患、代謝疾患についての基本的考え方）と各論（各疾患の疫学、疾病概念、病態生理、診断学、治療学）の学習を通して、臨床研修の前段階としてのBSLに必須の知識を修得する。
授業計画	1. 内分泌・ 代謝内科学総論□ 2. 糖尿病とは何か 病態生理・ 慢性合併症・ 治療目標□ 3. 糖尿病治療論□ 4. 肥満、やせ、メタボリックシンドローム□ 5. 1型糖尿病特論□ 6. 脂質代謝異常□ 7. ミネラル代謝異常、骨代謝異常、副甲状腺疾患□ 8. 代謝性肝疾患□ 9. ビタミン欠乏症と過剰症□ 10. 糖尿病の急性合併症□ 11. 消化管ホルモンおよび産生腫瘍／アクティブラーニングオリエンテーション□ 12. 高アンモニア血症・ アミノ酸代謝異常□ 13. 先天性糖代謝異常症・ ライソゾーム病□ 14. 視床下部・ 下垂体□ 15. 副腎□ 16. 甲状腺□ 17. 小児の甲状腺疾患□ 18. 小児の成長ホルモン治療□ 19. アクティブラーニング（症例に即したグループワーク・ プレゼンテーション）
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。一部講義では穴埋め式のまとめ資料を準備しており、これを活用しての復習を推奨される。
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点 *セメスター試験が60点未満の場合、アクティブラーニングを10点を上限としてプラスする。アクティブラーニングは、発表・ 参加態度を参考とする。
教科書・ テキスト	病気がみえる③ 糖尿病・ 代謝・ 内分泌 メディックメディア 糖尿病治療ガイド 日本糖尿病学会編、南江堂 最新内分泌代謝学 診断と治療社 小児内分泌疾患を楽しく学ぶ 診断と治療社
参考文献	内科学書 改訂第9版 Vol.5 内分泌疾患、代謝・ 栄養疾患 中山書店 Williams Textbook of Endocrinology 14th edition Elsevier Standards of Medical Care in Diabetes-2021 (https://care.diabetesjournals.org/content/44/Supplement_1)
履修上の注意事項	特に無し
履修者への要望事項	「求めよ、さらば与えられん」 質問をすることで学びが得られます。積極的に質問を。
アクティブ・ ラーニング	10名前後の学生グループに分かれ、それぞれのグループで各1モデル症例を担当、グループ内で必要な情報と検査、鑑別すべき疾患、鑑別プロセス、臨床診断、治療方針の決定、長期予後の予測や考察を行う。これらをポイント（PDFも可）の資料にまとめ、全員に対してプレゼンテーションする。同級生からの質問に答えることで議論を通して互いに理解を深める。
連絡先・ オフィスアワー	消化器・ 代謝内科学 准教授 田中智洋 火、金 9:00～17:00（至急でない要件は原則メールでご連絡ください） 内線：8211、PHS：4783、E-mail：tttanaka@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	内分泌代謝科専門医・ 指導医、糖尿病専門医・ 研究指導医を初め、内分泌・ 代謝内科診療、肝臓病診療、小児内分泌診療のエキスパートが臨床医学としての内分泌・ 代謝学の基礎から実症例を題材とした診療の実践までを解説する。
備考	内分泌・ 代謝学の学習を通して、内科学の基本的考え方と実践の基礎を学びましょう！
関連URL	http://ncu-shotai.sakura.ne.jp/

2022年1月～2022年12月 第3学年・第4学年

内分泌・栄養・代謝系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
消化器・代謝内科学分野 准教授	田中智洋
消化器・代謝内科学分野 講師	青谷大介
消化器・代謝内科学分野 助教	小山博之
消化器・代謝内科学分野 病院助教	服部 麗
新生児・小児医学分野 助教	青山幸平
地域医療教育研究センター 教授	野尻俊輔
名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター 内分泌・糖尿病内科 教授	今枝憲郎
名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター 内分泌・糖尿病内科 講師	高木博史
藤田医科大学 小児科 教授	伊藤哲哉
豊川市民病院 糖尿病内分泌内科 部長	加藤岳史
旭労災病院 糖尿病内分泌内科 部長	小川浩平
刈谷豊田総合病院 糖尿病・内分泌内科 部長	水野達央

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	8	金	1	内分泌・代謝内科学総論	田中智洋
4	8	金	2	糖尿病とは何か 病態生理・慢性合併症・治療目標	田中智洋
4	8	金	3	糖尿病治療論	青谷大介
4	8	金	4	肥満、やせ、メタボリックシンドローム	水野達央
4	14	木	3	1型糖尿病特論	服部麗
4	14	木	4	脂質代謝異常	加藤岳史
4	15	金	1	ミネラル代謝異常、骨代謝異常、副甲状腺疾患	青谷大介
4	15	金	2	代謝性肝疾患	野尻俊輔
4	15	金	3	ビタミン欠乏症と過剰症	小山博之
4	15	金	4	糖尿病の急性合併症	小川浩平
4	21	木	3	消化管ホルモンおよび産生腫瘍／アクティブラーニングオリエンテーシ	小山博之
4	21	木	4	高アンモニア血症・アミノ酸代謝異常	伊藤哲哉
4	22	金	1	先天性糖代謝異常症・ライソゾーム病	伊藤哲哉
4	22	金	2	内分泌・代謝内科学特論／アクティブラーニング準備	田中智洋
4	22	金	3	視床下部・下垂体 1	高木博史
4	22	金	4	視床下部・下垂体 2	高木博史
5	6	金	1	副腎 1	田中智洋
5	6	金	2	副腎 2	田中智洋
5	6	金	3	甲状腺 1	今枝憲郎
5	6	金	4	甲状腺 2	今枝憲郎
5	20	金	1	アクティブラーニング発表	田中智洋ほか
5	20	金	2	アクティブラーニング発表	田中智洋ほか
5	20	金	3	小児の甲状腺疾患	青山幸平
5	20	金	4	小児の成長ホルモン治療	青山幸平

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・眼・視覚系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	安川力 野崎実穂 平野佳男 加藤亜紀 木村雅代 森田裕 小椋俊太郎 桑山創一郎 黒部亮 玉井一司 加藤房枝 中沢陽子 安田優介
講義期間・曜日・時限	セメスター3 (2022/6/8～2022/7/7)、水曜日 1～4限目、木曜日 3, 4限目

授業目的・目標	授業目的：眼球とその付属器および視覚系の疾患について、その原因、病態、症候、診断、治療に関する知識を習得し、最新の眼科治療法、症候から診断に至るプロセスを学ぶ。 授業目標：学生自ら考えながら問題解決に到達できることを目標とする。
キーワード	眼球、眼付属器、視路
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 1a, c, IVd
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 眼球とその付属器および視路についての解剖、生理について説明できる。 2. 解剖は豚眼を実際に解剖することでよりいっそう理解を深める。 3. 眼科検査について説明できる。 4. 直像鏡ではお互い眼底を観察しあい、患者への対応の仕方、患者のを気持ちを理解すると共に、より眼球の構造を理解する。 5. 眼、視覚疾患の病因、病態について説明できる。 6. 眼疾患の治療について説明できる。 7. 患者の症候、検査所見から診断、治療にいたるプロセスを述べられる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-13 眼・視覚系
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	(講義) 1視覚系の構造と機能 2眼科検査法 3外眼部疾患 4緑内障 5水晶体 6網膜硝子体疾患 7ぶどう膜疾患 8神経眼科 9小児眼科 10全身疾患と眼 11眼の外傷・救急 12眼科治療学 13眼科臨床診断学 14眼科のtranslational research (実習) 眼局所解剖（豚眼解剖実習）、直像鏡を用いた眼底実習、眼科疾患PBL
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	1) 授業計画表を確認の上、参考文献の該当箇所を予習した上で講義に臨むこと。 2) 各授業において教科書以外の予習・復習について指示することがあるので、その指示に従うこと。
成績評価方法	セメスター試験 100点 *アクティブラーニングを10点を上限としてプラスする。アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする。
教科書・テキスト	
参考文献	“現代の眼科学” 監修 所敬, 編集 吉田 晃敏/谷原 秀信, 金原出版 “Ophthalmology: An illustrated colour text 4th edition”, M. Batterbury, B. Bowling, Elsevier/Churchill, Livingstone, 2018
履修上の注意事項	豚眼解剖実習の際には白衣を持参すること。解剖実習、眼底実習は2グループに分けて行う。PBL1回目、2回目は前の講義が終わり次第開始するので前の講義に出席できない際には注意すること。
履修者への要望事項	特になし。
アクティブ・ラーニング	眼球解剖1時間、眼底実習1時間、眼科疾患PBL5時間を行う。PBLでは積極的に議論に参加すること。実習で互いに協力し合うこと。
連絡先・オフィスアワー	月曜日～金曜日 9:00～17:00 内線8251 (052-853-8251) 安川 力 yasukawa@med.nagoya-cu.ac.jp 小椋 俊太郎 shuntaro.ogura@gmail.com
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

眼・視覚系 ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
視覚科学・教授	安川 力
視覚科学・准教授	野崎 実穂
視覚科学・准教授	平野 佳男
視覚科学・講師	加藤 亜紀
視覚科学・講師	木村 雅代
視覚科学・助教	森田 裕
視覚科学・助教	小椋 俊太郎
視覚科学・助教	桑山 創一郎
視覚科学・病院助教	黒部 亮
東部医療センター 准教授	玉井 一司
東部医療センター 講師	加藤 房枝
西部医療センター 准教授	中沢 陽子
西部医療センター 助教	安田 優介

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	8	水	1	オリエンテーション、視覚系の構造と機能	安川
	8	水	2	眼科検査法	木村
	8	水	3	眼科実習1解剖	木村
	8	水	4	眼科実習2解剖	木村
	9	木	3	水晶体疾患	野崎
	9	木	4	緑内障	野崎
	15	水	1	ぶどう膜疾患	加藤(亜)
	15	水	2	網膜硝子体疾患1	森田
	15	水	3	網膜硝子体疾患2	平野
	15	水	4	神経眼科	玉井
	16	木	3	全身疾患と眼(60分)	安田
	16	木	4	PBL1	小椋・黒部・安田
	22	水	1	眼科実習2 直像鏡	桑山(創)・黒部
	22	水	2	眼科実習3 直像鏡	桑山(創)・黒部
	22	水	3	眼科のtranslational research	安川
	22	水	4	小児眼科	中沢
	23	木	3	外眼部・角結膜疾患(60分)	桑山(創)
	23	木	4	PBL2	黒部
	30	木	3	眼科救急(60分)	加藤(房)
	30	木	4	PBL発表準備	黒部・加藤(房)
7	7	木	3	PBL発表・総括	加藤(亜)・小椋
	7	木	4	PBL発表・総括	加藤(亜)・小椋

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・耳鼻・咽喉・口腔系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	岩崎真一、鳥山和宏、鈴木元彦、讃岐徹治、川北大介、佐藤慎太郎、江崎伸一、蒲谷嘉代子、的場拓磨、有馬菜千枝、佐藤秀吉 非常勤講師：高橋真理子、中村善久、別府慎太郎
講義期間・曜日・時限	セメスター3（2021/6/6～2022/7/11）、月・木曜日、1～4限目

授業目的・目標	<p>【授業目的】 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の専門領域における医学、医療、福祉に関しこの分野の専門医の役割と必要性について基本的な認識を得るため</p> <p>【授業目標】 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学が扱う領域の解剖、生理、病態、疾患、標準的治療法に関して基礎的知識を修得し、耳鼻咽喉科特有の検査などを実習する。さらに頭蓋底外科、嚥下障害の診断と治療といった他科との境界領域、人工内耳をはじめとする新しい治療法、全身疾患と耳鼻咽喉科などに対する理解を深める。</p>
キーワード	耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頭頸部
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a、I b
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の概念を理解し説明できる 2. 耳科学、神経耳科学に関する構造と機能ならびに検査法を説明できる 3. 外耳・中耳・内耳・顔面神経の代表疾患の疫学・病態・治療を説明できる 4. 鼻副鼻腔の構造と機能、検査法を説明できる 5. 鼻副鼻腔の代表疾患につき疫学・病態・治療を説明できる 6. 口腔咽頭・喉頭の構造と機能ならびに検査法を説明できる 7. 口腔咽頭・喉頭の代表疾患につき疫学・病態・治療を説明できる 8. 耳鼻咽喉科救急疾患について理解し、治療法を説明できる 9. 頭蓋底外科、人工内耳、人工中耳、について理解し説明できる 10. 全身疾患と耳鼻咽喉科との関わりについて理解し説明できる <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-14、E-1, 2, 3, 4, 6, 7, 8、F-1-1, 15, 19, 27、F-2-1, 3, 6, 7, 8, 9、G-2-9, 19, 27</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限度達成している）</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 耳鼻咽喉科の役割と魅力 2. 耳鼻咽喉科領域の構造と生理 3. 病態、代表的疾患とその診断 4. 標準的治療法 5. 感覚器の検査と新しい治療方法 6. 救急疾患 7. 全身疾患と耳鼻咽喉科 8. 側頭骨、頭蓋底外科 9. 耳鼻咽喉科のリハビリ 10. 形成外科
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。講義後には知識を定着させ、理解を深めるために復習をしておくこと。
成績評価方法	<p>セメスター試験 90点満点 アクティブラーニング 10点満点 合計 100点満点 *アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする。</p>
教科書・テキスト	<p>新耳鼻咽喉科学 切替一郎ほか、南山堂 イラスト耳鼻咽喉科 森満保、文光堂 病気が見える13耳鼻咽喉科 松村謙児ほか、メディックメディア</p>
参考文献	<p>Head and Neck Surgery Naumann HH, Georg Thieme Verlag 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 森山寛ほか、医学書院 新 図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 全5巻 メジカルビュー社 耳鼻咽喉科 診療プラクティス 文光堂</p>
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	リハビリテーションの実践やグループワークを取り入れた授業を行う。 リハビリテーション、グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	月曜から金曜 9:00～17:00 連絡先 担当教員：蒲谷嘉代子 医局秘書に伝言可 内線 8256 電子メール meikyo@med.nagoya-cu.ac.jp（秘書宛て）
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

耳鼻・咽喉・口腔系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 教授	岩崎真一
高度医療教育研究センター 教授	鈴木元彦
形成外科学 教授	鳥山和宏
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 准教授	讃岐徹治
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 准教授	川北大介
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 講師	佐藤慎太郎
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 講師	江崎伸一
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 講師	蒲谷嘉代子
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 助教	的場拓磨
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 助教	南方寿哉
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 助教	有馬菜千枝
形成外科学 助教	佐藤秀吉
愛知学院大学歯学部外科学(耳鼻咽喉科) 准教授	高橋真理子
名古屋第二赤十字病院 耳鼻咽喉科部長	中村善久
愛知県がんセンター 頭頸部外科医長	別府慎太郎

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
6	6	月	3	耳鼻咽喉科の役割・総論	岩崎真一
6	6	月	4	睡眠 基礎と臨床	有馬菜千枝
6	9	木	1	口腔咽頭1:解剖・生理 炎症性疾患と睡眠時無呼吸症候群	佐藤慎太郎
6	9	木	2	口腔咽頭2:疾患、唾液腺疾患	江崎伸一
6	13	月	3	聴覚:解剖・生理・疾患、聴覚検査	蒲谷嘉代子
6	13	月	4	鼻副鼻腔:解剖・生理・疾患、アレルギー疾患	中村善久
6	16	木	1	鼻副鼻腔腫瘍、嗅覚、味覚	鈴木元彦
6	16	木	2	全身疾患との関連	高橋真理子
6	20	月	3	頸部の解剖、頭頸部悪性腫瘍1	川北大介
6	20	月	4	頭頸部悪性腫瘍2	別府慎太郎
6	23	木	1	めまいの基礎と検査	岩崎真一
6	23	木	2	外耳・中耳:解剖・生理・疾患、顔面神経	南方寿哉
6	27	月	3	めまいの臨床とアクティブラーニング	蒲谷嘉代子
6	27	月	4	救急疾患(異物、外傷、気管食道)	的場拓磨
7	4	月	3	喉頭:解剖と疾患、音声外科	讃岐徹治
7	4	月	4	嚥下障害の臨床とアクティブラーニング	讃岐徹治
7	11	月	3	形成外科総論	鳥山和宏
7	11	月	4	頭頸部再建	佐藤秀吉

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・精神系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学部：明智龍男、東 英樹、山田敦朗、久保田陽介、中口智博、内田 恵、近藤真前、白石 直、渡辺孝文 西部医療センター：奥山 徹、持田圭仁、大学院人間文化研究所：小川 成、南山大学：中野有美、南知多病院：仲秋秀太郎
講義期間・曜日・時限	セメスター3（2022/6/7～2022/7/19）、火曜日、1～2限目

授業目的・目標	【授業目的】 先進国では病気による国民のQOL損失の最大の原因は精神疾患によるものであることが示唆されていることに加え、身体疾患患者やプライマリーケアを受診する患者においても、高頻度に抑うつ、不安などの精神症状が認められることが示されている。従って、本コースでは専門科を問わず、全ての医師に求められる、精神症状および精神疾患に関する基本的な認識を得ることを目的とする 【授業目標】 広く精神疾患についての診断や治療法の基本に関して理解を深めることを目標とする。
キーワード	気分障害、統合失調症、不安障害、認知行動療法、コンサルテーション
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 1a, 1b, 1c, 1d, 2a, 2b, 2d, 3a, 3b, 3c, 3d, 3d, 4a, 4b, 4c, 4d
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 精神医学の概念および疾病分類学を理解し説明できる。 2. 心理検査、症状評価法などの精神医学的検査法について説明できる。 3. 精神疾患に対する薬物療法について説明できる。 4. 認知行動療法などの精神療法について説明できる。 5. 児童および青年期にみられる精神疾患について説明できる。 6. 一般身体疾患による精神障害、コンサルテーション精神医学について説明できる。 7. 統合失調症およびその他の精神病性障害について説明できる。 8. 抑うつ症状群について説明できる。 9. 双極性障害について説明できる。 10. 不安症群、強迫症、摂食障害について説明できる。 11. 認知症その他老年期の精神疾患について説明できる。 12. 心的外傷およびストレス関連障害群、解離症群、身体症状症について説明できる。 13. 日本における精神保健福祉の法規と制度について説明できる。 14. 睡眠覚醒障害群、てんかんについて説明できる。 15. 精神作用物質関連障害 について説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-15)精神系、F-1-3) 食思(欲)不振、F1-1-4) 体重減少・増加、F-1-8) けいれん、F-1-17) 動悸、F-1-31) 不安・抑うつ
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 精神医学総論 2. 精神科検査法 3. 薬物療法 4. 精神療法 5. 児童精神医学 6. 症状精神病・コンサルテーション精神医学 7. 統合失調症 8. 抑うつ障害群 9. 双極性障害 10. 不安症群、強迫症、摂食障害 11. 認知症その他老年期の精神疾患 12. PTSD、解離症群、身体症状症 13. 精神保健福祉法 14. てんかん、睡眠-覚醒障害群 15. 精神作用物質関連障害
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の際に過去の授業の内容について質問されても答えられるよう、復習しておくこと。
成績評価方法	セメスター試験（100点満点）
教科書・テキスト	カプラン臨床精神医学テキスト 第3版 メディカルサイエンスインターナショナル 標準精神医学 第8版 尾崎紀夫、三村将他編、医学書院 精神科診察・診断学 古川壽亮、神庭重信編著、医学書院 精神科における予診・初診・初期治療 笠原嘉、星和書店 内科医のための精神症状の見方と対応 宮岡等、医学書院 DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 日本精神神経学会監修、医学書院
参考文献	
履修上の注意事項	精神腫瘍学(サイコオンコロジー)については、臨床腫瘍学コースで講義する
履修者への要望事項	最終的な講義計画は初回の講義時に配布する。 外部講師による特別講義が予定されている場合には必ず出席すること。
アクティブ・ラーニング	対話・議論型授業
連絡先・オフィスアワー	担当：東 英樹 木曜日 15:00-17:00（事前に連絡すること） 内線：8271、PHS：3968、電子メール：azma@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	http://www.ncpsychiatry.com/

精神系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
精神・認知・行動医学分野	明智龍男
精神・認知・行動医学分野	東 英樹
精神・認知・行動医学分野	山田敦朗
精神・認知・行動医学分野	中口智博
精神・認知・行動医学分野	近藤真前
精神・認知・行動医学分野	白石 直
精神・認知・行動医学分野	渡辺孝文
緩和ケア部 助教	内田 恵
西部医療センター精神科・児童精神科教授	奥山 徹
西部医療センター精神科・児童精神科准教授	持田圭仁
医療政策・経営科学講師	久保田陽介
名古屋市立大学 大学院人間文化研究科 教授	小川 成
南山大学 人文学部心理人間学科 教授	中野有美
南知多病院 診療部長	仲秋秀太郎

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	7	火	1	精神医学総論	明智龍男
6	7	火	2	精神科治療:精神療法(認知行動療法を中心に)	中野有美
6	14	火	1	精神科治療:薬物療法および身体的治療法	渡辺孝文
6	14	火	2	精神科検査法:心理検査、症状評価尺度、画像検査、生理検査	近藤真前
6	21	火	1	気分障害(1)	奥山 徹
6	21	火	2	気分障害(2)	持田圭仁
6	28	火	1	不安症群、強迫症および関連症群、食行動障害および摂食障害群	小川 成
6	28	火	2	統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群	白石 直
7	5	火	1	神経発達症群その他児童・思春期の精神疾患	山田敦朗
7	5	火	2	認知症その他老年期の精神疾患	仲秋秀太郎
7	12	火	1	心的外傷およびストレス因関連障害群、解離症群、身体症状症および関連症群	中口智博
7	12	火	2	医学的疾患による精神障害およびコンサルテーション精神医学	内田 恵
7	19	火	1	精神保健福祉法、睡眠-覚醒障害群、てんかん	東 英樹
7	19	火	2	精神作用物質関連障害	久保田陽介

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・臨床感染症学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	別紙参照
講義期間・曜日・時限	2022年10月12日 ～ 10月25日

授業目的・目標	感染症学の理解には他の臨床科目と同様に、これまで勉強してきた微生物学、薬理学、解剖学等の基礎医学と内科学、外科学等の臨床医学、さらには公衆衛生学などの知識が必要である。これらの知識をもとに、実際の感染症に対する予防法や診断治療方法について学ぶ。特に、プライマリケアにおける感染症を中心とした各臓器別に実践的な学習（症例提示）を行う。「臨床感染症学」では、診断から治療、感染予防対策まで幅広く学び、医師として最低限の感染症の知識を習得し、臨床実習に備える。
キーワード	感染症、感染経路、検査、治療、予防
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	III-a、b、d
学習到達目標	感染症の病態を理解し、診断・治療の合理的解釈ができる。実際の各種感染症に対する予防法や診断治療方法を習得する。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-2) 医学知識と問題対応能力 C-3-1) 生体と微生物 E-2) 感染症
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	感染症へのアプローチ プライマリケアにおける感染症（呼吸器領域） プライマリケアにおける感染症（耳鼻科領域） プライマリケアにおける感染症（消化器領域） 婦人科領域の感染症（性感染症含む） 泌尿器科領域の感染症（性感染症含む） 小児感染症 中枢神経系感染症 外科・周術期感染症 日和見感染症と院内感染 感染症の臨床検査 抗菌薬の適正使用 感染予防対策
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。理解が不完全であった項目については、繰り返し復習して修得に努めること。
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点；出席率が70%未満の場合は、本試験の受験資格なし。 *セメスター試験が60点未満の場合、授業参加度、授業態度などを参考に5点を上限としてプラスする。
教科書・テキスト	[要点整理]： クエスチョン・バンクCBT 2019 vol.3 プール問題 臨床後編 メディックメディア STEP内科2 血液・感染症 海馬書房 病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 メディックメディア 新・病態生理でできた内科学9 感染症 医学教育出版社 iMedicine 第10巻 感染症 リプロ・サイエンス(発刊予定) [成書]： 標準感染症学 医学書院 標準微生物学 医学書院 [臨床]： レジデントのための感染症診療マニュアル 医学書院 New専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 11 感染症 日本医事新報社 [基礎医学]： ブラック微生物学 丸善 微生物学250ポイント 金芳堂
参考文献	テキストにあげられている参考文献。講義時間中にも紹介する。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特になし。
アクティブ・ラーニング	該当なし。
連絡先・オフィスアワー	臨床感染制御学 中村敦 anakamur@med.nagoya-cu.ac.jp PHS 3332 呼吸器・免疫アレルギー内科学 速水梓乃 2n-resp@med.nagoya-cu.ac.jp 内線 8218
実務経験を活かした教育の取組	臨床経験を持つ医師・医療専門職員が講義を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/kansen/

臨床感染症学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
臨床感染制御学 教授	中村 敦
産科婦人科・周産期母子医療センター 病院教授	鈴木伸宏
消化器・代謝内科学 准教授	谷田諭史
呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授	伊藤 穰
地域医療教育学 講師	田中創始
耳鼻咽喉・頭頸部外科学 講師	江崎伸一
小児科・分べん成育先端医療センター 助教	伊藤孝一
消化器外科学 助教	柳田 剛
脳神経内科学 助教	川嶋将司
腎・泌尿器科学 助教	恵谷俊紀
感染制御室 副室長・主査	小川綾花
診療技術部 臨床検査技術科 微生物検査係長	近藤周平
薬剤部・感染制御室 専従薬剤師	和知野千春

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	12	水	3	感染症へのアプローチ	田中創始
	12	水	4	感染症の臨床検査	近藤周平
	18	火	1	抗菌薬の適正使用	和知野千春
	18	火	2	プライマリケアにおける感染症(呼吸器領域)	伊藤 穰
	18	火	3	プライマリケアにおける感染症(耳鼻科領域)	江崎伸一
	18	火	4	プライマリケアにおける感染症(消化器領域)	谷田諭史
	19	水	1	婦人科領域の感染症(性感染症含む)	鈴木伸宏
	19	水	2	予備日	
	19	水	3	小児感染症	伊藤孝一
	19	水	4	中枢神経系感染症	川嶋将司
	25	火	1	泌尿器科領域の感染症(性感染症含む)	恵谷俊紀
	25	火	2	感染予防対策	小川綾花
	25	火	3	日和見感染症と院内感染	中村 敦
	25	火	4	外科・周術期感染症	柳田 剛

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	成長と発達／発生
専門・教養	専門
担当教員	≪小児科≫ 齋藤伸治(教授)、岩田欧介(准教授)、服部文子(准教授)、戸川貴夫(講師)、伊藤孝一(助教)、野村孝泰(助教)、青山幸平(助教)、亀井美智(助教)、久野正(病院助教)、 岩田幸子(病院助教)、大橋圭(病院助教)、川瀬恒哉(病院助教) ≪非常勤講師≫上村 治、宮地泰士、岩田直美 ≪小児外科≫ 近藤知史(病院准教授) ≪救急科≫今井一徳(病院助教)
講義期間・曜日・時限	別紙参照

授業目的・目標	1. 一般医として各専門領域で小児患者を診療する場合に欠かせない小児病態生理を学習する。 2. 救急医療やプライマリケアで小児科を診療する上で必須となる発育・発達、生理的特性を理解する。 3. 小児の病態生理、診断、治療法、そして重症児のトリアージ基準を理解する 4. 家族の中でのこどもの幸せを実現するための幅広い見方・考え方を習得する。
キーワード	発育・発達・呼吸循環・免疫・神経・代謝、小児によく見られる外科的疾患
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	Ia、Ib、IIa、IIb、IIc、IIe、IIIc、IVa、IVb、IVd
学習到達目標	【学習到達目標】 胎児・新生児・乳幼児・小児期から思春期にかけての生理的成長・発達とその異常の特徴および精神・社会的な問題を理解する。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 E-7成長と発達、F-1-1)発熱、F-3-5)-(8)小児の診察、
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	“Children are not miniature adults.”と言われるように、小児は成人と比較して解剖学的にも生理学的にも異なる特徴を有している。本講義では、家族・学校・社会の中でのこどもの健康と幸せを実現するための必須知識を、正常像から連続する病態生理の理解、診断・介入プランの立案、治療効果の評価を通じて学ぶ。また、予防接種や健診などの疾病を予防するための小児保健についても学習する。
授業計画	将来幅広い分野で小児を診療する場合に必要な知識として、 1. コモンディージーズの診断と重症例のトリアージ、 2. 各臓器別の専門疾患の概略の理解、 3. 疾病を予防したり、早期にスクリーニングするための戦略や政策の理解、 4. 1-3を理解するために必要な小児特有の病態生理や発育・発達の特性をカバーする講義を、これらの分野のエキスパートによる参加型の講義を多用しながら行う。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	実習にて学習した疾患について、書籍やインターネット等を用いて掘り下げ、実習中に得られなかったことの補完、得たことの検証を行なう。また、これから学習する疾患が分かるときには、あらかじめ概略を調べておく。
成績評価方法	セメスター試験（60）点満点 アクティブラーニング（発表20、積極性20、計40）点満点 本試は以上3項目の合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	標準小児科学 第8版 監修 内山聖 医学書院；標準小児外科学 第6版 監修 伊藤泰雄 医学書院
参考文献	Nelson Textbook of Pediatrics, 20th Edition, by Robert M, Elsevier（日本語訳第19版）
履修上の注意事項	時間外にも所定のテキストの該当部分を学習すること
履修者への要望事項	小児医療に携わる多職種チームの一員として、病児のプロBLEM解消のために責任感を持って取り組み、いかなる困難な局面においても与えられた最善の情報とエビデンスから最善の判断を選択することを実践的に体感してほしい。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングを取り入れ、与えられた症例から問題点を設定、情報収集、予測、介入法の提案ができるようにする。
連絡先・オフィスアワー	担当: 岩田欧介 准教授 Tel:052-853-8246 E-mail: o.iwata@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	臨床経験豊かな教員が症例を多く取り入れた実践的な講義を行う。
備考	授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
関連URL	

成長と発達／発生ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
新生児・小児医学分野 教授	齋藤 伸治
新生児・小児医学分野 准教授	岩田 欧介
新生児・小児医学分野 准教授(東部医療センター)	服部 文子
新生児・小児医学分野 講師	戸川 貴夫
新生児・小児医学分野 助教	伊藤 孝一
新生児・小児医学分野 助教	青山 幸平
新生児・小児医学分野 助教	亀井 美智
新生児・小児医学分野 助教	野村 孝泰
新生児・小児医学分野 病院助教	岩田 幸子
新生児・小児医学分野 病院助教	久野 正
新生児・小児医学分野 病院助教	大橋 圭
小児外科 病院准教授	近藤 知史
救急科 病院助教	今井 一徳
一宮医療療育センター センター長	上村 治(非常勤講師)
名古屋市西部地域療育センター 所長	宮地 泰士(非常勤講師)
あいち小児保健医療総合センター 予防診療科 医長	岩田 直美(非常勤講師)

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	6	月	1	小児の特性 小児科の特徴	齋藤 伸治
			2	乳幼児健診、小児保健	齋藤 伸治
6	7	火	3	性腺・副腎疾患	青山 幸平
			4	小児糖尿病	青山 幸平
6	13	月	1	ウイルス感染症・予防接種	岩田 幸子
			2	診療法 治療概論	大橋 圭
6	14	火	3	頭頸部、腹壁形成異常	近藤 知史
			4	肝・胆・膵	戸川 貴夫
6	20	月	1	消化管	伊藤 孝一
			2	免疫不全	齋藤 伸治
6	21	火	3	食道・上部消化管疾患および腹膜炎	近藤 知史
			4	アレルギー疾患(喘息以外)	野村 孝泰
6	27	月	1	事故、救急	今井 一徳
			2	胎児の発達と出生の準備	岩田 欧介
6	28	火	3	小児固形悪性腫瘍	近藤 知史
			4	腎	上村 治
7	4	月	1	細菌感染症	久野 正
			2	その他の感染症	久野 正
7	5	火	3	肝胆膵、脾疾患	近藤 知史
			4	消化管閉鎖症および直腸肛門奇形	近藤 知史
7	11	月	1	成長 発達	岩田 欧介
			2	リウマチ性疾患	岩田 直美
7	12	火	3	水・電解質、脱水	岩田 欧介
			4	新生児疾患(呼吸器以外)	岩田 欧介
7	19	火	3	虐待、児童福祉	宮地 泰士
			4	児童精神・発達	宮地 泰士
7	20	水	1	遺伝・先天異常	齋藤 伸治
			2	神経系先天奇形	齋藤 伸治
			3	てんかん、その他の神経疾患	服部 文子
			4	筋疾患	服部 文子
7	22	金	3	血液・腫瘍	亀井 美智
			4	臨床推論	岩田 欧介

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・麻酔科学・集中治療医学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	祖父江和哉
講義期間・曜日・時限	

授業目的・目標	【授業目的】急性期の患者の全身管理を理解すること 【授業目標】麻酔科医が関与する周術期管理と集中治療の基本知識を身につけ、全身管理を理解した医師となる基礎を固める。
キーワード	麻酔、周術期管理、集中治療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	I-a、I-d、II-b
学習到達目標	1. 術前の患者評価の方法について述べるができる。 2. 麻酔を概説できる。 3. 麻酔科医が行う術後管理について述べるができる。 4. 集中治療が必要な患者を判断し、必要性を述べるができる。 5. 集中治療で行われる治療を概説できる。 6. 医療における痛み管理の重要性を説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 F-1-5)、F-1-6)、F-2-9)、F-2-10)
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	急性期の患者の全身管理を理解するため、麻酔科医が関与する周術期管理の基本と集中治療に必要な生理学と治療法について解説する。
授業計画	講義 全11回 症例検討 1回
授業時間外の学修(準備学習を含む)	事前に講義テーマについて概要を学習して講義に臨むこと。 毎回講義の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	1. 講義への80%以上出席とレスポンスカードの提出、小テストへの回答 2. 上記の授業参加度に加えて授業態度、発言頻度、質問頻度により評価する。 3. 症例検討は、参加度、授業態度、発言頻度、質問頻度により評価する。 3. セメスター試験60点以上（100点満点）
教科書・テキスト	「ミラー麻酔科学」編集 ロナルド・D・ミラー 監修 武田純三（MEDSi） 「ICUブック第4版」ポール・L・マリノ 翻訳 稲田英一（MEDSi）
参考文献	
履修上の注意事項	講義資料は、ZOOMの場合は、事前にPDFで配布する。対面講義の場合は、紙面で配布する。 小テストの提出期限は、講義開始前まで。レスポンスカードの提出は、当該講義終了まで。以上の期限を超えた提出は、認めない。
履修者への要望事項	講義はBSLで最低限の知識を身につけることを目的とする。よって、講義内容は、基本的として学ぶべき項目を提示する。さらに、より詳細な内容は自己学習で補完すること。
アクティブ・ラーニング	症例検討は、webアンケートシステムを用いた対話・議論型講義
連絡先・オフィスアワー	平日（月～金）午前9時～午後5時 麻酔科学・集中治療医学分野 祖父江和哉 TEL 052-853-8281（直通）
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	
関連URL	

2022年1月～2022年12月 第3学年・第4学年

麻酔科学・集中治療医学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
麻酔科学・集中治療医学分野・教授	祖父江和哉
麻酔科学・集中治療医学分野周産期麻酔部門・教授	田中 基
看護学部・教授	薊 隆文

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	4	火	1	麻酔科学とは、周術期医学とは(総論)	祖父江和哉
			2	<麻酔>術前管理 患者の術前評価・前投薬	祖父江和哉
			3	<麻酔>気道確保・人工呼吸	薊 隆文
			4	<麻酔>臨床薬理 鎮静薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬	祖父江和哉
1	11	火	1	<麻酔>術後管理	祖父江和哉
			2	<麻酔>周産期麻酔	田中 基
			3	<麻酔>症例検討	祖父江和哉
			4	<ICU>ICUとは	祖父江和哉
1	18	火	1	<ICU>臨床生理 循環生理学・ショックの病態と生理	祖父江和哉
			2	<ICU>感染症 ICUの感染症・感染予防	祖父江和哉
			3	<ICU>臨床生理 重症患者の管理に必要な呼吸生理学	薊 隆文
			4	<ICU>栄養学 重症患者の栄養代謝管理	祖父江和哉

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	行動科学・地域医療学コース・疼痛医学（痛みと行動科学）ユニット
専門・教養	専門
担当教員	植木美乃、太田晴子、近藤真前、酒井美枝、徐 民恵、杉浦健之
講義期間・曜日・時限	セメスター1（2022/2/8～2022/2/15）、火曜日、1～4限目

授業目的・目標	<p>【授業目的】 疼痛医学の専門領域における医学、医療、福祉に関し、この分野の専門医の役割と必要性について基本的な認識を得るため。また、その過程で、行動科学の視点を知ることが目的とする。</p> <p>【授業目標】 疼痛疾患に関わる広範な領域の解剖、生理、病態、疾患、標準的治療法、行動科学の理論や技法に関して基礎的知識を習得し、全人的医療に対する理解を深める。さらに、痛みを持った患者に対して、集学的な対応の重要性を理解し、基本的な対応ができる医療人となることを目標とする。</p>
キーワード	急性痛、慢性痛、生物心理社会モデル、行動科学
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域 I-a, c, d、II-a、III-c、IV-b, d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疼痛科学の概念を理解し説明できる 2. 医療における痛み管理の重要性を説明できる。 3. 侵害受容・痛み認知に関する基盤構造と機能ならびに検査法を説明できる 4. 急性痛の代表疾患の疫学・病態・治療を説明できる 5. 慢性痛の評価を説明し、実践できる 6. 慢性痛に対する集学的治療を概説できる 7. 行動科学に関する理論や技法を理解し説明できる 8. 痛み診療を含む様々な医療現場において、全人的理解に基づく基本的な対応ができる <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-1-2, A-3-1, A-5-1, B-1-5, C-2-3, C-4-5, C-5, D-2, D-4, D-15, F-1, F-2, G-2</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・疼痛医学総論：痛み医療総論（杉浦） ・診断：痛みの分類：病態分類（太田） ・治療法（1）：痛みの運動療法と栄養（植木） ・治療法（2）：痛みの薬物療法・インターベンショナル治療（徐） ・医療現場における行動科学（酒井） ・慢性痛と精神・心理・社会的要因（酒井・近藤） ・行動の基本原則（酒井） ・慢性痛への行動科学的アプローチ（酒井）
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	<p>セメスター試験（100）点満点 本試はセメスター試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。</p>
教科書・テキスト	疼痛医学（医学書院）、神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン（真興交易）、慢性疼痛診療ガイドライン（真興交易）、ペインクリニック治療指針（真興交易）
参考文献	Bonica's Management of Pain, Wall & Melzack's Textbook of Pain、行動分析学入門、行動医学テキスト
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	後半の行動科学に関する一部の授業で、グループワークもしくはロールプレイを行う。その際は積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	<p>担当教員：杉浦健之 内線3449 電話：052-851-5511 内線2288 電子メール：tsugiura@med.nagoya-cu.ac.jp ※原則としてメールで連絡してください。 9：00～17：00 [月曜から金曜] 要事前連絡</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師、公認心理師・臨床心理士としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	https://itami-net.or.jp

2022年1月～2022年12月 第3学年・第4学年

疼痛医学(痛みと行動科学) 担当教員

所属・職名	氏名
リハビリテーション医学分野・教授	植木美乃
麻酔科学・集中治療医学分野・講師	太田晴子
精神・認知・行動医学分野・助教	近藤真前
麻酔科学・集中治療医学分野・特任助教	酒井美枝
麻酔科学・集中治療医学分野・講師	徐 民恵
麻酔科学・集中治療医学分野・教授	杉浦健之

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
2	8	火	1	疼痛医学総論: 痛み医療総論	杉浦
			2	診断: 痛みの分類:病態分類	太田
			3	治療法(1): 痛みの運動療法と栄養	植木
			4	治療法(2): 痛みの薬物療法・インターベンショナル治療	徐
2	15	火	1	医療現場における行動科学	酒井
			2	慢性痛と精神-心理・社会的要因	酒井・近藤
			3	行動の基本原理	酒井
			4	慢性痛への行動科学的アプローチ	酒井

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	食事と栄養療法
専門・教養	専門
担当教員	田中智洋、杉浦知範、濱野高行、高木大輔 非常勤講師：山田悠史、土岐祐一郎、三井 章
講義期間・曜日・時限	セメスター3（2022/3/2～2022/3/9）、水曜日、1～4限目

授業目的・目標	栄養療法の重要性を認識し、経口食事療法、強制栄養法を理解する。
キーワード	栄養評価、外科代謝、食事療法、輸液、経腸栄養
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域1a、11b
学習到達目標	1: 食品と栄養素の関係を説明でき、代表的食品の蛋白、エネルギー量を計算できる。 2: 栄養評価ができる。 3: 腎疾患、糖尿病、高血圧、肥満症の食事療法を説明できる。 4: 外科代謝栄養及び、外科術後の栄養障害について理解する。 4: 静脈・経腸栄養法を理解する。 5: 小児、成人の輸液を理解する。 【該当するモデルコアカリ】 D-7) 消化器系、D-8) 腎・尿路系、D-12) 内分泌・栄養・代謝系 F-2-11) 食事・栄養療法と輸液療法
成績評価基準	秀：セメスター試験90点以上 優：セメスター試験80点以上 良：セメスター試験70点以上 可：セメスター試験60点以上
授業概要	1: 臨床栄養管理（食事の基本） 2: 小児輸液管理 3: 高血圧に対する食事療法 4: 慢性腎不全に対する食事療法 5: 糖尿病・肥満症に対する食事療法 6: 総合科学としての分子病態栄養学 7: 高齢者の栄養管理 8: 消化器外科術後の栄養障害
授業計画	小児～成人の栄養管理、経管栄養と経腸栄養の違い、補液の原則、電解質管理を実例を中心に説明する。
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業時間外の学習（授業概要項目参照） 1: 受講前に1日分の食事記録を書いてみる 2: 小児外科学の教科書（例：標準小児外科学）にて復習 3: 第一セメスタで学習した高血圧各論の復習 4: 第一セメスタで学習した腎不全各論の復習 5: 授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと 6: 授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと 7: 授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点 アクティブラーニング（参考）点満点 その他（具体的に）（参考）点満点 本試験はセメスター試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 再試験は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。 アクティブラーニングとその他項目については参考とし、成績には加味しない。
教科書・テキスト	静脈経腸栄養ハンドブック 日本静脈経腸栄養学会編集 南江堂 2014年。 NST完全ガイド 東口高志 編集 照林社 2009年。 静脈経腸栄養ガイドライン 日本静脈経腸栄養学会編集 照林社 2013年。 水・電解質と酸塩基平衡 黒川 清 著 南江堂 2005年。 わかりやすい透析食 小川洋史 監修 ライフサイエンス社。 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編。 すぐに使える小児輸液実践ハンドブック、金子一成 編著、中外医学社。 輸液を学ぶ人のために 和田孝雄、近藤和子、医学書院。 実践輸液ガイド 和田攻ら編 文光堂。
参考文献	
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、グループディスカッション
連絡先・オフィスアワー	消化器外科 小川 了 内線：3686 E-mail： r-ogawa@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師・管理栄養士としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

2022年1月～2022年12月 第3学年・第4学年

食事と栄養療法ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
腎臓内科 教授	濱野高行
内分泌・糖尿病内科 准教授	田中智洋
循環器内科 准教授	杉浦知範
小児・移植外科 病院講師	高木大輔
栄養管理係・係長	山田悠史
非常勤講師 大阪大学 消化器外科 教授	土岐祐一郎
非常勤講師 名古屋市立大学附属西部医療センター 消化器外科 教授	三井 章

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
3	2	水	1	臨床栄養管理(食事の基本)	山田悠史
3	2	水	2	高血圧に対する食事療法	杉浦知範
3	2	水	3	小児輸液管理	高木大輔
3	2	水	4	高齢者の栄養管理	三井 章
3	9	水	1	糖尿病・肥満症に対する食事療法	田中智洋
3	9	水	2	総合科学としての分子病態栄養学	田中智洋
3	9	水	3	慢性腎不全に対する食事療法	濱野高行
3	9	水	4	消化器外科術後の栄養障害	土岐祐一郎

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・放射線等を用いる診断と治療ユニット
専門・教養	専門
担当教員	富田夏夫、小澤良之、下平政史、中川基生、河合辰哉、小川正樹、浦野みずぎ、川口毅恒、村井太郎、橋本眞吾、中山敬太、芝本雄太、原 眞咲、荻野浩幸、岩田宏満
講義期間・曜日・時限	セメスター4（2022年9月9日～10月14日）
授業目的・目標	医療における放射線医学の役割を理解するために（目的）、放射線治療、画像診断、IVRそれぞれの基本的考え方を修得する（目標）。
キーワード	放射線治療、画像診断、IVR
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a、I c、II a、II b、II c、II d、II e、IV d
学習到達目標	【学習到達目標】 放射線治療の基本的知識を説明できる。 治療中及び治療後の患者管理を述べることができる。 画像診断：画像の成り立ちを理解し、各領域ごとに基本的読影方法を説明できる。 IVRの適応と内容、合併症・副作用を述べるができる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 E-6：放射線の生体影響と放射線障害、F-2-5：放射線等を用いる診断と治療
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	講義
授業計画	放射線医学M4講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、参考文献等により該当箇所を予習した上で、実習に臨むこと
成績評価方法	セメスター試験 90点満点 アクティブラーニング 10点 *アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする。
教科書・テキスト	
参考文献	標準放射線医学 第7版（医学書院）
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	欠席・遅刻の場合は、radon@med.nagoya-cu.ac.jpへ必ず連絡のこと。 月～金：09:00～17:00（但し事前に連絡すること） 連絡先 放射線科医局 853-8276（内線8276）担当：浦野
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

2022年1月～2022年12月 第3学年・第4学年

放射線等を用いる診断と治療ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
放射線科 准教授	富田夏夫
放射線科 准教授	小澤良之
放射線科 准教授	下平政史
放射線科 講師	中川基生
放射線科 講師	河合辰哉
放射線科 講師	小川正樹
放射線科 助教	浦野みすぎ
中央放射線部 助教	川口毅恒
中央放射線部 助教	村井太郎
放射線科 助教	橋本眞吾
放射線科 助教	中山敬太
放射線科 名誉教授	芝本雄太
高度医療教育研究センター 教授	原 眞咲
高度医療教育研究センター 教授	荻野浩幸
西部医療センター陽子線治療科 准教授	岩田宏満

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	9	金	1	CT・MRIの基本/小児画像診断	中川基生
			2	核医学	川口毅恒
			3	放射線概論	富田夏夫
			4	放射線生物学	岩田宏満
9	16	金	1	胸部画像診断1	小澤良之
			2	胸部画像診断2	小澤良之
			3	胸部画像診断3	原眞咲
			4	粒子線治療	荻野浩幸
9	30	金	3	IVR1	中山敬太
			4	IVR2	下平政史
10	7	金	1	放射線治療各論1	橋本眞吾
			2	高精度放射線治療	橋本眞吾
			3	救急画像診断	小川正樹
			4	乳腺画像診断	浦野みすぎ
10	14	金	1	放射線治療各論2	富田夏夫
			2	放射線治療総論	芝本雄太
			3	腹部画像診断	河合辰哉
			4	放射線治療各論3	村井太郎

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・輸血と移植ユニット
専門・教養	専門
担当教員	近藤知史、鈴木達也、藤原 圭、田村哲也、李 政樹、松浦健太郎
講義期間・曜日・時限	2022年9月5日～2022年10月3日・火曜日・3限4限

授業目的・目標	<p>【授業目的】輸血および移植医療について、臨床実習に必要な知識だけでなく将来臨床医となった場合に活用できるための基本事項を身につける。また医療や医療行政による健康被害の歴史から教訓を学ぶ。</p> <p>【授業目標】目標は、輸血に必要な検査および副作用について学び、血液浄化療法から細胞治療、最近の輸血製剤に関する問題点までを理解する。また臓器移植について脳死と臓器移植に関連する法律を理解する。臓器移植の対象となる基本的な病態と適応、移植免疫に関する基礎知識から肝移植を中心とした臓器移植の実際と、術前術後管理および移植に伴う倫理面に関する事項を理解する。集団予防接種等によるB型肝炎感染被害拡大の歴史と教訓について認識・理解する。</p>
キーワード	日本の臓器移植の現状と肝移植、輸血と細胞治療にまつわる諸問題、肝炎virus、肝不全と治療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅱe、Ⅲc、Ⅳa、Ⅳb、Ⅳd
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 輸血管理業務の概念を理解し、輸血関連検査項目の内容、意義を説明できる。 2. 輸血療法の適応の判断、実施に関する注意点、血液製剤の適正使用について理解し、説明できる。 3. 輸血施行時におこりうる合併症・副作用について理解でき、その対応方法について述べるができる。 4. 移植免疫の概要について理解でき、造血幹細胞移植をはじめ細胞治療について述べるができる。 5. 脳死判定と脳死臓器移植の手続きについて述べるができる。 6. 臓器移植の対象となる病態と適応について述べるができる。 7. 移植免疫および移植に伴う感染症の特徴を述べるができる。 8. 肝移植の実際について理解し、説明できる。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】</p> <p>A-1-1) 医の倫理と生命倫理、A-2) 医学知識と問題対応能力、 B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度、B-2-1) 死と法、 C-3-1) 生体と微生物、C-4-4) 循環障害、臓器不全、 D-1) 血液・造血器・リンパ系、D-7) 消化器系、E-2) 感染症、F-1-24) 黄疸、 F-2-13) 輸血と移植</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<p>（講義要目）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臓器移植総論と臓器移植に関わる法律 移植適応となる小児疾患 2. 臓器移植に伴う感染症（肝移植を中心に） 3. 輸血管理業務・輸血検査 4. 輸血療法・適正輸血 5. B型肝炎ウイルス感染要因と再活性化 6. 重症肝不全の治療 7. 血液浄化療法 8. 肝移植、生体肝移植 9. 輸血合併症・副作用 10. 移植免疫・細胞治療
授業計画	<p>授業概要を参照</p> <p>あらかじめ授業概要から得られる情報を基に、教科書や参考文献・各種ホームページを参照しながら予習した上で、講義に臨むこと。内容と時間配分によっては、討議形式も随時行う。なお、講義内容を講義後にクラウドにアップロードする場合もある。</p>
授業時間外の学修（準備学習を含む）	<p>授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。</p>
成績評価方法	<p>セメスター試験（100点）で、6割以上を合格とする。再試験も同じとする。</p> <p>【以下の項目について評価する】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 輸血管理業務の概念、輸血関連検査項目の内容、意義を理解できているか。 2. 輸血療法の適応の判断、実施に関する注意点、血液製剤の適正使用について理解できているか。 3. 輸血施行時におこりうる合併症・副作用、その対応方法について理解ができているか。 4. 移植免疫の概要、造血幹細胞移植をはじめ細胞治療について理解ができているか。 5. 脳死判定と脳死臓器移植の手続きについて理解ができているか。 6. 臓器移植の対象となる病態と適応について理解ができているか。 7. 移植免疫および移植に伴う感染症の特徴について理解ができているか。 8. 肝移植の実際について理解ができているか。
教科書・テキスト	<p>（テキスト）</p> <p>血液型と輸血検査 第2版 大久保康人著、医歯薬出版 輸血ハンドブック 関口定美著、医学書院 分子細胞免疫学 原著第9版 中尾篤人監訳、エルゼビア・ジャパン 標準外科学 第14版 畠山勝義著、医学書院</p>
参考文献	<p>（参考図書）</p> <p>血液製剤の使用にあたって 第4版 血液製剤調査機構編集、(株)じほう イラストレイテッド免疫学 原書2版 リッピンコットシリーズ 免疫ペディア～101のイラストで免疫学・臨床免疫学に強くなる！ 羊土社 サイトカインの最前線-疾患とのかかわりを探る 野俊夫編、羊土社 Annual Review 免疫 2008 菊池浩吉他編、中外医学社 実践・輸血マニュアル～自己血輸血輸血療法全般の理解を求めて 脳信博編、医業ジャーナル 日本急性血液浄化学会標準マニュアル 日本急性血液浄化学会編集、医学図書出版 ICU/CCUの急性血液浄化療法の考え方、使い方 中外医学社 （公社）日本臓器移植ネットワークホームページ https://www.jotnw.or.jp/ 一般社団法人 日本移植学会ホームページ http://www.asas.or.jp/jst/</p>
履修上の注意事項	やむを得ない事情が無い限り遅刻・欠席をしないこと。
履修者への要望事項	講義前に、該当内容部分についてテキスト等により予習をしてください。
アクティブ・ラーニング	学習内容が複数の専門領域に渡るため、自己学習と講義を中心とする。
連絡先・オフィスアワー	<p>担当教員：近藤知史 電話：052-853-8231、内線8231、PHS3343 電子メール：s.kondo@med.nagoya-cu.ac.jp ※原則としてメールで連絡してください。 9:00～17:00【月・木・金の各午後】要事前連絡</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	自己学習が視野・視点を広げることにつながる。
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/

2022年1月～2022年12月 第3学年・第4学年

輸血と移植ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
腫瘍・免疫外科学 病院准教授 小児外科 部長	近藤知史
輸血・細胞療法部 副部長 講師	李 政樹
麻酔科 副部長 講師	田村哲也
消化器・代謝内科学 講師 肝・膵臓内科 副部長 肝疾患センター 室長	藤原 圭
消化器・代謝内科学 講師 肝疾患センター 副室長	松浦健太郎
藤田医科大学 小児外科学 教授	鈴木達也

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	6	火	3	臓器移植総論と臓器移植に関わる法律 移植適応となる小児疾患	近藤知史
9	6	火	4	臓器移植に伴う感染症(肝移植を中心に)	近藤知史
9	13	火	3	輸血管理業務・輸血検査	李 政樹
9	13	火	4	輸血療法・適正輸血	李 政樹
9	20	火	3	B型肝炎ウイルス感染要因と再活性化	松浦健太郎
9	20	火	4	重症肝不全の治療	藤原 圭
9	27	火	3	血液浄化療法	田村哲也
9	27	火	4	肝移植, 生体肝移植	鈴木達也
10	4	火	3	輸血合併症・副作用	李 政樹
10	4	火	4	移植免疫・細胞治療	李 政樹

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・膠原病ユニット
専門・教養	専門
担当教員	難波大夫、前田伸治、爲近真也、山邊 徹、上原幸治、磯谷俊太郎
講義期間・曜日・時限	セメスター4 (2022/9/1～2021/9/29)、木曜日、3～4限目

授業目的・目標	<p>【授業目的】 関節リウマチなどの膠原病の診療を含めリウマチ科の専門領域における医学、医療、福祉に関しこの分野の専門医の役割と必要性について基本的な認識を得るため</p> <p>【授業目標】 リウマチ学が扱う領域の解剖学、免疫学およびそれらの知識に基づく筋骨格系身体診察、自己抗体など検査、X線や超音波、MRIなどの画像診断ならびに膠原病の疾患概念、代表的なリウマチ性疾患の病態、臨床像、分類基準、グルココルチコイド薬、免疫抑制薬、生物学的製剤など分子標的学リウマチ薬の適応や副作用及びその管理に関する基礎的知識を修得し理解を深める。</p>
キーワード	筋骨格、自己免疫疾患、膠原病、関節炎、多臓器疾患、免疫調整薬、グルココルチコイド
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a、I b
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リウマチ学・膠原病学の概念を理解し説明できる 2. 筋骨格系の構造や機能、免疫系の構造や機能を概説し、自己抗体など検査法を説明できる 3. 膠原病と自己免疫疾患を概説し、その種類を列挙できる 4. 関節腫脹や圧痛をきたす原因と病態生理ならびに疾患を列挙できる 5. 膠原病に特徴的な皮疹やその他の臓器症候を説明し、関連する疾患を列挙できる 6. 関節リウマチの病態生理、症候、診断、治療とリハビリテーションを説明できる 7. 関節リウマチ、脊椎関節炎の関節外症状を説明できる 8. 成人スチル病の症候、診断と治療を説明できる 9. 全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、全身性強皮症、多発性筋炎、皮膚筋炎、全身性血管炎、ベーチェット病の病態生理、侵されやすい臓器病変、症候、診断や分類基準を説明できる 10. グルココルチコイド薬や免疫抑制薬、生物学的製剤など分子標的薬の作用機序、効果、適応、副作用など安全管理について説明できる 11. リウマチ性疾患患者の管理における多職種チーム医療の必要性を説明できる 12. 患者中心の視点の必要性を説明できる <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-1-2)、A-1-3)、A-4-1)、A-4-2)、A-5-1)、C-3-2)、C-4-1)、C-4-5)、D-4)、E-4-1)、E-4-2)、E-4-3)、F-1-1)、F-1-2)、F-1-27)、F-1-29)、F-1-34)、F-1-35)、F-1-36)、F-2-1)、F-2-2)、F-2-3)、F-2-5)、F-2-7)、F-2-8)、F-3-1)、F-3-2)、F-3-3)、F-3-4)、F-3-5)-(1)、F-3-5)-(2)、F-3-5)-(7)</p>
成績評価基準	<p>秀：90%以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80%以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70%以上（学修到達目標を達成している） 可：60%以上（学修到達目標を最低限達成している） 不可：60%未満</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. リウマチ性疾患の診断に必要な診察や検査 2. 関節リウマチ、脊椎関節炎、成人スチル病、結晶誘発性関節炎 3. 血管炎症候群、ベーチェット病、抗リン脂質抗体症候群 4. 全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、線維筋痛症 5. 皮膚筋炎、多発性筋炎、全身性強皮症、混合性結合組織病 6. リウマチ性疾患の治療 7. 症例検討（アクティブラーニング） 8. 症例検討（アクティブラーニング）
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	講義の前までに、講義項目に関する事前配布資料や下記の参考文献の該当箇所を熟読すること。不明な点があれば積極的に質問をすること。授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の内容を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	セメスター試験にて成績判定を行い6割未満を不合格とする。再試も6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	なし
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・リウマチ病学テキスト 改訂第2版 診断と治療社 ・関節リウマチ診療ガイドライン2014 メディカルレビュー社 ・関節リウマチ治療におけるメトトレキサート(MTX)診療ガイドライン 2016年改訂版 羊土社 ・全身性エリテマトーデス臨床マニュアル 第3版 日本医事新報社 ・シェーグレン症候群の診断と治療マニュアル 改訂第2版 ・多発性筋炎・皮膚筋炎治療ガイドライン 診断と治療社 ・ANCA関連血管炎診療ガイドライン2017 診断と治療社 ・全身性強皮症診療ガイドライン - 公益社団法人日本皮膚科学会 https://www.dermatol.or.jp/uploads/uploads/files/guideline/1372907289_3.pdf ・膠原病学 改訂第6版 塩沢俊一、丸善 ・膠原病診療ノート 第3版 三森明夫、日本医事新報社 ・リウマチ病診療ビジュアルテキスト 第2版 上野征夫、医学書院 ・日本リウマチ学会 ガイドライン http://www.ryumachi-jp.com/guideline.html ・European League Against Rheumatism (EULAR) Recommendations: Recommendations for management https://www.eular.org/recommendations_management.cfm ・American College of Rheumatology (ACR) Clinical Practice Guidelines https://www.rheumatology.org/Practice-Quality/Clinical-Support/Clinical-Practice-Guidelines ・Arthritis and Allied Conditions: A Textbook of Rheumatology 15th ed. Koopman WJ, Moreland LW. Lippincott Williams and Wilkins. ・Practical Rheumatology 3rd ed. Hochberg MC, Silman AJ, Smolen JS, Weinblatt ME, Weisman MH. Mosby.
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークによる症例検討を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	<p>呼吸器・免疫アレルギー内科学教室（内線8216） 難波大夫 (tnaniwa@med.nagoya-cu.ac.jp) 前田伸治 (snb51961@med.nagoya-cu.ac.jp) 対応可能な時間：面談が必要な場合は、事前にメール等にて日時を確認ください 9:00～17:00 [月曜から金曜]</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/

膠原病ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授	難波大夫
呼吸器・免疫アレルギー内科学 講師	前田伸治
呼吸器・免疫アレルギー内科学 病院助教	爲近真也

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	1	木	3	リウマチ性疾患の診断に必要な診察や検査	難波大夫
9	1	木	4	関節リウマチ、脊椎関節炎、成人スチル病、結晶誘発性関節炎	爲近真也
9	8	木	3	血管炎症候群、ベーチェット病、抗リン脂質抗体症候群	難波大夫
9	8	木	4	全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、線維筋痛症	前田伸治
9	15	木	3	皮膚筋炎、多発性筋炎、全身性強皮症、混合性結合組織病	難波大夫
9	15	木	4	リウマチ性疾患の治療	前田伸治
9	29	木	3	リウマチ性疾患の検討1(グループ発表)	爲近真也
9	29	木	4	リウマチ性疾患の検討2(グループ発表)	爲近真也

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・臨床腫瘍学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	学内：奥山 徹 木下 史緒理 小松 弘和 鈴木貞夫 鈴木奈々 高橋 智 遠山 竜也 富田 夏夫 前野 健 松尾 洋一 外来：安藤 正志 近藤 豊 三田 貴臣 前田 徹 室 圭 吉田 達哉
講義期間・曜日・時限	2022年10月5日(水)～2022年10月24日(月)
授業目的・目標	医師として、がん患者の診療に必要な基本的知識や集学的治療の重要性を理解するために(目的)、がんの疫学、がん細胞の分子・生物学的特性や病態、診断学、標準的治療法に関する基礎的知識を臓器横断的に習得する。さらにはがん検診の意義や、がん患者およびその家族の心理的、社会的問題や新しい診断・治療法の開発に関する理解を深める(目標)
キーワード	エビデンスに基いた医療、集学的治療、チーム医療、患者中心の医療、先端のがん医療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1d, 2d, 3a, 3d, 4d
学習到達目標	1. 臨床腫瘍学の概念を説明できる。 2. がんの疫学の定義と動向を説明できる。 3. がん細胞の生物学的特徴、分子病態や遺伝・環境要因について説明できる。 4. がんの浸潤や転移のメカニズムについて説明できる。 5. がんの病理診断、遺伝子診断の特徴とその限界について説明できる。 6. 抗癌剤の薬物動態、薬力学的解析とその遺伝的多様性について説明できる。 7. 化学療法的基本的理論、作用機序、主な副作用と支持療法を説明できる。 8. 分子標的療法の特徴、種類、開発法について説明できる。 9. 放射線生物学、がんの放射線治療の基本理論と適応について説明できる。 10. がんの手術適応、根治手術と縮小手術の原則について説明できる。 11. 腫瘍抗原、細胞免疫療法の概念が説明できる。 12. がんの臨床試験の特徴について説明できる。 13. がん診療における標準的治療の確立過程を理解しEBMを利用できる。 14. がんの予防や集団検診の意義と臨床疫学方法論について説明できる。 15. 精神腫瘍学の概念を理解し、全人的医療に貢献できる。 16. 癌性疼痛について理解し、緩和医療、終末期医療について説明できる。 17. Oncologic emergencyについて理解し、説明できる。 18. がん患者と向き合う基本的姿勢、インフォームドコンセントについて説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 B-1-3 根拠に基づいた医療(EBM)、B-1-4 疫学と予防医学、 C-4-6 腫瘍、E-3 腫瘍、E-6 放射線の生体影響と放射線障害、E-9 人の死、F-2-4 病理診断、F-2-5 放射線を用いる診断と治療、F-2-6 内視鏡を用いる診断と治療、F-2-8 薬物治療の基本理、F-2-9 外科的治療と周術期管理、F-2-16 緩和ケア
成績評価基準	秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している) 良：70点以上(学修到達目標を達成している) 可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	1. がんの記述疫学・がんの予防 2. がんの病理診断 3. がんの細胞生物学 4. がんのゲノミクス 5. 抗がん剤の薬物動態・薬力学 6. がん診療における現状と諸問題(倫理を含む) 7. がんの臨床試験 8. がんの放射線治療 9. がんの手術療法 10. 希少がん(化学療法を含む) 11. 疼痛緩和 12. 分子標的療法 13. がんの免疫療法 14. がん治療におけるEBM 15. 精神腫瘍学 16. Oncologic Emergency(腫瘍随伴症候群を含む) 17. 18. Active learning
授業計画	臨床腫瘍学授業予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	各講義までに、「入門腫瘍内科学」の該当ページ(目次参照)を読んでおくこと。さらに知識を深めるためには、「新臨床腫瘍学」の該当ページを読むとよい。英文に親しむ意味では、「The MD Anderson Manual of Medical Oncology」(臨床)、「The Genetic Basis of Human Cancer」(基礎)も利用するとよい。
成績評価方法	セメスター試験 80点満点、アクティブラーニング20点(発表・レポート10点、参加態度10点)満点 本試験は以上2項目の合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	「入門腫瘍内科学」監修 日本臨床腫瘍学会 篠原出版社
参考文献	「新臨床腫瘍学」第5版 日本臨床腫瘍学会 南江堂 「The MD Anderson Manual of Medical Oncology」 Edited by Kantarjian HM, Wolf RA and Koller CA., Mc Graw Hill Co. Inc. 「The Genetic Basis of Human Cancer」 Edited by Vogelstein B & Kinzler KW., Mc Graw Hill Co. Inc. 講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	各講義までに、「入門腫瘍内科学」の該当ページ(目次参照)を読んでおくこと。さらに知識を深めるためには、「新臨床腫瘍学」の該当ページを読むとよい。英文に親しむ意味では、「The MD Anderson Manual of Medical Oncology」(臨床)、「The Genetic Basis of Human Cancer」(基礎)も利用するとよい。
アクティブ・ラーニング	積極的に議論を取り入れる。
連絡先・オフィスアワー	火、水(9時～21時)木、金(14時～21時)内線8738 電子メール komatsu@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	

臨床腫瘍学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
臨床腫瘍部 教授	小松弘和	化学療法部 病院助教	木下史緒理
公衆衛生学 教授	鈴木貞夫	緩和ケア部 病院助教	鈴木奈々
実験病態病理学 教授	高橋 智	外来講師（名古屋大学）	近藤 豊
乳腺外科学 教授	遠山竜也	外来講師（金城学院大学）	前田 徹
西部医療センター精神科・緩和ケアセンター	奥山 徹	外来講師（愛知県がんセンター）	室 圭
呼吸器・免疫・アレルギー内科学 准教授	前野 健	外来講師（愛知県がんセンター）	安藤正志
消化器外科学 教授	松尾洋一	外来講師（シンガポール大学）	三田貴臣
放射線医学 准教授	富田夏夫	外来講師（国立がんセンター）	吉田 達哉

臨床腫瘍学ユニット授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	5	水	2	がん診療における現状と諸問題（倫理を含む）	安藤正志
10	6	木	1	がんの免疫療法	吉田達哉
10	11	火	1	希少がん・難治がん・高齢者がん/（化学療法を含む）	木下史緒理
10	11	火	2	がん治療におけるEBM	遠山竜也
10	11	火	3	がんの臨床試験	室 圭
10	11	火	4	がんの細胞生物学	近藤 豊
10	12	水	1	緩和ケア	鈴木奈々
10	12	水	2	がんの記述疫学・がんの予防	鈴木貞夫
10	13	木	1	精神腫瘍学	奥山 徹
10	17	月	1	がんの手術療法	松尾洋一
10	17	月	2	がんの病理診断	高橋 智
10	17	月	3	分子標的療法	前野 健
10	17	月	4	がん薬物療法の支持療法（腫瘍随伴症候群含む）	小松弘和
10	20	木	1	癌のゲノミクス	三田貴臣
10	24	月	1	抗がん剤の薬物動態・薬力学	前田 徹
10	24	月	2	がんの放射線治療	富田夏夫
10	24	月	3	Active Learning	小松/木下
10	24	月	4	Active Learning	小松/木下

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・救急科ユニット
専門・教養	専門
担当教員	服部友紀、笹野寛、松嶋麻子、山岸庸太、三浦敏靖、今井一徳、間瀬則文、竹内昭憲
講義期間・曜日・時限	2022年1月25日1-4限、2月1日1-4限

授業目的・目標	授業目的：Covid-19に救急医がどのように対応したか、需要が増加する一方の救急医療をどのような仕組みで対応しているのか、救急医の役割とは何かを学ぶ。診療に時間的余裕のない救急患者の緊急度と重症度を如何に見分けて診療するかその診療手順を学ぶ。心停止、外傷、中毒など救急患者に特有の疾患について学ぶ。災害時の特殊な考え方と医療体制について学ぶ。授業目標：救急診療に必要な考え方について理解を深める
キーワード	心肺蘇生術、多発外傷、急性中毒、災害医療、プレホスピタルケア、Covid-19重症者の対応
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	Ic, IIb, IVa, IVb
学習到達目標	【学習到達目標、該当するモデルコアカリキュラム】 <ul style="list-style-type: none"> ・日本及び愛知県の救急診療体制を理解する；A-7-1) 地域医療への貢献 ・救急医の役割について理解する；A-1) プロフェッショナリズム ・日本の災害時の医療体制と多数傷病者の診療の考え方を理解する；A-7) 社会における医療の実践、A-5) チーム医療の実践 ・心停止患者に対する救急処置(2次救命処置：ALS)を理解する；F-1-6) 心停止、A-5) チーム医療の実践、F-2-2) 根拠に基づいた医療(EBM)、F-3-6-4) 救命処置、G-4-4) シミュレーション教育 ・種々の中毒疾患の診療を理解する；E-5) 物理・化学的因子による疾患、F-1-7) 意識障害・失神、F-1-8) けいれん ・外傷患者の診療について学習する；F-1-37) 外傷・熱傷、F-2-5) 放射線等を用いる診断と治療 ・プレホスピタルケアの重要性を理解する；A-7) 社会における医療の実践、A-7-1) 地域医療への貢献、F-3-6-4) 救命処置 ・ショックの鑑別法を学習する；F-1-5) ショック、F-2-7) 超音波を用いる診断と治療、F-1-10) 脱水 ・症状から必要な検査を行い診断から治療までグループ討論する；F-2-1) 臨床推論、F-2-3) 臨床検査、F-3-1) 問題志向型システムと臨床診断推論、F-3-4) 臨床判断、F-3-5-2) 全身状態とバイタルサイン
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・プレホスピタルケア、外傷、熱傷、中毒、2次救命処置、内科救急疾患について講義を行う ・シミュレーション形式で2次救命処置：ALSを実践する ・提示した症状から、緊急性の判断、検査、診断、治療について議論する
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・救急総論～日本及び愛知県の救急診療体制、救急医の役割～（講義） ・災害医療～大災害時の医療体制と多数傷病者への診療～（講義） ・重症外傷診療（講義） ・2次救命処置：ALS（講義＋シミュレーション） ・内科救急疾患（講義＋シミュレーション） ・ERでよく見る中毒疾患（講義） ・プレホスピタルケアの重要性～ドクターカー・ドクターヘリの役割～（講義） ・救急患者の評価と診療（講義、グループディスカッション）
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点
教科書・テキスト	救急診療指針（へるす出版）、DMAT標準テキスト（へるす出版）、JRC蘇生ガイドライン（医学書院） 講義・実習に臨む前に上記教科書の該当する項目を熟読しておくこと 昨年の救急科講義資料を再確認しておくこと
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します
履修上の注意事項	止むを得ず遅刻・欠席の場合は理由を添えて報告すること
履修者への要望事項	M1, M3で習得した一次救命処置(BLS)についてはしっかり復習しておくこと
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、ロールプレイを取り入れた講義を行う
連絡先・オフィスアワー	連絡先：救急科 服部 電話：052-851-5511 内線 4732 メールアドレス：thattori@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	シミュレーション形式では動きやすい服装で。最初の講義で救急総論の他、オリエンテーションを兼ねて以降の講義内容についても解説する
関連URL	なし

救急科ユニット 担当教員

所属・職名

担当教員

救急科・教授

服部友紀

救急科・教授

笹野寛

東部医療センター 救急科・教授

松嶋麻子

災害医療センター・センター長

山岸庸太

救急科・病院助教

今井一徳

東部医療センター救急科・准教授

三浦敏靖

江南厚生病院・副院長、救急科・部長、救命救急センター長

竹内昭憲

中津川市民病院病院前救急科・部長

間渕則文

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	25	火	1	ガイドライン2020に基づく2次救命処置	竹内昭憲
1	25	火	2	救急医療と救急医	服部友紀
1	25	火	3	外傷患者の診療	松嶋麻子
1	25	火	4	ERでよく見る中毒疾患	笹野寛
2	1	火	1	プレホスピタルケアの重要性～ドクターカー&ドクターヘリの役割～	間渕則文
2	1	火	2	救急患者の評価と診療	今井一徳
2	1	火	3	内科救急疾患の見方	三浦敏靖
2	1	火	4	災害時医療～大災害時の医療体制と多数傷病者への診療～	山岸庸太

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・漢方医学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	野尻俊輔、木村和哲、牧野利明、松尾洋一、種村光代、戸澤啓一、有馬菜千枝、加藤利奈
講義期間・曜日・時限	8月30日、31日

授業目的・目標	【授業目的】 診療に必要な漢方薬治療の基本(漢方医学の基本概念、診療方法、漢方処方)を学ぶ。 【授業目標】 全人的視野を養い、漢方薬を含めた患者のための最良の治療指針を選択できる
キーワード	漢方、証、生薬、気・血・水
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	Ia, IIb, IIIb, IVa
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 漢方医学と西洋医学の基本的相違を説明できる。 2. 漢方医学の特徴・基本的概念を説明できる。 (気・血・水・陰陽・虚実・表裏・寒熱を理解する) 3. 漢方医学の診断方法を説明できる。 (四診<望診・聞診・問診・切診>を理解する) 4. 漢方医学の「証」について説明できる。(随証治療を理解する) 5. 漢方方剤の構成生薬、薬理作用、適応症を説明できる。 6. 漢方処方の代表的副作用や使用上の注意事項を説明できる。 7. 漢方医学のEBMと東西医学の統合について概説できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 F-2-8 薬物治療の基本原則
成績評価基準	合格：60点以上(学修到達目標を達成している)
授業概要	1. 漢方医学総論・歴史 2. 漢方医学の概念 3. 漢方医学の薬物 4. 漢方医学の診断 5. 消化器内科、外科、産婦人科、泌尿器科、耳鼻科、いたみ における漢方治療の実際
授業計画	別紙のとおり、90分を2名ないしは1名の講師で担当する。 授業のなかで、実際の煎じ薬を調整し、服用体験を行う。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと
成績評価方法	出席とレポート提出
教科書・テキスト	配布資料で行う。 ただし、下記参考文献のうち「基本がわかる漢方医学講義」については、手元に揃えることを推奨する。
参考文献	基本がわかる漢方医学講義 日本漢方医学教育協議会、羊土社 学生のための漢方医学テキスト 日本東洋医学会編、南江堂 入門 漢方医学 日本東洋医学会編、南江堂 実践漢方医学 日本東洋医学会編、南江堂 EBM漢方 寺澤捷年他、医歯薬出版 和漢診療学 寺澤捷年、医学書院 医学生のための漢方医学【基礎】 安井廣迪、東洋学術出版社 漢方・中医学講座シリーズ 入江祥史ほか、医歯薬出版 女性の頻用漢方イラストレイテッド 川口恵子、永井書店
履修上の注意事項	静粛に受講すること
履修者への要望事項	静粛に受講すること
アクティブ・ラーニング	漢方薬を実際に煎じて服用体験をする
連絡先・オフィスアワー	連絡先：消化器・代謝内科 野尻俊輔 内線 8211 PHS 3361
実務経験を活かした教育の取組	漢方薬への知識が豊かな教員および臨床経験をもつ教員が講義・実習を担当する
備考	授業時間外の学習は授業開始前に「入門 漢方医学」を一読しておくこと。
関連URL	

2022年1月～2022年12月 第3学年・第4学年

漢方医学セミナー 担当教員

所属・職名	氏名
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 病院助教	有馬菜千枝
臨床薬剤学分野 教授	木村和哲
種村ウィメンズ クリニック 院長	種村光代
腎・泌尿器科学分野 准教授	戸澤啓一
地域医療教育研究センター 教授	野尻俊輔
薬学部生薬学分野 教授	牧野利明
消化器外科学分野 臨床教授	松尾洋一
麻酔科 助教	加藤利奈

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
8	30	火	3前半	漢方医学の歴史と概要	木村和哲
8	30	火	3後半	漢方医学の診断と証の概念	野尻俊輔
8	30	火	4前半	内科と漢方	野尻俊輔
8	30	火	4後半	いたみと漢方	加藤利奈
8	31	水	1	泌尿器科領域における漢方診療	戸澤啓一
8	31	水	2前半	外科と漢方	松尾洋一
8	31	水	2後半	耳鼻咽喉科(睡眠)と漢方	有馬菜千枝
8	31	水	3	生薬学入門	牧野利明
8	31	水	4	女性医療と漢方	種村光代

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床処方学セミナー
専門・教養	専門
担当教員	片岡智哉
講義期間・曜日・時限	2022年5月24日（火）・5月25日（水）、1・2限

授業目的・目標	授業目的：投与される薬剤が安全かつ効果的に使用するため 授業目標：適正な薬物治療をするために処方せんの書き方を習得する。また、薬剤の使用方法や医療制度に関する理解を深めるため、臨床薬剤学、処方学の知識を修得する。
キーワード	処方箋、麻薬・向精神薬、治療薬物モニタリング、後発医薬品
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域2b, 2c, 2d, 2e
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 処方せんの種類を説明できる。 2. 処方せんの記載事項を理解し説明できる。 3. 内服薬・外用薬・注射薬の種類を概説できる。 4. 麻薬および向精神薬の管理を説明できる。 5. 治療薬物モニタリング(TDM)の必要性を説明できる。 6. PK/PD理論を概説できる。 7. 病院における調剤と医薬品管理を説明できる。 8. 後発(ジェネリック)医薬品の特徴を説明できる。 9. レジメンによるがん化学療法における申請、治療の過程を説明できる。 10. 包括医療費支払い制度(DPC)、クリニカルパスにおける薬物治療を説明できる。 【該当するモデルコアカリキュラム】 B-2-2) 診療情報と諸証明書、F-2-8) 薬物治療の基本原則
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	1. 処方設計の考え方 2. 処方せん発行とその注意事項 3. 処方解析の仕方 4. 薬物動態学的の応用 5. 医薬品安全管理の実際
授業計画	講義、演習 5月24日（火）1限・2限 5月25日（水）1限・2限
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	3回以上講義へ出席し、受講時の態度、提出物等を評価する。
教科書・テキスト	(テキスト) 配布資料にて行う
参考文献	(参考図書) 「調剤指針」日本薬剤師会編(薬事日報社) 「臨床薬理学」日本臨床薬理学会編(医学書院) 「臨床薬物動態学」澤田康文編(医学書院) 「疾患と今日の処方」福田保他編(医歯薬出版) 「和漢診療学」寺澤捷年(医学書院)
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	静粛に受講すること
アクティブ・ラーニング	議論型授業を取り入れた授業を行う。議論型授業では積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：片岡智哉 火～金 14:00～17:00 薬剤部(内線7404)
実務経験を活かした教育の取組	薬剤師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	「授業時間外の学習」授業前に「調剤指針」の5章、6章を読んでおくこと。
関連URL	

2022年1月～2022年12月 第3学年・第4学年

臨床処方学 担当教員

所属・職名
臨床薬剤学分野・講師

氏名
片岡智哉

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
5	24	火	1	臨床処方学の講義	片岡智哉
5	24	火	2	臨床処方学の講義	片岡智哉
5	25	水	1	臨床処方学の講義・確認テスト	片岡智哉
5	25	水	2	臨床処方学の講義	片岡智哉

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	社会医学（予防医学基礎）
専門・教養	専門
担当教員	上島通浩、榎原 毅、伊藤由起、加藤沙耶香、金子佳世、鈴木貞夫、西山 毅、大谷隆浩、中川弘子、安井禎、松原史朗、細野晃弘、玉腰浩司、永谷照男、小嶋雅代、鷺見 学
講義期間・曜日・時限	2021年5月13日（金）～7月25日（月）

授業目的・目標	社会医学は、人間の健康問題を宿主要因（性・年齢、心理的要因、遺伝要因などの個人の特性）、環境要因（物理・化学的環境、生物学的環境、社会的環境）との関連で捉え、個人および集団における疾病予防と健康増進のあり方を明らかにする総合的な実践科学である。将来、医師として、現実社会の中で健康問題を解決し予防医学的活動を展開する際に必要な基礎的な知識や考え方を講義・実習を通して習得する。
キーワード	地域保健、産業保健、環境保健、保健統計、疫学、根拠に基づいた医療（EBM）
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 I b, II d, III a, III b, III c, III d
学習到達目標	1. 社会医学の目的、意義、歴史、政策等を理解する。 2. 保健医療制度と医療資源・保健統計・保健指導の現状と動向を説明できる。 3. 地域保健・学校保健・産業保健・環境保健・国際保健等の概要を説明できる。 4. 健康問題の集団的解析に必要な統計学手法を理解する。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-7社会における医療の実践、B-1集団に対する医療、B-4医療に関連のある社会科学領域 C-5人の行動と心理、E-5物理・化学的因子による疾患
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している 実習は積み上げ式で行うため全回出席を求める。課題レポートの提出は必須である。
授業概要	授業は担当教員が行う講義と各実習から構成される。担当教員・講義予定を参照
授業計画	<講義項目> 1. 社会医学総論（歴史・政策等） 2. 保健統計（現状と動向、各種指標の計算等）と疫学総論・各論（EBM手法を含む） 3. 地域保健・学校保健・産業保健・環境保健・国際保健等の総論・各論 4. 地域医療問題、医療経済 5. 疫学データ処理の実例 6. 保健所・市町村保健センターの活動と役割 *講義内容についての小テスト <社会医学テーマ実習> テーマごとに形成する自主グループでの実地見学・調査・解析・討論とその結果の発表・レポート作成 <疫学統計実習> 1. 地域の保健指標、疫学データ解析、疾病診断・スクリーニング等の基礎 2. 基礎医学実験における実験計画の立て方、サンプルサイズの決め方 3. 統計解析ソフトを用いたデータ処理
授業時間外の学修（準備学習を含む）	教科書の該当箇所を読み込むことが望まれる。「疫学統計実習」では、ハンドアウトを確認し、あらかじめ内容を理解し、実習に臨むこと。解析後、得られた解析結果について十分に考察して、レポートにまとめること。
成績評価方法	定期試験成績100%。学習到達目標が達成できているかを評価する。レポート提出状況・内容は、定期試験の点数の一部を構成する（最大10%）。なお、履修規定に規定された回数のお出席が楽人できない場合は定期試験の受験資格を失うので、注意すること。
教科書・テキスト	原則として、毎回、資料を配布する。参考書（(1)、(2)はいずれかで可）を手元において予習復習に活用することが望ましい。(3)は通読する必要はなく、辞書的に使用する。統計数値、政策は毎年アップデートされるため、国家試験前には最新年度のものを参照すること。
参考文献	<参考書> (1) NEW予防医学・公衆衛生学 南江堂、(2) シンプル衛生公衆衛生学 南江堂、 (3) 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 (4) Basic Epidemiology WHO（日本語版あり）
履修上の注意事項	疫学統計実習は遅刻すると授業についていけなくなるので注意すること。 また、テーマ実習における学外施設の訪問などの実習は、訪問先の方々のご厚意により成り立っている。医学生として見られていることを自覚し、遅刻・欠席しないことはもちろん、挨拶・服装・私語等に注意を払うこと。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	「社会医学テーマ実習」では、テーマごとにグループを形成し、実地見学、調査、データ解析、グループ討論を行い、その結果をまとめ、報告会においてプレゼンテーションを行う。また、グループごとにレポートを作成し、「社会医学テーマ実習報告書」として製本する。
連絡先・オフィスアワー	平日（月曜日～金曜日）9：00～17：00 （会議等で教員が不在の場合もあるので、事前に確認すること） 【連絡先】公衆衛生学 鈴木 Tel：853-8176
実務経験を活かした教育の取組	
備考	不明な点があれば積極的に教員に質問し、十分な理解を得るよう努めること。
関連URL	

社会医学(予防医学基礎)コース 担当教員

所属・職名	氏名	非常勤講師	氏名
環境労働衛生学・教授	上島 通浩	名古屋市精神保健福祉センター	安井 禎
環境労働衛生学・准教授	榎原 毅	名古屋市南区保健センター	松原 史朗
環境労働衛生学・准教授	伊藤 由起	名古屋市名東保健センター	細野 晃弘
環境労働衛生学・助教	加藤 沙耶香	名古屋大学医学部保健学科	玉腰 浩司
環境労働衛生学・特任助教	金子 佳世	中部学院大学	永谷 照男
公衆衛生学・教授	鈴木 貞夫	国立長寿医療研究センター	小嶋 雅代
公衆衛生学・准教授	西山 毅	厚生労働省 医政局	鷺見 学
公衆衛生学・講師	大谷 隆浩		
公衆衛生学・助教	中川 弘子		

授業計画

講義・社会医学テーマ実習:研究棟11階 講義室B、統計実習:基礎教育棟3階 情報処理室

月	日	曜日	時限	内容	担当者		
5	13	金	1	社会医学総論	鈴木		
			2	保健医療論	上島		
			3	産業保健(1)-総論	榎原		
			4	環境保健(1)-総論	伊藤		
24	火	3	社会医学テーマ学習(1) オリエンテーション	全教員			
			4	産業保健(2)-夜勤交代勤務と健康	榎原		
			27	金	1	EBMの理論と実践(1)-治療・予防	西山
					2	保健統計(1)-疾病頻度の評価と比較	大谷
30	月	3	疫学(1)-因果関係とEBM	鈴木			
			4	地域保健・地域医療(1)-保健所・市町村保健センター	松原		
			31	火	1	EBMの理論と実践(2)-予後予測	西山
					2	EBMの理論と実践(3)-診断検査	西山
6	10	金	3	環境保健(2)-大気・水環境汚染と廃棄物対策	伊藤		
			4	環境保健(3)-食品衛生と国民栄養	伊藤		
			17	金	1	EBMの理論と実践(4)-系統的レビュー	西山
					2	疫学(2)-疫学研究のデザイン	鈴木
24	金	1	3	産業保健(3)-有機化学物質と健康	上島		
			4	社会医学テーマ学習(2) 計画	全教員		
			27	木	1	統計実習(1): 疫学データ解析 記述等計量、計数値の解析、相関と回帰、交絡の補正、 多変量回帰(線型回帰、ロジスティック回帰)分析	鈴木・西山・大谷・中川
					2	精神保健	安井
30	木	1	3	疫学(3)-国際保健	鷺見		
			4	統計実習(2): 疾病診断とスクリーニングの基礎 感度、特異度、ROC曲線	鈴木・西山・大谷・中川		
			7	1	1	社会医学テーマ学習(3)	全教員
					2	統計実習(3): 地域の保健指標 人口、死亡数、粗死亡率、年齢調整死亡率、 生命表、平均寿命、平均余命	鈴木・西山・大谷・中川
7	1	金	3	産業保健(4)-無機化合物と健康	上島		
			4	母子保健	玉腰		
			8	金	1	保健統計(2)-厚生指標	大谷
					2	地域保健・地域医療(2)-フレイル予防、医療と福祉の一体的実施	小嶋
14	木	1	3	行動科学(1)-意思決定と行動変容の理論と実践	榎原		
			4	行動科学(2)-社会行動医学と意思決定	鈴木		
			21	木	1	学校保健	加藤
					2	産業保健(5)-作業態様と健康	榎原
15	金	1	3	統計実習(4): 実験デザイン概論、統計解析基礎、小レポート (実験計画基礎、記述統計量、サンプルサイズ、検定力、効果量、乱塊法、誤差、バイアス、変動係数、 α/β エラー、統計的仮説検定、多重比較)	上島・榎原・伊藤・加藤		
			4	統計実習(5): 統計解析応用、論文精読、実験計画立案 (実験計画応用、一元配置、二元配置、欠損値、外れ値、対数変換、経時測定分散分析、主効果、交互作用、傾向検定、ICC/Kappa係数)	上島・榎原・伊藤・加藤		
			22	金	1	社会医学テーマ学習(4)	全教員
					2	感染症法とその他医師の守るべき法規	細野
22	金	1	3	疫学(4)-長寿・少子社会と健康	永谷		
			4	環境保健(4)-衛生動物・衛生害虫と健康	伊藤		
			25	月	1	環境保健(5)-室内空気汚染と健康	上島
					2	統計実習(6): 課題演習、レポート作成	上島・榎原・伊藤・加藤
25	月	1	3	社会医学テーマ学習(5) まとめ、報告会準備	全教員		
			4	多様な文化的背景をもつ個人・集団における疾病予防	金子		
			22	金	1	疫学(5)-循環器疾患、肥満とその関連疾患	永谷
					2	健康増進と障害者福祉	榎原
22	金	1	3	産業保健(6)-物理的要因 まとめ	上島		
			4	社会医学テーマ学習(6) 報告会	全教員		
			25	月	1	社会医学試験	全教員
					2		

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床能力養成コース 基本臨床技能実習
専門・教養	専門
担当教員	兼松孝好、大喜多賢治、谷田諭史、岡本秀貴、菊池祥平、新実彰男、杉浦知範、小川了、川北大介、笹野寛
講義期間・曜日・時限	基本臨床技能コース担当教員・スケジュールを参照

授業目的・目標	診療参加型臨床実習において診療に主体的に参加し、診療チームの一員として実質的な診療機能を担うことができるために、一般診療に必要な医師としての態度および診療技能を修得する。
キーワード	医療面接、臨床技能、身体診察、基本的臨床手技
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	Ⅱb、Ⅱc
学習到達目標	<p>医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)の「F-3 基本的診療技能」に示されている以下の項目について修得することを目標としている。</p> <p>【医療面接】</p> <p>①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。②医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。</p> <p>③病歴(主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビュー)を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。④診察時に患者に適切な体位(立位、座位、半座位、臥位、砕石位)を説明できる。</p> <p>【身体診察】</p> <p>(基本事項)</p> <p>①患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。②患者の安全を重視し、有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。</p> <p>③患者のプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。④感染を予防するため、診察前後の標準予防策(standard precautions)ができる。</p> <p>⑤身だしなみ、言葉遣い及び態度等に気を配ることができる。</p> <p>(全身状態とバイタルサイン)</p> <p>①身長・体重を測定し、body mass index <BMI>の算出、栄養状態を評価できる。②上腕で触診、聴診法により血圧を測定できる。</p> <p>③両側の橈骨動脈で脈拍を診察できる。④呼吸数を測定し、呼吸の異常の有無を確認できる。⑤腋窩で体温を測定できる。</p> <p>⑥下肢の動脈の触診を実施できる。⑦全身の外観(体系、栄養、姿勢、歩行、顔貌、皮膚、発声)を評価できる。</p> <p>(頭頸部)</p> <p>①頭部(顔貌、頭髪、頭皮、頭蓋)の診察ができる。②眼(視野、瞳孔、対光反射、眼球運動・突出、結膜)の診察ができる。</p> <p>③耳介およびその周囲を観察できる。④耳鏡で外耳道、鼓膜を観察できる。⑤口唇、口腔、咽頭、扁桃の診察ができる。</p> <p>⑥鼻(全体の形状や皮膚の所見)、副鼻腔の診察ができる。⑦甲状腺、頭部血管、唾液腺の診察ができる。⑧頭頸部リンパ節の診察ができる。</p> <p>(胸部)</p> <p>①胸部の視診、触診、打診ができる。②呼吸音と副雑音の聴診ができる。③心音と心雑音の聴診ができる。④背部の叩打痛を確認できる。</p> <p>(腹部)</p> <p>①腹部の視診、聴診ができる。②区分に応じて腹部の打診、触診ができる。③腸雑音、血管雑音の聴診ができる。</p> <p>(神経)</p> <p>①意識レベルを判定できる。②脳神経系の診察ができる(眼底検査を含む)。③腱反射の診察ができる。④小脳機能・運動系の診察ができる。</p> <p>⑤感覚系(触覚)の診察ができる。⑥髄膜刺激所見(項部硬直)を確認できる。</p> <p>(四肢と脊柱)</p> <p>①四肢と脊柱(湾曲、疼痛)の診察ができる。②関節(可動域、腫脹、疼痛、変形)の診察ができる。</p> <p>(基本的臨床手技)</p> <p>①静脈採血をシミュレーターで実施できる。②手指衛生等の標準予防策(standard precautions)を実施できる。③12誘導心電図を記録できる。</p> <p>④経皮的酸素飽和度を測定できる。⑤手術や手技のための手洗いができる。⑥手術室におけるガウンテクニックができる。</p> <p>(救急救命処置)</p> <p>①緊急性の高い状況かどうかをある程度判断できるようになる。②一次救命処置を実施できる。</p> <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】F-3-2、F-3-5、F-3-6</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している)</p> <p>優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している)</p> <p>良：70点以上(学修到達目標を達成している)</p> <p>可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)</p>
授業概要	医学部4年次に実施。1学年を2グループに分け、グループ毎に基本臨床技能の実習を行う。
授業計画	2021年度基本臨床技能実習担当教員・スケジュールを参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	下記サイトからDVD映像を視聴して講義・実習に臨むこと。 https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/kyouyousiken/
成績評価方法	形成的評価を各ユニットの中で適宜行い、診療参加型臨床実習前客観的臨床能力試験(Pre-Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination: Pre-CC OSCE)による総括的評価を行う。 OSCE本試験：2022年9月24日(土) 追・再試験：ユニット毎に指定する日時に実施
教科書・テキスト	<p>①診療参加型臨床実習に参加する学生に必要なとされる技能と態度に関する学修・評価項目 (社)医療系大学間共用試験実施評価機構)</p> <p>②診療参加型臨床実習に必要な技能と態度 教育・学習用DVD ((社)医療系大学間共用試験実施評価機構) 医学部Webサイト>学生教職員の方>共用試験(OSCE・Post-CC OSCE)のDVD映像視聴 https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/kyouyousiken/</p>
参考文献	医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版) 共用試験ガイドブック(ほぼ一年ごとに改訂されます)←4年生の全員に配付予定
履修上の注意事項	臨床実習と同様の服装・身だしなみで参加すること(名札と清潔な白衣を着用。ハイヒール、ブーツ等の履物は禁止)。各回の会場、持ち物等は掲示等により指示するので、各自で必ず確認すること。
履修者への要望事項	基本臨床技能実習で使用する聴診器(膜型とベル型が分かれたタイプ)を実習開始までに購入すること。
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ、プレゼンテーション、シミュレーション学習、グループ・ディスカッション
連絡先・オフィスアワー	月火木金：9時から16時、水：9時から10時 連絡先：医学・医療教育学 植田典浩 電話：052-853-8502 E-mail:nueda@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	http://www.cato.umin.jp/osce.html

臨床能力養成コース 基本臨床技能実習 担当教員

科目責任者
科目調整担当者

未定
医学・医療教育学 植田典浩 講師

領域名		領域責任者	
医療面接		地域医療教育学	兼松孝好 講師
頭頸部の診察		耳鼻咽喉・頭頸部外科学	川北大介 講師
全身状態とバイタルサイン		循環器内科学	菊池祥平 助教
胸部診察 1 (循環器)			
胸部診察 2 (呼吸器)		呼吸器・免疫アレルギー内科学	新実彰男 教授
腹部診察		消化器・代謝内科学	谷田諭史 准教授
神経診察		神経内科学	大喜多賢治 講師
四肢と脊柱		整形外科	岡本秀貴 講師
基本的臨床手技	手洗い・手袋・ガウン テクニク	消化器外科学 (中央手術部)	小川 了 講師
	12誘導心電図 ・静脈採血	循環器内科学 (急性心臓疾患治療部)	杉浦知範 准教授
救急救命処置		先進急性期医療学	笹野 寛 教授

授業計画

1		全身状態とバイタルサイン 胸部診察 1 (循環器)	胸部診察 2 (呼吸器)
2月2日 (水)	3・4限	講義 全員 (3限)	講義 全員 (4限)
2月9日 (水)	3・4限	実習 Aグループ	実習 Bグループ
2月16日 (水)	3・4限	実習 Bグループ	実習 Aグループ
2		医療面接 (1回目)	四肢と脊柱
4月12日 (火)	3限	講義 全員 (3限)	休講
4月19日 (火)	3・4限	実習 Aグループ	実習 Bグループ
4月26日 (火)	3・4限	実習 Bグループ	実習 Aグループ
3		神経診察 (1回目)	
4月13日 (水)	3・4限	講義 全員 (3限)	
4月20日 (水)	3・4限	実習 Bグループ	
4月27日 (水)	3・4限	実習 Aグループ	
4		医療面接 (2回目)	腹部診察 (1回目)
4月12日 (火)	4限		講義 全員 (4限)
5月10日 (火)	3・4限	実習 Aグループ	実習 Bグループ
5月17日 (火)	3・4限	実習 Bグループ	実習 Aグループ
5		12誘導心電図・静脈採血	
5月11日 (水)	3・4限	実習 Aグループ	
5月18日 (水)	3・4限	実習 Bグループ	
6		手洗い・手袋・ガウンテクニク	頭頸部の診察
5月12日 (木)	3・4限	講義 全員 (3限)	講義 全員 (4限)
5月19日 (木)	3・4限	実習 Aグループ	実習 Bグループ
5月26日 (木)	3・4限	実習 Bグループ	実習 Aグループ
7		救命救急処置	
6月29日 (水)	1限	講義 全員 (1限)	
7月6日 (水)	1・2限	実習 (1～2限)	
8		神経診察 (2回目)	
6月29日 (水)	3・4限	実習 Aグループ	
7月6日 (水)	3・4限	実習 Bグループ	
9		腹部診察 (2回目)	
8月29日 (月)	3・4限	実習 Bグループ	
9月2日 (金)	3・4限	実習 Aグループ	

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床診断推論 (Basic) および臨床診断推論 (Advanced)
専門・教養	専門
担当教員	兼松孝好, 赤津裕康, 田中創始, 荒川和幸, 鈴木幹三, 大原弘隆
講義期間・曜日・時限	【Basic】 1月6日, 13日, 20日, 27日の各1・2限 計8コマ 【Advanced】 10月6日, 10月13日, 10月20日の各3・4限 計6コマ

授業目的・目標	【授業目標】臨床診断がより正しくできる為に、問題志向型システムを用いた病歴聴取やカルテ記載ができると共に、臨床診断推論の具体的な手法を学ぶ。また、グループ討論の中から、より妥当な診断を得る経験を通じて、チームダイナミクスの有用性や他者の意見の尊重などを重ねて学ぶ。
キーワード	臨床診断推論, カルテ記載, 医療面接
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I abc, 領域 II abcd, 領域 IV ad
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 問題志向型システムを意識したカルテ記載ができる。(F-3-1, F-3-3) 2. 診断推論に必要な病歴聴取や身体所見, 検査項目の確認ができる。(F-2-1, F-3-5-(1)) 3. 全身倦怠感, 腹痛, 頭痛に対し, 診断推論を図ることができる。(F-1-2, F-1-20, F-1-33) 4. 課題に対して小グループ討論により論理を展開し, 解決するための手段を提示できる。 5. チームダイナミクスを理解し, 他者との比較により自己学習課題を見つけることができる。 6. 診断推論に基づいて, 議論を行うことができる。(F-3-4) 7. 自発的な生涯自己学習を行うことができる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 《F-1 診療の基本》F-1-2) 全身倦怠感, F-1-20) 腹痛, F-1-33) 頭痛, 《F-2 基本的診療知識》F-2-1) 臨床推論, 《F-3 基本的診療技能》F-3-1) 問題志向型システムと臨床診断推論, F-3-2) 医療面接, F-3-3) 診療録(カルテ), F-3-4) 臨床判断, F-3-5) 身体診察
成績評価基準	秀: 学修到達目標を越えたレベルを達成している 優: 学修到達目標を十分に達成している 良: 学修到達目標を達成している 可: 学修到達目標を最低限達成している
授業概要	双方向講義, シミュレーション学習, TBL学習などのアクティブ・ラーニングを行う。 TBL形式によるグループ討論と学習を行った後, 診断の絞り込みを行う。最後にまとめの講義が行われる。(オンライン形式であっても, 同様の手法で実施する。)
授業計画	【Basic】 (予定) 1月06日(木) 1-2限 双方向講義(「腹痛」の症例提示, ディスカッション) 1月13日(木) 1-2限 シミュレーション学習(「腹痛」のカルテ学習) 1月20日(木) 1-2限 TBL形式(「腹痛」の症例提示, ディスカッション) 1月27日(木) 1-2限 TBL形式(「頭痛」の症例提示, ディスカッション) 【Advanced】 (予定) 10月06日(木) 3-4限 TBL形式(「全身倦怠感」の症例提示, ディスカッション) 10月13日(木) 3-4限 TBL形式(「腹痛」の症例提示, ディスカッション) 10月20日(木) 3-4限 TBL形式(「頭痛」の症例提示, ディスカッション) ・双方向講義については, 腹痛を題材として, 基本的な診断推論の手法を学ぶ。 ・シミュレーション学習では, カルテの書き方について, カルテの1例を題材に学習する。 ・TBLでは症例が主訴, 医療面接情報, 身体所見, 検査所見の順に提示され, それぞれのところでどのような疾患・病態が考えられ, その鑑別にはどのような情報があればよいかを検討する。議論の中で自分達の理解できていない項目が明確になるため, これを学習課題とし, 分担して学習し, これを持ち寄り次週にグループ学習を行う。最後にまとめの講義で診断が提示されるとともに, 考えるべき重要な項目が指摘される。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業では鑑別疾患のリストアップを繰り返すが, 当初は閲覧資料を持ち込み可とするが, 後期(総合内科Advanced)においては予習資料のみを持ち込み可能とする。よって準備学習が必須となる。 授業の始めに前回授業に関する小テストを予定するため, 復習が必要である。
成績評価方法	各講義において, 課題を提出し採点する。課題は, 学習に対する理解度の確認の他, 参加態度なども点数化する。複数回の課題を評価し, 基準点を満たすものを合格とする。
教科書・テキスト	テキスト・適切な参考文献を自ら探して選択することも学習課題のひとつとする。
参考文献	例示 ・医学生からの診断推論～今日もホームランかつばそうぜ(山中克郎)(羊土社) ・診断推論Step by Step 症例提示の6ステップで鑑別診断を絞り込む(酒見英太)(新興医学出版社)
履修上の注意事項	・講義実習について, 遅刻・欠席・早退の場合には理由を付して連絡すること。 ・連絡のない遅刻・欠席・早退については最大3倍の遅刻・欠席・早退時間として算定する。 ・学生自身にとって不利益が大きいため, 理由がない遅刻・欠席・早退は履修を認めない。
履修者への要望事項	事前に「扱う症候(腹痛, 頭痛, 全身倦怠感)」を指定された場合は, 独自に予習を行うこと。 予習の方法は各自で選択するため, 参考図書などの指定はない。
アクティブ・ラーニング	双方向講義, シミュレーション学習, TBL(チーム基盤型学習)学習
連絡先・オフィスアワー	月・火・木 12:00～13:00 連絡先: 地域医療教育学分野 兼松孝好 電話: 052-853-8527 メールアドレス: kanecore@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	実際の症例をベースとした症例提示を行うため, 極めて実践的である。 臨床教員が, 外来診療を行う経験を疑似体験できる。 医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	

臨床診断推論 担当教員

所属・職名	氏名
地域医療教育学 講師	兼松孝好
地域医療教育学 教授(診療担当)	赤津裕康
地域医療教育学 学内講師	田中創始
地域医療教育学 特任助教	荒川和幸
地域医療教育学 特任助教	鈴木幹三
地域医療教育学 教授	大原弘隆

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	6	木	1, 2	双方向講義(「腹痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
1	13	木	1, 2	シミュレーション学習(「腹痛」のカルテ学習)	兼松孝好
1	20	木	1, 2	TBL形式(「腹痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
1	27	木	1, 2	TBL形式(「頭痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
10	6	木	3, 4	TBL形式(「全身倦怠感」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
10	13	木	3, 4	TBL形式(「腹痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
10	20	木	3, 4	TBL形式(「頭痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	コミュニティヘルスケア卒前教育 行動科学・地域医療学コース コミュニティ・ヘルスケア発展 (IPE)ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学部：赤津裕康、川出義浩
講義期間・曜日・時限	セメスター2 2022/4/6(水)、2022/4/18(月) 3～4限目

授業目的・目標	G10: 地域包括ケアシステムを理解し、地域や高齢者の保健医療福祉に関するニーズを把握し医療計画から主治医意見書を作成し、個々の終末期の対応を提示できる。
キーワード	超高齢社会、介護保険、アドバンスケアプランニング (ACP:人生会議)
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	2a, 2d, 3c, 3d, 4a, 4b
学習到達目標	SB0 1: 高齢者個別のニーズを把握することができる。 SB0 2: 高齢者の課題に対し、多職種・地域で対応する方策を提案できる。 SB0 3: 認知症予防や介護のためのコミュニティ・ヘルスプロモーション活動を提案できる。 SB0 4: Advance care planningの必要性を説明できる。 SB0 5: AIP社会における医療者の役割を説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-1-1, 2, 3) プロフェッショナルリズム、 B-2-1) 死と法、 B-4-1) 医師に求められる社会性、 E-8-1) 老化と高齢者の特徴、E-9-1) 生物的死と社会的死、 F-2-15) 在宅医療と介護、F-2-16) 緩和ケア、G-2-32) 物忘れ
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	本科目は、超高齢社会における、認知症、多死の問題に焦点をあてつつ、具体的な症例に関して検討するとともに、自らの問題としてもとらえつつ、医師としての向き合い方をともに学びたい。
授業計画	1) 高齢者の特性を把握し、その身体的・精神的・社会的状況の理解を進める。 2) 症例を取り上げつつ、主事意見書の概略を把握し高齢者のニーズにあった介護サービスの提供を理解する。 3) 認知症の進行とその末期の状況を学び、末期高齢者の問題を具体的に捉え、終末期の状態に向けたアドバイスができる素養を習得する。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	超高齢社会を迎えての国の施策に関する情報収集を行っておく。自らの人生に関しても将来の社会情勢を見据えて考え、医師になったときにアドバイスが行える準備を進めておく。
成績評価方法	4コマの講義それぞれ講義最後にレスポンスカードの提出で各5点、合計20点、主治医意見書の記載と提出：40点満点、最終講義最後の10分で試験を行う：40点満点とする。
教科書・テキスト	
参考文献	なごや認知症あんしんナビ (http://n-renkei.jp/index.html) ACPトレーニングパッケージ (http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/eol/acp/acp_training_p.html)
履修上の注意事項	本科目は、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの選択科目であり、医学部・薬学部・看護学部横断型プログラムとして履修する。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	グループワーク、グループディスカッション
連絡先・オフィスアワー	担当教員名：赤津、川出 連絡先：地域医療教育学 内線：853-8537 午前9時から午後5時(月～金)
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」「コミュニティ・ヘルスケア基礎」「コミュニティ・ヘルスケア応用」「コミュニティ・ヘルスケア発展」「コミュニティ・ヘルスケア実践」の単位をすべて修得すれば、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの修了認定を受けることができる。
関連URL	

2022年1月～2022年12月 第3学年・第4学年

コミュニティ・ヘルスケア発展(IPE) ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
地域医療教育学分野教授(診療担当)	赤津 裕康
地域医療教育学分野特任准教授	川出 義浩
みどり訪問クリニック院長	姜 琪鎬

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	6	水	3	主治医意見書の書き方	赤津
			4	死の体験授業	姜 琪鎬
4	18	月	3	老年医学概論	赤津、川出
			4	アドバンスケアプランニング、最後10分で試験	赤津、川出

(5) 6 年次

開講年度	2022年度
科目名	社会医学コース・予防医学応用1ユニット
専門・教養	専門
担当教員	上島通浩、榎原 毅、伊藤由起、加藤沙耶香
講義期間・曜日・時限	2022年10月17日(月)～10月21日(金)3.4限

授業目的・目標	第6学年における社会医学（予防医学応用）コース(1)では、これまでに学んだ医学の知識を総合して医師としての実践活動に生かせるようになることが目標となる。症例・事例検討とそのプレゼンテーションを通じ、社会医学的な諸問題を医療の現場を意識しつつ学び、応用力を養う。
キーワード	労災保険法、健康管理手帳、産業医学、両立支援、安全配慮義務
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1c, 2a, 3a, 3b, 3c, 4a, 4b
学習到達目標	1. 症例・事例検討を通じて医療の現場における社会医学の視点や実践活動を理解する。 2. 課題解決に向けた説得力あるプレゼンテーションが患者や医療関係者にできるようになる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-3-1) 全人的実践的能力、A-4-1) コミュニケーション、A-4-2) 患者と医師の関係、B-1-6) 社会・環境と健康、B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度、B-4-1) 医師に求められる社会性、C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション、D-6-4)-(3) 閉塞性換気障害・拘束性換気障害をきたす肺疾患
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 症例・事例の検討：症例・事例を社会医学的側面からグループで検討し、発表する。また、必要な手続きについて診断書の作成練習を行う。 2. 講義：症例・事例検討に関連した内容の講義を行う。
授業計画	全5回（症例・事例の提示および関連内容の講義、学生による検討・レポート作成、プレゼンテーション）
授業時間外の学修（準備学習を含む）	オリエンテーションで示された授業計画をふまえ、レポートやプレゼンテーション資料の作成に臨むこと。発表については、十分準備を行うこと。
成績評価方法	レポート提出及びプレゼンテーションへの参加は必須。それぞれ以下の基準で評価し、合計点数で成績評価を行う。配点割合はレポート50%、プレゼンテーション50%（グループ発表のため、グループ評価を各人の評価と読み替える）とする。
教科書・テキスト	NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版（南江堂）。
参考文献	その他、必要な資料は講義時に配布します。
履修上の注意事項	遅刻・欠席をしないこと。
履修者への要望事項	積極的に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	初回の授業で複数提示された症例・課題について、臨床実習グループごとに担当テーマを決め、調査学習およびプレゼンテーションを行う。
連絡先・オフィスアワー	月曜日～金曜日（09:00～17:00）（会議等で教員が不在の場合があるので、事前に確認することが望ましい） 連絡先：Tel: 853-8171 e-mail: kamijima@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	産業医としての実務経験を有する教員が講義・演習を担当する。
備考	不明な点があれば積極的に教員に質問し、十分な理解を得るよう努めること。
関連URL	

2022年度 第6学年

予防医学応用1ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
環境労働衛生学 教授	上島通浩
環境労働衛生学 准教授	榎原 毅
環境労働衛生学 准教授	伊藤由起
環境労働衛生学 助教	加藤沙耶香

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	17	月	3	症例・事例検討	上島・榎原・伊藤・加藤
10	17	月	4	症例・事例検討	上島・榎原・伊藤・加藤
10	20	木	3	症例・事例検討	上島・榎原・伊藤・加藤
10	20	木	4	症例・事例検討	上島・榎原・伊藤・加藤
10	21	金	4	症例・事例検討	上島・榎原・伊藤・加藤

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	社会医学（予防医学応用）コース（2）
専門・教養	専門
担当教員	鈴木貞夫、西山毅、大谷隆浩、中川弘子
講義期間・曜日・時限	10月18日（火）1・2限、19日（水）1限、20日（木）1・2限

授業目的・目標	第6学年における社会医学（予防医学応用）では、これまでに学んだ医学の知識を総合して医師としての実践活動に活かせるようになることが目標となる。症例・事例検討やプレゼンテーションを通じて、社会医学的な諸問題について、医療や予防の現場を意識しつつ学び、コミュニケーション能力を含んだ応用力を養う。また、臨床疫学手法について理解し、EBMIに活かせるようにする。
キーワード	臨床疫学、生存解析、メタアナリシス、ROC解析
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 I b, II d, III a, III b, IV d
学習到達目標	1. 症例・事例検討を通じて予防・社会医学分野における実践活動を理解する。 2. 臨床疫学の基本的事項について説明できる。 3. プレゼンテーション及びコミュニケーション能力を向上させる。 【該当するモデルコアカリ】 B-1集団に対する医療
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している
授業概要	1. 症例・事例の検討：症例・事例を社会医学的側面から検討する。 2. 臨床疫学実習：コンピュータ室等において講義および実習を行う。 3. 講義：症例・事例検討に関連した内容の講義を行う。
授業計画	<臨床疫学> 1. 予防医学基礎の復習 2. 生存曲線 3. 生存分析、コックスの比例ハザードモデル 4. 検査の正確さの評価、ROC曲線 5. 系統レビューとメタアナリシス
授業時間外の学修(準備学習を含む)	配布された資料を理解し、講義・実習に臨むこと。 演習において、理解が不十分であった項目については、繰り返し復習し修得するとともに、結果について考察すること。
成績評価方法	演習・実習・講義における取り組み、態度、レポートの提出状況・内容等により評価する。
教科書・テキスト	初回に全ての資料を配布する
参考文献	フリー統計ソフトEZR (Easy R) で誰でも簡単統計解析 (南江堂)
履修上の注意事項	毎回の講義内容について配布資料・参考書を基に復習し、不明な点があれば積極的に教員に質問し、十分な理解を得るよう努めること。課題レポートの提出は必須である。
履修者への要望事項	実習は積み上げ式で行うため全回出席を求める。
アクティブ・ラーニング	興味のあるテーマについて論文を選び、メタ解析を行い検討する。
連絡先・オフィスアワー	平日（月曜日～金曜日）9：00～17：00 （会議等で教員が不在の場合もあるので、事前に確認すること） 【連絡先】 公衆衛生学 鈴木 Tel： 853-8176
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2022年1月～2022年12月 第6学年

予防医学応用2(公衆衛生学) 担当教員

所属・職名	氏名
公衆衛生学 教授	鈴木 貞夫
公衆衛生学 准教授	西山 毅
公衆衛生学 講師	大谷 隆浩
公衆衛生学 助教	中川 弘子

授業計画

基礎教育棟3階 情報処理実習室

月	日	曜日	時限	内容	担当者
10	18	火	1	予防医学基礎の復習	鈴木・西山・大谷・中川
	18	火	2	生存曲線	鈴木・西山・大谷・中川
	19	水	1	生存分析、コックス比例ハザードモデル	鈴木・西山・大谷・中川
	20	木	1	検査の正確さの評価、ROC曲線	鈴木・西山・大谷・中川
	20	木	2	系統レビューとメタアナリシス、社会医学のまとめ	鈴木・西山・大谷・中川

開講年度	2022年度
科目名	社会医学コース 法医診断学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	青木康博, 加藤秀章, 菅野さな枝, 福田真未子
講義期間・曜日・時限	10月17日(月) 1, 2限, 18日(火) 3, 4限, 19日(水) 2~4限, 21日(金) 1~3限

授業目的・目標	ICD-10(疾病分類)および死亡診断書(死体検案書)の構造およびその医学的・社会的意義についての理解を深めること, ならびに法医学的問題を有する症例の検討を通じ, 法医学実務への更なる理解を深めることを目的とし, 医師の活動現場において応用可能な法医学的考察力を身につける。
キーワード	死亡診断書, 死体検案, 法病理学, 法中毒学, 法医鑑定
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	Ia, Ib, Ic, IIIb, IVd
学習到達目標	1. 法医学分野の実践活動を理解する。 2. 医療現場において生ずる法医学的問題を説明できる。 3. 総合的に死因・死亡の種類を判断し, 死亡診断書(死体検案書)が適切に作成できる。 【該当するモデルコアカリ】A-1-3) 医師としての責務と裁量権, A-2-1) 課題探求・解決能力, A-6-1) 安全性の確保, A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防, A-9-1) 生涯学習への準備, B-2-1) 死と法, B-2-2) 診療情報と諸明書, B-4-1) 医師に求められる社会性, D-1 血液・造血器・リンパ系, D-2 神経系, D-5 循環器系, D-6 呼吸器系, D-7 消化器系, E-9) 人の死 F-1-37) 外傷・熱傷, F-2-4) 病理診断
成績評価基準	合格:60点以上(学修到達目標を達成している)
授業概要	死亡診断書作成演習。法医学症例検討演習・発表
授業計画	授業計画表参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	与えられた課題に対し, 臨床医学的観点からも考察が行えるよう, 臨床各科で学んだ内容等を再確認すること。
成績評価方法	提出物・レポート(1/3), プレゼンテーションおよび討論(2/3) 授業参加度, グループ活動の成果等により評価する。
教科書・テキスト	教科書は特にしないが, 内外の法医学, 中毒学等のテキストを参照されたい。
参考文献	
履修上の注意事項	資料は当日または前もって配布する。レポートはLiveCampusを利用して提出すること。
履修者への要望事項	積極的な取り組みを期待する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク, グループディスカッション, 調査学習, 全体討論を実施する。
連絡先・オフィスアワー	火, 水, 金 9:00~18:00 (事前に連絡すること) 内線 8181 青木康博 aokiy@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	法医学実務の経験を有する教員が担当する。
備考	
関連URL	

法医診断学 担当教員

所属・職名	氏名
法医学分野・教授	青木康博
法医学分野・准教授	加藤秀章
法医学分野・講師	菅野さな枝
法医学分野・助教	福田真未子

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	17	月	1	症例検討演習ガイダンス・演習(講義, 講義室A)	青木康博
10	17	月	2	症例検討演習(講義室A・B)	青木康博
10	18	水	3	死亡診断書作成(講義, 講義室A)	青木康博
10	18	水	4	死亡診断書作成(演習, 講義室A)	青木康博
10	19	木	2	症例検討演習(講義室A・B)	全教員
10	19	木	3	症例検討演習(講義室A・B)	全教員
10	19	木	4	症例検討演習(講義室A・B)	全教員
10	21	金	1	症例検討(全体発表, 講義室A・B)	全教員
10	21	金	2	症例検討(全体発表, 講義室A・B)	全教員
10	21	金	3	症例検討(全体発表, 講義室A・B)	全教員

10. 規程・資料集

(1) 医学部履修規程（2022年1月発布版）

名古屋市立大学医学部履修規程

目次

- 第1章 総則（第1条）
- 第2章 教養教育科目（第2条－第13条の4）
- 第3章 専門教育科目（第14条－第20条の2）
- 第3章の2 他学部との単位互換（第20条の3－第20条の8）
- 第4章 進級及び卒業要件（第21条－第25条）
- 第5章 雑則（第26条）
- 附則

（一部改正 平成19年達第52号、平成20年達第41号、平成22年達第37号、平成23年達第1号、平成23年達第16号、令和2年達第11号）

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この規程は、名古屋市立大学学則（平成18年名古屋市立大学学則第1号。以下「学則」という。）第41条の規定に基づき、授業科目、授業時間数（教養教育科目にあつては単位数）及び履修方法等（以下「履修方法等」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（一部改正 平成20年達第41号、令和2年達第11号）

第2章 教養教育科目

（授業科目及び単位数）

第2条 授業科目、配当年次、単位数及び必修・選択・自由の区分は、別表1のとおりとする。

（一部改正 平成27年達第10号）

（単位の計算の基準）

第3条 授業科目の単位数は、45時間の学修内容をもって1単位とし、授業形態に応じて次の各号に定める基準により計算する。

- (1) 講義 15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習 15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実習及び実技 30時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 実験 45時間の授業をもって1単位とする。

（一部改正 平成30年達第 号）

（修得必要単位数）

第4条 教養教育科目における修得必要単位数は、別表2のとおりとする。

（履修の届出）

第5条 学生は、年度の始めにおいて、前期及び後期に履修しようとする授業科目について指定された期間内に、所定の手続きにより届け出なければならない。

2 前項の規定により届け出た後期の授業科目については、後期において指定された期間内に所定の手続きにより変更（授業科目の追加を含む。）することができる。

（履修の取消）

第6条 学生は、指定された期間内に所定の手続きにより履修の取り消しをすることができる。

（履修方法）

第7条 必修科目は、配当年次において履修しなければならない。

2 授業時間の重なる授業科目（専門教育科目の授業科目を含む。）は、重複して履修することはできない。

3 第5条により届け出た授業科目以外の授業科目は、履修することができない。

4 既に単位を修得した授業科目は、再履修することはできない。

5 授業科目によっては、履修者数及び履修資格を定めることがある。

6 授業科目のうち、履修するクラスを指定する科目（以下「指定科目」という。）は、原則として指定されたクラス以外で履修することはできない。ただし、指定科目を再履修するため、同一授業時間の別の指定科目が履修できない場合は、指定されたクラス以外で履修できることがある。

（一部改正 平成19年達第52号）

（試験）

第8条 試験は、学期末に行う。ただし、必要がある場合には、学期末以外の時期に行うことがある。

2 前項の試験は、レポートその他の方法をもって代えることがある。

3 出席時間数が当該授業科目の全時間数の7割に満たない場合は失格とし、受験資格を与えない。

（追試験）

第9条 学則第36条に規定する追試験を受けようとする学生は、指定された期間内に追試験受験願を提出しなければならない。

(再試験)

第10条 試験に不合格となった授業科目については、再試験を受けることができる。

2 再試験を受けることができる学生は、試験の成績が50点以上の者とし、指定された期間内に再試験受験願を提出し、再試験料を納付しなければならない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成20年達第41号)

(成績)

第11条 前3条の試験の成績は、100点を満点とした点数により採点し、60点以上を合格、60点未満を不合格とし、次の各号により表示する。

- (1) 90点以上 秀
- (2) 80点以上 優
- (3) 70点以上 良
- (4) 60点以上 可
- (5) 60点未満 不可

2 再試験については、前項の規定にかかわらず最高60点を限度として採点する。

(一部改正 平成19年達第52号、平成22年達第37号)

(再履修)

第12条 不合格又は失格となった授業科目については、再履修しなければ受験資格を与えない。

2 再履修をしようとする学生は、事前に担当教員の許可を受けなければならない。

3 再履修をする場合、指定科目については原則として前年度所属クラスにおいて履修しなければならない。ただし、授業編成の都合でその授業時間に履修できない場合には、異なる学期又は他のクラスで履修できることがある。

(一部改正 平成19年達第52号)

(入学前の既修得単位の認定)

第13条 入学前の既修得単位の認定は、学則第40条に従い、教授会の議を経て行う。

2 既修得単位の認定を受けようとする学生は、指定された期間内に既修得単位認定申請書を提出しなければならない。

(学外における学修の単位認定)

第13条の2 学則第40条の2の規定により単位を認定することのできる学修及び単位数は、別表2の2のとおりとする。

2 前項に規定する単位の認定を受けようとする学生は、指定された期間内に学外における学修に係る単位認定申請書を提出しなければならない。

(一部改正 平成20年達第41号)

(履修登録単位数の上限)

第13条の3 1つの学期に履修科目として登録できる単位数の上限は、別に定める場合を除き26単位とする。

(一部改正 平成22年達第37号、平成30年達第19号)

(単位の取消)

第13条の4 学則第31条の規定に基づき授業料の未納により除籍する場合において、授業料の未納期間に修得した単位があるときは、これを取り消す。

(一部改正 平成23年達第1号)

第3章 専門教育科目

(授業科目及び授業時間数)

第14条 授業科目は、別表3のとおりとする。

2 授業科目の時間数及び配当年次は、別に定める。

3 授業科目は、選択制コースを除き必修とする。

4 学校推薦型選抜(中部圏活躍型・名古屋市高大接続型)により入学した学生は、MD-PhDコースを履修しなければならない。

(一部改正 平成31年達第9号、令和3年達第8号)

(試験)

第15条 試験は定期試験及び随時試験とする。

2 前項の試験のほか、論文又はレポート等をもって試験に代えることがある。

3 定期試験等による授業科目の成績評価については、当該授業科目について正当な理由なく出席時間数が次の各号に満たない場合、失格とし成績評価を受けることができない。また平常の履修実績等により、教授会の議を経て、学部長が当該授業科目を修得する見込みがないと判断した場合も同様とする。

(1) 実習 その授業時間数

(2) 実習以外の講義等 その授業時間数の7割

4 前3項に定めるもののほか、試験の実施については別に定める。

(一部改正 平成27年達第47号、平成31年達第9号、令和3年達第98号)

(試験の時期等)

第16条 定期試験は、原則として学期末又はその授業の構成単位を終了するときに行う。

2 随時試験は、その授業科目の担当教員が必要の都度行う。

(再試験)

第17条 試験に不合格となった授業科目については、担当教員の許可を得て、再試験受験願を提出することにより、再試験を1回受けることができる。

2 前項にかかわらず、5年次及び6年次に配当又は構成された専門教育科目の試験に不合格となった者のうち、不合格の授業科目が4科目以下の場合、授業科目ごとにさらに1回に限り再試験を受けることができる。

(再試験の時期等)

第18条 再試験は、担当教員の定めるところにより行う。

2 再試験は、遅くとも学年末までには終了し、成績評価を行う。

(追試験)

第19条 学則第36条に規定する追試験を受けることを希望する学生は、事前に担当教員の許可を得て、試験欠席届及び追試験受験願を提出しなければならない。

2 追試験を行う場合の時期等については、前条第2項を準用する。

(一部改正 平成19年達第52号)

(成績)

第20条 成績評価は、試験その他担当教員の定める評価方法により行う。

2 試験の成績は、原則として、100点を満点とした点数により採点し、60点以上を合格、60点未満を不合格とし、次の各号により表示する。

- (1) 90点以上 秀
- (2) 80点以上 優
- (3) 70点以上 良
- (4) 60点以上 可
- (5) 60点未満 不可

3 再試験については、前項の規定にかかわらず最高60点を限度として採点する。

(一部改正 平成19年達第52号、平成22年達第37号)

(単位の取消)

第20条の2 学則第31条の規定に基づき授業料の未納により除籍する場合において、授業料の未納期間に修得した単位があるときは、これを取り消す。

(一部改正 平成23年達第1号)

第3章の2 他学部との単位互換

(一部改正 平成19年達第52号)

(授業科目)

第20条の3 学生は、別に定めるところにより、他学部の授業科目を履修することができる。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(履修の届出)

第20条の4 他学部の授業科目の履修を希望する場合は、指定された期間内に所定の様式により届け出なければならない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(履修の取消)

第20条の5 他学部の授業科目の履修を取り消す場合は、指定された期間内に所定の様式により届け出なければならない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(履修方法)

第20条の6 学生は、他学部の授業科目を履修する場合には、他学部の履修規程等の規定に従い、履修しなければならない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(単位の認定及び取消)

第20条の7 他学部の授業科目を履修した学生の単位の認定は、当該学部より送付される成績証明書等に基づき、本学部が行う。

2 学則第31条の規定に基づき授業料の未納により除籍する場合において、授業料の未納期間に修得した単位があるときは、これを取り消す。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(その他)

第20条の8 単位互換に関し、この規程に定めのない事態が生じた場合には、その対処の方法について、教授会の議を経て、学部長が決定する。

第4章 進級及び卒業要件

(原級留置)

第21条 各学年の進級判定は次に定めるところによる。

- (1) 次のいずれかに該当する者は、第2年次に進級できない。
 - ア 1年次終了時において、第4条に定める修得すべき単位を修得できない者
 - イ 1年次に配当された専門教育科目を1科目でも修得できない者
- (2) 2年次以降、各年次に配当又は構成された単位の専門教育科目（各年次において総合試験が実施される場合は、当該試験を含む。）を1科目でも修得できない者は、次年次に進級できない。

(一部改正 平成23年達第16号)

(再履修)

第22条 2年次から5年次までの次学年に進級できないと判定された者及び6年次において卒業が不可と判定された者は、原級に留まり、その学年に配当された全科目を再履修しなければならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、教授会の議を経て、学部長が指定した専門教育科目については、再履修を要しない。

(一部改正 平成23年達第16号、平成27年達第47号)

第23条 削除

(一部改正 平成23年達第16号、平成27年達第47号)

(除籍)

第24条 学則第30条第2項の規定に基づき、次のいずれかに該当する者は、除籍する。

- (1) 入学あるいは進級後3年に至っても、なお、次年次に進級できない者
- (2) 在学年数が入学後8年に至っても、なお、5年次に進級できない者

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第16号)

(卒業の認定)

第25条 所定の期間在学し、第4条に定める修得すべき単位及び第14条に定める全ての授業科目を修得した者は、卒業資格を認定する。ただし、第14条第4項に定める場合においては、MD-PhDコースを修得することを卒業要件に含めない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第16号、令和3年達第8号)

第5章 雑則

(その他)

第26条 この規程に定めるもののほか、履修方法等に関し必要な事項は、教授会の議を経て、学部長が定める。

(一部改正 平成23年達第16号、平成27年達第47号)

附 則

(略)

附 則 (令和3年公立大学法人名古屋市立大学達第98号)

この規程は、令和4年1月1日から施行する。

別表1

区 分			授 業 科 目	配当 年次	単 位 数		
					必修	選択	自由
共 通 科 目	一 般 教 養 科 目	大 学 特 色 科 目	大学生になる	1		2	
			大人になる	1		2	
			社会人になるA	1		2	
			社会人になるB	1		2	
			NCU先端科目：医療系	1		2	
			NCU先端科目：自然・情報系	1		2	
			NCU先端科目：社会科学系	1		2	
			NCU先端科目：人文系	1		2	
			地域社会で活躍する女性	1		2	

	共生社会におけるふれあいネットワーク	1		2	
	現代社会と人と地域のつながり	1		2	
	名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題	1		2	
	E S Dと地域の環境	1		2	
	多文化共生と国際貢献－あなたに何ができるのか－	1		2	
	ワークライフバランスとダイバーシティ	1		2	
	まちづくり論	1		1	
	次世代エネルギーワークショップ	1		2	
	起業家になる	1		2	
	科学館・博物館・美術館から知る名古屋	1		2	
	中国短期語学研修	1		2	
	フランス短期語学研修	1		2	
現代社会の諸相	日本国憲法	1		2	
	なぜ憲法が必要なのか	1		2	
	法学入門	1		2	
	知的財産権入門	1		2	
	人と法と医療	1		2	
	経済学：経済と社会	1		2	
	経済学：経済のしくみ	1		2	
	経済学：経済学の考え方	1		2	
	経営学：企業と社会、個人の関係	1		2	
	経営学：企業活動の諸相	1		2	
	経営学：組織を取り巻く諸環境について	1		2	
	社会学A	1		2	
	社会学B	1		2	
	社会学C	1		2	
	社会環境論	1		2	
	新聞報道の現場から	1		2	
	環境行動学と情報リテラシー	1		2	
	平和論	1		2	
	私たちの暮らしと政治・行政・地方自治	1		2	
	国際政治と社会	1		2	
	フィールド研究からみるアジア	1		2	
	キー・コンピテンシー	1		2	
	シティズンシップ入門	1		2	
文化と人間性の探求	琉球・沖縄の歴史・文化を識る	1		2	
	日本文化の理解	1		2	
	人類学	1		2	
	日本語コミュニケーション	1		2	
	囲碁に学ぶ	1		2	
	死の文化学	1		2	

		東ヨーロッパの文化と歴史	1		2	
		文化に見る歴史	1		2	
		欧州史の中の北欧史	1		2	
		アメリカ史入門	1		2	
		都市と地域構造の地理学	1		2	
		音楽と文化	1		2	
		デザインと情報	1		2	
		人間と表現	1		2	
		自分とみんなで考える哲学	1		2	
		討論の中で問題を発見する哲学	1		2	
		応用倫理学－生命倫理の現在	1		2	
		心理学概論	1		2	
		心理学入門	1		2	
		現代教育の諸相	1		2	
		次世代育成と地域の課題	1		2	
		宗教学入門	1		2	
	人間と自然	科学史	1		2	
		環境と社会・制度・政治・経済	1		2	
		環境科学	1		2	
		植物の多様性と環境	1		2	
		動物とヒトの進化多様性	1		2	
		社会と医学	1		2	
		くずりと社会	1		2	
		都市と自然	1		2	
		健康と生活	1		2	
		行動生態学	1		2	
		自然と数理の探求	教養として知っておきたい様々な病気の实態	1		
	創薬と生命		1		2	
	宇宙のなりたち		1		2	
	植物とバイオテクノロジー		1		2	
	エネルギーのサイエンス		1		2	
	バイオサイエンス入門		1		2	
	情報と数理の世界		1		2	
	地球史入門		1		2	
	地域生態学		1		2	
語学科目	英語	IS: Community	1		1	
		IS: Social Justice	1		1	
		IS: Life & Work	1		1	
		IS: Health & Well-being	1		1	
		IS: The Arts	1		1	
		AE: Make a Difference in Your Community	1		2	
		AE: Interact Internationally	1		2	

		AE: Improve Life Skills	1		2	
		AE: Raise Health/ Environmental Awareness	1		2	
		AE: Produce a Movie	1		2	
		CS: Presentation	1		2	
		CS: Grammar and Usage	1		2	
		CS: TOEIC Preparation	1		2	
		EM: World News	1		2	
		EM: Popular Culture	1		2	
		EM: Reading for Inspiration	1		2	
		EM: Online Articles and Videos	1		2	
	その他の言語	ドイツ語初級1	1		2	
		ドイツ語初級2	1		2	
		フランス語初級1	1		2	
		フランス語初級2	1		2	
		中国語初級1	1		2	
		中国語初級2	1		2	
		韓国語初級1	1		2	
		韓国語初級2	1		2	
		スペイン語初級1	1		2	
		スペイン語初級2	1		2	
		日本手話初級1	1		2	
		日本手話初級2	1		2	
		ポルトガル語入門	1		2	
		ロシア語入門	1		2	
		イタリア語入門	1		2	
		アラビア語入門	1		2	
		ドイツ語初級会話1	1			2
		ドイツ語初級会話2	1			2
		フランス語初級会話1	1			2
		フランス語初級会話2	1			2
	中国語初級会話1	1			2	
	中国語初級会話2	1			2	
	情報科目	情報・統計処理	1	2		
		情報処理応用	1			2
	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学	1	2		
	ボランティア科目	ボランティア科目1	1			1
		ボランティア科目2	1			1
基礎科目	物理学	力学	1		2	
		電磁気学	1		2	
		波動・熱力学	1		2	
	化学	有機化学	1		2	
		生体分子化学	1		2	
	生物学	基礎生物学	1		2	
	自然科学実験	自然科学実験	1	1		

数学・統計学	微分積分学	1		2	
	線形代数学Ⅰ	1		2	
	線形代数学Ⅱ	1		2	
地域参加型学習	医薬看連携地域参加型学習	1	2		

注 本表に掲げる授業科目のほかセミナー及び開放科目を、教授会の議を経て開設し単位を与えることがある。

(一部改正 平成19年達第52号、平成20年達第41号、平成21年達第29号、平成22年達第37号、平成23年達第16号、平成24年達第18号、平成25年達第16号、平成26年達第11号、平成27年達第10号、平成28年達第10号、平成30年達第19号、平成31年達第9号、令和2年達第11号、令和3年達第8号)

別表 2

区 分			最低修得必要単位数
共 通 科 目	一般教養 科目	大学特色科目	4 単位
		現代社会の諸相	4 単位
		文化と人間性の探求	* 4 単位
		人間と自然	2 単位
		自然と数理の探求	
	語学科目	英語	6 単位
		その他の言語	4 単位
	情報科目		2 単位
	健康・スポーツ科目		2 単位
	ボランティア科目		
基 礎 科 目	物理学		4 単位
	化学		4 単位
	生物学		
	自然科学実験		1 単位
	数学・統計学		4 単位
	地域参加型学習	医薬看連携地域参加型学習	2 単位
教養教育科目合計			43単位

注 単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て4単位まで本表*印欄の必要単位数に算入することができる。

(一部改正 平成20年達第41号、平成21年達第29号、平成22年達第37号、平成24年達第18号、平成25年達第16号、平成26年達第11号、平成28年達第10号、平成30年達第19号)

別表 2 の 2

検定試験の種類	語学科目[英語]	
	2 単位	4 単位
実用英語技能検定	準 1 級	1 級
TOEIC / TOEIC L&R	730～799 点	800 点以上
TOEFL (iBT)	77～88 点	89 点以上

注 1 申請はいずれか 1 種類に限る。

注 2 認定の対象科目は「CS : TOEIC Preparation (2 単位)」又は

「CS : Grammar and Usage (2 単位)」とし、認定単位は 4 単位を上限とする。

(一部改正 平成 20 年達第 41 号、平成 23 年達第 16 号、平成 30 年達第 19 号)

別表 3

区 分	授 業 科 目	
	コース名	ユニット名
基礎医学	解剖学コース	肉眼解剖学
		組織学・発生学・神経解剖学
	生化学コース	物質と代謝
		分子と細胞
	生理学コース	植物的機能系
		動物的機能系
臨床基礎医学	病理学コース	病態病理
		臨床病理
	薬理学コース	薬理学
	感染微生物コース	医動物学
		細菌学
ウイルス学		
免疫学コース	免疫学	
社会医学	社会医学コース	予防医学基礎
		予防医学応用
		法医学
		法医診断学
		医学・医療倫理
		医学情報学
臨床医学	臨床医学コース	血液・造血器・リンパ系
		神経系 (神経内科)
		神経系 (脳神経外科)
		皮膚系
		運動器系・リハビリテーション
		循環器系
		呼吸器系
		消化器系・内視鏡
		腎・尿路系 (腎臓内科)
		腎・尿路系 (泌尿器科)
		生殖機能 (泌尿器科)
		生殖機能 (婦人科)
		妊娠と分娩
		乳房
		内分泌・栄養・代謝系

		眼・視覚系
		耳鼻・咽喉・口腔系
		精神系
		臨床感染症学
		成長と発達／発生
		急性期医療
		食事と栄養療法
		放射線等を用いる診断と治療
		輸血と移植
		膠原病
		臨床腫瘍学
		救急科
		漢方医学
		臨床処方学
臨床実習	臨床実習コース	臨床実習 選択制臨床実習
統合教育	総合医学コース	医学入門
		水平統合基礎
		水平統合病態
	行動科学・地域医療学コース	行動科学
		神経科学
		疼痛科学
		コミュニティ・ヘルスケア基礎 (IPE)
		コミュニティ・ヘルスケア応用 (IPE)
		コミュニティ・ヘルスケア発展 (IPE)
		コミュニティ・ヘルスケア実践 (IPE)
	研究能力養成コース	学術論文入門
		Scientific Writing and Presentation
		先端研究
		基礎自主研修
	臨床能力養成コース	救命救急
		臨床診断推論
		基本臨床技能実習
選択制コース	MD-PhDコース	
	BRJ活動	

注1 必要がある場合、授業科目及び授業時間数は、教授会の議を経て変更することができる。

注2 コミュニティ・ヘルスケア実践は総合内科臨床実習の一部として行う。

注3 上記科目以外に各段階の評価として以下のものを行う。

臨床前教育（臨床実習資格認定試験、共用試験CBT、共用試験OSCE）

卒業試験（共用試験Post-CC OSCE、総合客観試験）

注4 臨床医学コースの評価は、一部の科目を除き臨床実習資格認定試験によって行う。

注5 基本臨床技能実習の評価は、共用試験OSCEによって行う。

注6 IPE : Interprofessional Education

（一部改正 平成19年達第52号、平成20年達第41号、平成21年達第29号、平成22年達第37号、平成23年達第16号、平成26年達第11号、平成27年達第10号、平成30年達第19号、平成31年達第9号、令和2年達第11号、令和3年達第8号）

(2) 医学教育モデル・コア・カリキュラム

以下は、医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成 28 年度改訂版）の項目を抜粋したものである。詳細は、文部科学省ウェブサイトを参照すること。

医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成 28 年度改訂版) (項目抜粋)

A 医師として求められる基本的な資質・能力	C-4 病因と病態	D-9-2) 診断と検査の基本
A-1 プロフェッショナリズム	C-4-1) 遺伝的多様性と疾患	D-9-3) 症候
A-1-1) 医の倫理と生命倫理	C-4-2) 細胞傷害・変性と細胞死	D-9-4) 疾患
A-1-2) 患者中心の視点	C-4-3) 代謝障害	D-10 妊娠と分娩
A-1-3) 医師としての責務と裁量権	C-4-4) 循環障害、臓器不全	D-10-1) 構造と機能
A-2 医学知識と問題対応能力	C-4-5) 炎症と創傷治癒	D-10-2) 診断と検査の基本
A-2-1) 課題探求・解決能力	C-4-6) 腫瘍	D-10-3) 症候
A-2-2) 学修の在り方	C-5 人の行動と心理	D-10-4) 疾患
A-3 診療技能と患者ケア	C-5-1) 人の行動	D-10-5) 産科手術
A-3-1) 全人的実践的能力	C-5-2) 行動の成り立ち	D-11 乳房
A-4 コミュニケーション能力	C-5-3) 動機付け	D-11-1) 構造と機能
A-4-1) コミュニケーション	C-5-4) ストレス	D-11-2) 診断と検査の基本
A-4-2) 患者と医師の関係	C-5-5) 生涯発達	D-11-3) 症候
A-5 チーム医療の実践	C-5-6) 個人差	D-11-4) 疾患
A-5-1) 患者中心のチーム医療	C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション	D-12 内分泌・栄養・代謝系
A-6 医療の質と安全の管理	C-5-8) 行動変容における理論と技法	D-12-1) 構造と機能
A-6-1) 安全性の確保	D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療	D-12-2) 診断と検査の基本
A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防	D-1 血液・造血器・リンパ系	D-12-3) 症候
A-6-3) 医療従事者の健康と安全	D-1-1) 構造と機能	D-12-4) 疾患
A-7 社会における医療の実践	D-1-2) 診断と検査の基本	D-13 眼・視覚系
A-7-1) 地域医療への貢献	D-1-3) 症候	D-13-1) 構造と機能
A-7-2) 国際医療への貢献	D-1-4) 疾患	D-13-2) 診断と検査の基本
A-8 科学的探究	D-2 神経系	D-13-3) 症候
A-8-1) 医学研究への志向の涵養	D-2-1) 構造と機能	D-13-4) 疾患
A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	D-2-2) 診断と検査の基本	D-14 耳鼻・咽喉・口腔系
A-9-1) 生涯学習への準備	D-2-3) 症候	D-14-1) 構造と機能
B 社会と医学・医療	D-2-4) 疾患	D-14-2) 診断と検査の基本
B-1 集団に対する医療	D-3 皮膚系	D-14-3) 症候
B-1-1) 統計の基礎	D-3-1) 構造と機能	D-14-4) 疾患
B-1-2) 統計手法の適用	D-3-2) 診断と検査の基本	D-15 精神系
B-1-3) 根拠に基づいた医療<EBM>	D-3-3) 症候	D-15-1) 診断と検査の基本
B-1-4) 疫学と予防医学	D-3-4) 疾患	D-15-2) 症候
B-1-5) 生活習慣とリスク	D-4 運動器(筋骨格)系	D-15-3) 疾患
B-1-6) 社会・環境と健康	D-4-1) 構造と機能	E 全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療
B-1-7) 地域医療・地域保健	D-4-2) 診断と検査の基本	E-1 遺伝医療・ゲノム医療
B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度	D-4-3) 症候	E-1-1) 遺伝医療・ゲノム医療と情報の特性
B-1-9) 国際保健	D-4-4) 疾患	E-2 感染症
B-2 法医学と関連法規	D-5 循環器系	E-2-1) 病態
B-2-1) 死と法	D-5-1) 構造と機能	E-2-2) 診断・検査・治療の基本
B-2-2) 診療情報と諸証明書	D-5-2) 診断と検査の基本	E-2-3) 症候
B-3 医学研究と倫理	D-5-3) 症候	E-2-4) 疾患
B-3-1) 倫理規範と実践倫理	D-5-4) 疾患	E-3 腫瘍
B-4 医療に関連のある社会科学領域	D-6 呼吸器系	E-3-1) 定義・病態
B-4-1) 医師に求められる社会性	D-6-1) 構造と機能	E-3-2) 診断
C 医学一般	D-6-2) 診断と検査の基本	E-3-3) 治療
C-1 生命現象の科学	D-6-3) 症候	E-3-4) 診療の基本的事項
C-1-1) 生命の最小単位－細胞	D-6-4) 疾患	E-3-5) 各論
C-1-2) 生物の進化	D-7 消化器系	E-4 免疫・アレルギー
C-2 個体の構成と機能	D-7-1) 構造と機能	E-4-1) 診断と検査の基本
C-2-1) 細胞の構成と機能	D-7-2) 診断と検査の基本	E-4-2) 症候
C-2-2) 組織・各臓器の構成、機能と位置関係	D-7-3) 症候	E-4-3) 病態と疾患
C-2-3) 個体の調節機能とホメオスタシス	D-7-4) 疾患	E-5 物理・化学的因子による疾患
C-2-4) 個体の発生	D-8 腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)	E-5-1) 診断と検査の基本
C-2-5) 生体物質の代謝	D-8-1) 構造と機能	E-5-2) 症候
C-3 個体の反応	D-8-2) 診断と検査の基本	E-5-3) 疾患
C-3-1) 生体と微生物	D-8-3) 症候	E-6 放射線の生体影響と放射線障害
C-3-2) 免疫と生体防衛	D-8-4) 疾患	E-6-1) 生体と放射線
C-3-3) 生体と薬物	D-9 生殖機能	E-6-2) 医療放射線と生体影響
	D-9-1) 構造と機能	E-6-3) 放射線リスクコミュニケーション

- E-6-4) 放射線災害医療
- E-7 成長と発達
 - E-7-1) 胎児・新生児
 - E-7-2) 乳幼児
 - E-7-3) 小児期全般
 - E-7-4) 思春期
- E-8 加齢と老化
 - E-8-1) 老化と高齢者の特徴
- E-9 人の死
 - E-9-1) 生物的死と社会的死

F 診療の基本

- F-1 症候・病態からのアプローチ
 - F-1-1) 発熱
 - F-1-2) 全身倦怠感
 - F-1-3) 食思(欲)不振
 - F-1-4) 体重減少・体重増加
 - F-1-5) ショック
 - F-1-6) 心停止
 - F-1-7) 意識障害・失神
 - F-1-8) けいれん
 - F-1-9) めまい
 - F-1-10) 脱水
 - F-1-11) 浮腫
 - F-1-12) 発疹
 - F-1-13) 咳・痰
 - F-1-14) 血痰・喀血
 - F-1-15) 呼吸困難
 - F-1-16) 胸痛
 - F-1-17) 動悸
 - F-1-18) 胸水
 - F-1-19) 嚥下困難・障害
 - F-1-20) 腹痛
 - F-1-21) 悪心・嘔吐
 - F-1-22) 吐血・下血
 - F-1-23) 便秘・下痢
 - F-1-24) 黄疸
 - F-1-25) 腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘍
 - F-1-26) 貧血
 - F-1-27) リンパ節腫脹
 - F-1-28) 尿量・排尿の異常
 - F-1-29) 血尿・タンパク尿
 - F-1-30) 月経異常
 - F-1-31) 不安・抑うつ
 - F-1-32) もの忘れ
 - F-1-33) 頭痛
 - F-1-34) 運動麻痺・筋力低下
 - F-1-35) 腰背部痛
 - F-1-36) 関節痛・関節腫脹
 - F-1-37) 外傷・熱傷
- F-2 基本的診療知識
 - F-2-1) 臨床推論
 - F-2-2) 根拠に基づいた医療<EBM>
 - F-2-3) 臨床検査
 - F-2-4) 病理診断
 - F-2-5) 放射線等を用いる診断と治療
 - F-2-6) 内視鏡を用いる診断と治療
 - F-2-7) 超音波を用いる診断と治療
 - F-2-8) 薬物治療の基本原則
 - F-2-9) 外科的治療と周術期管理

- F-2-10) 麻酔
- F-2-11) 食事・栄養療法と輸液療法
- F-2-12) 医療機器と人工臓器
- F-2-13) 輸血と移植
- F-2-14) リハビリテーション
- F-2-15) 在宅医療と介護
- F-2-16) 緩和ケア
- F-3 基本的診療技能
 - F-3-1) 問題志向型システムと臨床診断推論
 - F-3-2) 医療面接
 - F-3-3) 診療録(カルテ)
 - F-3-4) 臨床判断
 - F-3-5) 身体診察
 - F-3-6) 基本的臨床手技

G 臨床実習

- G-1 診療の基本
 - G-1-1) 臨床実習
- G-2 臨床推論
 - G-2-1) 発熱
 - G-2-2) 全身倦怠感
 - G-2-3) 食思(欲)不振
 - G-2-4) 体重減少・体重増加
 - G-2-5) ショック
 - G-2-6) 心停止
 - G-2-7) 意識障害・失神
 - G-2-8) けいれん
 - G-2-9) めまい
 - G-2-10) 脱水
 - G-2-11) 浮腫
 - G-2-12) 発疹
 - G-2-13) 咳・痰
 - G-2-14) 血痰・喀血
 - G-2-15) 呼吸困難
 - G-2-16) 胸痛
 - G-2-17) 動悸
 - G-2-18) 胸水
 - G-2-19) 嚥下困難・障害
 - G-2-20) 腹痛
 - G-2-21) 悪心・嘔吐
 - G-2-22) 吐血・下血
 - G-2-23) 便秘・下痢
 - G-2-24) 黄疸
 - G-2-25) 腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘍
 - G-2-26) 貧血
 - G-2-27) リンパ節腫脹
 - G-2-28) 尿量・排尿の異常
 - G-2-29) 血尿・タンパク尿
 - G-2-30) 月経異常
 - G-2-31) 不安・抑うつ
 - G-2-32) もの忘れ
 - G-2-33) 頭痛
 - G-2-34) 運動麻痺・筋力低下
 - G-2-35) 腰背部痛
 - G-2-36) 関節痛・関節腫脹
 - G-2-37) 外傷・熱傷
- G-3 基本的臨床手技
 - G-3-1) 一般手技
 - G-3-2) 検査手技
 - G-3-3) 外科手技

- G-3-4) 救命処置
- G-4 診療科臨床実習
 - G-4-1) 必ず経験すべき診療科
内科、外科、小児科、産婦人科、精神科
総合診療科、救急科
 - G-4-2) 上記以外の診療科
 - G-4-3) 地域医療実習
 - G-4-4) シミュレーション教育

(3) 成績疑問票

成績疑問票取扱要綱

(目的)

第1条 この要綱は、成績疑問票の取扱いについて必要な事項を定めることにより、本学における成績評価の透明性を担保することを目的とする。

(疑問票)

第2条 成績疑問票は、別紙様式1とする。

(提出期間)

第3条 成績疑問票の提出期間については、教養教育推進機構（教養教育科目）、各学部及び各研究科（以下「学部等」という。）において適切な時期を定める。

2 申請場所については、学部等を所管する事務室（教養教育科目については教務課）とする。

(回答期間)

第4条 提出された成績疑問票に対しては、受け付けてから1週間以内に回答するものとする。

(周知方法)

第5条 提出期間等の学生への周知方法として、履修要項、掲示板及びポータルサイトへ掲載することとする。

(疑義)

第6条 回答の内容について疑義を申し出た学生に対しては、原則として担当教員が直接説明をすることとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、成績疑問票について必要な事項は、教養教育推進機構、各学部及び各研究科において定めるものとする。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

別紙様式1

令和 年 月 日 提出

成績疑問票

(医学部専門科目用)

学部・学年	医学部	年
学籍番号		
氏名		

※太枠内は、必ず記入してください。

試験科目名	
担当教員	
試験実施日	令和 年 月 日
内 容	

※学生は、以下の欄は記入しないでください。

回答者氏名	
回 答	

教育研究課

(4) 再（追）試験受験願・試験欠席届

再（追）試験受験願用紙

医学部長 教育研究課長 教育研究課

担 当
教授印

再（追）試験受験願

令和 年 月 日

医学部長様

医学部 学年 番

学籍番号

氏 名

令和 年 月 日施行された 学試験に不合格
() のため欠席) となったので、再（追）試験を受験したく
許可下さいますようお願いいたします。

(注) 再・(追) のいずれか不要の文字は抹消すること。
追試験の場合は、試験欠席届を併せて提出すること。

試験欠席届用紙

医学部長 教育研究課長 教育研究課長

担 当
教授印

試験欠席届

令和 年 月 日

医学部長様

医学部 学年 番

学籍番号

氏 名

下記のとおり、試験に欠席（しましたので・しますので）お届けします。

記

欠席の理由

欠席の日時

欠席の試験科目

(注) 欠席の理由は詳しく記入し、病気の場合は診断書等、事故の場合は事故を証明する
書面をそえること。

追試験を希望する場合は、追試験受験願いを併せて提出すること。

(5) 名古屋市立大学医学部第4学年の試験に関する一般的な注意事項

名古屋市立大学医学部第4学年の試験に関する一般的な注意事項

名古屋市立大学医学部
カリキュラム企画・運営委員会

1. セメスター試験について

4年生の臨床医学は4つのセメスターに分かれ、各セメスターはいくつかのユニットから成り立っている。各セメスターの最後にユニット毎の試験が行われる。試験は情報処理実習室における computer-based testing (CBT)形式で実施されている。試験の可否等については次のように定められている。

- ・ 60点を合格点とする。
- ・ あるセメスターにおいて全ユニットの平均点が60点に満たない場合、そのセメスターの全ての試験を不合格とする。
- ・ セメスター試験の追再試験は年度末に1回行う。追再試験に対する追再試験は行わない。
- ・ 試験問題は、共用試験 CBT や医師国家試験に準拠した形式で作成される。
- ・ 試験の時間割は、セメスター毎に掲示にて発表する。

2. 医学系共用試験

医学系共用試験は、臨床実習開始前の医学生が一定以上の能力と適性を持つことを確保するために、全国共通の基準に基づき行われる試験である。共用試験に合格すると、全国医学部長病院長会議から、Student Doctor の資格が付与され、認定証が発行される。共用試験は、臨床基本技能と態度をみる OSCE と医学・医療に関する知識をみる CBT という2つの試験で構成される。追試験・再試験は1回のみ行う追試験に対する再試験は行わない。

3. 共用試験の可否基準・成績としての利用方法について

OSCE は、一般診療に関する基本的臨床能力を客観的に評価する試験である。評価項目ごとの得点の合計と、6段階の概略評価で可否を判定する。

CBT は、基礎医学・臨床医学知識の総合的理解力を評価するコンピューターを用いた客観試験である。問題は共用試験実施評価機構にプールされている1万題を越える問題から出題され、受験者ごとに異なる。ただし、採点されるのは過去に一度出題され難易度が分かっている問題のみである。統計的な処理によって全体の難易度は標準化されて、受験者ごとの難易度が等しくなっている。なお、全国医学部長病院長会議はCBTの全国一律の合格ラインを能力値 IRT 359 としているが、本学では能力値 IRT 378 以上であることを合格基準とする。

平成27年度より、全国医学部長病院長会議の通達により、前年度の共用試験結果を次年度に持ちこして利用を認めないこととなった。については、他の進級要件を満たせず原級留置となった際には、共用試験も再履修しなければならない。

4. 共用試験の内容に関する守秘義務について

OSCE および CBT からなる共用試験は、医師免許を保持しない医学生に診療参加型臨床実習を行わせることに対する社会や患者の理解を得るために、日本の医学部・医科大学が自主的に行っているものであることから、試験の公正さと厳正さも自ら保証する必要がある。これに基づき、医学生には、受験の前後を問わず、共用試験の運営や受験を通じて知り得た内容についての守秘義務が課されており、この試験の信頼性を損なう行為やそれを疑わせる行為は厳しく禁じられている。

5. 著作権の問題について

本学医学部内の試験問題は、医学部が著作権を有する。昨今こうした問題を収集する外部業者があつて、問題文や画像が流出する事例が相次いでおり、全国的に問題になっている。許可なく学外に漏洩した場合、カンニングと同様、不正行為扱いとするので注意すること。特にインターネット上で自由に閲覧可能なサイトに掲載した場合、大きな問題が起きる可能性がある。

許可を得ずに試験問題文を利用できる範囲は原則として同一学年のみとする。

6. 過去の問題の解答について

過去の問題について一部の正解が公表されているが、問題の適切性や正解は、日進月歩の医学・医療環境において、常に変化している。疫学・統計的なデータはもちろん、診断や治療についても同様である。解答のみを丸暗記する愚行は厳に謹んでもらいたい。

以上

(6) 共用試験についての留意事項

共用試験についての留意事項

共用試験 CBT と OSCE は、医学生に臨床実習をさせてよいかどうかの学生の能力と適性を評価するために実施されている全国的規模の試験です。この試験が適正に行われ、合格できなければ、医学生に医行為をさせてよいという、医師法の違法性を阻却する事由になりません。そのため、入学試験や国家試験と同じような厳正さが求められている試験です。また、この問題を外部に漏洩することも禁じられており、そのことが明らかになった場合には、学生本人の責任が問われるばかりでなく、大学としての責任も問われ、CBT の参加資格が取り消される可能性があります。さらに臨床実習にご協力いただく患者さんからは、そのような大学や学生には協力しないどころか、そのような学生は医師にすべきではないとの意見が出るでしょう。皆さんはそのことを十分認識して、よい成績を収められることを期待します。

共用試験実施機構

* 医師ではない医学生が医行為をすることは、医師法で禁じられています。それにも関わらず学生に医行為を許可するためには、次の事由(違法性の阻却要件)を満たす必要があります。

学生が医療行為を行うことの違法性の阻却要件

1. 必要な能力を有していることの保証
2. 医師が行う場合と同等の安全性の確保

医学教育を行う大学は、CBT と OSCE に合格していることを、学生が必要な能力を有している証拠として、社会に呈示しようとしている。共用試験の公正性の保障がその基盤となる。

共用試験の公平性を妨害する不正な行為が認められた場合は、退学を含め厳正な処分が下されることがある。

共用試験 CBT および OSCE の守秘等に関する説明ならびに同意書より

1. 共用試験 CBT および OSCE の守秘等についての説明

未だ医師免許や歯科医師免許のない医学生や歯学生在臨床実習で医行為をするに当たっては、事前に適切な評価を受けて、十分な能力があることが確認されていなければなりません。その目的のための重要な全国規模での試験が共用試験です。

そのため、この共用試験では、医師国家試験や歯科医師国家試験並みの厳正さが要求され、試験問題は厳重に管理される必要があります。試験問題の漏洩や営利目的利用への加担等、試験の公平性が損なわれるような行為は固く禁止されています。これらの遵守事項違反が認められた場合には、当該学生の共用試験 (CBT, OSCE) 試験結果は取り消され、当該年度の共用試験の受験資格を取り消します。

なお、CBT および OSCE の内容につき万一漏洩等が起こった場合は、平成31年2月22日付の「遵守事項」に準じ、本大学が共用試験に参加できなくなる等の可能性があります。

(7) 卒業試験 総合客観試験について

卒業試験 総合客観試験について

I. 試験の目的

学習の到達度が、必須最低限のレベルに達しているか否かを評価する。

II. 試験の方法

1. 直近4年間の国家試験問題およびその類題を選別・作成し、そこから出題する。各科目の問題数は、最新の国家試験に準ずる割合とする。類題については選択肢の順番の入れ替えや選択肢の一部変更のみとし、試験問題の趣旨や難易度を大きく変えないように配慮する。禁忌問題は設定しない。
2. 合否判定基準は、国家試験のそれに準ずる。不合格者及び欠席者に対しては再試験を実施する。
3. 総合客観試験1の再試不合格者及び欠席者については、総合客観試験2の再試を総合客観試験1の再々試験とみなす。
4. 総合客観試験2の再々試験は行わない。
5. 総合客観試験1および2の両者の合格をもって総合客観試験の合格とする。
6. 最終合否判定は、総合判定会議をもって行う。

III. 2022年の総合客観試験日程

【総合客観試験1】

本試 2022年3月31日(木)、4月1日(金)

対象：全員（2グループにわかれて受験）

再試 2022年8月26日(金)

対象：総合客観試験1本試不合格者及び欠席者

【総合客観試験2】

本試 2022年11月10日(木)、11月11日(金)

対象：全員（2グループにわかれて受験）

再試 2022年12月16日(金)

対象：総合客観試験2の本試不合格者及び欠席者、総合客観試験1の再試不合格者及び欠席者

(8) 名古屋市立大学医学部 臨床実習資格基準

次の基準をすべて満たしていること。

- ア. 履修規程で定められた4年生までの教養、専門科目を全て履修していること。
- イ. 共用試験OSCE、CBTに合格していること。
- ウ. 必要な感染症対策を行っていること。

次の感染症の抗体検査を受け、実習開始までに抗体のないものについては必要な予防接種を受けていること。(接種の記録を大学へ提出すること)

B型肝炎、麻疹、風疹、水痘、ムンプス

また、結核についてはT-SPO Tを受けること。

このうち、B型肝炎抗体検査・T-SPO Tは大学で実施する。

- エ. 学生賠償責任保険に加入していること。

(2017.02.28 医学部教授会決定)

(2021.12.14 医学部教授会決定)

(9) 名古屋市立大学医学部 医療系実習参加資格基準

次の基準を満たしていない学生は医療系実習への参加を認めない。

- 1. 必要な感染症対策を行っていること。

次の感染症の抗体検査を受け、抗体のないものについては入学年度の6月末日までに必要な予防接種を受けていること。(接種の記録を大学へ提出すること)

- ・検査結果を提出するもの；麻疹、風疹、水痘、ムンプス
- ・ワクチン接種を各自行うもの；麻疹、風疹、水痘、ムンプス
- (・大学で検査およびワクチン接種を行うもの；B型肝炎)

- 2. 学生賠償責任保険に加入していること。

(2016.02.23 医学部教授会決定)

(10) アンプロフェッショナルな行動・態度のみられた学生の評価と対応

カリキュラム企画・運営委員会

臨床実習小委員会

2021年12月

名古屋市立大学医学部医学科では臨床実習の評価の一つとして、アンプロフェッショナルな行動・態度の評価を行います。「アンプロフェッショナルな学生」は以下のように定義します。

診療参加型臨床実習において、学生の行動を臨床現場で観察していて、特に医療安全の面から、このままでは将来、患者の診療に関わらせることが出来ないと考えられる学生

患者さんの診療に現場であたる臨床医としての視点で、今後この学生が臨床医になって診療に関わる上で、特に医療安全の面から、明らかに不適切と思われる行動や態度が見られた場合、その事例について別紙にできるだけ詳しく記述下さい。その際に、直接ご自身で観察された情報と間接的に得た情報とを可能な限り区別していただくようお願いいたします。

本評価は、各診療科での臨床実習の合否判定とは独立して運用します。臨床実習小委員会で内容を確認し、メンターや臨床実習小委員会委員から注意と指導を行います。

問題行動が繰り返してみられ、改善の認められない場合は、在籍している学年の最初からのやり直しを検討します。決定は、カリキュラム企画・運営委員会、教授会の審議によります。

精神疾患も含め疾病の関与が懸念される場合は、臨床実習小委員会やメンターから保健管理センターの医師に相談し、適切な医療機関を受診するように指導します。

以下にアンプロフェッショナルな学生の例を提示します。京都大学医学部学務委員会臨床実習倫理評価小委員会が提示しています。参考にさせていただいて評価し、報告ください。

- ・初日の集合時間（朝9時）に、連絡なく大幅に遅刻して午後（13時）にしか出てこなかったのみならず、以後毎日、病院の職員が学生宿舎まで迎えに行かなければ、実習に出てこなかった。【診療チームの一員としての責任感】
- ・診療チームの一員として、毎朝、担当患者さん（1名）を回診して、9時からの指導医回診でその状況を報告する役割を与えているが、全く患者さんのところに行かないばかりか、指導医回診で虚偽の報告を行った。【診療チームの一員としての責任感＋誠実な行動】
- ・臨床実習に殆ど出席せず、遅刻した症例発表会での発表内容、症例報告レポートの内容が非常に乏しかったため、追加レポートを求めたところ、真夜中に病棟に現れて、カルテのプリントアウトを大量に行った。プリントアウトの最中にナースステーション内でゲームをしていたため、夜勤の看護師が指摘したところ、素直に従わないどころか、「看護師のくせに偉そうなことを言うな」と逆ギレした。【診療チームの一員としての責任感＋知識・技能の向上に対する努力＋他職種との協働＋患者に関する情報の守秘義務】
- ・実習中に何処で何をしているのか分からない上に、PHSで連絡をしても繋がらない。なんとか見つけだして担当患者さんの病状説明（がんの告知）に同席させたところ、居眠りをしてしまい、患者さんが激怒した。【診療チームの一員としての責任感＋患者さん/家族に対する態度】

- ・実習中に、連絡なく欠席・遅刻を繰り返した。最終日に、レポートの内容が乏しいことを指摘すると、ふてくされた態度になった。無断欠席・遅刻に関して医学生としてふさわしくないことを伝えると、謝るところか、無言のままプイとそっぽを向いて部屋を出て行った。【診療チームの一員としての責任感+知識・技能の向上に対する努力+指導医/教員の指摘を受け入れる姿勢】
 - ・指導医・他の医療スタッフに対して、基本的な挨拶（おはようございます。ありがとうございます。すみません。など）が全くできず、また十分なコミュニケーションもとれない。担当患者さんに対しても同様の態度であったため、患者さんからクレームが来た。そのことを学生に伝えると、「あんな患者は京大病院に来なくていい」と言い出した。【患者さん/家族に対する態度+指導医/教員の指摘を受け入れる姿勢+礼儀と基本的な挨拶および服装】
 - ・臨床実習で担当した外国人の患者から、担当学生の態度がよくないとのクレームがあった。これを学生に伝えたところ、「こんなことで文句言うなんて絶対おかしい。あいつら〇〇人って、やっぱり、価値観、変」と、ナースステーションで、患者さんに声が聞こえることも気にせず大声で叫んだ。【患者さん/家族に対する態度+社会的カテゴリーに基づく差別】
 - ・Twitter®に「〇〇病院の呼吸器内科で実習中なう。めっちゃ稀な△△病の患者さんの担当になったので勉強が大変(><)。でも若い女の子（しかも家が下宿の近所!）なのでいつも以上に頑張っています!」とツイートし、さらにはFacebook®（自分の下宿の住所が閲覧可能）に友達限定で同じ内容をレントゲン写真つきでアップした。【患者に関する情報の守秘義務】
 - ・ある勉強会に参加したところ、製薬会社が後援しており、とても高価な弁当をごちそうになった。以後、製薬会社の後援する弁当付き勉強会に診療科を問わず全て出席した。さらに、どの製薬会社がどの程度の値段の弁当を提供しているかについてのランキング表を写真付きで作り、「こんな弁当がただで食べられるなんて、やっぱ医者ってすげー。でも□□製薬さんにはもうちょっと頑張ってもらわないとね」とのコメントをつけて自身のブログにアップした。【利益相反による弊害】
 - ・一緒に住んでいる甥が3日前に病院でインフルエンザと診断された。昨日から自分も熱が出てきたが、次の実習先の診療科は厳しいとの評判を聞いていたので、休まずに臨床実習に出席し、担当患者さん（免疫抑制状態）のベッドサイドに毎日足を運び、看護師とのカンファレンスにも積極的に出席した。「熱っばいの?大丈夫?」と指導医に言われたが、「大丈夫です」とだけ答えた。【院内指針の遵守】
 - ・〇〇診療科では、毎朝、担当患者を診察して、その内容をカルテに記録し、指導医に内容を確認してもらうことになっていた。ある日、寝坊して、朝、病院に行けなかった。指導医にはたまたま（寝坊したことが）見つからなかったが、患者さんは検査に行ってしまうと、朝の回診はできなかった。その診療科の教授がとっても怖いという評判だったので、電子カルテの記載時間を修正して（調整して）、午前中に診察したかのように電子カルテに記録した。【不正行為への関与】
 - ・朝のカンファレンスにギリギリにやってきたかと思えば、寝ぐせだらけの頭に無精髭、ダメージジーンズ、裸足にクロックス®, 実習が始まってから1回も洗濯に出してなさそうな白衣を羽織って前のボタンもとめずに現れた。患者さんやスタッフから苦情が来たため、服装を正すように本人に伝えたが、本人は気にしている様子は全くなく、実習中、ずっと同じような格好で病棟に現れた。【服装+指導医/教員の指摘を受け入れる姿勢】
- ※「これまでに国内外の大学医学部においてアンプロフェッショナルと評価された行動などを参考に、あくまで評価をする際に参照する目的で作成しました。よって、京都大学医学部医学科にこのような学生が在籍しているというわけではありません。」とのコメントがあります。

(出典：<http://cme.med.kyoto-u.ac.jp/sd/unprofessional.pdf> 京都大学医学研究科 医学教育・国際化推進センター)

(11) 定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針

(平成27年4月1日 学長決定)

名古屋市立大学学生懲戒規程（以下「懲戒規程」という。）第23条の定めるところにより、同規程第3条第1項第4号に掲げる試験等における不正行為に関し、以下のとおり定める。

（定期試験における不正行為の定義）

第1 定期試験において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) カンニング（カンニングペーパーを所持し又は見ること、持込みが許可されていないテキスト等を見ること、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- (2) 試験時間中に、答えを教えるなど他の受験者を利するような行為をすること。
- (3) 試験時間中に、携帯電話等を使用すること。
- (4) 使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。
- (5) 試験開始の指示の前に問題を見たり解答を始めること。
- (6) 試験終了の指示に従わず、解答を続けること。
- (7) 試験時間中に、携帯電話、時計等の音（着信、アラーム、振動音等）を長時間鳴らすなど、試験の進行に多大な影響を与えること。
- (8) 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- (9) 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- (10) その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

（定期試験に代わるレポート課題における不正行為の定義）

第2 定期試験に代わるレポート課題において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) 既に公表されている著作物やウェブサイトに掲載された他人の文章や図表等の全部又は一部を、引用・出典を明示せずに、故意にあたかも自分自身の作成した文章や図表であるかのように利用すること。
- (2) 他人が作成したレポートの全部又は一部を、あたかも自分自身の作成したレポートであるかのように提出すること
- (3) その他、定期試験に代わるレポート課題の公平性を損なう行為をすること。

（懲戒等及び措置）

第3 第1又は第2に規定する不正行為を行ったものとみなされた学生に対しては、懲戒規程に基づき、懲戒処分（戒告、停学若しくは退学）又は学部長等による嚴重注意（以下「懲戒等」という。）を行う。

2 前項に規定する懲戒等とあわせて、学部長等は、学部等の教授会の議を経て、不正行為の態様に応じて次の各号のいずれかの措置を行うものとする。

- (1) その学年における全ての科目の履修及び成績を無効とする。
- (2) その学期における全ての科目の履修を無効とする。ただし、通年科目の取扱いは、学部長等が教授会の議を経て決定する。
- (3) 当該科目の履修を無効とする。なお、不正行為により教養教育の英語科目が無効となった場合は、当該懲戒等が行われた年度には英語検定試験による単位認定は行わない。

3 前項の規定にかかわらず、その学年における医学部専門教育科目のうち、不正行為を行った時点において、既に履修を終えている科目についてはその履修及び成績を無効とし、現に履修中の科目についてはその取扱いを学部長等が教授会の議を経て決定する。

(懲戒等の通知及び公示)

第4 第3に基づき懲戒等及び措置を行うときは、懲戒等の種類に関わらず、当該学生に通知し、及び公示するものとする。

2 前項の通知については、懲戒処分である者にあつては懲戒規程第14条に定めるところにより、学部長等による嚴重注意である者にあつては同条の例により、それぞれ行うものとする。

3 第1項の公示については、懲戒処分である者にあつては懲戒規程第15条に定めるところにより、学部長等による嚴重注意である者にあつては同条の例により、当該学生の所属、学年、懲戒等の種類、懲戒等の理由を掲げるほか、措置の内容を明らかにする。

4 第1項および前項の公示は、次の各号に掲げる場所に掲示することにより行う。

- (1) 当該学生が所属する学部等の掲示板
- (2) 教養教育科目における不正行為の場合、前号に加えて教養教育の掲示板
- (3) 懲戒処分を行う場合、前2号に加えて他の学部及び研究科の掲示板

(その他)

第5 第3に定める懲戒等及び措置の基準については、別に定める。

付 記

1 この指針は、平成27年4月1日から施行し、平成27年度に実施する定期試験及び定期試験に代わるレポート課題から適用する。

2 定期試験に準ずる試験及び集中講義に係る試験についても、この指針を準用する。

3 定期試験に準ずる試験に代わるレポート課題及び集中講義に係る試験に代わるレポート課題についても、この指針を準用する。

【レポート課題作成時の注意】

レポートは、自分で調べたことや考えたこと等を自分の文章で記述するものです。

他の文献等を調べ学ぶことは非常に重要ですが、それを引用する場合はルールがあります。引用する場合は、引用した部分とそれに関する自分の考えの部分をはっきりと区別して示す必要があります。

他人の文章、図表をあたかも自分のオリジナルであるかのように利用することは、「剽窃」（盗作）であり、定期試験等に代わるレポート課題に関しては、「定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針」に基づき、試験におけるカンニングと同様に不正行為とみなされ処分等の対象となります。授業においても指導されるレポート作成に当たってのルールを守ってレポートを提出して下さい。

(12) SNS 利用時の注意事項

名古屋市立大学医学部 SNS 利用時の注意事項

1. 一般的注意事項

ソーシャルメディア（インターネット上のブログ、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）、電子掲示板、動画投稿サイト等、特定または不特定の人に情報共有を行うメディア。Facebook、Twitter、Instagram、LINE 等）への投稿・情報発信は、当事者の学生間では問題無いような書き込みでも、第三者との関わりにより、重大なトラブルになる可能性がある。公開した内容、事案によっては懲戒処分の対象となりうるため、下記に十分に注意すること。

誹謗や中傷になることを投稿しない。

不当に対象者の社会的評価を貶めた場合、名誉棄損として損害賠償の対象になりうる。

個人情報等に関する投稿をしない。

実名でなくても、所属、行動、居住地域など他の人の情報、写真、動画等により、個人を特定できれば個人情報となる。

法やモラルに反する内容を投稿しない。

悪ふざけで投稿した内容でも法やモラルに反していれば、第三者に発見・特定され、処罰の対象となりうる。

大学や職務上（アルバイト等）で知り得た情報を投稿しない。

大学や職務上で知り得た情報を無断で発信することは、守秘義務違反となりうる。また、講義資料等を SNS に投稿することや他のインターネットサイトにアップロードすることを禁止する。

2. 実習における注意事項

カルテの内容など患者情報を漏らしてはならないことは当然であるが、実習の内容、病院等の内部情報（建物、宿舍、指導医や医療関係者の様子など）を投稿しない。実習先施設においても重大な問題となる場合がある。指導内容についての感想などはたとえ良い内容であっても、信頼を損ねることもある。

学生間では問題ないような投稿であっても、個人情報の漏洩、名誉毀損、プライバシー侵害、守秘義務違反となる可能性があるため、

実習にかかわる内容についてソーシャルメディアに投稿することは、個人の感想や関係者への謝辞等も含め、禁止とする。

2020年12月18日

カリキュラム企画・運営委員長

名古屋市立大学 医学部長

(13) 名古屋市立大学医学部学生代表委員会規約

名古屋市立大学医学部学生代表委員会規約

第1章 総則

第1条(規約)

本規約は、名古屋市立大学の医学部学生代表委員会の諸活動を、公正かつ円滑に行うための手段、諸手続きを規定することを目的とする。

第2条(名称)

本会の名称を名古屋市立大学医学部学生代表委員会(以下代表委員会)とする。

第3条(所在地)

本会の事務局を名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄一旧厚生会館2F代表委員会室に置くものとする。

第4条(用語の定義)

この規約において次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定める所による。

(1)代表委員会会議

代表委員会によって行われる会議。名古屋市立大学医学部の学生組織の学生大会に次ぐ意思決定機関。

(2)代表委員

医学部の各学年より3名ずつ選出されるものとする。1年生の11月に選出を行うものとする。

(3)代表委員会執行部

会長、副会長、会計、カリキュラム部門、川澄キャンパス改善部門より成立し、本会を運営することを職責とする。

第2章 目的及び活動

第5条(目的)

本会は、本学医学部学生の学生間の交流を深め、大学教職員と連携して有意義な学生生活を送る環境を育み、もって名古屋市立大学の発展のみならず、地域社会、日本社会の発展に寄与することを目的とする。

第6条(活動内容)

本会は第5条の目的を達成するため、次に掲げる活動を行う。

(1)本会に所属する団体への支援

(2)各学年への連絡事項の伝達

(3)学生生活の向上に関する活動

(4)医学教育の向上に関する活動

(5)学生間で調整が必要な事案についての協議

(6)その他目的を達成するために必要な活動

第3章 会員

第7条(会員)

本会は、名古屋市立大学医学部の学生全員を以て組織する。

第8条(会員の権利)

本会の会員は次の権利を有する。

(1)本会の活動によって生ずる権利を平等に受けること。

(2)本会のあらゆる組織に意見や要求をすること。

(3)本会のあらゆる会議に出席すること

(4)本会の各組織の記録文章を閲読すること。

(5)本会の諸組織へ、本規約にしたがって参加すること。

(6)本会執行部に対して解職請求を行うこと。

第9条(会員の権利の保護)

本会の会員は本規約以外のいかなる規約によって、本会の会員たる権利を失わない。

第10条(会員の義務)

(1)本規約に従うこと

(2) 本会の決定に従うこと。不服がある場合は本規約の規定に伴い、不服申し立てを行うこと。

第4章 団体

第11条(団体)

本会は以下の団体を有する。各団体に関する細則は別記する。

- (1) 代表委員会
- (2) 代表委員会執行部

第12条(代表委員会)

(1) 代表委員の選任

1年次の11月に各学年から3名を選任し、代表委員とする。

(2) 任期

代表委員の任期は原則6年生の卒業時までとする。ただし原級措置を受けた場合はその限りではない。

(3) 解職請求

各学年の構成員の1割の署名があった場合、代表委員に対して解職請求を行うことができる。解職に至った場合、その後1か月以内に新規の委員を選任する。

第13条(代表委員会執行部)

(1) 役職

本執行部は以下の役職より成立するものとする。任期はいずれも選出された当日から次期執行部が選出されるまでの1年とする。

1) 会長

定員を1名とする。諸会議の招集、および議事運営、その他全業務を担当する。ただし、同じ者の再任はこれを認めない。

2) 副会長

定員を1名とする。会長の補佐、全体の調整及び、諸会議の運営。会長が何らかの理由で職務を執行できない場合、その職務を代行する。

3) 会計

定員を1名とする。予算の作成及び執行、決算書の作成を行うものとする。

4) カリキュラム部門

医学部各学年のカリキュラムの改善を目指し、各学年からカリキュラムについて要求を吸い上げ、教員側に提案するなどの活動を行う。

5) 川澄キャンパス改善部門

川澄キャンパスの美化・改善に努める。具体的にはロッカーなどの定期清掃、キャンパス環境・設備改善に対する提案を行う。

(2) 役職の選任

毎年度4月に代表委員による公正な選挙を行うこととする。本選挙の管理は前年度会長が行い、出席委員の過半単を以て選任される。ただし、候補者が定員数であった場合、信任投票を行い、出席委員の過半数の賛成によって信任とする。

(3) 被選挙権

会長は代表委員から選出されるものとする。他の役職はこの限りではない。

(4) 任期

執行部の任期は1年間とする。

(5) 解職請求

名市大医学部代表委員会全構成員の1割の署名があった場合、執行部に対して役職ごとに解職請求を行うことが出来る。解職請求があった場合、学生大会を開催し、解職請求に伴う選挙を行い、過半数の賛成により解職される。解職された場合、1か月以内に再選挙が行われるものとする。

第5章 会議

第14条(会議)

本会は以下の会議を有する。

- (1) 学生大会及び学生投票
- (2) 代表委員会会議

第15条(委任状)

本会の諸会議に欠席する場合、委任状を提出することが出来る。委任状がある場合、会議に出席したものとみなし、議決に際しては委任状を有する代理人が代行するものとする。

第16条(代表委員会会議)

(1)代表委員会 学生大会に次ぐ本会の意思決定機関である。

(2)会議の種類

1)代表委員会会議は、定例会議及び臨時会議とする。

2)定例会議の、次回開催日時は、各定例会議において決定するものとし、必ず1か月に1回は開催するものとする、ただし、夏季・冬季・春季休暇中はこの限りではない。

(3)議長

本会議の議長は代表委員会会長が兼任し、やむを得ず不在の場合は副会長が行うものとする。

(4)会議の招集

1)代表委員会会議は、議長がこれを招集するものとする。

2)代表委員は第16条(2)第3項に関わる事態が発生した場合、議長に対し全委員の1/3以上の賛成を以て臨時会議召集の要請を行うことが出来る。

3)議長は前項に基づく臨時会議召集の要請がある場合で、定例会議の日程では事態の収拾に対し、避けがたい事態が発生すると判断した場合、速やかに臨時会議を招集しなければならない。

(5)成立条件

本会議は全代表委員の過半数の出席を以て成立するものとする。ただし、医学部の実習等で出席できない場合はこの限りではない。

(6)採決

本会議の議決権は代表委員のみが有し、議案は本規約に特別な記述があるものを除いては出席者の過半数を以て議決され、賛否同数の場合、議長が採択するものとする。

第17条(規約)

(1)学生大会

本会の最高意思決定機関であり、本会全会員をもって構成される。

(2)開催

学生大会は代表委員で特別に全委員の2/3以上が必要であると判断した場合及び、代表委員執行部に対する解職請求がなされた場合に開催されるものとする。

(3)議長

学生大会の議事運営は代表委員会会長が兼任し、やむを得ず不在の場合は副会長が行うものとする。

(4)成立条件

学生大会は全構成員の1/3以上が出席した場合、成立するものとする。また、出席できない場合は委任状の提出により出席とみなすものとする。ただし、医学部の実習等で出席できない場合はこの限りではない。

(5)採決

学生大会の議案は本規約に特別な記述があるものを除いては出席者の過半数を以て決議され、賛否同数の場合、議長が採択するものとする。

第6章 会計

第18条(収入)

本会の収入は学友会による援助金、その他によって成り立つものとする。

第19条(予算承認)

本会予算は、執行部会計が立案し、代表委員会会議の出席代表委員の過半数の賛成によって承認されるものとする。

第20条(監査)

本会の決算は毎会計年度3月に代表委員会会議において監査するものとする。

第21条(公開)

本会の予算書、決算書は要求があれば全て学生用掲示板において公開されるものとする。

第22条(会計年度)

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、3月31日に終了する。

第8章 罰則

第23条(代表委員会による処分)

代表委員会は本規約に違反した個人、及び諸団体に対し、代表委員会会議の会一致を以て以下の処分を下すことができる。

- (1) 本会における権利の停止
- (2) 警告、訓告

第24条(処分理由の通知)

代表委員会が前条の行為を行った場合、関係者に対して速やかに処分内容、処分理由を通知しなければならない。

第9章 異議申し立て

第25条(不服申し立て)

(1) 不服申し立て

名古屋市立大学医学部学生、名古屋市立大学医学部が代表する団体は代表委員会の議決、または処分行為により不利益が生ずることが予測されるまたは生じた場合、当該議決・処分行為に対する不服の申し立てを行うことができる。

(2) 不服申し立てに対する対応

不服の申し立てを受けた場合、代表委員会は10日以内に当該人物または当該団体に対し、当該処分行為についての説明または再処分を行わなければならない。

第26条(不服申し立ての際の処分執行の停止)

(1) 処分の執行停止

前条に基づく不服の申し立てがなされた場合、代表委員会は当該処分についての解決がなされるまでの間、当該処分の執行の停止をしなければならない。

(2) 緊急時の処分

前項において、その処分の執行を停止することにより、更に大きな不利益が生ずると判断される場合、当該処分の執行は出席委員の全会一致を以てこれを行うことができる。

第27条(規約違反行為への異議申し立て)

(1) 規約違反行為への異議申し立て

代表委員会の行為について本規約に対して重大な違反の有ることを知った者は議長に対し、当該行為の取り消しを求める直接請求を行うことができる。

(2) 規約違反行為への異議申し立てへの対応前項の直接請求を受けた場合、代表委員会は直ちに当該行為を取り消す、または当該行為の再検討を行わなければならない。

第9章 補則

第28条(規約の改廃)

本規約の改廃は代表委員会の発議により、代表委員会会議出席者の2/3を以て行われるものとする。

第29条(規約の適用範囲)

本規約は名古屋市立大学医学部学生のみ適用するものとする。

附則

本規約は2008年10月1日より発効する。

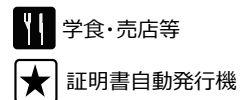
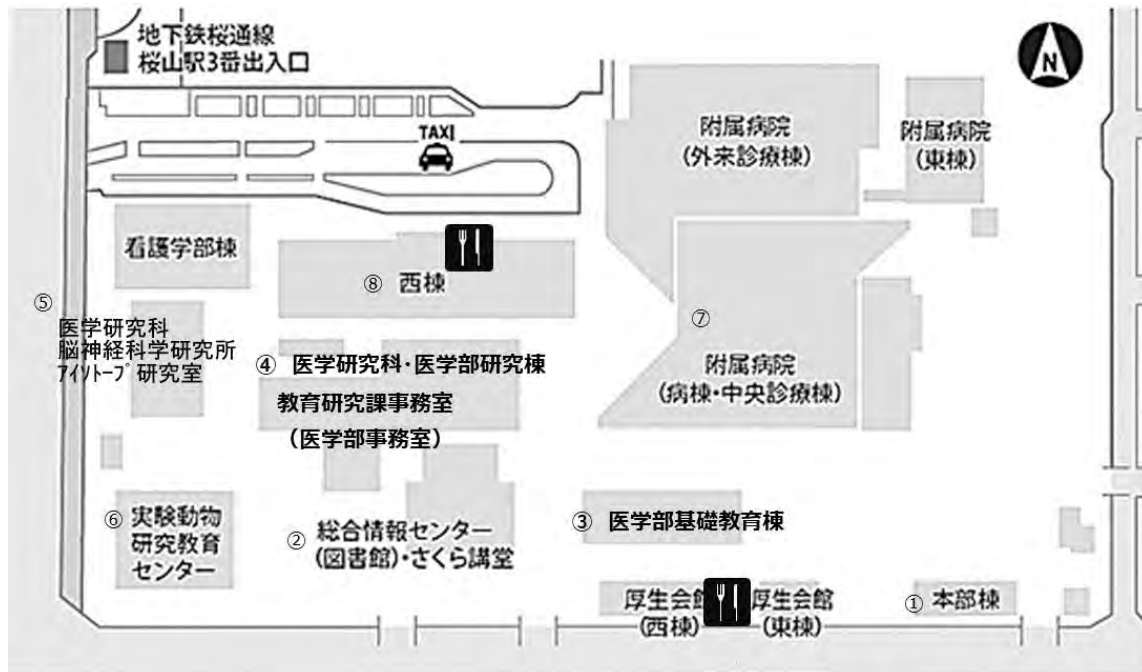
附則

本規約は2017年6月21日より発効する。

11. キャンパスマップ

(1) 桜山（川澄）キャンパス建物配置図

桜山（川澄）キャンパス



①本部棟

- 4 F 多目的ホール 施設課
- 3 F 学長室
総務課
監査室
- 2 F 学術課
財務課
- 1 F 入試課
企画広報課

②総合情報センター 川澄分館（図書館）

- 2 F さくら講堂

③基礎教育棟

- 6 F 解剖学実習室
- 5 F 大学院セミナー室
講義室 3
- 4 F 微生物実習室
生体機能学実習室
- 3 F 情報処理実習室（PC）
顕微形態実習室
- 2 F 講義室 1
講義室 2
セミナー室
談話室
- 1 F 生化・法医実習室
更衣室（M1-3 ロッカー）

④研究棟

- | | | |
|----------------------------|--|-------|
| 11 F 特別会議室 | 講義室 A | 講義室 B |
| 10 F 環境労働衛生学
公衆衛生学 | 麻酔科学・集中治療医学
精神・認知・行動医学 | |
| 9 F 細菌学
ウイルス学 | 腎・泌尿器科学
放射線医学 | |
| 8 F 薬理学
免疫学 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学
加齢・環境皮膚科学 | |
| 7 F 細胞生理学
脳神経生理学 | 産科婦人科学
視覚科学 | |
| 6 F 病態生化学
細胞生化学 | 整形外科学
脳神経外科学 | |
| 5 F 実験病態病理学
臨床病態病理学 | 消化器外科学
腫瘍・免疫外科学 | |
| 4 F 統合解剖学
機能組織学 | 循環器内科学
新生児・小児医学 | |
| 3 F 法医学
神経内科学 | 消化器・代謝内科学
呼吸器・免疫・アレルギー内科学 | |
| 2 F 地域医療教育学
リハビリテーション医学 | 血液・腫瘍内科学
会議室 共同研究室 | |
| 1 F 研究科長室
防災センター | 更衣室(M4-6 ロッカー)
臨床セミナー室 | |
| B1 F 中央監視室 | 情報管理・教育センター
共同研究室
保健室
法医解剖室 病理解剖室 | |

⑤脳神経科学研究所

- 医学研究科アイソトープ研究室
- 7 F 認知症科学
- 6 F グリア細胞生物学
- 5 F 神経発達症遺伝学
- 4 F 神経毒性学
- 3 F 神経発達・再生医学
- 2 F アイソトープ研究室
- 1 F アイソトープ研究室

⑥実験動物研究教育センター

- 病態モデル医学

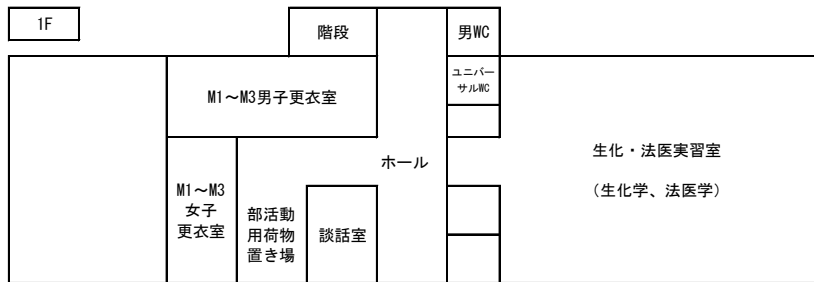
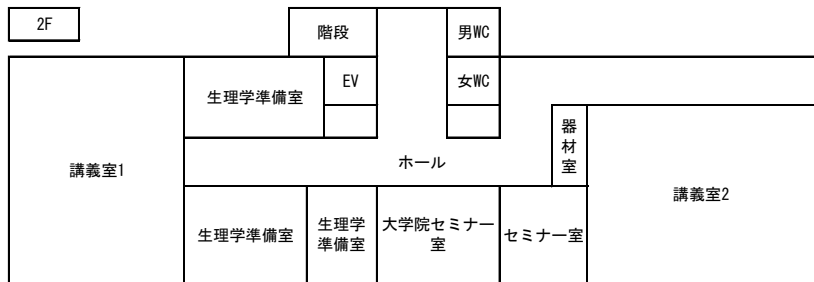
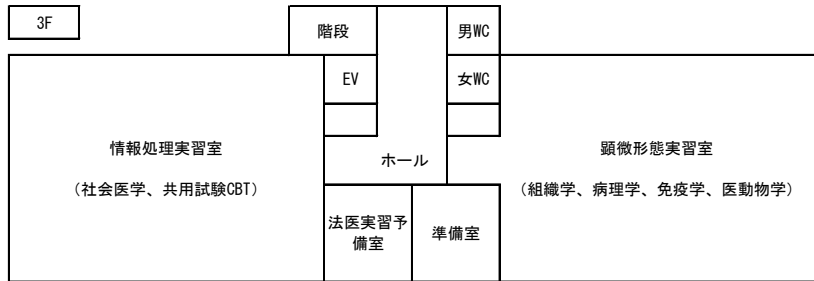
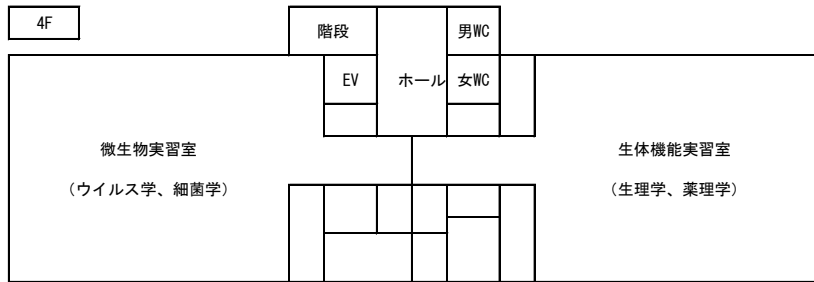
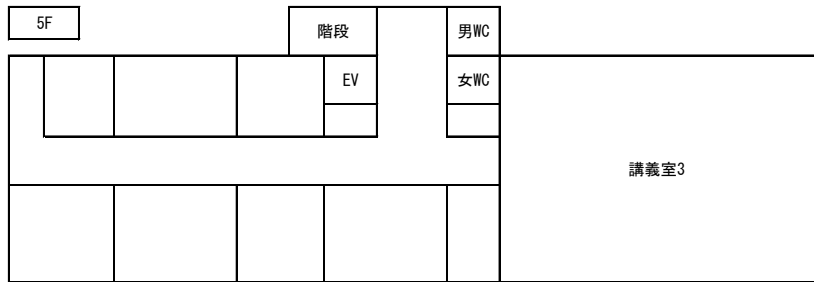
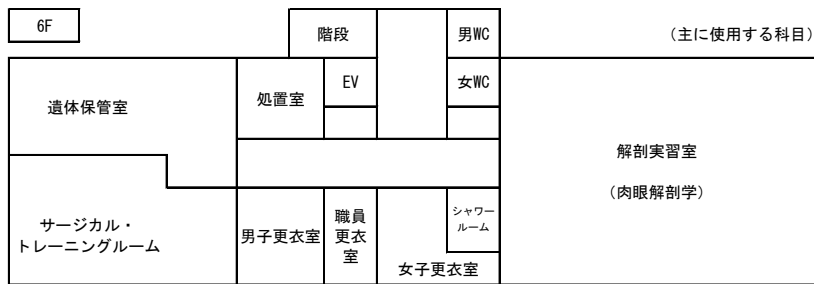
⑦病棟・中央診療棟

- 7 F 口腔外科学
- 4 F 腎臓内科学
- 1 F 臨床薬剤学

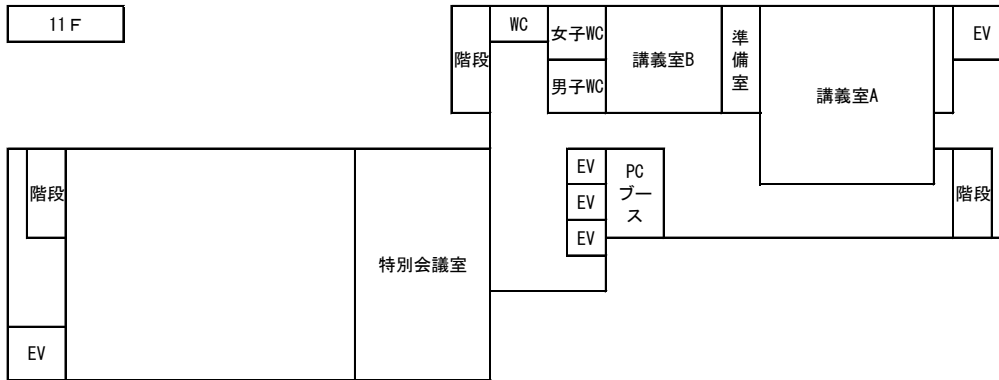
⑧西棟

- 3 F 研修室1~12
多目的研修室
- 2 F 乳腺外科学
小児泌尿器科学
- 1 F 臨床シミュレーションセンター
サクラサイドテラス

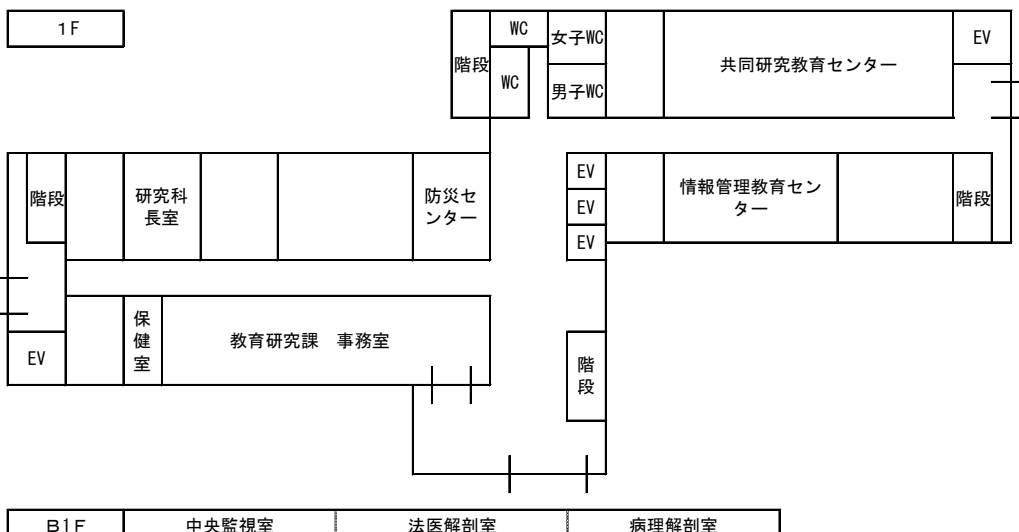
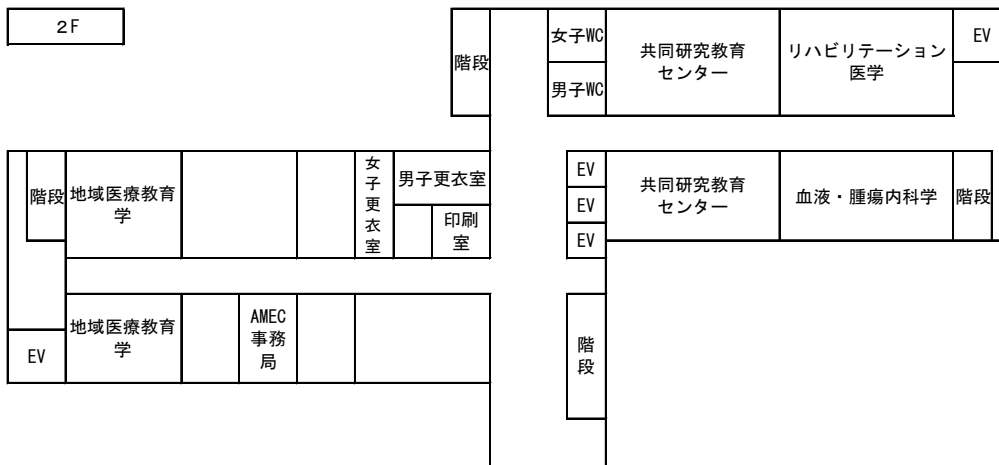
(2) 医学部基礎教育棟



(3) 医学研究棟



10 F	環境労働衛生学	公衆衛生学	麻酔科学・集中治療医学	精神・認知・行動医学
9 F	細菌学	ウイルス学	腎・泌尿器科学	放射線医学
8 F	薬理学	免疫学	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	加齢・環境皮膚科学
7 F	細胞生理学	脳神経生理学	産科婦人科学	視覚科学
6 F	神経生化学	細胞生化学	整形外科科学	脳神経外科学
5 F	実験病態病理学	臨床病態病理学	消化器外科学	腫瘍・免疫外科学
4 F	統合解剖学	機能組織学	循環器内科学	新生児・小児医学
3 F	法医学	神経内科学	心臓血管外科学	消化器・代謝内科学
				呼吸器・免疫・アレルギー内科学



(4) 西棟

3 F												
多目的研修室						階段						
						EV						
階段		倉庫		男子WG					男子WG		階段	
				女子WG					女子WG			
研修室1	研修室2	研修室3	研修室4	研修室5	研修室6	研修室7	研修室8	研修室9	研修室10	研修室11	研修室12	

1 F													
						階段							
						EV							
階段		WG		臨床シミュレーションセンター						WG		階段	
		模擬病室		内視鏡室	超音波・腹腔鏡	研修室 I		周産期・新生児室			多目的室		

2F は、看護学部が使用

2022年度

医学部

臨床実習の手引き

(第4・5・6学年)

名古屋市立大学

名古屋市立大学医学部臨床実習の手引き 目次

1. クリニカルクラークシップ(診療参加型臨床実習)について.....	1
2. 臨床実習の到達目標.....	5
3. 臨床実習資格基準.....	13
(1) 臨床実習参加資格基準	
(2) 進級基準	
4. 実習の記録・評価・振り返りとフィードバック.....	14
(1) ポートフォリオ	
(2) メンター制度	
5. アンプロフェッショナルな評価・態度のみられた学生の評価.....	13
6. 実習スケジュール.....	15
7. 選択制実習について.....	17
(1) 選択制実習	
(2) プライマリ・ケア実習	
8. 実習の注意事項(実習の心得).....	17
9. 実習中の事故について.....	20
10. 院内感染症対策.....	21
(1) 一般感染症対策について	
(2) 針刺し事故・体液暴露等の対応について	
11. 守秘義務および個人情報保護について.....	23
(1) 守秘義務および個人情報保護について	
(2) 患者のインフォームドコンセントについて	
(3) 電子カルテの利用について	
12. 欠席・遅刻の取り扱い.....	24
(1) 病気や忌引き等の理由で実習を欠席・遅刻する場合	
(2) 病院見学で実習を欠席する場合	
(3) 実習欠席時の注意事項	
(4) 連絡先一覧	
13. その他の注意事項.....	27
14. EBM 実践のための UpToDate の活用について.....	27
(1) EBM とは	

(2)UpToDate とは

(3)UpToDate の使用方法

15. 別紙資料・別紙様式	27
16. 各科シラバス(前半必修 : 4 学年 1 月~5 学年 10 月)	29
消化器内科・肝臓内科	
消化器外科	
呼吸器内科	
呼吸器外科	
循環器内科	
心臓血管外科	
脳神経内科	
脳神経外科	
産科婦人科	
小児科・小児外科	
総合内科(コミュニティ・ヘルスケア実習を含む)	
救急科	
放射線科	
医療安全	
感染制御	
病理診断科	
臨床検査科	
17. 各科シラバス(後半必修 : 5 学年 11 月~6 学年 9 月)	29
麻酔科	
薬剤部	
整形外科・リハビリテーション科	
膠原病内科	
血液内科	
口腔外科	
耳鼻咽喉科	
眼科	
小児泌尿器科	
泌尿器科	
腎臓内科	

形成外科
皮膚科
乳腺外科
内分泌糖尿病内科
緩和ケア
痛みセンター
精神科	

18. 各科シラバス(後半選択制 : 5 学年 11 月~6 学年 9 月)..... 29

消化器内科・肝臓内科
内分泌・糖尿病内科
呼吸器内科
リウマチ・膠原病内科
血液・腫瘍内科
循環器内科
腎臓内科
脳神経内科
消化器・一般外科
呼吸器外科
乳腺外科
小児外科
心臓血管外科
整形外科・リハビリテーション科
脳神経外科
小児科
精神科
眼科
産婦人科
耳鼻咽喉科
皮膚科
泌尿器科
放射線科
麻酔科
形成外科

救急科.....

病理 I

1. クリニカルクラークシップ(診療参加型臨床実習)について

(1)趣旨

診療参加型臨床実習は、学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶことを目的としている。診療参加型臨床実習の実施・改善にあたっては、その趣旨が、単なる知識・技師術の習得や診療の経験にとどまらず、実際の患者を相手にした診療業務を通じて、医療現場に立った時に必要とされる診断および治療等に関する思考・対応力を養うことにある点に留意する必要がある。

教育上の主な特徴としては、以下の項目が挙げられる。

- ア. 学生は教科書文献的知識だけでなく現場での思考法(臨床推論、臨床判断、診療計画の立案等)や医療面接、身体診察、基本的臨床手技、診療録その他の文書作成等の技能、診療上や学習上の態度も含めて医師としての能力を総合的に学ぶ。
- イ. 学生が医師としての基本的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶ相手は、広い意味では、患者および医師、看護職などの診療スタッフ全員である。
- ウ. 具体的には、指導医は、患者さんの診療業務のうち学生の能力に応じた役割を任せる。そして、学生の能力向上に応じてより高度な業務を任せることにより、学生は、必要な知識・思考法・技能・態度を段階的に学ぶことができる。

(2)利点

ア. 学生にとっての利点

(ア)知識やその使い方(臨床推論、臨床診断、診療計画の立案等)について

講義形式や机上の自己学習で臨床推論能力を身につけるには、双方向の講義や症例を準備するなどかなりの工夫が必要となる。しかし、臨床実習では、担当患者のデータや診療方針について教科書や文献を調べたり、指導医とディスカッションすることにより、知識や臨床推論能力が自然と身につく。

(イ)技能について

コミュニケーション技能、身体診察技能、基本的臨床手技等については、診療参加型臨床実習の中で、自分で体験することで「できる」ようになる。

(ウ)態度について

患者や患者家族および他の医療職への接し方、自己の職業的能力とその限界に即した行動、助力と助言の受け入れ、自己学習への意欲、医療における倫理的な考え方や行動、社会人として責任ある行動等は、一定の責任を持たされた上で、指導医や看護師等とともに診療に従事し、特に病状説明や回復困難な疾患の説明に同席するなどの実地体験をすることで身に付けることができる。

イ. 指導に関わる医師にとっての利点(特に研修医)

臨床推論等の指導を行うには、別個に双方向授業や小グループ問題基盤型学習法を計画しなくとも、担当患者のデータや診療方針について学生に尋ねるだけでよい。また、学生から尋ねられることや学生に教えることで自己学習が高まる(“Teaching is Learning Twice”)。

ウ. 患者にとっての利点

充分時間をとってベッドサイドに来てくれる学生は、話し相手として歓迎されるだけでなく、医療者との情報伝達役としても役立つ。

(3) 学生が診療業務を行うことの法的位置づけについて

ア 医師法上の位置づけ

診療参加型臨床において、医師でない学生が医行為を行うことについて、医師法上の違法性を阻却する条件を満たす必要がある。

医師法 第17条 医師でなければ、医業をなしてはならない。

医師法上の違法性阻却要件

- ① 侵襲性のそれほど高くない一定の医行為であること
- ② 医学部教育の一貫として指導医によるきめ細やかな指導・監督の下に行われること。
- ③ 事前に医学生の評価を行うこと
- ④ 患者等の同意を得て実施すること

(厚生省「臨床実習検討委員会最終報告」1991年5月13日より抜粋)

なお、令和5年4月1日からは、Student Doctorによる医行為が医師法上に正式に位置付けられる予定である。

※令和5年4月1日施行予定 改正医師法抜粋

第17条 医師でなければ、医業をなしてはならない。

第17条の2 大学において医学を専攻する学生であつて、当該学生が臨床実習を開始する前に修得すべき知識及び技能を有しているかどうかを評価するために大学が共用する試験として厚生労働省令で定めるものに合格したものは、前条の規定にかかわらず、当該大学が行う臨床実習において、医師の指導監督の下に、医師として具有すべき知識及び技能の修得のために医業(政令で定めるものを除く。次条において同じ。)をすることができる。

17条の3 前条第1項の規定により医業をする者は、正当な理由がある場合を除き、その業務上知り得た人の秘密を他に漏らしてはならない。同項の規定により医業をする者でなくなった後についても、同様とする。

第33条の2 第17条の3の規定に違反して、業務上知り得た人の秘密を漏らした者は、六月以下の懲役又は十万円以下の罰金に処する。

イ 学生に許容される医行為の水準

「名古屋市立大学医学部 医学生が実施する医行為一覧」(次頁)を参照。

レベルⅠ 指導医の指導・監督の下で実施が開始されるべき医行為(レベルⅠ)

レベルⅡ 指導医の実施の介助・見学に留めることが推奨される医行為(レベルⅡ)

ウ 患者からの同意書

Student Doctor が臨床実習を行うためには、患者さんの承諾を得ることが必要である。名古屋市立大学病院では、Student Doctor の臨床医学実習に関する説明と同意(別紙資料1)を実施している。

名古屋市立大学医学部 医学生が実施する医行為一覧

分類		担当科/部署			
診察	必須項目 (医師養成の観点から、臨床実習中に 実施が開始されるべき医行為)	診療記録記載 (診療録作成) (※1)	全		
		医療面接	全		
		バイタルサインチェック	全		
		診察法 (全身・各臓器)	全		
		耳鏡・鼻鏡	耳鼻咽喉科		
		眼底鏡	眼科		
		基本的な婦人科診察	産科婦人科		
		乳房診察	乳腺外科		
		直腸診察	消化器外科/消化器内科		
		前立腺触診	泌尿器科		
		高齢者の診察 (ADL評価、高齢者総合機能評価)	リハビリテーション科/整形外科		
		一般手技	必須項目 (医師養成の観点から、臨床実習中に 実施が開始されるべき医行為)	皮膚消毒	外科系/皮膚科
外用薬の貼付、塗布	皮膚科/整形外科				
気道内吸引 (※2)	麻酔科				
ネブライザー	呼吸器・アレルギー内科/呼吸器外科				
静脈採血	中央臨床検査部				
末梢静脈確保 (※2)	救急科				
胃管挿入 (※2)	消化器内科/消化器外科				
尿道カテーテル挿入・抜去 (※2)	泌尿器科				
注射 (皮下・皮内・筋肉・静脈内)	全				
予防接種	小児科/感染制御室				
清潔操作	外科系				
手指消毒 (手術前の手洗い)	外科系				
外科手技	必須項目 (医師養成の観点から、臨床実習中に 実施が開始されるべき医行為)	ガウンテクニック	外科系		
		皮膚縫合	皮膚科/形成外科		
		消毒・ガーゼ交換	皮膚科/外科		
		抜糸	外科系		
		止血処置	外科系		
		手術助手	外科系		
		検査手技	必須項目 (医師養成の観点から、臨床実習中に 実施が開始されるべき医行為)	尿検査	泌尿器科/中央検査部
				血液塗抹標本の作成と観察	中央臨床検査部
				微生物学的検査 (Gram染色含む)	中央臨床検査部
				妊娠反応検査	産科婦人科
				超音波検査 (心血管)	循環器内科/心臓血管外科
				超音波検査 (腹部)	消化器内科/消化器外科/産科婦人科/泌尿器科
心電図検査	循環器内科				
経皮的酸素飽和度モニタリング	呼吸器・アレルギー内科				
病原体抗原の迅速検査	中央臨床検査部				
簡易血糖測定	救急科				
救急(※3)	推奨項目 (医師養成の観点から、臨床実習中に 実施が望ましい医行為)			一時的救命処置	救急科
				気道確保	救急科
		胸骨圧迫	救急科		
		バックバルブマスクによる換気	救急科		
		AED (※2)	救急科		
		治療(※4)	推奨項目 (医師養成の観点から、臨床実習中に 実施が望ましい医行為)	処方薬 (内服薬・注射・点滴など) のオーダー	全
食事指示	全				
安静度指示	全				
定型的な術前・術後管理の指示	外科系				
酸素投与量の調整 (※5)	呼吸器外科				
診療計画の作成	全				
診察	推奨項目 (医師養成の観点から、臨床実習中に 実施が望ましい医行為)	患者・家族への病状の説明	全		
		分娩介助	産科婦人科		
		直腸鏡・肛門鏡	消化器内科/消化器外科		
一般手技	推奨項目 (医師養成の観点から、臨床実習中に 実施が望ましい医行為)	ギプス巻き	整形外科		
		小児からの採血	小児科/小児外科		
		カニューレ交換	耳鼻咽喉科		
外科手技	推奨項目 (医師養成の観点から、臨床実習中に 実施が望ましい医行為)	浣腸	消化器内科		
		膿瘍切開、排膿	皮膚科		
		膿瘍・膿瘍穿刺 (体表)	皮膚科		
		創傷処置	皮膚科		
		熱傷処置	皮膚科		
		検査手技	推奨項目 (医師養成の観点から、臨床実習中に 実施が望ましい医行為)	血液型判定	中央臨床検査部
交差適合試験	中央臨床検査部				
アレルギー検査 (塗布)	皮膚科				
発達テスト、知能テスト、心理テスト	精神科				
救急(※6)	推奨項目 (医師養成の観点から、臨床実習中に 実施が望ましい医行為)	電気ショック	救急科		
		気管挿管	麻酔科		
治療(※7)	推奨項目 (医師養成の観点から、臨床実習中に 実施が望ましい医行為)	固定など整形外科的保存療法	整形外科		
		健康教育	消化器外科/糖尿病内科		

注：指導医が学生の知識や技術が不足していると判断した場合には、実施させないこともあります。十分に事前の学習・調査を行ってください。

- ※1 診療参加型臨床実習実施ガイドライン「学生による診療録記載と文章作成について」を参考に記載する。
- ※2 特にシミュレーターによる習得の後に行うべき。
- ※3 実施機会がない場合には、シミュレーターによる習得でも可。
- ※4 指導医等の確認後に実行される必要がある。
- ※5 酸素投与を実施している患者が対象。
- ※6 実施機会がない場合には、シミュレーターによる習得でも可。
- ※7 指導医等の確認後に実行される必要がある。

(4)臨床実習の概要

学生は4年生1月から臨床実習を開始し、5年生11月までを前半、5年生11月から後半として実習を行う。実習開始時には、臨床実習前講義にて臨床実習に必要な知識や態度を学ぶ。臨床実習中は、前半、後半通してすべての診療科で実習を行う。実習は名市大診療科をはじめ、名市大関連病院にて行い、さまざまな症例に触れることで知見を深めることが可能である。臨床実習終了後には、Post-CC OSCE 試験にて臨床実習の達成度を確認し診療実習終了となる。

時期		内容	
前 半	4年生1月～ 5年生11月	臨床実習前講義	予診の取り方、電子カルテの書き方等
		臨床実習	下記に記す診療科の実習。 消化器内科、肝臓内科、消化器外科、呼吸器内科、 呼吸器外科、循環器内科、心臓血管外科、脳神経内 科、脳神経外科、産婦人科、小児科、小児外科、 救急科、総合内科、放射線科、医療安全・感染制御、 病理・検査
後 半	5年生11月～ 6年生9月	臨床実習	下記に記す診療科の実習。 麻酔科、薬剤部、整形外科、リハビリテーション科、 膠原病内科、血液内科、口腔外科、耳鼻咽喉科、 眼科、泌尿器科、小児泌尿器科、腎臓内科、皮膚科、 形成外科、内分泌糖尿病内科、乳腺外科、精神科、 痛みセンター・緩和ケア部
		選択制臨床実習	希望する診療科、名市大関連実習病院での実習
	6年生9月	プライマリ・ケア実習	クリニック・診療所での実習
	6年生10月	Post-CC OSCE	実技試験

2. 臨床実習の到達目標

(1) 診療の基本（「医師として求められる基本的な資質・能力」より）

ア. プロフェッショナリズム

(ア) 医の倫理と生命倫理

- a. 医学・医療の歴史的な流れとその意味を概説できる。
- b. 臨床倫理や生と死に関わる倫理的問題を概説できる。
- c. ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、医師憲章等医療の倫理に関する規範を概説できる。

(イ) 患者中心の視点

- a. リスボン宣言等に示された患者の基本的権利を説明できる。
- b. 患者の自己決定権の意義を説明できる。
- c. 選択肢が多様な場合でも適切に説明を行い患者の価値観を理解して、患者の自己決定を支援する。
- d. インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの意義と必要性を説明できる。

(ウ) 医師としての責務と裁量権

- a. 診療参加型臨床実習において患者やその家族と信頼関係を築くことができる。
- b. 患者やその家族のもつ価値観や社会的背景が多様であり得ることを認識し、柔軟に対応できる。
- c. 医師が患者に最も適した医療を勧めなければならない理由を説明できる。
- d. 医師には能力と環境により診断と治療の限界があることを説明できる。
- e. 医師の法的義務を列挙し、例示できる。

イ. 医学知識と問題対応能力

(ア) 課題探求・解決能力

- a. 必要な課題を自ら発見できる。
- b. 自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位付けできる。
- c. 課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。
- d. 課題の解決に当たり、他の学修者や教員と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。
- e. 適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。

(イ) 学修の在り方

- a. 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。
- b. 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。
- c. 実験・実習の内容を決められた様式に従って文書と口頭で発表できる。
- d. 後輩等への適切な指導が実践できる。
- e. 各自の興味に応じて選択制カリキュラム(医学研究等)に参加する。

ウ. 診療技能と患者ケア

- a. 病歴(主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活歴、社会歴・職業歴、システムレビュー等)を適切に聴取するとともに患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を行える。

- b. 網羅的に系統立てて適切な順序で効率的な身体診察を行える。異常所見を認識・記録し、適切な鑑別診断が行える。
- c. 基本的な臨床技能(適応、実施方法、合併症、注意点)を理解し、適切な態度で診断や治療を行える。
- d. 診療録(カルテ)についての基本的な知識を修得し、問題志向型医療記録<POMR>形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。
- e. 患者の病状(症状、身体所見、検査所見等)、プロブレムリスト、鑑別診断、臨床経過、治療法の要点を提示し、医療チーム構成員と意見交換ができる。
- f. 緊急を要する病態や疾患・外傷基本的知識を説明できる。診療チームの一員として救急医療に参画できる。
- g. 慢性疾患や慢性疼痛の病態、経過、治療を説明できる。医療を提供する場や制度に応じて、診療チームの一員として慢性期医療に参画できる。
- h. 患者の苦痛や不安感に配慮しながら、就学・就労、育児・介護等との両立支援を含め患者と家族に対して誠実に適切な支援を行える。

エ. コミュニケーション能力

(ア) コミュニケーション

- a. コミュニケーションの方法と技能(言語的と非言語的)を説明し、コミュニケーションが態度あるいは行動に及ぼす影響を概説できる。
- b. コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
- c. 患者・家族の話を傾聴し、共感することができる。

(イ) 患者と医師の関係

- a. 患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。
- b. 患者に分かりやすい言葉で説明できる。
- c. 患者の心理的・社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、問題点を抽出・整理できる。
- d. 医療行為が患者と医師の契約的な信頼関係に基づいていることを説明できる。
- e. 患者の要望(診察・転移・紹介)への対処の仕方を説明できる。
- f. 患者のプライバシーに配慮できる。
- g. 患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。

オ. チーム医療の実践

(ア) 患者中心のチーム医療

- a. チーム医療の意義を説明できる。
- b. 医療チームの構成や各構成員(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職)の役割分担と連携・責任体制を説明し、チームの一員として参加できる。
- c. 自分の能力の限界を認識し、必要に応じて他の医療従事者に援助を求めることができる。
- d. 保健、医療、福祉と介護のチーム連携における医師の役割を説明できる。

カ. 医療の質と安全の管理

(ア) 安全性の確保

- a. 実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に参与していることを具体的に説明できる。
- b. 医療上の事故等を防止するためには、個人の注意力(ヒューマンエラーの防止)はもとより、組織的なリスク管理(制度・組織エラーの防止)が重要であることを説明できる。
- c. 医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や、診療録(カルテ)改竄の違法性を説明できる。
- d. 医療の安全性に関する情報(薬剤等の副作用、薬害、医療過誤(事例や経緯を含む)、やっつけな言い事、優れた取組事例等)を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。
- e. 医療の安全性確保のため、職種・段階に応じた能力向上の必要性を説明できる。
- f. 医療機関における医療安全管理体制の在り方(事故報告書、インシデントレポート、医療事故防止マニュアル、医療廃棄物処理、医療安全管理者(リスクマネージャー)、安全管理委員会、事故調査委員会、医療事故調査制度、産科医療補償制度)を概説できる。7) 医療関連感染症の原因及び回避する方法(院内感染対策委員会、院内感染サーベイランス、院内感染対策チーム(infection control team <ICT> ICT)、感染対策マニュアル等)を概説できる。
- g. 真摯に疑義に応じることができる。

(イ) 医療上の事故等への対処と予防

- a. 医療上の事故等(インシデントを含む)と合併症の違いを説明できる。
- b. 医療上のエラー等(インシデントを含む)が発生したときの緊急処置や記録、報告を説明し、実践できる。
- c. 医療過誤に関連した刑事・民事責任や医師法に基づく行政処分を説明できる。
- d. 基本的予防策(ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセーフ・フールプルーフの考え方等)を概説し、指導医の指導の下に実践できる。

(ウ) 医療従事者の健康と安全

- a. 医療従事者の健康管理(予防接種を含む)の重要性を説明できる。
- b. 標準予防策(standard precautions)の必要性を説明し、実行できる。
- c. 患者隔離が必要な場合を説明できる。
- d. 針刺し事故(針刺し切創)等に遭遇した際の対処の仕方を説明できる。
- e. 医療現場における労働環境の改善の必要性を説明できる。

キ. 社会における医療の実践

(ア) 地域医療への貢献

- a. 域社会(離島・へき地を含む)における医療の状況、医師の偏在(地域、診療科及び臨床・非臨床)の現状を概説できる。
- b. 医療計画(医療圏、基準病床数、地域医療支援病院、病診連携、病病連携、病院・診療所・薬局の連携等)及び地域医療構想を説明できる。
- c. 地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における保健(母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、地域保健、精神保健)・医療・福祉・介護の分野間及び多職種間の連携の必要性を説明できる。
- d. かかりつけ医等の役割や地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を獲得する。

- e. 地域における救急医療、在宅医療及び離島・へき地医療の体制を説明できる。
- f. 災害医療(災害時保健医療、医療救護班、災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team <DMAT>DMAT)、災害派遣精神医療チーム Disaster Psychiatric Assistance Team <DPAT>DPAT)、日本医師会災害医療チーム Japan Medical Association Team <JMAT>JMAT)、災害拠点病院、トリアージ等)を説明できる。
- g. 地域医療に積極的に参加・貢献する。

(イ) 国際医療への貢献

- a. 患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語に対応することができる。
- b. 地域医療の中での国際化を把握し、価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮することができる。
- c. 保健、医療に関する国際的課題を理解し、説明できる。
- d. 日本の医療の特徴を理解し、国際社会への貢献の意義を理解している。
- e. 医療に関わる国際協力の重要性を理解し、仕組みを説明できる。

ク. 科学的探究

(ア) 医学研究への志向の涵養

- a. 研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを説明できる。
- b. 生命科学の講義・実習で得た知識を基に、診療で経験した病態の解析ができる。
- c. 患者や疾患の分析を基に、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。
- d. 抽出した医学・医療情報から新たな仮説を設定し、解決に向けて科学研究(臨床研究、疫学研究、生命科学研究等)に参加することができる。

ケ. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

(ア) 生涯学習への準備

- a. 生涯学習の重要性を説明できる。
- b. 生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。
- c. キャリア開発能力を獲得する。
- d. キャリアステージにより求められる能力に異なるニーズがあることを理解する。
- e. 臨床実習で経験したことを省察し、自己の課題を明確にする。

(2) 臨床実習で学生を信頼し任せられる役割(EPA : Entrustable Professional Activities)

実習を振り返って、「経験なし、見学、手伝い、実践(指導医の直接監視が必要)、実践(指導医の直接検視は不要)」のどの段階かを記録する。

- a. 病歴を聴取して身体診察を行う。
- b. 鑑別診断を想定する。
- c. 基本的な検査の結果を解釈する。
- d. 処方を計画する。
- e. 診療録(カルテ)を記載する。
- f. 患者の状況について口頭でプレゼンテーションする。
- g. 臨床上的問題を明確にしてエビデンスを収集する。
- h. 患者さんの申し送りを行う・受け取る。
- i. 多職種チームで協働する。
- j. 緊急性の高い患者の初期対応を行う。
- k. インフォームド・コンセントを得る。
- l. 基本的臨床手技を実施する。
- m. 組織上の問題の同定と改善を通して医療安全に貢献する。

(3) 臨床推論

以下の症候・病態ごとに、想定すべき鑑別診断を想定できるようになること。臨床推論では可能性のある病態から疾患を導き出すプロセスが重要であり、原因疾患を単純に暗記することを期待しているわけではない。

発熱、全身倦怠感、食思(欲)不振、体重減少・体重増加、ショック、心停止、意識障害・失神、けいれん、めまい、脱水、浮腫、発疹、咳・痰、血痰・喀血、呼吸困難、胸痛、動悸、胸水、嚥下困難・障害、腹痛、悪心・嘔吐、吐血・下血、便秘・下痢、黄疸、腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘤、貧血、リンパ節腫脹、尿量・排尿の異常、血尿・タンパク尿、月経異常、不安・抑うつ、もの忘れ、頭痛、運動麻痺・筋力低下、腰背部痛、関節痛・関節腫脹、外傷・熱傷

(4) 基本的臨床手技

実習を振り返って、「経験なし、見学、手伝い、実践(指導医の直接監視が必要)、実践(指導医の直接検視は不要)」のどの段階かを記録する。

ア. 一般手技

- a. 体位交換、移送ができる。
- b. 皮膚消毒ができる。
- c. 外用薬の貼付・塗布ができる。
- d. 気道内吸引、ネブライザーを実施できる。
- e. 静脈採血を実施できる。
- f. 末梢静脈の血管確保を実施できる。
- g. 中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助する。
- h. 動脈血採血・動脈ラインの確保を見学し、介助する。
- i. 腰椎穿刺を見学し、介助する。
- j. 胃管の挿入と抜去ができる。
- k. 尿道カテーテルの挿入と抜去を実施できる。
- l. ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助する。
- m. 注射(皮内、皮下、筋肉、静脈内)を実施できる。
- n. 全身麻酔、局所麻酔、輸血を見学し、介助する。
- o. 眼球に直接触れる治療を見学し、介助する。
- p. 診療録(カルテ)を作成する。
- q. 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

イ. 検査手技

- a. 尿検査(尿沈渣を含む)を実施できる。
- b. 末梢血塗抹標本を作成し、観察できる。
- c. 微生物学検査(Gram 染色を含む)を実施できる。
- d. 妊娠反応検査を実施できる。
- e. 血液型判定を実施できる。
- f. 視力、視野、聴力、平衡機能検査を実施できる。
- g. 12誘導心電図を記録できる。
- h. 脳波検査の記録ができる。
- i. 眼球に直接触れる検査を見学し、介助する。
- j. 心臓、腹部の超音波検査を実施できる。
- k. 経皮的酸素飽和度を測定できる。
- l. エックス線撮影、CT、MRI、核医学検査、内視鏡検査を見学し、介助する。

ウ. 外科手技

- a. 無菌操作を実施できる。
- b. 手術や手技のための手洗いができる。
- c. 手術室におけるガウンテクニックができる。
- d. 基本的な縫合と抜糸ができる。
- e. 創の消毒やガーゼ交換ができる。
- f. 手術、術前・術中・術後管理を見学し、介助する。

エ. 救命処置

- a. 身体徴候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる。
- b. 一次救命処置を実施できる。
- c. 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

(5) 各診療科での臨床実習

各分野が担当する授業細目ごとの記載を参照

※(1)～(5)医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)より抜粋、一部改変

3. 臨床実習等資格基準

(1) 名古屋市立大学医学部 臨床実習資格基準

次の基準をすべて満たしていること。

ア. 履修規程で定められた4年生までの教養、専門科目を全て履修していること。

イ. 共用試験OSCE、CBTに合格していること。

ウ. 必要な感染症対策を行っていること。

次の感染症の抗体検査を受け、実習開始までに抗体のないものについては必要な予防接種を受けていること。(接種の記録を大学へ提出すること)

B型肝炎、麻疹、風疹、水痘、ムンプス

また、結核についてはT-SPOTを受けること。

このうち、B型肝炎抗体検査・T-SPOT は大学で実施する。

エ. 学生賠償責任保険に加入していること。

(2017.02.28 医学部教授会決定)

(2021.12.14 医学部教授会決定)

(2) 名古屋市立大学医学部 5年次から6年次への進級基準

次の基準をすべて満たしていること。

ア. 臨床実習前半の診療科をすべて合格していること

イ. 「アンプロフェッショナルな評価・態度のみられた学生の評価と対応」により原級留置との評価を受けていないこと

原級留置となった場合は、下級学年の1月より、臨床実習前半の実習をやり直す。

(2021.12.14 医学部教授会決定)

4. 実習の記録・評価・振り返りとフィードバック

(1) ポートフォリオ

ポートフォリオとは、「学修の評価と記録」であり、学生の学びやそれに対する評価の過程を記録し、振り返りを行うためのツールである。毎日の実習をポートフォリオに記録し、自己評価や教員からの他者評価を受けることで、臨床実習目標の達成度を確認することが可能となる。日々の実習の出来事は積極的に記録に残し、学びの糧となるようにしてほしい。

ポートフォリオについては、別冊「名古屋市立大学医学部 臨床実習 学修と評価の記録」を参照すること。

(2) メンター制度

メンター制度は、学生が卒業時到達目標に掲げられた能力や行動を確実に習得することを目的とした制度である。メンターとは、「臨床実習の相談役」として学生の臨床実習状況を確認・指導しながらサポートをする臨床系教員を指す。学生 1～2 名に対し 1 名のメンターが担当となり、定期的に面談を実施することで臨床実習の習得状況を確認する。また、臨床実習以外でも不安に思うこと等があれば、随時面談を行うことも可能である。

メンター制度については、別冊「名古屋市立大学医学部 臨床実習 学修と評価の記録」を参照すること。

5. アンプロフェッショナルな評価・態度のみられた学生の評価

臨床実習中にアンプロフェッショナルと思われる事例が生じた場合、指導医は「アンプロフェッショナルな行動・態度」をした学生の報告を行うことができる。アンプロフェッショナルな学生は、必要に応じて面談等を実施する。(別紙資料 2)

6. 実習スケジュール

(1)2022 年度 M5 スケジュール(2022 年 1 月～2022 年 11 月)

2022年1月～22年10月 M4・M5臨床実習日程																				
2022年1月～22年10月 (臨床実習前半 4年次1～3月、5年次4～10月)																				
							実習 日数	肝 臓 内 科	消 化 器 外 科	呼 吸 器 外 科	心 臓 血 管 外 科	脳 神 經 外 科	産 婦 人 科	小 児 外 科	救 急 内 科	病 疫 放 療 安 射 ・ 感 染 検 査 御 料 科				
		月	火	水	木	金		科	科	科	科	科	科	科	科	科				
01/03	～	01/07	01/03	01/04	01/05	01/06	01/07	4	A	B	C	D2	D1	E1	E2	F	G	H1	H2	I
01/10	～	01/14	01/10	01/11	01/12	01/13	01/14	4	A	B	C	D2	D1	E1	E2	F	G	H1	H2	I
01/17	～	01/21	01/17	01/18	01/19	01/20	01/21	5	A	B	C	D1	D2	E2	E1	F	G	H2	H1	I
01/24	～	01/28	01/24	01/25	01/26	01/27	01/28	5	A	B	C	D1	D2	E2	E1	F	G	H2	H1	I
01/31	～	02/04	01/31	02/01	02/02	02/03	02/04	5	I	A	B	C2	C1	D1	D2	E	F	G1	G2	H
02/07	～	02/11	02/07	02/08	02/09	02/10	02/11	4	I	A	B	C2	C1	D1	D2	E	F	G1	G2	H
02/14	～	02/18	02/14	02/15	02/16	02/17	02/18	5	I	A	B	C1	C2	D2	D1	E	F	G2	G1	H
02/21	～	02/25	02/21	02/22	02/23	02/24	02/25	4	I	A	B	C1	C2	D2	D1	E	F	G2	G1	H
02/28	～	03/04	02/28	03/01	03/02	03/03	03/04	5	H	I	A	B2	B1	C1	C2	D	E	F1	F2	G
03/07	～	03/11	03/07	03/08	03/09	03/10	03/11	5	H	I	A	B2	B1	C1	C2	D	E	F1	F2	G
03/14	～	03/18	03/14	03/15	03/16	03/17	03/18	5	H	I	A	B1	B2	C2	C1	D	E	F2	F1	G
03/21	～	03/25	03/21	03/22	03/23	03/24	03/25	4	春季休業											
03/28	～	04/01	03/28	03/29	03/30	03/31	04/01	5	H	I	A	B1	B2	C2	C1	D	E	F2	F1	G
04/04	～	04/08	04/04	04/05	04/06	04/07	04/08	5	G	H	I	A2	A1	B1	B2	C	D	E1	E2	F
04/11	～	04/15	04/11	04/12	04/13	04/14	04/15	5	G	H	I	A2	A1	B1	B2	C	D	E1	E2	F
04/18	～	04/22	04/18	04/19	04/20	04/21	04/22	5	G	H	I	A1	A2	B2	B1	C	D	E2	E1	F
04/25	～	04/29	04/25	04/26	04/27	04/28	04/29	4	G	H	I	A1	A2	B2	B1	C	D	E2	E1	F
05/02	～	05/06	05/02	05/03	05/04	05/05	05/06	2	GW											
05/09	～	05/13	05/09	05/10	05/11	05/12	05/13	5	F	G	H	I2	I1	A1	A2	B	C	D1	D2	E
05/16	～	05/20	05/16	05/17	05/18	05/19	05/20	5	F	G	H	I2	I1	A1	A2	B	C	D1	D2	E
05/23	～	05/27	05/23	05/24	05/25	05/26	05/27	5	F	G	H	I1	I2	A2	A1	B	C	D2	D1	E
05/30	～	06/03	05/30	05/31	06/01	06/02	06/03	5	F	G	H	I1	I2	A2	A1	B	C	D2	D1	E
06/06	～	06/10	06/06	06/07	06/08	06/09	06/10	5	E	F	G	H2	H1	I1	I2	A	B	C1	C2	D
06/13	～	06/17	06/13	06/14	06/15	06/16	06/17	5	E	F	G	H2	H1	I1	I2	A	B	C1	C2	D
06/20	～	06/24	06/20	06/21	06/22	06/23	06/24	5	E	F	G	H1	H2	I2	I1	A	B	C2	C1	D
06/27	～	07/01	06/27	06/28	06/29	06/30	07/01	5	E	F	G	H1	H2	I2	I1	A	B	C2	C1	D
07/04	～	07/08	07/04	07/05	07/06	07/07	07/08	5	D	E	F	G2	G1	H1	H2	I	A	B1	B2	C
07/11	～	07/15	07/11	07/12	07/13	07/14	07/15	5	D	E	F	G2	G1	H1	H2	I	A	B1	B2	C
07/18	～	07/22	07/18	07/19	07/20	07/21	07/22	4	D	E	F	G1	G2	H2	H1	I	A	B2	B1	C
07/25	～	07/29	07/25	07/26	07/27	07/28	07/29	5	D	E	F	G1	G2	H2	H1	I	A	B2	B1	C
08/01	～	08/05	08/01	08/02	08/03	08/04	08/05		夏季休業											
08/08	～	08/12	08/08	08/09	08/10	08/11	08/12		夏季休業											
08/15	～	08/19	08/15	08/16	08/17	08/18	08/19		夏季休業											
08/22	～	08/26	08/22	08/23	08/24	08/25	08/26		夏季休業											
08/29	～	09/02	08/29	08/30	08/31	09/01	09/02	5	C	D	E	F2	F1	G1	G2	H	I	A1	A2	B
09/05	～	09/09	09/05	09/06	09/07	09/08	09/09	5	C	D	E	F2	F1	G1	G2	H	I	A1	A2	B
09/12	～	09/16	09/12	09/13	09/14	09/15	09/16	5	C	D	E	F1	F2	G2	G1	H	I	A2	A1	B
09/19	～	09/23	09/19	09/20	09/21	09/22	09/23	3	C	D	E	F1	F2	G2	G1	H	I	A2	A1	B
09/26	～	09/30	09/26	09/27	09/28	09/29	09/30	5	B	C	D	E2	E1	F1	F2	G	H	I1	I2	A
10/03	～	10/07	10/03	10/04	10/05	10/06	10/07	5	B	C	D	E2	E1	F1	F2	G	H	I1	I2	A
10/10	～	10/14	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14	4	B	C	D	E1	E2	F2	F1	G	H	I2	I1	A
10/17	～	10/21	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	5	B	C	D	E1	E2	F2	F1	G	H	I2	I1	A

(2)2022 年度 M6 スケジュール(2021 年 11 月～2022 年 9 月)

2021年1月～2022年 M5・M6臨床実習日程																					
2021年11月～22年9月(臨床実習後半 5年次11月～3月、6年次4月～9月)																					
2021年		月	火	水	木	金	薬麻 剤酔 部科	リ整 ハ形 ビ外 リ科	膠 原 病 内 科	血 液 内 科	口 腔 外 科	耳 鼻 咽 科	眼 科	小 児 泌 尿 器 科	腎 臓 内 科	形 皮 成 膚 科	乳 腺 外 科	内 分 泌 糖 尿 病 科	緩 和 ケ ア 部 門	精 神 科	臨 選 床 実 習 制
11/15	～	11/19	11/15	11/16	11/17	11/18	11/19	A	B	C2	C1	D2	D1	E	F	G2	G1	H2	H1	I	
11/22	～	11/26	11/22	11/23	11/24	11/25	11/26	A	B	C2	C1	D2	D1	E	F	G2	G1	H2	H1	I	
11/29	～	12/03	11/29	11/30	12/01	12/02	12/03	A	B	C1	C2	D1	D2	E	F	G1	G2	H1	H2	I	
12/06	～	12/10	12/06	12/07	12/08	12/09	12/10	A	B	C1	C2	D1	D2	E	F	G1	G2	H1	H2	I	
12/13	～	12/17	12/13	12/14	12/15	12/16	12/17	I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F2	F1	G2	G1	H	
12/20	～	12/24	12/20	12/21	12/22	12/23	12/24	冬季休業													
12/27	～	12/31	12/27	12/28	12/29	12/30	12/31	I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F2	F1	G2	G1	H	
01/03	～	01/07	01/03	01/04	01/05	01/06	01/07	I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F2	F1	G2	G1	H	
01/10	～	01/14	01/10	01/11	01/12	01/13	01/14	I	A	B1	B2	C1	C2	D	E	F1	F2	G1	G2	H	
01/17	～	01/21	01/17	01/18	01/19	01/20	01/21	I	A	B1	B2	C1	C2	D	E	F1	F2	G1	G2	H	
01/24	～	01/28	01/24	01/25	01/26	01/27	01/28	H	I	A2	A1	B2	B1	C	D	E2	E1	F2	F1	G	
01/31	～	02/04	01/31	02/01	02/02	02/03	02/04	H	I	A2	A1	B2	B1	C	D	E2	E1	F2	F1	G	
02/07	～	02/11	02/07	02/08	02/09	02/10	02/11	H	I	A1	A2	B1	B2	C	D	E1	E2	F1	F2	G	
02/14	～	02/18	02/14	02/15	02/16	02/17	02/18	H	I	A1	A2	B1	B2	C	D	E1	E2	F1	F2	G	
02/21	～	02/25	02/21	02/22	02/23	02/24	02/25	G	H	I2	I1	A2	A1	B	C	D2	D1	E2	E1	F	
02/28	～	03/04	02/28	03/01	03/02	03/03	03/04	G	H	I2	I1	A2	A1	B	C	D2	D1	E2	E1	F	
03/07	～	03/11	03/07	03/08	03/09	03/10	03/11	G	H	I1	I2	A2	A1	B	C	D1	D2	E2	E1	F	
03/14	～	03/18	03/14	03/15	03/16	03/17	03/18	G	H	I1	I2	A2	A1	B	C	D1	D2	E2	E1	F	
03/21	～	03/25	03/21	03/22	03/23	03/24	03/25	春季休業													
03/28	～	04/01	03/28	03/29	03/30	03/31	04/01	3/31 4/1 総合客観試験1													
04/04	～	04/08	04/04	04/05	04/06	04/07	04/08	F	G	H2	H1	I2	I1	A	B	C2	C1	D2	D1	E	
04/11	～	04/15	04/11	04/12	04/13	04/14	04/15	F	G	H2	H1	I2	I1	A	B	C2	C1	D2	D1	E	
04/18	～	04/22	04/18	04/19	04/20	04/21	04/22	F	G	H1	H2	I1	I2	A	B	C1	C2	D1	D2	E	
04/25	～	04/29	04/25	04/26	04/27	04/28	04/29	F	G	H1	H2	I1	I2	A	B	C1	C2	D1	D2	E	
05/02	～	05/06	05/02	05/03	05/04	05/05	05/06	GW													
05/09	～	05/13	05/09	05/10	05/11	05/12	05/13	E	F	G2	G1	H2	H1	I	A	B2	B1	C2	C1	D	
05/16	～	05/20	05/16	05/17	05/18	05/19	05/20	E	F	G2	G1	H2	H1	I	A	B2	B1	C2	C1	D	
05/23	～	05/27	05/23	05/24	05/25	05/26	05/27	E	F	G1	G2	H1	H2	I	A	B1	B2	C1	C2	D	
05/30	～	06/03	05/30	05/31	06/01	06/02	06/03	E	F	G1	G2	H1	H2	I	A	B1	B2	C1	C2	D	
06/06	～	06/10	06/06	06/07	06/08	06/09	06/10	D	E	F2	F1	G2	G1	H	I	A2	A1	B2	B1	C	
06/13	～	06/17	06/13	06/14	06/15	06/16	06/17	D	E	F2	F1	G2	G1	H	I	A2	A1	B2	B1	C	
06/20	～	06/24	06/20	06/21	06/22	06/23	06/24	D	E	F1	F2	G1	G2	H	I	A1	A2	B1	B2	C	
06/27	～	07/01	06/27	06/28	06/29	06/30	07/01	D	E	F1	F2	G1	G2	H	I	A1	A2	B1	B2	C	
07/04	～	07/08	07/04	07/05	07/06	07/07	07/08	C	D	E2	E1	F2	F1	G	H	I2	I1	A2	A1	B	
07/11	～	07/15	07/11	07/12	07/13	07/14	07/15	C	D	E2	E1	F2	F1	G	H	I2	I1	A2	A1	B	
07/18	～	07/22	07/18	07/19	07/20	07/21	07/22	C	D	E1	E2	F1	F2	G	H	I1	I2	A1	A2	B	
07/25	～	07/29	07/25	07/26	07/27	07/28	07/29	C	D	E1	E2	F1	F2	G	H	I1	I2	A1	A2	B	
08/01	～	08/05	08/01	08/02	08/03	08/04	08/05	夏季休業													
08/08	～	08/12	08/08	08/09	08/10	08/11	08/12														
08/15	～	08/19	08/15	08/16	08/17	08/18	08/19														
08/22	～	08/26	08/22	08/23	08/24	08/25	08/26	8/26 総合客観試験1再試													
08/29	～	09/02	08/29	08/30	08/31	09/01	09/02	B	C	D2	D1	E2	E1	F	G	H2	H1	I2	I1	A	
09/05	～	09/09	09/05	09/06	09/07	09/08	09/09	B	C	D2	D1	E2	E1	F	G	H2	H1	I2	I1	A	
09/12	～	09/16	09/12	09/13	09/14	09/15	09/16	B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	H1	H2	I1	I2	A	
09/19	～	09/23	09/19	09/20	09/21	09/22	09/23	B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	H1	H2	I1	I2	A	
09/26	～	09/30	09/26	09/27	09/28	09/29	09/30	プライマリ・ケア													
10/03	～	10/07	10/03	10/04	10/05	10/06	10/07	10/8 Post-CC OSCE													
10/10	～	10/14	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14														
10/17	～	10/21	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	社会医学													
10/24	～	10/28	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28														
10/31	～	11/04	10/31	11/01	11/02	11/03	11/04	11/5 Post-CC OSCE追再試													
11/07	～	11/11	11/07	11/08	11/09	11/10	11/11	本試験 11/10・11 総合客観試験2													
11/14	～	11/18	11/14	11/15	11/16	11/17	11/18														
11/21	～	11/25	11/21	11/22	11/23	11/24	11/25														
11/28	～	12/02	11/28	11/29	11/30	12/01	12/02														
12/05	～	12/09	12/05	12/06	12/07	12/08	12/09														
12/12	～	12/16	12/12	12/13	12/14	12/15	12/16	12/16 総合客観試験2再試													
12/19	～	12/23	12/19	12/20	12/21	12/22	12/23														
12/26	～	12/30	12/26	12/27	12/28	12/29	12/30														
01/02	～	01/06	01/02	01/03	01/04	01/05	01/06														
01/09	～	01/13	01/09	01/10	01/11	01/12	01/13														
01/16	～	01/20	01/16	01/17	01/18	01/19	01/20														

7. 選択制実習について

(1) 選択制実習

ア. 概要・目的

選択制実習は希望する診療科を4週間で回るものである。実習スケジュールに選択制実習の期間が組み込まれており、選択制実習の実施期間はグループによって異なる。(実習スケジュール参照)実習先は名古屋市立大学医学部附属病院をはじめ、学生の希望する医療機関で実施できるものとする。

※実習先の希望は、「選択制実習希望調査票」により行うものとする

イ. 選択方法

4週間の選択は以下の通りである。

- a. 1週間毎に診療科および医療機関の選択が出来る
(4週間同じ診療科・医療機関の選択も出来る)
- b. この「手引き」に示された基礎医学講座を選択することも出来る
- c. 選択制実習マニュアルに記載のある施設およびオーストラリア・ニューサウスウェールズ大学での実習、また、個人で用意した海外の他施設での臨床実習も必要書類が揃えば認められる。
(国内での臨床実習プログラムについての取り扱い、海外での臨床実習プログラムについての取り扱いの項参照)
- d. 選択制臨床実習の受け入れ人数を超えたときは、各科に増員の可能性を問い、それでも超過する場合は学生間で調整する。

ウ. 国内での臨床実習プログラムについての取り扱い(学生個人が希望する場合)

別紙資料3を参照のこと。

エ. 海外での臨床実習プログラムについての取り扱い(学生個人が希望する場合)

別紙資料4を参照のこと。新型コロナウイルス感染症の状況により、今年度は中止となる場合がある。

(2) プライマリ・ケア実習

ア. 概要・目的

プライマリ・ケア実習は選択制実習とは別に、開業医にて実習を行うものである。学生は希望する診療科のクリニックにて2日間の実習を行う。設定された期間内のいずれか2日間で実施する。

イ. 選択方法

- a. 学生は診療科の希望を第1～第3希望まで出すことが出来る
- b. 学生と実習先とのマッチングは事務で行う。
- c. 実習先の受け入れ人数によっては、学生の希望に添えないこともある。
- d. 実習参加にあたっては、別紙様式1の自己紹介票を提出すること

8. 実習の注意事項(実習の心得)

実習は名古屋市立大学病院医学部附属病院(以下、名市大病院と記す)学外病院にて行う。

実習に参加するにあたっては下記事項に十分留意すること。

- ・患者の個人情報はこちらを漏洩してはならない。
- ・医師としてふさわしい身なりと言動に留意する。
- ・社会では、長幼と職能に基づく毅然とした序列があり、病院においても例外ではない。
学生は若く、職能もないことを認識し、序列をわきまえた態度と言動に留意する。
- ・患者とのいさかいは、いかなる理由があろうとも禁止する。
- ・医療従事者を含む病院職員は患者からの信頼を得るために、厳しい規律に従って働いている。
患者は、学生であっても院内にいれば、医療従事者としてみなす。学生が学生の理論を持ち込み、この規律を乱してはならない。
- ・患者からの質問については、患者の話を親身になって聞く態度が大切である。質問に対しては、学生である身分をあきらかにし、立場を説明して、担当医に尋ねることを患者に勧める。癌の告知など患者の誘導尋問に注意する。
- ・指導医に、報告、連絡、相談を欠かさないのが大原則であり、常に念頭において行動する。
- ・学外臨床実習は関連病院の厚意で成り立つものであり、誠意ある態度で望み、迷惑をかけるようなことがあってはならない。

(1)実習時間

実習時間は各診療科のスケジュールを参照すること。学外病院で実習の場合は、実習先病院が指定する時間に従うこと。

(2)服装

清潔な白衣を着用すること。

学生は、患者さんと信頼関係を結ぶことが医師よりも難しいため、医師よりも厳しい基準で、頭髪、爪、靴、メイクなどに十分留意すること。

(3)Student Doctor 認定証

実習中は常に身につけること。学外病院については、各病院の規律に従う。

Student Doctor 認定証は紛失しないよう管理には十分気を付けること。

(4)昼食

名市大病院食堂にて食事をとる場合は、職員割引が利用できる。食堂は一般の患者さんも利用するため、不用意な言動等を慎むよう気を付けること。

学外病院で食事をとる場合は各病院の規律に従うこと。

(5) 当直

当該科での当直が学習に有効と判断され、学生が希望する場合に限り副直として行う。当直室などは病院の規律に従う。当直についてはその都度指導医が学生の意見を参考として設定する。

(6) 提出物(学外実習の場合)

学外病院で実習の場合、誓約書・健康観察票等書類の提出を求められることがある。提出書類について事前に確認し、提出漏れがないよう注意すること。

(7) 交通手段(学外実習の場合)

学外病院で実習の場合、移動には公共交通機関を使うことを原則とする。ただし、合理的理由があり、受入病院の許可があれば、自家用車の使用も可能である。病院での駐車については、病院が許可した場合のみ可能である。駐車場の有無は各病院の資料に記載されている。

その他、交通手段について各病院の規則があればそれに従う。

(8) 宿泊について

学外病院で実習の場合、実習期間および実習前日に、学外病院が提供する宿泊場所に宿泊することができる。ただし、すべての学外病院が宿泊に対応しているわけではない点を留意すること。学生は実習先決定後、宿泊希望を出し、事務より一括して宿泊手続きを行うものとする。

(9) 健康診断

健康管理のため、学外臨床実習を行うものは学年初めの健康診断は必ず受けることを義務とする。内容は、胸部 X 線写真、心電図、尿検査、血圧計測、視力検査等である。

(10) 電子カルテの利用について

電子カルテは実習に必要不可欠であるため、実習期間中は電子カルテの閲覧が可能となる。総合内科は実習期間を通して、診療科は各診療科の該当の実習期間のみ閲覧可能である。

電子カルテの閲覧にはパスワードが必要であるが、パスワードがわからなくなった場合は、医事課情報システム係(名古屋市立大学病院病院 3 階)で仮パスワードの再発行手続きが可能である。その際、顔写真付きの身分証(原本)を必ず持参すること。

9. 実習中の事故について

(1) 学生本人の場合

学生本人が受傷する事故が発生した場合、速やかに指導教員へ報告し指示を仰ぐ。事故に附随して発生する費用については、学生本人が負担する場合がある。しかし、学生本人が加入する保険によって賄われる可能性があるため、必要であれば各自で申請を行うこと。

(2) 医療事故

万一、事故が発生した場合、学生は速やかに指導教員へ報告を行い、指示を仰ぐ。患者に対する賠償責任補償については、指導医が加入する医師賠償責任保険もしくは学生が加入する保険等により賄われる可能性がある。各自加入している保険の補償範囲を確認するとともに、必要に応じ申請等の手続きを行うこと。

10. 院内感染症対策

(1) 一般感染症対策について

CDC(米国・疾病予防管理センター)の標準予防策、または名古屋市立大学病院および実習先各病院の感染予防マニュアルに従う。

(2) 針刺し事故・体液暴露等の対応について

針刺し事故・体液暴露が発生した場合、下記の通りに対応する。

ア. 学内実習

a. 針刺し・切創、血液曝露対応

- ・ 患者の感染症の有無に関わらず直ちに流水下で十分に洗い流す
- ・ 当事者は①診療科の担当者と②教育研究課事務担当(内線 8545)へ報告する
- ・ ①診療科担当者は感染制御室(内線 7493)へ報告する
- ・ 感染制御室は院内感染管理マニュアルのVI「針刺し・切創による血液・体液曝露時における対応」、または電子カルテから【病院ニュース】→【診療科・部門 INDEX】→【感染制御室】→【届出・資料】→【針刺し・切創による血液・体液曝露時における対応】に沿って対応する
- ・ 受診が必要となる場合、当事者は②教育研究科事務担当へ再度報告し、必要な手続きをしてから受診をする

b. 感染症発症時の対応

- ・ 実習期間に「感染制御室へ報告が必要な感染症」(表 1)に罹患した場合には、感染制御室へ報告する
- ・ 感染制御室は院内感染管理マニュアルの「病態別・微生物対応」のそれぞれの項目、または電子カルテ内の「新型コロナウイルス感染症の対応」に沿って対応をする
- ・ 実習の継続・再開に関しては職員の就労制限・再開に準ずる

表 1 感染制御室へ報告が必要な感染症

【接触感染する病原体】 麻疹 水痘 播種性帯状疱疹(汎発性帯状疱疹) ノロウイルス感染症 流行性角結膜炎 咽頭結膜炎 疥癬
【飛沫感染する病原体】 風疹 流行性耳下腺炎(ムンプス) インフルエンザ マイコプラズマ肺炎 百日咳
【空気感染する病原体】 結核 麻疹 水痘 播種性帯状疱疹(汎発性帯状疱疹)
【接触・飛沫・エアロゾル感染する病原体】 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

c. 院内感染対策

- ・ 院内ではすべての患者に対して標準予防策を実施して対応する
- ・ 「経路別予防策が必要な感染症」(表2)に該当する病原体が検出されている患者へ対応する場合には、標準予防策に加え経路別予防策を実施して対応する

※標準予防策…患者の感染症の有無に関わらず、血液・汗を除く体液、排泄物、傷のある皮膚、粘膜は感染のリスクがあると考えて対応する予防策

※経路別予防策…標準予防策だけでは防ぐことができない高い伝播性、または疫学的に重要な病原体の感染や保菌が証明されている場合に標準予防策に加えて実施する予防策

イ. 学外実習

学外病院で針刺し事故・体液暴露が発生した場合、医療上の対応は各病院の規律に従う。事故後の検査等費用が発生した場合、学生本人が費用を負担する。なお、学生は保険(医学生教育研究賠償責任保険)の申請を行うことで、費用の補助が受けられる場合がある。加入している保険について確認のうえ、申請手続きについて本学学生課学生支援係へ相談すること。

体の感染や保菌が証明されている場合に標準予防策に加えて実施する予防策

表2 経路別予防策が必要な感染症

	対象疾患・病原体	個人防護具の使用
接触予防策	薬剤耐性菌 (MRSA VRSA VRE MDRA MDRP CRE カルバペネマーゼ産生菌 ESBL 産生菌 AmpC 産生菌) 麻疹 水痘 播種性帯状疱疹(汎発性帯状疱疹) 感染性腸炎(ノロウイルス ロタウイルス 腸管出血性大腸菌) C.difficile 感染症 流行性角結膜炎 疥癬	・患者自身や患者周囲の環境に接触する場合には手袋、エプロン(長袖ガウン) ・喀痰からの検出など飛沫感染も考えられる場合にはサージカルマスク
飛沫予防策	風疹 流行性耳下腺炎(ムンプス) インフルエンザ 百日咳 マイコプラズマ肺炎	・1~2m以内で接触する場合にはサージカルマスク、ゴーグル
空気予防策	結核 麻疹 水痘 播種性帯状疱疹(汎発性帯状疱疹)	・入室する場合には N95 マスク
接触・飛沫・エアロゾル感染	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	・入室する場合には手袋、長袖ガウン、サージカルマスク、ゴーグル ・エアロゾル感染のリスクがある場合は N95 マスク

(2021.9 名古屋市立大学感染制御室)

11. 守秘義務および個人情報保護について

(1) 守秘義務および個人情報保護について

実習で知りえた情報は決して漏洩することのないよう十分に注意すること。病院内であっても、不特定多数の第三者がいる場では患者の情報交換を行うことのないようにし、個人情報保護に努めなければならない。特に、ソーシャルメディアの利用にあたっては別紙資料 2 の通りに定めているので、よく読んでおくこと。

(2) 患者のインフォームドコンセントについて

Student Doctor が臨床実習を行うには、患者の同意が必要である。本学では、初診時に、学生が診療に参加することへの包括同意を取得し(別紙資料 3)電子カルテに同意の有無を記載している。学生は包括同意が取られているか都度確認し実習に当たること。また、学生が診療チームに加わって医行為を行う場合、指導医によって水準が高いと判断された医行為を実施する場合などには、個別同意を取得する必要がある。個別同意の取得の必要性は、指導医が判断する。

(3) 電子カルテの利用について

電子カルテは患者のプライバシーにかかわる重要な情報が記載されており、取り扱いには十分注意すること。

また、指導医から許可されていない患者のカルテは、いかなる理由があっても閲覧してはならない。

電子カルテを利用するためには、利用申請を行う必要がある。利用申請は実習開始時に事務にて一括して行うが、学生は誓約書および利用申請書を提出しなければならない。電子カルテの利用は、総合内科は通年、その他の診療科は実習を行う期間のみ可能である。認められた期間外での電子カルテの利用はできないので留意すること。

12. 欠席・遅刻の取り扱い

臨床実習は原則すべての実習に出席すること。ただし、病気や忌引き等やむを得ない理由がある場合は以下の規定に従うこと。

(1) 病気や忌引き等の理由で実習を遅刻・欠席する場合

当日の実習開始時間までに、診療科(担当教員)および事務室へ欠席の旨を連絡すること。なお、実習当日になってやむを得ず遅刻・欠席する場合は、電話にて連絡すること。(事務への欠席連絡はメールでも可)

学外実習を欠席する場合は、実習先病院の事務および本学診療科及び事務室へ連絡すること。なお、実習当日になってやむを得ず遅刻・欠席する場合は電話にて連絡すること。連絡がない場合、無断欠席とみなされ実習を中止する場合がある。後日、特別欠席届(別紙様式 2)を事務室へ提出すること。その際、診断書等を提出すること。

※特別欠席届は事務室まで受け取りに来るか、名古屋市立大学 HP

(<https://www.nagoya-cu.ac.jp/education/procedures/download/>)よりダウンロードすること。

(2) 病院見学で実習を欠席する場合

病院見学を理由に実習を欠席することは原則認められないが、診療科の了承があれば、臨床実習期間を通して5日に限り許可する。その場合、病院見学欠席届(別紙様式 3)を事務室へ提出すること。提出は1回ごとに行うこと。欠席した場合、実習を補完する課題や補講等を課すことがあるため、都度担当教員へ相談すること。

(3) 実習欠席時の注意事項

実習を欠席した学生に対しては、実習を補完する課題や補講等を課す場合がある。実習を欠席した学生は、診療科の担当教員へ相談すること。課された課題を行わない場合、当該診療科は不合格となる可能性がある。

(4)連絡先一覧

本学医局および学外病院の連絡先を下記の通りである。学生は下記を参照し、欠席連絡を行うこと。

※実習当日の遅刻・欠席の連絡は必ず電話で行うこと。

※名市大事務へも連絡を入れること

事務連絡先：教育研究課医療人育成係 052-853-8545 (medkyomu@sec.nagoya-cu.ac.jp)

【名古屋市立大学 診療科 連絡先一覧】

診療科	実習担当者	メールアドレス	医局電話番号	医局秘書 メールアドレス
消化器内科・肝臓内科	西江裕忠	nishie@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8211	ichinai@med.nagoya-cu.ac.jp
消化器外科	斉藤健太	ksaito@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8226	gesurgery.secretary@gmail.com
呼吸器内科	金光禎寛	kaney32@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8216	naika2@med.nagoya-cu.ac.jp
呼吸器外科	奥田勝裕	kokuda@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8231	kozeki@med.nagoya-cu.ac.jp
循環器内科	杉浦智範	tomosugi@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8221	3naisec@med.nagoya-cu.ac.jp
心臓血管外科	須田久雄	hsuda30@gmail.com	052-853-8099	herz@med.nagoya-cu.ac.jp
脳神経内科	大喜多賢治	neuron4356@yahoo.co.jp	052-853-8094	shinkei@med.nagoya-cu.ac.jp
脳神経外科	坂田 知宏	sakata@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8286	ncunoge@med.nagoya-cu.ac.jp
産科婦人科	佐藤剛	og.sato@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8241	ogikyoku@med.nagoya-cu.ac.jp
小児科	齋藤伸治	ss11@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8246	ped.sec@med.nagoya-cu.ac.jp
小児外科	近藤知史	s.kondo@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8231	
総合内科	兼松孝好	kanecore@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8527	gogo9353@med.nagoya-cu.ac.jp
救急科	服部友紀	thattori@med.nagoya-cu.ac.jp	052-858-7392	qqjimu02@med.nagoya-cu.ac.jp
放射線科	浦野みすぎ	m_urano@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8276	radon@med.nagoya-cu.ac.jp
医療安全	戸澤啓一	toza@med.nagoya-cu.ac.jp	052-858-7539/7540	anzen_jimu@sec.nagoya-cu.ac.jp
感染制御	中村敦	anakamur@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-7493(感染制御室)	
病理	村瀬貴幸	tmurase@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8161	sec2byo1@med.nagoya-cu.ac.jp
検査	井上貴子	tinoue@fg8.so-net.ne.jp	052-853-8191(ウイルス学)	
麻酔科	山添大輝	daiki19880103@icloud.com	052-853-8281	secretary@ncu-masui.jp
臨床薬剤部	江崎哲夫	phesaki@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-7401	
整形外科	鈴木伸幸	nobuyuki.suzuki@me.com	052-853-8236	seikei@med.nagoya-cu.ac.jp
リハビリテーション科	村上里奈	satona@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8733	rehab@med.nagoya-cu.ac.jp
膠原病内科	難波大夫	tnaniwa@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8216	
血液・腫瘍内科	楠本茂	skusumot@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8738	bloodsec@med.nagoya-cu.ac.jp
口腔外科	渋谷恭之	shibuya@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-7302	oral@med.nagoya-cu.ac.jp
耳鼻咽喉科	蒲谷嘉代子	kabaya@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8256	meikyo@med.nagoya-cu.ac.jp
眼科	加藤亜紀	akikato@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8251	mk2wada@med.nagoya-cu.ac.jp
小児泌尿器科	西尾英紀	hnishio@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-4931	
泌尿器科	岡田淳志	a-okada@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8266	erika.w@med.nagoya-cu.ac.jp
腎臓内科	友斉達也	tomonari@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-7429	kid_sec@med.nagoya-cu.ac.jp
形成外科	鳥山和宏	toriyama@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-7518	
皮膚科	加藤裕史	h-kato@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8261	hihuka@med.nagoya-cu.ac.jp
内分泌・糖尿病内科	青谷大介	aotani@kuhp.kyoto-u.ac.jp	052-853-8211	ichinai@med.nagoya-cu.ac.jp
乳腺外科	遠山竜也	t.toyama@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8336	breast@med.nagoya-cu.ac.jp
精神科	東英樹	azma@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8271	kaori817@med.nagoya-cu.ac.jp
痛みセンター	杉浦健之	tsugiura@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-3449	kaori817@med.nagoya-cu.ac.jp
緩和ケア部	長谷川貴昭	takaaki_hase@bird.ocn.ne.jp	052-853-8271	kaori817@med.nagoya-cu.ac.jp
第一病理学(実験病態病理学)	高橋智	sattak@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8156	msheshta@med.nagoya-cu.ac.jp
第二病理学(臨床病態病理学)	正木彩子	amasaki@med.nagoya-cu.ac.jp	052-853-8161	sec2byo1@med.nagoya-cu.ac.jp

【名古屋市立大学学外実習先連絡先一覧】

	実習先病院	電話番号	事務担当者	メールアドレス
あ行	愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院	0566-75-2111	教育研修臨床研究支援センター バルガス様	kyoiku-soumu@kosei.anjo.aichi.jp
	あいち小児保健医療総合センター	0562-43-0500	事務部管理課総務グループ 佐久間様	shouni-hospital@pref.aichi.lg.jp
	旭ろうさい病院	0561-54-3131	総務課庶務係 藤沢様	syomu@asahih.johas.go.jp
	一宮市立市民病院	0586-71-1911	管理課 百瀬様	kan-138@municipal-hospital.ichinomiya.aichi.jp
	JA愛知厚生連稲沢厚生病院	0587-97-2131	総務課 岩田様	somuka-syomu@inazawa.jaikosei.or.jp
	JA三重厚生連 三重北医療センターいなべ総合病院	0594-72-2000	総務課 近藤様	katsuhiko.kondo@miekosei.or.jp
	大垣市民病院	0584-81-3341	事務局庶務課 人事グループ 長澤様	omh-jinji@city.okazaki.lg.jp
	岡崎市民病院	0564-21-8111	事務局総務課 小野様	hospital@city.okazaki.lg.jp
か行	JA愛知厚生連海南病院	0567-65-2511	教育研修室 ご担当者様	sogokyouiku@kainan.jaikosei.or.jp
	医療法人交正会笠寺精治療病院	052-821-9221	学生実習ご担当者	kasadera@seichiryu.com
	春日井市民病院	0568-57-0160(研修管理室)	研修管理室 相良様	kensyu@hospital.kasugai.aichi.jp
	蒲都市民病院	0533-66-2200	事務局管理課 平野様・尾崎様	m-hirano@city.gamagori.aichi.jp (平野様) ozaki-toshibumi@city.gamagori.lg.jp (尾崎様)
	医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院	0566-21-2450	臨床研修センター 森様・大平様	KTGH.kenshu@toyota-kai.or.jp
	岐阜県立多治見病院	0572-22-5311	経営管理課 総務研修担当 菊川様	info@tajimi-hospital.jp
	岐阜病院	058-245-8171	学生実習ご担当者様	
	協立総合病院	052-654-2211	医師支援事務局課 ご担当者様	
	楠メンタルホスピタル	052-901-7581	事務 ご担当者様	
	JA愛知厚生連江南厚生病院	0587-51-3333	企画室 富田様・伊藤様	kenshu@konan.jaikosei.or.jp
	公立陶生病院	0561-82-5101	研修管理室 村瀬様	kenshu@tosei.or.jp
	公立西知多総合病院	0562-33-5500	管理課人事管理室 天野様	jinji@nishichita-hp.aichi.jp
	国立がん研究センター東病院	04-7133-1111	人材育成センター教育連携室教育連携係 武市様・藤田様	kyoiku-resi@ncc.go.jp (係共通)
小牧市民病院	0568-76-4131	研修センター 長縄様	kensyu@komakihp.gr.jp	
さ行	市立四日市病院	059-354-1111	総務課総務係 吉田様	byouinsoumu@city.yokkaichi.mie.jp
	聖十字病院	0572-54-8181	キャリア支援室 小椋様	career@holy-cross-h.com
	総合病院聖隷浜松病院	053-474-2222	人材育成センター 金井様	hm-kenshu@sis.seirei.or.jp
	社会福祉法人聖霊会聖霊病院	052-832-1181	人事課 山本様	recruit@seirei-hospital.org
た行	社会医療法人宏潤会大同病院	052-611-6261	卒後研修支援センター 黄川田様 酒向様	k-kikawada@daidohp.or.jp
	JA愛知厚生連知多厚生病院	0569-82-0395	総務課 小野内様	i.onouchi@chita.jaikosei.or.jp
	JCHO 中京病院	052-691-7151	臨床研修センター 菱田様・大門様	rinshokenshu@chukyo.jcho.go.jp
	中東遠総合医療センター	0537-21-5555	教育研修センター 増田様	kensyu@chutoen-hp.shizuoka.jp
	津島市民病院	0567-28-5151	管理グループ 診療医局秘書 浅井様	tsmhp@tsushimacity-hp.jp
	豊川市民病院	0533-86-1111	キャリア支援センター 平野様・白木様	career@toyokawa-ch-aichi.jp
	トヨタ記念病院	0565-28-0100	臨床研修グループ 鬼頭様	masayo_kito@mail.toyota.co.jp
	JA愛知厚生連豊田厚生病院	0565-43-5000(内線2236)	総務課 教育研修係 八木様・深田様	rin-ken@toyota.jaikosei.or.jp
医療法人研精会豊田西病院	0565-48-8331	事務 川崎様	kawasaki@toyotawest.or.jp	
豊橋市民病院	0532-33-6111	卒後臨床研修センター 池田様	sotsugo@toyohashi-mh.jp	
な行	社会医療法人名古屋記念財団名古屋記念病院	052-804-1111	総務課 春日井様	nmh-library@hospy.or.jp
	医療法人借行会名古屋共立病院	052-362-5151	総務部 遠藤様	somu@kaikou.or.jp
	名古屋市西部地域療育センター	052-361-9555	鈴木様	k.suzuki.77@city.nagoya.lg.jp
	名古屋市児童福祉センター	052-757-6111	診療相談係長 杉浦様	t.sugiura.kt@city.nagoya.lg.jp
	名古屋市中央療育センター	052-757-6111	診療相談係長 杉浦様	t.sugiura.kt@city.nagoya.lg.jp
	名古屋市総合リハビリテーションセンター 附属病院	052-835-3811	総務課 中村様	soumubu@nagoya-rehab.or.jp
	名古屋市立大学医学部附属西部医療センター	052-991-8121	管理課庶務係 井上様	inoue-kyoko@sec.nagoya-cu.ac.jp
	名古屋市立大学医学部附属東部医療センター	052-721-7171	管理課庶務係 田之頭様	res.emc@med.nagoya-cu.ac.jp
	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	052-832-1121	総務課 野村様	somu@nagoya2.jrc.or.jp
	医療法人徳洲会名古屋徳洲会総合病院	0568-51-8711	総務課 堀様・加藤様	kenshu@nagoya.tokushukai.or.jp
	社会医療法人明陽会成田記念病院	0532-31-2167	総務課 大石様	ro303741@meiyokai.or.jp
ま行	医療法人人生会松蔭病院	052-352-3251	学生実習ご担当者様	s.yoshida@seiseikai.com
	南医療生活協同組合総合病院南生協病院	625-0373	医局事務局 浅田様	ikyoku-jimukyoku2@minami.or.jp
	特定医療法人 共生会 みどりの風 南知多病院	0569-65-1111	医局秘書 山下様	makoto_tanaka_651111@kyoseikai.or.jp
	名鉄病院	052-551-6121	研修管理室 片桐様	kouji.katagiri@nrr.meitetsu.co.jp
や行	八事病院	052-832-2111	学生実習ご担当者様	

13. その他の注意事項

- ・ 実習に関する情報は都度通知するので、チェックすること。
(学年代表を介したメール、個人メールアドレスへの連絡等)
- ・ 実習参加にあたっては、学内・学外実習を問わず、許可のないエリアへ立ち入ることのないよう留意すること。
- ・ 病棟の PC の利用に関しては、事前に許可を得ること。無断で使用することのないよう留意すること。

14. EBM 実践のための UpToDate 活用について

(1)EBM とは

EBM とは“Evidence-based Medicine”の略で、日本語では「根拠(エビデンス)に基づく医療」と訳される。「最善の根拠」を基に、それに「臨床家の専門性(熟練・技術など)」、そして「患者の希望・価値観」を考え合わせて、より良い医療を目指そうとするものである。EBM 実践のため、積極的な UpToDate の活用が望まれる。

(2)UpToDate とは

Up To Date とは、各分野の世界中の専門医が自身の臨床経験と最新文献の臨床情報を統合し、エビデンスに基づく最善の診療方針をまとめた、臨床意思決定支援ツールである。世界中の国・施設で採用されており、入手し得る最良のエビデンスに基づいたグローバルスタンダードの情報を短時間で収集することができる。目まぐるしく変化している医学的エビデンスに基づいて日々更新されており、教科書よりも最新の情報を得ることが可能である。(UpToDate 基本操作マニュアルより一部抜粋)

(3)UpToDate の使用方法

名古屋市立大学図書館(総合情報センター)の WEB サイトより使用可能である。

URL: <https://ncu-opac.adm.nagoya-cu.ac.jp/index.php?>

→ データベース → UpToDate

15. 別紙資料・別紙様式

別紙資料 1: スチューデントドクターの臨床医学実習に関する説明と同意

別紙資料 2: アンプロフェッショナルな行動・態度のみられた学生の評価と対応

別紙資料 3: 国内での臨床実習プログラムについての取り扱い

別紙資料 4: 海外での臨床実習プログラムについての取り扱い

別紙資料 5: 名古屋市立大学医学部 SNS 利用時の注意事項

別紙様式 1: プライマリ・ケア実習 M6 自己紹介票

別紙様式 2: 特別欠席届

別紙様式 3: 病院見学欠席届

16. 各科シラバス(前半必修 : 4 学年 1 月~5 学年 11 月)

17. 各科シラバス(後半必修 : 5 学年 11 月~6 学年 9 月)

18. 各科シラバス(後半選択制 : 5 学年 11 月~6 学年 9 月)

※別紙シラバス参照

スチューデントドクターの臨床医学実習に関する説明と同意

名古屋市立大学病院長
名古屋市立大学医学部長

名古屋市立大学医学部は、人間味にあふれ、深い医学知識と技術を備えた医師を養成することを重視しております。カリキュラムの一貫として、臨床医学実習を行っております。

臨床医学実習とは、スチューデントドクター※が医療チームの一員として実際の患者さんの診療に従事し、指導医の指導・監視のもとに許容された一定範囲の医療行為を行い、将来医師になるために必要な知識、技能、態度を身につけるものです。

上記の趣旨をご理解の上、医学部学生が臨床医学実習にご協力をいただきますよう、どうかよろしくごお願い申し上げます。

※スチューデントドクターは、全国統一の試験に合格し、学生医師としての一定レベルの知識や実技能力があると認められています。
--

臨床医学実習について

1. 名古屋市立大学病院では、スチューデントドクターの臨床医学実習として、患者さんの承諾を得たうえで、名古屋市立大学医学部の定める水準(全国医学部長・病院長会議が定める水準に準拠)に基づき、通常の診察に加えて別紙の処置・操作の基本手技を行っております。
2. スチューデントドクターの臨床医学実習の一環として、患者さんの承諾を得たうえで、診療記録を参照いたします。

同意しない場合

ご了承いただけない場合でも、不利益は一切生じません。

同意を撤回する場合

いったん同意書を提出しても、いつでも同意を取り消すことができます。その場合には、指導医あるいは担当医へ速やかにお申し出ください。

問い合わせ先

ご不明な点につきましては、担当医師にお申し出ください。

スチューデントドクターの臨床医学実習に関する同意書

名古屋市立大学病院長 殿
名古屋市立大学医学部長 殿

私は、私の在院に際して、貴大学スチューデントドクターにおける臨床医学実習に関する 別紙診療行為を指導医の指導・監督のもとに受けることに同意します。

同意日： 年 月 日

患者氏名 印

家族等氏名 印
(患者との続柄)

患者、家族等の氏名は自署または記名・押印

アンプロフェッショナルな行動・態度のみられた学生の評価と対応

カリキュラム企画・運営委員会
臨床実習小委員会
2021年12月

名古屋市立大学医学部医学科では臨床実習の評価の一つとして、アンプロフェッショナルな行動・態度の評価を行います。「アンプロフェッショナルな学生」は以下のように定義します。

診療参加型臨床実習において、学生の行動を臨床現場で観察していて、特に医療安全の面から、このままでは将来、患者の診療に関わらせることが出来ないと考えられる学生

患者さんの診療に現場であたる臨床医としての視点で、今後この学生が臨床医になって診療に関わる上で、特に医療安全の面から、明らかに不適切と思われる行動や態度が見られた場合、その事例について別紙にできるだけ詳しく記述下さい。その際に、直接ご自身で観察された情報と間接的に得た情報とを可能な限り区別していただくようお願いいたします。

本評価は、各診療科での臨床実習の合否判定とは独立して運用します。臨床実習小委員会で内容を確認し、メンターや臨床実習小委員会委員から注意と指導を行います。

問題行動が繰り返してみられ、改善の認められない場合は、在籍している学年の最初からのやり直しを検討します。決定は、カリキュラム企画・運営委員会、教授会の審議によります。

精神疾患も含め疾病の関与が懸念される場合は、臨床実習小委員会やメンターから保健管理センターの医師に相談し、適切な医療機関を受診するように指導します。

以下にアンプロフェッショナルな学生の例を提示します。京都大学医学部学務委員会臨床実習倫理評価小委員会が提示しています。参考にさせていただいて評価し、報告ください。

- ・ 初日の集合時間(朝9時)に、連絡なく大幅に遅刻して午後(13時)にしか出てこなかったのみならず、以後毎日、病院の職員が学生宿舎まで迎えに行かなければ、実習に出てこなかった。【診療チームの一員としての責任感】
- ・ 診療チームの一員として、毎朝、担当患者さん(1名)を回診して、9時からの指導医回診でその状況を報告する役割を与えているが、全く患者さんのところに行かないばかりか、指導医回診で虚偽の報告を行った。【診療チームの一員としての責任感+誠実な行動】
- ・ 臨床実習に殆ど出席せず、遅刻した症例発表会での発表内容、症例報告レポートの内容が非常に乏しかったため、追加レポートを求めたところ、真夜中に病棟に現れて、カルテのプリントアウトを大量に行った。プリントアウトの最中にナースステーション内でゲームをしていたため、夜勤の看護師が指摘したところ、素直に従わないどころか、「看護師のくせに偉そうなことを言うな」と逆ギレした。【診療チームの一員としての責任感+知識・技能の向上に対する努力+他職種との協働+患者に関する情報の守秘義務】
- ・ 実習中に何処で何をしているのか分からない上に、PHSで連絡をしても繋がらない。なんとか見つけたして担当患者さんの病状説明(がんの告知)に同席させたところ、居眠りをしてしまい、患者さんが激怒した。【診療チームの一員としての責任感+患者さん/家族に対する態度】

別紙資料 2

・ 実習中に、連絡なく欠席・遅刻を繰り返した。最終日に、レポートの内容が乏しいことを指摘すると、ふてくされた態度になった。無断欠席・遅刻に関して医学生としてふさわしくないことを伝えると、謝るどころか、無言のままパイとそばを向いて部屋を出て行った。【診療チームの一員としての責任感+知識・技能の向上に対する努力+指導医/教員の指摘を受け入れる姿勢】

・ 指導医・他の医療スタッフに対して、基本的な挨拶（おはようございます、ありがとうございました、すみません、など）が全くできず、また十分なコミュニケーションもとれない。担当患者さんに対しても同様の態度であったため、患者さんからクレームが来た。そのことを学生に伝えると、「あんな患者は京大病院に来なくていい」と言い出した。【患者さん/家族に対する態度+指導医/教員の指摘を受け入れる姿勢+礼儀と基本的な挨拶および服装】

・ 臨床実習で担当した外国人の患者から、担当学生の態度がよくないとのクレームがあった。これを学生に伝えたところ、「こんなことで文句言うなんて絶対おかしい。あいつら〇〇人って、やっぱり、価値観、変」と、ナースステーションで、患者さんに声が聞こえることも気にせずに大声で叫んだ。【患者さん/家族に対する態度+社会的カテゴリーに基づく差別】

・ Twitter®に「〇〇病院の呼吸器内科で実習中なう。めっちゃ稀な△△病の患者さんの担当になったので勉強が大変(> <)。でも若い女の子(しかも家が下宿の近所!)なのでいつも以上に頑張っています!」とツイートし、さらにはFacebook®(自分の下宿の住所が閲覧可能)に友達限定で同じ内容をレントゲン写真つきでアップした。【患者に関する情報の守秘義務】

・ ある勉強会に参加したところ、製薬会社が後援しており、とても高価な弁当をごちそうになった。以後、製薬会社の後援する弁当付き勉強会に診療科を問わず全て出席した。さらに、どの製薬会社がどの程度の値段の弁当を提供しているかについてのランキング表を写真付きで作り、「こんな弁当がただで食べられるなんて、やっぱり医者ってすげー。でも□□製薬さんにはもうちょっと頑張ってもらわないとね」とのコメントをつけて自身のブログにアップした。【利益相反による弊害】

・ 一緒に住んでいる甥が3日前に病院でインフルエンザと診断された。昨日から自分も熱が出てきたが、次の実習先の診療科は厳しいとの評判を聞いていたので、休まずに臨床実習に出席し、担当患者さん(免疫抑制状態)のベッドサイドに毎日足を運び、看護師とのカンファランスにも積極的に出席した。「熱っばいの?大丈夫?」と指導医に言われたが、「大丈夫です」とだけ答えた。【院内指針の遵守】

・ 〇〇診療科では、毎朝、担当患者を診察して、その内容をカルテに記録し、指導医に内容を確認してもらうことになっていた。ある日、寝坊して、朝、病院に行けなかった。指導医にはたまたま(寝坊したことが)見つからなかったが、患者さんは検査に行ってしまうと、朝の回診はできなかった。その診療科の教授がとっても怖いという評判だったので、電子カルテの記載時間を修正して(調整して)、午前中に診察したかのように電子カルテに記録した。【不正行為への関与】

・ 朝のカンファランスにギリギリにやってきたかと思えば、寝ぐせだらけの頭に無精髭、ダメージジーンズ、裸足にクロックス®、実習が始まってから1回も洗濯に出してなさそうな白衣を羽織って前のボタンもとめずに現れた。患者さんやスタッフから苦情が来たため、服装を正すように本人に伝えたが、本人は気にしている様子は全くなく、実習中、ずっと同じような格好で病棟に現れた。【服装+指導医/教員の指摘を受け入れる姿勢】

※「これまでに国内外の大学医学部においてアンプロフェッショナルと評価された行動などを参考に、あくまで評価をする際に参照する目的で作成しました。よって、京都大学医学部医学科にこのような学生が在籍しているというわけではありません。」とのコメントがあります。

(出典:<http://cme.med.kyoto-u.ac.jp/sd/unprofessional.pdf> 京都大学医学研究科 医学教育・国際化推進センター)

国内での臨床実習プログラムについての取り扱い

(学生個人が希望する場合)

最高学年時の選択制臨床実習として、名古屋市立大学病院および関連病院が実習先として選択制実習マニュアルに記載されている。原則、選択制実習マニュアルに記載の病院のみしか選択できないが、大学病院に限り、関連病院外でも実習が可能である。希望する学生は、下記の通りに手続きを進めること。

1. 選択制実習希望調査を出す前までに、実習を希望する医療機関へ連絡を取り、下記事項を確認し調整する。
 - ・ 実習の受入れ可否(実習の申し込み)
 - ・ 実習日程の決定
2. 診療科の担当教員および事務へ連絡する。
事務より実習希望病院へ実習依頼を行います。
3. 必要書類を提出する。
実習先病院より提出を求められた書類がある場合は、指示に沿って速やかに提出すること。

海外での臨床実習プログラムについての取り扱い

(学生個人が希望する場合)

最高学年時の臨床実習の一部として、海外の大学や教育機関において臨床実習(エクスターンシップ)を行うことは、異なった医療体制を見聞・体験し、日本とは異なる指導体制で教育を受け、さらには異文化のもとで医師として国際人として活躍する基盤ともなるという観点から、望ましいものであると考えられる。そこで、オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学での実習以外に、以下の手順を踏めば、海外での臨床実習について、互換を認める。

1. 選択制実習のスケジュール調整と同時期を目途にカリキュラム企画・運営委員会に以下の書類を提出する。
 - (ア) 志望理由書
 - (イ) 4週間の研修の計画表
 - (ウ) 相手先の受け入れ承諾書
 - (エ) 実習のために外国に渡航する学生は、旅行傷害保険などに加入していることを証明するもの

2. カリキュラム企画・運営委員会および教授会は、以下の基準で互換に値するか否かを判定する。
 - (ア) 相手先が大学医学部/医学校であること
 - (イ) 受け入れプログラムが海外の場合は、大学の正式プログラムであり、医療事故の保険が備わっていること。あるいは渡航者がこれに替わる損害賠償責任保険に加入すること。

3. 実習終了後、1ヶ月以内に以下のものをカリキュラム企画・運営委員会に提出すること。
 - (ア) 受け入れ責任者による、実習修了を認める書類
 - (イ) 本人による、実習内容についてのポートフォリオ形式レポート
(日本語または英語、感想文は不可)

※新型コロナウイルス感染症に対する対応

今年度海外での臨床実習を希望する者は、海外での臨床実習の手続きを進めるとともに、中止になった場合の実習先病院を検討しておくこと。詳細は下記の通りである。

- ① 選択制実習のスケジュール調整時期の時点で、海外での臨床実習の実施が判断できない場合、実習中止となった場合の実習先を決めておく。実習先については、「別紙資料 2 国内での臨床実習プログラムについての取り扱い」を参照のこと。
- ② 海外での臨床実習実施の最終判断時期および実習中止となった場合の実習先を事務に連絡する。

名古屋市立大学医学部 SNS 利用時の注意事項

1. 一般的注意事項

ソーシャルメディア（インターネット上のブログ、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）、電子掲示板、動画投稿サイト等、特定または不特定の人に情報共有を行うメディア。Facebook、Twitter、Instagram、LINE 等）への投稿・情報発信は、当事者の学生間では問題無いような書き込みでも、第三者との関わりにより、重大なトラブルになる可能性がある。公開した内容、事案によっては懲戒処分の対象となりうるため、下記に十分に注意すること。

誹謗や中傷になることを投稿しない。

不当に対象者の社会的評価を貶めた場合、名誉棄損として損害賠償の対象になりうる。

個人情報等に関する投稿をしない。

実名でなくても、所属、行動、居住地域など他の人の情報、写真、動画等により、個人を特定できれば個人情報となる。

法やモラルに反する内容を投稿しない。

悪ふざけで投稿した内容でも法やモラルに反していれば、第三者に発見・特定され、処罰の対象となりうる。

大学 や 職務上（アルバイト等）で知り得た情報を投稿しない。

大学 や 職務上で知り得た情報を無断で発信することは、守秘義務違反となりうる。また、講義資料等を SNS に投稿することや他のインターネットサイトにアップロードすることを禁止する。

2. 実習における注意事項

カルテの内容など患者情報を漏らしてはならないことは当然であるが、実習の内容、病院等の内部情報（建物、宿舍、指導医や医療関係者の様子など）を投稿しない。実習先施設においても重大な問題となる場合がある。指導内容についての感想などはたとえ良い内容であっても、信頼を損ねることもある。

学生間では問題ないような投稿であっても、個人情報の漏洩、名誉毀損、プライバシー侵害、守秘義務違反となる可能性があるため、

実習にかかわる内容についてソーシャルメディアに投稿することは、個人の感想や関係者への謝辞等も含め、禁止とする。

2020年12月18日

カリキュラム企画・運営委員長

名古屋市立大学 医学部長

自己紹介票

名古屋市立大学 医学部6年 選択制臨床実習用

ふりがな		写 真 (サイズは不問)
氏 名		
年 月 日生 (満 歳)		
電話番号 ※緊急時の連絡用として使用します。 () —	男 女	

あなたの人となりが見える自己紹介を記入下さい。例：自己PRや卒後の展望など

- * 写真のサイズは自由です。 コピーでもかまいません。
- * この自己紹介票は名市大実習診療科及び実習先病院、プライマリ・ケア実習先へ提出します。

特別欠席届

令和 年 月 日

学 長 様

.....学部・研究科学科・課程

.....学年組・専攻

学籍番号.....

氏 名.....

下記の理由により欠席 しま す のでお届けします。
しま した

記

欠席の理由

欠席の期間 令和 年 月 日から
令和 年 月 日まで

科目名	月 日・曜日	担当教員	確認欄 認印又はサイン

- (注) 1 欠席の理由を具体的に記入し、理由が分かる証明書等を添付すること。
2 所属学部・研究科により別に様式等が定めている場合はそれに従ってください。
3 授業欠席の取り扱いについては担当教員の判断に一任されます。「確認欄」に担当教員の認印又はサインが得られなかった場合は出席扱いとはなりません。

【特別欠席に該当する事例】 忌引き、疾病、事故、天災、その他特別な理由
※部活動、ゼミ活動、インターンシップ、就職活動、海外渡航、授業の重複等を理由とする欠席は該当しません。
※免許・資格取得のための実習（正課として参加するものに限る）に伴う授業欠席には本様式を使用しません。所属学部等の指示に従い必要な手続きを行ってください。

病 院 見 学 欠 席 届

令和 年 月 日

医 学 部 長 様

医学部医学科.....学年

学籍番号.....

氏 名.....

.....病院の見学により欠席しますのでお届けします。

記

診 療 科 名	年 月 日	担 当 教 員	確認欄 認印又はサイン

- (注) 1 病院見学で欠席する旨を担当教員へ申し出、許可および認印をもらうこと。
2 この届は、病院見学で欠席できる日数 (5日以内) のみ有効です。
3 この届は、担当教員の確認が済んだら、教育研究課まで提出してください。
4 病院見学で欠席する場合、実習を補完する課題や補講等を課すことがあるため、都度担当教員へ相談すること。

令和 4 年 度

医学研究科修士課程教育要項

(共通科目シラバス)

名古屋市立大学大学院

目	次	頁
1	人材の養成に関する目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー	1
	カリキュラムマップ	2
	カリキュラムツリー	3
2	修了要件・履修方法	4
3	学位論文審査基準・研究計画書・研究指導計画書	5
4	共通教育科目 日程表	8
5	他研究科との単位互換	9
6	共通教育科目シラバス	
	講義	
	① 生理系医学基礎	11
	② 病理系医学基礎	12
	③ 実験手法概論	13
	④ 臨床医学概論	14
	⑤ 社会医学系基礎	15
	⑥ 基礎医科学概論Ⅰ（英語講義）	16
	⑦ 基礎医科学概論Ⅱ（英語講義）	17
	⑧ 臨床医療デザイン学概論	18
	⑨ 臨床医療デザイン学特論	19
	⑩ 最新医学特論Ⅰ	20
	⑪ 最新医学特論Ⅱ	21
	⑫ 臨床基礎特論Ⅰ	22
	⑬ 臨床基礎特論Ⅱ	23
	⑭ 総合認知症特論	24
	⑮ 緩和/終末期ケア特論	25
	⑯ 減災・医療概論	26
	⑰ 減災・医療特論Ⅰ	27
	⑱ 減災・医療特論Ⅱ	28
	⑲ 脳神経科学講義	29
7	専門演習・特別研究科目	30
8	減災・医療コースについて	32
9	定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分の指針	33

人材の養成に関する目的

修士課程では、高度な専門教育を行い、医科学の専門知識を有する職業人と将来の博士課程進学を含む研究者の養成を目的とする。

ディプロマ・ポリシー

医学研究科は、基礎医学研究者と臨床医学研究者とが自由に最先端の医学研究を共同できる体制を組織して、大学院学生の教育に当たり、独創的かつ広い視野を持つ医学研究者および高度の医療知識と技量を備えた医師を育成するという目的に鑑み、以下の能力を有すると認められた者に対し、医学修士の学位を授与します。

- ・最先端の医学・医療および生命科学領域に関する幅広い知識・能力を修得する。
- ・共通教育科目を通して医学の基本概念と学問領域の位置づけを理解する。
- ・専門演習および特別研究により専門分野における基本的な手技を修得するとともに得られた結果をまとめる力を養う。

本課程に2年以上在学し、共通教育科目14単位、専門演習および特別研究16単位の計30単位を取得後、学位論文を提出し審査および最終試験に合格することが、学位授与の必要要件です。

カリキュラムポリシー

課程編成

医学研究科修士課程のカリキュラムは、医学関連の専門領域で活躍するための能力を身につけることができるように系統的に編成されており、共通教育科目、専門演習および特別研究を修了することが求められます。

実践

1年次には科目選択制の共通教育科目が開講され、最先端の医学・医療および生命科学領域の幅広い知識の修得を目指します。共通教育科目は英語でも開講します。学生は指導教員の専門分野に所属して研究を進め、学生個別に立てられた研究指導計画に基づき、専門演習および特別研究を通じて専門領域の基本概念および技術を修得し学位論文を作成します。

学修成果の評価方法

- ・「最先端の医学・医療および生命科学領域に関する幅広い知識・能力」「医学の基本概念と学問領域の位置づけの理解」の評価は、共通教育科目の成績（講義毎のレポート、口頭試験などの客観的評価を含む総合的評価）に基づいて行います。
- ・「専門分野における基本的な手技」「得られた結果をまとめる能力」については、専門演習および特別研究で養い、研究計画書の内容及び研究室での発表等に基づき、指導教員が評価します。
- ・総合的な学修成果の評価は、プロGRESS発表会と学位論文に基づいて評価します。プロGRESS発表会では、指導教員及び大学院教務委員会委員が学修成果の修得状況について確認します。学位論文は、医学研究科大学院教務委員会において選出された主査1名と副査2名の審査委員からなる審査委員会が開催する公開審査において審査します。

名古屋市立大学カリキュラムマップ

医学研究科修士課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

医学研究科は、基礎医学研究者と臨床医学研究者とが自由に最先端の医学研究を共同できる体制を組織して、大学院学生の教育に当たり、独創的かつ広い視野を持つ医学研究者および高度の医療知識と技量を備えた医師を育成するという目的に鑑み、以下の能力を有すると認められた者に対し、医学修士の学位を授与します。

- (a) 最先端の医学・医療および生命科学領域に関する幅広い知識・能力を修得する。
- (b) 共通教育科目を通して医学の基本概念と学問領域の位置づけを理解する。
- (c) 専門演習および特別研究により専門分野における基本的な手技を修得するとともに得られた結果をまとめる力を養う。

本課程に2年以上在学し、共通教育科目14単位、専門演習および特別研究16単位の計30単位を取得後、学位論文を提出し審査および最終試験に合格することが、学位授与の必要要件です。

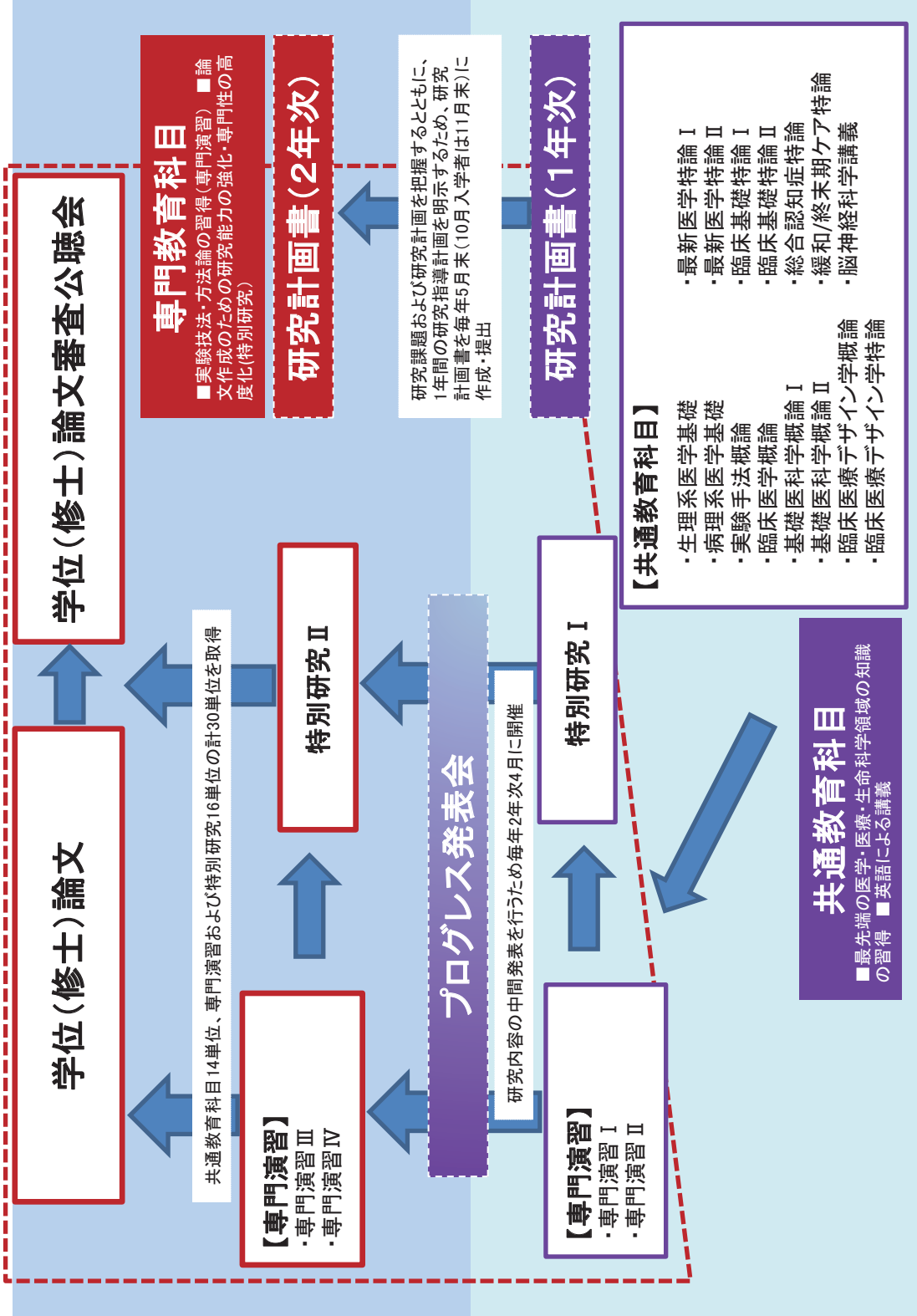
分類	科目コード	科目名	幅広い知識・能力	基本概念と学問領域の理解	基本的な手技	結果をまとめる能力	ナンバリング
共通教育科目	MMSE0010	生理系医学基礎	○	○			1115001
	MMBI0003	病理系医学基礎	○	○			1115002
	MMZI0003	実験手法概論	○	○			1115003
	MMRI0001	臨床医学概論	○	○			1115004
	MMSI0005	社会医学系基礎	○	○			1115005
	MMEE0002	基礎医科学概論Ⅰ	○	○			1115006
	MMEE0003	基礎医科学概論Ⅱ	○	○			1115007
	MMDD0001	臨床医療デザイン学概論	○	○			1115008
	MMDD0002	臨床医療デザイン学特論	○	○			1115009
	MMSA0005	最新医学特論Ⅰ	○	○			1115010
	MMSA0006	最新医学特論Ⅱ	○	○			1115011
	MMRI0004	臨床基礎特論Ⅰ	○	○			1115012
	MMRI0005	臨床基礎特論Ⅱ	○	○			1115013
	MMSO0001	総合認知症特論	○	○			1115014
	MMKA0002	緩和/終末期ケア特論	○	○			1115015
	MMNO0001	脳神経科学講義	○	○			1115016
	MMGE0001	減災・医療概論	○	○			1115017
	MMGE0002	減災・医療特論Ⅰ	○	○			1115018
	MMGE0003	減災・医療特論Ⅱ	○	○			1115019
専門演習	MMSE0005	専門演習Ⅰ			○		1115020
	MMSE0006	専門演習Ⅱ			○		1115021
	MMSE0007	専門演習Ⅲ			○		1116001
	MMSE0008	専門演習Ⅳ			○		1116002
研特別	MMTO0001	特別研究Ⅰ				○	1115022
	MMTO0002	特別研究Ⅱ				○	1116003

※ナンバリング 111…医学研究科修士課程、5または6…水準5：修士1年レベル、水準6：修士2年レベル、000…科目通し番号

医学研究科修士課程カリキュラムツリー

水準5

水準6



2022年1月作成

修士課程修了要件・履修方法

1. 共通教育科目 14 単位修得

共通教育科目は全 19 科目である。

科目名	単位数	開講時間	科目名	単位数	開講時間
①生理系医学基礎	2	昼間	⑪最新医学特論Ⅱ	1	夜間
②病理系医学基礎	2	昼間	⑫臨床基礎特論Ⅰ	1	夜間
③実験手法概論	2	昼間	⑬臨床基礎特論Ⅱ	1	夜間
④臨床医学概論	2	昼間	⑭総合認知症特論	2	夜間
⑤社会医学系基礎	2	昼間	⑮緩和/終末期ケア特論	2	夜間
⑥基礎医科学概論Ⅰ(英語講義)	2	昼間	⑯減災・医療概論 ※	2	夜間
⑦基礎医科学概論Ⅱ(英語講義)	2	昼間	⑰減災・医療特論Ⅰ※	2	夜間
⑧臨床医療デザイン学概論	2	夜間	⑱減災・医療特論Ⅱ※	2	夜間
⑨臨床医療デザイン学特論	2	夜間	⑲脳神経科学講義	2	夜間
⑩最新医学特論Ⅰ	1	夜間			

社会人以外の学生は、1年次に、①～⑦の昼間に開講する講義を中心に単位を修得することが望ましい。

社会人学生も、①～⑦を中心に履修することが望ましいが、仕事の都合等により履修できない場合は、⑧～⑬の夜間開講の講義を受講することができる。

※共通教育科目⑯、⑰、⑱は減災・医療コースの学生のみ履修することができる。

なお、社会人学生は1年次だけでなく2年次にも共通教育科目を履修することができる。2年間で14単位を修得することができるよう、計画的に履修すること。

単位認定の判定は、出席率7割以上の学生に対してレポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価により行う。学生は授業出席の際に必ずシラバスを持参し、授業終了毎にシラバスの出席確認欄に講義担当教員の認印もしくはサインを得ること。

2. 専門演習・特別研究 16 単位修得

専門演習は、特別研究テーマの遂行に関すると思われる様々な実験技術・方法論について知識の習得を目指す。

特別研究は、研究能力の強化と高度専門職業人の専門性の高度化を目指す。

専門演習・特別研究は、全科目（6科目）必修である。

3. 以上の 30 単位を修得のうえ、学位（修士）論文を提出し、最終試験に合格しなければならない。

注) プログレス発表会の開催：2年次の4月初旬に開催し研究内容について中間発表を行う。

学位（修士）論文

1. 学位（修士）論文は、未公表であり、日本語又は英語で作成された論文とする。
2. 2年次の12月第2火曜日までに①学位授与申請書 ②履歴書 ③学位論文 ④論文内容の要旨を提出すること
3. 公聴会は、1月第3水曜日を目途に開催する（予定）。
4. 教授会での判定は、2月第4火曜日に行う（予定）。

学位論文審査

名古屋市立大学大学院医学研究科における、修士課程学位論文に関する事項は以下の通りとする。

《学位論文の要件・審査》

- ・ 修士課程学位論文は、単著であること。また、未公表であり、日本語又は英語により作成されていること。
- ・ 修士課程学位論文の審査にあたっては、大学院教務委員会にて選任された主査1名と、主査が選任した2名の副査により審査委員会を設置し、公開審査会を開催する。
- ・ 修士課程学位論文の判定にあたっては、審査委員会の公開審査会を経て、別に定める「修士課程学位論文審査基準」に基づき、審査委員各々が5点法(5点が満点)により評価し、審査委員の評点平均が3点以上の場合、審査委員会の判定を合格とする。審査委員会は、学位授与報告書をもって公開審査会の結果を研究科長に提出し、研究科教授会が審査結果の合否を決定する。
- ・ 修士課程学位論文の提出の手続きについては、別に定める。

* 修士課程学位論文審査基準

1. 研究の位置づけの理解
研究の背景、意義および目的を理論的にわかりやすく説明できる。
2. 研究に必要な知識と技能の習得
研究の遂行に必要な知識を持ち研究手法および文献の利用法が身につけている。
3. 研究結果の提示
研究結果を理論的にわかりやすく説明できる。
4. 研究結果の解釈と展望
研究結果を適切に理解し、その科学的な意義、発展性と今後の計画を説明できる。
5. 質疑応答の内容
審査委員の質問を理解し的確に回答できる。

令和 年度 研究計画書

研究科名・専攻名		学 籍 番 号	
所 属 分 野		指 導 教 員	
フ リ ガ ナ			
氏 名			

■ 研究課題

題 目	
概 要	

■ 研究計画

学	計画
生	当初計画（二年次）

※本計画書は1年次の5月末（10月入学の場合は11月末）までに作成、指導教員にメールにて送付すること。

※指導教員は担当学生全員分をまとめて毎年6月末（10月入学の場合は12月末）までに大学院担当宛にメールにて送付すること。

令和 年度 研究指導計画書

研究科名・専攻名		学 籍 番 号	
所 属 分 野		指 導 教 員	
フ リ ガ ナ		学 年	年
氏 名			

■ 研究計画

学 生	進捗状況と本年度の計画と目標（1年生は除く）
教 員	進捗状況とその評価・達成度と本年度の指導計画

※本指導計画書は学生が毎年5月末（10月入学の場合は11月末）までに作成、指導教員にメールにて送付すること。

※指導教員は学生から提出された指導計画書の該当部分に記入、担当学生全員分をまとめて毎年6月末（10月入学の場合は12月末）までに大学院担当宛にメールにて送付すること。

薬→医

博士前期

医薬品産業特論	前期前半	木 4 限
生命倫理特論	前期前半	木 5 限
レギュラトリーサイエンス (医薬品安全性評価学)	前期後半	木 6 限
創薬生命科学特別講義Ⅲ	後期前半	木 3 限
専門科目特論科目	各分野が主催する科目	

博士課程

医薬品安全性評価学 (レギュラトリーサイエンス)	前期後半	木 6 限
コミュニティファーマシー	前期前半	木 6 限
個人差・オーダーメイド医療薬学	前期後半	木 5 限
病院臨床薬剤学	後期前半	水 1 限

医→薬

博士課程

⑦生体防御・総合医学講義Ⅲ-認知症特論	前期火曜
④生体情報・機能制御医学講義Ⅲ-緩和医療	後期火曜
⑤生体防御・総合医学講義Ⅰ-基礎医学と臨床医学の融合	後期金曜
⑥生体防御・総合医学講義Ⅱ-がん：発がんメカニズムから最新の診断・治療まで	前期金曜
⑧予防・社会医学講義Ⅰ-社会医学、疫学統計	後期水曜
⑩脳神経科学特論	後期水曜

修士課程

③共通科目 3 実験手法概論	8月集中講義
④共通科目 4 臨床医学概論	前期金曜 3・4 限
⑤共通科目 5 社会医学系基礎	前期月曜 3・4 限
⑥共通科目 6 基礎医科学概論Ⅰ (英語講義)	後期水曜 3 限
⑦共通科目 7 基礎医科学概論Ⅱ (英語講義)	後期水曜 4 限
⑩共通科目 10 最新医学概論Ⅰ	前期金曜夜間
⑪共通科目 11 最新医学概論Ⅱ	後期金曜夜間
⑱脳神経科学講義	後期水曜夜間

医→理

博士課程

⑩脳神経科学特論	後期水曜
----------	------

修士課程

⑱脳神経科学講義	後期水曜夜間
----------	--------

環境健康安全学大学院コース

国費優先配置プログラム履修者のみ受講可

薬学【博士前期科目】

衛生化学特論	前期後半	水 2 限
薬用資源学特論	後期前半	木 4 限
レギュラトリーサイエンス	前期後半	木 6 限
化学物質と環境	後期集中	12月予定
グリーンケミストリー	前期集中	6月予定

医学【医学博士課程科目】

⑫環境健康安全管理学概論Ⅰ	後期水曜夜間
⑬環境健康安全管理学概論Ⅱ (Ⅰの受講が前提)	前期月曜 5 限
⑭薬物・毒物代謝学特論	後期金曜 5 限
⑮毒性病理学特論	前期木曜 5 限

理学

データサイエンス特論	前期
自然科学と環境持続性(SDGs)概論	前期

他研究科との単位互換における内規

第1条 目的

この内規は、名古屋市立大学大学院医学研究科において、同大学大学院他研究科との単位互換の実施に関し、必要な事項を定めること目的としている。

第2条 履修科目等

- (1) 修士課程学生は本学大学院薬学研究科の博士前期課程を履修することができる。
- (2) 博士課程学生は薬学研究科の博士前期課程及び博士課程の授業科目及びシステム自然科学研究科の博士前期課程の授業科目を履修することができる。
- (3) 1項及び2項の定めにより履修できる授業科目は各研究科の専門科目とし、4単位まで履修することができる。

第3条 履修登録

- (1) 学生が、前条の規定により他研究科の授業科目を履修し単位を取得しようとするときは、主指導教員の承認を得なければならない。
- (2) 学生は、所定の期間内に定められた手続きに従って履修登録を行わなければならない。

第4条 単位認定

- (1) 単位認定は、授業科目修了後に他研究科から送付される「成績証明書」等の通知に基づき、共通科目の単位として単位認定する。
- (2) 前項の単位の認定については、教授会の議を経て行うものとする。

第5条 その他

- (1) 前各号に定める事項以外のことが発生した場合は、教授会の議を経て研究科長が決定する。

附則

1. この内規は令和2年4月1日より施行する。
2. 前項の施行日以前に入学した学生についても、これを適用する。

科目区分	共通教育科目 1		
授業科目名	生理系医学基礎		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	道川 誠 教授		
講義内容	基礎医学研究の視点から、医学分野の研究者として必要な情報を提供する。具体的には、人体の構造と機能、発生、生体物質の合成と代謝などの基本的知識と、その分析法、解析法を講義するとともに、必要に応じてそれらを駆使した最新の研究内容についても紹介する。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席 確認
1	4月15日(金) 13:00~14:30	細胞内シグナル伝達と転写調節(細胞生化学教授/加藤洋一)	
2	4月15日(金) 14:40~16:10	神経系の分化(脳神経生理学講師/清水 健史)	
3	4月18日(月) 13:00~14:30	人体のなりたち—解剖学概論—(統合解剖学講師/菊島健児)	
4	4月18日(月) 14:40~16:10	「顕微解剖学概論」(機能組織学准教授/植田高史)	
5	4月20日(水) 13:00~14:30	胸腔内、腹腔内臓器の解剖学(統合解剖学講師/佐久間英輔)	
6	4月20日(水) 14:40~16:10	神経解剖学概論(機能組織学講師/熊本奈都子)	
7	4月22日(金) 13:00~14:30	下垂体ホルモンの生理作用(脳神経生理学教授/飛田秀樹)	
8	4月22日(金) 14:40~16:10	神経変性疾患の分子生物学(神経生化学准教授/鄒 鶴)	
9	4月25日(月) 13:00~14:30	局所血流の制御機構(細胞生理学講師/三井 烈)	
10	4月25日(月) 14:40~16:10	遺伝子と疾患(神経毒性学教授/酒々井眞澄)	
11	4月27日(水) 13:00~14:30	Biochemistry of Lipids and Lipoproteins(神経生化学講師/辻田麻紀)	
12	4月27日(水) 14:40~16:10	オルガノイドモデルを用いた臓器形成メカニズム (細胞生化学講師/嶋田逸誠)	
13	5月6日(金) 13:00~14:30	呼吸運動と呼吸調節(神経生化学准教授/鄭 且均)	
14	5月6日(金) 14:40~16:10	神経発生の分子メカニズム(至学館大学教授/三浦 裕)	
15	5月9日(月) 13:00~14:30	平滑筋自動能の発生制御機構(細胞生理学教授/橋谷 光)	
講義場所	医学部・医学研究科研究棟2階 会議室4		
成績判定方法	レポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	「人体の解剖生理学」金芳堂(遠山正彌・高辻功一・木山博資 編集)、「生理学テキスト」文光堂(4,800円)、「細胞の分子生物学」ニュートンプレス(著者: B. Alberts, A. Johnsonら、監訳: 中村圭子、松原謙一)、「デブリン生化学」丸善出版(T.M. Devlin著)		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 6階 電話853-8141 道川 誠 e-mail : michi@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 2		
授業科目名	病理系医学基礎		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	稲垣 宏 教授		
講義内容	病理学は疾患の発症原因を追及し、さらに疾患の診断や治療に有益な情報を提供する学問である。本講義は病理学について基礎を学び、その本質を深く理解することを目的とする。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席 確認
1	5月11日(水) 13:00~14:30	病原細菌と感染症 (細菌学教授/長谷川忠男)	
2	5月11日(水) 14:40~16:10	疾患モデル動物の意義と役割 (病態モデル医学教授/大石 久史)	
3	5月18日(水) 13:00~14:30	法医病理学 (法医学教授/青木 康博)	
4	5月18日(水) 14:40~16:10	免疫学1 (免疫学講師/志馬寛明)	
5	5月25日(水) 13:00~14:30	免疫学2 (免疫学講師/今井優樹)	
6	5月25日(水) 14:40~16:10	病理学総論 (実験病態病理学講師/加藤寛之)	
7	6月1日(水) 13:00~14:30	血液病理学 (臨床病態病理学准教授/正木彩子)	
8	6月1日(水) 14:40~16:10	内分泌病理 (臨床病態病理学助教/津田 香那)	
9	6月8日(水) 13:00~14:30	腫瘍病理学 (臨床病態病理学教授/稲垣 宏)	
10	6月8日(水) 14:40~16:10	感染症と感染予防対策 (中央臨床検査部講師/井上貴子)	
11	6月15日(水) 13:00~14:30	自然免疫と細菌性ワクチン (細菌学講師/井坂雅徳)	
12	6月15日(水) 14:40~16:10	繊毛病の病態 (細胞生化学教授/加藤洋一)	
13	6月21日(火) 14:40~16:10	ゲノム・分子病理学(神経毒性学教授/酒々井真澄)	
14	6月22日(水) 13:00~14:30	再生医学 (神経発達・再生医学講師/澤田雅人)	
15	6月29日(水) 13:00~14:30	病態分子薬理学 (薬理学教授/大矢進)	
講義場所	医学部・医学研究科研究棟2階 会議室4		
成績判定方法	レポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	講義に関連する原著論文等		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 5階 電話853-8161 稲垣 宏 e-mail : hinagaki@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 3		
授業科目名	実験手法概論		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	飛田 秀樹 教授		
講義内容	医学・生命科学の研究に必要な方法を、実験技術とその背景にある医学・生物学的知識と共に学習・習得する。形態学、および、分子生物学、生化学、細胞生物学、生物物理学、分子遺伝学など、基本から先端技術まで単に技術論に留まらず、講義担当者の研究まで幅広い領域に渡る内容を紹介し、分子・組織・個体を一連のものとして生命機構を理解する作業を具体化することを目的とする。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	備考
1	8月15日(月) 9:00~10:30	細胞培養の基礎とその応用 (脳神経生理学講師 清水健史)	
2	8月15日(月) 10:40~12:10	蛍光顕微鏡と共焦点顕微鏡の原理と応用 (神経発達・再生医学講師 澤田雅人)	
3	8月15日(月) 13:00~14:30	吸光・蛍光・発光物質を用いた実験とその応用 (統合解剖学准教授 井上浩一)	
4	8月15日(月) 14:40~16:10	PCRの原理と応用:PCRの原理とreal time PCR (神経毒性学講師 深町勝巳)	
5	8月16日(火) 9:00~10:30	遺伝子組換えとプラスミド調製法 (神経発達症遺伝学学内講師 金澤智)	
6	8月16日(火) 10:40~12:10	遺伝子改変動物の作成とその応用 (認知症科学教授 齋藤貴志)	
7	8月16日(火) 13:00~14:30	エピジェネティクス解析法(細胞生化学教授 加藤洋一)	
8	8月16日(火) 14:40~16:10	Western blot法と免疫沈降法(神経生化学准教授 鄭 且均)	
9	8月17日(水) 9:00~10:30	動物実験の基礎と発生工学(病態モデル医学教授 大石久史)	
10	8月17日(水) 10:40~12:10	病態モデル動物の作成と行動解析(脳神経生理学准教授 田尻直輝)	
11	8月17日(水) 13:00~14:30	電気生理学の基本:パッチクランプ法とその応用(薬理学助教 鬼頭宏彰)	
12	8月17日(水) 14:40~16:10	In situ 機能実験:電気-細胞内Ca ²⁺ -収縮連関 (細胞生理学教授 橋谷光)	
13	8月18日(木) 9:00~10:30	optogenetics法を用いた gain/loss of function(脳神経生理学教授 飛田秀樹)	
14	8月18日(木) 10:40~12:10	組織切片の作製法と特殊染色 (機能組織学准教授 植田高史)	
15	8月18日(木) 13:00~14:30	in situ hybridization (ISH) 法 (機能組織学教授 鶴川真也)	
講義場所	医学部・医学研究科研究棟2階 会議室4		
成績判定方法	レポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	各講義に於いてプリント配布		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 7階 電話853-8136 飛田 秀樹		
	e-mail : hhida@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 4		
授業科目名	臨床医学概論		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	片岡 洋望 教授		
講義内容	臨床医学各領域の重要事項を基礎から臨床に至るまで講義する。臨床医学の立場から、将来の研究に参考になるような新たな視点を提供したい。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	備考
1	5月13日(金) 13:00~14:30	急性腎障害の病態と臨床研究 (腎臓内科助教 村島美穂)	
2	5月13日(金) 14:40~16:10	動脈硬化と心筋梗塞の病態および臨床 (循環器内科学准教授 杉浦知範)	
3	5月20日(金) 13:00~14:30	甲状腺疾患の診断と治療 (消化器・代謝内科学講師 青谷大介)	
4	5月20日(金) 14:40~16:10	呼吸器疾患の診断と治療 (呼吸器・免疫アレルギー内科学准教授 伊藤 穰)	
5	5月27日(金) 13:00~14:30	皮膚疾患の診断と治療(皮膚科助教 松原章宏)	
6	5月27日(金) 14:40~16:10	大腸がんの診断と治療 (消化器外科学准教授 高橋広城)	
7	6月3日(金) 13:00~14:30	IVR(interventional radiology: 画像下治療)の基礎と応用 (放射線医学准教授 下平政史)	
8	6月3日(金) 14:40~16:10	輸血・細胞療法 (輸血部講師 李政樹)	
9	6月10日(金) 13:00~14:30	消化管疾患の診断と治療 (消化器・代謝内科学准教授 久保田英嗣)	
10	6月10日(金) 14:40~16:10	精神科領域の診断と治療(精神医学病院助教 利重裕子)	
11	6月17日(金) 13:00~14:30	肝疾患の診断と治療 (消化器・代謝内科学講師 藤原 圭)	
12	6月17日(金) 14:40~16:10	認知症の診断と治療 (神経内科学講師 大喜多賢治)	
13	6月24日(金) 13:00~14:30	「糖尿病とは何か? -病態生理から最新の治療法まで」(消化器・代謝内科学准教授 田中智洋)	
14	6月24日(金) 14:40~16:10	脳卒中の診断と治療 (脳神経外科助教 西川祐介)	
15	7月1日(金) 13:00~14:30	胆膵疾患の診断と治療 (消化器・代謝内科学講師 内藤 格)	
講義場所	医学部・医学研究科研究棟2階 会議室4		
成績判定方法	レポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	病気がみえるシリーズ (vol.1~vol.12)医療情報科学研究所(編集)		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟3階消化器・代謝内科学 電話853-8211 片岡洋望 e-mail : hkataoka@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 5		
授業科目名	社会医学系基礎		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	鈴木 貞夫 教授		
講義内容	社会医学は、人間の健康問題が個人要因(性、年齢、個人的遺伝背景、生活習慣)や環境要因(社会的、物理・化学的、生物的環境)とどのように関連するかを明らかにし、個人や集団の疾病予防や健康増進に応用する実践科学である。また、医療と環境の安全を確保し、国民の保健衛生の向上を図る社会の仕組みへの貢献も社会医学を構成する要素である。講義では、社会医学の概要とともに研究の方法論やいくつかのトピックについて解説する。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席 確認
1	5月16日(月) 13:00~14:30	社会医学とは何か (公衆衛生学 教授/鈴木貞夫)	
2	5月16日(月) 14:40~16:10	労働衛生行政 (環境労働衛生学 教授/上島通浩)	
3	5月23日(月) 13:00~14:30	化学物質の取り扱いと管理 (環境労働衛生学 准教授/伊藤由起)	
4	5月23日(月) 14:40~16:10	法医学総論 (法医学 准教授/加藤秀章)	
5	5月30日(月) 13:00~14:30	薬物依存と法規制 (法医学 講師/菅野さな枝)	
6	5月30日(月) 14:40~16:10	突然死とその疫学 (法医学 教授/青木康博)	
7	6月6日(月) 13:00~14:30	わが国における医薬品・医療機器の開発 (次世代医療開発学 教授/神谷 武)	
8	6月6日(月) 14:40~16:10	ゲノム疫学入門 (公衆衛生学 准教授/西山毅)	
9	6月13日(月) 13:00~14:30	近年の疫学研究にみる筋骨格系疾患(MSDs)と労働 (環境労働衛生学 准教授/榎原毅)	
10	6月13日(月) 14:40~16:10	法医学における遺伝情報 (法医学 助教/福田真未子)	
11	6月20日(月) 13:00~14:30	情報セキュリティ (医学・医療情報管理学 准教授/片野広之)	
12	6月20日(月) 14:40~16:10	NGOによる国際保健活動 (公衆衛生学 助教/中川弘子)	
13	6月27日(月) 13:00~14:30	コホート研究とは～疫学研究の裏と表～	
14	6月27日(月) 14:40~16:10	医学データ解析入門 (公衆衛生学 講師/大谷隆浩)	
15	7月4日(月) 13:00~14:30	発達障害と社会的な支援 (環境労働衛生学 助教/加藤沙耶香)	
講義場所	医学部・医学研究科研究棟2階、会議室4		
成績判定方法	レポート等の客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	国民衛生の動向(厚生労働統計協会)		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 10階 電話 853-8176 鈴木 貞夫 e-mail : ssuzuki@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 6		
授業科目名	基礎医科学概論 I (英語講義)		
必修・選択区分	修士課程1年選択		
単位認定教員	酒々井 眞澄 教授		
講義内容	The Basic Medical Science Program1&2 provide opportunities in understanding fundamental life systems, interpreting basic principles of medical science, and exploring technical aspects in basic medical research.		
	Date	Respective topic (Instructors)	Confirmation of
1	October 18 (Tue) 13:00~14:30	Basic Principles of Toxicology (Prof. M.Suzui)	
2	October 19 (Wed) 13:00~14:30	Neural Development and Regeneration 1 (Prof. K.Sawamoto)	
3	October 26 (Wed) 13:00~14:30	How to Write Scientific Papers in English? (Adjunct Prof.Sri Kantha)	
4	November 2 (Wed) 13:00~14:30	Basic Cancer Biology (Lecturer.K.Fukamachi)	
5	November 9 (Wed) 13:00~14:30	DNA Polymorphism and Profiling (Prof. Y.Aoki)	
6	November 16 (Wed) 13:00~14:30	Study Design and EBM (Evidence Based Medicine) (Prof. S.Suzuki)	
7	November 30 (Wed) 13:00~14:30	Basic Principles of Biochemistry (Prof. M.Michikawa)	
8	December 7 (Wed) 13:00~14:30	Neural Basis of Mind Development (Prof. T.Ueki)	
9	December 14 (Wed) 13:00~14:30	Animal Function in Physiology (Prof. H.Hida)	
10	December 21 (Wed) 13:00~14:30	Principles of Diagnostic Pathology (Prof. H.Inagaki)	
11	December 28 (Wed) 13:00~14:30	Genome Editing Technology in Life Science Research (Prof. H.Oishi)	
12	January 4 (Wed) 13:00~14:30	Neural Development and Regeneration 2 (Prof. K.Sawamoto)	
13	January 11 (Wed) 13:00~14:30	Prevention of Chemically Induced Occupational Diseases (Prof. M.Kamijima)	
14	January 18 (Wed) 13:00~14:30	Basic Sciences of Poststroke Rehabilitation (Prof. H.Hida)	
15	January 25 (Wed) 13:00~14:30	Molecular Genetics of Epilepsy and Autism (Prof. K. Yamakawa)	
講義場所	医学部・医学研究科研究棟2階 会議室4		
成績判定方法	レポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	教科書は指定しない。講師が講義資料(プリント等)を使用する場合がある。		
単位認定教員 連絡先	脳研 4階 神経毒性学 電話853-8991 酒々井 眞澄		
	e-mail : suzui@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 7		
授業科目名	基礎医科学概論Ⅱ(英語講義)		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	大矢 進 教授		
講義内容	The Basic medical Science Program 1&2 provide opportunities in understanding fundamental life systems, interesting basic principles of medical science, and exploring technical aspects in basic medical research.		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席 確認
1	October 19(Wed) 14:40~16:10	Basic Principles of Cell Culture (Prof. K. Asai)	
2	October 26(Wed) 14:40~16:10	Basic Molecular Pharmacology (Prof. S. Ohya)	
3	November 2(Wed) 14:40~16:10	Bacteriology (Prof. T. Hasegawa)	
4	November 9(Wed) 14:40~16:10	Toxicology and Xenobiotic Metabolism (Lecturer. K. Fukamachi)	
5	November 16(Wed) 14:40~16:10	Pharmacology of Vasodilating Agents (Prof. T. Itoh)	
6	November 30(Wed) 14:40~16:10	Principles of gene editing (Prof. Y. Katoh)	
7	December 6(Tue) 14:40~16:10	Drug Discovery Based on Chemical Biology (Prof. M. Suzui)	
8	December 14(Wed) 14:40~16:10	Basic Cell Physiology (Prof. H. Hashitani)	
9	December 21(Wed) 14:40~16:10	Chemical Carcinogenesis (Lecturer K. Fukamachi)	
10	December 28(Wed) 14:40~16:10	How Immune Response is Regulated (Prof. S. Yamazaki)	
11	January 4(Wed) 14:40~16:10	Building-related illness and its prevention (Prof. M. Kamijima)	
12	January 11(Wed) 14:40~16:10	The frontline of research for Alzheimer's disease (Prof. T. Saitoh)	
13	January 18(Wed) 14:40~16:10	Introduction to Mass Spectrometry (Prof. K. Asai)	
14	January 25(Wed) 14:40~16:10	Molecular Mechanisms of Mechanotransduction in Mammalian Sensory Neurons (Assistant Prof. Y. Shibata)	
15	February 1(Wed) 14:40~16:10	Basic viology and genetics (Prof. Y. Okuno)	
講義場所	Conference Room 4, 2th floor, Medical School Research Building		
成績判定方法	Comprehensive evaluation including objective evaluation such as reports and oral examinations		
テキスト・参考文献	教科書は指定しない。講師が講義資料を使用する場合がある。		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 8F 電話853-8151 大矢 進		
	e-mail : sohya@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 8		
授業科目名	臨床医療デザイン学概論		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	植木 孝俊 教授		
講義内容	臨床の現場におけるニーズの所在を概観し、理工学などの基礎科学研究の成果の橋渡しを推進する方策を探求するため、広く病院診療、看護、リハビリ、精神保健などの最近の動向に触れ、また情報技術の進展に伴う医療のIoT化が、病院などにおける診療システムをどのように変貌させるかの展望を描くための素材を提供する。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席 確認
1	4月21日(木) 18:30~20:00	数値解析基礎(臨床医療デザイン学客員教授/草間晴幸)	
2	4月28日(木) 18:30~20:00	放射線の生体影響と物理の基礎(臨床医療デザイン学助教/寺田隆哉)	
3	5月12日(木) 18:30~20:00	医療工学概論(名古屋工業大学工学研究科教授/藤本英雄)	
4	5月19日(木) 18:30~20:00	知財学概論(創新特許事務所所長/川口康)	
5	5月26日(木) 18:30~20:00	リハビリテーション学概論(日本福祉大学健康科学部教授/浅井友詞)	
6	6月2日(木) 18:30~20:00	看護学概論(日本福祉大学看護学部教授/河合洋子)	
7	6月9日(木) 18:30~20:00	老人保健学概論(名古屋市厚生院付属病院副部長/藤田政隆)	
8	6月16日(木) 18:30~20:00	AI診断学概論(京都大学医学研究科准教授/大石直也)	
9	6月23日(木) 18:30~20:00	医用ロボットデザイン学概論(臨床医療デザイン学准教授/加藤大香士)	
10	6月30日(木) 18:30~20:00	精神保健学概論(統合解剖学客員教授/神庭重信)	
11	7月7日(木) 18:30~20:00	産学連携による新しいリハビリテーション医療技術の導入(リハビリテーション医学客員教授/和田郁雄)	
12	7月14日(木) 18:30~20:00	インタラクティブシステム概論(臨床医療デザイン学准教授/埴大)	
13	7月21日(木) 18:30~20:00	ナノテクノロジー・電磁気学概論(臨床医療デザイン学教授/松本貴裕)	
14	7月28日(木) 18:30~20:00	光医学概論(臨床医療デザイン学教授/森田明理)	
15	8月4日(木) 18:30~20:00	脳病態制御工学概論(臨床医療デザイン学教授/植木孝俊)	
講義場所	医学部・医学研究科研究棟2階 会議室4		
成績判定方法	レポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	講義時に適宜紹介		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 4階 電話853-8121 植木 孝俊		
	e-mail : ueki@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 9		
授業科目名	臨床医療デザイン学特論		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	植木 孝俊 教授		
講義内容	病院などの医療現場におけるニーズに照らして、最近の工学的研究及び企業の開発研究の成果を至適化し、臨床医療システムの機能的再構築を図るため、これまでに本分野所属教員が手掛けてきた技術シーズの紹介と、その医療への適用の方策について論じる。また、病院における診療の効率化のための医療のデザインのあり方について各自の専門を踏まえ論じる。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	10月20日(木) 18:30~20:00	医工連携分野における数値解析手法の基礎(臨床医療デザイン学客員教授/草間晴幸)	
2	10月27日(木) 18:30~20:00	医工連携分野における数値解析手法の応用例(臨床医療デザイン学客員教授/草間晴幸)	
3	11月10日(木) 18:30~20:00	精神保健学特論(統合解剖学客員教授/神庭重信)	
4	11月17日(木) 18:30~20:00	人工知能学特論(京都大学医学研究科准教授/大石直也)	
5	11月24日(木) 18:30~20:00	ナノテクノロジーと光学技術:基礎(臨床医療デザイン学教授/松本貴裕)	
6	12月1日(木) 18:30~20:00	ナノテクノロジーと光学技術:応用(臨床医療デザイン学教授/松本貴裕)	
7	12月8日(木) 18:30~20:00	インタラクティブシステム1(臨床医療デザイン学准教授/埴大)	
8	12月15日(木) 18:30~20:00	インタラクティブシステム2(臨床医療デザイン学准教授/埴大)	
9	12月22日(木) 18:30~20:00	ロボット手術1(臨床医療デザイン学准教授/加藤大香士)	
10	1月5日(木) 18:30~20:00	ロボット手術2(臨床医療デザイン学准教授/加藤大香士)	
11	1月12日(木) 18:30~20:00	3Dプリンタと医療応用(臨床医療デザイン学助教/寺田隆哉)	
12	1月19日(木) 18:30~20:00	光の基礎知識と応用可能性(臨床医療デザイン学教授/森田明理)	
13	1月26日(木) 18:30~20:00	光線療法機器と今後の展開(臨床医療デザイン学教授/森田明理)	
14	2月2日(木) 18:30~20:00	人工意識(AC)の技術基盤(臨床医療デザイン学教授/植木孝俊)	
15	2月9日(木) 18:30~20:00	老化制御の医学(臨床医療デザイン学教授/植木孝俊)	
講義場所	脳神経科学研究所 5階 会議室		
成績判定方法	レポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	講義時に適宜紹介		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 4階 電話853-8121 植木 孝俊		
	e-mail : ueki@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 10		
授業科目名	最新医学特論 I		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	飯田 真介 教授		
講義内容	基礎医学ならびに臨床医学の最新的话题を提供する。基礎研究の立場からは、最新かつ重要な課題について講義する。また、臨床医学の立場からは、臨床における最新かつ重要な課題について、基礎的研究の結果を交えて講義する。本科目により、基礎医学から臨床医学、臨床医学から基礎医学へとシームレスな知識と思考能力の育成を目的とする。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席 確認
1	6月10日(金) 18:30~20:00	消化器がんの診断と治療(消化器・代謝内科学教授 片岡洋望)	
2	6月17日(金) 18:30~20:00	消化器癌外科治療のあゆみ(消化器外科学教授 瀧口修司)	
3	6月24日(金) 18:30~20:00	癌の病理診断(E)(実験病態病理学教授 高橋智)	
4	7月1日(金) 18:30~20:00	肺がん化学療法と抗がん剤耐性(呼吸器・免疫アレルギー内科学准教授 前野健)	
5	7月8日(金) 18:30~20:00	臨床病理学(臨床病態病理学教授 稲垣宏)	
6	7月15日(金) 18:30~20:00	尿路性器癌の診断・治療-最近の話題-(医療安全管理学教授 戸澤啓一)	
7	7月22日(金) 18:30~20:00	これだけは知っておきたい乳がんの基礎知識(乳腺外科学教授 遠山竜也)	
8	7月29日(金) 18:30~20:00	放射線科におけるがんの臨床(放射線医学教授 樋渡昭雄)	
講義場所	医学部・医学研究科研究棟2階 会議室4		
成績判定方法	レポート		
テキスト・参考文献	講義に関連する原著論文等		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 2階 電話853-8738 飯田 真介 e-mail : iida@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 11		
授業科目名	最新医学特論Ⅱ		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	祖父江 和哉 教授		
講義内容	基礎医学ならびに臨床医学の最新的话题を提供する。基礎研究の立場からは、最新かつ重要な課題について講義する。また、臨床医学の立場からは、臨床における最新かつ重要な課題について、基礎的研究の結果を交えて講義する。本科目により、基礎医学から臨床医学、臨床医学から基礎医学へとシームレスな知識と思考能力の育成を目的とする。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席 確認
1	10月21日(金) 18:30~20:00	内視鏡治療従事者の筋骨格系障害の予防と人間工学(環境労働衛生学准教授 榎原毅)	
2	10月28日(金) 18:30~20:00	内臓痛の発生メカニズム(麻醉科学・集中治療医学講師 草間宣好)	
3	11月4日(金) 18:30~20:00	周術期における高次脳機能障害の発生機序(麻醉科学・集中治療医学教授 祖父江和哉)	
4	11月11日(金) 18:30~20:00	硬化性胆管炎の診断と治療(地域医療教育学教授 大原弘隆)	
5	11月18日(金) 18:30~20:00	画像診断法と人工知能の融合(E)(統合解剖学教授 植木孝俊)	
6	11月25日(金) 18:30~20:00	呼吸生理学-高地での順応・適応(E)(看護学部病態学教授 薊隆文)	
7	12月2日(金) 18:30~20:00	呼吸器の構造、機能と病態生理(E)(呼吸器・免疫アレルギー内科学教授 新実彰男)	
講義場所	医学部・医学研究科研究棟2階 会議室4		
成績判定方法	レポート		
テキスト・参考文献	講義に関連する原著論文等		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 10階 電話853-8281 祖父江和哉		
	e-mail : kzsobue@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 12		
授業科目名	臨床基礎特論 I		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	森田 明理 教授		
講義内容	様々な角度から生体防御機構とそれに関連する疾患について最前線の研究成果を学習するとともに、疾病発生要因としての個人素因、生活習慣、職業環境要因や、社会の中での健康問題に関する分析および最新の知見、厚生行政・医療および関連領域の法および制度などについて学ぶ。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席 確認
1	4月20日(水) 18:30~20:00	細菌感染生体応答1(細菌学教授 長谷川忠男)	
2	4月27日(水) 18:30~20:00	細菌感染生体応答2(細菌学講師 立野一郎)	
3	5月11日(水) 18:30~20:00	免疫制御を利用した新しい免疫療法(免疫学教授 山崎小百合)	
4	5月18日(水) 18:30~20:00	補体・抗体・サイトカイン(免疫学講師 今井優樹)	
5	5月25日(水) 18:30~20:00	がんに対する免疫応答とその制御(免疫学助教 志馬寛明)	
6	6月1日(水) 18:30~20:00	免疫病理学(臨床病態病理学教授 稲垣宏)	
7	6月8日(水) 18:30~20:00	毒性発現の機序、細胞レベルでの機能異常とこれに起因する毒性(E)(分子毒性学教授 酒々井眞澄)	
8	6月15日(水) 18:30~20:00	耳鼻科咽喉科領域における免疫疾患—アレルギー性鼻炎を中心に—(高度医療教育研究センター教授 鈴木元彦)	
講義場所	医学部・医学研究科研究棟2階 会議室4		
成績判定方法	レポート		
テキスト・参考文献	講義に関連する原著論文等		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 8階 電話853-8261 森田明理		
	e-mail : amorita@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 13		
授業科目名	臨床基礎特論Ⅱ		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	上島 通浩 教授		
講義内容	この授業では、健康や社会の安全・安心を確保するためのアプローチや分析法について、発展的な内容を英語で講義する。なお、本授業は博士課程の「環境健康安全学概論I」および「予防・社会医学講義I」の一部を兼ねる。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席 確認
1	10月19日(水) 18:30~20:00	疾病原因としての職業環境要因の解明(環境労働衛生学教授 上島通浩)	
2	10月26日(水) 18:30~20:00	疫学から見た安全性の議論(公衆衛生学教授 鈴木貞夫)	
3	11月2日(水) 18:30~20:00	大気汚染の歴史と現状(環境労働衛生学准教授 伊藤由起)	
4	11月9日(水) 18:30~20:00	わが国における医薬品・医療機器開発と薬事行政(次世代医療開発学教授 神谷武)	
5	11月16日(水) 18:30~20:00	国際的な視点からみた母子保健の決定要因(環境労働衛生学特任講師 金子佳世)	
6	11月30日(水) 18:30~20:00	死因究明制度(法医学教授 青木康博)	
7	12月7日(水) 18:30~20:00	産業保健人間工学特論(環境労働衛生学准教授 榎原毅)	
講義場所	医学部・医学研究科研究棟2階 会議室4		
成績判定方法	出席、レポート等により成績評価する(詳細は授業で説明)。		
テキスト・参考文献	講義に関連する論文等を、必要に応じ講義担当教員が紹介する。		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 10階 電話853-8171 上島 通浩 e-mail : kamijima@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 14		
授業科目名	総合認知症特論		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	松川 則之 教授		
講義内容	<p>認知症診療を包括的に行うために、認知症総合的にマネージメントできる診療医・薬剤師・看護師・理学療法士・作業療法士・医療工学士の育成を目的とする。本コースでは、認知症の基礎・臨床の知識から治療・ケア介入の実践行うべく手法を学ぶ。更には、認知症を中心とした精神・神経疾患のコフォート研究を行うために、コフォートデザイン作成に向けた基礎的知識の習得と実践的な経験を旨とする。</p> <p>SOB 1: アルツハイマー病の病態が説明できる SOB 2: 他の認知症の病態が説明できる SOB 3: 神経心理検査が実施できる SOB 4: 抗認知症薬について説明できる SOB 5: 精神症状とその対症薬を説明できる SOB 6: 認知症のケア方法を立案できる SOB 7: 在宅介護の施設整備の立案ができる SOB 8: 認知症社会資源が説明できる SOB 9: 電気生理・画像を用いた神経機能評価法を説明できる SOB 10: コフォート研究をデザインできる SOB 11: コフォート研究に参加する</p>		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	4月19日(火) 18:30~20:00	認知症総論	神経内科学 松川 則之 教授
2	4月26日(火) 18:30~20:00	アルツハイマー病の基礎	神経内科学 松川 則之 教授
3	5月10日(火) 18:30~20:00	アルツハイマー病の基礎/その他の認知症の基礎	神経内科学 松川 則之 教授
4	5月17日(火) 18:30~20:00	認知症行政とネットワーク	名古屋認知症相談支援センター 鈴木善史
5	5月24日(火) 18:30~20:00	神経心理検査法	日本福祉大学 宮田 美和子 准教授
6	5月31日(火) 18:30~20:00	認知症の臨床	神経内科学 松川 則之 教授
7	6月7日(火) 18:30~20:00	認知症の画像診断	国立長寿医療研究センター 櫻井 圭太 医長
8	6月14日(火) 18:30~20:00	認知症の周辺症状とその対応	地域療養医学 赤津 裕康 教授
9	6月21日(火) 18:30~20:00	認知症のケア	看護高齢者看護学 原沢 優子 准教授
10	6月28日(火) 18:30~20:00	認知症の病診連携の実践	西部医療センター部長 片田 栄一 非常勤講師
11	7月5日(火) 18:30~20:00	認知症の鑑別診断と病態生理(電気生理)	リハビリテーション医学 植木 美乃 教授
12	7月12日(火) 18:30~20:00	脳機能評価法(画像診断法を用いて)	神経内科学 川嶋 将司 助教
13	7月19日(火) 18:30~20:00	コフォート研究デザイン	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授
14	7月26日(火) 18:30~20:00	認知症の診断バイオマーカー探索	神経内科学 松川 則之 教授
15	8月2日(火) 18:30~20:00	コフォート研究の実践	地域療養医学 赤津 裕康 教授
講義場所	医学部・医学研究科研究棟2階 会議室4		
成績判定方法	レポート		
テキスト・参考文献	講義に関連する原著論文等		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 3階 電話853-8094 松川則之		
	e-mail : norim@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 15		
授業科目名	緩和/終末期ケア特論		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	明智 龍男 教授		
講義内容	現代の医療においては、死はタブー視され、直視されない傾向が顕著である。一方、わが国では超高齢社会が到来し、がん、心不全、認知症などに罹患し、死の転帰を辿る患者が増加し続けている。緩和ケアとは、「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処(治療・処置)を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、クオリティ・オブ・ライフを改善するアプローチ」であり、がんを代表とする致死性疾患に対する診断時から終末期まで疾患の全ての軌跡を含めた全人的ケアのことを指す。本講義においては、進行性の疾患によって人生の最終段階を迎える患者のQuality of lifeを尊重することを中心的価値観とし、緩和ケアのみならず、死に関する人文社会学的知見などについて、包括的に解説する。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席 確認
1	10月18日(火) 18:30~20:00	緩和ケア概論 西部医療センター 精神科 奥山 徹 教授(診療担当)	
2	10月25日(火) 18:30~20:00	痛み 腎・泌尿器科 恵谷 俊紀 講師	
3	11月1日(火) 18:30~20:00	化学療法に関する考え方 :効果、副作用、QOLのバランス 臨床腫瘍部 小松 弘和 教授	
4	11月8日(火) 18:30~20:00	慢性疼痛の緩和:心理社会的アプローチ 精神・認知・行動医学 近藤 真前 助教	
5	11月15日(火) 18:30~20:00	薬学の視点から考える緩和ケア 薬学研究科 神経薬理学 大澤 匡弘 准教授	
6	11月22日(火) 18:30~20:00	国のがん対策と緩和ケア 精神・認知・行動医学 久保田 陽介 講師	
7	11月29日(火) 18:30~20:00	がんに伴う身体症状概論 呼吸器・免疫アレルギー内科学 前野 健 准教授	
8	12月6日(火) 18:30~20:00	精神腫瘍学 緩和ケアセンター 内田 恵 講師	
9	12月13日(火) 18:30~20:00	心不全の緩和ケア 循環器内科 北田 修一 助教	
10	12月20日(火) 18:30~20:00	高齢者医療/認知症と緩和ケア 地域医療教育学 赤津 裕康 教授(診療担当)	
11	12月27日(火) 18:30~20:00	アドバンス・ケア・プランニング 緩和ケアセンター 長谷川 貴昭 助教	
12	1月10日(火) 18:30~20:00	看護の視点から考える緩和ケア 看護学部 樫野 香苗 准教授	
13	1月17日(火) 18:30~20:00	思想学から見た痛みと死生の関係 人文社会学部 Andrea Castiglioni 講師	
14	1月24日(火) 18:30~20:00	終末期の過ごし方 名古屋徳洲会総合病院 坂本 雅樹 非常勤講師	
15	1月31日(火) 18:30~20:00	コミュニケーションと意思決定 精神・認知・行動医学 明智 龍男 教授	
講義場所	医学部・医学研究科研究棟2階 会議室4		
成績判定方法	レポート		
テキスト・参考文献	講義に関連する原著論文等		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 10階 電話853-8271 明智龍男 e-mail : takechi@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目16		
授業科目名	減災・医療概論		
必修・選択区分	修士課程1年必修		
単位認定教員	服部友紀 教授		
講義内容	到達目標 (1)減災・医療について専門的な知識を習得する (2)災害及び急性期医療から復興期医療等について専門知識やスキル修得する (3)災害弱者、特殊疾患患者の災害時の対応について学ぶ (4)演習や実習をとおしてコミュニケーション能力やリーダーシップ能力を学ぶ		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	備考
1	4/19(火) 18:30～20:00	災害医療総論① 名古屋市立大学医学研究科 先進急性期医療学 教授 服部友紀	
2	4/26(火) 18:30～20:00	災害医療総論② 名古屋市立大学病院災害医療センター センター長 山岸庸太	
3	5/10(火) 18:30～20:00	小児患者の災害時対応 名古屋市立大学病院 救急科 病院助教 今井一徳	
4	5/17(火) 18:30～20:00	妊婦の災害時対応 名古屋市立大学大学院医学研究科 共同研究教育センター 病院教授 鈴木伸宏	
5	5/24(火) 18:30～20:00	在宅酸素が必要な患者の災害時対応 名古屋市立大学大学院医学研究科 呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授 前野健	
6	5/31(火) 18:30～20:00	透析患者の災害時対応 名古屋市立大学大学院医学研究科 腎臓内科学 助教 水野晶紫	
7	6/7(火) 18:30～20:00	在宅医療・訪問診療と災害時対応 名古屋市立大学大学院医学研究科 地域医療教育学分野 教授 赤津裕康	
8	6/14(火) 18:30～20:00	災害時の薬剤師の活動① 名古屋市立大学病院病院薬剤部 副薬剤部長 江崎哲夫	
9	6/21(火) 18:30～20:00	災害時の薬剤師の活動② 名古屋市立大学大学院看護学研究科・看護学部 教授 明石恵子	
10	6/28(火) 18:30～20:00	急性期疾患シミュレーション① 名古屋市立大学医学研究科 先進急性期医療学 教授 笹野寛	
11	7/5(火) 18:30～20:00	急性期疾患シミュレーション② 名古屋市立大学医学研究科 先進急性期医療学 教授 松嶋麻子	
12	7/12(火) 18:30～20:00	特殊疾患シミュレーション～妊婦編～ 名古屋市立大学大学院医学研究科 共同研究教育センター 病院教授 鈴木伸宏	
13	7/19(火) 18:30～20:00	特殊疾患シミュレーション～在宅酸素患者編～ 名古屋市立大学大学院医学研究科 呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授 前野健	
14	7/26(火) 18:30～20:00	特殊疾患シミュレーション～透析患者編～ 名古屋市立大学大学院医学研究科 腎臓内科学 助教 水野晶紫	
15	8/2(火) 18:30～20:00	特殊疾患シミュレーション～在宅診療編～ 名古屋市立大学大学院医学研究科 地域医療教育学分野 教授 赤津裕康	
講義場所	病院西棟1階 臨床シミュレーションセンター		
成績判定方法	レポート、演習評価		
テキスト・参考文献	講義に関する原著論文、配布資料等		
単位認定教員連絡先	e-mail: thattori@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目17		
授業科目名	減災・医療学特論 I		
必修・選択区分	修士課程1年必修		
単位認定教員	笹野 寛 教授		
講義内容	<p>到達目標</p> <p>(1)減災・医療について専門的な知識を習得する</p> <p>(2)災害及び急性期医療に関する緊急事態に対応するための知識やスキル修得する</p> <p>(3)チームの中での役割を理解し、減災・医療での多職種連携の意義を理解する</p> <p>(4)演習や実習をとおしてコミュニケーション能力やリーダーシップ能力を学ぶ</p>		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	備考
1	9/6(火) 18:30～20:00	災害医療体制(名古屋市立大学病院救急科副部長/山岸庸太)	
2	9/13(火) 18:30～20:00	災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)の役割 (未定)	
3	9/20(火) 18:30～20:00	災害時の薬局医療支援(岐阜薬科大学実践社会薬学准教授/林秀樹)	
4	9/27(火) 18:30～20:00	心配蘇生法と除細動器1(名古屋市立大学病院救急科部長/服部友紀)	
5	10/4(火) 18:30～20:00	心配蘇生法と除細動器2(名古屋市立大学病院救急科部長/服部友紀)	
6	10/11(火) 18:30～20:00	中毒・熱傷の管理(名古屋市立大学病院救急科部長/松嶋麻子)	
7	10/18(火) 18:30～20:00	災害と感染症(名古屋市立大学病院救急科部長/松嶋麻子)	
8	10/25(火) 18:30～20:00	気道管理法(名古屋市立大学病院救急科部長/笹野寛)	
9	11/1(火) 18:30～20:00	災害時におけるトリアージ (名古屋市立大学病院救命救急センター看護師/寺西幸子・清水真奈美)	
10	11/8(火) 18:30～20:00	脳卒中の初期治療(名古屋市立大学病院神経内科副部長/三浦敏靖)	
11	11/15(火) 18:30～20:00	小児科救急疾患(名古屋市立大学病院救急科助教/今井一徳)	
12	11/22(火) 18:30～20:00	精神疾患の対応 (名古屋市立大学病院救急科医師/宮崎ゆか)	
13	11/29(火) 18:30～20:00	外傷の初期対応(胸部・腹部・骨盤外傷など) (名古屋市立大学病院救急科副部長/山岸庸太)	
14	12/6(火) 18:30～20:00	化学災害・化学物質テロなどの現状と対応 (名古屋市立大学脳神経科学研究所神経毒性学分野教授/酒々井眞澄)	
15	12/13(火) 18:30～20:00	アフィラキーショックへの対応 (名古屋市立大学病院救急科医師/松居両亮平)	
講義場所	病院西棟1階 臨床シミュレーションセンター		
成績判定方法	レポート、演習評価		
テキスト・参考文献	講義に関する原著論文、配布資料等		
単位認定教員連絡先	e-mail: hसानo@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目18		
授業科目名	減災・医療学特論Ⅱ		
必修・選択区分	修士課程1年必修		
単位認定教員	松嶋 麻子 教授		
講義内容	到達目標 (1)減災・医療について専門的な知識を習得する (2)災害及び急性期医療から復興期医療等について専門知識やスキル修得する (3)チームの中での役割を理解し、減災・医療での多職種連携の意義を理解する (4)演習や実習をとらしてコミュニケーション能力やリーダーシップ能力を学ぶ		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	10/21(金) 18:30～20:00	災害医療総論① 南海トラフ地震に備えた医療機関の事業継続 (名古屋市立大学/松嶋麻子)*	
2	10/28(金) 18:30～20:00	災害医療総論② 災害時の医療に関する経営戦略 (名古屋市立大学/松嶋麻子)*	
3	11/4(金) 18:30～20:00	災害ケーススタディ① 断水対応(名古屋市立大学/松嶋麻子)*	
4	11/11(金) 18:30～20:00	災害ケーススタディ② 停電対応(名古屋市立大学/松嶋麻子)*	
5	11/18(金) 18:30～20:00	災害ケーススタディ③ 情報システムの対応(名古屋市立大学/松嶋麻子)*	
6	11/25(金) 18:30～20:00	災害ケーススタディ④ ライフラインパニックと病院避難 (名古屋市立大学/松嶋麻子)*	
7	12/2(金) 18:30～20:00	災害ケーススタディ⑤ ライフラインパニックと病院支援 (名古屋市立大学/松嶋麻子)*	
8	12/9(金) 18:30～20:00	災害準備とBCP策定① 医療機関におけるBCP(名古屋市立大学/松嶋麻子)*	
9	12/16(金) 18:30～20:00	災害準備とBCP策定② 東日本大震災とBCP (名古屋市立大学/松嶋麻子)*	
10	12/23(金) 18:30～20:00	災害準備とBCP策定③ 原子力災害とBCP(名古屋市立大学/松嶋麻子)*	
11	1/6(金) 18:30～20:00	災害準備とBCP策定④ 病院BCPの策定(名古屋市立大学/松嶋麻子)*	
12	1/13(金) 18:30～20:00	マスクギャザリング対応① 大規模スポーツイベント(名古屋市立大学/松嶋麻子)*	
13	1/20(金) 18:30～20:00	マスクギャザリング対応② 大規模イベント(名古屋市立大学/松嶋麻子)*	
14	1/27(金) 18:30～20:00	シミュレーション① 災害準備とBCP策定(名古屋市立大学/松嶋麻子)*	
15	2/3(金) 18:30～20:00	シミュレーション② 災害対応と病院支援(名古屋市立大学/松嶋麻子)*	
講義場所	病院西棟1階 臨床シミュレーションセンター または web講義		
成績判定方法	レポート、演習評価		
テキスト・参考文献	講義に関する原著論文、配布資料等		
単位認定教員連絡先	e-mail: asakouab@med.nagoya-cu.ac.jp		

*講義については外部講師に変更となる場合があります。(変更後のシラバスは別途連絡。)

*外部講師の都合により、内容が変更になる場合があります。

*外部講師の場合はweb講義となります。

科目区分	共通教育科目19		
授業科目名	脳神経科学講義		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	澤本 和延 教授		
講義内容	主に脳神経科学研究所の教員(連携研究室教員を含む)が講義を担当し、神経生物学の基礎から、脳神経疾患の病態、治療、創薬まで、脳神経科学に関する様々なトピックを紹介する。 医学研究科博士課程、薬学研究科(修士・博士)および理学研究科(修士・博士)の大学院生も受講・単位取得できるように設定する。 受講者に応じて日本語または英語で実施する(開始時に英語講義希望者がいる場合は英語で講義を実施する)		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	10/19(水) 18:30~20:00	生後脳におけるニューロンの移動と再生 (神経発達・再生医学教授 澤本和延)	
2	10/26(水) 18:30~20:00	神経発達症・てんかん発症機序の解明に向けて (神経発達症遺伝学講師 鈴木俊光)	
3	11/2(水) 18:30~20:00	学習・記憶における海馬の役割 (認知機能病態学寄附講座特任助教 森下良一)	
4	11/9(水) 18:30~20:00	アルツハイマー病研究の最前線 (認知症科学特任助教 眞鍋達也)	
5	11/16(水) 18:30~20:00	線虫から明らかになった「意思決定のタイミングを決める分子機構」(理学研究科教授 木村幸太郎)	
6	11/30(水) 18:30~20:00	神経毒性学概論 (神経毒性学教授 酒々井眞澄)	
7	12/7(水) 18:30~20:00	神経細胞移動の分子機構とその関連疾患 (薬学研究科教授 服部光治)	
8	12/14(水) 18:30~20:00	Neural development in health (コペンハーゲン大学Konstantin Khodosevich准教授(医学研究科客員准教授))	
9	12/21(水) 18:30~20:00	Neural development in disease 1 (コペンハーゲン大学Konstantin Khodosevich准教授(医学研究科客員准教授))	
10	12/28(水) 18:30~20:00	Neural development in disease 2 (コペンハーゲン大学Konstantin Khodosevich准教授(医学研究科客員准教授))	
11	1/4(水) 18:30~20:00	Modern molecular and cellular biotechnology 1 (コペンハーゲン大学Konstantin Khodosevich准教授(医学研究科客員准教授))	
12	1/11(水) 18:30~20:00	Modern molecular and cellular biotechnology 2 (コペンハーゲン大学Konstantin Khodosevich准教授(医学研究科客員准教授))	
13	1/18(水) 18:30~20:00	Modern molecular and cellular biotechnology 3 (コペンハーゲン大学Konstantin Khodosevich准教授(医学研究科客員准教授))	
14	1/25(水) 18:30~20:00	哺乳類の時計中枢からの概日リズム発振機構 (豊橋技術科学大学 沼野利佳教授(医学研究科客員教授))	
15	2/1(水) 18:30~20:00	マイクロ・ナノ技術を医学・生物学研究に活用する (豊橋技術科学大学 永井萌土准教授(医学研究科客員准教授))	
講義場所	脳神経科学研究所 5階 会議室		
成績判定方法	レポート及び口頭試験など客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	教科書は指定しない。講師が講義資料(プリント等)を使用する場合がある。		
単位認定教員 連絡先	脳神経科学研究所 3階 電話853-8533 澤本和延 e-mail : sawamoto@med.nagoya-cu.ac.jp		

専門演習・特別研究科目 Specialized Medical Science Seminars and Research Training

	専門演習Ⅰ・Ⅱ (1年次) SekminarⅠ・Ⅱ (1st grade)	専門演習Ⅲ・Ⅳ (2年次) SeminarⅢ・Ⅳ (2nd grade)	特別研究Ⅰ (1年次) ResearchⅠ (1st grade)	特別研究Ⅱ (2年次) ResearchⅡ (2nd grade)	主任教員 Program Director				
統合解剖学 Integrated Anatomy	各2(計4) 2 each (total 4)	各2(計4) 2 each (total 4)	4	4	植木孝俊教授 Prof.T.Ueki				
機能組織学 Anatomy and Neuroscience					鷗川眞也教授 Prof.S.Ugawa				
神経生化学 Biochemistry					道川 誠教授 Prof.M.Michikawa				
細胞生化学 Cell Biology					加藤 洋一教授 Prof. Y. Kato				
細胞生理学 Cell Physiology					橋谷 光教授 Prof.H.Hashitani				
脳神経生理学 Neurophysiology and Brain Science					飛田秀樹教授 Prof.H.Hida				
消化器外科学 Gastroenterological Surgery					瀧口修司教授 Prof.S.Takiguchi				
腫瘍・免疫外科学 Oncology, Immunology and Surgery					未定 (to be confirmed)				
腎・泌尿器科学 Nephro-urology					安井孝周教授 Prof.T.Yasui				
心臓血管外科学 Cardiovascular Surgery					須田久雄教授 Prof.H.Suda				
乳腺外科学 Breast Surgery					遠山達也教授 Prof.T.Toyama				
小児・泌尿器科学 Pediatric urology					林祐太郎教授 Prof.Y.Hayashi				
視覚科学 Ophthalmology and Visual Science					安川 力教授 Prof.R.Yasukawa				
耳鼻咽喉・頭頸部外科学 Otolaryngology, Head and Neck Surgery					岩崎真一教授 Prof.S. Iwasaki				
加齢・環境皮膚科学 Geriatric and Environmental Dermatology					森田明理教授 Prof.A.Morita				
口腔外科学 Oral and Maxillofacial Surgery					渋谷恭之教授 Prof.Y.Shibuya				
形成外科学 Plastic Surgery					鳥山和宏教授 Prof.K.Toriyama				
実験病態病理学 Experimental Pathology and Tumor Biology					各2(計4) 2 each (total 4)	各2(計4) 2 each (total 4)	4	4	高橋 智教授 Prof.S.Takahashi
臨床病態病理学 Pathology and Molecular Diagnostics									稲垣 宏教授 Prof.H.Inagaki
病態モデル医学 Comparative and Experimental Medicine									大石 久史教授 Prof. H. Oishi
薬理学 Pharmacology	大矢 進教授 Prof. S. Ohya								
細菌学 Bacteriology	長谷川忠男教授 Prof.T.Hasegawa								
免疫学 Immunology	山崎小百合教授 Prof.S.Yamazaki								
ウイルス学 Virology	奥野友介教授 Prof.Y.Okuno								
整形外科 Orthopedic Surgery	村上英樹教授 Prof.H.Murakami								
リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine	植木美乃教授 Prof.Y. Ueki								
精神・認知・行動医学 Psychiatry and Cognitive-Behavioral Medicine	明智龍男教授 Prof.T.Akechi								
精神腫瘍学 Psycho-Oncology	明智龍男教授 Prof.T.Akechi								
脳神経外科学 Neurosurgery	間瀬光人教授 Prof.M.Mase								
産科婦人科学 Obstetrics and Gynecology	杉浦真弓教授 Prof.M.Sugiura								
新生児・小児医学 Pediatrics and Neonatology	齋藤伸治教授 Prof.S.Saitoh								

	専門演習Ⅰ・Ⅱ (1年次) SekminarⅠ・Ⅱ (1st grade)	専門演習Ⅲ・Ⅳ (2年次) SeminarⅢ・Ⅳ (2nd grade)	特別研究Ⅰ (1年次) ResearchⅠ (1st grade)	特別研究Ⅱ (2年次) ResearchⅡ (2nd grade)	主任教員 Program Director				
認知症科学 Neurocognitive Science	各2(計4) 2 each (total 4)	各2(計4) 2 each (total 4)	4	4	齊藤貴志教授 Prof.T. Saito				
グリア細胞生物学 Glial Cell Biology					浅井清文教授 Prof.K.Asai				
神経発達症遺伝学 Neurodevelopmental Disorder Genetics					山川和弘教授 Prof.K.Yamakawa				
神経毒性学 Neurotoxicology					酒々井真澄教授 Prof.M.Suzui				
神経発達・再生医学 Developmental and Regenerative Biology					澤本和延教授 Pro.K.Sawamoto				
消化器・代謝内科学 Gastroenterology and Metabolism					片岡洋望教授 Pro.H.Kataoka				
呼吸器・免疫アレルギー内科学 Respiratory Medicine, Allergy and Clinical Immunology					新実彰男教授 Prof.A.Niimi				
循環器内科学 Cardiology					瀬尾由広教授 Prof.Y.Seo				
腎臓内科学 Nephrology					濱野高行教授 Prof.T.Hamano				
神経内科学 Neurology					松川則之教授 Prof.N.Matsukawa				
地域医療教育学 Community-based Medical Education					大原弘隆教授 Prof.H.Ohara				
麻酔科学・集中治療医学 Anesthesiology and Intensive Care Medicine					祖父江和哉教授 Prof.K.Sobue				
放射線医学 Radiology					樋渡昭雄教授 Prof.A.Hiawatashi				
臨床薬剤学 Clinical Pharmaceutics					未定 (to be confirmed)				
先進急性期医療学 Advancing Acute Medicine					笹野 寛教授 Prof.H.Sasano				
					服部友紀教授 Prof.T.Hattori				
救命救急医療学 Critical care medical science					松嶋麻子教授 Prof.A.Matsushima				
感染制御機能学 Host and Virus Interaction					脇田隆字客員教授 Prof.T.Wakita				
肝炎・免疫学 Hepatitis and Immunology					溝上雅史客員教授 Prof.M.Mizokami				
血液・腫瘍内科学 Hematology and Oncology					飯田真介教授 Prof.S.Iida				
環境労働衛生学 Occupational and Environmental Health					各2(計4) 2 each (total 4)	各2(計4) 2 each (total 4)	4	4	上島通浩教授 Prof.M.Kamijima
公衆衛生学 Public Health									鈴木貞夫教授 Prof.S.Suzuki
法医学 Forensic Medicine									青木康博教授 Prof.Y.Aoki
医学・医療教育学 Medical Education									高桑 修教授 Prof.O.Takakuwa
次世代医療開発学 Medical Innovation	神谷 武教授 Prof.T.Kamiya								
医療安全管理学 Medical safety management	戸澤啓一教授 Prof.K.Tozawa								
臨床感染制御学 Clinical infection control	中村 敦教授 Prof.A.Nakamura								
臨床医療デザイン学 Clinical Medical Design	松本貴裕 教授 他 Prof T Matsumoto								

減災・医療コースについて

1. 本コースの趣旨

医学研究科修士課程に「減災・医療コース」を設置します。中部圏では南海トラフ巨大地震の発生が懸念されるなか、経済的損失への対応に加えて、いわゆる「減災」は大きな課題です。本学は現在、名古屋市と協力して附属病院に「救急・災害医療センター」の計画を進めています。また令和3年4月より名古屋市立東部・西部医療センターは大学病院化し、両センターは災害拠点病院であり、東部医療センターは救命救急センターを有します。さらに、名古屋市長が定める「第三期中期目標」では「救急医療及び災害医療の拠点として市民の命を守るための機能を強化する」ことが掲げられています。このような背景から、本コースは、減災・医療を担うキャリアアップを支援する教育システムをつくり質の高い教育を実践することで、減災・医療等に貢献できる幅広い人材を育てること、これに関連した研究を推進することを目的とします。

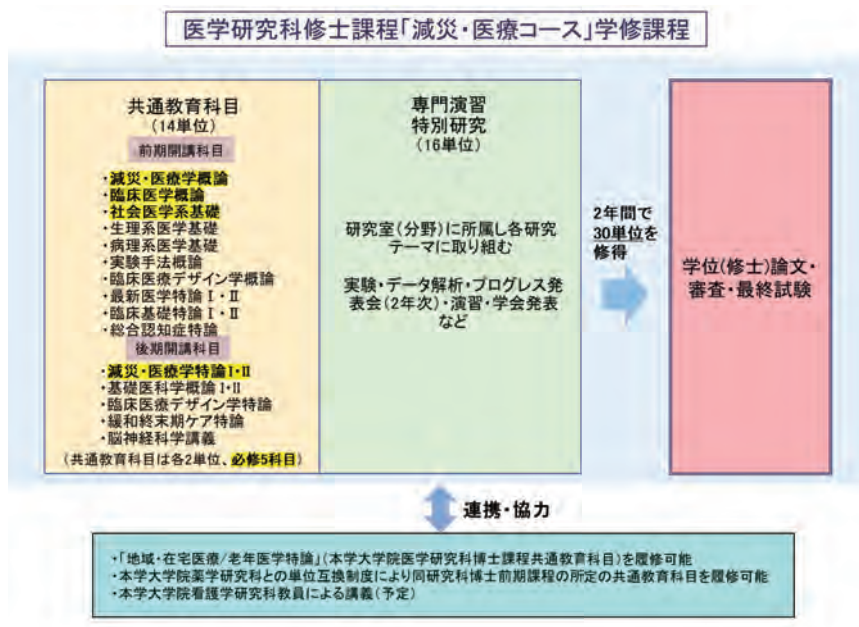
2. 授業科目・単位数・開講時期

授 業 科 目	必修・選択	単位数	開講時期
④臨床医学概論	必修	2	1年次
⑤社会医学系基礎	必修	2	1年次
⑯減災・医療学概論	必修	2	1年次
⑰減災・医療学特論Ⅰ	必修	2	1年次
⑱減災・医療学特論Ⅱ	必修	2	1年次

※ 修士課程共通教育科目となるため、必ず履修登録時に登録すること。また修士課程共通教育科目数は7科目/14単位を必須とすることから、上記を除く①～⑱の科目より2科目を選択し履修すること。

3. 学習課程と学位

医学研究科修士課程の修了要件に準ずるため、本コースに2年以上在学し、共通教育科目14単位、専門演習および特別研究16単位の計30単位取得後、学位論文を提出し審査および最終試験に合格すると、医学研究科修士課程医科学専攻の修士号が授与されます。



4. 履修方法及び学位論文審査

本シラバスの「修了要件・履修方法」を参照し、1年次の履修登録期間中に共通教育科目の登録を行うこと。また2年次の4月初旬に行うプログレス発表会は修了要件となるため、必ず出席・発表すること。

学位論文審査については、本シラバスの「学位論文審査基準」を参照すること。

定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針

(定期試験における不正行為の定義)

第1 定期試験において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) カンニング（カンニングペーパーを所持又は見ること、持込みが許可されていないテキスト等を見ること、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- (2) 試験時間中に、答えを教えるなど他の受験者を利するような行為をすること。
- (3) 試験時間中に、携帯電話等を使用して連絡を取ること。
- (4) 使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。
- (5) 試験開始の指示の前に問題を見たり解答を始めること。
- (6) 試験終了の指示に従わず、解答を続けること。
- (7) 試験時間中に、携帯電話、時計等の音（着信、アラーム、振動音等）を長時間鳴らすなど、試験の進行に多大な影響を与えること。
- (8) 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- (9) 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- (10) その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

(定期試験に代わるレポート課題における不正行為の定義)

第2 定期試験に代わるレポート課題において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) 既に公表されている著作物やウェブサイトに掲載された他人の文章や図表等の全部又は一部を、引用・出典を明示せずに、故意にあたかも自分自身の作成した文章や図表であるかのように利用すること。
- (2) 他人が作成したレポートの全部又は一部を、あたかも自分自身の作成したレポートであるかのように提出すること
- (3) その他、定期試験に代わるレポート課題の公平性を損なう行為をすること。

(処分及び措置)

第3 第1又は第2に規定する不正行為を行った学生に対しては、当該学生が所属する学部又は研究科（以下「学部等」という。）の教授会の議を経て、次の各号のいずれかの処分を行うものとする。

- (1) 学部等の長による嚴重注意
- (2) 名古屋市立大学学則第66条（名古屋市立大学大学院学則第49条において準用する場合を含む。）に基づく学長による懲戒処分（戒告、停学及び退学）

2 前項に規定する処分とあわせて、学部等の長は、学部等の教授会の議を経て、不正行為の

態様に応じて次の各号のいずれかの措置を行うものとする。

- (1) その学年における全ての科目の履修及び成績を無効とする。
- (2) その学期における全ての科目の履修を無効とする。ただし、通年科目の取扱いは、学部等の教授会で決定する。
- (3) 当該科目の履修を無効とする。なお、不正行為により教養教育の英語科目が無効となった場合は、当該処分が行われた年度には英語検定試験による単位認定は行わない。

(処分等の通知及び掲示)

第4 第3に基づき処分及び措置を行うときは、処分理由を記載した文書を当該学生に交付することにより通知するとともに、次の各号に掲げる場所に掲示することにより公示する。

- (1) 学部等の掲示板
- (2) 教養教育科目における不正行為の場合、前号に加えて教養教育の掲示板
- (3) 学長による懲戒処分を行う場合、前2号に加えて他の学部及び研究科の掲示板

2 前項に規定する掲示においては、当該学生の所属、学年、処分の種類、処分の理由を明らかにするものとする。

付 記

- 1 この指針は、平成26年4月1日から施行し、平成26年度に実施する定期試験及び定期試験に代わるレポート課題から適用する。
- 2 定期試験に準ずる試験及び集中講義に係る試験についても、この指針を準用する。
- 3 定期試験に準ずる試験に代わるレポート課題及び集中講義に係る試験に代わるレポート課題についても、この指針を準用する。
- 4 この指針に記載のない事項については、名古屋市立大学懲戒規程に定めるところによる。

【レポート課題作成時の注意】

レポートは、自分で調べたことや考えたこと等を自分の文章で記述するものです。
他の文献等を調べ学ぶことは非常に重要ですが、それを引用する場合はルールがあります。引用する場合は、引用した部分とそれに関する自分の考えの部分をはっきりと区別して示す必要があります。他人の文章、図表をあたかも自分のオリジナルであるかのように利用することは、「剽窃」(盗作)であり、定期試験等に代わるレポート課題に関しては、「定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針」に基づき、試験におけるカンニングと同様に不正行為とみなされ処分等の対象となります。授業においても指導されるレポート作成に当たってのルールを守ってレポートを提出して下さい。

令和4年度

医学研究科修士課程教育要項（共通科目シラバス）

編集 名古屋市立大学大学院医学研究科
名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1
発行 令和4年4月1日

(学籍番号：

氏名：

)

令和 4 年 度

医学研究科博士課程教育要項

(共通科目シラバス)

名古屋市立大学大学院

目 次

	頁
1 人材の養成に関する目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー	1
カリキュラムマップ	2
カリキュラムツリー	7
2 教育課程・修了要件・履修方法	8
3 学位論文審査	11
4 専門科目名・単位数	12
5 大学院博士課程共通科目	14
6 大学院博士課程共通科目授業日程表	15
7 履修登録・単位認定手続(学生)、単位認定方法(教員)	16
8 履修登録(学生控)	17
9 履修登録(記入例)	18
10 研究計画書・研究指導計画書	19
11 他研究科との単位互換	21
12 共通科目シラバス	
講 義	
① 生体機能・構造医学講義Ⅰ(動物的機能の異常とその治療に向けて)	23
② 生体情報・機能制御医学講義Ⅰ(生殖・遺伝・発達・内分泌)	24
③ 生体情報・機能制御医学講義Ⅱ(生体防御機構と疾患)	25
④ 生体情報・機能制御医学講義Ⅲ(緩和医療)	26
⑤ 生体防御・総合医学講義Ⅰ(基礎医学と臨床医学の融合)	27
⑥ 生体防御・総合医学講義Ⅱ(がん:発がんメカニズムから最新の診断・治療まで)	28
⑦ 生体防御・総合医学講義Ⅲ(認知症特論)	29
⑧ 予防・社会医学講義Ⅰ(特論と疫学統計実習)	30
⑨ 発展研究特別講義Ⅰ(英語講義)	31
⑩ 発展研究特別講義Ⅱ(英語講義)	32
⑪ 医学基礎研究特別講義(英語講義)	33
⑫ 環境健康安全管理学概論Ⅰ(英語講義)	34
⑬ 環境健康安全管理学概論Ⅱ(英語講義)	35
⑭ 薬物毒物代謝学特論(英語講義)	36
⑮ 毒性病理学特論(英語講義)	37
⑯ 脳神経科学特論	38
最先端研究の学術的セミナー(出席振替制度)	
基礎最新研究特別講義	39
臨床最新研究特別講義	40
13 環境健康安全学大学院コース履修について	41
14 コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースについて	60
15 定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分の指針	71

人材の養成に関する目的

博士課程では、独創的な研究を行う最先端の医学研究者、先端的な医療知識・技術を有した臨床医、さらにはそれらの知識・技術に基づき、医学教育を担い得る人材の養成を目的とする。

ディプロマ・ポリシー

医学研究科は、基礎医学研究者と臨床医学研究者とが自由に最先端の医学研究を共同できる体制を組織して、大学院学生の教育に当たり、独創的かつ広い視野を持つ医学研究者および高度の医療知識と技量を備えた医師を育成するという目的に鑑み、以下の能力を有すると認められた者に対し、医学博士の学位を授与します。

- ・医学・医療における未解決の諸問題に対して、独自の実験・解析法を立案できる。
- ・得られた結果の適切な評価と議論により、問題解決に迫る一連の能力を修得する。

本課程に4年以上在学し、共通科目6単位、専門科目:主科目15単位・副科目5単位および特別研究4単位の計30単位を取得後、学位論文を提出し審査および最終試験に合格することが、学位授与の必要要件です。ただし、研究成果が優れており、評価の高い国際欧文学術誌に発表された場合には、3年で学位授与される場合があります。

カリキュラムポリシー

課程編成

医学研究科博士課程では、ディプロマ・ポリシーに定める能力の修得を目指すとともに、その後に医学・医療分野において世界に伍する一流の研究者となる礎を身につけるため、講義学修により医学・医療全般のより深い知識と専門領域の最先端知識を修得し、さらに研究活動を通じて専門領域の高度先進技術を培うことで研究探究心を育みます。具体的には次のように編成しています。

実践

早期に共通科目および専門科目:主科目・副科目を受講し、特別研究を遂行する上で必要な基礎的知識・技術の修得を目指します。共通科目は英語でも開講します。

- ・特別研究では、指導教員の専門分野に所属して実践的研究活動を実施し、研究開始時に指導教員と協議して作成する研究指導計画に基づき、国際欧文学術誌作成に必要な倫理性・独自性・創造性等に関わる研究能力を培います。
- ・3-4年次では中間発表会を通じて、課程修了要件となる国際欧文学術誌に公表する論文を作成するための研究成果に対する評価能力、成果に対するプレゼンテーション能力、欧文論文作成能力を養います。
- ・MD-PhDコース選択者には、3年間での学位取得を目指した研究指導、学会発表及び論文執筆指導を行います。

学修成果の評価方法

- ・「独創的かつ広い視野」「高度の医療知識と技量」の評価は、共通科目の成績（講義毎のレポート、口頭試験などの客観的評価を含む総合的評価による）に基づいて行います。
- ・「独自の実験・解析法の立案」「得られた結果の適切な評価と議論による問題解決能力」については、専門科目および特別研究で養い、研究計画書の内容及び研究室での発表等に基づき、指導教員が評価します。
- ・総合的な学修成果の評価は、中間発表会と学位論文に基づいて評価します。中間発表会では、指導教員及び大学院教務委員会委員が学修成果の獲得状況について確認します。学位論文は、医学研究科教授会において選出された主査1名と副査2名の審査委員からなる審査委員会が開催する公開審査において審査します。

名古屋市立大学カリキュラムマップ

医学研究科博士課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

医学研究科は、基礎医学研究者と臨床医学研究者とが自由に最先端の医学研究を共同できる体制を組織して、大学院学生の教育に当たり、独創的かつ広い視野を持つ医学研究者および高度の医療知識と技量を備えた医師を育成するという目的に鑑み、以下の能力を有すると認められた者に対し、医学博士の学位を授与します。

- (a) 医学・医療における未解決の諸問題に対して、独自の実験・解析法を立案できる。
- (b) 得られた結果の適切な評価と議論により、問題解決に迫る一連の能力を修得する。

本課程に4年以上在学し、共通科目6単位、専門科目：主科目15単位・副科目5単位および特別研究4単位の計30単位を取得後、学位論文を提出し審査および最終試験に合格することが、学位授与の必要要件です。ただし、研究成果が優れており、評価の高い国際欧文学術誌に発表された場合には、3年で学位授与される場合があります。

分類	科目コード	科目名	独創的かつ広い視野	医療知識と技量	実験・解析法の立案	問題解決能力	ナンバリング	
共通科目	MDSE0002	生体機能・構造医学講義Ⅰ	○	○			1217001	
	MDSE0009	生体情報・機能制御医学講義Ⅰ	○	○			1217002	
	MDSE0010	生体情報・機能制御医学講義Ⅱ	○	○			1217003	
	MDSE0011	生体情報・機能制御医学講義Ⅲ	○	○			1217004	
	MDSE0016	生体防御・総合医学講義Ⅰ	○	○			1217005	
	MDSE0017	生体防御・総合医学講義Ⅱ	○	○			1217006	
	MDSE0018	生体防御・総合医学講義Ⅲ	○	○			1217007	
	MDY00001	予防・社会医学講義Ⅰ	○	○			1217008	
	MDHA0001	発展研究特別講義Ⅰ（英語講義）	○	○			1217009	
	MDHA0002	発展研究特別講義Ⅱ（英語講義）	○	○			1217010	
	MDII0020	医学基礎研究特別講義（英語講義）	○	○			1217011	
	MDKA0001	環境健康安全管理学概論Ⅰ	○	○			1217012	
	MDKA0002	環境健康安全管理学概論Ⅱ	○	○			1217013	
	MDD00001	毒性病理学特論	○	○			1217014	
	MDYA0001	薬物・毒物代謝学特論	○	○			1217015	
	MDN00001	脳神経科学特論	○	○			1217016	
			基礎最新研究特別講義	○	○			1217017
			臨床最新研究特別講義	○	○			1217018
	MDT00001	統合解剖学 講義A			○		1217019	
	MDT00002	統合解剖学 講義B			○		1217020	
	MDT00003	統合解剖学 演習			○		1217021	
	MDT00004	統合解剖学 実験・実習A			○		1217022	
	MDT00005	統合解剖学 実験・実習B			○		1217023	
	MDKI0007	機能組織学 講義A			○		1217024	
	MDKI0008	機能組織学 講義B			○		1217025	
	MDKI0009	機能組織学 演習			○		1217026	
	MDKI0010	機能組織学 実験・実習A			○		1217027	
	MDKI0011	機能組織学 実験・実習B			○		1217028	
	MDBI0006	神経生化学 講義A			○		1217029	
	MDBI0007	神経生化学 講義B			○		1217030	
	MDBI0008	神経生化学 演習			○		1217031	
	MDBI0009	神経生化学 実験・実習A			○		1217032	
	MDBI0010	神経生化学 実験・実習B			○		1217033	
	MDSA0036	細胞生化学 講義A			○		1217034	
	MDSA0037	細胞生化学 講義B			○		1217035	
	MDSA0938	細胞生化学 演習			○		1217036	
	MDSA0039	細胞生化学 実験・実習A			○		1217037	
	MDSA0040	細胞生化学 実験・実習B			○		1217038	
	MDSA0041	細胞生理学 講義A			○		1217039	
	MDSA0042	細胞生理学 講義B			○		1217040	
	MDSA0043	細胞生理学 演習			○		1217041	
	MDSA0044	細胞生理学 実験・実習A			○		1217042	
	MDSA0045	細胞生理学 実験・実習B			○		1217043	
	MDN00002	脳神経生理学 講義A			○		1217044	
	MDN00003	脳神経生理学 講義B			○		1217045	
MDN00004	脳神経生理学 演習			○		1217046		
MDN00005	脳神経生理学 実験・実習A			○		1217047		
MDN00006	脳神経生理学 実験・実習B			○		1217048		
MDSI0023	消化器外科学 講義A			○		1217049		

生体機能・構造医学専攻

MDSI0024	消化器外科学 講義B			○		1217050
MDSI0025	消化器外科学 演習			○		1217051
MDSI0026	消化器外科学 実験・実習A			○		1217052
MDSI0027	消化器外科学 実験・実習B			○		1217053
MDSI0003	腫瘍・免疫外科学 講義A			○		1217054
MDSI0004	腫瘍・免疫外科学 講義B			○		1217055
MDSI0005	腫瘍・免疫外科学 演習			○		1217056
MDSI0006	腫瘍・免疫外科学 実験・実習A			○		1217057
MDSI0907	腫瘍・免疫外科学 実験・実習			○		1217058
MDZI0006	腎・泌尿器科学 講義A			○		1217059
MDZI0007	腎・泌尿器科学 講義B			○		1217060
MDZI0008	腎・泌尿器科学 演習			○		1217061
MDZI0009	腎・泌尿器科学 実験・実習A			○		1217062
MDZI0010	腎・泌尿器科学 実験・実習B			○		1217063
MDSI0013	心臓血管外科学 講義A			○		1217064
MDSI0014	心臓血管外科学 講義B			○		1217065
MDSI0015	心臓血管外科学 演習			○		1217066
MDSI0016	心臓血管外科学 実験・実習A			○		1217067
MDSI0017	心臓血管外科学 実験・実習B			○		1217068
MDNY0001	乳腺外科学 講義A			○		1217069
MDNY0002	乳腺外科学 講義B			○		1217070
MDNY0003	乳腺外科学 演習			○		1217071
MDNY0004	乳腺外科学 実験・実習A			○		1217072
MDNY0005	乳腺外科学 実験・実習B			○		1217073
MDSI0069	小児・泌尿器科学 講義A			○		1217074
MDSI0070	小児・泌尿器科学 講義B			○		1217075
MDSI0071	小児・泌尿器科学 演習			○		1217076
MDSI0072	小児・泌尿器科学 実験・実習A			○		1217077
MDSI0073	小児・泌尿器科学 実験・実習B			○		1217078
MDSI0018	視覚科学 講義A			○		1217079
MDSI0019	視覚科学 講義B			○		1217080
MDSI0020	視覚科学 演習			○		1217081
MDSI0021	視覚科学 実験・実習A			○		1217082
MDSI0022	視覚科学 実験・実習B			○		1217083
MDZI0016	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 講義A			○		1217084
MDZI0017	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 講義B			○		1217085
MDZI0018	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 演習			○		1217086
MDZI0019	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 実験・実習A			○		1217087
MDZI0020	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 実験・実習B			○		1217088
MDKA0005	加齢・環境皮膚科学 講義A			○		1217089
MDKA0006	加齢・環境皮膚科学 講義B			○		1217090
MDKA0007	加齢・環境皮膚科学 演習			○		1217091
MDKA0008	加齢・環境皮膚科学 実験・実習A			○		1217092
MDKA0009	加齢・環境皮膚科学 実験・実習B			○		1217093
MDK00002	口腔外科学 講義A			○		1217094
MDK00003	口腔外科学 講義B			○		1217095
MDK00004	口腔外科学 演習			○		1217096
MDK00005	口腔外科学 実験・実習A			○		1217097
MDK00006	口腔外科学 実験・実習B			○		1217098
MDKE0017	形成外科学 講義A			○		1217099
MDKE0018	形成外科学 講義B			○		1217100
MDKE0019	形成外科学 演習			○		1217101
MDKE0020	形成外科学 実験・実習A			○		1217102
MDKE0021	形成外科学 実験・実習B			○		1217103
MDZI0001	実験病態病理学 講義A			○		1217104
MDZI0002	実験病態病理学 講義B			○		1217105
MDZI0003	実験病態病理学 演習			○		1217106
MDZI0004	実験病態病理学 実験・実習A			○		1217107
MDZI0005	実験病態病理学 実験・実習B			○		1217108
MDRI0001	臨床病態病理学 講義A			○		1217109
MDRI0002	臨床病態病理学 講義B			○		1217110
MDRI0003	臨床病態病理学 演習			○		1217111
MDRI0004	臨床病態病理学 実験・実習A			○		1217112
MDRI0005	臨床病態病理学 実験・実習B			○		1217113
MDBI0001	病態モデル医学 講義A			○		1217114
MDBI0002	病態モデル医学 講義B			○		1217115
MDBI0003	病態モデル医学 演習			○		1217116
MDBI0004	病態モデル医学 実験・実習A			○		1217117
MDBI0005	病態モデル医学 実験・実習B			○		1217118

生体情報・機能制御医学専攻

MDYA0001	薬理学 講義A			○		1217119
MDYA0002	薬理学 講義B			○		1217120
MDYA0003	薬理学 演習			○		1217121
MDYA0004	薬理学 実験・実習A			○		1217122
MDYA0005	薬理学 実験・実習B			○		1217123
MDSA0016	細菌学 講義A			○		1217124
MDSA0017	細菌学 講義B			○		1217125
MDSA0018	細菌学 演習			○		1217126
MDSA0019	細菌学 実験・実習A			○		1217127
MDSA0020	細菌学 実験・実習B			○		1217128
MDME0003	免疫学 講義A			○		1217129
MDME0004	免疫学 講義B			○		1217130
MDME0005	免疫学 演習			○		1217131
MDME0006	免疫学 実験・実習A			○		1217132
MDME0007	免疫学 実験・実習B			○		1217133
MDUU0001	ウイルス学 講義A			○		1217134
MDUU0002	ウイルス学 講義B			○		1217135
MDUU0003	ウイルス学 演習			○		1217136
MDUU0004	ウイルス学 実験・実習A			○		1217137
MDUU0005	ウイルス学 実験・実習B			○		1217138
MDSE0049	整形外科学 講義A			○		1217139
MDSE0050	整形外科学 講義B			○		1217140
MDSE0051	整形外科学 演習			○		1217141
MDSE0052	整形外科学 実験・実習A			○		1217142
MDSE0053	整形外科学 実験・実習B			○		1217143
MDRI0041	リハビリテーション医学 講義A			○		1217144
MDRI0042	リハビリテーション医学 講義B			○		1217145
MDRI0043	リハビリテーション医学 演習			○		1217146
MDRI0044	リハビリテーション医学 実験・実習A			○		1217147
MDRI0045	リハビリテーション医学 実験・実習B			○		1217148
MDSE0034	精神・認知・行動医学 講義A			○		1217149
MDSE0035	精神・認知・行動医学 講義B			○		1217150
MDSE0036	精神・認知・行動医学 演習			○		1217151
MDSE0037	精神・認知・行動医学 実験・実習A			○		1217152
MDSE0038	精神・認知・行動医学 実験・実習B			○		1217153
MDSE0054	精神腫瘍学 講義A			○		1217154
MDSE0055	精神腫瘍学 講義B			○		1217155
MDSE0056	精神腫瘍学 演習			○		1217156
MDSE0057	精神腫瘍学 実験・実習A			○		1217157
MDSE0058	精神腫瘍学 実験・実習B			○		1217158
MDNO0007	脳神経外科学 講義A			○		1217159
MDNO0008	脳神経外科学 講義B			○		1217160
MDNO0009	脳神経外科学 演習			○		1217161
MDNO0010	脳神経外科学 実験・実習A			○		1217162
MDNO0011	脳神経外科学 実験・実習B			○		1217163
MDSA0021	産科婦人科学 講義A			○		1217164
MDSA0022	産科婦人科学 講義B			○		1217165
MDSA0023	産科婦人科学 演習			○		1217166
MDSA0024	産科婦人科学 実験・実習A			○		1217167
MDSA0025	産科婦人科学 実験・実習B			○		1217168
MDSI0038	新生児・小児医学 講義A			○		1217169
MDSI0039	新生児・小児医学 講義B			○		1217170
MDSI0040	新生児・小児医学 演習			○		1217171
MDSI0041	新生児・小児医学 実験・実習A			○		1217172
MDSI0042	新生児・小児医学 実験・実習B			○		1217173
MDNI0001	認知症医学 講義A			○		1217174
MDNI0002	認知症医学 講義B			○		1217175
MDNI0003	認知症医学 演習			○		1217176
MDNI0004	認知症医学 実験・実習A			○		1217177
MDNI0005	認知症医学 実験・実習B			○		1217178
MDGU0001	グリア細胞生物学 講義A			○		1217179
MDGU0002	グリア細胞生物学 講義B			○		1217180
MDGU0003	グリア細胞生物学 演習			○		1217181
MDGU0004	グリア細胞生物学 実験・実習A			○		1217182
MDGU0005	グリア細胞生物学 実験・実習B			○		1217183
MDSI0074	神経発達症遺伝学 講義A			○		1217184
MDSI0075	神経発達症遺伝学 講義B			○		1217185
MDSI0076	神経発達症遺伝学 演習			○		1217186
MDSI0077	神経発達症遺伝学 実験・実習A			○		1217187

専門科目

MDSI0078	神経発達症遺伝学 実験・実習B			○	1217188
MDSI0079	神経毒性学 講義A			○	1217189
MDSI0080	神経毒性学 講義B			○	1217190
MDSI0081	神経毒性学 演習			○	1217191
MDSI0082	神経毒性学 実験・実習A			○	1217192
MDSI0083	神経毒性学 実験・実習B			○	1217193
MDSI0084	神経発達・再生医学 講義A			○	1217194
MDSI0085	神経発達・再生医学 講義B			○	1217195
MDSI0086	神経発達・再生医学 演習			○	1217196
MDSI0087	神経発達・再生医学 実験・実習A			○	1217197
MDSI0088	神経発達・再生医学 実験・実習B			○	1217198
MDSI0063	消化器・代謝内科学 講義A			○	1217199
MDSI0064	消化器・代謝内科学 講義B			○	1217200
MDSI0065	消化器・代謝内科学 演習			○	1217201
MDSI0066	消化器・代謝内科学 実験・実習A			○	1217202
MDSI0067	消化器・代謝内科学 実験・実習B			○	1217203
MDK00014	呼吸器・免疫アレルギー内科学 講義A			○	1217204
MDK00015	呼吸器・免疫アレルギー内科学 講義B			○	1217205
MDK00016	呼吸器・免疫アレルギー内科学 演習			○	1217206
MDK00017	呼吸器・免疫アレルギー内科学 実験・実習			○	1217207
MDK00018	呼吸器・免疫アレルギー内科学 実験・実習			○	1217208
MDZI0026	循環器内科学 講義A			○	1217209
MDZI0027	循環器内科学 講義B			○	1217210
MDZI0028	循環器内科学 演習			○	1217211
MDZI0029	循環器内科学 実験・実習A			○	1217212
MDZI0030	循環器内科学 実験・実習B			○	1217213
MDZI0031	腎臓内科学 講義A			○	1217214
MDZI0032	腎臓内科学 講義B			○	1217215
MDZI0033	腎臓内科学 演習			○	1217216
MDZI0034	腎臓内科学 実験・実習A			○	1217217
MDZI0035	腎臓内科学 実験・実習B			○	1217218
MDSI0048	神経内科学 講義A			○	1217219
MDSI0049	神経内科学 講義B			○	1217220
MDSI0050	神経内科学 演習			○	1217221
MDSI0051	神経内科学 実験・実習A			○	1217222
MDSI0052	神経内科学 実験・実習B			○	1217223
MDKE0012	血液・腫瘍内科学 講義A			○	1217224
MDKE0013	血液・腫瘍内科学 講義B			○	1217225
MDKE0014	血液・腫瘍内科学 演習			○	1217226
MDKE0015	血液・腫瘍内科学 実験・実習A			○	1217227
MDKE0016	血液・腫瘍内科学 実験・実習B			○	1217228
MDTI0003	地域医療教育学 講義A			○	1217229
MDTI0004	地域医療教育学 講義B			○	1217230
MDTI0005	地域医療教育学 演習			○	1217231
MDTI0006	地域医療教育学 実験・実習A			○	1217232
MDTI0007	地域医療教育学 実験・実習B			○	1217233
MDMA0001	麻酔科学・集中治療医学 講義A			○	1217234
MDMA0002	麻酔科学・集中治療医学 講義B			○	1217235
MDMA0003	麻酔科学・集中治療医学 演習			○	1217236
MDMA0004	麻酔科学・集中治療医学 実験・実習A			○	1217237
MDMA0005	麻酔科学・集中治療医学 実験・実習B			○	1217238
MDHO0001	放射線医学 講義A			○	1217239
MDHO0002	放射線医学 講義B			○	1217240
MDHO0003	放射線医学 演習			○	1217241
MDHO0004	放射線医学 実験・実習A			○	1217242
MDHO0005	放射線医学 実験・実習B			○	1217243
MDRI0036	臨床薬剤学 講義A			○	1217244
MDRI0037	臨床薬剤学 講義B			○	1217245
MDRI0038	臨床薬剤学 演習			○	1217246
MDRI0039	臨床薬剤学 実験・実習A			○	1217247
MDRI0040	臨床薬剤学 実験・実習B			○	1217248

	MDSE0066	先進急性期医療学 講義A			○	1217249	
	MDSE0067	先進急性期医療学 講義B			○	1217250	
	MDSE0068	先進急性期医療学 演習			○	1217251	
	MDSE0069	先進急性期医療学 実験・実習A			○	1217252	
	MDSE0070	先進急性期医療学 実験・実習B			○	1217253	
	MDKI0017	救命救急医療学 講義A			○	1217254	
	MDKI0018	救命救急医療学 講義B			○	1217255	
	MDKI0019	救命救急医療学 演習			○	1217256	
	MDKI0020	救命救急医療学 実験・実習A			○	1217257	
	MDKI0021	救命救急医療学 実験・実習B			○	1217258	
	MDKA0020	感染制御機能学 講義A			○	1217259	
	MDKA0021	感染制御機能学 講義B			○	1217260	
	MDKA0022	感染制御機能学 演習			○	1217261	
	MDKA0023	感染制御機能学 実験・実習A			○	1217262	
	MDKA0024	感染制御機能学 実験・実習B			○	1217263	
	MDKA0025	肝炎・免疫学 講義A			○	1217264	
	MDKA0026	肝炎・免疫学 講義B			○	1217265	
	MDKA0027	肝炎・免疫学 演習			○	1217266	
	MDKA0028	肝炎・免疫学 実験・実習A			○	1217267	
	MDKA0029	肝炎・免疫学 実験・実習B			○	1217268	
予防・ 社会医学専攻	MDKA0035	環境労働衛生学 講義A			○	1217269	
	MDKA0036	環境労働衛生学 講義B			○	1217270	
	MDKA0037	環境労働衛生学 演習			○	1217271	
	MDKA0038	環境労働衛生学 実験・実習A			○	1217272	
	MDKA0039	環境労働衛生学 実験・実習B			○	1217273	
	MDK00007	公衆衛生学 講義A			○	1217274	
	MDK00008	公衆衛生学 講義B			○	1217275	
	MDK00009	公衆衛生学 演習			○	1217276	
	MDK00010	公衆衛生学 実験・実習A			○	1217277	
	MDK00011	公衆衛生学 実験・実習A			○	1217278	
	MDH00011	法医学 講義A			○	1217279	
	MDH00012	法医学 講義B			○	1217280	
	MDH00013	法医学 演習			○	1217281	
	MDH00014	法医学 実験・実習A			○	1217282	
	MDH00015	法医学 実験・実習B			○	1217283	
	MDII0005	医学・医療情報管理学 講義A			○	1217284	
	MDII0006	医学・医療情報管理学 講義B			○	1217285	
	MDII0007	医学・医療情報管理学 演習			○	1217286	
	MDII0008	医学・医療情報管理学 実験・実習A			○	1217287	
	MDII0009	医学・医療情報管理学 実験・実習B			○	1217288	
	MDII0010	医学・医療教育学 講義A			○	1217289	
	MDII0011	医学・医療教育学 講義B			○	1217290	
	MDII0012	医学・医療教育学 演習			○	1217291	
	MDII0013	医学・医療教育学 実験・実習A			○	1217292	
	MDII0014	医学・医療教育学 実験・実習B			○	1217293	
	MDZI0021	次世代医療開発学 講義A			○	1217294	
	MDZI0022	次世代医療開発学 講義B			○	1217295	
	MDZI0023	次世代医療開発学 演習			○	1217296	
	MDZI0024	次世代医療開発学 実験・実習A			○	1217297	
	MDZI0025	次世代医療開発学 実験・実習B			○	1217298	
	MDII0021	医療安全管理学 講義A			○	1217299	
	MDII0022	医療安全管理学 講義B			○	1217300	
	MDII0023	医療安全管理学 演習			○	1217301	
	MDII0024	医療安全管理学 実験・実習A			○	1217302	
	MDII0025	医療安全管理学 実験・実習B			○	1217303	
	MDRI0046	臨床感染制御学 講義A			○	1217304	
	MDRI0047	臨床感染制御学 講義B			○	1217305	
	MDRI0048	臨床感染制御学 演習			○	1217306	
	MDRI0049	臨床感染制御学 実験・実習A			○	1217307	
	MDRI0050	臨床感染制御学 実験・実習B			○	1217308	
	学安環 院全学 スロ健康 ！大	MDSA0046	産官学環境健康安全学インターンシップ			○	1217309
		MDGU0006	グローバルプレゼンテーション			○	1217310
		MDKA0040	環境健康安全学課題解決アクティブラーニング			○	1217311
	特別 研究	MDSE0033	生体機能・構造医学 特別研究			○	1217312
		MDSE0059	生体情報・機能制御医学 特別研究			○	1217313
MDSE0065		生体防御・総合医学 特別研究			○	1217314	
MDY00004		予防・社会医学 特別研究			○	1217315	

※ナンバリング 121…医学研究科 7…水準7：博士課程レベル 000…科目通し番号

教育課程・修了要件・履修方法

(1) 教育課程

教育課程は、下記の3種類の科目群により構成する。

A 共通科目

医学の研究や実践を遂行する上で、各専攻の枠を越え、共通して必要と考えられる基礎的知識・技術の習得、さらには、最先端医学・医療の知識を習得することを目的とした科目である。

B 専門科目

専門分野の知識・技術を習得し、医学研究科大学院学生としての専門性を獲得するとともに、博士論文の立案、作成時に基盤となる知識・技術を習得することを目的とした科目である。専門分野の授業は、各科目とも共通に、講義A、講義B、演習、実験・実習A、実験・実習Bを開講する。

C 特別研究

教員の指導のもと特定の研究テーマを設定し、専門科目、共通科目で習得した知識・技術を応用し、博士論文を作成することを目的とした科目である。

(2) 修了要件

専門科目、共通科目、特別研究にて合計30単位以上を修得し、かつ中間発表会を経たうえで、最終試験及び博士論文の審査に合格すること。中間発表は3年次に行うものとし、原則として口頭発表とする。なお中間発表会は学位申請の必須要件とする。

※2022年度中間発表会：2022年8月26日(金) 講義室A・講義室B(研究棟11階)

【対象】令和2年度(4月・10月)入学者

【発表形式】口頭発表(10～15分程度)

国費外国人留学生の優先配置を行うプログラム(以下「特別プログラム」)の学生は、専門科目、共通科目、特別研究にて合計37単位以上を修得しなければならない。

A 共通科目

共通科目として開講される講義、演習の中から選択し、原則として1年から2年にかけて3科目6単位以上を修得する。

特別プログラムの学生は、同プログラム向け共通履修科目の中から必ず6科目6単位を選択しなければならない。修得した単位は共通科目6単位として読みかえる。

B 専門科目

1) 主科目

博士論文作成の基盤となる知識・技術を習得するため、専攻に設けた分野を1つ選択し、分野のうちから講義A、講義B、演習、実験・実習A、実験・実習Bが同一名称で構成される授業科目を、主として履修する科目(以下「主科目」という。)として選択し、1年次に講義4単位、1～2年次に演習3単位及び実験・実習8単位、合計15単位を修

得しなければならない。

2) 副科目

主科目において習得する知識・技術の理解を深めるとともに、応用の幅を広げ、博士論文作成の推進を補完するため、副として履修する科目（以下「副科目」という）として所属専攻内の他分野から講義は1年次に、演習、実験・実習は1～2年次に合計5単位以上を修得しなければならない。但し、講義、演習を修得せず、実験・実習のみを修得することはできない。また指導教員と相談のうえ、他専攻の専門科目を選択し、修得することもできる。

なお、特別プログラム向け「環境健康安全学大学院コース」は、独立した専攻分野とみなし、副科目とする。特別プログラムの学生は上述の副科目5単位以上に加え、「環境健康安全学大学院コース」7単位を必ず修得しなければならない。

C 特別研究

1年から4年にかけて4単位以上を修得する。

(注) 授業科目の単位数は、講義は15時間、演習は30時間、実験・実習は45時間、特別研究は30時間で1単位である。

(3) 履修方法

A 共通科目

共通科目は、4専攻の総合性を生かした内容になっているので、選択に当たっては、主科目担当教員の指導のもと、大学院学生としての幅広い知識、技術が習得できるように配慮すること。

特別プログラムの学生は、主科目担当教員の指導のもと、同プログラム向け共通履修科目の中から少なくとも6科目を必ず選択すること。

※基礎最新研究/臨床最新研究特別講義

この講義は、当初出席を予定していた講義に出席できなくなり単位を取得できなかった場合に共通科目講義への出席として振替えることができる。(特別講義1回の出席を共通科目講義1回の出席に振替える。)なお11回に満たない分の出席数を特別講義で補うことはできるが、同講義は不定期開催であるため、なるべく履修した科目に出席するよう努めること。また振替は同じ年度内の講義で行い、振替えなかった特別講義の出席を翌年度に繰り越すことはできない。開講は、研究棟1階エレベーター前掲示板及びE-mailで随時告知する。

《事前学習について》

講義に関連する原著論文等を事前に確認しておくなど、事前学習に努めること。

B 専門科目

入学時において専攻内に設けられた専門分野を選択し、各々の専門分野の専門科目から主科目としての講義、演習、実験・実習が同一名称の科目を選択しなければならない。

副科目は、主科目との関連で科目を選択する事が望ましい。そのため副科目の選択に当たっては、主科目担当教員による指導を受けること。

特別プログラムの学生は上述の副科目に加え、「環境健康安全学大学院コース」を必ず

履修すること。

C 特別研究

特別研究のテーマは、主科目として選択した科目の研究指導教員による指導に基づいて設定すること。

論文指導は、主指導教員と副指導教員による複数指導体制で実施する。なお、主指導教員には上記研究指導員があたり、副指導教員には原則として副科目の担当教員があたる。従って研究の推進状況に応じ、両指導教員の助言を随時受けること。

(4) 「環境健康安全学大学院コース」について

このコースは、「2019年度国費外国人留学生の優先配置を行うプログラム」の採択に伴い、令和2年度秋入学より ASEAN 諸国を中心とした地域から学生（国費・私費留学生及び日本人学生）を受け入れる。

英語による講義、演習、指導等を行い、原則として4年間で修了する。修了要件は、37単位以上（同プログラム向け共通履修科目及び共通科目6単位以上、主科目15単位、副科目12単位以上、特別研究4単位以上）を修得し、かつ3年次の中間発表会を経たうえで、最終試験及び博士論文の審査に合格することで、博士（医学）の学位とコース修了証が授与される。

学位論文審査

名古屋市立大学大学院医学研究科における、博士課程学位論文に関する事項は以下の通りとする。

《学位論文の要件・審査》

- ・博士課程学位論文は、原著論文であること。また、欧文専門学術誌の公表論文であり、共著の場合は学位申請者が当該論文の筆頭著者であること。
- ・博士課程学位論文の審査にあたっては、研究科教授会にて選出された3名の審査員（主査1名、副査2名）により、審査委員会を設置し、公聴会を開催する。
- ・博士課程学位論文の判定にあたっては、審査委員会の公聴会を経て、別に定める「博士課程学位論文審査基準」に基づき、審査委員各々が5点法（5点が満点）により評価し、審査委員の評点平均が3点以上の場合、審査委員会の判定を合格とする。審査委員会は、学位授与報告書をもって公聴会の結果を研究科教授会に報告し、研究科教授会が審査結果の可否を議決する。
- ・博士課程学位論文の提出の手続きについては、別に定める。

*博士課程学位論文審査基準

1. 課題設定の明確性
研究の背景と意義、またそれらに基づく研究の目的を明確に説明ができる。
2. 研究方法の妥当性
研究方法を理解してわかりやすく説明ができる。
3. 論旨の一貫性と論理性
研究目的、方法、結果、考察の過程においてその論旨が一貫しており、かつ論理的に説明ができる。
4. 社会的な貢献と発展性
研究成果の社会貢献と研究の今後の発展性について具体的に説明ができる。
5. 知識の習得
専攻分野の知識が身につけており、審査委員の質疑に回答できる。

注) 3年次の中間発表会での発表が学位申請の必須要件となるので、必ず出席・発表を行うこと。

専門科目名・単位数 Specialized Programs Credits

生体機能・構造医学専攻	講義A	講義B	演習	実験・実習A	実験・実習B	主任教員
Structure and Function in Biomedical Sciences	LectureA	LectureB	Seminar	ExperimentA	ExperimentB	Course Director
統合解剖学 Integrated Anatomy	2	2	3	4	4	植木孝俊教授 Prof.T.Ueki
機能組織学 Anatomy and Neuroscience	2	2	3	4	4	鶴川真也教授 Prof.S.Ugawa
神経生化学 Biochemistry	2	2	3	4	4	道川 誠教授 Prof.M.Michikawa
細胞生化学 Cell Biology	2	2	3	4	4	加藤 洋一教授 Prof. Y. Kato
細胞生理学 Cell Physiology	2	2	3	4	4	橋谷 光教授 Prof.H.Hashitani
脳神経生理学 Neurophysiology and Brain Science	2	2	3	4	4	飛田秀樹教授 Prof.H.Hida
消化器外科学 Gastroenterological Surgery	2	2	3	4	4	瀧口修司教授 Prof.S.Takiguchi
腫瘍・免疫外科学 Oncology, Immunology and Surgery	2	2	3	4	4	未定 (to be confirmed)
腎・泌尿器科学 Nephro-urology	2	2	3	4	4	安井孝周教授 Prof.T.Yasui
心血管外科学 Cardiovascular Surgery	2	2	3	4	4	須田久雄教授 Prof.H.Suda
乳腺外科学 Breast Surgery	2	2	3	4	4	遠山達也教授 Prof.T.Toyama
小児・泌尿器科学 Pediatric urology	2	2	3	4	4	林祐太郎教授 Prof.Y.Hayashi
視覚科学 Ophthalmology and Visual Science	2	2	3	4	4	安川 力教授 Prof.R.Yasukawa
耳鼻咽喉・頭頸部外科学 Otolaryngology, Head and Neck Surgery	2	2	3	4	4	岩崎真一教授 Prof.S. Iwasaki
加齢・環境皮膚科学 Geriatric and Environmental Dermatology	2	2	3	4	4	森田明理教授 Prof.A.Morita
口腔外科学 Oral and Maxillofacial Surgery	2	2	3	4	4	渋谷恭之教授 Prof.Y.Shibuya
形成外科学 Plastic Surgery	2	2	3	4	4	鳥山和宏教授 Prof.K.Toriyama
生体情報・機能制御医学専攻	講義A	講義B	演習	実験・実習A	実験・実習B	主任教員
Biosignaling and Regulation in Medical Sciences	LectureA	LectureB	Seminar	ExperimentA	ExperimentB	Course Director
実験病態病理学 Experimental Pathology and Tumor Biology	2	2	3	4	4	高橋 智教授 Prof.S.Takahashi
臨床病態病理学 Pathology and Molecular Diagnostics	2	2	3	4	4	稲垣 宏教授 Prof.H.Inagaki
病態モデル医学 Comparative and Experimental Medicine	2	2	3	4	4	大石 久史教授 Prof. H. Oishi
薬理学 Pharmacology	2	2	3	4	4	大矢 進教授 Prof. S. Ohya
細菌学 Bacteriology	2	2	3	4	4	長谷川忠男教授 Prof.T.Hasegawa
免疫学 Immunology	2	2	3	4	4	山崎小百合教授 Prof.S.Yamazaki
ウイルス学 Virology	2	2	3	4	4	奥野友介教授 Prof.Y.Okuno
整形外科学 Orthopedic Surgery	2	2	3	4	4	村上英樹教授 Prof.H.Murakami
リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine	2	2	3	4	4	植木美乃教授 Prof.Y. Ueki
精神・認知・行動医学 Psychiatry and Cognitive-Behavioral Medicine	2	2	3	4	4	明智龍男教授 Prof.T.Akechi
精神腫瘍学 Psycho-Oncology	2	2	3	4	4	明智龍男教授 Prof.T.Akechi
脳神経外科学 Neurosurgery	2	2	3	4	4	間瀬光人教授 Prof.M.Mase
産科婦人科学 Obstetrics and Gynecology	2	2	3	4	4	杉浦真弓教授 Prof.M.Sugiura
新生児・小児医学 Pediatrics and Neonatology	2	2	3	4	4	齋藤伸治教授 Prof.S.Saitoh

生体防御・総合医学専攻	講義A	講義B	演習	実験・実習A	実験・実習B	主任教員
Biodefense System and Comprehensive MedicalSciences	LectureA	LectureB	Seminar	ExperimentA	ExperimentB	Course Director
認知症科学 Neurocognitive Science	2	2	3	4	4	齊藤貴志教授 Prof.T. Saito
グリア細胞生物学 Glial Cell Biology	2	2	3	4	4	浅井清文教授 Prof.K.Asai
神経発達症遺伝学 Neurodevelopmental Disorder Genetics	2	2	3	4	4	山川和弘教授 Prof.K.Yamakawa
神経毒性学 Neurotoxicology	2	2	3	4	4	酒々井眞澄教授 Prof.M.Suzui
神経発達・再生医学 Developmental and Regenerative Biology	2	2	3	4	4	澤本和延教授 Pro.K.Sawamoto
消化器・代謝内科学 Gastroenterology and Metabolism	2	2	3	4	4	片岡望洋教授 Pro.H.Kataoka
呼吸器・免疫アレルギー内科学 Respiratory Medicine, Allergy and Clinical Immunology	2	2	3	4	4	新実彰勇教授 Prof.A.Niimi
循環器内科学 Cardiology	2	2	3	4	4	瀬尾由広教授 Prof.Y.Seo
腎臓内科学 Nephrology	2	2	3	4	4	濱野高行教授 Prof.T.Hamano
神経内科学 Neurology	2	2	3	4	4	松川則之教授 Prof.N.Matsukawa
地域医療教育学 Community-based Medical Education	2	2	3	4	4	大原弘隆教授 Prof.H.Ohara
麻酔科学・集中治療医学 Anesthesiology and Intensive Care Medicine	2	2	3	4	4	祖父江和哉教授 Prof.K.Sobue
放射線医学 Radiology	2	2	3	4	4	樋渡昭雄教授 Prof.A.Hiawatashi
臨床薬剤学 Clinical Pharmaceutics	2	2	3	4	4	未定 (to be confirmed)
先進急性期医療学 Advancing Acute Medicine	2	2	3	4	4	笹野 寛教授 Prof.H.Sasano 服部友紀教授 Prof.T.Hattori
救命救急医療学 Critical care medical science	2	2	3	4	4	松嶋麻子教授 Prof.A.Matsushima
感染制御機能学 Host and Virus Interaction	2	2	3	4	4	脇田隆字客員教授 Prof.T.Wakita
肝炎・免疫学 Hepatitis and Immunology	2	2	3	4	4	溝上雅史客員教授 Prof.M.Mizokami
血液・腫瘍内科学 Hematology and Oncology	2	2	3	4	4	飯田真介教授 Prof.S.Iida
予防・社会医学専攻	講義A	講義B	演習	実験・実習A	実験・実習B	主任教員
Community Medicine,Environmental Health Sciencesand Medical Education	LectureA	LectureB	Seminar	ExperimentA	ExperimentB	Course Director
環境労働衛生学 Occupational and Environmental Health	2	2	3	4	4	上島浩通教授 Prof.M.Kamijima
公衆衛生学 Public Health	2	2	3	4	4	鈴木貞夫教授 Prof.S.Suzuki
法医学 Forensic Medicine	2	2	3	4	4	青木康博教授 Prof.Y.Aoki
医学・医療教育学 Medical Education	2	2	3	4	4	高桑 修教授 Prof.O.Takakuwa
次世代医療開発学 Medical Innovation	2	2	3	4	4	神谷 武教授 Prof.T.Kamiya
医療安全管理学 Medical safety management	2	2	3	4	4	戸澤啓一教授 Prof.K.Tozawa
臨床感染制御学 Clinical infection control	2	2	3	4	4	中村 敦教授 Prof.A.Nakamura

特別研究	Research Training Program	単位数・Credits
生体機能・構造医学特別研究	Structure and Function in Biomedical Sciences Research Training Program	4
生体情報・機能制御医学特別研究	Biosignaling and Regulation in Medical Sciences Research Training Program	4
生体防御・総合医学特別研究	Biodefense System and Comprehensive MedicalSciences Research Training Program	4
予防・社会医学特別研究	Community Medicine,Environmental Health Sciences and Medical Education Research Training Program	4

令和4年度大学院博士課程共通科目

April 2022 – March 2023 General Medical Science Courses Schedule: Elective courses for basic education

日程番号 Schedule Number	履修規程上の科目名称	シラバス等に記載する副題	単位認定教員 Course Director
①	生体機能・構造医学講義 I	(動物的機能の異常とその治療に向けて)	飛田 秀樹 教授
	Lecture 1 of Structure and Function Biomedical Sciences: Frontier research in animal function of human being		Prof.H. Hida
②	生体情報・機能制御医学講義 I	(生殖・遺伝・発達・内分泌)	杉浦 真弓 教授
	Lecture 1 of Biosignaling and Regulation in Medical Sciences: Reproductive Genetics, Development, Endocrinology		Prof.M. Sugiura
③	生体情報・機能制御医学講義 II	(生体防御機構と疾患)	森田 明理 教授
	Lecture 2 of Biosignaling and Regulation in Medical Sciences: Biodefense system and Diseases		Prof.A. Morita
④	生体情報・機能制御医学講義 III	(緩和医療)	明智 龍男 教授
	Lecture 3 of Biosignaling and Regulation in Medical Sciences: Palliative Medicine		Prof.T. Akechi
⑤	生体防御・総合医学講義 I	(基礎医学と臨床医学の融合)	祖父江 和哉 教授
	Lecture 1 of Biodefense System and Comprehensive Medical Sciences: Fusion of rudimentary medicine and clinical medicine		Prof.K. Sobue
⑥	生体防御・総合医学講義 II	(がん: 発がんメカニズムから最新の診断・治療まで)	飯田 真介 教授
	Lecture 2 of Biodefense System and Comprehensive Medical Sciences: Cancer; From molecular pathogenesis to the most recent diagnostic procedures and treatment		Prof.S. Iida
⑦	生体防御・総合医学講義 III	(認知症特論)	松川 則之 教授
	Lecture 3 of Biodefense System and Comprehensive Medical Sciences: Intensive course of medical practice for dementia		Prof.N.Matsukawa
⑧	予防・社会医学講義 I	(社会における医学・医療と疫学統計解析法)	上島 通浩 教授
	Lecture 1 of Community Medicine and Environmental Health Sciences: Health science and healthcare management on our society and methods of statistical analyses		Prof.M. Kamijima
⑨	発展研究特別講義 I	(英語講義)	橋谷 光 教授
	Special lecture in advanced reserch I: Recent advances in medical researches		Prof.H. Hashitani
⑩	発展研究特別講義 II	(英語講義)	加藤 洋一 教授
	Special lecture in advanced reserch II: Advanced reserch in medical science will be lectured from faculty members that belongs to the departments of basic science.		Prof.Y. Kato
⑪	医学基礎研究特別講義 ※外国人学生のみ履修可	(英語講義)	稲垣 宏 教授
	Special lecture in medical basic research: Advanced reserch in medical science will be lectured from faculty members that belongs to the departments of basic science.		Prof.H. Inagaki
⑫	環境健康安全管理学概論 I ※「特別プログラム」学生のみ履修可	(英語講義)	上島 通浩 教授
	Introduction of environmental health and safety management I		Prof.M. Kamijima
⑬	環境健康安全管理学概論 II ※「特別プログラム」学生のみ履修可	(英語講義)	上島 通浩 教授
	Introduction of environmental health and safety management II		Prof.M. Kamijima
⑭	薬物・毒物代謝学特論 ※「特別プログラム」学生のみ履修可	(英語講義)	酒々井 真澄 教授
	Intensive courses of Metabolism of drugs and toxins		Prof.M. Suzui
⑮	毒性病理学特論 ※「特別プログラム」学生のみ履修可	(英語講義)	高橋 智 教授
	Intensive courses of Toxicologic pathology		Prof.S. Takahashi
⑯	脳神経科学特論		澤本 和延 教授
	Advanced Brain Science		Prof.K. Sawamoto

授業時間 : (5限)午後4時20分～午後5時50分 (夜間)午後6時30分～午後8時00分

School Hours: (5th period) 4.20pm-5.50pm (evening class) 6.30pm-8pm

令和4年度博士課程 共通科目 授業日程表

時限	月曜日							火曜日							水曜日							木曜日							金曜日											
	1	2	3	4	5	夜		1	2	3	4	5	夜		1	2	3	4	5	夜		1	2	3	4	5	夜		1	2	3	4	5	夜						
4月																																								
	4					5							6																											
	11					12							13																											
	18				⑬	②	19						⑦	20							③											⑩	22							⑥
	25				⑬	②	26						⑦	27							③											⑩	29	祝日						
5月	2						3	祝日					4	祝日																										
	9				⑬	②	10						⑦	11							③											⑩	13							⑥
	16				⑬	②	17						⑦	18							③											⑩	20							⑥
	23				⑬	②	24						⑦	25							③											⑩	27							⑥
	30				⑬	②	31						⑦	1							③											⑩	3							⑥
6月	6				⑬	②	7						⑦	8							③											⑩	10							⑥
	13				②		14						⑦	15							③											⑩	17							⑥
	20				②		21						⑦	22							③										⑮	⑩	24							⑥
	27				②		28						⑦	29							③										⑮	⑩	1							⑥
7月	4				②		5						⑦	6							③										⑮	⑩	8							⑥
	11				②		12						⑦	13							③										⑮	⑩	15							⑥
	18	祝日					19						⑦	20							③										⑮	⑩	22							⑥
	25				②		26						⑦	27							③										⑮	⑩	29							⑥
8月	1				②		2						⑦	3							③										⑮	⑩	5							⑥
	8				②		9							10																	11	祝日	12							
	15						16							17																			19							
	22						23							24																			26							
	29						30							31																			1							2
9月	5						6							7																			8							9
	12						13							14																			15							16
	19	祝日					20							21																			22							23
	26						27							28																			29							30
10月	3						4							5																			6							7
	10	祝日					11							12																			13							14
	17				⑨		18						④	19							⑧⑫	⑮	20						①	21							⑭	⑤		
	24				⑨		25						④	26							⑧⑫	⑮	27						①	28							⑭	⑤		
	31				⑨		1						④	2							⑧⑫	⑮	3	祝日						4							⑭	⑤		
11月	7				⑨		8						④	9							⑧⑫	⑮	10						①	11							⑭	⑤		
	14				⑨		15						④	16							⑧⑫	⑮	17						①	18							⑭	⑤		
	21				⑨		22						④	23	祝日						④	30						①	25							⑭	⑤			
	28				⑨		29						④	30							⑧⑫	⑮	1						①	2							⑭	⑤		
12月	5				⑨		6						④	7							⑧⑫	⑮	8						①	9							⑤			
	12				⑨		13						④	14							⑧	⑮	15						①	16							⑤			
	19				⑨		20						④	21							⑧	⑮	22						①	23							⑤			
	26				⑨		27						④	28							⑧	⑮	29							30										
1月	2						3	祝日					4							⑧	⑮	5						①	6							⑤				
	9	祝日					10						④	11							⑧	⑮	12						①	13							⑤			
	16				⑨		17						④	18							⑧	⑮	19						①	20							⑤			
	23				⑨		24						④	25							⑧	⑮	26						①	27							⑤			
	30				⑨		31						④	1							⑧	⑮	2						①	3							⑤			
2月	6				⑨		7						8																	①	10									
	13						14							15																			16							
	20						21							22																			23	祝日						24

共通教育科目一覧

- ① 生体機能・構造医学講義Ⅰ ② 生体情報・機能制御医学講義Ⅰ ③ 生体情報・機能制御医学講義Ⅱ ④ 生体情報・機能制御医学講義Ⅲ ⑤ 生体防御・総合医学講義Ⅰ
- ⑥ 生体防御・総合医学講義Ⅱ ⑦ 生体防御・総合医学講義Ⅲ ⑧ 予防・社会医学講義Ⅰ ⑨ 発展研究特別講義Ⅰ ⑩ 発展研究特別講義Ⅱ
- ⑪ 医学基礎研究特別講義※外国人学生のみ履修可(黄色ハイライトで示した日) ⑫ 環境健康安全管理学概論Ⅰ ⑬ 環境健康安全管理学概論Ⅱ ⑭ 薬物・毒物代謝学特論
- ⑮ 毒性病理学特論 ⑯ 脳神経科学特論

1時限: 9:00~10:30 2時限: 10:40~12:10 3時限: 13:00~14:30 4時限: 14:40~16:10 5時限: 16:20~17:50 夜間: 18:30~20:00
 ※⑫~⑮の科目は国費優先配置プログラムの学生のみ履修可能です。⑬環境健康安全管理学概論Ⅱは⑫の概論Ⅰの受講を前提としています。

履修登録・単位認定手続(学 生)

専門科目(主科目)

- ① 大学院入学志願時に志望した科目が、専門科目(主科目)となる。
- ② 履修後、履修簿に単位認定教員の認印を受領すること。

専門科目(副科目)―別紙「履修登録」を提出

- ① 専門科目名・単位数(P5～6)を参照し、主科目以外の専門科目から選択し、履修登録を提出すること。
- ② 履修後、履修簿に単位認定教員の認印を受領すること。

共通科目―別紙「履修登録」を提出

- ① シラバスを参照のうえ、原則として1年から2年にかけて6単位以上修得できるよう選択し、履修登録を提出すること。2年までに修得することが困難な場合は、4年までに修得できるよう計画すること。
- ② 共通科目の授業に出席した時は、シラバスの出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領すること。
- ③ 授業終了後、履修簿に共通科目毎に決められている単位認定教員(シラバス参照)の認印を受領すること。

共通科目―医学会総会(時期未定:決定後連絡)

例会・総会に同一年度に出席することによって、共通科目の出席として振替えることができる。(例会・総会に90分出席した場合は、共通科目1コマ分の出席とみなす。(180分出席した場合は2コマ分の出席となる。))

日程未定により後日医学会より案内される。

単位認定方法(教 員)

- ① 共通科目担当教員は、授業終了毎に学生の提出するシラバスの出席確認欄に認印又はサインをすること。
- ② 共通科目担当教員は、授業終了毎に学生の出席記録を共通科目毎に決められている単位認定教員(シラバス参照)に提出すること。
- ③ 単位認定教員は、出席記録及びレポート等の課題や試験など客観的評価を含む総合的評価により単位を認定し、成績評価と単位認定の結果を教育研究課大学院担当に報告すること。

令和4年度

履 修 登 録 (学 生 控)

専門科目(副科目)

授 業 科 目

副科目は、講義、演習、実験・実習を選択で5単位以上修得が必要。

「専門科目名・単位数」を参照し、主科目以外の専門科目を登録すること。

複数の副科目を登録することも可能である。

※「特別プログラム」の学生は「環境健康安全学大学院コース」も必ず登録すること

原則として1年から2年にかけて6単位以上修得できるよう登録すること。2年までに修得することが困難な場合は、4年までに修得できるよう計画すること。

Schedule Number	授 業 科 目	副 題	単位数
1	生体機能・構造医学講義Ⅰ	動物的機能の異常とその治療に向けて	2
2	生体情報・機能制御医学講義Ⅰ	生殖・遺伝・発達・内分泌	2
3	生体情報・機能制御医学講義Ⅱ	生体防御機構と疾患	2
4	生体情報・機能制御医学講義Ⅲ	緩和医療	2
5	生体防御・総合医学講義Ⅰ	基礎医学と臨床医学の融合	2
6	生体防御・総合医学講義Ⅱ	がん：発がんメカニズムから最新の診断・治療まで	2
7	生体防御・総合医学講義Ⅲ	認知症特論	2
8	予防・社会医学講義Ⅰ	特論と疫学統計実習	2
9	発展研究特別講義Ⅰ	(英語講義)	2
10	発展研究特別講義Ⅱ	(英語講義)	2
11	医学基礎研究特別講義 ※外国人学生のみ履修可	(英語講義)	2
12	環境健康安全管理学概論Ⅰ ※「特別プログラム」学生のみ履修可	(英語講義)	2
13	環境健康安全管理学概論Ⅱ ※「特別プログラム」学生のみ履修可	(英語講義)	2
14	薬物・毒物代謝学特論 ※「特別プログラム」学生のみ履修可	(英語講義)	2
15	毒性病理学特論 ※「特別プログラム」学生のみ履修可	(英語講義)	2
16	脳神経科学特論		2

(注1) 令和4年度に履修する科目の番号に○をすること。但し、同一年度に履修登録できる科目は3科目まで。

令和4年度

履 修 登 録 (記 入 例)

学籍番号 221700

専門科目(主科目) △△△△△学

氏 名

専門科目(副科目)

授 業 科 目
〇〇〇〇学

副科目は、講義、演習、実験・実習を選択で5単位以上修得が必要。

「専門科目名・単位数」を参照し、主科目以外の専門科目を登録すること
複数の副科目を登録することも可能である。

※「特別プログラム」の学生は「環境健康安全学大学院コース」も必ず登録すること

原則として1年から2年にかけて6単位以上修得できるよう登録すること。2年までに修得することが困難な場合は、4年までに修得できるよう計画すること。

Schedule Number	授 業 科 目	副 題	単位数
1	生体機能・構造医学講義 I	動物的機能の異常とその治療に向けて	2
2	生体情報・機能制御医学講義 I	生殖・遺伝・発達・内分泌	2
3	生体情報・機能制御医学講義 II	生体防御機構と疾患	2
④	生体情報・機能制御医学講義 III	緩和医療	2
⑤	生体防御・総合医学講義 I	基礎医学と臨床医学の融合	2
6	生体防御・総合医学講義 II	がん: 発がんメカニズムから最新の診断・治療まで	2
7	生体防御・総合医学講義 III	認知症特論	2
8	予防・社会医学講義 I	特論と疫学統計実習	2
9	発展研究特別講義 I	(英語講義)	2
10	発展研究特別講義 II	(英語講義)	2
11	医学基礎研究特別講義 ※外国人学生のみ履修可	(英語講義)	2
12	環境健康安全管理学概論 I ※「特別プログラム」学生のみ履修可	(英語講義)	2
13	環境健康安全管理学概論 II ※「特別プログラム」学生のみ履修可	(英語講義)	2
14	薬物・毒物代謝学特論 ※「特別プログラム」学生のみ履修可	(英語講義)	2
15	毒性病理学特論 ※「特別プログラム」学生のみ履修可	(英語講義)	2
16	脳神経科学特論		2

(注1) 令和4年度に履修する科目の番号に○をすること。但し、同一年度に履修登録できる科目は3科目まで。

令和 年度 研究計画書

研究科名・専攻名		学 籍 番 号	
所 属 分 野		指 導 教 員	
フリガナ			
氏 名			

■研究課題

題 目	
概 要	

■研究計画

学 生	計 画
	当初計画（二年次）
	当初計画（三年次）
	当初計画（四年次）

※本計画書は1年次の5月末（10月入学の場合は11月末）までに作成、指導教員にメールにて送付すること。

※指導教員は担当学生全員分をまとめて毎年6月末（10月入学の場合は12月末）までに大学院担当宛にメールにて送付すること。

令和 年度 研究指導計画書

研究科名・専攻名		学籍番号	
所属分野		指導教員	
フリガナ		学 年	年
氏 名			

■研究計画

学 生	進捗状況と本年度の計画と目標（1年生は除く）
教 員	進捗状況とその評価・達成度と本年度の指導計画

※本指導計画書は学生が毎年5月末（10月入学の場合は11月末）までに作成、指導教員にメールにて送付すること。

※指導教員は学生から提出された指導計画書の該当部分に記入、担当学生全員分をまとめて毎年6月末（10月入学の場合は12月末）までに大学院担当宛にメールにて送付すること。

薬→医

博士前期

医薬品産業特論	前期前半	木 4 限
生命倫理特論	前期前半	木 5 限
レギュラトリーサイエンス (医薬品安全性評価学)	前期後半	木 6 限
創薬生命科学特別講義Ⅲ	後期前半	木 3 限
専門科目特論科目	各分野が主催する科目	

博士課程

医薬品安全性評価学 (レギュラトリーサイエンス)	前期後半	木 6 限
コミュニティファーマシー	前期前半	木 6 限
個人差・オーダーメイド医療薬学	前期後半	木 5 限
病院臨床薬剤学	後期前半	水 1 限

医→薬

博士課程

⑦生体防御・総合医学講義Ⅲ-認知症特論	前期火曜
④生体情報・機能制御医学講義Ⅲ-緩和医療	後期火曜
⑤生体防御・総合医学講義Ⅰ-基礎医学と臨床医学の融合	後期金曜
⑥生体防御・総合医学講義Ⅱ-がん：発がんメカニズムから最新の診断・治療まで	前期金曜
⑧予防・社会医学講義Ⅰ-社会医学、疫学統計	後期水曜
⑩脳神経科学特論	後期水曜

修士課程

③共通科目 3 実験手法概論	8月集中講義
④共通科目 4 臨床医学概論	前期金曜 3・4 限
⑤共通科目 5 社会医学系基礎	前期月曜 3・4 限
⑥共通科目 6 基礎医科学概論Ⅰ (英語講義)	後期水曜 3 限
⑦共通科目 7 基礎医科学概論Ⅱ (英語講義)	後期水曜 4 限
⑩共通科目 10 最新医学概論Ⅰ	前期金曜夜間
⑪共通科目 11 最新医学概論Ⅱ	後期金曜夜間
⑱脳神経科学講義	後期水曜夜間

医→理

博士課程

⑩脳神経科学特論	後期水曜
----------	------

修士課程

⑱脳神経科学講義	後期水曜夜間
----------	--------

環境健康安全学大学院コース 国費優先配置 P 履修者のみ受講可

薬学【博士前期科目】

衛生化学特論	前期後半	水 2 限
薬用資源学特論	後期前半	木 4 限
レギュラトリーサイエンス	前期後半	木 6 限
化学物質と環境	後期集中	12月予定
グリーンケミストリー	前期集中	6月予定

医学【医学博士課程科目】

⑫環境健康安全管理学概論Ⅰ	後期水曜夜間
⑬環境健康安全管理学概論Ⅱ (Ⅰの受講が前提)	前期月曜 5 限
⑭薬物・毒物代謝学特論	後期金曜 5 限
⑮毒性病理学特論	前期木曜 5 限

理学

データサイエンス特論	前期
自然科学と環境持続性(SDGs)概論	前期

他研究科との単位互換における内規

第1条 目的

この内規は、名古屋市立大学大学院医学研究科において、同大学大学院他研究科との単位互換の実施に関し、必要な事項を定めること目的としている。

第2条 履修科目等

- (1) 修士課程学生は本学大学院薬学研究科の博士前期課程を履修することができる。
- (2) 博士課程学生は薬学研究科の博士前期課程及び博士課程の授業科目及びシステム自然科学研究科の博士前期課程の授業科目を履修することができる。
- (3) 1項及び2項の定めにより履修できる授業科目は各研究科の専門科目とし、4単位まで履修することができる。

第3条 履修登録

- (1) 学生が、前条の規定により他研究科の授業科目を履修し単位を取得しようとするときは、主指導教員の承認を得なければならない。
- (2) 学生は、所定の期間内に定められた手続きに従って履修登録を行わなければならない。

第4条 単位認定

- (1) 単位認定は、授業科目修了後に他研究科から送付される「成績証明書」等の通知に基づき、共通科目の単位として単位認定する。
- (2) 前項の単位の認定については、教授会の議を経て行うものとする。

第5条 その他

- (1) 前各号に定める事項以外のことが発生した場合は、教授会の議を経て研究科長が決定する。

附則

1. この内規は令和2年4月1日より施行する。
2. 前項の施行日以前に入学した学生についても、これを適用する。

科目名	①生体機能・構造医学講義Ⅰ－動物の機能の異常とその治療に向けて－			
	Lecture 1 of Structure and Function Biomedical Sciences: Frontier research in animal function of human being			
単位認定教員	氏名	飛田秀樹教授	所属	脳神経生理学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	<p>“ヒトは外部の状況変化に対応した最適な運動・行動の遂行により、社会的文化的生活を営んでいる。感覚系によるセンシング、記憶にもとづく脳での認知・判断、神経・筋による運動実行系が、健全に作用しているためである。この動物の機能が障害されたさまざまな疾患が知られている。本授業では、この動物の機能の異常疾患に関する研究内容について、幹細胞、再生医療、感覚器、リハビリテーション、小児疾患、医工学等をキーワードとする最先端研究の講義を行う。</p> <p>E: 英語対応(開始時に英語講義希望者がいる場合には英語での講義となります)”</p>			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	10月20日(木)	神経疾患への幹細胞移植と課題	脳神経生理学 飛田 秀樹 教授	
	10月27日(木)	成体脳の幹細胞	再生医学 澤本 和延 教授	
	11月10日(木)	触覚と味覚のクロストーク	機能組織学 鶴川 真也 教授	
	11月17日(木)	脳出血後のリハビリによる障害運動機能の改善メカニズム	脳神経生理学 飛田 秀樹 教授	
	11月24日(木)	神経内科的ニューロリハビリの実際	リハビリテーション医学 植木 美乃 教授	
	12月1日(木)	脳の神経再生とリハビリの基礎研究(E)	脳神経生理学 田尻 直輝 准教授	
	12月8日(木)	脳虚血の病態と最新治療(E)	脳神経外科学 間瀬 光人 教授	
	12月15日(木)	オリゴデンドロサイトと脳機能	脳神経生理学 清水 健史 講師	
	12月22日(木)	神経・精神疾患とマルチモーダルGABA	浜松医科大学 神経生理学 福田 敦夫 教授	
	1月5日(木)	脳を保護するエリスロポエチン	薬学研究科 青山 峰芳 教授	
	1月12日(木)	脳保護療法の臨床応用…ダーウィンの海と死の谷を越えて	新生児・小児医学 岩田 欧介 准教授	
	1月19日(木)	小児運動機能障害に対するリハビリテーション的アプローチの実際	リハビリテーション医学 村上 里奈 助教	
	1月26日(木)	発達障害の分子遺伝学	神経発達症遺伝学 山川 和弘 教授	
	2月2日(木)	器官発生の異常と小児外科、漏斗胸	腫瘍免疫外科学 近藤 知史 病院准教授	
2月9日(木)	脊椎腫瘍の最新治療	整形外科 村上 英樹 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注)授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	②生体情報・機能制御医学講義Ⅰ ー生殖・遺伝・発達・内分泌ー			
	Lecture1 of Biosignaling and Regulation in Medical Sciences: Reproductive Genetics, Development, Endocrinology			
単位認定教員	氏名	杉浦真弓教授	所属	産科婦人科学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	ヒトの生殖・発達に関する遺伝学的、内分泌学的機能について学ぶ。 E: 英語対応(開始時に英語講義希望者がいる場合には英語での講義となります)			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	4月18日(月)	染色体複製と分配	細胞生化学 加藤 洋一 教授	
	4月25日(月)	生殖医学	産科婦人科学 杉浦 真弓 教授	
	5月9日(月)	胎児医療	臨床遺伝医療部 鈴森 伸宏 准教授	
	5月16日(月)	ヒト生殖におけるプロテアーゼおよびインヒビターの役割(E)	西部医療センター産婦人科学 尾崎 康彦 教授	
	5月23日(月)	ゲノムインプリンティングと疾患(E)	新生児・小児医学 齋藤 伸治 教授	
	5月30日(月)	生殖補助医療	産科婦人科学 佐藤 剛 准教授	
	6月6日(月)	細胞活動の共鳴から生体リズム, 脳機能への発達(E)	新生児・小児医学 岩田欧介准教授	
	6月13日(月)	男性不妊症	西部医療センター泌尿器科学 梅本 幸裕 教授	
	6月20日(月)	先天性心疾患の外科治療 ー現状と展開ー	東部医療センター心臓血管外科学 浅野 美樹 教授	
	6月27日(月)	男性性機能障害	臨床薬理学 木村 和哲 教授	
	7月4日(月)	小児腫瘍の基礎(E)	薬学研究科 青山 峰芳 教授	
	7月11日(月)	発達障害	こころの医療センター 山田 敦朗 講師	
	7月25日(月)	神経の発達	医学医療情報管理学 片野 広之 准教授	
	8月1日(月)	小児泌尿器疾患	小児泌尿器科学 林 祐太郎 教授	
8月8日(月)	小児先天性外科疾患	腫瘍免疫外科学 近藤 知史 病院准教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注)授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	③生体情報・機能制御医学講義Ⅱ ー生体防御機構と疾患ー			
	Lecture2 of Biosignaling and Regulation in Medical Sciences: Biodefense system and Diseases			
単位認定教員	氏名	森田明理教授	所属	加齢・環境皮膚科学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	<p>様々な角度から生体防御機構とそれに関連する疾患について最前線の研究成果を学習することを目的とする。微生物感染に対する生体応答、免疫学の基礎、免疫系の先天的、後天的異常、過剰反応がもたらす疾患(先天的免疫不全症、膠原病、アレルギー疾患)、毒性学について具体的に学ぶ。</p> <p>E: 英語対応(開始時に英語講義希望者がいる場合には英語での講義となります)</p>			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	4月20日(水)	細菌感染生体応答1	細菌学 長谷川 忠男 教授	
	4月27日(水)	細菌感染生体応答2	細菌学 立野一郎 講師	
	5月11日(水)	免疫制御を利用した新しい免疫療法	免疫学 山崎 小百合 教授	
	5月18日(水)	補体・抗体・サイトカイン	免疫学 今井 優樹 講師	
	5月25日(水)	がんに対する免疫応答とその制御	免疫学 志馬 寛明 講師	
	6月1日(水)	免疫病理学	臨床病態病理学 稲垣 宏 教授	
	6月8日(水)	毒性発現の機序、細胞レベルでの機能異常とこれに起因する毒性(E)	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
	6月15日(水)	耳鼻咽喉科領域における免疫疾患ーアレルギー性鼻炎を中心にー	高度医療教育研究センター 鈴木 元彦 教授	
	6月22日(水)	B型肝炎ウイルスの病態形成機序	熊本大学 田中 靖人 教授	
	6月29日(水)	HCV感染が宿主に与える影響	中央臨床検査部 井上 貴子 講師	
	7月6日(水)	B型肝炎ウイルスと免疫(E)	国立感染症研究所 五十川 正記 室長	
	7月13日(水)	炎症性サイトカインを標的としたリウマチ性疾患治療の現状	呼吸器・免疫アレルギー内科学 難波 大夫 病院准教授	
	7月20日(水)	わが国の医療関連感染の管理	臨床感染制御学 中村 敦 教授	
	7月27日(水)	関節リウマチの病態と治療法	グリア細胞生物学 川口 洋平	
8月3日(水)	抗原提示と樹状細胞(E)	加齢・環境皮膚科学 森田 明理 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注)授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	④生体情報・機能制御医学講義Ⅲ ー緩和医療ー			
	Lecture3 of Biosignaling and Regulation in Medical Sciences: Palliative Medicine			
単位認定教員	氏名	明智龍男 教授	所属	精神・認知・行動医学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	現代の医療においては、死はタブー視され、直視されない傾向が顕著である。一方、わが国では超高齢社会が到来し、がん、心不全、認知症などに罹患し、死の転帰を辿る患者が増加し続けている。緩和ケアとは、「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処（治療・処置）を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、クオリティ・オブ・ライフを改善するアプローチ」であり、がんを代表とする致死性の疾患に対する診断時から終末期まで疾患の全ての軌跡を含めた全人的ケアのことを指す。本講義においては、進行性の疾患によって人生の最終段階を迎える患者のQuality of lifeを尊重することを中心的価値観とし、緩和ケアのみならず、死に関する人文社会学的知見などについて、包括的に解説する。			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	10月18日(火)	緩和ケア概論	西部医療センター 精神科 奥山 徹 教授(診療担当)	
	10月25日(火)	痛み	腎・泌尿器科 恵谷 俊紀 講師	
	11月1日(火)	化学療法に関する考え方 : 効果、副作用、QOLのバランス	臨床腫瘍部 小松 弘和 教授	
	11月8日(火)	慢性疼痛の緩和 : 心理社会的アプローチ	精神・認知・行動医学 近藤 真前 助教	
	11月15日(火)	薬学の視点から考える緩和ケア	薬学研究科 神経薬理学 大澤 匡弘 准教授	
	11月22日(火)	国のがん対策と緩和ケア	精神・認知・行動医学 久保田 陽介 講師	
	11月29日(火)	がんに伴う身体症状概論	呼吸器・免疫アレルギー内科学 前野 健 准教授	
	12月6日(火)	精神腫瘍学	緩和ケアセンター 内田 恵 講師	
	12月13日(火)	心不全の緩和ケア	循環器内科 北田 修一 助教	
	12月20日(火)	高齢者医療/認知症と緩和ケア	地域医療教育学 赤津 裕康 教授(診療担当)	
	12月27日(火)	アドバンス・ケア・プランニング	緩和ケアセンター 長谷川 貴昭 助教	
	1月10日(火)	看護の視点から考える緩和ケア	看護学部 樺野 香苗 准教授	
	1月17日(火)	思想学から見た痛みと死生の関係	人文社会学部 Andrea Castiglioni 講師	
	1月24日(火)	終末期の過ごし方	名古屋徳洲会総合病院 坂本 雅樹 非常勤講師	
1月31日(火)	コミュニケーションと意思決定	精神・認知・行動医学 明智 龍男 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注) 授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	⑤生体防御・総合医学講義Ⅰ－基礎医学と臨床医学の融合－			
	Lecture 1 of Biodefense System and Comprehensive Medical Sciences : Fusion of rudimentary medicine and clinical medicine			
単位認定教員	氏名	祖父江 和哉 教授	所属	麻酔科学・集中治療医学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	基礎医学ならびに臨床医学の最新的话题を提供する。基礎研究の立場からは、最新かつ重要な課題について講義する。また、臨床医学の立場からは、臨床における最新かつ重要な課題について、基礎的研究の結果を交えて講義する。本科目により、基礎医学から臨床医学、臨床医学から基礎医学へとシームレスな知識と思考能力の育成を目的とする。 E: 英語対応(開始時に英語講義希望者がいる場合には英語での講義となります)			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	10月21日(金)	内視鏡治療従事者の筋骨格系障害の予防と人間工学	環境労働衛生学分野 榎原 毅 准教授	
	10月28日(金)	内臓痛の発生メカニズム	麻酔科学・集中治療医学 草間宣好 講師	
	11月4日(金)	周術期における高次脳機能障害の発生機序	麻酔科学・集中治療医学 祖父江 和哉 教授	
	11月11日(金)	硬化性胆管炎の診断と治療	地域医療教育学 大原弘隆 教授	
	11月18日(金)	画像診断法と人工知能の融合(E)	統合解剖学 植木 孝俊 教授	
	11月25日(金)	呼吸生理学-高地での順応・適応(E)	看護学部 病態学(麻酔学) 薊 隆文 教授	
	12月2日(金)	呼吸器の構造、機能と病態生理(E)	呼吸器・免疫アレルギー内科学 新実 彰男 教授	
	12月9日(金)	消化器がんに対するバイオマーカー研究	消化器・代謝内科学 志村 貴也 講師	
	12月16日(金)	尿路結石の形成機序解明と予防法の開発	腎・泌尿器科学 安井 孝周 教授	
	12月23日(金)	くも膜下出血後脳血管攣縮の発生機序の解明と治療法の開発	脳神経外科学 間瀬 光人 教授	
	1月6日(金)	腸管粘膜免疫系とその制御	免疫学 志馬寛明 講師	
	1月13日(金)	臓器機能維持・修復における微小循環の重要性～脳から学ぶ～	九州大学医学研究院病態機能内科学 吾郷 哲朗 准教授	
	1月20日(金)	不整脈発症リスクに対する細胞内シグナルの影響	静岡県立大学生体情報分子解析学分野 黒川 洵子 教授	
	1月27日(金)	遺伝性先天性疾患:患者から見つかる新しい遺伝病	新生児・小児医学 齋藤 伸治 教授	
2月3日(金)	平滑筋自動性の発生機構	細胞生理学 橋谷 光 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注)授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	⑥生体防御・総合医学講義Ⅱ -がん:発がんメカニズムから最新の診断・治療まで-			
	Lecture2 of Biodefense System and Comprehensive Medical Sciences: Cancer; From molecular pathogenesis to the most recent diagnostic procedures and treatment			
単位認定教員	氏名	飯田真介教授	所属	血液・腫瘍内科学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	人類にとって最大の課題となった病の一つは、がんである。本講義の目的は、がんの基礎から臨床まで最新の知識を深めることである。基礎からは、がんの発生、疫学、病理を、臨床的には、総合的に診断、治療を包括的に概論し、さらに各種臓器別がんの特徴を講義する。 E: 英語対応(開始時に英語講義希望者がいる場合には英語での講義となります)			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	4月22日(金)	がんの記述疫学(E)	公衆衛生学 中川 弘子 助教	
	5月6日(金)	ガン化と老化を制御する分子機構	東京大学医科学研究所 中西 真 教授	
	5月13日(金)	エピゲノムから見たがん	名古屋大学大学院医学系研究科 近藤 豊 教授	
	5月20日(金)	癌ゲノムとプレジジョンメディシン(E)	シンガポール国立大学医学部 三田 貴臣 准教授	
	5月27日(金)	希少がんの臨床	臨床腫瘍部 小松 弘和 教授	
	6月3日(金)	肺癌の外科治療	腫瘍・免疫外科学 奥田 勝裕 准教授	
	6月10日(金)	消化器がんの診断と治療	消化器・代謝内科学 片岡 洋望 教授	
	6月17日(金)	消化器癌外科治療のあゆみ	消化器外科学 瀧口 修司 教授	
	6月24日(金)	癌の病理診断(E)	実験病態病理学 高橋 智 教授	
	7月1日(金)	肺がん化学療法と抗がん剤耐性	呼吸器・免疫アレルギー内科 前野 健准教授	
	7月8日(金)	腫瘍病理学	臨床病態病理学 稲垣 宏 教授	
	7月15日(金)	尿路性器癌の診断・治療-最近の話題-	医療安全管理学 戸澤 啓一 教授	
	7月22日(金)	これだけは知っておきたい乳がんの基礎知識	乳腺外科学 遠山 竜也 教授	
	7月29日(金)	放射線科における癌の臨床	放射線医学 樋渡 昭雄 教授	
	8月5日(金)	がんに対する抗体療法と免疫療法(E)	血液・腫瘍内科学 飯田 真介 教授	
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注)授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	⑦生体防御・総合医学講義Ⅲ ― 認知症特論 ―			
	Lecture3 of Biodefense System and Comprehensive Medical Sciences: Intensive course of medical practice for dementia			
単位認定教員	氏名	松川則之教授	所属	神経内科学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	<p>認知症診療を包括的に行うために、認知症総合的にマネジメントできる診療医・薬剤師・看護師・理学療法士・作業療法士・医療工学士の育成を目的とする。本コースでは、認知症の基礎・臨床の知識から治療・ケア介入の実践を行うべく手法を学ぶ。更には、認知症を中心とした精神・神経疾患のコフォート研究を行うために、コフォートデザイン作成に向けた基礎的知識の習得と実践的な経験を旨とする。</p> <p>SOB 1: アルツハイマー病の病態が説明できる SOB 2: 他の認知症の病態が説明できる SOB 3: 神経心理検査が実施できる SOB 4: 抗認知症薬について説明できる SOB 5: 精神症状とその対症薬を説明できる SOB 6: 認知症のケア方法を立案できる SOB 7: 在宅介護の施設整備の立案ができる SOB 8: 認知症社会資源が説明できる SOB 9: 電気生理・画像を用いた神経機能評価法を説明できる SOB 10: コフォート研究をデザインできる SOB 11: コフォート研究に参加する</p>			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	4月19日(火)	認知症総論	神経内科学 松川 則之 教授	
	4月26日(火)	アルツハイマー病の基礎	神経内科学 松川 則之 教授	
	5月10日(火)	アルツハイマー病の基礎／その他の認知症の基礎	神経内科学 松川 則之 教授	
	5月17日(火)	認知症行政とネットワーク	名古屋認知症相談支援センター 鈴木善史	
	5月24日(火)	神経心理検査法	日本福祉大学 宮田 美和子 准教授	
	5月31日(火)	認知症の臨床	神経内科学 松川 則之 教授	
	6月7日(火)	認知症の画像診断	国立長寿医療研究センター 櫻井 圭太 医長	
	6月14日(火)	認知症の周辺症状とその対応	地域療養医学 赤津 裕康 教授	
	6月21日(火)	認知症のケア	看護高齢者看護学 原沢 優子 准教授	
	6月28日(火)	認知症の病診連携の実践	西部医療センター部長 片田 栄一 非常勤講師	
	7月5日(火)	認知症の鑑別診断と病態生理(電気生理)	リハビリテーション医学 植木 美乃 教授	
	7月12日(火)	脳機能評価法(画像診断法を用いて)	神経内科学 川嶋 将司 助教	
	7月19日(火)	コフォート研究デザイン	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授	
	7月26日(火)	認知症の診断バイオマーカー探索	神経内科学 松川 則之 教授	
8月2日(火)	コフォート研究の実践	地域療養医学 赤津 裕康 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注) 授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	⑧予防・社会医学講義 I			
	Lecture 1 of Preventive, Community and Forensic Medicine			
単位認定教員	氏名	上島通浩教授	所属	環境労働衛生学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	健康に影響を与える個人素因, 生活習慣, 職業環境要因や, 健康問題に関する分析法および最新の知見, 安心・安全な社会実現のための仕組みと取り組み, 医療における情報の特性・管理・処理方法などについて, 発展的な内容を講義する。また, 疫学・統計解析法に習熟するために, 統計ソフト(R)を用いた実習を行う。なお, 10/19-12/7の授業は英語で行う。			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	10月19日(水)	疾病原因としての職業環境要因の解明	環境労働衛生学 上島 通浩 教授	
	10月26日(水)	疫学から見た安全性の議論	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授	
	11月2日(水)	大気汚染の歴史と現状	環境労働衛生学 伊藤 由起 准教授	
	11月9日(水)	わが国における医薬品・医療機器開発と薬事行政	次世代医療開発学 神谷 武 教授	
	11月16日(水)	国際的な視点からみた母子保健の決定要因	環境労働衛生学 金子佳世 特任講師	
	11月30日(水)	死因究明制度	法医学 青木 康博 教授	
	12月7日(水)	産業保健人間工学特論	環境労働衛生学 榎原 毅 准教授	
	12月14日(水)	公衆衛生危機管理	学長 浅井 清文	
	12月21日(水)	我が国における児童虐待の現状	法医学 加藤 秀章 准教授	
	12月28日(水)	疫学統計1(統計ソフトR)	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授、 西山 毅 准教授、 大谷隆浩 講師、 中川弘子 助教	
	1月4日(水)	疫学統計2(統計ソフトR)		
	1月11日(水)	疫学統計3(統計ソフトR)		
	1月18日(水)	疫学統計4(統計ソフトR)		
	1月25日(水)	情報科学と医療	医学・医療情報管理学 片野 広之 准教授	
	2月1日(水)	生体信号ビッグデータの利活用	医学・医療教育学 植田 典浩 講師	
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4 (12/28-1/18は基礎教育棟3階情報処理室)			
(注) 授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	⑨発展研究特別講義 I(英語講義)			
	Special lecture in advanced research I			
単位認定教員	氏名	橋谷 光 教授	所属	細胞生理学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	Recent advances in medical researches (先端医学研究)			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	10月17日(月)	Molecular mechanisms of aging and carcinogenesis	東京大学医科学研究所 中西 真 教授	
	10月24日(月)	Molecular imaging for probing the brain function and its disorders	統合解剖学 植木 孝俊 教授	
	10月31日(月)	Adult neurogenesis	神経発達・再生医学 澤本 和延 教授	
	11月7日(月)	Seeking the molecular identities of mechano-electrical transduction channels in auditory hair cells	機能組織学 鶴川 真也 教授	
	11月14日(月)	Cilia - Those cannot be ignore	細胞生化学 加藤 洋一 教授	
	11月21日(月)	Epigenetic dysregulation in human diseases	名古屋大学腫瘍生物学 近藤 豊 教授	
	11月28日(月)	Genome-wide research for viral hepatitis	熊本大学消化器内科学 田中 靖人 教授	
	12月5日(月)	The pathogenesis of Alzheimer's disease and the development of its therapy	病態生化学 道川 誠 教授	
	12月12日(月)	Virulence of Streptococcus pyogenes	細菌学 長谷川 忠男 教授	
	12月19日(月)	DNA polymorphism and profiling	法医学 青木 康博 教授	
	12月26日(月)	Mechanism in the formation of emotion during the period of development	脳神経生理学 飛田 秀樹 教授	
	1月16日(月)	Regulating immune regulators by dendritic cells	免疫学 山崎 小百合 教授	
	1月23日(月)	Drug discovery and design based on chemical biology	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
	1月30日(月)	The effects of psychological stress on bladder function	Bond University Prof. R.Chess-Williams	
2月6日(月)	Coupled Calcium Oscillators -A basis for smooth muscle rhythms-	細胞生理学 橋谷 光 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注)授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	⑩発展研究特別講義Ⅱ（英語講義）			
	Special lecture in advanced reserch II			
単位認定教員	氏名	加藤 洋一 教授	所属	細胞生化学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	Advanced research in medical science will be lectured from faculty members that belongs to the departments of basic science.			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	4月21日(木)	Recent advances in microvascular physiology	細胞生理学 三井 烈 講師	
	4月28日(木)	Roles of TRP channels in mammals	機能組織学 植田 高史 准教授	
	5月12日(木)	Roles of gap junctional intercellular communication in hepatocarcinogenesis	実験病態病理学 内木 綾 准教授	
	5月19日(木)	Detection of chromosomal abnormalities by FISH analysis in malignant tumor	臨床病態病理学 村瀬 貴幸 准教授	
	5月26日(木)	Identification of tumor initiating cells	神経毒性学 深町 勝巳 講師	
	6月2日(木)	Mitochondrial DNA analysis for forensic genetics and medical genetics	法医学 加藤 秀章 准教授	
	6月9日(木)	Significance of zinc in neurobiology	統合解剖学 井上 浩一 准教授	
	6月16日(木)	New Advances in antibody immunotherapy	免疫学 今井 優樹 講師	
	6月23日(木)	Molecular mechanisms of group A streptococcal invasive infections	細菌学 立野 一郎 講師	
	6月30日(木)	Mechanisms of morphogenetic cell movements in tissue elongation	細胞生化学 二宮裕将 講師□	
	7月7日(木)	An update on stem cell and rehabilitation therapies for neurological disorders	脳神経生理学 田尻 直輝 准教授	
	7月14日(木)	Oligodendrocyte development and function in the central nervous system	脳神経生理学 清水 健史 講師	
	7月21日(木)	Neuronal migration and maturation in the adult brain	神経発達・再生医学 澤田 雅人 講師	
	7月28日(木)	Neural Stem cells - past and future-	細胞生化学 嶋田逸誠 講師	
8月4日(木)	The pathogenesis of Alzheimer's disease	神経生化学 鄭 且均 准教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注)授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	⑪医学基礎研究特別講義(英語講義)			
	Special lecture in medical basic research			
単位認定教員	氏名	稲垣 宏 教授	所属	臨床病態病理学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	Advanced reserch in clinical medicine will be lectured from faculty members. (This course will be lectutred in English)			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	出席確認
	4/22(金)	がんの記述疫学(E)	公衆衛生学 中川 弘子 助教	
	5/16(月)	ヒト生殖におけるプロテアーゼおよびインヒビターの役割(E)	西部医療センター産婦人科学 尾崎 康彦 教授	
	5/20(金)	癌ゲノムとプレジジョンメディシン(E)	シンガポール国立大学医学部 三田 貴臣 准教授	
	5/23(月)	ゲノムインプリンティングと疾患(E)	新生児・小児医学 齋藤 伸治 教授	
	6/6(月)	細胞活動の共鳴から生体リズム, 脳機能への発達(E)	新生児・小児医学 岩田欧介准教授	
	6/8(水)	毒性発現の機序、細胞レベルでの機能異常とこれに起因する毒性(E)	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
	6/24(金)	癌の病理診断(E)	実験病態病理学 高橋 智 教授	
	7/4(月)	小児腫瘍の基礎(E)	薬学研究科 青山 峰芳 教授	
	7/6(水)	B型肝炎ウイルスと免疫(E)	国立感染症研究所 五十川 正記 室長	
	8/3(水)	抗原提示と樹状細胞(E)	加齢・環境皮膚科学 森田 明理 教授	
	8/5(金)	がんに対する抗体療法と免疫療法(E)	血液・腫瘍内科学 飯田 真介 教授	
	11/18(金)	画像診断法と人工知能の融合(E)	統合解剖学 植木 孝俊 教授	
	11/25(金)	呼吸生理学-高地での順応・適応(E)	看護学部 病態学(麻酔学) 薊 隆文 教授	
	12/1(木)	脳の神経再生とリハビリの基礎研究(E)	脳神経生理学 田尻 直輝 准教授	
12/2(金)	呼吸器の構造、機能と病態生理(E)	呼吸器・免疫アレルギー内科学 新実 彰男 教授		
12/8(木)	脳虚血の病態と最新治療(E)	脳神経外科学 間瀬 光人 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注)授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	⑫環境健康安全管理学概論 I (英語講義)			
	⑫ Introduction of environmental health and safety management I			
単位認定教員	氏名	上島通浩教授	所属	環境労働衛生学
単位数	1単位			
授業の目的と方針	This class aims to introduce topics related to environmental health and safety management. Social systems to prevent adverse health outcomes and to strengthen public health/safety are discussed in the context of regulatory science.			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	出席確認
	10月19日(水)	Occupational and environmental factors as disease causes	環境労働衛生学 上島 通浩 教授	
	10月26日(水)	What is 'safety' from Epidemiology?	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授	
	11月2日(水)	Air pollution in Japan -Lessons from Yokkaichi asthma to the present	環境労働衛生学 伊藤 由起 准教授	
	11月9日(水)	Drug and medical device development and pharmaceutical administration in Japan	次世代医療開発学 神谷 武 教授	
	11月16日(水)	Determinants of maternal, infant, and child health from international perspective	環境労働衛生学 金子 佳世 特任講師	
	11月30日(水)	Medicolegal death investigation system in Japan	法医学 青木 康博 教授	
	12月7日(水)	Topics in working condition and ergonomics	環境労働衛生学 榎原 毅 准教授	
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注) 授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	⑬環境健康安全管理学概論Ⅱ(英語講義)			
	⑬ Introduction of environmental health and safety management II			
単位認定教員	氏名	上島通浩教授	所属	環境労働衛生学
単位数	1単位			
授業の目的と方針	The goal of this class is to understand situations and social systems related to ENPHAS that are different between countries. Students are required to research the situation in their home country about the class topics before school hours. They present their research results during class and the whole class discusses the issue and broaden their perspectives.			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	4月18日(月)	Occupational and environmental factors as disease causes	環境労働衛生学 上島 通浩 教授	
	4月25日(月)	What is 'safety' from Epidemiology?	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授	
	5月9日(月)	Air pollution in the world	環境労働衛生学 伊藤 由起 准教授	
	5月16日(月)	Drug and medical device development and pharmaceutical administration in the world	次世代医療開発学 神谷 武 教授	
	5月23日(月)	Determinants of maternal, infant, and child health from international perspective	環境労働衛生学 金子佳世 特任講師	
	5月30日(月)	Medicolegal death investigation system in the world	法医学 青木 康博 教授	
	6月6日(月)	Topics in working condition and ergonomics in the world	環境労働衛生学 榎原 毅 准教授	
時間	午後4時20分～午後5時50分			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注)授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	⑭薬物毒物代謝学特論（英語講義）			
	Intensive courses of metabolism of drugs and toxins			
単位認定教員	氏名	酒々井 眞澄 教授	所属	神経毒性学
単位数	1単位			
授業の目的と方針	<p><u>Subject</u> Metabolism of drugs and toxins</p> <p><u>Overview</u> Chemical substances are beneficial to humans but may affect the health by the use of them. This subject offers professional skill or expertise for evaluating harmful effects of the drugs and toxins based on the understanding of scientific evidence in terms of absorption, distribution, metabolism and excretion (ADME).</p>			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	10月21日(金)	Theory of ADME (general subject)	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
	10月28日(金)	Theory of ADME (special subject)	神経毒性学 深町 勝巳 講師	
	11月4日(金)	Dose response relationship and toxicity (in vitro and in vivo tests)	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
	11月11日(金)	Dose response relationship and toxicity (data on the health)	神経毒性学 深町 勝巳 講師	
	11月18日(金)	Effect of radiation in the developing stage (experimental evidence and data on the health)	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
	11月25日(金)	Method and validation of the risk assessment, evaluation and interpretation of the results of the toxicological tests	神経毒性学 深町 勝巳 講師	
	12月2日(金)	Basic theory and application of the risk management and risk communication	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
時間	午後4時20分～午後5時50分			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注) 授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	⑮毒性病理学特論(英語講義)			
	Intensive courses of Toxicologic pathology			
単位認定教員	氏名	高橋智教授	所属	実験病態病理学
単位数	1単位			
授業の目的と方針	種々の環境要因によって引き起こされる各臓器の毒性のメカニズムとそれに関連する組織病理学的変化について学ぶ。			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	6月23日(木)	毒性病理学総論	実験病態病理学 高橋 智 教授	
	6月30日(木)	膀胱発がん	大阪市立大学 鈴木周五 准教授	
	7月7日(木)	ナノ粒子・繊維の毒性学	名古屋市立大学 津田洋幸 特任教授	
	7月14日(木)	遺伝毒性発がん物質の閾値	大阪市立大学 福島昭治 名誉教授	
	7月21日(木)	環境中化学物質の安全性評価	国立医薬品食品衛生研究所 小川久美子 部長	
	7月28日(木)	酸化ストレスから見た発癌機序の毒性病理学的解析	実験病態病理学 内木 綾 准教授	
	8月4日(木)	胸膜における発がん毒性と腫瘍免疫制御	名古屋市立大学附属東部医療センター 稲熊真悟 教授	
時間	午後4時20分～午後5時50分			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注)授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	⑩脳神経科学特論			
	Advanced Brain Science			
単位認定教員	氏名	澤本 和延 教授	所属	神経発達・再生医学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	主に脳神経科学研究所の教員(連携研究室教員を含む)が講義を担当し、神経生物学の基礎から、脳神経疾患の病態、治療、創薬まで、脳神経科学に関する様々なトピックを紹介する。 医学研究科修士課程、薬学研究科(修士・博士)および理学研究科(修士・博士)の大学院生も受講・単位取得できるように設定する。 講義への出席状況、レポートなどを総合的に評価する。 (開始時に英語講義希望者がいる場合は英語での講義となります)			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	10月19日(水)	生後脳におけるニューロンの移動と再生	神経発達・再生医学 澤本和延 教授	
	10月26日(水)	神経発達症・てんかん発症機序の解明に向けて	神経発達症遺伝学 鈴木俊光 講師	
	11月2日(水)	学習・記憶における海馬の役割	認知機能病態学 森下良一 寄附講座特任助教	
	11月9日(水)	アルツハイマー病研究の最前線	認知症科学 眞鍋達也 特任助教	
	11月16日(水)	線虫から明らかになった「意思決定のタイミングを決める分子機構」	理学研究科 木村幸太郎 教授	
	11月30日(水)	神経毒性学概論	神経毒性学 酒々井眞澄 教授	
	12月7日(水)	神経細胞移動の分子機構とその関連疾患	薬学研究科 服部光治 教授	
	12月14日(水)	Neural development in health	医学研究科(コペンハーゲン大学) Konstantin Khodosevich客員准教授	
	12月21日(水)	Neural development in disease 1	医学研究科(コペンハーゲン大学) Konstantin Khodosevich客員准教授	
	12月28日(水)	Neural development in disease 2	医学研究科(コペンハーゲン大学) Konstantin Khodosevich客員准教授	
	1月4日(水)	Modern molecular and cellular biotechnology 1	医学研究科(コペンハーゲン大学) Konstantin Khodosevich客員准教授	
	1月11日(水)	Modern molecular and cellular biotechnology 2	医学研究科(コペンハーゲン大学) Konstantin Khodosevich客員准教授	
	1月18日(水)	Modern molecular and cellular biotechnology 3	医学研究科(コペンハーゲン大学) Konstantin Khodosevich客員准教授	
	1月25日(水)	哺乳類の時計中枢からの概日リズム発振機構	医学研究科(豊橋技術科学大学) 沼野利佳客員教授	
2月1日(水)	マイクロ・ナノ技術を医学・生物学研究に活用する	医学研究科(豊橋技術科学大学) 永井萌土客員准教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	脳神経科学研究所5階会議室			
(注)授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	基礎最新研究特別講義				
	Special Lecture of Hot Topics in Basic Research Area				
単位認定教員	氏名	飛田 秀樹 教授	所属	脳神経生理学	
単位数	本講義1回の出席を共通科目講義1回の出席に振替				
授業の目的と方針	急速に進歩する医学研究において、最先端の研究成果や最新の研究手法を用いた成果を発表するセミナーを聴講する機会は貴重であり、また研究を遂行していく上で非常に重要になっている。本科目は、名古屋市立大学医学会との共催により学内で実施される基礎医学分野に関する最先端研究の学術的セミナーを、大学院博士課程の講義としている。				
履修方法	<p>本学で開催される学術セミナー等について、学術性を主とすることを確認し、医学会との共催を条件として、そのセミナーへの出席を基に基礎最新研究特別講義への出席として認める。</p> <p>講義(セミナー)の開催及び担当教員は掲示版及びE-Mailにて随時告知する。</p> <p><u>この講義は、当初、出席を予定していた講義に出席できなくなり単位を取得できなかった場合など大学院博士課程への出席として振替えることができる。</u></p>				
セミナー日程	月・日	セミナー等の内容		担当教員	出席確認
(注)セミナー等に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。					

科目名	臨床最新研究特別講義				
	Special Lecture of Hot Topics in Clinical Research Area				
単位認定教員	氏名	新実 彰男 教授	所属	呼吸器・免疫アレルギー内科学	
単位数	本講義1回の出席を共通科目講義1回の出席に振替				
授業の目的と方針	急速に進歩する医学研究において、最先端の研究成果や最新の研究手法を用いた成果を発表するセミナーを聴講する機会は貴重であり、また研究を遂行していく上で非常に重要になっている。本科目は、名古屋市立大学医学会との共催により学内で実施される臨床医学分野に関する最先端研究の学術的セミナーを、大学院博士課程の講義としている。				
履修方法	<p>本学で開催される学術セミナー等について、学術性を主とすることを確認し、医学会との共催を条件として、そのセミナーへの出席を基に臨床最新研究特別講義への出席として認める。</p> <p>講義(セミナー)の開催及び担当教員は掲示版及びE-Mailにて随時告知する。</p> <p><u>この講義は、当初、出席を予定していた講義に出席できなくなり単位を取得できなかった場合など大学院博士課程への出席として振替えることができる。</u></p>				
セミナー日程	月・日	セミナー等の内容		担当教員	出席確認
(注)セミナー等に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。					

● 「環境健康安全学大学院コース（Graduate Course of Environmental and Pharmacomedical Safety Sciences）」の履修について

1. コースの趣旨

大学院医学研究科、薬学研究科、理学研究科の研究科横断型教育プログラムとして、環境と健康の安全学領域に俯瞰的な視野を持ち、SDGsの理念の下、社会的課題の解決に挑戦できる高度プロフェッショナル人材の育成を目的に本コースを設置する。

コースにはASEAN諸国等から優秀な留学生を受け入れ、日本人学生と共修させることで、国際的意識を醸成し、修了後に日本とASEAN諸国の架け橋人材となるために必要な国際感覚を身につけた国際レベルで活躍できる研究者・技術者・行政官等の高度の専門家人材を育成・輩出し環境健康安全学研究ネットワーク形成を目指す。

2. 履修者の選考

本学医学研究科博士課程に入学した者もしくは入学を予定している者から募集し、学内選考を経て決定する。なお本コースは毎年10月を開講月とする。

3. 履修について

本コース履修者は、「環境健康安全学大学院コース」の修了要件に加え、医学研究科博士課程の修了要件を満たす必要がある。

なお本コースで開講される講義を受講する際は、医学研究科履修登録用紙とは別に必ず専用の「科目履修届」を指定期間内に提出して履修手続きをとること。また本コースで開講する科目(他研究科で開講する科目も含む)は講義修了後に博士課程共通科目として単位を認定する。

*本コースはすべて英語で実施する。

本コースについての詳細な内容や受講についての相談は下記担当教員へ

本プログラムカリキュラム担当教員： レギュラトリーサイエンス分野教授 頭金 正博
 医学研究科 担当教員： 環境労働衛生学 上島通浩

4. 授業科目・単位数・開講時期および担当研究科

	科目	項目	単位
講義	共通履修科目 (6科目を選択必修科目)	環境健康安全管理学概論Ⅰ、Ⅱ、化学物質と環境特論、薬物・毒物代謝学特論、データサイエンス特論、自然科学と環境持続性(SDGs)概論、グリーンケミストリー特論、レギュラトリーサイエンス特論、毒性病理学特論、衛生化学特論、薬用資源学特論	6
実習	産官学環境健康安全学インターンシップ		2
	グローバルプレゼンテーション		2
グループワーク	環境健康安全学課題解決アクティブラーニング		3

	授業科目	種別	単位数	開講時期	担当研究科
共通履修科目（選択必修） 6単位	環境健康安全管理学概論Ⅰ	講義	1	後期	医学研究科
	環境健康安全管理学概論Ⅱ	講義	1	前期	医学研究科
	毒性病理学特論	講義	1	前期	医学研究科
	薬物・毒物代謝学特論	講義	1	後期	医学研究科
	データサイエンス特論	講義	1	前期	理学研究科
	グリーンケミストリー特論	集中講義	1	後期	薬学研究科
	レギュラトリーサイエンス特論	講義	1	前期	薬学研究科
	化学物質と環境特論	集中講義	1	後期	薬学研究科
	衛生化学特論	講義	1	前期	薬学研究科
	薬用資源学特論	講義	1	後期	薬学研究科
	自然科学と環境持続性（SDGs）概論	講義	1	前期	理学研究科
実習・演習（必修）	産官学環境健康安全学インターンシップ	実習	2	プログラムの前半、後半で各1単位履修	
	グローバルプレゼンテーション	実習	2	プログラムの前半、後半で各1単位履修	
	環境健康安全学課題解決アクティブラーニング	グループワーク	3	1年次後期～2年次	

5. 修了要件

■プログラム1・2年

① 共通履修科目 6単位を選択履修する

一部の科目は集中講義として開講される。開講日・開講場所・受講方法などは掲示版等で確認すること。

② 実習科目

- ・産官学環境健康安全学インターンシップ（1単位）：産学官協働による人材育成を目的に外部機関（国立医薬品食品衛生研究所、国立環境研究所、放射線医学総合研究所等）へのインターンシップを実施することで、リスクアセスメントに対する理解を深める。
- ・グローバルプレゼンテーション（1単位）：研究テーマに関連する国際学会（米国毒性学会、欧州毒性学会、国際毒性学会、等）において筆頭で発表することで、専門会議における英語でのオーラルコミュニケーション力強化を目指す。
- ・環境健康安全学課題解決アクティブラーニング（3単位）：1年次後期～2年次にかけて、留学生と日本人学生からなる3～4名の混成グループで、SDGs及び環境健康安全に関連した課題について課題解決法を見いだすことを目的とするグループワークを実施する

③ 中間発表：2年次修了時に実施し、履修状況を確認する

■プログラム3～4年

より実践的な環境健康安全学課題解決能力およびコミュニケーション力を養成するため、前期に引き続き、民間企業等も加えた産官学環境健康安全学インターンシップ（1単位）およびグローバルプレゼンテーション（1単位）を履修するとともに、特別研究においては研究計画書、研究指導計画書を年度ごとに作成し研究活動を実施した上、最終年次においては、博士論文として研究成果をまとめて、学位審査を受ける

科目履修届

令和 年 月 日

(あて先：授業を開講している研究科)

- 名古屋市立大学医学研究科長 様
 名古屋市立大学薬学研究科長 様
 名古屋市立大学理学研究科長 様

- 名古屋市立大学医学研究科
 名古屋市立大学薬学研究科
 名古屋市立大学理学研究科
 博士前期課程・博士課程

_____年 学籍番号_____

氏名_____

下記の授業科目を履修したいので、届出します。

履修時期 令和_____年度

チェック欄	授業科目名	担当研究科	単位	開講時期
	環境健康安全管理学概論Ⅰ	医学研究科	1	後期
	環境健康安全管理学概論Ⅱ	医学研究科	1	前期
	毒性病理学特論	医学研究科	1	前期
	薬物・毒物代謝学特論	医学研究科	1	後期
	データサイエンス特論	理学研究科	1	前期
	化学物質と環境	薬学研究科	1	後期
	グリーンケミストリー	薬学研究科	1	後期
	レギュラトリーサイエンス特論	薬学研究科	1	前期
	衛生化学特論	薬学研究科	1	前期
	薬用資源学特論	薬学研究科	1	後期
	自然科学と環境持続性概論	理学研究科	1	前期

本年度中に履修を希望する科目をチェックすること。

令和4年度 環境健康安全学大学院プログラム 講義時間割

医学	薬学	理学
----	----	----

前期	月	火	水	木	金
1 9:00~10:30					
2 10:40~12:10			<後半> 衛生化学特論		
3 13:00~14:30					
4 14:40~16:10					
5 16:20~17:50	<前半> 環境健康安全管理学 概論Ⅱ			<後半> 毒性病理学特論	
6・夜 理/ 18:00~19:30 医・薬/ 18:30~20:00	<後半> 自然科学と環境持続 性 (SDGs) 概論			<後半> レギュラトリーサイエンス	

後期	月	火	水	木	金
1 9:00~10:30					
2 10:40~12:10					
3 13:00~14:30					
4 14:40~16:10				<前半> 薬用資源学特論	
5 16:20~17:50					<前半> 薬物・毒性代謝学特論
6・夜 理/ 18:00~19:30 医・薬/ 18:30~20:00			<前半> 環境健康安全管理学 概論Ⅰ		

集中講義	
化学物質と環境	12/12~14
グリーンケミストリー	6/24 2~5限目 7/8 3~5限目
データサイエンス特論	9/12~14

実習・演習(集中講義)
アクティブラーニング (1年次生)
インターンシップ (2年次生)
グローバルプレゼンテーション (2年次生)

科目名	⑫環境健康安全管理学概論 I (英語講義)			
	⑫ Introduction of environmental health and safety management I			
単位認定教員	氏名	上島通浩教授	所属	環境労働衛生学
単位数	1単位			
授業の目的と方針	This class aims to introduce topics related to environmental health and safety management. Social systems to prevent adverse health outcomes and to strengthen public health/safety are discussed in the context of regulatory science.			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	出席確認
	10月19日(水)	Occupational and environmental factors as disease causes	環境労働衛生学 上島 通浩 教授	
	10月26日(水)	What is 'safety' from Epidemiology?	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授	
	11月2日(水)	Air pollution in Japan -Lessons from Yokkaichi asthma to the present	環境労働衛生学 伊藤 由起 准教授	
	11月9日(水)	Drug and medical device development and pharmaceutical administration in Japan	次世代医療開発学 神谷 武 教授	
	11月16日(水)	Determinants of maternal, infant, and child health from international perspective	環境労働衛生学 金子 佳世 特任講師	
	11月30日(水)	Medicolegal death investigation system in Japan	法医学 青木 康博 教授	
	12月7日(水)	Topics in working condition and ergonomics	環境労働衛生学 榎原 毅 准教授	
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注)授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	⑬環境健康安全管理学概論Ⅱ(英語講義)			
	⑬ Introduction of environmental health and safety management II			
単位認定教員	氏名	上島通浩教授	所属	環境労働衛生学
単位数	1単位			
授業の目的と方針	The goal of this class is to understand situations and social systems related to ENPHAS that are different between countries. Students are required to research the situation in their home country about the class topics before school hours. They present their research results during class and the whole class discusses the issue and broaden their perspectives.			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	4月18日(月)	Occupational and environmental factors as disease causes	環境労働衛生学 上島 通浩 教授	
	4月25日(月)	What is 'safety' from Epidemiology?	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授	
	5月9日(月)	Air pollution in the world	環境労働衛生学 伊藤 由起 准教授	
	5月16日(月)	Drug and medical device development and pharmaceutical administration in the world	次世代医療開発学 神谷 武 教授	
	5月23日(月)	Determinants of maternal, infant, and child health from international perspective	環境労働衛生学 金子佳世 特任講師	
	5月30日(月)	Medicolegal death investigation system in the world	法医学 青木 康博 教授	
	6月6日(月)	Topics in working condition and ergonomics in the world	環境労働衛生学 榎原 毅 准教授	
時間	午後4時20分～午後5時50分			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注)授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	⑭薬物毒物代謝学特論（英語講義）			
	Intensive courses of metabolism of drugs and toxins			
単位認定教員	氏名	酒々井 眞澄 教授	所属	神経毒性学
単位数	1単位			
授業の目的と方針	<p><u>Subject</u> Metabolism of drugs and toxins</p> <p><u>Overview</u> Chemical substances are beneficial to humans but may affect the health by the use of them. This subject offers professional skill or expertise for evaluating harmful effects of the drugs and toxins based on the understanding of scientific evidence in terms of absorption, distribution, metabolism and excretion (ADME).</p>			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	10月21日(金)	Theory of ADME (general subject)	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
	10月28日(金)	Theory of ADME (special subject)	神経毒性学 深町 勝巳 講師	
	11月4日(金)	Dose response relationship and toxicity (in vitro and in vivo tests)	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
	11月11日(金)	Dose response relationship and toxicity (data on the health)	神経毒性学 深町 勝巳 講師	
	11月18日(金)	Effect of radiation in the developing stage (experimental evidence and data on the health)	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
	11月25日(金)	Method and validation of the risk assessment, evaluation and interpretation of the results of the toxicological tests	神経毒性学 深町 勝巳 講師	
	12月2日(金)	Basic theory and application of the risk management and risk communication	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
時間	午後4時20分～午後5時50分			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注) 授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	⑮毒性病理学特論(英語講義)			
	Intensive courses of Toxicologic pathology			
単位認定教員	氏名	高橋智教授	所属	実験病態病理学
単位数	1単位			
授業の目的と方針	種々の環境要因によって引き起こされる各臓器の毒性のメカニズムとそれに関連する組織病理学的変化について学ぶ。			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	6月23日(木)	毒性病理学総論	実験病態病理学 高橋 智 教授	
	6月30日(木)	膀胱発がん	大阪市立大学 鈴木周五 准教授	
	7月7日(木)	ナノ粒子・繊維の毒性学	名古屋市立大学 津田洋幸 特任教授	
	7月14日(木)	遺伝毒性発がん物質の閾値	大阪市立大学 福島昭治 名誉教授	
	7月21日(木)	環境中化学物質の安全性評価	国立医薬品食品衛生研究所 小川久美子 部長	
	7月28日(木)	酸化ストレスから見た発癌機序の毒性病理学的解析	実験病態病理学 内木 綾 准教授	
	8月4日(木)	胸膜における発がん毒性と腫瘍免疫制御	名古屋市立大学附属東部医療センター 稲熊真悟 教授	
時間	午後4時20分～午後5時50分			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注)授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

授業科目名	薬用資源学特論 Advanced Pharmacognosy				
単位数	1 単位	開講時間	木 4 後期(前半)	担当者	牧野利明、石内勘一郎、寺坂和祥
<p>□■ 授業の目的・目標</p> <p>生薬学は、医薬品としての生薬に関するさまざまな問題点を克服するための学問としてだけでなく、天然素材の生理活性や応用に関する課題についても取り扱う総合的な学問である。本講義では、天然素材を生産、品質管理、応用という 3 つの側面から、特に最新の研究成果と研究方法を紹介することにより、生薬学の鳥瞰像を提示することを目的・目標とする。</p>					
<p>□■ 学修到達目標</p> <p>(1) 天然由来薬物研究の歴史を知り、基礎薬学研究や医薬品創出を目指した研究・開発に取り組むために必要な創造的思考力と実験技術を説明できる。</p> <p>(2) 天然由来薬物の活性と応用に関する研究の現状と、新しい研究動向を知り、創薬科学、生命科学の基礎から先端技術まで幅広く説明できる。</p> <p>(3) バイオテクノロジーを利用した天然由来物質の生産と天然資源確保について、研究動向と課題を知り、創薬科学、生命科学の基礎から先端技術まで幅広く説明できる。</p> <p>(4) 以上の知識をもとに、社会全体の幸福の実現や持続可能な社会の構築に貢献する。</p>					
<p>□■ 成績評価基準</p> <p>秀:講義終了後に行う議論に毎回、積極的参加し、レポートで自身の意見を十分の論述できる。</p> <p>優:講義終了後に行う議論で6回以上発言し、提出したレポートで自身の意見を十分の論述できる。</p> <p>良:講義終了後に行う議論で4回以上発言し、提出したレポートで自身の意見を論述できる。</p> <p>可:提出したレポートで天然由来薬物研究に関する自身の意見を論述できる。</p>					
<p>□■ キーワード</p> <p>生薬、天然薬物、漢方薬、統合医療、バイオテクノロジー</p>					
<p>□■ ディプロマ・ポリシーとの関連</p> <p style="text-align: center;">I · II · III · IV</p>					
<p>□■ 授業概要</p> <p>授業では、天然薬物研究の歴史を紹介した後に、その生産、品質、応用に関する新しい研究方法と成果について、具体例を示しながら解説する</p>					
<p>□■ 授業計画</p> <p>(1) 漢方薬物研究方法論 1～総論 (2) 臨床生薬学 (3) 漢方薬物研究方法論 2～生薬の薬能の科学的解明の試み (4) 天然資源が生み出す医薬品 (5) 糸状菌由来二次代謝産物の生合成研究 (6) 植物バイオテクノロジー 1～植物の組織培養と代謝工学 (7) 植物バイオテクノロジー 2～植物の代謝産物輸送</p>					
<p>□■ 授業時間外の学修 (準備学修含む)</p> <p>授業で使用するスライドを事前にポータルで配信するので、あらかじめ予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p>					
成績評価方法	それぞれの講義の終了後での討論における発言と態度 (30%) 全体終了後のレポート (70%)				
教科書・テキスト	使用せず。適宜、プリントを使用する。				
参考文献	特になし。				
履修要件	特になし。				
履修上の注意事項	講義後の討論に積極的に参加することを求める。英語で講義する。				
アクティブ・ラーニング	それぞれの講義の終了後、討論の時間を設ける。				
連絡先・オフィスアワー	牧野 利明 (研究棟南館 3 階 生薬学分野教授室、052-836-3416) makino@phar.nagoya-cu.ac.jp とくに指定しない。在室していればいつでも可				
備考	講義は英語で行われるが、日本人学生にも配慮する。				
関連 URL	http://www.phar.nagoya-cu.ac.jp/hp/syg/index.html				

授業科目名	衛生化学特論 Advanced Molecular and Cellular Health Science				
単位数	単位	開講時間	水 2 前期(後半)	担当者	肥田 重明
<input type="checkbox"/> ■ 授業の目的・目標 生活環境は多様化し人類社会の持続可能な発展を担保するためには、生活環境下での環境因子のリスクを理解し、ヒトへの安全性や生活環境の安全を持続的に保持するシステムが必要である。行政あるいは薬剤師などの医療人として、疾病予防・免疫制御という視点から科学に基づくリスクアセスメント、リスクマネジメントに必要な情報を理解し、対策や解決する能力を学ぶ。					
<input type="checkbox"/> ■ 学修到達目標 1. 様々な環境因子の種類・測定法について説明できる。 2. 毒物・化学物質に対する生体反応と健康維持に重要な生体分子機構を説明できる。 3. 化学物質による疾患の治療と環境対策について説明できる。 4. 最新の感染症の予防・診断・治療薬の開発の現状や概念について説明できる。 以上の項目を学修することで、科学の先端的な知識と研究遂行のための基礎的技術を身につける。					
<input type="checkbox"/> ■ 成績評価基準 秀:公衆衛生・免疫学の観点から世界の現状や問題点を科学的に説明し、新たな提案もできる。 優:公衆衛生・免疫学の観点から世界の現状や問題点を科学的に説明できる。 良:公衆衛生・免疫学の重要性を理解し、説明できる。 可:公衆衛生・免疫学の基本的な概念を説明できる。					
<input type="checkbox"/> ■ キーワード：環境因子、感染症、予防、生体反応、公衆衛生					
<input type="checkbox"/> ■ ディプロマ・ポリシーとの関連 I · II · III · IV					
<input type="checkbox"/> ■ 授業概要 本講義は人間の健康問題を主体要因、環境要因（物理・化学的環境、生物学的環境、社会的環境）との関連で捉え、個人および集団の健康水準を保持増進するための対策を確立することを目的としている。近年、食品に使用される農薬、添加物、環境因子、そして病原体など、健康な生活を脅かす可能性のある化学物質や感染症に対する関心が高まっており、化学的・生物学的知識に基づいて、そのリスクを認識し、その問題に対処する必要がある。行政の対策から、生活習慣、環境の改善を通じた疾病予防や健康増進が重要視されており、食品や生活環境を中心に化学物質と生体の分子相互作用も含めて解説する。					
<input type="checkbox"/> ■ 授業計画 1. 衛生薬学概論 2. 食品と健康：農薬・毒物・環境因子に対する生体反応と治療薬 3. 感染症に対する対策と治療 I 4. 感染症に対する対策と治療 II 5. 行政における薬事・衛生環境対策と国際協力 6. 産業保健と慢性疾患 7. 加齢に伴う疾患とその予防・診断・治療薬					
<input type="checkbox"/> ■ 授業時間外の学修（準備学修含む）：学術論文などを用いた学生の自主的な学修を促す。					
成績評価方法	各講義の確認テスト・レポートの内容（妥当性・独自性）に基づいて評価する：100 %				
教科書・テキスト	必要に応じて、プリントを配布する。				
参考文献	必要に応じて、紹介する				
履修要件	特になし				
履修上の注意事項	本講義は英語で実施する				
アクティブ・ラーニング	特になし				
連絡先・オフィスアワー	肥田重明（衛生化学分野、薬学研究棟南館 4 階）、 TEL:052-836-3592, e-mail:hida@phar.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：月～木 午後 4 時-6 時（他の曜日・時間も可、在室を確認のこと）				
備考					
関連	U R L				

授業科目名	レギュラトリーサイエンス特論 Advanced Regulatory Science				
単位数	1 単位	開講時間	木 6 前期 (後半)	担当者	頭金正博、神谷武、福田英克
<input type="checkbox"/> ■ 授業の目的・目標 医薬品や医療機器の適正使用には有効性と安全性を科学的に評価することが重要になるため、本特論では、医薬品や医療機器の開発研究や市販後調査での有効性や安全性の評価プロセスに関する知識を習得し、新薬に関する非臨床試験および臨床試験のデータを基にして、市販後での安全対策についての確かな判断ができるようになることを目標とする。					
<input type="checkbox"/> ■ 学修到達目標 1. 医薬品や医療機器の開発研究を理解し、有効性と安全性の根拠を説明できるようになる。 2. 医薬品や医療機器の承認審査の概略を理解し、承認された科学的根拠を説明できるようになる。 3. 医薬品や医療機器の市販後における有効性と安全性の評価方法を理解し、説明できるようになる。 4. レギュラトリーサイエンスの目的や研究方法等が説明できるようになる。					
<input type="checkbox"/> ■ 成績評価基準 秀: 医薬品等の有効性と安全性の評価方法の基本的な考え方とプロセスを説明することができる。また、実際のデータを用いて、評価することができる。 優: 医薬品等の有効性と安全性の評価方法の基本的な考え方とプロセスを説明することができる。また、実際の評価を批評することができる。 良: 医薬品等の有効性と安全性の評価方法の基本的な考え方とプロセスを説明することができる。 可: 医薬品等の有効性と安全性の評価方法のプロセスを説明することができる。					
<input type="checkbox"/> ■ キーワード: 医薬品・医療機器開発、臨床試験、市販後調査、市販後安全対策					
<input type="checkbox"/> ■ ディプロマ・ポリシーとの関連 I ・ II ・ III ・ IV					
<input type="checkbox"/> ■ 授業概要 医薬品や医療機器の開発段階や市販後における有効性や安全性を評価する方法について概説する。また、臨床研究の実地体制等を紹介する。それらの知識をもとに、非臨床試験および臨床試験のデータを用いて、市販後での安全対策についてセミナー形式の討論を行い、医薬品の有効性と安全性の評価に関する理解を深める。					
<input type="checkbox"/> ■ 授業計画 1. 医薬品の開発研究における有効性と安全性評価 (非臨床試験、臨床試験) 2. 医療機器の開発研究における有効性と安全性評価 3. 治験業務に必要な知識と支援体制 4. 市販後における有効性と安全性評価 5. 薬剤疫学総論 6. レギュラトリーサイエンス研究各論 (医薬品、医療機器、化学物質、食品) 7. 新薬に関する市販後安全対策案の作成と発表会					
<input type="checkbox"/> ■ 授業時間外の学修 (準備学修含む): 講義ごとに関連する文献等を参照し理解を深めること。					
成績評価方法	講義やグループディスカッションでの課題への取り組み姿勢 (30%) と最終プレゼンテーションでの発表内容と質問内容の質と回数 (70%)				
教科書・テキスト	講義ごとに参考資料を配布する。				
参考文献	受講時に学習すべき参考書や文献を指示する。				
履修要件	薬理・毒性学の大学学部レベルの知識を必要とする。				
履修上の注意事項	講義とともに受講学生によるプレゼンテーションと討論も行う。 本講義は英語で実施する				
アクティブ・ラーニング	新薬として市販が開始された医薬品の審査報告書をもとに、学生自ら市販後安全対策案を策定し、発表を行い議論する。				
連絡先・オフィスアワー	レギュラトリーサイエンス分野 頭金 正博 木曜日 午後 5 時 - 6 時 (他の曜日・時間も可, 在室を確認のこと)				
備考					
関連 URL					

授業科目名	化学物質と環境 Chemicals in the environment				
単位数	単位	開講時間	集中講義（後期）	担当者	肥田 重明
<input type="checkbox"/> ■ 授業の目的・目標 医薬品・農薬を含めた化学物質や動植物の代謝産物は、健康水準の向上に貢献している一方で、健康を害するという問題点も持っている。平均寿命と健康寿命の差を短縮するためにも、地球環境や環境因子と生体の相互作用の理解が重要である。本講義では、地球環境における様々な環境因子と生体の相互作用を薬学的観点から理解し、環境リスクアセスメント、環境リスクマネージメントに繋げることを目的とする。					
<input type="checkbox"/> ■ 学修到達目標 環境化学物質の基礎・定量方法から生体への影響を理解し、問題解決能力を身につける。 1. 化学物質による地球環境や環境衛生への影響と対策を説明できる。 2. 薬学的知見から環境化学物質による生体への影響を理解できる。					
<input type="checkbox"/> ■ 成績評価基準 秀：化学物質と環境について地球環境の現状や問題点を科学的に説明し、評価や提案もできる。 優：化学物質の作用や毒性を理解し、健康や地球環境への影響について科学的に説明できる。 良：環境における化学物質について薬学領域を基盤として理解し概説できる。 可：環境における化学物質について基本的な概念を理解できる。					
<input type="checkbox"/> ■ キーワード： 地球環境、環境因子、環境リスクアセスメント、環境リスクマネージメント、環境と疾患					
<input type="checkbox"/> ■ ディプロマ・ポリシーとの関連 I ・ II ・ III ・ IV					
<input type="checkbox"/> ■ 授業概要 本科目は、細胞分子薬効解析学、生薬学、薬物動態学、レギュラトリーサイエンス、コロイド・高分子学・衛生化学分野の教員が医薬品・食品・農薬を含めた環境中の化学物質、動植物由来の代謝産物に関する物理的・化学的な基礎知識と生体への作用や地球環境への影響について講義する。					
<input type="checkbox"/> ■ 授業計画 1. 序論 医薬品による環境への影響 2. 低酸素環境下での生体シグナル変化 3. 薬用植物栽培と生薬の生産 4. 薬物体内動態に関わる環境因子 5. 環境中化学物質の毒性評価 6. 地球環境の物理化学 7. タバコの煙に含まれる化学物質					
<input type="checkbox"/> ■ 授業時間外の学修（準備学修含む）：学術論文などを用いた学生の自主的な学修を促す。					
成績評価方法	各講義の確認テスト・レポートの内容（妥当性・独自性）に基づいて評価する：100 %				
教科書・テキスト	必要に応じてプリントを配布する				
参考文献	必要に応じて、紹介する				
履修要件	特になし				
履修上の注意事項	講義は12月に集中講義として英語で行う。日程は別途周知する。				
アクティブ・ラーニング	特になし				
連絡先・オフィスアワー	肥田重明（衛生化学分野、薬学研究棟南館4階）、 TEL:052-836-3592, e-mail:hida@phar.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：月～木 午後4時 - 5時 （他の曜日・時間も可、在室を確認のこと）				
備考					
関連URL					

授業科目名	グリーンケミストリー Green Chemistry				
単位数	1 単位	開講時間	前期・集中講義	担当者	中村 精一
<input type="checkbox"/> ■ 授業の目的・目標 化学は、薬をはじめとする様々な有用化合物を生み出し、人々の生活水準の向上に貢献してきた。その一方で、廃棄物などにより環境に負荷をかけている側面もあり、持続的社會を形成する上では環境に調和した化学の発展が望まれている。本講義ではグリーンケミストリーの考え方とその取り組みについて学ぶ。					
<input type="checkbox"/> ■ 学修到達目標 物質科学に基づいた研究を行う上で基礎となる以下の能力ならびに問題解決能力を身につける。 1 グリーンケミストリー の概念を説明できる。 2 グリーンケミストリー の実例を理解できる。					
<input type="checkbox"/> ■ 成績評価基準 秀: グリーンケミストリーの今後のあり方を、現在の企業の取組を踏まえて考えることができる。 優: グリーンケミストリーへの企業の取組について、化学的な観点から説明できる。 良: グリーンケミストリーへの取組について具体例を挙げて説明できる。 可: グリーンケミストリー の概念を理解できる。					
<input type="checkbox"/> ■ キーワード 環境・有機合成・医薬品生産					
<input type="checkbox"/> ■ ディプロマ・ポリシーとの関連 I ・ II ・ III ・ IV					
<input type="checkbox"/> ■ 授業概要 1994年に米国環境保護庁が提唱したグリーンケミストリーは、化学製品の設計・製造・応用における有害物質の使用・発生を低減または排除する一連の原理の活用と定義される。本講義では、グリーンケミストリーが提唱されるようになった背景、グリーン有機合成の課題、医薬品生産におけるグリーンケミストリーの実例などについて説明する。					
<input type="checkbox"/> ■ 授業計画 1 グリーンケミストリーの概略(中村) 5 医薬品のプロセス開発例 4(スハラファーマ・水船) 2 医薬品のプロセス開発例 1(エーザイ・栢野) 6 医薬品のプロセス開発例 5(岐阜薬大・佐治木) 3 医薬品のプロセス開発例 2(アステラス・家田) 7 医薬品のプロセス開発例 6(岐阜薬大・佐治木) 4 医薬品のプロセス開発例 3(第一三共・蓮)					
<input type="checkbox"/> ■ 授業時間外の学修 (準備学修含む) 事前に配布される資料がある場合には目を通しておくこと。					
成績評価方法	授業ごとに提出するレポート (100%)				
教科書・テキスト	配付資料				
参考文献					
履修要件	学部レベルの有機化学を理解していること。				
履修上の注意事項	6月に集中講義として英語で行われる。別途日程を連絡する。				
アクティブ・ラーニング					
連絡先・オフィスアワー	中村精一 (薬品合成化学分野, 研究棟北棟 6階東) TEL: 052-836-3440、E-mail: nakamura@phar.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー: 金曜日午後4時~6時 (在室を確認のこと)				
備考					
関連URL					

授業科目名	環境健康安全学課題解決アクティブ・ラーニング (Environmental and Pharmaco-medical Safety Science Active Learning)				
単位数	1 単位	開講時間	集中講義	担当者	肥田 重明
<p>□■ 授業の目的・目標</p> <p>環境健康安全学に関するグローバルレベルでの問題意識やコミュニケーション力および複数の研究科に在籍するプログラムメンバーの共有意識を養成するために、留学生と日本人学生からなる3～4名の混成グループで、SDGs及び環境健康安全に関連した課題について課題解決法を見いだすことを目的とするグループワーク（環境健康安全学課題解決アクティブ・ラーニング）を実施する。</p>					
<p>□■ 学修到達目標</p> <p>環境健康安全学に関する課題について問題解決能力とコミュニケーション力および複数の研究科に在籍するプログラムメンバーの共有意識を養成する</p>					
<p>□■ 成績評価基準</p> <p>秀：環境健康安全学に関する問題点を科学的に説明し、評価や提案もできる。 優：環境健康安全学に関する問題点を科学的に説明できる。 良：環境健康安全学に関する問題点を理解できる。 可：環境健康安全学に関する基本的な概念を理解できる。</p>					
<p>□■ キーワード</p> <p>リスクアセスメント、リスクマネジメント、公衆衛生、地球環境、アクティブ・ラーニング</p>					
<p>□■ 授業概要</p> <p>本科目は、留学生と日本人学生からなる3～4名の混成グループで、SDGs及び環境健康安全に関連した課題について課題解決法を見いだすことを目的とするグループワークを実施する。</p>					
<p>□■ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学生と日本人学生からなる3～4名の混成グループを構成する。 2. プログラム運営委員会より提示された環境健康安全学に関する課題について解決法についてグループ内で情報収集を行い、解決法について議論する。 3. 各グループで立案した課題解決法をプログラム運営委員会やSDGs 専門家を含む発表会において英語で紹介し、質疑応答を行う。 4. 発表会での議論を踏まえて、各グループで最終的な課題解決案の報告書を英文で作成する。 					
<p>□■ 授業時間外の学修（準備学修含む）</p> <p>学術論文などを用いた学生の自主的な学修を促す。</p>					
成績評価方法	発表会での発表内容質疑応答、最終報告書をプログラム運営委員会で評価する：100%				
教科書・テキスト	必要に応じてプリントを配布する				
参考文献	必要に応じて、紹介する				
履修要件	「ASEANを中心とする環境健康安全学リーダー人材育成と国際ネットワーク形成プログラム」に所属する学生のみ履修できる。				
履修上の注意事項	本アクティブ・ラーニングは1年次に実施する。				
アクティブ・ラーニング	アクティブ・ラーニングとして実施する。				
連絡先・オフィスアワー	肥田重明（衛生化学分野）、 TEL:052-836-3592, e-mail:hida@phar.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：月～水 午後4時 - 6時 (他の曜日・時間も可、在室を確認のこと)				
備考					
関連URL					

授業科目名	環境健康安全学インターンシップ (Environmental and Pharmaco-medical Safety Science Internship)				
単位数	2単位	開講時間	集中講義	担当者	頭金 正博
<p>□■ 授業の目的・目標</p> <p>産学官協働により環境健康安全学分野でのリスクアセスメントに対する理解を深めることを目的に、外部機関（国立医薬品食品衛生研究所、国立環境研究所、放射線医学総合研究所等）への産官学環境健康安全学インターンシップを本プログラムの前半と後半にそれぞれ実施する。</p>					
<p>□■ 学修到達目標</p> <p>環境健康安全学に関する公的機関での取り組みを理解し、環境健康安全学に関する問題解決能力を身につける。</p> <p>1. 化学物質による地球環境や公衆衛生への影響や医療におけるリスクアセスメントを説明できる。 2. 産学官のそれぞれの機関での環境健康安全学に関する取り組みを理解する。</p>					
<p>□■ 成績評価基準</p> <p>秀：環境健康安全学に関する公的機関での取り組みを説明し、環境健康安全学に関する問題解決に関する提案ができる。 優：環境健康安全学に関する公的機関での取り組みを理解し、環境健康安全学に関する問題について科学的に説明できる。 良：環境健康安全学に関する公的機関での取り組み理解し概説できる。 可：環境健康安全学に関する公的機関での取り組みを理解できる。</p>					
□■ キーワード：リスクアセスメント、リスクマネジメント、公衆衛生、地球環境					
<p>□■ 授業概要</p> <p>本科目は、外部機関（国立医薬品食品衛生研究所、国立環境研究所、放射線医学総合研究所等）での産官学協働による環境健康安全学インターンシップを実施する。</p>					
<p>□■ 授業計画</p> <p>1) インターンシップに向けて指導教官から事前指導を受け、実施計画書を作成する。 2) 指導教員は実施計画書をプログラム運営委員会に提出する。 3) プログラム運営委員会では、派遣先機関と実施内容等について打ち合わせを行い、受入可能性を協議する。 4) 3)で承認された、インターンシップに参加する。 5) 終了後に派遣先指導教員の成績報告書と学生の作成する実施報告書を指導教員に提出する。 6) 指導教員は5)で作成した報告書類をプログラム運営委員会に提出する。 前期で履修する1単位分は大学院教務企画委員会、教授会での事前・事後の認定を受けること。</p>					
□■ 授業時間外の学修（準備学修含む）：学術論文などを用いた学生の自主的な学修を促す。					
成績評価方法	実施報告書の内容（妥当性・独自性）と派遣先指導教員の評価に基づいて評価する： 100 %				
教科書・テキスト	必要に応じてプリントを配布する				
参考文献	必要に応じて、紹介する				
履修要件	「ASEANを中心とする環境健康安全学リーダー人材育成と国際ネットワーク形成プログラム」に所属する学生のみ履修できる。				
履修上の注意事項	前半（理・薬は博士前期課程で実施。医は1年次から2年次に実施。）と後半（理・薬は博士後期課程で実施。医は3年次から4年次前半にかけて）で実施。薬学は各1単位。				
アクティブ・ラーニング	インターンシップとして実施する。				
連絡先・オフィスアワー	頭金正博（レギュラトリーサイエンス分野）、 TEL:052-836-3778, e-mail:tohkin@phar.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：月～水 午後4時 - 6時 （他の曜日・時間も可、在室を確認のこと）				
備考					
関連URL					

授業科目名	グローバルプレゼンテーション Global Presentation				
単位数	2 単位	開講時間	集中講義	担 当 者	頭金 正博
<input type="checkbox"/> ■ 授業の目的・目標 国際会議等への参加に向けて、英語による研究発表・討論を行う一連の準備プロセスを習得させるとともに、発表方法などの改善について指導を行う。					
<input type="checkbox"/> ■ 学修到達目標 国際会議等に参加して英語での研究発表・討論を行う。					
<input type="checkbox"/> ■ 成績評価基準 秀：主体的に実施計画を立案・実行し、英語による発表・討論が円滑に行え、国際的な視野からさらなる研究展開を提案できる。 優：主体的に実施計画を立案・実行し、英語による発表・討論が行え、研究展開を提案できる。 良：実施計画を立案・実行し、英語による発表・討論が行える。 可：実施計画に基づいて、英語による発表が行える。					
<input type="checkbox"/> ■ キーワード 国際学会、プレゼンテーション能力、英語					
<input type="checkbox"/> ■ 授業概要 1) 研究発表の内容や具体的な発表について1単位時間分の実施計画を立て、指導教員から事前指導を受ける。 2) 実施計画書、学会の概要を示す資料を2ヶ月前までにプログラム運営委員会へ提出する。(履修申請書 様式1) 3) プログラム運営委員会で実施計画を審査・承認を得る。 4) 英語による研究発表・討論のスキルアップを図るため、英語指導を受ける。 5) 国際会議等に参加して英語での研究発表・討論を行う。 6) 国際学会等への参加後、質疑応答の内容、出席者からのコメント、発表の問題点、将来への展開などについて指導教員と総括を行い、事後指導を受ける。また、報告書をプログラム運営委員会へ提出する。(報告書 様式2) 前期で履修する1単位分は大学院教務企画委員会、教授会での事前・事後の認定を受けること。					
<input type="checkbox"/> ■ 授業計画：授業概要に沿って、指導教員と実施計画を作成する					
<input type="checkbox"/> ■ 授業時間外の学修（準備学修含む）：分野ごとに定める					
成績評価方法	国際会議等への参加を前提とする。 国際学会等での発表に関する実施報告書：100%				
教科書・テキスト	参 考 文 献				
履 修 要 件	<ul style="list-style-type: none"> ・公式言語として英語が採用されている学会等で、英語による発表を行うこと（参加する学会等の開催地（国内外）は問わない）。 ・海外渡航をする場合は、渡航期間に海外旅行（傷害）保険に加入すること。 ・海外渡航をする場合は、名古屋市立大学における学生の海外教育活動に係る危機管理対応マニュアルに基づき、実習・協定派遣届、緊急連絡先届を学部事務室へ提出すること。 				
履修上の注意事項	前半（理・薬は博士前期課程で実施。医は1年次から2年次に実施。）と後半（は理・薬は博士後期課程で実施。医は3年次から4年次前半にかけて）で実施。薬学は各1単位 <ul style="list-style-type: none"> ・詳細については専攻の判断によるものとする。 ・履修申請書、報告書様式はポータルから入手すること。 				
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、授業計画立案				
連絡先・オフィスアワー	各部門教員に問い合わせること。				
備 考	関連 URL				

授業科目名 Course title	Introduction to Data Science				
単位数 Credit	1	開講期間 Term(Semester)/Day/Period	INTENSIVE	担当者 Instructor	MISAWA, Tetsuya WATANABE, Yuji
<p>□■ Course Aims 授業の目的・概要</p> <p>Data science refers to the study of creating new knowledge and value that is scientifically or socially beneficial by analyzing data related to phenomena of interest through the cross-cutting use of advanced information technologies such as statistics, mathematics, programming, and Artificial Intelligence (AI). This discipline is becoming increasingly important as a driving force for the creation of new knowledge and value from the so-called big data that exists in the digital world along with the ever-accelerating progress of ICT. In light of this growing interest in data science, this course aims to provide students with an introductory and basic knowledge of regression analysis and AI applications, which are often used in the fields of statistics and information science.</p>					
<p>□■ Course Objectives 学修到達目標</p> <p>1) To acquire the necessary skills and academic knowledge related to regression analysis, and to be able to perform basic data analysis tasks and discuss the results based on these skills. 2) To acquire the fundamental knowledge of programming and AI, and to be able to create simple programs by programming language Python.</p>					
<p>□■ Grading Criteria 成績評価基準</p> <p>A: Very Good B: Good C: Passed</p>					
<p>□■ Keyword キーワード Regression analysis, EXCEL regression, Programming, Python, AI</p>					
<p>□■ Related Diploma Policy ディプロマ・ポリシーとの関連(a) Specialized Knowledge (b) Problem Solution</p>					
<p>□■ Course Outline 授業概要</p> <p>In the first half of this course, we will start with an introduction to the least-squares method of estimating regression models, and overview the evaluation methods of the estimation results. We will also briefly touch on logistic regression analysis, which is often used in the medical field, and students are scheduled to practice regression analysis using EXCEL to deepen their understanding.</p> <p>In the second half of this course, we will start with an introduction to the basic grammar of programming by programming language Python for beginners of programming, and overview AI and machine learning. We will also enhance the development of students' skill in creating simple programs using Python.</p>					
<p>□■ Course Schedule 授業計画</p> <p>(By Misawa)</p> <p>1 Regression analysis and least-squares method 2 Multiple regression analysis 3 EXCEL regression analysis exercise</p> <p>(By Watanabe)</p> <p>4 Python Programming 5 Python programming exercise 6 AI and machine learning 7 AI programming exercise</p>					
<p>□■ Preparation and Review 授業時間外の学修 (準備学修含む)</p> <p>Students will be required to complete EXCEL exercises on regression data analysis and Python programming exercises outside of class time. For this purpose, please prepare and review the</p>					

lecture content.	
成績評価方法 Grading Categories and Weight	Grading will be decided on based on each teacher's grading criteria (each 50%). Each criteria will be announced in each course.
教科書・テキスト Textbooks	The lecture will be given with handouts using the following reference materials as appropriate.
参考文献 Reference Books	<p>1) Regression analysis:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 縄田和満、「EXCEL による回帰分析入門」朝倉書店, 1998 (in Japanese) (NAWATA, Kazumitsu, “EXCEL ni yoru kaikibunseki nyumon”, Asakura-shoten,1998) ・ 山本 拓、「計量経済学」新世社, 1995 (in Japanese) (YAMAMOTO, Taku, “Keiryō-keizaigaku”, Shinsei-sha, 1995). ・ G. S. Maddala Kajal Lahiri, “Introduction to Econometrics” 4th-ed., (2009-12-21), Wiley. <p>2) Python Programming</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ C. Althoff, ”The Self-Taught Programmer: The Definitive Guide to Programming Professionally”, Triangle Connection LLC, 2016 ・ クジラ飛行机、「実践力を身につける Python の教科書」マイナビ, 2016 (in Japanese) (Kujira Hikoudukue, “Jissenryoku wo minitukeru Python no kyoukasho”, Mynavi, 2016)
履修要件 Prerequisite	Basic knowledge of probability theory (random variables and probability distributions) and statistics (estimation and testing) as well as experience in EXCEL operation is desirable.
履修上の注意事項 Notice for Students	The lectures will be conducted using PPT. We will also have some EXCEL statistical exercises and Python programming exercises.
アクティブ・ラーニング Active learning	The course will include some statistical and programming exercises.
連絡先・オフィスアワー Office Hour/Contact	<p>(Misawa) Room# 212, Bld. 3 misawa@econ.nagoya-cu.ac.jp Office hours: Fri. 12:10-13:00</p> <p>(Watanabe) Room# 315, Bld. 4 yuji@nsc.nagoya-cu.ac.jp Office hours: Tue. 11:00-12:30</p>
備考 Note	
関連 URL URL for Reference	

授業科目名 Course title	Introduction to Natural Sciences and Sustainable Development Goals (SDGs)				
単位数 Credit	1	開講期間 Term(Semester)/Day/Period	first semester/mon/6 (18 : 00~19 : 30)	担当者 Instructor	Faculty members
<input type="checkbox"/> Course Aims 授業の目的・概要 In order to nurture young specialists for Environment and Safety matters, basic concept and knowledge in natural sciences, especially in biological and material sciences, should be a prerequisite for learning advanced and practical subjects. This course aims to provide an introduction to natural sciences connected to issues on sustainable development goals (SDGs), such as SDGs Nos. 3, 7, 9, 14 and 15. Students are requested to have already learned diverse basic courses in natural sciences in the undergraduate level.					
<input type="checkbox"/> Course Objectives 学修到達目標 Students are expected to satisfy the following points in their study achievements. 1) They understand basic concepts in natural sciences. 2) They can tell what environmental and safety problems exist in general. 3) They can tell what scientific approaches are needed to solve those problems.					
<input type="checkbox"/> Grading Criteria 成績評価基準 A: Proficiency in course subjects in the 'excellent' level B: Proficiency in course subjects in the 'very good' level C: Proficiency in course subjects in the 'good' level D: Proficiency in course subjects in the 'failed' level					
<input type="checkbox"/> Keyword キーワード sustainable development goals, biodiversity, life science, material science, analytical chemistry, environmental problems					
<input type="checkbox"/> Related Diploma Policy ディプロマ・ポリシーとの関連					
<input type="checkbox"/> Course Outline 授業概要 Seven lecturers will provide their own topics as outlined below in English. Some may use powerpoint presentations but others may talk with their handouts or writing on the white board. Each lecturer will announce his/her way of evaluation of proficiency in the lecture (either by report or mini-test). Thus, presence at each lecture is very important.					
<input type="checkbox"/> Course Schedule 授業計画 1 Biodiversity and conservation/sustainable use of genetic resources (6/13;Y.kumazawa) 2 Evolution of viruses and scientific countermeasures(6/20;Y.Suzuki) 3 Understanding animal behaviors by artificial intelligence(6/27;K.Kimura) 4 Biological response to stress substance(7/4;M.Okutsu) 5 Materials and catalysts toward SDGs(7/11;T.Amaya) 6 Elucidation of fine chemical structures to design useful compounds(7/18;S.Aoyagi) 7 Non-destructive analytical chemistry for the safety of food resources(7/25;N.Katayama)					
<input type="checkbox"/> Preparation and Review 授業時間外の学修 (準備学修含む) Each lecture should be reviewed by yourself with handouts (if any) or other references available to you.					
成績評価方法 Grading Categories and Weight	Report or mini-test by each lecturer : 100 % (Lack of attendance at lectures without prior approval by the corresponding lecturer will negatively affect your scores)				
教科書・テキスト Textbooks	No particular textbook is assigned.				
参考文献 Reference Books	Recommended reference books may be introduced in lecture.				
履修要件 Prerequisite	Basic and general knowledge in natural sciences in the undergraduate level will be required together with proficiency in English.				
履修上の注意事項 Notice for Students	This is a course on natural sciences at the graduate-course level. Those who did not major in basic (e.g., biology, chemistry, and physics) or advanced (e.g., agriculture, fisheries, pharmacy, and medicine) subjects of natural sciences in their previous academic career would require specially enhanced self-help efforts in preparation and review of this course.				
アクティブ・ラーニング Active learning	Small group discussions may be carried out.				
連絡先・オフィスアワー Office Hour/Contact	Yoshinori Kumazawa:kuma@nsc.nagoya-cu.ac.jp Yoshiyuki Suzuki:yossuzuk@nsc.nagoya-cu.ac.jp Koutarou Kimura:kokimura@nsc.nagoya-cu.ac.jp Mitsuharu Okutsu:okutsu@nsc.nagoya-cu.ac.jp Toru Amaya:amaya@nsc.nagoya-cu.ac.jp Shinobu Aoyagi:aoyagi@nsc.nagoya-cu.ac.jp Norihiisa Katayama:nory@nsc.nagoya-cu.ac.jp				
備考 Note					
関連 URL URL for Reference					

学部・研究科横断型教育プログラム

《コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースについて》

1. コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースの趣旨

医学研究科博士課程にコミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースを設置する。本コースは、今後予想される病院から在宅への医療ニーズの急速なシフトを、単なる高齢化対策ではなく、未来医療への新しいトレンドとして位置づけ、エイジング・イン・プレイス(AIP)社会の実現および医学・医療の発展と向上を担うコミュニティ・ヘルスケア指導者の養成を目的としている。本コースの修了者は、多職種協働による在宅ケア、認知症ケア、緩和・終末期ケア、コミュニティとの協働による地域包括ケアのコーディネートを含む超高齢社会の多様なニーズに対応し、かつ、未来医療のデザインや開発に貢献することが期待されている。

なお、本コースは、研究科横断型教育プログラムとして認定されており、名古屋市立大学大学院医学研究科・薬学研究科・看護学研究科、名古屋工業大学大学院工学研究科の協力によって運営されている。

2. 指導者養成コースの授業科目・単位数・開講時期・読み替え科目名称

授 業 科 目	必修・選 択	単位数	開講時期	医学研究科内での読み替え科目名称
①地域包括ケアシステム学特論 [#]	必修	2	1年次	
②緩和/終末期ケア学特論	選択	2	1年次	生体情報・機能制御医学講義Ⅲ
③総合認知症学特論	選択	2	1年次	生体防御・総合医学講義Ⅲ
④老年医学/認知症/地域医療	選択	2	1年次	博士課程共通科目
⑤コミュニティ・ヘルスケア実習 A [#]	必修	2	1年次	
⑥コミュニティ・ヘルスケア実習 B [#]	選択	2	2年次	
⑦ヘルスケアデザイン特論 ^{##}	選択	1	1年次	博士課程共通科目
⑧医療 ICT 管理学 ^{##}	選択	1	1年次	
⑨コミュニティ創成特論 A ^{##}	選択	1	1年次	

名古屋市立大学大学院看護学研究科開講科目

名古屋工業大学大学院工学研究科開講科目

※ ①、⑤、⑥については看護学部事務室へお問い合わせ下さい。

※ ②、③は医学研究科博士課程 共通科目として開講するため、履修登録の際に選択すること。

※ ④は「医療・保健 学びなおし講座」の科目である。

※ ⑦から⑨については名古屋工業大学 学務課大学院係 (052-735-5070) へお問い合わせ下さい。

3. コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースの修了要件

「コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース授業科目」の必修科目 4 単位および選択科目 6 単位以上、合計 10 単位以上の修得および下記に示すレポートの提出をコミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースの修了要件とする。

レポートの提出方法

テ ー マ：AIP 社会実現への課題

(超高齢社会で生じている問題の一つに着目して、AIP 社会実現に向けて、自分自身がどのように貢献するのか具体的に記述する)

作成方法：A4 用紙を使用し、40 字×30 行で 2 ページ以内とする。

提出期間： 2023 年 2 月 1 日 (水) ～ 10 日 (金) 17 時

提 出 先：教育研究課

※レポートを提出する際に「学部・研究科横断型教育プログラム修了証交付申請書」も併せて提出すること。

ただし、本コースの授業科目のうち、名古屋市立大学大学院看護学研究科開講科目、及び名古屋工業大学大学院工学研究科開講科目の一部については、医学研究科博士課程の修了に必要な単位には含まれないため注意すること。

4. コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースの履修方法等

1) 履修要件

原則として、医師、薬剤師、看護師、理学療法士等の医療福祉系の免許を有する者とする。

2) 履修手続き

履修を希望する学生は、指導教員に相談して許可を得た後に、コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース「科目履修届」を教育研究課に提出することにより、履修登録を行う。

3) 履修方法

一部の科目は、集中講義として開講され、開講日・開講場所・受講方法などは掲示などにより連絡されるため、留意すること。

4) 修了証

上記 3. による修了要件を満たす者には、修了証が交付される。修了証交付を希望する者は、「学部・研究科横断型教育プログラム修了証交付申請書」を上記 3. に記載しているレポートと併せて、上記提出期間内に教育研究課に提出する。

科目名	地域包括ケアシステム学特論			
単位認定教員	氏名	明石恵子	所属	看護学研究科クリティカルケア看護学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	<p>GIO: 地域の医療機関や市町村等と連携し、超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドを持った医療人となるために、地域包括ケアシステム構築の方法を修得する。</p> <p>SBO1:日本における少子高齢化の伸展と医療保険・介護保険の現状を説明できる。 SBO2:地域包括ケアシステムを支える「自助」「互助」「共助」「公助」を説明できる。 SBO3:地域包括ケアシステムにおける諸主体(「本人」「介護者」「介護事業者」「民間企業等の諸団体」「市町村」「都道府県」)が取り組むべき課題を説明できる。 SBO4:地域包括ケアシステムの5つの要素(「住まい」「生活支援」「介護」「医療」「予防」)を説明できる。 SBO 5:地域包括ケアシステムにおける「住まい」「生活支援」「介護」「医療」「予防」のあり方を総合的に議論できる。 SBO6:地域包括ケアシステム構築に向けて、自らの役割や課題を述べることができる。</p>			
授業計画		月日	授業内容	担当教員
	1	5月20日(金)2限	ガイダンス	看護学研究科:明石恵子
	2	5月20日(金)3-4限	日本の医療保険・介護保険の現状	医学研究科:赤津裕康
	3		地域包括ケアシステムの背景	
	4	5月31日(火)4-5限	地域包括ケアシステムにおいて諸主体が取り組むべき方向	看護学研究科:門間晶子
	5			
	6	6月7日(火)4限	地域包括ケアシステムにおけるACPの取り組み	医学研究科:川出義浩
	7	7月12日(火)3-4限	地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み(1)	名古屋市健康福祉局高齢福祉部地域ケア推進課:西啓太郎
	8		地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み(2)	名古屋市緑区役所区民福祉部福祉課:能島優子
			地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み(3)	名古屋市瑞穂区保健福祉センター:仁井田佳代子
	9	7月16日(土)2-4限	地域包括ケアシステムにおける「住まい」「生活支援」「医療」「介護」のあり方	大阪府立大学大学院看護学研究科:三輪恭子
	10			
	11			
	12	7月19日(火)3-4限	地域包括ケアシステム構築に向けた議論	看護学研究科:選考中
	13			
14	7月26日(火)3-4限	居住地域における地域包括ケアシステムの現状と課題に関する議論	看護学研究科:明石恵子	
15				
時間	講義の曜日が異なるため、注意してください。			
場所	看護学部棟 303演習室			
評価	第2-11回の授業への出席とレスポンスカード提出(60%)、第12-13回の議論内容(20%)、第14-15回のプレゼンテーションと議論内容(20%)で評価する。			
備考	履修者が3名に満たない場合は、非開講とすることもある。			

科目名	コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース 緩和・終末期ケア学特論			
	※この講義は、医学研究科博士課程 共通科目講義④生体情報・機能制御医学講義Ⅲ-緩和医療-として開講しています。			
単位認定教員	氏名	明智龍男 教授	所属	精神・認知・行動医学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	現代の医療においては、死はタブー視され、直視されない傾向が顕著である。一方、わが国では超高齢社会が到来し、がん、心不全、認知症などに罹患し、死の転帰を辿る患者が増加し続けている。緩和ケアとは、「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処（治療・処置）を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、クオリティ・オブ・ライフを改善するアプローチ」であり、がんを代表とする致死性疾患に対する診断時から終末期まで疾患の全ての軌跡を含めた全人的ケアのことを指す。本講義においては、進行性の疾患によって人生の最終段階を迎える患者のQuality of lifeを尊重することを中心的価値観とし、緩和ケアのみならず、死に関する人文社会学的知見などについて、包括的に解説する。			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	10月18日(火)	緩和ケア概論	西部医療センター 精神科 奥山 徹 教授(診療担当)	
	10月25日(火)	痛み	腎・泌尿器科 恵谷 俊紀 講師	
	11月1日(火)	化学療法に関する考え方 : 効果、副作用、QOLのバランス	臨床腫瘍部 小松 弘和 教授	
	11月8日(火)	慢性疼痛の緩和 : 心理社会的アプローチ	精神・認知・行動医学 近藤 真前 助教	
	11月15日(火)	薬学の視点から考える緩和ケア	薬学研究科 神経薬理学 大澤 匡弘 准教授	
	11月22日(火)	国のがん対策と緩和ケア	精神・認知・行動医学 久保田 陽介 講師	
	11月29日(火)	がんに伴う身体症状概論	呼吸器・免疫アレルギー内科学 前野 健 准教授	
	12月6日(火)	精神腫瘍学	緩和ケアセンター 内田 恵 講師	
	12月13日(火)	心不全の緩和ケア	循環器内科 北田 修一 助教	
	12月20日(火)	高齢者医療/認知症と緩和ケア	地域医療教育学 赤津 裕康 教授(診療担当)	
	12月27日(火)	アドバンス・ケア・プランニング	緩和ケアセンター 長谷川 貴昭 助教	
	1月10日(火)	看護の視点から考える緩和ケア	看護学部 樺野 香苗 准教授	
	1月17日(火)	思想学から見た痛みと死生の関係	人文社会学部 Andrea Castiglioni 講師	
	1月24日(火)	終末期の過ごし方	名古屋徳洲会総合病院 坂本 雅樹 非常勤講師	
1月31日(火)	コミュニケーションと意思決定	精神・認知・行動医学 明智 龍男 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注) 授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース 総合認知症学特論			
	※この講義は医学研究科博士課程、共通科目7生体防御・総合医学講義Ⅲ—認知症特論—として開講しています。			
単位認定教員	氏名	松川則之教授	所属	神経内科学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	<p>認知症診療を包括的に行うために、認知症総合的にマネジメントできる診療医・薬剤師・看護師・理学療法士・作業療法士・医療工学士の育成を目的とする。本コースでは、認知症の基礎・臨床の知識から治療・ケア介入の実践行うべく手法を学ぶ。更には、認知症を中心とした精神・神経疾患のコフォート研究を行うために、コフォートデザイン作成に向けた基礎的知識の習得と実践的な経験を目指す。</p> <p>SOB 1: アルツハイマー病の病態が説明できる SOB 2: 他の認知症の病態が説明できる SOB 3: 神経心理検査が実施できる SOB 4: 抗認知症薬について説明できる SOB 5: 精神症状とその対症薬を説明できる SOB 6: 認知症のケア方法を立案できる SOB 7: 在宅介護の施設整備の立案ができる SOB 8: 認知症社会資源が説明できる SOB 9: 電気生理・画像を用いた神経機能評価法を説明できる SOB 10: コフォート研究をデザインできる SOB 11: コフォート研究に参加する</p>			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	4月19日(火)	認知症総論	神経内科学 松川 則之 教授	
	4月26日(火)	アルツハイマー病の基礎	神経内科学 松川 則之 教授	
	5月10日(火)	アルツハイマー病の基礎／その他の認知症の基礎	神経内科学 松川 則之 教授	
	5月17日(火)	認知症行政とネットワーク	名古屋認知症相談支援センター 鈴木善史	
	5月24日(火)	神経心理検査法	日本福祉大学 宮田 美和子 准教授	
	5月31日(火)	認知症の臨床	神経内科学 松川 則之 教授	
	6月7日(火)	認知症の画像診断	国立長寿医療研究センター 櫻井 圭太 医長	
	6月14日(火)	認知症の周辺症状とその対応	地域療養医学 赤津 裕康 教授	
	6月21日(火)	認知症のケア	看護高齢者看護学 原沢 優子 准教授	
	6月28日(火)	認知症の病診連携の実践	西部医療センター部長 片田 栄一 非常勤講師	
	7月5日(火)	認知症の鑑別診断と病態生理(電気生理)	リハビリテーション医学 植木 美乃 教授	
	7月12日(火)	脳機能評価法(画像診断法を用いて)	神経内科学 川嶋 将司 助教	
	7月19日(火)	コフォート研究デザイン	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授	
	7月26日(火)	認知症の診断バイオマーカー探索	神経内科学 松川 則之 教授	
	8月2日(火)	コフォート研究の実践	地域療養医学 赤津 裕康 教授	
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	医学部・医学研究科 研究棟2階 会議室4			
(注)授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース 老年医学/認知症/地域医療			
単位認定教員	氏名	赤津 裕康 教授	所属	地域医療教育学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	<p>【概要】本講座は”学びなおし”と大学院講義の並列コースになります。現状ではリアル開催になるかまだ未定な状況ではありますが受講には一定の医学、医療、社会福祉、健康予防の基礎知識がある事が前提となります。超高齢社会の中で我々医療人が抑えておくべき重要な問題、高齢者の身体的問題を中心に講義いただく予定です。地域・在宅医療の現場の実態から認知症・老年医学の分野まで最先端、最新のお話も講義に織り交ぜられることと思います。これらは相反するようにも捉えられがちですが、現在の人類が経験したことのない労働人口減少、多死・人口減少、高齢者中心・認知症患者の増大する社会にCOVID-19パンデミック感染拡大でさらに社会は大きく変わりつつあります。この状況に柔軟に対応するためには幅広い知識と柔軟な対応能力が要求されます。有資格者で現場復帰の準備として、また、大学院生にとっては老年医学を中心とした幅広く深い講義となるかと思えます。本15コマのコースを修了することで、今後の社会に対応できる力の一部を養う事が出来るものと確信しています。</p>			
授業計画	月・日	授 業 内 容	担当教員	出席確認
	4月7日	骨粗鬆症治療：今ここまで治療可能になった	整形外科 鈴木 伸幸 講師	
	4月14日	病理解剖からみた高齢者疾患の特徴	福祉村病院 橋詰 良夫 所長	
	4月21日	総合診療と在宅医療 在支病のベストプラクティス	豊田地域医療センター 大杉 泰弘 副院長	
	4月28日	病院を中心とした地域包括ケア～豊田市の中山間地域にて～	足助病院 早川 富博 名誉院長	
	5月12日	地域包括ケアシステムにおける看護職の役割	地域保健看護学 山口 知香枝 准教授	
	5月19日	高齢者におけるせん妄	医学部附属西部医療センター 奥山 徹 教授	
	5月26日	アルツハイマー病の現在～基礎研究から臨床実装に向けて～	神経化学 道川 誠 教授	
	6月2日	認知症克服へ：基礎研究からの応用	認知症科学 齋藤 貴志 教授	
	6月9日	認知症臨床から見た治療開発の可能性—加齢との向き合い方—	神経内科学 松川 則之 教授	
	6月16日	超高齢社会における胃瘻PEG管理	ふきあげ内科胃腸科クリニック 蟹江 治郎 院長	
	6月23日	在宅医療と排尿管理	臨床生理学 窪田 泰江 教授	
	6月30日	サルコペニアの病態解明および実臨床における治療の現状	消化器・代謝内科学 小山 博之 助教	
	7月7日	基礎老化研究から学び直す高齢者の健康長寿	長寿研 ジェロサイエンス研究センター 丸山 光生 センター長	
	7月14日	地域包括ケアシステムと薬剤師	臨床薬学 鈴木 匡 教授	
7月21日	まとめ	地域医療教育学 赤津 裕康 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
場所	医学部・医学研究科 研究棟11階 講義室A			
(注)授業に出席した時は、出席確認欄に担当教員の認印又はサインを受領しておくこと。				

科目名	コミュニティ・ヘルスケア実習A		
単位認定教員	氏名	明石恵子	所属 看護学研究科クリティカルケア看護学
単位数	2単位		
授業の目的と方針	<p>エイジング・イン・プレイス(AIP)社会の医学・医療の発展と向上を担うコミュニティ・ヘルスケア指導者を養成するためのプログラムの一環である。学生は、健康調査または健康講座のいずれかを実施し、地域住民の生活と健康を把握し、健康寿命延伸の課題を発見する。</p> <p>GIO: 地域住民の生活と健康を把握し、健康寿命延伸の課題を発見する。 課題に対して、取得している職種の役割を理解する。</p> <p>SBO 1: 特定地域の住民を対象とする健康調査を実施し、その結果を説明できる。 SBO 2: 特定地域の住民を対象とする健康講座を実施し、その結果を評価できる。 SBO 3: 健康調査と健康講座の結果から、当該地域における健康寿命延伸の課題とその解決方法を議論することができる。</p> <p>* 本科目は、「地域包括ケアシステム学特論」の履修を前提としている。</p>		
授業計画	授 業 内 容		担当教員
	<p>学生の選択によって下記の実習を行い、最後に履修者全員で発表会を行う。 いずれの実習も、瑞穂区または緑区のコミュニティセンター、なごや介護予防・認知症予防プログラム運用施設等を予定している。</p> <p>《健康調査》 1)健康調査の目的と方法を検討し、調査計画書を作成する。 2)担当教員の許可を得て調査を行い、結果を分析する。 3)健康調査の目的・方法・結果・考察を8000字程度でまとめるとともに、発表資料を作成する。</p> <p>《健康講座》 1)健康講座のテーマと目的、方法を検討し、講座実施計画書(教材や参加者アンケートを含む)作成する。 2)担当教員の許可を得て健康講座を行い、その結果を評価する。 3)健康講座の目的・方法(使用教材を含む)・結果・考察を8000字程度でまとめるとともに、発表資料を作成する。</p>		<p>看護学研究科 明石恵子 金子典代</p> <p>医学研究科 赤津裕康 川出義浩</p>
時間・場所	実習期間・実習場所は、実習希望と学生の都合をふまえて、個別に調整する。		
評価方法	実習への参加度(50%)およびレポート(50%)によって評価する。 レポートの提出期限は、実習最終日の1週間後とする。		

科目名	コミュニティ・ヘルスケア実習B			
単位認定教員	氏名	明石恵子	所属	看護学研究科クリティカルケア看護学
単位数	2単位			
授業の 目的と方針	<p>エイジング・イン・プレイス(AIP)社会の医学・医療の発展と向上を担うコミュニティ・ヘルスケア指導者を養成するためのプログラムの一環である。学生は、多職種連携研修会の企画・運営または要介護事例の療養生活支援のいずれかを選択して、地域包括ケアの実際を学ぶ。</p> <p>《多職種連携研修会の企画・運営》 GIO: 在宅医療多職種連携研修会における高齢者の事例検討会を企画・運営する。 SBO 1: 在宅医療多職種連携研修会の企画・運営に参画することができる。 SBO 2: 在宅医療多職種連携研修会に参加し、その評価をすることができる。</p> <p>《要介護事例の療養生活支援》 GIO: 支援を必要とする要介護事例に対する多職種連携チームによる療養生活支援の方法を修得する。 SBO 1: 要介護事例に対して、多職種連携チームによる療養生活支援計画を立案することができる。 SBO 2: 要介護事例に対して、診療/服薬指導/看護/リハビリテーション等を実施することができる。 SBO 3: 要介護事例に対する多職種連携チームによる療養生活支援を評価することができる。</p> <p>* 本科目は、「地域包括ケアシステム学特論」「コミュニティ・ヘルスケア実習A」の履修を前提としている。</p>			
	授 業 内 容		担当教員	
授業計画	<p>《多職種連携研修会への参画と評価》 瑞穂区が実施する多職種連携研修会の企画段階から参加し、実施、評価を行う。 1)在宅医療多職種連携研修会の企画会議に参加し、メンバーの一員としての役割を果たす。 2)在宅医療多職種連携研修会当日は、スタッフとしての役割と研修会ファシリテーターとしての役割を担う。 3)在宅医療多職種連携研修会の結果を評価する。 4)上記の実習経過をもとに、在宅医療多職種連携研修会の企画・運営・評価に考察を加えて、レポートを作成する。</p> <p>《要介護事例の療養生活支援》 取得している資格によって、訪問診療、訪問看護、薬剤管理指導のいずれかの実習を行い、要介護事例に対する療養生活支援の計画・実施・評価を行う。 1)介護保険によって要介護認定されている1事例を担当する。 2)担当事例の「住まい」「生活支援」「介護」「医療」「予防」の状況を把握する。 3)多職種連携チームによる支援計画を立てる。 4)随時、事例を訪問し、支援計画に沿った支援を展開する(最低4回)。 5)機会があれば、多職種カンファレンスに参加する。 6)多職種連携チームによる支援の結果を評価する。 7)上記の実習経過をもとに、担当事例に対する多職種連携チームによる療養生活支援の計画・実施・結果に考察を加えて、レポートを作成する。</p>		<p>看護学研究科 明石恵子 金子典代</p> <p>医学研究科 赤津裕康 川出義浩</p>	
時間・場所	実習期間・実習場所は、実習先と学生の都合をふまえて、個別に調整する。			
評価方法	実習への参加度(50%)およびレポート(50%)によって評価する。 レポートの提出期限は、実習最終日の1週間後とする。			

授業科目名	ヘルスケアデザイン特論	時間割番号	6001
担当教員名	加藤昇平, 非常勤講師		
学科・年次	工学専攻・博士前期課程1年		
科目区分	複合分野・先端科目	単位数	1
時間割	前期前半(Q1) 木曜9・10時限(16:20-17:50)	授業形態	講義
授業実施方法	<input type="checkbox"/> 対面 <input checked="" type="checkbox"/> オンデマンド <input type="checkbox"/> 同時双方向		
<p>◎授業の目的・達成目標</p> <p>授業の目的：都市型高齢社会において進行する病院診療から在宅診療への医療ニーズのシフトを、単なる人口高齢化対策ではなく未来医療へのトレンドとして捉え、健診や医療機関のみでなく、日常生活環境と情報ネットワークを基盤とするヘルスケア（保健・医療・福祉）の新しいシステムを考える。</p> <p>達成目標：下記の講義で示される未来医療の可能性と課題を知り、新しい医療のデザインや実現に参画しうる素養を身につけるために、未来医療に求められる健康や疾患の概念、医療システム、各職種の役割と、未来医療の基盤技術となる日常活動中の生体情報モニタリング、保健・医療・介護・生活支援ロボット、様々な情報ネットワークおよび膨大な情報（ビッグ・データ）の活用などについて、医学・医療およびICT医工学の最新知見と動向を理解する。</p>			
<p>◎授業計画</p> <p>0. 本講義の説明と導入 (Moodleを用いた(オンデマンド型オンライン)授業の説明)</p> <p>1. 未来医療のための健康と病気の新しい概念 早野順一郎(株式会社ハートビートサイエンスラボ) (4/14)</p> <p>2. 超高齢社会における救急医療と倫理問題 明石恵子(名古屋市立大学大学院・看護学研究科・教授) (4/21)</p> <p>3. 未来医療のための多職種連携 赤津裕康(名古屋市立大学・医学研究科・教授) (4/28)</p> <p>4. 高齢者の発話音声と脳血流に着目した軽度認知症の早期スクリーニング 加藤昇平(名工大大学院・工学研究科 情報工学専攻・教授) (5/12)</p> <p>5. 良く分かる神経変性疾患：医工学実践へ向けて 渡辺宏久(藤田医科大学・医学部・主任教授) (5/19)</p> <p>6. 医療と音楽・エビデンスとナラティブをつなぐもの 佐野芳彦(有限会社ト・ヘン・作曲家) (5/26)</p> <p>7. 地域医療を支える新しい薬局の役割 鈴木匡(名古屋市立大学・薬学研究科・教授) (6/2)</p> <p>8. レポート課題の作成 (6/9)</p>			
<p>◎成績評価の方法</p> <p>オンライン受講記録とレポートによって評価する。</p>			
<p>◎履修にあたっての注意事項及び教室外における準備学修等の指示</p>			

授業科目名	医療ICT管理学特論	時間割番号	6101
担当教員名	加藤昇平, 非常勤講師		
学科・年次	工学専攻・博士前期課程1年		
科目区分	複合分野・先端科目	単位数	1
時間割	前期後半(Q2) 水曜9・10時限(16:20-17:50)	授業形態	講義
授業実施方法	<input type="checkbox"/> 対面 <input checked="" type="checkbox"/> オンデマンド <input type="checkbox"/> 同時双方向		
<p>◎授業の目的・達成目標</p> <p>授業の目的: 医療ICT医工学の総論から現在の医工学の範囲と方法論を概観し、医療ICT医工学のあるべき姿を学ぶ。同時に、情報通信を活用した医療情報システムの現況を理解すると共に、情報セキュリティの重要性や在宅医療・介護分野多職種協働における情報共有システムの実践や先進医療機器の利活用法を幅広く学ぶ。</p> <p>達成目標: 医療ICT医工学における概論と方法論を説明できる。 在宅医療・介護における情報連携の仕組みの応用を説明できる。 医療フォレンジックや医療情報における情報セキュリティを説明できる。 M2Mなどの在宅における最新医療機器の臨床活用を説明できる。</p>			
<p>◎授業計画</p> <p>1. 本講義の導入、社会的課題の解決手段としてのICT 竹尾 淳(株式会社コネクティブ) (6/15)</p> <p>2. 医療におけるプライバシー保護と情報セキュリティ 白石 善明(神戸大大学院・工学研究科) (6/22)</p> <p>3. 医療情報システム 塩川 康成(キヤノンメディカルシステムズ株式会社) (6/29)</p> <p>4. 医療情報安全管理ガイドラインと医療フォレンジック(法的医療記録他) 間形 文彦(NTTコミュニケーションズ株式会社) (7/6)</p> <p>5. 薬の研究開発を支援するクラウドサービス 鎌倉 千恵美(アガサ株式会社) (7/13)</p> <p>6. デジタルヘルスケア-ICTを活用した健康管理 中嶋 宏(オムロン株式会社) (7/20)</p> <p>7. 脳機能イメージングによる神経回路の可視化と情報科学 未定(講師選定中) (7/27)</p> <p>8. レポート課題の作成 (8/3)</p>			
<p>◎成績評価の方法</p> <p>オンライン受講記録とレポートによって評価する。</p>			
<p>◎履修にあたっての注意事項及び教室外における準備学修等の指示</p> <p>「ヘルスケアデザイン特論」(複合分野・先端科目)を前期(Q1)に履修していることが望ましい。</p>			

授業科目名	コミュニティ創成特論A	時間割番号	7103																								
担当教員名	加藤昇平, 非常勤講師																										
学科・年次	工学専攻・博士前期課程1年																										
科目区分	工学デザイン科目	単位数	1																								
時間割	前期後半(Q2) 火曜9・10時限(16:20-17:50)	授業形態	講義																								
授業実施方法	<input type="checkbox"/> 対面 <input checked="" type="checkbox"/> オンデマンド <input checked="" type="checkbox"/> 同時双方向(第7・8週)																										
<p>◎授業の目的・達成目標</p> <p>授業の目的：人口縮小、超高齢社会を迎えた日本において人と人が繋がり、支えあう生活空間として、コミュニティを再生・創成することが急務となってきた。多様な工学技術は、コミュニティの再生・創成に対して、どのように貢献しうるかを理解することが必要である。超高齢化社会に向けて、質の高いエイジング・イン・プレイス（AIP）社会を実現するためのヘルスケア・コミュニティ構築・運営における支援の在り方や仕組みづくりについて知見を習得し、コミュニティ創成の在り方について議論する。コミュニティ工学は、コミュニティと工学の関係を解明する「コミュニティ理論工学」と、コミュニティを支援する技術を解明する「コミュニティ支援工学」により構成される。前者の理解のために、人間にとってのコミュニティの意味や、コミュニケーションと工学技術の関係、さらにコミュニティと工学技術の関係を概観する。後者の理解のために、コミュニケーションを支援する工学技術や、コミュニティの受け皿となる生活空間をつくり出す工学技術の実践的事例をみる。</p> <p>達成目標：コミュニティと工学技術の関係や、コミュニケーションツール、コミュニティ環境に関する工学技術を説明することができるようになる。少子高齢化の現状を踏まえて、住民・患者の視点・立場に立ったものの見方・考え方ができる。</p>																											
<p>◎授 業 計 画</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 本講義の導入、超高齢社会とコミュニティの課題</td> <td>竹尾 淳(株式会社コネクティブ)</td> <td>(6/14)</td> </tr> <tr> <td>2. 超高齢社会と地域包括ケア</td> <td>西 啓太郎(名古屋市健康福局)</td> <td>(6/21)</td> </tr> <tr> <td>3. 医療福祉機器とQOL</td> <td>畠中 規(横浜総合リハビリテーションセンター)</td> <td>(6/28)</td> </tr> <tr> <td>4. 中山間地域におけるMB(Mobility Blend)構築によるエイジング・イン・プレイスの実現</td> <td>劔持 千歩(名古屋大学未来社会創造機構)</td> <td>(7/5)</td> </tr> <tr> <td>5. 在宅療養と訪問看護ケア</td> <td>中村 美喜(名古屋市港・熱田訪問看護ステーション)</td> <td>(7/12)</td> </tr> <tr> <td>6. 建築からみたエイジング・イン・プレイス</td> <td>三矢 勝司(名古屋工業大学)</td> <td>(7/19)</td> </tr> <tr> <td>7. 実践的課題解決演習(その1)</td> <td>大山 裕之(コンティニュー株式会社)</td> <td>(7/26)</td> </tr> <tr> <td>8. 実践的課題解決演習(その2)・前半の振り返り</td> <td>大山 裕之(コンティニュー株式会社)</td> <td>(8/2)</td> </tr> </table> <p>レポート課題の作成</p>				1. 本講義の導入、超高齢社会とコミュニティの課題	竹尾 淳(株式会社コネクティブ)	(6/14)	2. 超高齢社会と地域包括ケア	西 啓太郎(名古屋市健康福局)	(6/21)	3. 医療福祉機器とQOL	畠中 規(横浜総合リハビリテーションセンター)	(6/28)	4. 中山間地域におけるMB(Mobility Blend)構築によるエイジング・イン・プレイスの実現	劔持 千歩(名古屋大学未来社会創造機構)	(7/5)	5. 在宅療養と訪問看護ケア	中村 美喜(名古屋市港・熱田訪問看護ステーション)	(7/12)	6. 建築からみたエイジング・イン・プレイス	三矢 勝司(名古屋工業大学)	(7/19)	7. 実践的課題解決演習(その1)	大山 裕之(コンティニュー株式会社)	(7/26)	8. 実践的課題解決演習(その2)・前半の振り返り	大山 裕之(コンティニュー株式会社)	(8/2)
1. 本講義の導入、超高齢社会とコミュニティの課題	竹尾 淳(株式会社コネクティブ)	(6/14)																									
2. 超高齢社会と地域包括ケア	西 啓太郎(名古屋市健康福局)	(6/21)																									
3. 医療福祉機器とQOL	畠中 規(横浜総合リハビリテーションセンター)	(6/28)																									
4. 中山間地域におけるMB(Mobility Blend)構築によるエイジング・イン・プレイスの実現	劔持 千歩(名古屋大学未来社会創造機構)	(7/5)																									
5. 在宅療養と訪問看護ケア	中村 美喜(名古屋市港・熱田訪問看護ステーション)	(7/12)																									
6. 建築からみたエイジング・イン・プレイス	三矢 勝司(名古屋工業大学)	(7/19)																									
7. 実践的課題解決演習(その1)	大山 裕之(コンティニュー株式会社)	(7/26)																									
8. 実践的課題解決演習(その2)・前半の振り返り	大山 裕之(コンティニュー株式会社)	(8/2)																									
<p>◎成績評価の方法</p> <p>オンライン受講記録とレポートによって評価する。</p>																											
<p>◎履修にあたっての注意事項及び教室外における準備学修等の指示</p> <p>「ヘルスケアデザイン特論」(複合分野・先端科目)を前期(Q1)に履修していることが望ましい。</p>																											

定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針

(定期試験における不正行為の定義)

第1 定期試験において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) カンニング（カンニングペーパーを所持又は見ること、持込みが許可されていないテキスト等を見ること、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- (2) 試験時間中に、答えを教えるなど他の受験者を利するような行為をすること。
- (3) 試験時間中に、携帯電話等を使用して連絡を取ること。
- (4) 使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。
- (5) 試験開始の指示の前に問題を見たり解答を始めること。
- (6) 試験終了の指示に従わず、解答を続けること。
- (7) 試験時間中に、携帯電話、時計等の音（着信、アラーム、振動音等）を長時間鳴らすなど、試験の進行に多大な影響を与えること。
- (8) 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- (9) 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- (10) その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

(定期試験に代わるレポート課題における不正行為の定義)

第2 定期試験に代わるレポート課題において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) 既に公表されている著作物やウェブサイトに掲載された他人の文章や図表等の全部又は一部を、引用・出典を明示せずに、故意にあたかも自分自身の作成した文章や図表であるかのように利用すること。
- (2) 他人が作成したレポートの全部又は一部を、あたかも自分自身の作成したレポートであるかのように提出すること
- (3) その他、定期試験に代わるレポート課題の公平性を損なう行為をすること。

(処分及び措置)

第3 第1又は第2に規定する不正行為を行った学生に対しては、当該学生が所属する学部又は研究科（以下「学部等」という。）の教授会の議を経て、次の各号のいずれかの処分を行うものとする。

- (1) 学部等の長による厳重注意
- (2) 名古屋市立大学学則第66条（名古屋市立大学大学院学則第49条において準用する場合を含む。）に基づく学長による懲戒処分（戒告、停学及び退学）

2 前項に規定する処分とあわせて、学部等の長は、学部等の教授会の議を経て、不正行為の

態様に応じて次の各号のいずれかの措置を行うものとする。

- (1) その学年における全ての科目の履修及び成績を無効とする。
 - (2) その学期における全ての科目の履修を無効とする。ただし、通年科目の取扱いは、学部等の教授会で決定する。
 - (3) 当該科目の履修を無効とする。なお、不正行為により教養教育の英語科目が無効となった場合は、当該処分が行われた年度には英語検定試験による単位認定は行わない。
- (処分等の通知及び掲示)

第4 第3に基づき処分及び措置を行うときは、処分理由を記載した文書を当該学生に交付することにより通知するとともに、次の各号に掲げる場所に掲示することにより公示する。

- (1) 学部等の掲示板
- (2) 教養教育科目における不正行為の場合、前号に加えて教養教育の掲示板
- (3) 学長による懲戒処分を行う場合、前2号に加えて他の学部及び研究科の掲示板

2 前項に規定する掲示においては、当該学生の所属、学年、処分の種類、処分の理由を明らかにするものとする。

付 記

- 1 この指針は、平成26年4月1日から施行し、平成26年度に実施する定期試験及び定期試験に代わるレポート課題から適用する。
- 2 定期試験に準ずる試験及び集中講義に係る試験についても、この指針を準用する。
- 3 定期試験に準ずる試験に代わるレポート課題及び集中講義に係る試験に代わるレポート課題についても、この指針を準用する。
- 4 この指針に記載のない事項については、名古屋市立大学懲戒規程に定めるところによる。

【レポート課題作成時の注意】

レポートは、自分で調べたことや考えたこと等を自分の文章で記述するものです。
他の文献等を調べ学ぶことは非常に重要ですが、それを引用する場合はルールがあります。引用する場合は、引用した部分とそれに関する自分の考えの部分をはっきりと区別して示す必要があります。他人の文章、図表をあたかも自分のオリジナルであるかのように利用することは、「剽窃」（盗作）であり、定期試験等に代わるレポート課題に関しては、「定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針」に基づき、試験におけるカンニングと同様に不正行為とみなされ処分等の対象となります。授業においても指導されるレポート作成に当たってのルールを守ってレポートを提出して下さい。

自己点検・評価委員会 委員名簿

	職名	氏名
委員長	医学研究科長	高橋 智
委員	医学研究科副研究科長（教務担当）	齋藤 伸治
委員	医学研究科副研究科長（公開講座・留学生・国際交流担当）	澤本 和延
委員	医学研究科副研究科長（入試担当）	加藤 洋一
委員	医学研究科副研究科長（広報・産学官・研究科間連携担当）	飛田 秀樹
委員	医学研究科副研究科長（研究・共研担当）	片岡 洋望
委員	医学研究科副研究科長（大学院担当）	安井 孝周
委員	病院長	間瀬 光人
委員	副病院長（戦略企画・経営管理担当）	森田 明理